別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項	記　入　欄								備　考
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　ソウカダイガク 学校法人 創価大学								
フリガナ 大学の名称	ソウカダイガク 創価大学　(Soka University)								
大学本部の位置	東京都八王子市丹木町１丁目２３６番地								
大学の目的	創価大学は、人間教育を標榜する建学の精神に基づき、学校教育法により、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、全人的な人間形成を図るとともに、文化の発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	グリーンテクノロジー学科は、理工学部が定める、建学の精神を尊び、他者に尽くす哲学的精神性を基盤として、工学・理工学の基礎力と応用力さらには展開力、語学能力、コミュニケーション能力に裏打ちされた国際適応力、総合的人間力・リーダシップを有する人材を育成するという人材養成の目的を踏まえ、地球科学や環境科学を中心とする理学の学び、およびグリーントランスフォーメーション（GX）の実現に不可欠な創エネルギー・省エネルギー技術、資源循環技術や情報処理技術を融合した環境に優しい技術、すなわち「グリーンテクノロジー」について学修し、その社会実装を通じて低炭素社会の実現とSDGs達成に貢献する国際的な人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次 人	人			年　月 第　年次	
	理工学部 (Faculty of Science and Enginering) グリーンテクノロジー学科 (Department of Green Technology)	4	60	—	240	学士（理工学）	理学関係 工学関係	令和8年4月 第1年次	東京都八王子市丹木町１丁目２３６番地
	計		60	—	240				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	○創価大学 ■通学課程 ・経済経営学部（令和7年4月届出予定） ビジネス学科　(280) （3年次編入学定員）　(20) ・経済学部（廃止） 経済学科　(△190) （3年次編入学定員）　(△18) ※令和8年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止） ・経営学部（廃止） 経営学科　(△190) （3年次編入学定員）　(△26) ※令和8年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止） ・法学部 法律学科　→　法律政治学科［定員減］（△100）（令和8年4月名称変更予定） （3年次編入学定員）［定員減］　(△8) ・文学部 人間学科［定員減］　(△100) （3年次編入学定員）［定員減］　(△25) ・教育学部 教育学科　→　心理・教育学科［定員増］（5）（令和8年4月名称変更予定） 児童教育学科［定員減］　(△15) ・理工学部 共生創造理工学科（廃止）　(△90) ※令和8年4月学生募集停止 生命理工学科　(55)　（令和7年4月届出予定）								

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	■通信教育課程 ・経済経営学部（令和7年4月届出予定） ビジネス学科　（600） （3年次編入学定員）　（300） ・経済学部（廃止） 経済学科　（△1,000） （3年次編入学定員）　（△100） ※令和8年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止） ・法学部 法律学科　→　法律政治学科［定員減］（△400）（令和8年4月名称変更予定） （3年次編入学定員）［定員増］　（200） ・文学部 人間学科［定員減］　（△150） （3年次編入学定員）［定員増］　（200） ・教育学部 教育学科　→　心理・教育学科［定員減］（△100）（令和8年4月名称変更予定） （3年次編入学定員）［定員増］　（200） 児童教育学科［定員減］　（△100） （3年次編入学定員）［定員増］　（200） ○創価女子短期大学部（廃止） ・国際ビジネス学科　（△150） ※令和8年4月学生募集停止

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	グリーンテクノロジー学科	115科目	250科目	69科目	434科目	124単位

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	理工学部 グリーンテクノロジー学科	8 人 (7)	3 人 (2)	0 人 (0)	0 人 (0)	11 人 (9)	0 人 (0)	244 人 (220)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (7)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 人 (7)	3 人 (2)	0 人 (0)	0 人 (0)	11 人 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 人 (7)	3 人 (2)	0 人 (0)	0 人 (0)	11 人 (9)			
	生命理工学科	6 人 (6)	4 人 (4)	0 人 (0)	0 人 (0)	10 人 (10)	0 人 (0)	250 人 (224)	令和7年4月届出予定
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 人 (6)	4 人 (4)	0 人 (0)	0 人 (0)	10 人 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 人 (6)	4 人 (4)	0 人 (0)	0 人 (0)	10 人 (10)			

新	経済経営学部 ビジネス学科	20 人 (18)	10 人 (8)	2 人 (2)	0 人 (0)	32 人 (28)	0 人 (0)	231 人 (231)	令和7年4月届出予定
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	20 (18)	10 (8)	1 (1)	0 (0)	31 (27)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 13人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)			
	小計（a ～ b）	20 人 (18)	10 人 (8)	2 人 (2)	0 人 (0)	32 人 (28)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	20 人 (18)	10 人 (8)	2 人 (2)	0 人 (0)	32 人 (28)			
設	［通信教育課程］経済経営学部　ビジネス学科	18 人 (7)	10 人 (1)	1 人 (0)	0 人 (0)	29 人 (8)	0 人 (0)	86人 (52)	令和7年4月届出予定
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (7)	10 (1)	1 (0)	0 (0)	29 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　― 人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			大学通信教育設置基準第８条第２項に規定する「昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合」、経済経営学部ビジネス学科（通学課程）と兼ねる基幹教員の人数：教授18人、准教授10人、講師1人、助教0人
	小計（a ～ b）	18 人 (7)	10 人 (1)	1 人 (0)	0 人 (0)	29 人 (8)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	18 人 (7)	10 人 (1)	1 人 (0)	0 人 (0)	29 人 (8)			
分	計	34 人 (31)	17 人 (14)	2 人 (2)	0 人 (0)	53 人 (47)	0人 (0)	― (―)	
既	法学部 法律政治学科	13 人 (12)	4 人 (6)	8 人 (3)	0 人 (0)	25 人 (21)	0 人 (0)	99 人 (99)	令和7年4月名称変更届出済み
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (12)	2 (4)	8 (3)	0 (0)	20 (19)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	10 人 (12)	2 人 (4)	8 人 (3)	0 人 (0)	20 人 (19)			
設	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	3 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (2)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
分	計（a ～ d）	13 人 (12)	4 人 (6)	8 人 (3)	0 人 (0)	25 人 (21)			

既設分	文学部 人間学科	13 人 (18)	11 人 (12)	12 人 (4)	0 人 (4)	36 人 (38)	0 人 (0)	110 人 (110)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	13 (17)	9 (10)	11 (4)	0 (0)	33 (31)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)			
	小計（a ～ b）	13 人 (18)	9 人 (10)	11 人 (4)	0 人 (0)	33 人 (32)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	2 (2)	1 (0)	0 (4)	3 (6)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a， ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	13 人 (18)	11 人 (12)	12 人 (4)	0 人 (4)	36 人 (38)			
	教育学部 心理・教育学科	5 人 (7)	2 人 (4)	3 人 (3)	0 人 (0)	10 人 (14)	0人 (0)	90人 (90)	令和7年4月名称変更届出済み
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (7)	2 (3)	3 (3)	0 (0)	10 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	5 人 (7)	2 人 (3)	3 人 (3)	0 人 (0)	10 人 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a， ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	5 人 (7)	2 人 (4)	3 人 (3)	0 人 (0)	10 人 (14)			
	児童教育学科	5 人 (5)	2 人 (2)	3 人 (3)	0 人 (0)	10 人 (10)	0 人 (0)	91 人 (91)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	5 人 (5)	2 人 (2)	3 人 (3)	0 人 (0)	10 人 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a， ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	5 人 (5)	2 人 (2)	3 人 (3)	0 人 (0)	10 人 (10)			

既設分									
理工学部 情報システム工学科		7 人 (7)	5 人 (5)	0 人 (0)	0 人 (0)	12 人 (12)	0 人 (0)	91 人 (91)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	7 人 (7)	5 人 (5)	0 人 (0)	0 人 (0)	12 人 (12)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a ， ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	7 人 (7)	5 人 (5)	0 人 (0)	0 人 (0)	12 人 (12)			
看護学部 看護学科		6 人 (9)	0 人 (3)	18 人 (15)	8 人 (8)	32 人 (35)	0 人 (0)	82 人 (82)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (8)	0 (3)	18 (15)	8 (8)	32 (34)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	6 人 (8)	0 人 (3)	18 人 (15)	8 人 (8)	32 人 (34)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a ， ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	6 人 (9)	0 人 (3)	18 人 (15)	8 人 (8)	32 人 (35)			
国際教養学部 国際教養学科		6 人 (6)	8 人 (7)	3 人 (3)	1 人 (2)	18 人 (18)	0 人 (0)	74 人 (74)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	8 (7)	3 (3)	0 (0)	17 (16)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	6 人 (6)	8 人 (7)	3 人 (3)	0 人 (0)	17 人 (16)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	1 (2)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a ， ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	6 人 (6)	8 人 (7)	3 人 (3)	1 人 (2)	18 人 (18)			

既設分	［通信教育課程］法学部　法律政治学科	8 人 (8)	2 人 (3)	4 人 (3)	0 人 (0)	14 人 (14)	0 人 (0)	17人 (17)	令和7年4月名称変更届出済み
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	2 (3)	4 (3)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　― 人 大学通信教育設置基準第８条第２項に規定する「昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合」、法学部法律政治学科（通学課程）と兼ねる基幹教員の人数：教授8人、准教授2人、講師4人、助教0人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	8 人 (8)	2 人 (3)	4 人 (3)	0 人 (0)	14 人 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	8 人 (8)	2 人 (3)	4 人 (3)	0 人 (0)	14 人 (14)			
	［通信教育課程］文学部　人間学科	10 人 (13)	6 人 (6)	3 人 (3)	0 人 (0)	19 人 (22)	0 人 (0)	46 人 (46)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (13)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	19 (22)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　― 人 大学通信教育設置基準第８条第２項に規定する「昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合」、文学部人間学科（通学課程）と兼ねる基幹教員の人数：教授10人、准教授6人、講師3人、助教0人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	10 人 (13)	6 人 (6)	3 人 (3)	0 人 (0)	19 人 (22)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	10 人 (13)	6 人 (6)	3 人 (3)	0 人 (0)	19 人 (22)			
	［通信教育課程］教育学部　心理・教育学科	4 人 (5)	2 人 (2)	2 人 (2)	0 人 (0)	8 人 (9)	0 人 (0)	37 人 (37)	令和7年4月名称変更届出済み
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　― 人 大学通信教育設置基準第８条第２項に規定する「昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合」、教育学部心理・教育学科（通学課程）と兼ねる基幹教員の人数：教授4人、准教授2人、講師2人、助教0人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	4 人 (5)	2 人 (2)	2 人 (2)	0 人 (0)	8 人 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	4 人 (5)	2 人 (2)	2 人 (2)	0 人 (0)	8 人 (9)			

既設分	［通信教育課程］ 児童教育学科	5 人 (5)	2 人 (2)	2 人 (2)	0 人 (0)	9 人 (9)	0 人 (0)	37 人 (37)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 ― 人 大学通信教育設置基準第８条第２項に規定する「昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合」、教育学部児童教育学科（通学課程）と兼ねる基幹教員の人数：教授5人、准教授2人、講師2人、助教0人
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 人 (5)	2 人 (2)	2 人 (2)	0 人 (0)	9 人 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	5 人 (5)	2 人 (2)	2 人 (2)	0 人 (0)	9 人 (9)			
	計	55 人 (64)	32 人 (39)	47 人 (31)	9 人 (14)	143 人 (148)	0人 (0)	― (―)	
合計		89 人 (95)	49 人 (53)	49 人 (33)	9 人 (14)	196 人 (195)	0人 (0)	― (―)	

職種	専属	その他	計	
事務職員	176 人 (176)	76 人 (76)	252 人 (252)	
技術職員	3 人 (3)	2 人 (2)	5 人 (5)	
図書館職員	9 人 (9)	3 人 (3)	12 人 (12)	
その他の職員	0 人 (0)	13 人 (13)	13 人 (13)	
指導補助者	0 人 (0)	9 人 (9)	9 人 (9)	
計	188 人 (188)	103 人 (103)	291 人 (291)	

校地等 区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
校舎敷地	371,494.16 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	371,494.16 ㎡	
その他	374,748.18 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	374,748.18 ㎡	
合計	746,242.35 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	746,242.35 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	162,991.55 ㎡ (162,991.55 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	162,991.55 ㎡ (162,991.55㎡)	

教室・教員研究室	教室	201室	教員研究室	348室	大学全体

図書・設備 新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
理工学部 グリーンテクノロジー学科	960,000〔210,000〕 (960,000〔210,000〕)	14,000〔11,000〕 (14,000〔11,000〕)	18,000〔15,000〕 (18,000〔15,000〕)	13,000〔12,950〕 (13,000〔12,950〕)	5,833 (5,833)	0 (0)	学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
計	960,000〔210,000〕 (960,000〔210,000〕)	14,000〔11,000〕 (14,000〔11,000〕)	18,000〔15,000〕 (18,000〔15,000〕)	13,000〔12,950〕 (13,000〔12,950〕)	5,833 (5,833)	0 (0)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	13,667.4㎡	20,390㎡	14,491.31㎡	

経費見積及び維持方法の概要	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	図書購入費には大学全体（電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む））として年間250,000千円を措置。 教員１人当り研究費等、共同研究費等は、理工学部全体の金額。
	経費の見積り　教員１人当り研究費等		1,480千円	1,480千円	1,480千円	1,480千円	—	—	
	経費の見積り　共同研究費等		6,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	—	—	
	経費の見積り　図書購入費	250,000千円	250,000千円	250,000千円	250,000千円	250,000千円	—	—	
	経費の見積り　設備購入費	291,525千円	3,345千円	3,345千円	3,313千円	3,298千円	—	—	
	学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
			1,570千円	1,370千円	1,370千円	1,370千円	—	—	
	学生納付金以外の維持方法の概要		手数料、寄付金、補助金、受取利息・配当金収入、雑収入　等						

既設大学等の状況	大学等の名称	創価大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	経済学部								東京都八王子市丹木町１丁目236番地	
	経済学科	4	190	3年次 18	796	学士 （経済学）	0.80	昭和46年度		
	法学部									
	法律学科	4	240	3年次 8	976	学士 （法学）	0.78	昭和46年度		
	文学部									
	人間学科	4	350	3年次 40	1,480	学士 （文学）	0.86	平成19年度		
	経営学部									
	経営学科	4	190	3年次 26	812	学士 （経営学）	1.09	昭和51年度		
	教育学部									
	教育学科	4	80	－	320	学士 （教育学）	1.06	昭和51年度		
	児童教育学科	4	100	－	400	学士 （教育学）	0.96	昭和51年度		
	理工学部									
	情報ｼｽﾃﾑ工学科	4	90	－	350	学士 （工学）	1.03	平成3年度		令和5年度入学定員増（10人）
	共生創造理工学科	4	90	－	370	学士 （理工学）	0.75	平成27年度		令和5年度入学定員減（10人）
	看護学部									
	看護学科	4	80	－	320	学士 （看護学）	0.98	平成25年度		
	国際教養学部									
	国際教養学科	4	90	－	360	学士 （国際教養学）	0.97	平成26年度		
	［通信教育課程］									
	経済学部									
	経済学科	4	1,000	3年次 100	4,200	学士 （経済学）	0.14	昭和51年度		
	法学部									
	法律学科	4	1,000	3年次 100	4,200	学士 （法学）	0.16	昭和51年度		
	教育学部									
	教育学科	4	300	－	1,200	学士 （教育学）	0.69	昭和57年度		
	児童教育学科	4	350	－	1,400	学士 （教育学）	0.41	昭和57年度		

既設大学等の状況	文学部									
	人間学科	4	750	3年次 100	3,200	学士 （文学）	0.55	平成30年度		
	［修士課程］									
	文学研究科									
	国際言語教育専攻	2	15	－	30	修士 （教育学）	1.16	平成21年度		
	国際平和学研究科									
	国際平和学専攻	2	16	－	32	修士 （国際平和学）	0.75	平成30年度		
	［博士前期課程］									
	経済学研究科									
	経済学専攻	2	15	－	30	修士 （経済学）	0.56	昭和50年度		
	法学研究科									
	法律学専攻	2	15	－	30	修士 （法学）	0.60	昭和50年度		
	文学研究科									
	英文学専攻	2	10	－	20	修士 （英文学）	0.05	昭和50年度		
	社会学専攻	2	10	－	20	修士 （社会学）	0.35	昭和50年度		
	教育学専攻	2	－	－	－	修士 （教育学）	－	昭和61年度		※令和4年度より学生募集停止（教育学専攻）
	人文学専攻	2	8	－	16	修士 （人文学）	0.93	平成4年度		
	教育学研究科									
	教育学専攻	2	15	－	30	修士 （教育学）	0.46	令和4年度		
	理工学研究科									
	情報ｼｽﾃﾑ工学専攻	2	30	－	60	修士 （工学）	1.25	平成7年度		
	環境共生工学専攻	2	25	－	50	修士 （工学）	0.72	平成19年度		
	生命理学専攻	2	15	－	30	修士 （理学）	0.80	令和2年度		
	生命情報工学専攻	2	－	－	－	修士 （工学）	－	平成7年度		※令和2年度より学生募集停止（生命情報工学専攻）
	［博士後期課程］									
	経済学研究科									
	経済学専攻	3	5	－	15	博士 （経済学）	0.26	昭和52年度		
	法学研究科									
	法律学専攻	3	3	－	9	博士 （法学）	0.33	昭和52年度		
	文学研究科									
	英文学専攻	3	5	－	15	博士 （英文学）	0.46	昭和52年度		
	社会学専攻	3	5	－	15	博士 （社会学）	0.26	昭和52年度		
	教育学専攻	3	－	－	－	博士 （教育学）	－	平成元年度		※令和4年度より学生募集停止（教育学専攻）

既設大学等の状況	人文学専攻	3	4	―	12	博士（人文学）	0.75	平成6年度		
	教育学研究科									
	教育学専攻	3	2	―	6	博士（教育学）	0.66	令和4年度		
	理工学研究科									
	情報ｼｽﾃﾑ工学専攻	3	4	―	12	博士（工学）	1.25	平成9年度		
	環境共生工学専攻	3	5	―	15	博士（工学）	1.40	平成19年度		
	生命理学専攻	3	5	―	15	博士（理学）	1.00	令和2年度		
	生命情報工学専攻	3	―	―	―	博士（工学）	―	平成9年度		※令和2年度より学生募集停止（生命情報工学専攻）
	［専門職学位課程］									
	法務研究科									
	法務専攻	3	28	―	84	法務博士（専門職）	0.52	平成16年度		
	教職研究科									
	教職専攻	2	25	―	50	教職修士（専門職）	0.68	平成20年度		

既設大学等の状況	大学等の名称	創価女子短期大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	国際ビジネス学科	2	150	―	300	短期大学士（国際ビジネス）	0.64	昭和60年度	東京都八王子市丹木町１丁目236番地	

附属施設の概要	名　称：平和問題研究所 目　的：平和の達成に関する諸問題の調査・研究 所在地：東京都八王子市丹木町１丁目236番地 設　立：昭和51年4月 規　模：建物 46.42㎡（文系校舎C棟内の5階501）	
	名　称：比較文化研究所 目　的：日本及び世界の文化に関する諸問題の比較研究 所在地：東京都八王子市丹木町１丁目236番地 設　立：昭和56年11月 規　模：建物 46.40㎡（文系校舎C棟内の4階402）	
	名　称：生命科学研究所 目　的：生命並びにそれに関連する諸問題についての科学的な研究 所在地：東京都八王子市丹木町１丁目236番地 設　立：昭和63年12月 規　模：建物 1,783.00㎡（理工学部K棟） 実験室19室、研究室6室、自習室2室、暗室2室、測定室2室、洗浄室1室、遠心機室1室、培養室1室、分配調合室1室、貯蔵室1室、廃棄物保管室1室、汚染検査室1室 ※糖鎖生命システム融合研究所と共用	
	名　称：国際仏教学高等研究所 目　的：仏教の思想・哲学の特徴と現代的意義に関する研究 所在地：東京都八王子市丹木町１丁目236番地 設　立：平成9年4月 規　模：建物 811.90㎡（文系校舎C棟の2階）研究室9室、リファレンス室1室、書庫7室	
	名　称：法科大学院要件事実教育研究所 目　的：法科大学院における要件事実教育の充実と発展を図るための調査研究 所在地：東京都八王子市丹木町１丁目236番地 設　立：平成16年10月 規　模：建物 24.00㎡（本部棟校舎内の12階）	

附属施設の概要	名　称：池田大作記念創価教育研究所 目　的：創価教育の思想と実践の研究 所在地：東京都八王子市丹木町１丁目236番地 設　立：平成9年4月 規　模：建物 478.01㎡（文系校舎C棟の3階・4階）	
	名　称：プランクトン工学研究所 目　的：プランクトンの研究を通じて人々の生活、環境の改善を図る 所在地：東京都八王子市丹木町１丁目236番地 設　立：令和2年9月 規　模：建物 276.90㎡（理工学部RD棟）	
	名　称：糖鎖生命システム融合研究所 目　的：糖鎖の生命システムにおける役割を統合的に解明する 所在地：東京都八王子市丹木町１丁目236番地 設　立：令和3年1月 規　模：建物 1,783.00㎡（理工学部K棟） ※生命科学研究所と共用	

（注）

1　共同学科の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

2　「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。

3「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。

4　私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

6　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部 グリーンテクノロジー学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	備考
全学共通科目	基礎科目	初年次プロジェクト（グリーンテクノロジー）	1前	○	2				○		8	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
		アカデミックライティングⅠ	1前･後	○	1				○							6	
		アカデミックライティングⅡ	1前･後			1			○							5	
		アカデミックライティングⅢ	1後			2			○							1	
		思考技術Ⅰ	1前			1			○							6	
		思考技術Ⅱ	1後			1			○							6	
		小計（6科目）	－	－	3	5	0	－			8	3	0	0	0	6	
	大学科目	人間教育論Ａ	1前･後	○		2		○								5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		人間教育論Ｂ	1前･後	○		2		○								9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
		創価教育論	1前･後	○		2		○								7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
		SOKA education	1後			1		○								1	
		現代文明論	1前			2		○								4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
		大学史の中の創価大学	1後			2		○								2	共同
		共通基礎演習	1前･後			2			○							11	
		人間教育論応用	1前･後			2		○								5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
		創価女性教育の理念と実践	1前			2		○			1	1				3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		GCPチュートリアルⅠ	1前			1			○		1					10	
		GCPチュートリアルⅡ	1後			1			○		1					10	
		GCPチュートリアルⅢ	2前			1			○		1					10	
		GCPチュートリアルⅣ	2後			1			○		1					10	
		小計（13科目）	－	－	0	21	0	－			2	1	0	0	0	44	
	言語科目 英語	English Ⅰ	1前			2			○							21	
		English Ⅱ	1後			2			○							21	
		English Ⅲ	1前			1			○							13	
		English Ⅳ	1後			1			○							12	
		Test Preparation TOEFL Ⅰ	1前			1			○							2	
		Test Preparation TOEFL Ⅱ	1後			1			○							2	
		Test Preparation TOEIC Ⅰ	1前			1			○							8	
		Test Preparation TOEIC Ⅱ	1後			1			○							7	
		English for Study Abroad Ⅰ	1前			2			○							1	
		English for Study Abroad Ⅱ	1後			2			○							1	
		TOEFL Preparation for Study Abroad Ⅰ	1前			2			○							1	
		TOEFL Preparation for Study Abroad Ⅱ	1後			2			○							1	
		English Summer intensive	1休			2			○							1	標準外
		TOEFL iBT Summer intensive	1休			1			○							1	標準外
		IELTS Summer Intensive	1休			1			○							1	標準外
		English Winter intensive	1休			2			○							1	標準外
		TOEFL iBT Winter intensive	1休			1			○							1	標準外
		IELTS Winter Intensive	1休			1			○							1	標準外
		EAP for Global Citizenship Ⅰ	1前			2			○							2	
		EAP for Global Citizenship Ⅱ	1後			2			○							2	
		EAP for Global Citizenship Ⅲ	2前			2			○							2	
		EAP for Global Citizenship Ⅳ	2後			2			○							2	
		Academic Foundations for Global Citizenship Ⅰ	1前			2			○							1	
		Academic Foundations for Global Citizenship Ⅱ	1後			2			○							1	
		Academic Foundations for Global Citizenship Ⅲ	2前			2			○							1	
		Academic Foundations for Global Citizenship Ⅳ	2後			2			○							1	
		小計（26科目）	－	－	0	42	0	－			0	0	0	0	0	34	
	第２外国語	ドイツ語Ⅰ	1前			2			○							2	
		ドイツ語Ⅱ	1後			2			○							2	
		ドイツ語Ⅲ	1前			1			○							1	
		ドイツ語Ⅳ	1後			1			○							1	
		ドイツ語Ⅴ	1前			1			○							1	
		ドイツ語Ⅵ	1後			1			○							1	
		フランス語Ⅰ	1前			2			○							3	
		フランス語Ⅱ	1後			2			○							3	
		フランス語Ⅲ	1前			1			○							1	
		フランス語Ⅳ	1後			1			○							1	
		フランス語Ⅴ	1前			1			○							1	
		フランス語Ⅵ	1後			1			○							1	
		中国語Ⅰ	1前			2			○							6	
		中国語Ⅱ	1後			2			○							6	
		中国語Ⅲ	1前			1			○							1	
		中国語Ⅳ	1後			1			○							1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第２外国語（続き）	中国語Ⅴ	1前			1			○							1	
			中国語Ⅵ	1後			1			○							1	
			中国語コミュニケーション演習初級Ⅰ	1前			2			○							1	
			中国語コミュニケーション演習初級Ⅱ	1後			2			○							1	
			中国語文法初級Ⅰ	1前			1			○							1	
			中国語文法初級Ⅱ	1後			1			○							1	
			中国語講読初級Ⅰ	1前			1			○							1	
			中国語講読初級Ⅱ	1後			1			○							1	
			中国語コミュニケーション演習初中級Ⅰ	2前			2			○							1	
			中国語コミュニケーション演習初中級Ⅱ	2後			2			○							1	
			中国語文法初中級Ⅰ	2前			1			○							1	
			中国語文法初中級Ⅱ	2後			1			○							1	
			中国語講読初中級Ⅰ	2前			1			○							1	
			中国語講読初中級Ⅱ	2後			1			○							1	
			ロシア語Ⅰ	1前			2			○							2	
			ロシア語Ⅱ	1後			2			○							2	
			ロシア語Ⅲ	1前			1			○							1	
			ロシア語Ⅳ	1後			1			○							1	
			ロシア語Ⅴ	1前			1			○							1	
			ロシア語Ⅵ	1後			1			○							1	
			ロシア語コミュニケーション初級Ⅰ	1前			1			○							1	
			ロシア語コミュニケーション初級Ⅱ	1後			1			○							1	
			ロシア語文法初級Ⅰ	1前			1			○							1	
			ロシア語文法初級Ⅱ	1後			1			○							1	
			ロシア語コミュニケーション中級Ⅰ	2前			1			○							1	
			ロシア語コミュニケーション中級Ⅱ	2後			1			○							1	
			ロシア語文法中級Ⅰ	2前			1			○							1	
			ロシア語文法中級Ⅱ	2後			1			○							1	
			ロシア語リーディング入門Ⅰ	2前			1			○							1	
			ロシア語リーディング入門Ⅱ	2後			1			○							1	
			ロシア語ライティング入門Ⅰ	2前			1			○							1	
			ロシア語ライティング入門Ⅱ	2後			1			○							1	
			ロシア語コミュニケーション上級Ⅰ	3前			1			○							1	
			ロシア語コミュニケーション上級Ⅱ	3後			1			○							1	
			ロシア語ライティング上級Ⅰ	3前			1			○							1	
			ロシア語ライティング上級Ⅱ	3後			1			○							1	
			スペイン語Ⅰ	1前			2			○							3	
			スペイン語Ⅱ	1後			2			○							3	
			スペイン語Ⅲ	1前			1			○							1	
			スペイン語Ⅳ	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅴ	1前			1			○							1	
			スペイン語Ⅵ	1後			1			○							1	
			イタリア語Ⅰ	1前			2			○							2	
			イタリア語Ⅱ	1後			2			○							2	
			イタリア語Ⅲ	1前			1			○							1	
			イタリア語Ⅳ	1後			1			○							1	
			イタリア語Ⅴ	1前			1			○							1	
			イタリア語Ⅵ	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅰ	1前			2			○							5	
			韓国語Ⅱ	1後			2			○							5	
			韓国語Ⅲ	1前			1			○							1	
			韓国語Ⅳ	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅴ	1前			1			○							1	
			韓国語Ⅵ	1後			1			○							1	
			小計（70科目）	－	－	0	88	0	－			0	0	0	0	0	31	
		第３外国語	ポルトガル語Ⅰ	1前			1			○							1	
			ポルトガル語Ⅱ	1後			1			○							1	
			ポルトガル語Ⅲ	1前			1			○							1	
			ポルトガル語Ⅳ	1後			1			○							1	
			アラビア語Ⅰ	1前			1			○							1	
			アラビア語Ⅱ	1後			1			○							1	
			アラビア語Ⅲ	1前			1			○							1	
			アラビア語Ⅳ	1後			1			○							1	
			スワヒリ語Ⅰ	1前			1			○							1	
			スワヒリ語Ⅱ	1後			1			○							1	
			スワヒリ語Ⅲ	1前			1			○							1	
			スワヒリ語Ⅳ	1後			1			○							1	
			タイ語Ⅰ	1前			1			○							1	
			タイ語Ⅱ	1後			1			○							1	
			タイ語Ⅲ	1前			1			○							1	
			タイ語Ⅳ	1後			1			○							1	
			トルコ語Ⅰ	1前			1			○							1	
			トルコ語Ⅱ	1後			1			○							1	
			トルコ語Ⅲ	1前			1			○							1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第3外国語（続き）	トルコ語Ⅳ	1後			1			○							1	
			ブルガリア語Ⅰ	1前			1			○							1	
			ブルガリア語Ⅱ	1後			1			○							1	
			ブルガリア語Ⅲ	1前			1			○							1	
			ブルガリア語Ⅳ	1後			1			○							1	
			インドネシア語Ⅰ	1前			1			○							1	
			インドネシア語Ⅱ	1後			1			○							1	
			インドネシア語Ⅲ	1前			1			○							1	
			インドネシア語Ⅳ	1後			1			○							1	
			ベトナム語Ⅰ	1前			1			○							1	
			ベトナム語Ⅱ	1後			1			○							1	
			ベトナム語Ⅲ	1前			1			○							1	
			ベトナム語Ⅳ	1後			1			○							1	
			言語演習Ⅰ	1前			1			○							1	
			言語演習Ⅱ	1後			1			○							1	
			言語演習Ⅲ	1前			1			○							1	
			言語演習Ⅳ	1後			1			○							1	
			小計（36科目）	－	－	0	36	0	－			0	0	0	0	0	10	
		日本語	日本語Ⅰ	1前			2			○							8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語Ⅱ	1後			2			○							8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語Ⅲ	1前			1			○							1	
			日本語Ⅳ	1後			1			○							1	
			日本語Ⅴ	1前			1			○							1	
			日本語Ⅵ	1後			1			○							1	
			日本語基礎	1前・後			3			○							3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語総合入門	1前・後			5			○							8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語総合Ⅰ	1前・後			5			○							10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語総合Ⅱ	1前・後			5			○							5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語演習入門	1前・後			1			○							1	
			日本語演習Ⅰ	1前・後			1			○							1	
			初級漢字	1前・後			1			○							1	
			日本語文法Ⅱ	1前・後			1			○							1	
			日本語文法Ⅲ	1前・後			1			○							1	
			日本語文法Ⅳ	1前・後			1			○							1	
			日本語読解Ⅱ	1前・後			1			○							1	
			日本語読解ⅢA	1前・後			1			○							1	
			日本語読解ⅢB	1前・後			1			○							1	
			日本語読解ⅣA	1前・後			1			○							1	
			日本語読解ⅣB	1前・後			1			○							1	
			日本語読解ⅤA	1前・後			1			○							1	
			日本語読解ⅤB	1前・後			1			○							1	
			日本語口頭表現入門	1前・後			1			○							2	
			日本語口頭表現Ⅰ	1前・後			1			○							2	
			日本語口頭表現ⅢA	1前・後			1			○							2	
			日本語口頭表現ⅢB	1前・後			1			○							2	
			日本語口頭表現ⅣA	1前・後			1			○							2	
			日本語口頭表現ⅣB	1前・後			1			○							2	
			日本語表現ⅤA	1前・後			1			○							1	
			日本語表現ⅤB	1前・後			1			○							1	
			日本語聴解入門	1前・後			1			○							1	
			日本語聴解Ⅰ	1前・後			1			○							1	
			日本語聴解Ⅱ	1前・後			1			○							1	
			日本語聴解ⅢA	1前・後			1			○							1	
			日本語聴解ⅢB	1前・後			1			○							1	
			日本語聴解ⅣA	1前・後			1			○							1	
			日本語聴解ⅣB	1前・後			1			○							1	
			日本語聴解ⅤA	1前・後			1			○							1	
			日本語聴解ⅤB	1前・後			1			○							1	
			日本語文章表現入門	1前・後			1			○							1	
			日本語文章表現Ⅰ	1前・後			1			○							1	
			日本語文章表現Ⅲ	1前・後			1			○							2	
			日本語文章表現Ⅳ	1前・後			1			○							2	
			小計（44科目）	－	－	0	60	0	－			0	0	0	0	0	17	
	日本語・日本文化科目		日本伝統文化	1前・後				2		○							1	
			小計（1科目）	－	－	0	0	2	－			0	0	0	0	0	1	
世界市民教育科目	平和・人権・環境開発科目		平和学入門	1前・後	○		2		○								1	
			平和と人権	1前	○		2		○								4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ダイバーシティ＆インクルージョン入門	1後			2		○								10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ライフイベントとジェンダー	3･4前	○		2		○								8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			環境と開発	1前・後	○		2		○								8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			環境問題入門	1後	○		2		○			1					1	
			現代マスコミ論	1後			2		○								1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
全学共通科目（続き）	世界市民教育科目	平和・人権・環境・開発科目（続き）	地域研究A	1前・後	○		2		○								5	
			地域研究B	1前・後	○		2		○								4	
			日本研究	1後			2		○								1	
			世界市民教育演習A	2前			2			○							3	
			世界市民教育演習B	2後			2			○							2	
			グローバル社会と女性のエンパワーメント	1後			2		○			1						
			プログラムゼミⅢ	2前			2			○		1					3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			プログラムゼミⅣ	2後			2			○							1	
			小計（15科目）	－	－	0	30	0	－			3	0	0	0	0	40	
		サービスラーニング・リーダーシップ科目	留学のための国際理解	1前・後			2		○								1	
			国際ボランティア実習	1前・後			2				○						1	標準外
			ボランティア実習Ⅰ	1前・後			1				○						1	標準外
			ボランティア実習Ⅱ	2前・後			1				○						1	標準外
			八王子学	1前			2		○								1	
			総合科目特講	1後			2		○								1	
			トップが語る現代経営A	1後	○		2		○								2	共同
			トップが語る現代経営B	1後	○		2		○								2	共同
			スマート・リーダーシップⅠ	1･2後			2			○							1	
			スマート・リーダーシップⅡ	2前			2			○							1	
			スマート・リーダーシップⅢ	2後			2			○							1	
			プログラムゼミⅡ	1後			2			○							1	
			小計（12科目）	－	－	0	22	0	－			0	0	0	0	0	10	
	数理・データサイエンス・自然科目		データサイエンス入門	1前・後	○	2			○								3	
			ＡＩ基礎	1前			2		○								1	
			大学生のための情報・デジタルリテラシー	1前			2		○								1	
			基礎数学Ⅰ	1前・後			2		○			1					2	
			基礎数学Ⅱ	1前・後			2		○								1	
			統計学入門Ⅰ	1前・後			2		○								2	共同
			統計学入門Ⅱ	1後			2		○								1	
			情報科学	1前・後			2		○								2	
			生命科学	1前・後			2		○								6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			環境科学	1前・後			2		○								2	
			プログラミング	1後			2			○							1	
			社会システムソリューションⅠ	1後			2			○							1	
			社会システムソリューションⅡ	2前			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			小計（13科目）	－	－	2	24	0	－			1	0	0	0	0	22	
人文・社会・健康科目	人文科学系		音楽	1前・後			2		○								2	
			美術	1前・後			2		○								1	
			文学入門	1前・後			2		○								2	
			哲学入門	1前・後			2		○								3	
			倫理学入門	1後			2		○								1	
			宗教学入門	1前・後			2		○								3	
			歴史入門	1前・後			2		○								4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			言語学入門	1後			2		○								2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			翻訳演習（中日）	3前			2			○							1	
			翻訳演習（日中）	3後			2			○							1	
			ロシア語集中演習Ⅰ	3前			2			○							1	
			ロシア語集中演習Ⅱ	3後			2			○							1	
			小計（12科目）	－	－	0	24	0	－			0	0	0	0	0	17	
		社会科学系	法学入門	1後			2		○								1	
			日本国憲法	1前・後			2		○								4	
			ミクロ経済学入門	1前			2		○								2	
			マクロ経済学入門	1後			2		○								2	
			経営学入門	1前			2		○								1	
			社会学入門	1前・後			2		○								2	
			国際関係論入門	1前・後			2		○								1	
			政治学入門	1前・後			2		○								1	
			心理学入門	1前・後			2		○								3	
			教養地理学	1前・後			2		○								1	
			教育学入門	1前・後			2		○								1	
			小計（11科目）	－	－	0	22	0	－			0	0	0	0	0	16	
		健康科学系	体育実技A	1前・後			1				○						3	
			体育実技B	1前・後			1				○						3	
			体育実技C	1前・後			1				○						4	
			体育実技D	1前・後			1				○						5	
			体育講義	1前・後			2		○								2	
			スポーツフィジカルサイエンス	1前			2		○								1	
			小計（6科目）	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	5	
		学際系	共通総合演習A	1前・後			2			○							10	
			共通総合演習B	1前・後			2			○							9	
			小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	10	
	キャリア教育科目		キャリアデザイン基礎	1･2後			2			○							1	
			キャリア開発フォーラム	1･2前			2		○								1	
			ワールドビジネスフォーラム	1･2前			2		○								1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学共通科目（続き）	キャリア教育系科目（続き）	グローバル社会とキャリア演習	1前			2			○							1	
		留学生のためのキャリアデザイン基礎（日本語）	1前			2		○								1	
		留学生のためのキャリアデザイン基礎（英語）	1前			2		○								1	
		留学生のためのキャリアコミュニケーションA	1前			2			○							1	
		留学生のためのキャリアコミュニケーションB	1後			2			○							1	
		次世代産業とキャリア演習	1後			2			○							1	
		グローバル社会と次世代産業	2前・後			2		○								1	
		公共キャリア演習Ⅰ	2前			2			○							1	
		公共キャリア演習Ⅱ	2後			2			○							1	
		企業研究	2後			2		○								1	
		キャリアビジョン演習A	2後			2			○							2	
		キャリアビジョン演習B	3・4前			2			○							3	
		キャリアビジョン演習C	3・4後			2			○							1	
		キャリアビジョン演習D	3・4後			2			○							6	
		留学生のためのキャリアビジョン演習	3・4後			2			○							1	
		公共キャリア演習Ⅲ	3・4前			2			○							1	
		公共キャリア演習Ⅳ	3・4後			2			○							1	
		留学生のためのキャリアコミュニケーションC	3・4前			2			○							1	
		留学生のためのキャリアコミュニケーションD	3・4後			2			○							1	
		キャリアトランジション演習	4後			2			○							2	共同
		インターンシップ入門	1後			2		○								1	
		インターンシップⅠ	1前			1				○						1	標準外
		インターンシップⅡ	1後			1				○						1	標準外
		インターンシップⅢ	1前			2				○						1	標準外
		インターンシップⅣ	1後			2				○						1	標準外
		プログラムゼミⅠ	1前			2			○							3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
		小計（29科目）	－	－	0	56	0	－			0	0	0	0	0	17	
	海外研修・実習科目	海外短期研修（英語）Ⅰ	1休			2				○						2	標準外
		海外短期研修（英語）Ⅱ	1休			2				○						2	標準外
		海外短期研修（英語）Ⅲ	1休			2				○						2	標準外
		海外短期研修（英語）Ⅳ	1休			2				○						2	標準外
		海外短期研修（英語）Ⅴ	1休			1				○						2	標準外
		海外短期研修（英語）Ⅵ	1休			1				○						2	標準外
		海外短期研修（ドイツ語）Ⅰ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（ドイツ語）Ⅱ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（ドイツ語）Ⅲ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（ドイツ語）Ⅳ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（フランス語）Ⅰ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（フランス語）Ⅱ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（フランス語）Ⅲ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（フランス語）Ⅳ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（中国語）Ⅰ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（中国語）Ⅱ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（中国語）Ⅲ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（中国語）Ⅳ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（スペイン語）Ⅰ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（スペイン語）Ⅱ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（スペイン語）Ⅲ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（スペイン語）Ⅳ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（イタリア語）Ⅰ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（イタリア語）Ⅱ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（イタリア語）Ⅲ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（イタリア語）Ⅳ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（韓国語）Ⅰ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（韓国語）Ⅱ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（韓国語）Ⅲ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（韓国語）Ⅳ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（ロシア語）Ⅰ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（ロシア語）Ⅱ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（ロシア語）Ⅲ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（ロシア語）Ⅳ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅰ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅱ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅲ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅳ	1休			2				○						1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅴ	1休			1				○						1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅵ	1休			1				○						1	標準外
		海外インターンシップⅠ	1休			2				○						1	標準外
		海外インターンシップⅡ	1休			2				○						1	標準外
		海外インターンシップⅢ	1休			2				○						1	標準外
		海外インターンシップⅣ	1休			2				○						1	標準外
		海外インターンシップⅤ	1休			1				○						1	標準外
		海外インターンシップⅥ	1休			1				○						1	標準外
		小計（46科目）	－	－	0	72	0	－			0	0	0	0	0	2	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目	グリーンテクノロジーコア科目	必修科目	グリーンテクノロジー概論	1前	○	1			○			5	1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			基礎グリーンテクノロジー実習	1前	○	1					○	1					1	共同
			地球科学概論	1後	○	2			○			1	1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			グリーンテクノロジー研究体験Ａ	1後	○	1				○		4	1					
			グリーンテクノロジー研究体験Ｂ	1後	○	1				○		3	2					
			グリーンテクノロジー研究トピックス	2前	○	1			○			7	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			Pythonプログラミング演習	2前		2				○							2	
			データサイエンス演習	2前･後		2				○							2	
			演習Ⅰ	3前	○	2				○		7	3					
			演習Ⅱ	3後	○	2				○		7	3					
			卒業演習Ⅰ	4前	○	2				○		7	3					
			卒業演習Ⅱ	4後	○	2				○		7	3					
			小計（12科目）	－	－	19	0	0	－			7	3	0	0	0	5	
		選択科目	グリーンテクノロジー研究体験Ｃ	2前	○		1			○		2	1					
			グリーンテクノロジー研究体験Ｄ	2前	○		1			○		2	1					
			グリーンテクノロジー研究体験Ｅ	2休	○		1			○		2	1					標準外
			グリーンテクノロジーとキャリア	2後			2		○			1	1					共同
			初等数学	1前			2		○			1						
			基礎化学	1前			2		○								1	
			Foundations of Chemistry	1前			2		○								1	
			基礎生物学	1前			2		○			1						
			Foundations of Biology	1前			2		○								1	
			化学実験	1後			2				○						3	共同
			Foundations of Data Science	1後			4		○								2	
			プロジェクト・スタディーズ	1後			2			○		2					1	共同
			国際ビジネス入門	1後			2		○				1					
			情報基礎論	2前	○		2		○			1						
			Topics in Science and Engineering	2後			2		○			2					3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			熱力学	2後			2		○			1						
			Academic English for Science and Engineering	3前			2			○							1	
			マテリアルサイエンス	3後			2		○			1						
			機器分析学	3後			2		○								1	
			粉体工学概論	3後			2		○			1						
			卒業研究Ⅰ	4前	○		5			○		7	3					
			卒業研究Ⅱ	4後	○		5			○		7	3					
			小計（22科目）	－	－	0	49	0	－			7	3	0	0	0	9	
	グリーンテクノロジー応用科目	地球環境理工学科目	気候変動科学論	2前	○		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生態学	2前			2		○								1	
			環境管理システム実験	2前			1				○	2					1	共同
			植物生理学概論	2後			2		○								1	
			地球生態系モニタリング	2後			2		○				1					
			地球観測技術	3前	○		2		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			地球化学	3前			2		○				1					
			土壌科学	3前	○		2		○			1						
			地球科学実験	3後	○		2				○		1				2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			海洋観測実習	3後			2				○	1					1	共同・標準外
			環境分析化学実験	3後	○		1				○	1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			小計（11科目）	－		0	20	0	－			3	2	0	0	0	3	
		資源循環理工学科目	環境微生物学	2前	○		2		○			1						
			グリーンケミストリー入門	2前	○		2		○			1						
			基礎微生物学実験	2後			1				○						1	
			環境微生物学実験	2後			1				○	1						
			生態環境工学	3前			2		○								1	
			水処理工学実験	3前	○		1				○	1	1					共同
			プランクトン工学	3前	○		1				○		1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			プランクトン工学実験	3前			1				○		1				1	共同
			廃棄物処理工学	3後	○		2		○			1						
			生物反応工学	3後			2		○			1						
			生物反応工学実験	3後			1				○	2					1	共同
			小計（11科目）	－	－	0	16	0	－			4	1	0	0	0	3	
		環境情報処理科目	基礎統計学	2前			2		○								2	
			No-Code Predictive Analytics with AI	2前			4		○								1	
			環境情報システム論	2後	○		2		○			1						
			Qualitative Research Method	2後			4		○								2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			数理統計学Ⅰ	3前	○		2		○			1						
			ライフサイクルアセスメント	3前			1		○								1	
			ライフサイクルアセスメント演習	3前			1			○							1	
			データ分析演習	3前			2			○							1	
			機械学習(AI)演習	3後			2			○							1	
			数理統計学Ⅱ	3後	○		2		○			1						
			多変量解析	3後			2		○			1						
			小計（11科目）	－	－	0	24	0	－			2	0	0	0	0	7	

科目区分				授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	備考
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	グリーンテクノロジー社会実装科目	環境ビジネス分野	公共政策（地域創生ビジネス）	2前			2		○				1					
				Development Economics	2前			4		○								1	
				AI-augmented Prescriptive Operations Analytics	2後			4		○								1	
				ビジネスイノベーション概論	2後	○		2		○				1					
				国際ビジネス法	3前			2		○				1					
				知的財産法概論	3前			2		○								1	
				環境マネジメント	3前			2		○								1	
				Ｒ＆Ｄキャリアセミナー	3前			1			○		1					2	共同
				ビジネスプランニング演習	3前	○		2			○			1					
				グリーンテクノロジーインターンシップ	3前・後			1			○			2					共同・標準外
				海外インターンシップ	3前・後			2			○		2						共同・標準外
				小計（11科目）	－	－	0	24	0	－			3	2	0	0	0	6	
			国際技術協力分野	国際情報技術交流史	1後			2		○								1	
				国際技術協力論	2前			2		○								1	
				国際情報英書講読	2前			2		○								2	共同
				International Fieldwork Ⅰ	2前			2			○							3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
				グリーンテクノロジー海外研修Ａ	2･3･4休			3			○		2						共同・標準外
				国際技術協力演習	2後	○		2		○			1	1					共同
				International Fieldwork Ⅱ	2休			2			○							3	共同・標準外
				国際技術協力海外研修	2休			2			○			1					標準外
				グリーンテクノロジー海外研修Ｂ	2･3･4休			3			○		2						共同・標準外
				特別講義	3後			2		○			2						共同
				小計（10科目）	－	－	0	22	0	－			3	1	0	0	0	7	
語科目	学部学科英			English Communication for Science Ⅰ	1前	○		2		○								6	
				English Communication for Science Ⅱ	1後	○		2		○								7	
				English for International Technical Cooperation Ⅰ	2前			1		○								1	
				English for International Technical Cooperation Ⅱ	2後			1		○								1	
				小計（4科目）	－	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	8	
合計（434科目）					－	－	24	675	2	－			8	3	0	0	0	244	

学位又は称号	学士（理工学）	学位又は学科の分野	理学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
○卒業要件 本学に4年(8学期)以上在学し、以下の履修方法に沿って124単位以上を修得し、かつ在学期間における通算GPAが2.0以上であること。 ○履修方法 以下の①～④の項目に沿って４年間にわたり学習を行う。なお、履修科目の登録の上限を24単位（学期）とする。 ①全学共通科目から15単位以上。但し基礎科目を３単位以上（初年次プロジェクト２単位、及びアカデミックライティングＩ１単位を含める）、大学科目を４単位以上、世界市民教育科目を４単位以上、数理・データサイエンス・自然科目を２単位以上（データサイエンス入門２単位を含める）、キャリア教育系科目を２単位以上。 ②学部学科英語科目（外国語科目）もしくは全学共通科目の言語科目（英語）から６単位以上。ただし、日本語を母語としないものは全学共通科目の言語科目（日本語）から６単位以上修得することも可とする。 ③専門科目から79単位以上。但し、グリーンテクノロジーコア科目の必修科目19単位及び選択科目16単位以上、グリーンテクノロジー応用科目44単位以上を含めること。また、グリーンテクノロジー応用科目には地球環境理工学科目、資源循環理工学科目、環境情報処理科目、グリーンテクノロジー社会実装科目の４科目群からそれぞれ５単位以上を含めること。 ④自由選択科目24単位以上（上記①～③の基準を超えて修得した科目、及び他学部・他学科専門科目、特設課程科目）	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。

6　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

８　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
９　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
10　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
（１）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
（２）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
（３）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
11　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部共生創造理工学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
全学共通科目	基礎科目		初年次プロジェクト（共生創造）	1前	2				○		5						共同(一部)
			学術文章作法Ⅰ	1前･後		2			○							兼9	
			学術文章作法Ⅱ	1後		2			○							兼1	
			思考技術基礎	1前･後		2			○							兼3	
			小計（4科目）	－	2	6	0	－			5	0	0	0	0	兼11	
	大学科目		人間教育論Ａ	1前･後		2		○								兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			人間教育論Ｂ	1前･後		2		○								兼10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			創価教育論	1前･後		2		○								兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			SOKA education	1後		1		○								兼1	
			現代文明論	1前		2		○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			大学史の中の創価大学	1後		2		○								兼2	
			共通基礎演習	1前･後		2			○							兼19	
			人間教育論応用	1前･後		2		○								兼6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			GCPチュートリアルⅠ	1前		1			○		1					兼10	
			GCPチュートリアルⅡ	1後		1			○		1					兼10	
			GCPチュートリアルⅢ	2前		1			○		1					兼10	
			GCPチュートリアルⅣ	2後		1			○		1					兼10	
			小計（12科目）	－	0	19	0	－			1	0	0	0	0	兼46	
	言語科目	英語	English Ⅰ	1前		2			○							兼24	
			English Ⅱ	1後		2			○							兼22	
			English Ⅲ	1前		1			○							兼15	
			English Ⅳ	1後		1			○							兼13	
			English Communication Advanced Intensive Ⅰ	1前		1			○								令和7年度不開講
			English Communication Advanced Intensive Ⅱ	1後		1			○								令和7年度不開講
			Test Preparation TOEFL Ⅰ	1前		1			○							兼2	
			Test Preparation TOEFL Ⅱ	1後		1			○							兼2	
			Test Preparation TOEIC Ⅰ	1前		1			○							兼8	
			Test Preparation TOEIC Ⅱ	1後		1			○							兼7	
			English for Study Abroad Ⅰ	1前		2			○							兼1	
			English for Study Abroad Ⅱ	1後		2			○							兼1	
			TOEFL Preparation for Study Abroad Ⅰ	1前		2			○							兼1	
			TOEFL Preparation for Study Abroad Ⅱ	1後		2			○							兼1	
			Professional English for Career Development Ⅰ	1前		2			○								令和7年度不開講
			Professional English for Career Development Ⅱ	1後		2			○								令和7年度不開講
			TOEIC Preparation for Career Development Ⅰ	1前		2			○								令和7年度不開講
			TOEIC Preparation for Career Development Ⅱ	1後		2			○								令和7年度不開講
			English Summer intensive	1休		2			○							兼1	標準外
			TOEFL iBT Summer intensive	1休		1			○							兼1	標準外
			IELTS Summer Intensive	1休		1			○							兼1	標準外
			English Winter intensive	1休		2			○							兼1	標準外
			TOEFL iBT Winter intensive	1休		1			○							兼1	標準外
			IELTS Winter Intensive	1休		1			○							兼1	標準外
			EAP for Global Citizenship Ⅰ	1前		2			○							兼2	
			EAP for Global Citizenship Ⅱ	1後		2			○							兼2	
			EAP for Global Citizenship Ⅲ	2前		2			○							兼2	
			EAP for Global Citizenship Ⅳ	2後		2			○							兼2	
			Academic Foundations for Global Citizenship Ⅰ	1前		2			○							兼1	
			Academic Foundations for Global Citizenship Ⅱ	1後		2			○							兼1	
			Academic Foundations for Global Citizenship Ⅲ	2前		2			○							兼1	
			Academic Foundations for Global Citizenship Ⅳ	2後		2			○							兼1	
			小計（32科目）	－	0	52	0	－			0	0	0	0	0	兼37	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	1前		2			○							兼2
			ドイツ語Ⅱ	1後		2			○							兼2
			ドイツ語Ⅲ	1前		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅳ	1後		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅴ	1前		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅵ	1後		1			○							兼1
			小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼3
		フランス語	フランス語Ⅰ	1前		2			○							兼3
			フランス語Ⅱ	1後		2			○							兼3
			フランス語Ⅲ	1前		1			○							兼1
			フランス語Ⅳ	1後		1			○							兼1
			フランス語Ⅴ	1前		1			○							兼1
			フランス語Ⅵ	1後		1			○							兼1
			小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼3
		中国語	中国語Ⅰ	1前		2			○							兼7
			中国語Ⅱ	1後		2			○							兼7
			中国語Ⅲ	1前		1			○							兼1
			中国語Ⅳ	1後		1			○							兼1
			中国語Ⅴ	1前		1			○							兼1
			中国語Ⅵ	1後		1			○							兼1
			小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼7
		ロシア語	ロシア語Ⅰ	1前		2			○							兼2
			ロシア語Ⅱ	1後		2			○							兼2
			ロシア語Ⅲ	1前		1			○							兼1
			ロシア語Ⅳ	1後		1			○							兼1
			ロシア語Ⅴ	1前		1			○							兼1
			ロシア語Ⅵ	1後		1			○							兼1
			小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼3
		スペイン語	スペイン語Ⅰ	1前		2			○							兼3
			スペイン語Ⅱ	1後		2			○							兼3
			スペイン語Ⅲ	1前		1			○							兼1
			スペイン語Ⅳ	1後		1			○							兼1
			スペイン語Ⅴ	1前		1			○							兼1
			スペイン語Ⅵ	1後		1			○							兼1
			小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼3
		イタリア語	イタリア語Ⅰ	1前		2			○							兼2
			イタリア語Ⅱ	1後		2			○							兼2
			イタリア語Ⅲ	1前		1			○							兼1
			イタリア語Ⅳ	1後		1			○							兼1
			イタリア語Ⅴ	1前		1			○							兼1
			イタリア語Ⅵ	1後		1			○							兼1
			小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼2
		韓国語	韓国語Ⅰ	1前		2			○							兼5
			韓国語Ⅱ	1後		2			○							兼5
			韓国語Ⅲ	1前		1			○							兼1
			韓国語Ⅳ	1後		1			○							兼1
			韓国語Ⅴ	1前		1			○							兼1
			韓国語Ⅵ	1後		1			○							兼1
			小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼5
		ポルトガル	ポルトガル語Ⅰ	1前		1			○							兼1
			ポルトガル語Ⅱ	1後		1			○							兼1
			ポルトガル語Ⅲ	1前		1			○							兼1
			ポルトガル語Ⅳ	1後		1			○							兼1
			小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼1
		アラビア語	アラビア語Ⅰ	1前		1			○							兼1
			アラビア語Ⅱ	1後		1			○							兼1
			アラビア語Ⅲ	1前		1			○							兼1
			アラビア語Ⅳ	1後		1			○							兼1
			小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼1
		スワヒリ語	スワヒリ語Ⅰ	1前		1			○							兼1
			スワヒリ語Ⅱ	1後		1			○							兼1
			スワヒリ語Ⅲ	1前		1			○							兼1
			スワヒリ語Ⅳ	1後		1			○							兼1
			小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼1
		タイ語	タイ語Ⅰ	1前		1			○							兼1
			タイ語Ⅱ	1後		1			○							兼1
			タイ語Ⅲ	1前		1			○							兼1
			タイ語Ⅳ	1後		1			○							兼1
			小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼1

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	トルコ語	トルコ語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
			トルコ語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
			トルコ語Ⅲ	1前		1			○							兼1	
			トルコ語Ⅳ	1後		1			○							兼1	
			小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
		ブルガリア	ブルガリア語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
			ブルガリア語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
			ブルガリア語Ⅲ	1前		1			○							兼1	
			ブルガリア語Ⅳ	1後		1			○							兼1	
			小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
		インドネシア	インドネシア語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
			インドネシア語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
			インドネシア語Ⅲ	1前		1			○							兼1	
			インドネシア語Ⅳ	1後		1			○							兼1	
			小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
		ベトナム語	ベトナム語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
			ベトナム語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
			ベトナム語Ⅲ	1前		1			○							兼1	
			ベトナム語Ⅳ	1後		1			○							兼1	
			小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
		その他	言語演習Ⅰ	1前		1			○							兼3	
			言語演習Ⅱ	1後		1			○							兼3	
			言語演習Ⅲ	1前		1			○							兼1	
			言語演習Ⅳ	1後		1			○							兼1	
			小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
		日本語	日本語Ⅰ	1前		2			○							兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語Ⅱ	1後		2			○							兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語Ⅲ	1前		1			○							兼1	
			日本語Ⅳ	1後		1			○							兼1	
			日本語Ⅴ	1前		1			○							兼1	
			日本語Ⅵ	1後		1			○							兼1	
			日本語基礎	1前・後		3			○							兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語総合入門	1前・後		5			○							兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語総合Ⅰ	1前・後		5			○							兼10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語総合Ⅱ	1前・後		5			○							兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			日本語演習入門	1前・後		1			○							兼1	
			日本語演習Ⅰ	1前・後		1			○							兼1	
			初級漢字	1前・後		1			○							兼1	
			日本語文法Ⅱ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語文法Ⅲ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語文法Ⅳ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語読解Ⅱ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語読解ⅢＡ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語読解ⅢＢ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語読解ⅣＡ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語読解ⅣＢ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語読解ＶＡ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語読解ＶＢ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語口頭表現入門	1前・後		1			○							兼2	
			日本語口頭表現Ⅰ	1前・後		1			○							兼2	
			日本語口頭表現ⅢＡ	1前・後		1			○							兼2	
			日本語口頭表現ⅢＢ	1前・後		1			○							兼2	
			日本語口頭表現ⅣＡ	1前・後		1			○							兼2	
			日本語口頭表現ⅣＢ	1前・後		1			○							兼2	
			日本語表現ＶＡ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語表現ＶＢ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語聴解入門	1前・後		1			○							兼1	
			日本語聴解Ⅰ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語聴解Ⅱ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語聴解ⅢＡ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語聴解ⅢＢ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語聴解ⅣＡ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語聴解ⅣＢ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語聴解ＶＡ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語聴解ＶＢ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語文章表現入門	1前・後		1			○							兼1	
			日本語文章表現Ⅰ	1前・後		1			○							兼1	
			日本語文章表現Ⅲ	1前・後		1			○							兼2	
			日本語文章表現Ⅳ	1前・後		1			○							兼2	
			小計（44科目）	－	0	60	0	－			0	0	0	0	0	兼17	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目（続き）	日本語・日本文化科目		日本伝統文化	1前・後			2		○							兼1	
			小計（4科目）	－	0	0	2	－			0	0	0	0	0	兼1	
	世界市民教育科目	平和・人権・環境・開発科目	平和学入門	1前・後		2		○								兼1	
			平和と人権	1前		2		○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ダイバーシティ＆インクルージョン入門	1後		2		○								兼10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ライフイベントとジェンダー	3･4前		2		○			1					兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			環境と開発	1前・後		2		○				1				兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			環境問題入門	1後		2		○								兼2	
			現代マスコミ論	1後		2		○								兼1	
			地域研究Ａ	1前・後		2		○								兼5	
			地域研究Ｂ	1前・後		2		○								兼4	
			日本研究	1後		2		○								兼1	
			世界市民教育演習Ａ	2前		2			○							兼3	
			世界市民教育演習Ｂ	2後		2			○							兼2	
			プログラムゼミⅢ	2前		2			○		1					兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			プログラムゼミⅣ	2後		2			○							兼1	
			小計（14科目）	－	0	28	0	－			2	1	0	0	0	兼41	
		サービスラーニング・リーダーシップ科目	留学のための国際理解	1前・後		2		○								兼1	
			ボランティア入門	1前・後		2		○								兼1	
			国際ボランティア実習	1前・後		2				○						兼1	標準外
			ボランティア実習Ⅰ	1前・後		1				○						兼1	標準外
			ボランティア実習Ⅱ	2前・後		1				○						兼1	標準外
			八王子学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			八王子学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			総合科目特講	1後		2		○								兼2	
			トップが語る現代経営Ａ	1後		2		○								兼3	共同
			トップが語る現代経営Ｂ	1後		2		○								兼3	共同
			スマート・リーダーシップⅠ	1･2後		2			○							兼1	
			スマート・リーダーシップⅡ	2前		2			○							兼1	
			スマート・リーダーシップⅢ	2後		2			○							兼1	
			プログラムゼミⅡ	1後		2			○							兼1	
			小計（14科目）	－	0	26	0	－			0	0	0	0	0	兼14	
	数理・データサイエンス・自然科目		データサイエンス入門	1前・後	2			○								兼3	
			ＡＩ基礎	1前		2		○								兼1	
			大学生のための情報・デジタルリテラシー	1前		2		○									令和7年度不開講
			基礎数学Ⅰ	1前・後		2		○								兼3	
			基礎数学Ⅱ	1前・後		2		○								兼2	
			統計学入門Ⅰ	1前・後		2		○								兼3	共同
			統計学入門Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ・リテラシーⅠ	1前・後		2			○							兼2	
			コンピュータ・リテラシーⅡ	1前		2			○							兼1	
			物理科学	1後		2		○									令和7年度不開講
			情報科学	1前・後		2		○								兼2	
			生命科学	1前・後		2		○			2	1				兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ(一部)
			環境科学	1前・後		2		○				1				兼1	
			プログラミング	1後		2			○							兼1	
			データサイエンス演習Ａ	1前		2			○							兼1	
			データサイエンス演習Ｂ	1後		2			○							兼1	
			社会システムソリューションⅠ	1後		2			○							兼1	
			社会システムソリューションⅡ	2前		2			○							兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			小計（18科目）	－	2	34	0	－			2	2	0	0	0	兼20	
	人文・社会・健康科目	人文科学系	音楽	1前・後		2		○								兼2	
			美術	1前・後		2		○								兼1	
			文学入門	1前・後		2		○								兼2	
			哲学入門	1前・後		2		○								兼3	
			倫理学入門	1後		2		○								兼1	
			宗教学入門	1前・後		2		○								兼3	
			歴史入門	1前・後		2		○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			言語学入門	1後		2		○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			小計（8科目）	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	兼16	
		社会科学系	法学入門	1後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1前・後		2		○								兼4	
			ミクロ経済学入門	1前		2		○								兼2	
			マクロ経済学入門	1後		2		○								兼2	
			経営学入門	1前		2		○								兼1	
			社会学入門	1前・後		2		○								兼3	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目（続き）	人文・社会・健康科目（続き）	社会科学系（続き）	国際関係論入門	1前・後		2		○								兼3	
			政治学入門	1前・後		2		○								兼2	
			心理学入門	1前・後		2		○								兼3	
			教養地理学	1前・後		2		○								兼1	
			教育学入門	1前・後		2		○								兼1	
			小計（11科目）	－	0	22	0	－			0	0	0	0	0	兼20	
		健康科学系	体育実技A	1前・後		1				○						兼3	
			体育実技B	1前・後		1				○						兼4	
			体育実技C	1前・後		1				○						兼4	
			体育実技D	1前・後		1				○						兼4	
			体育講義	1前・後		2		○								兼2	
			スポーツフィジカルサイエンス	1前		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼5	
		学際系	共通総合演習A	1前・後		2			○							兼10	
			共通総合演習B	1前・後		2			○							兼10	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼12	
		キャリア教育系科目	キャリアデザイン基礎	1･2後		2			○							兼1	
			キャリア開発フォーラム	1･2前		2		○								兼1	
			ワールドビジネスフォーラム	1･2前		2		○								兼1	
			グローバル社会とキャリア演習	1前		2			○							兼1	
			留学生のためのキャリアデザイン基礎（日本語）	1前		2		○								兼1	
			留学生のためのキャリアデザイン基礎（英語）	1前		2		○								兼1	
			留学生のためのキャリアコミュニケーションA	1前		2			○							兼1	
			留学生のためのキャリアコミュニケーションB	1後		2			○							兼1	
			次世代産業とキャリア演習	1後		2			○							兼1	
			グローバル社会と次世代産業	2前・後		2		○								兼1	
			公共キャリア演習Ⅰ	2前		2			○							兼1	
			公共キャリア演習Ⅱ	2後		2			○							兼1	
			企業研究	2後		2		○								兼1	
			キャリアビジョン演習A	2後		2			○							兼2	
			キャリアビジョン演習B	3･4前		2			○							兼3	
			キャリアビジョン演習C	3･4後		2			○							兼1	
			キャリアビジョン演習D	3･4後		2			○		1					兼5	
			留学生のためのキャリアビジョン演習	3･4後		2			○							兼1	
			公共キャリア演習Ⅲ	3･4前		2			○							兼1	
			公共キャリア演習Ⅳ	3･4後		2			○							兼1	
			留学生のためのキャリアコミュニケーションC	3･4前		2			○							兼1	
			留学生のためのキャリアコミュニケーションD	3･4後		2			○							兼1	
			キャリアトランジション演習	4後		2			○							兼2	共同
			インターンシップ入門	1後		2		○								兼1	
			インターンシップⅠ	1前		1				○						兼1	標準外
			インターンシップⅡ	1後		1				○						兼1	標準外
			インターンシップⅢ	1前		2				○						兼1	標準外
			インターンシップⅣ	1後		2				○						兼1	標準外
			プログラムゼミⅠ	1前		2			○							兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
			小計（29科目）	－	0	56	0	－			1	0	0	0	0	兼16	
		海外研修・実習科目	海外短期研修（英語）Ⅰ	1休		2				○						兼2	標準外
			海外短期研修（英語）Ⅱ	1休		2				○						兼2	標準外
			海外短期研修（英語）Ⅲ	1休		2				○						兼2	標準外
			海外短期研修（英語）Ⅳ	1休		2				○						兼2	標準外
			海外短期研修（英語）Ⅴ	1休		1				○						兼2	標準外
			海外短期研修（英語）Ⅵ	1休		1				○						兼2	標準外
			海外短期研修（ドイツ語）Ⅰ	1休		2				○						兼1	標準外
			海外短期研修（ドイツ語）Ⅱ	1休		2				○						兼1	標準外
			海外短期研修（ドイツ語）Ⅲ	1休		1				○						兼1	標準外
			海外短期研修（ドイツ語）Ⅳ	1休		1				○						兼1	標準外
			海外短期研修（フランス語）Ⅰ	1休		2				○						兼1	標準外
			海外短期研修（フランス語）Ⅱ	1休		2				○						兼1	標準外
			海外短期研修（フランス語）Ⅲ	1休		1				○						兼1	標準外
			海外短期研修（フランス語）Ⅳ	1休		1				○						兼1	標準外
			海外短期研修（中国語）Ⅰ	1休		2				○						兼1	標準外
			海外短期研修（中国語）Ⅱ	1休		2				○						兼1	標準外
			海外短期研修（中国語）Ⅲ	1休		1				○						兼1	標準外
			海外短期研修（中国語）Ⅳ	1休		1				○						兼1	標準外
			海外短期研修（スペイン語）Ⅰ	1休		2				○						兼1	標準外
			海外短期研修（スペイン語）Ⅱ	1休		2				○						兼1	標準外
			海外短期研修（スペイン語）Ⅲ	1休		1				○						兼1	標準外
			海外短期研修（スペイン語）Ⅳ	1休		1				○						兼1	標準外

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目（続き）	海外研修・実習科目（続き）	海外短期研修（イタリア語）Ⅰ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外短期研修（イタリア語）Ⅱ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外短期研修（イタリア語）Ⅲ	1休		1				○						兼1	標準外
		海外短期研修（イタリア語）Ⅳ	1休		1				○						兼1	標準外
		海外短期研修（韓国語）Ⅰ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外短期研修（韓国語）Ⅱ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外短期研修（韓国語）Ⅲ	1休		1				○						兼1	標準外
		海外短期研修（韓国語）Ⅳ	1休		1				○						兼1	標準外
		海外短期研修（ロシア語）Ⅰ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外短期研修（ロシア語）Ⅱ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外短期研修（ロシア語）Ⅲ	1休		1				○						兼1	標準外
		海外短期研修（ロシア語）Ⅳ	1休		1				○						兼1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅰ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅱ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅲ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅳ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅴ	1休		1				○						兼1	標準外
		海外短期研修（国際理解）Ⅵ	1休		1				○						兼1	標準外
		海外インターンシップⅠ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外インターンシップⅡ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外インターンシップⅢ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外インターンシップⅣ	1休		2				○						兼1	標準外
		海外インターンシップⅤ	1休		1				○						兼1	標準外
		海外インターンシップⅥ	1休		1				○						兼1	標準外
		小計（46科目）	－	0	72	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
専門科目	専門科目導入	プロジェクト・スタディーズ	1後	2				○		4	2				兼2	共同(一部)
		先端理工学トピックス	2前	2			○			13	6				兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			13	6	0	0	0	兼5	
	専門基礎科目	基礎科学実験	1前	1					○	1	2					共同
		初等微積分学	1後	2			○			1	1				兼1	
		線型数理	1後	2			○								兼1	
		物理学Ａ（基礎力学）	1前	2			○								兼1	
		化学Ａ	1前	2			○			1	1					
		生物学Ａ	1後	2			○			2						
		Pythonプログラミング演習	2前	2				○			1					
		物理学Ｂ(基礎電磁気学)	1後		2		○			1	1					
		化学Ｂ	1後		2		○				1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学Ｂ	2前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学実験	1後		2				○	3	1					共同
		物理学実験	2前		2				○	2						共同
		生物学実験	2前		2				○	1	2					共同
		基礎数学	1前		2		○			1						
		基礎物理学	1前		2		○								兼1	
		基礎化学	1前		2		○								兼1	
		基礎生物学	1前		2		○			1						
		小計（17科目）	－	13	20	0	－			8	5	0	0	0	兼3	
	専門演習科目	データサイエンス演習Ⅰ（共生基礎）	2後	2				○			1					
		演習Ⅰ	3前	2				○		13	6				兼1	
		演習Ⅱ	3後	2				○		13	7					
		卒業演習Ⅰ	4前	2				○		13	7				兼2	
		卒業演習Ⅱ	4後	2				○		13	7				兼2	
		卒業研究Ⅰ	4前		5				○	13	7				兼2	
		卒業研究Ⅱ	4後		5				○	13	7				兼2	
		小計（7科目）	－	10	10	0	－			13	7	0	0	0	兼3	
	専門応用科目	統計学	2前		2		○								兼2	
		自然科学史	2前		2		○								兼1	
		アドバンストプログラミング演習	2後		2			○			1					
		統計熱力学	3前		2		○			1						
		量子力学	2前		2		○			1						
		微分方程式	3後		2		○								兼1	
		電磁気学	2前		2		○			1						
		有機化学	2前		2		○								兼1	
		分析化学	2後		2		○			1						
		物理化学	2後		2		○			1						
		物理化学実験	2後		2				○	1	2					共同
		無機化学	3前		2		○			1						
		量子化学	3後		2		○			1						
		微生物学	2前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目（続き）	専門応用科目	微生物学実験	2後		2				○	2						共同
		分子生物学	2後		2		○				1					
		分子生物学実験	3前		2				○	1	1					共同
		生化学	2後		2		○			1						
		生化学実験	3前		2				○	2						共同
		生態学	2後		2		○			1						
		植物生理生態学	2後		2		○				1					
		細胞生物学	2後		2		○			1						
		発生生物学	3前		2		○			1						
		構造生物学	3前		2		○			1						
		分子細胞生物学	3前		2		○				1					
		代謝生化学	3前		2		○			1						
		酵素化学	3後		2		○			1						
		免疫科学	3後		2		○			1						
		地球科学概論	2前後		2		○				1				兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ(一部)
		気候学	2後		2		○								兼1	
		地球化学	3前		2		○				1					
		土壌学	3後		2		○			1						
		地球科学実験	3前		2				○	1	1				兼2	共同
		海洋学実習	3後		2				○	1						共同
		光エレクトロニクス	3前		2		○				1					
		物性物理概論	3後		2		○			1						
		情報工学実験	3前		2				○		1				兼3	共同
		情報計測工学	3後		2		○								兼1	
		信号理論	3前		2		○								兼1	
		マテリアルサイエンス	3後		2		○			1						
		マテリアルサイエンス実験	3前		2				○	1	1					共同
		機器分析学	3前		2		○			1						
		ニューロサイエンス	3前		2		○			1						
		データサイエンス演習Ⅱ（生命科学）	3前		2			○			1					
		ナノサイエンス	3前		2		○			1						
		エネルギー資源学	3後		2		○								兼1	
		環境科学	3前		2		○				1					
		環境分析化学実験	3後		1				○	2	1					共同
		生態環境工学	3前		2		○			1						
		環境計量学	3後		2		○									令和7年度不開講
		データサイエンス演習Ⅱ（環境システム）	3前		2			○							兼1	
		ハードウエア基礎論	3秋		2		○				1					
		ディジタル回路基礎論	2後		2		○				1					
		電子工学実験	2後		2				○		1				兼3	共同
		科学技術論	2後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		制御工学	3後		2		○								兼1	
		食品工学	3後		2		○									令和7年度不開講
		バイオテクノロジー	3後		2		○			1						
		反応工学	3後		2		○			1						
		化学工学	2前		2		○			1						
		廃棄物処理工学	3後		2		○								兼2	
		情報基礎論	2前		2		○				1					
		データサイエンス演習Ⅱ（応用化学）	3前		2			○								令和7年度不開講
		Academic English for science Ⅰ	3前		2		○								兼1	
		Academic English for science Ⅱ	3後		2		○									令和7年度不開講
		Topics in Science and Engineering	2後		2		○			3					兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		国際技術協力論	2前		2		○								兼1	
		国際交流論	2後		2		○			2						共同
		国際情報英書講読	2前		2		○								兼3	
		国際情報技術交流史	1後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（70科目）	－	0	139	0	－			13	7	0	0	0	兼23	
	専門関連科目	特別講義	3前		1		○			3	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境教育論	2後		2		○									令和7年度不開講
		環境経済論	2後		4		○								兼1	
		経営情報論	2前		4		○								兼1	
		理科教育法Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		理科教育法Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		理科教育法Ⅲ	3前		2		○								兼1	
		理科教育法Ⅳ	3後		2		○								兼1	
		小計（8科目）	－	0	19	0	－			3	1	0	0	0	兼3	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（続き）	専門科目	理科教職演習Ⅰ	1前		2			○			2				共同
		理科教職演習Ⅱ	3前		2			○			1				
		理工学特別演習	2後		2				○	1					
	学外	インターンシップ	2･3･4後		2				○	1					
		小計（4科目）	－	0	8	0	－			2	2	0	0	0	0
	学部学科目（外国語科目）	English communication for science Ⅰ	1前		2		○								兼6
		English communication for science Ⅱ	1後		2		○								兼7
		English for Science and Engineering Ⅰ	2前		1		○								兼2
		English for Science and Engineering Ⅱ	2後		1		○								兼2
		English for International Technical Cooperation Ⅰ	2前		1		○								兼1
		English for International Technical Cooperation Ⅱ	2後		1		○								兼1
		小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼9
合計（433科目）			－	31	699	2	－			13	7	0	0	0	兼264

学位又は称号	学士（理工学）	学位又は学科の分野	理学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
○卒業要件 本学に4年(8学期)以上在学し、以下の履修方法に沿って124単位以上を修得し、かつ在学期間における通算GPAが2.0以上であること。 ○履修方法 以下の①～④の項目に沿って４年間にわたり学習を行う。なお、履修科目の登録の上限を24単位（学期）とする。 ①全学共通科目から24単位以上。但し基礎科目を４単位以上（初年次プロジェクト２単位、及び学術文章作法Ⅰ・Ⅱのうち１科目２単位を含める）、大学科目を４単位以上、世界市民教育科目を４単位以上、数理・データサイエンス・自然科目を２単位以上（データサイエンス入門２単位を含める）、人文・社会・健康科目を４単位以上（社会科学系科目２単位、人文科学系科目２単位を含める）、キャリア教育系科目を２単位以上、言語科目から英語及びその他を除く１つの言語で４単位以上含めること。 ②学部学科英語科目（外国語科目）もしくは全学共通科目の言語科目（英語）から６単位以上 ③専門科目から71単位以上。但し、専門導入科目必修４単位、専門基礎科目の必修13単位及び選択８単位以上（化学実験・生物学実験・物理学実験うち２科目４単位と、物理学Ｂ（基礎電磁気学）・化学Ｂ・生物学Ｂのうち２科目４単位を含める）、専門演習科目必修10単位、専門応用科目36単位以上を含めること。また、専門応用科目には応用化学領域、生命科学領域、環境システム領域の３領域から１つの領域を選択し、選択した領域の指定する科目を22単位以上を含めること。 ④自由選択科目23単位以上（上記①～③の基準を超えて修得した科目、及び他学部・他学科専門科目、特設課程科目）	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

（注）
1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
6　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
7　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
8　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
9　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
10　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
11　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（理工学部 グリーンテクノロジー学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	基礎科目	初年次プロジェクト（グリーンテクノロジー）	○	【授業形態】演習 【目標】大学における授業の履修方法、情報リテラシー、施設の使用方法、教員構成と研究分野を理解する。 【授業計画】新入生が大学生活を送る上で必要な知識として、授業の履修方法、情報倫理、ポータルサイトを含めたICTの活用法、図書館利用に加え、学生生活における注意点やキャリアの考え方について学習する。また、学科に所属する教員とその研究分野について紹介するとともに、学科で設置されている施設を紹介することで学科で行われる研究分野について理解を深める。また、グリーンテクノロジー分野に親和性の高い企業研究をグループ学習を通して行うことで、将来のキャリアについて考察する。 （オムニバス方式／全15回） （7.佐藤 伸二郎/1回） 学科に関連する研究と施設の紹介（1回） （11.秋月 真一/1回） シラバスの読み方と4年間の学びについての解説（1回） （9.KHATRI Pradeep/4回） 所属する教員構成と研究分野の紹介（1回）、学生生活、キャリアサポート、図書館利用に関する解説（3回） （4.亀田 多江/2回） 授業や学生生活でコンピュータネットワークを安全かつ情報倫理に配慮して活用できるように確認し、学科の学習に必要な学習ポータルサイトの活用方法の解説（1回）、ICT活用基礎の解説（1回） （9.久保川 達也/1回） データ解析の事例を通して統計学の面白さや有用性を理解し、統計リテラシーについて学ぶ（1回）。 （7.佐藤 伸二郎・3.井田 旬一/3回）（共同） グリーンテクノロジー分野の企業研究とグループ学習（2回）、企業研究の発表会及び講評（1回） （2.KUWAHARA Victor Shinichi・9.KHATRI Pradeep・11.秋月 真一/1回）（共同） 学科に関連する研究と施設の紹介（1回） （5.中﨑 清彦・1.松山 達・3.井田 旬一/1回）（共同） 学科に関連する研究と施設の紹介（1回） （6.黒沢 則夫・4.亀田 多江・10.青野 健作/1回）（共同） 学科に関連する研究と施設の紹介（1回）	オムニバス 共同（一部）
		アカデミックライティングⅠ	○	本授業では、グループワーク、実習形式を取り入れ、最終的に1000～1200字のレポートを書き上げる。講義では配布物やワークシートを活用しながら、大学で求められるクリティカルシンキング／リーディングとは何か、レポートとは何かを学ぶ。さらにレポートの論理性・構成、レポートにふさわしい文章、引用の仕方など、レポート作成における基本的なスキルを身につける。なお、本講義は、大学で求められるレポートを書くことが初めて、もしくは書き方が分からないという学生を対象にしている。レポートの書き方は、専門分野や教員によって「書き方の規定」が変わるため、本講では汎用的なタイプを学ぶ。	
		アカデミックライティングⅡ		本授業では、講義・グループワーク・実習を取り入れ、最終的には2000字のレポートを書き上げていく。配布物やワークシートを活用しながら、レポートの要であるテーマ設定、問い作り、レポートに適した文献収集と分析、適切な引用の仕方などを学ぶ。大学で求められるレポートの構成・考え方・プロセスなど、他の授業で課せられたレポートにも活用してほしい力を身につける。なお、本講義は、アカデミックライティング1の受講を前提にした学生を対象にしている。レポートの書き方は、専門分野や教員によって「書き方の規定」が変わるため、本講では汎用的なタイプを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目（続き）	基礎科目（続き）	アカデミックライティングⅢ		本授業では、大学で求められるレポート課題に取り組む際の発展的な技能の養成を目標としている。実際のレポート例を参考にしながら、レポート作成のルール（文体・引用・著作権の理解など）、構成（論証の展開、説得力のある結論の導出など）、書式などを学ぶ。また、グループワークやピアレビューを取り入れながら、レポート作成のプロセス全体を学び、構造的かつ批判的な思考力を養い、最終的に3000字程度の学術的なレポートを完成させる。レポートの書き方は、専門分野や教員によって「書き方の規定」が変わるため、本講では汎用的なタイプを学ぶ。	
		思考技術Ⅰ		本授業は初年次教育（大学生として期待される学習スキルの習得や学習習慣の形成を意図したもの）の一環として、大学での学び方・考え方を学ぶものである。具体的には、LTD（Learning Through Discussion）と呼ばれる読解力を磨く学習法を主に用いて、「読む」「聴く」「話す（討論する）」といった大学での学びの基礎となる力を鍛え、論理的・批判的あるいは多面的に考える思考のトレーニングをする。思考技術といっても、この授業では個人の技術だけでなく、グループとしての技術も磨いていく。そのためグループ学習を中心に、毎週様々な課題に取り組んでもらう。この科目の到達目標は以下の通りである。 1.事実と意見・主張を区別できる 2.事実と事実の関連付けを他者が理解・納得できる形で表現できる 3.LTDの作法を理解し、論理的に文章を読むことができる 4.多面的な思考法を学び、他の学習場面にも応用できる 5.対話的な学びを通じて学友の学びに貢献できる	
		思考技術Ⅱ		本授業は初年次教育（大学生として期待される学習スキルの習得や学習習慣の形成を意図したもの）の一環として、大学での学び方・考え方を学ぶものである。思考技術Iの既修者を対象に、LTD学習法や建設的討論法（Academic Controversy）を主に用いて、「読む」「聴く」「話す（討論する）」といった大学での学びの基礎となる力を鍛え、論理的・批判的あるいは多面的に考える思考のトレーニングをする。なお、この科目の到達目標は以下の通りである。 1.マインドマップを使って情報の整理・関連付けができる 2.断片的な情報を適切に関連づけ、それをもとに自分の考えを主張することができる 3.LTDで培った読解力（論理的思考力）を他の学習場面にも応用できる 4.二項対立を建設的に乗り越える思考法（価値創造的思考）ができる 5.対話的な学びを通じて学友の学びに貢献できる	
	大学科目	人間教育論Ａ	○	（概要）創立者は本学の基本理念として、「人間教育の最高学府たれ」「新しき大文化建設の揺籃たれ」「人類の平和を守るフォートレスたれ」との三つのモットーを掲げている。これらに象徴される本学の歴史と理念を知ることは、４年間の学生生活を一層実りあるものとする上で、一つの大きな契機となる。本授業では、創立者の著作・講演などの資料を通して、創価大学とはどういう大学であるか、何を目指しているのかを考えるとともに、受講者同士の議論も交えつつ、各自の創価大学での学ぶ意味と意義を考察する。なお、本授業は、日本語で実施する通常クラスの他、中国人学生向けに、オムニバス形式で実施するクラスも設ける。 （146.坂口 貴弘/全15回）*日本語クラス この授業は、創価大学で学ぶにあたり、皆さん一人一人が創立者・池田大作の言葉と向き合うことを通して、学生生活や人生の中でぶつかる様々な困難を乗り越えるための糧を自ら見つけてもらうことを目指す。具体的には、（1）受講生各自が,『創立者の語らい』に収録されている創立者のスピーチ・メッセージ等を授業前に読み込み、それに関する課題に回答する。（2）授業中は各自の考えてきたことを持ち寄り、少人数のチームに分かれてディスカッションする。そこでは自分の意見を述べるとともに、他人の発言に対して質問することが求められる。これらを通して、多様な意見を尊重しつつ議論する経験を積む機会を提供したい。	オムニバス
全学共通科目（続き）	大学科目（続き）	人間教育論Ａ（続き）		（オムニバス方式/全15回）*中国語クラス （97.董 芳勝/11回） 「創立者と創価大学」「創立者と中国指導者の対話」「創立者の日中国交正常化提言と新時代日中関係の発展」「創価教育思想の淵源」「牧口常三郎と創価教育」等について考察する。また最終授業回では学生の発表報告等を通じて授業を総括する。 （74.劉 継生/1回） 「創立者の平和思想と実践」等について考察する。 （52.松森 秀幸/1回） 「創立者の仏教思想の背景」等について考察する （67.叢 暁波/2回） 「創立者の幸福思想と実践」「創立者と中国留学生」等について考察する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		人間教育論Ｂ	○	（概要）人間教育の目的のひとつは、人間についての深い理解、洞察力を養うことである。「何百年という時間の淘汰作用を経て生き延びてきた古典や名作には読者の内発的精神性を刺激してやまない語り掛けが満ちている」（池田大作著『教育提言』趣意。）学生時代に人類の遺産ともいうべき古典・名著に触れることは、精神性、創造性に満ちた人間理解の地平を獲得する貴重な機会となる。本授業では、シェイクスピア、ゲーテ、エマソン、ソロー、ホイットマン、ユゴー、トルストイ、魯迅、ガンジー等の作品を教材に、受講者に古典・名著の読了と人間理解を促す。 （オムニバス方式/全15回） （158.山崎 達也/2回） 「プラトンの『ソクラテスの弁明』」について考察する。 （53.前川 健一/1回） 「釈尊の思想と生涯」について考察する。 （157.柳沼 正広/1回） 「エラスムス『痴愚神礼讃』」について考察する。 （159.村上 政彦/2回） 「三国志」について考察する。 （42.伊藤 貴雄/2回） 「ゲーテの『ファウスト』」について考察する。 （45.寒河江 光徳/1回） 「トルストイの『戦争と平和』を読む」について考察する。 （101.熊田 岐子/1回） 「エマソンの『自己信頼』」について考察する。 （54.大西 克明/1回） 「ホセ・オルテガ・イ・ガセット」について考察する。 （40.前田 幸男/1回） 「ヘンリー・D・ソローについて」について考察する。 （45.寒河江 光徳・158.山崎 達也・53.前川 健一・157.柳沼 正広・42.伊藤 貴雄・101.熊田 岐子・54.大西 克明・40.前田 幸男/3回）（共同） 各テーマを総括したシンポジウムを実施する	オムニバス 共同（一部）
		創価教育論	○	（概要）「創価教育」とは何か――学生の皆さんと一緒に考えていきたい。「池田大作記念創価教育研究所」の教員が交代で担当する。講義では、「創価教育学の父」である牧口常三郎の創価教育学説だけでなく、それを受け継いだ戸田城聖、そして本学の創立者池田大作の思想と実践についても考察する。池田大作については、その教育論だけでなく、世界の知性と展開された諸対談集も講義の中で取り上げる。さらに、創価大学の歴史についても講義をしたい。 （オムニバス方式/全15回）*日本語クラス （146.坂口 貴弘/2回） 「創価大学の歴史」等について考察する。 （55.富岡 比呂子/2回） 「池田大作の教育思想」等について考察する。	オムニバス 共同（一部）
全学共通科目（続き）	大学科目（続き）	創価教育論 （続き）		（24.勘坂 純市/3回） 「池田大作の人間主義」等について考察する。 （156.岩木 勇作/2回） 「牧口常三郎の思想」等について考察する。 （42.伊藤 貴雄/3回） 「牧口常三郎の生涯」等について考察する。 （146.坂口 貴弘・55.富岡 比呂子・24.勘坂 純市・156.岩木 勇作・42.伊藤 貴雄/3回）（共同） 各テーマを総括したシンポジウムを実施する。 （オムニバス方式/全15回）*英語クラス （66.Andrew GEBERT/7回） 「牧口常三郎の歴史的背景/政治的実践としての地理」等について考察する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
				(147.久木田 ステファニー/8回) 「地球市民のための教育」「戸田城聖の核兵器廃絶」等について考察する。	
		SOKA education		本授業は、創価（価値創造）教育の歴史的発展と応用を探求するものである。牧口常三郎による創価教育の最初の定式化から、戸田城聖と池田大作による地球市民教育のプログラムとしての具体化まで、創価教育の主要な概念と理想を概観する。また、創価教育の手法やコンセプトを学生自身が応用する機会も提供する。具体的には、相互依存、価値創造、エンパワーメント、多様性、グローバル・シチズンシップといった重要なコンセプトを探求する。これらの概念の歴史的なルーツや背景を紹介し、構造化された対話を通して探求し、最後に現代の教育現場でどのように実践できるかを考察する。なお、本授業の使用言語は英語とする。	
		現代文明論		（概要）本授業は、教員が主導する一方的な授業を打破し、学生と教員が共に主体的に学び、参加者自身が持つ問題関心-大学という場で追求し深めたい問題・課題-に挑むという、双方的な授業を目指している。これはいわゆる「草創三部作」(本学の創立者・池田大作による３つの講演「創造的人間たれ」「スコラ哲学と現代文明」「創造的生命の開花を」のこと)における大学建設の基本的考えである「学生第一」への挑戦を意味する。大学科目という学部を超えてすべての学生に開かれた場所において、創立者の思想をテクストとし、自由で開かれた議論を志向したアカデメイア(プラトンが紀元前４世紀に創設した学園でいわゆる現代の大学や教育機関の淵源と位置づけられる)のような雰囲気を、現代の大学という制度の制約の中でどこまで実現できるかに挑戦したい。 （オムニバス方式/全15回） （118.清水 強志・54.大西 克明・88.岡田 勇・98.蝶名林 亮/3回）（共同） 初回授業にて受講生が本授業で追求したい問題や意見を吸い上げ、教員が取り上げるべきテーマについて議論する。また、授業第7回及び最終回にて各授業回で議論したテーマの総括を行う。 （98.蝶名林 亮・88.岡田 勇/6回）（共同） 「創立者 池田大作の思想・哲学の価値」について、担当教員2人の学問分野から考察する。「現代文明の諸問題に挑む」と題して、受講生が本授業で追求したい問題等について、担当教員2人の学問分野から考察する。 （118.清水 強志・54.大西 克明/6回）（共同） 「創立者 池田大作の思想・哲学の価値」について、担当教員2人の学問分野から考察する。「現代文明の諸問題に挑む」と題して、受講生が本授業で追求したい問題等について、担当教員2人の学問分野から考察する。	オムニバス 共同（一部）
全学共通科目（続き）	大学科目（続き）	大学史の中の創価大学		この授業ではまず、数世紀に及ぶ大学史の文脈において、また国内外の諸大学との比較を通して、創価大学がどのような位置にあるのかを議論する。創価大学を理解するには、まず大学という仕組みそのものを知ることが不可欠である。中世ヨーロッパに誕生し近代日本に導入された大学は、今日の姿に至るまでに著しい変容を遂げてきた。現在も大学は変化しつつあり、創価大学もその例外ではない。 このような大学の歴史を踏まえつつ、次に何らかの具体的な研究テーマを受講生各自が決め、数名のチームごとに調査を進めていく。一つのテーマについて、理論と歴史、創価大学における経緯と現状、他大学の事例など、大量の情報を分担して読み込む。その上で、創価大学がこの点を発展・改善させていくための新たな事業提案（ビジネスプラン）を考える。思いつきや自己満足ではなく、根拠に基づいて徹底的に議論し、斬新なビジネスプランを出すべく、受講生同士が評価・採点し、提案を修正していく。 これらを通し、大学をめぐる様々なトピックについて、歴史的・学問的な基盤に立脚しつつ、学生自身の手で調査し議論する機会を提供したい。	共同
		共通基礎演習		私たちは、常に「何のために学ぶか」という根源的な問いを発している。それなくしては知識を蓄えることはできても、智慧を身につけることは難しい。人生における真の幸福は、智慧をどれだけ磨くかにかかっているでのある。この演習では、創立者池田大作の、世界の識者との対談集からテーマを選び、それらの枢要な箇所をテキストに用いて、哲学、宗教、平和、文化などの視点から、社会と人類の諸問題を考察し、各自の「学問の基礎」を形成するのに役立たせたい。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		人間教育論応用		（概要）本授業では、創立者池田大作の大学講演（コロンビア大学、ハワイ東西センター、ハーバード大学）での「教育」「平和」「文化」に関するスピーチを題材に、創立者に底流する思想の核心を現代世界、自身の大学での学び、進路と関連づけて掘り下げていく。人間教育論Aの内容を現実社会の諸問題解決との関連でさらに深く学べる内容とする。また教員・講師・学生間での深い対話による人間的触発をめざした設計となっている。 （オムニバス方式/全15回） （43.井上 大介・54.大西 克明/11回）（共同） 「イントロダクション」「『教育』『平和』『文化』に関するディスカッションの実施」など （55.富岡 比呂子/1回） 「世界市民教育への一考察」など （44.玉井 秀樹/1回） 「平和と人間のための安全保障」等について考察する。 （54.大西 克明/1回） 「ソフトパワーの時代と哲学」等について考察する。 （25.西浦 昭雄・54.大西 克明・43.井上 大介/1回）（共同） 「創立者の思想と創価大学で学ぶ者の使命―世界市民としていかに生きるべきか」等について考察する。	オムニバス 共同（一部）
		創価女性教育の理念と実践		（概要）この科目では、創価教育学の創始者・牧口常三郎先生の教育思想を基盤とし、創価大学の建学の精神に基づいた女性教育の理念と実践について学ぶ。具体的には、次の内容を学んでいく。①従来の女性学が目指した男女平等の枠を超えて、創立者・池田大作先生先生が平和と調和の社会建設に向けて女性に期待した創価の女性教育の淵源と意義を学ぶ。②創価女性教育が目指す人材像（人物像）について理解を深め、大学での学びとその実践について考える。③平和と調和の社会建設に貢献した女性の生き方について学び、自身の生き方について考え深める。 創価の女性教育の理念と実践の学びを通して、男女共に、女性の持つ豊かな力を理解して、平和と調和の社会建設に貢献する生き方を目指し、充実した大学での学びと実践に繋げていくことを目標とする。 （オムニバス方式/全15回） （4.亀田 多江/5回） ガイダンスの担当、「女性学と本授業の位置づけ」についての講義、創価女性教育の淵源として「創価女子学園及び創価女子短期大学の設立と発展」についての講義、そして「平和と調和の社会建設と女性の生き方」についての講義2回分を担当する。	オムニバス
全学共通科目（続き）	大学科目（続き）	創価女性教育の理念と実践 （続き）		（120.石川 由紀子/5回） 「平和と調和の社会建設と女性の生き方」についての講義、「女性の持つ豊かな力と女性の生き方」についての講義、そして本授業における単元ごとの講義内容を学び深めるためのディスカッション3回分を担当する。 （75.石井 健司/2回） 「平和建設と創価の女性教育」の意義についての講義、創価女性教育の淵源として「牧口常三郎の教育思想」と「創価女子学園及び創価女子短期大学の設立構想」についての講義を担当する。 （121.川島 秀明/2回） 創立者が創価教育の女子学生に語られたスピーチや講義等を題材に、「創価女性教育と大学での学び」について考え深める授業を2回分担当する。 （10.青野 健作/1回） 創立者が語られた女性の持つ豊かな力に着目した実践教育で、社会的課題の解決に取り組んだ事例を通して、「創価女性教育と大学での学び」について考え深める授業を担当する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			GCPチュートリアルⅠ		グローバルシティズンシッププログラム（GCP）チュートリアル1は、GCPが提供する英語授業、プログラムゼミの課題を徹底的に学び、ならびに所属学部の学問的基礎力を身につけるための自己管理能力を養うことを目指す。とりわけ、GCP１セメスターにあたる本チュートリアルは、GCP授業と学部授業の両立、将来の目標設定と目標を達成するために相応しい学習・生活環境の確立に向け、担当教員によるクラス指導ならびに個別指導を提供する。また、創立者の講演を学ぶ講義とディスカッションを通し、創価教育に関する知見を深め、創立者講演に引用された古典を研鑽することにより、創立者の思想に関する学問的考察を深めることを目指す。あわせて、世界市民たる人間的素養に関し深く考察し、グローバルリーダーとして求められる能力を身につけることを目指す。	
			GCPチュートリアルⅡ		グローバルシティズンシッププログラム（GCP）チュートリアルIIは、GCPが提供する英語授業、プログラムゼミの課題を徹底的に学び、ならびに所属学部の学問的基礎力を身につけるための自己管理能力を養うことを目指す。とりわけ、GCP2セメスターにあたる本チュートリアルは、GCP授業と学部授業の両立、将来の目標設定と目標を達成するために相応しい学習・生活環境の確立に向け、担当教員によるクラス指導ならびに個別指導を提供する。また、創立者の講演を学ぶ講義とディスカッションを通し、創価教育に関する知見を深め、創立者講演に引用された古典を研鑽することにより、創立者の思想に関する学問的考察を深めることを目指す。あわせて、世界市民たる人間的素養に関し深く考察し、グローバルリーダーとして求められる能力を身につけることを目指す。	
			GCPチュートリアルⅢ		GCPチュートリアルⅡに引き続き、GCP3セメスターにあたる本チュートリアルは、グローバルシティズンシッププログラム（GCP）が提供する課題を徹底的に学び、学問的基礎力を身につけるための自己管理能力を養うことを目指す。GCPが提供する英語授業、プログラムゼミの課題を学び、ならびに所属学部の学問的基礎力を身につけるための自己管理能力を養うことを目指す。とりわけ、GCP授業と学部授業の両立、将来の目標設定と目標を達成するために相応しい学習・生活環境の確立に向け、担当教員によるクラス指導ならびに個別指導を提供する。また、創立者の講演を学ぶ講義とディスカッションを通し、創価教育に関する知見を深め、創立者講演に引用された古典を研鑽することにより、創立者の思想に関する学問的考察を深めることを目指す。あわせて、世界市民たる人間的素養に関し深く考察し、グローバルリーダーとして求められる能力を身につけることを目指す。	
			GCPチュートリアルⅣ		GCPチュートリアルⅢに引き続き、GCP4セメスターにあたる本チュートリアルは、グローバルシティズンシッププログラム（GCP）が提供する課題を徹底的に学び、学問的基礎力を身につけるための自己管理能力を養うことを目指す。 GCPが提供する英語授業、プログラムゼミの課題を学び、ならびに所属学部の学問的基礎力を身につけるための自己管理能力を養うことを目指す。とりわけ、GCP授業と学部授業の両立、将来の目標設定と目標を達成するために相応しい学習・生活環境の確立に向け、担当教員によるクラス指導ならびに個別指導を提供する。また、創立者の講演を学ぶ講義とディスカッションを通し、創価教育に関する知見を深め、創立者講演に引用された古典を研鑽することにより、創立者の思想に関する学問的考察を深めることを目指す。あわせて、世界市民たる人間的素養に関し深く考察し、グローバルリーダーとして求められる能力を身につけることを目指す。	
全学共通科目（続き）	言語科目	英語	English Ⅰ		本科目では、英語のスピーキング、ライティング、リーディング、リスニングの4技能を伸ばしながら、コミュニケーション能力の向上に重点を置く。開講前にプレイスメントテストを実施し、そのスコアに基づいて履修者を4つのレベルに分ける。基礎レベルでは、4技能の育成に焦点を当て、特に文法の復習と確認を重視しながら、英語学習法も習得する。初級と中級レベルでは、基礎的なコミュニケーション能力の向上を目指し、中上級レベルでは、より学術的な英語運用に必要なスキルを養成する。各レベルでは、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のCan-doステイトメントに基づく4技能の到達目標を設定し、教室内活動もCEFRの目標達成を目指して行われる。本科目は、1年生の春学期に週2回の集中講義として提供される。	
			English Ⅱ		本科目は、English Iに続き、英語のスピーキング、ライティング、リーディング、リスニングの4技能を伸ばしながら、コミュニケーション能力の向上に重点を置く。履修者はEnglish Iでのレベルに応じたEnglish IIを履修する。各レベルの内容は、English Iの学習を踏襲する。基礎レベルでは、4技能の育成に焦点を当て、特に文法の復習と確認を重視しながら、英語学習法も習得する。初級と中級レベルでは、基礎的なコミュニケーション能力の向上を目指し、中上級レベルでは、より学術的な英語運用に必要なスキルを養成する。各レベルでは、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のCan-doステイトメントに基づいた4技能の到達目標が設定され、教室内活動もCEFRの目標達成を目指して行われる。ただし、English Iよりも一段上のレベルを目指すことに重点を置く。本科目は、1年生の秋学期に週2回の集中講義として提供される。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			English Ⅲ		本科目では、英語のスピーキングとライティング技能を伸ばしながら、学習スキルと自律性の習得、そしてコミュニケーション能力の向上を目指す。履修者は、1年次に取得した最も高いTOEICスコアに基づいて4つのレベルに分けられる。基礎レベルでは、学習スキルや自律性の習得に重点を置き、初級および中級レベルではコミュニケーション能力の向上を図る。最も高いレベルでは、履修者の専攻分野に関連した、より学術的な英語運用能力を育成する。各レベルでは、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のCan-doステイトメントに基づいた4技能の到達目標が設定され、教室内活動もCEFRの目標達成を目指して行われる。English IIIは、2年生の春学期に週1回の科目として提供される。	
			English Ⅳ		本科目では、引き続き英語のスピーキングとライティング技能を伸ばしながら、学習スキルと自律性の習得、そしてコミュニケーション能力の向上を目指す。履修者は、原則English IIIと同じレベルに分けられる。基礎レベルでは、学習スキルや自律性の習得に重点を置き、初級および中級レベルではコミュニケーション能力の向上を図る。最も高いレベルでは、履修者の専攻分野に関連した、より学術的な英語運用能力を育成する。各レベルでは、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のCan-doステイトメントに基づいた4技能の到達目標が設定され、教室内活動もCEFRの目標達成を目指して行われる。ただし、English IIIよりも一段上のレベルを目指すことに重点を置く。English Ⅳは、2年生の秋学期に週1回の科目として提供される。	
			Test Preparation TOEFL Ⅰ		TOEFL対策のための科目である。TOEFL iBTの受験準備のため、実践練習を通じてリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの４能力の増強につとめ、あわせて時間配分などのテスト受験方略を習得する。本科目では、スピーキングとライティングについては、独立型問題に焦点をあてる。TOEFL iBTの4セクションの形式に精通し、高得点を上げるスキルに加え、海外大学や大学院へ留学したり進学したりすることを想定し、英語で行われる授業にうまく参加する能力全体を向上させる。それには批判的思考力（異なる情報を比較、分類したり、得られた手掛かりから結果を予測したりする能力を培う）、ノートテイキング、自律性などを含む総合的な学習スキルの獲得が含まれる。	
			Test Preparation TOEFL Ⅱ		Test Preparation TOEFL Ⅰと同様にTOEFL対策のための科目である。TOEFL iBTの受験準備のため、実践練習を通じてリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの４能力の増強につとめ、時間配分などのテスト受験方略を習得する。本科目では、スピーキングとライティングについては、統合型問題に焦点をあてる。また、TOEFL iBTの4セクションの形式に精通し、高得点を上げるスキルに加え、海外大学や大学院へ留学したり進学したりすることを想定し、英語で行われる授業にうまく参加する能力全体を向上させる。それには批判的思考力（よりマクロなレベルで、異なるリソースから得られた情報を統合する能力を培う）、ノートテイキング、自律性などを含む総合的な学習スキルの獲得が含まれる。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	英語（続き）	Test Preparation TOEIC Ⅰ		TOEIC対策のための科目である。履修者は年度開始時の、或いは過去獲得した最高点のTOEICスコアを基準に中級または中上級レベルに分かれる。TOEICの7セクションの形式に精通し、実践練習を通し、TOEICのスコア向上に努める。授業の内外で、語彙力の増強を図り、eラーニング教材を補助として用いより多くの問題を解く。合わせて時間配分などのテスト受験方略を習得する。学生はテストにおいて高得点を上げるためだけでなく、将来英語を活かした職業に就くことも念頭におき、批判的思考力を含めた総合的な学習スキルや言語スキルを身につける。	
			Test Preparation TOEIC Ⅱ		Test Preparation TOEIC Ⅰと同様にTOEIC対策のための科目である。Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。履修者は年度開始時の、或いは過去獲得した最高点のTOEICスコアを基準に中級または中上級レベルに分かれる。TOEICの7セクションの形式に精通し、実践練習を通し、TOEICのスコア向上に努める。授業の内外で、語彙力の増強を図り、eラーニング教材を補助として用いより多くの問題を解く。合わせて時間配分などのテスト受験方略を習得する。学生はテストにおいて高得点を上げるためだけでなく、将来英語を活かした職業に就くことも念頭におき、批判的思考力を含めた総合的な学習スキルや言語スキルを身につける。Test Preparation TOEIC Ⅱの履修者は年度末に行われる学内TOEIC-IP試験の受験が奨励される。そこにおいて過去最高得点を得ることを最大の目標とする。	
			English for Study Abroad Ⅰ		英語圏の大学留学或いは将来大学院進学を目指す学生のための科目である。欧米等で英語だけで行われる大学レベルの授業に不自由なく参加するための力を養成することを目的する。習得を目指すアカデミックスキルには、プレゼンテーション、グループディスカッションなどのスピーキングスキルに加え、目的に応じたライティングのフォーマットの選択や効果的な段落の書き方などのライティングスキルがある。同時に、本科目の履修者は計画を立てたり、自分に合う勉強法を見つけたりする自律性を発揮することが求められる。合わせて、自身の留学のビジョンを描くことが推奨される。英語圏への留学に必要な英語能力試験対策を目的とするTOEFL Preparation for Study Abroad Ⅰを合わせて履修するのが望ましい。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			English for Study Abroad Ⅱ		英語圏の大学留学或いは将来大学院進学を目指す学生のための科目である。欧米等で英語だけで行われる大学レベルの授業に不自由なく参加するための力を養成することを目的する。Academic Skills for Study Abroad Iと同様に、アカデミックスキルの育成を目的とするが、本科目においては、エッセイの執筆など、より学術的な文章を書く能力の育成に焦点を当てる。引き続き、本科目の履修者は計画を立てたり、自分に合う勉強法を見つけたりする自律性を発揮することが求められる。合わせて、自身の留学のビジョンを描くことが推奨される。英語圏への留学に必要な英語能力試験対策を目的とするTOEFL Preparation for Study Abroad IIを合わせて履修するのが望ましい。	
			TOEFL Preparation for Study Abroad Ⅰ		本科目は、英語圏の大学留学や将来大学院進学を目指す学生を対象としている。主な目標は、英語能力試験であるTOEFL-iBTのスコアを向上させ、英語圏の大学に留学するために必要なスコアを達成することである。授業では、TOEFL-iBTの全セクション（スピーキング、ライティング、リーディング、リスニング）における形式や出題傾向に精通し、各セクションで目標スコアに近づくための方略を学ぶ。また、この科目は試験対策に留まらず、学生同士の協同学習を通して、英語の4技能（スピーキング、ライティング、リーディング、リスニング）を総合的に強化し、英語での批判的思考力を育成することにも重点を置く。これらの取り組みにより、学生がスコア向上に対する自信を深め、英語圏での学習に必要な基盤を築くことが期待される。	
			TOEFL Preparation for Study Abroad Ⅱ		本科目は、英語圏の大学留学や大学院進学を強く志す学生を対象としている。主な目標は、TOEFL-iBTのスコアを向上させ、英語圏の高等教育機関に進学するために求められるスコアを確実に達成することである。授業では、TOEFL-iBTの全セクション（スピーキング、ライティング、リーディング、リスニング）の形式と出題傾向を深く理解し、各セクションで高得点を狙うための高度な方略とスキルを習得する。また、試験対策を超えて、協同学習を通して英語の4技能を総合的に強化し、批判的思考力や分析力を英語で発揮できるようにすることにも注力する。これらの取り組みにより、学生はTOEFL-iBTスコアの向上に自信を持ち、英語圏への留学に必要な確固たる基盤を築くことが期待される。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	英語（続き）	English Summer intensive		本科目は、夏季集中授業として開講し、TOEIC対策とコミュニケーション能力の向上を目的とする。TOEIC対策では、テストの形式や出題傾向を把握し、効果的な受験方略を身につける。教科書『TOEIC Skills 1』の第1課から第5課までを学習し、学生は授業内外で問題演習を行う。授業内では、グループディスカッションを通して相互に振り返りを行い、間違いの訂正を行うことで理解を深める。また、TOEICスコアの向上を目指し単語学習も合わせて行う。各授業の最後に理解度を確認するための小テストを実施する。コミュニケーションクラスでは、日常会話の表現をパターンで学ぶ。さらに、ロールプレイを効果的に行うために必要な言語的および非言語的な知識を習得し、与えられた場面にふさわしい会話が自然にできるまで練習する。最終的に、指定されたテーマに基づいてロールプレイを行い、評価する。	
			TOEFL iBT Summer intensive		本授業は、夏季集中授業として開講する。リーディング、リスニングともに苦手な設問を把握し、その対処法を学ぶ。スピーキング、ライティングは統合型、単独型ともにテンプレートを学び、状況に応じて内容を変更できるようになる。効果的なノートの取り方、頻出単語の修得する。 本授業の履修者はTOEF iBTテスト初学者を対象とし、設問の解答と解説を中心に授業を進めていく。リーディング、リスニングは、質問パターンの解説と対策法を紹介する。スピーキング、ライティングは導入として、講座の最初にテンプレートを紹介するが、最終的には問題に応じて適切にテンプレートの内容を変えられる柔軟性を身につけていく。その他、効果的なノートの取り方や頻出単語のテストが扱われる。なお、授業は全て反転型アクティブラーニングを通して進める。	
			IELTS Summer Intensive		本科目は、夏季集中講座として開講する。IELTSテストの全体像を把握し、その対策方法を習得する。合わせて、IELTSに必要な語彙知識の増強、リーディング・リスニングの理解力、スピーキングとライティングの正確さと流暢さを高める。IELTSにおける4セクションすべてに対応する学習方略について、演習問題や模擬テストを通して学習する。特にスピーキングについては、通常の授業ではフィードバックを受けることが難しいため、様々な教材を利用しながら、重点的に学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			English Winter intensive		本科目は、冬季集中授業として開講し、TOEIC対策とコミュニケーション能力の向上を目的とする。TOEIC対策では、試験の形式や出題傾向を把握し、効果的な受験戦略を身につける。使用教材は『TOEIC Skills 1』で、第6課から第10課までを学習し、授業内外で問題演習を行う。授業内では、グループディスカッションを通して互いに振り返りを行い、間違いを訂正することで理解を深める。また、TOEICスコア向上のための単語学習も併せて合わせて行う。各授業の最後には理解度確認のための小テストを実施する。コミュニケーションの授業では、日常会話の表現をパターンで学習し、ロールプレイを効果的に行うために必要な言語的および非言語的なスキルを習得する。与えられた場面にふさわしい会話が自然に行えるようになるまで繰り返し練習し、最終的には指定されたテーマに基づいてロールプレイを行い、その成果を評価する。	
			TOEFL iBT Winter intensive		本授業は、冬季集中授業として開講する。リーディング、リスニングともに苦手な設問を把握し、その対処法を学ぶ。スピーキング、ライティングは統合型、単独型ともにテンプレートを学び、状況に応じて内容を変更できるようになる。効果的なノートの取り方、頻出単語の修得する。 本授業の履修者はTOEF iBTテスト初学者を対象とし、設問の解答と解説を中心に授業を進めていく。リーディング、リスニングは、質問パターンの解説と対策法を紹介する。スピーキング、ライティングは導入として、講座の最初にテンプレートを紹介するが、最終的には問題に応じて適切にテンプレートの内容を変えられる柔軟性を身につけていく。その他、効果的なノートの取り方や頻出単語のテストが扱われる。なお、授業は全て反転型アクティブラーニングを通して進める。	
			IELTS Winter Intensive		本科目は、冬季集中講座として開講する。IELTSテストの全体像を把握し、その対策方法を習得する。合わせて、IELTSに必要な語彙知識の増強、リーディング・リスニングの理解力、スピーキングとライティングの正確さと流暢さを高める。IELTSにおける4セクションすべてに対応する学習方略について、演習問題や模擬テストを通して学習する。特にスピーキングについては、通常の授業ではフィードバックを受けることが難しいため、様々な教材を利用しながら、重点的に学ぶ。	
			EAP for Global Citizenship Ⅰ		グローバル・シティズンシップ・プログラム参加学生用の科目である。授業は英語のみで行われ、欧米型のスタイルで進められる。国際標準の学術英語使用のための準備クラスである。リーディング、ライティング、リスニング力の訓練にくわえ、ノート・テーキングも学ぶ。あわせてクリティカル・シンキングの手法にもとづき、プレゼンテーションおよびディスカッションの技法を訓練する。またタイム・マネージメントや欧米大学の授業を受講するための方略も学ぶ。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	英語（続き）	EAP for Global Citizenship Ⅱ		Ⅰに引き続いてグローバル・シティズンシップ・プログラム参加学生が履修する科目である。授業は英語のみで行われ、欧米型のスタイルで進められる。国際標準の学術英語使用のための準備クラスである。リーディング、ライティング、リスニング力の訓練に加え、ノート・テーキングも学ぶ。あわせてクリティカル・シンキングの手法にもとづき、プレゼンテーションおよびディスカッションの技法を訓練する。またタイム・マネージメントや欧米大学の授業を受講するための方略も学ぶ。	
			EAP for Global Citizenship Ⅲ		Ⅰ・Ⅱに引き続いてグローバル・シティズンシップ・プログラム参加学生が履修する科目である。１年目のⅠ・Ⅱで培った基本的な力に加え、リーディング、リスニングなどのテキストもよりチャレンジングなものとなる。表現や、内容もより高度なものとなり、学生は学部レベルの様々な分野のトピックに関し、各専門分野の学術的作法に則って、理解し、考察していくことを訓練する。本授業の全体的な目標は、学生が学術研究分野や海外大学の大学院でグローバルに活躍するために必要な英語スキルを身に付けることに重点が置かれている。	
			EAP for Global Citizenship Ⅳ		Ⅲに引き続いてグローバル・シティズンシップ・プログラム参加学生が履修する科目である。１年目のⅠ・Ⅱで培った基本的な力に加え、リーディング、リスニングなどのテキストもよりチャレンジングなものとなる。表現や、内容もより高度なものとなり、学生は学部レベルの様々な分野のトピックに関し、各専門分野の学術的作法に則って、理解し、考察していくことを訓練する。本授業の全体的な目標は、学生が学術研究分野や海外大学の大学院でグローバルに活躍するために必要な英語スキルを身に付けることに重点が置かれている。	
			Academic Foundations for Global Citizenship Ⅰ		グローバル・シティズンシップ・プログラム参加学生用の科目である。授業は英語のみで行われ、欧米型のスタイルで進められる。この科目の目的は英語圏の学術的な科目を受講するための知識・技術・方略を養成することにある。加えて自立学習に必要な包括的知識と方略も学ぶ。具体的には語彙と文法の理解と使用、授業内コミュニケーションの技術、学術技能の基礎を身につける。Ⅰにおいては自立学習の一般的なスキル、コミュニケーションスキル、英語のみの授業環境に必要な一般的スキルに重点を置く。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			Academic Foundations for Global Citizenship Ⅱ		グローバル・シティズンシップ・プログラム参加学生用の科目である。授業は英語のみで行われ、欧米型のスタイルで進められる。この科目の目的は英語圏の学術的な科目を受講するための知識・技術・方略を養成することにある。加えて自立学習に必要な包括的知識と方略も学ぶ。具体的には語彙と文法の理解と使用、授業内コミュニケーションの技術、学術技能の基礎を身につける。Ⅱにおいては TOEFL-iBT 受験準備に重点を置く。	
			Academic Foundations for Global Citizenship Ⅲ		グローバル・シティズンシップ・プログラム参加学生用の科目である。授業は英語のみで行われ、欧米型のスタイルで進められる。この科目の目的は英語圏の学術的な科目を受講するための知識・技術・方略を養成することにある。加えて自立学習に必要な包括的知識と方略も学ぶ。具体的には語彙と文法の理解と使用、授業内コミュニケーションの技術、学術技能の基礎を身につける。ⅢにおいてはⅠ・Ⅱの成果を踏まえ、本格的に欧米型の授業参加の準備を行う。あわせてTOEFL-iBT受験で必要とされるライティング技術の向上を図る。	
			Academic Foundations for Global Citizenship Ⅳ		Ⅲの授業内容を踏まえ、グローバル・シティズンシップ・プログラム参加学生用の科目である。授業は英語のみで行われ、欧米型のスタイルで進められる。この科目の目的は英語圏の学術的な科目を受講するための知識・技術・方略を養成することにある。加えて自立学習に必要な包括的知識と方略も学ぶ。具体的には語彙と文法の理解と使用、授業内コミュニケーションの技術、学術技能の基礎を身につける。Ⅳにおいては Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの成果を踏まえ、本格的に欧米型の授業参加の準備を行う。あわせてTOEFL-iBT受験で必要とされるライティング技術の向上を図る。	
		第２外国語	ドイツ語Ⅰ		ドイツ語の初歩を学ぶ。週2回の集中科目である。発音を含めた基礎的な文法、基礎的な語彙、４能力にわたる基礎的な表現の理解と修得をめざす。簡単な挨拶からはじめて、日常的なテーマについて様々なトピックを扱う。とくに語彙や文法については授業外学習を重視する。このほかにWLCプログラムを使って課外の練習をすることを推奨する。選択必修の第2外国語科目群のひとつである。ＥＵが定めたＡ１からＣ２の６段階にわけられた共通評価基準で、初歩であるＡ１の半分近くを終えることを目標とする。日本のドイツ語技能検定試験（通称独検）では、ほぼ５級レベルに到達する。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第２外国語（続き）	ドイツ語Ⅱ		ドイツ語Iに続いてドイツ語の初歩を学ぶ。週2回の集中科目である。正確な発音を固めつつ、引き続き基礎的な文法、基礎的な語彙、４能力にわたる基礎的な表現の理解と修得をめざす。日常的なテーマについて様々なトピックを扱いつつ、表現力・理解力を増していく。とくに語彙や文法については授業外学習を重視する。このほかにWLCプログラムを使って課外の練習をすることを推奨する。選択必修の第2外国語科目群のひとつである。	
			ドイツ語Ⅲ		ドイツ語Ⅰ・Ⅱに続いて、初歩の続きを学ぶ。週１回の科目である。基礎的な学習の成果を前提として、さらに発展的な語彙、多少高度な文法、少し複雑な文型について４技能にわたる表現力と理解力の養成を目指す。とくに語彙や文法については授業外学習を重視する。このほかにWLCプログラムを使って課外の練習をすることを推奨する。Ⅲ～Ⅵは選択科目である。Ⅲ・Ⅳを合わせて履修すると、ＥＵが定めたＡ１からＣ２の６段階にわけられた共通評価基準で、初歩のＡ２／１を終えたことになる。日本のドイツ語技能検定試験（通称独検）では４～３級レベルに到達する。	
			ドイツ語Ⅳ		ドイツ語Ⅲに続いて、初歩の続きを学ぶ。週１回の科目である。 基礎的な学習の成果を前提として、さらに発展的な語彙、多少高度な文法、少し複雑な文型について４技能にわたる表現力と理解力の養成を目指す。とくに語彙や文法については授業外学習を重視する。このほかにWLCプログラムを使って課外の練習をすることを推奨する。Ⅲ～Ⅵは選択科目である。Ⅲ・Ⅳを合わせて履修すると、ＥＵが定めたＡ１からＣ２の６段階にわけられた共通評価基準で、初歩のＡ２／１を終えたことになる。日本のドイツ語技能検定試験（通称独検）では４～３級レベルに到達する。	
			ドイツ語Ⅴ		ドイツ語の既習者を対象に、さらに高度なドイツ語力の養成を目指す。さらに発展的な文法を理解できるようになると同時に、読解力・作文力の養成にも取り組む。またドイツ語の発展的な表現や聴解も学んでいく。 外国語学習のための「ヨーロッパ共通参照枠」に定められたA2段階の4分の1程度のレベルに到達することを目指す。聴解、読解、文字表現、口頭表現の4能力については、テキストに記載された Can-Do-List 到達を目指す。文法では、現在完了、過去形、接続法第二式、造語法、順接などを習得する。　発音、アクセント、イントネーションを正確にマスターすることを目指す。語彙については、ほぼ 1000 語程度の基礎的な単語を習得し、2000 語程度を理解できるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			ドイツ語Ⅵ		ドイツ語Ⅴに続き、ドイツ語の既習者を対象に、さらに高度なドイツ語力の養成を目指す。さらに発展的な文法を理解できるようになると同時に、読解力・作文力の養成にも取り組む。またドイツ語の発展的な表現や聴解も学んでいく。 外国語学習のための「ヨーロッパ共通参照枠」に定められたA2段階の4分の1程度のレベルに到達することを目指す。聴解、読解、文字表現、口頭表現の4能力については、テキストに記載された Can-Do-List 到達を目指す。文法では、現在完了、過去形、接続法第二式、造語法、順接などを習得する。 発音、アクセント、イントネーションを正確にマスターすることを目指す。語彙については、ほぼ 1000 語程度の基礎的な単語を習得し、2000 語程度を理解できるようになることを目指す。	
			フランス語Ⅰ		フランス語の初級文法の知識修得と並行して簡単な仏文の読解力を養う。フランス語Iは、 外国語学習のための「ヨーロッパ共通参照枠」に定められた「A1」レベルの表現能力を身につけ、また、文化・社会的背景を理解しながら、主体的に表現する能力を鍛え、コミュニケーション力を高めることを目的としている。この授業では、アルファベットの発音練習から、実用的な会話に必要な文法と表現を着実に学ぶ。ペア・グループワーク、スキットづくりを通じて、学生同士のコミュニケーションを重視した練習を取り入れるほか、フランス語圏文化についても学ぶ。フランス語を楽しく学び、そして日常会話が出来るようになりたい学生を対象にしている。	
			フランス語Ⅱ		春学期のⅠに続きフランス語の初級文法の知識修得と並行して簡単な仏文の読解力を養う。フランス語Iは、 外国語学習のための「ヨーロッパ共通参照枠」に定められた「A1」レベルの表現能力を身につけ、また、文化・社会的背景を理解しながら、主体的に表現する能力を鍛え、コミュニケーション力を高めることを目的としている。この授業では、アルファベットの発音練習から、実用的な会話に必要な文法と表現を着実に学ぶ。ペア・グループワーク、スキットづくりを通じて、学生同士のコミュニケーションを重視した練習を取り入れるほか、フランス語圏文化についても学ぶ。フランス語を楽しく学び、そして日常会話が出来るようになりたい学生を対象にしている。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第２外国語（続き）	フランス語Ⅲ		初級レベルのフランス語（フランス語Ⅰ・Ⅱ）をすでに学習した学生を対象とする授業である。この授業では、極力フランス語で授業を行う。そのため、会話と質問、読解と質問などは全てフランス語表記になっており、学生も授業中はでき得る限り、フランス語を使用してもらう。また、フランスと日本の文化的相違などにも話題を拡げていく。到達目標は、「実践的に話せること」「欧州基準枠のA2。DELF(フランス語学力資格試験のレベル。(フランス国民教育省の公式フランス語資格）」	
			フランス語Ⅳ		フランス語Ⅲで学習できなかった初級文法を最初に学習し、その後、読解、会話、練習などをフランス語を使用しながら、さらなるフランス語力を伸ばしていく。フランス語Ⅲより、少し文法などが難しい文を読み、その内容などについてでき得る限り、フランス語での質疑応答の形で進めていく。また、フランスと日本を比較しながら、受講生から積極的に発言をしてもらい、文化的な相違などについても議論していく。到達目標は、「話せること／読解力／自己紹介、友人の紹介が出来る事／好きな事嫌いな事が言えること。ネーティブがゆっくり話せば基本的な初歩的フランス語がわかること、使えること。」「欧州基準枠のA1-A2。DELF(フランス語学力資格試験のレベル。(フランス国民教育省の公式フランス語資格）」	
			フランス語Ⅴ		初級レベルを完全に学習した学生に対して行う欧州基準のＡ２レベルをしっかりと身につけることを目標とする。さらに、長めの文を読み、内容の把握、要点整理、フランス語による疑問に対してフランス語で的確に答えられるレベルを目標としていく。併せて、実践的に話せること／読解力／自己紹介、友人の紹介が出来る事／好きな事嫌いな事が言えることやネーティブがゆっくり話せば基本的な初歩的フランス語がわかること、使えることを目指す。	
			フランス語Ⅵ		フランス語Ⅴに続き初級レベルを完全に学習した学生に対して行う欧州基準のＡ２レベルをしっかりと身につけることを目標とする。さらに、長めの文を読み、内容の把握、要点整理、フランス語による疑問に対してフランス語で的確に答えられるレベルを目標としていく。併せて、実践的に話せること／読解力／自己紹介、友人の紹介が出来る事／好きな事嫌いな事が言えることやネーティブがゆっくり話せば基本的な初歩的フランス語がわかること、使えることを目指す。	
			中国語Ⅰ		本科目は、中国語の入門科目である。授業では、中国語の簡単な単語とフレーズを理解、使用することができるレベルを目指す。発音に関しては、声調、母音、子音など中国語ピンインの正しい発音を身につけるために繰り返し練習する。400語程度の基礎常用中国語を学び、初級中国語文法の前半部分の基礎的な文法事項を学ぶ。定形的な挨拶や表現を覚え、適切な場面で使えるようにする。発音については、授業外での練習を求める。授業内小テストを通じて学習の定着を図る。 修了時に、HSK２級または中国語検定試験準４級レベルに到達することを目標にする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			中国語Ⅱ		本科目は、中国語の初級レベルの科目である。中国語を用いた簡単な日常会話を理解することができ、簡単な定型的表現を、様々な場面で使う練習を行う。800語程度の基礎的常用中国語を理解し、初級中国語文法を一通り学び終える。それによって、短い文章を理解し、書くことができるようになる。発音の練習については、授業外での練習を求める。授業内小テストやドリル学習で中国語の定着を図る。修了時に、HSK２級または中国語検定試験４級レベルに到達することを目標にする。	
			中国語Ⅲ		本科目は、中国語IとIIの履修を終えた者を対象として、中級前半レベルの文法事項を理解し、「読む」、「書く」の基本技能を身につけることを目標とする。1200語程度の基礎的常用中国語が文章表現の中で理解できるようになる。文章理解の必要に応じて、総合的に文法を学ぶ。生活、学習、仕事などの場面で話題になる具体的な事柄を中国語で理解し、簡単な文章で自身の意見を伝えることができるようになる。授業内で実施する小テストで、新出単語と文法に関する知識の定着を図る。修了時には、HSK２級または中国語検定試験４級レベルに合格できることを目標にする。	
			中国語Ⅳ		本科目は、中国語Ⅲの履修を終えた者を対象として、中級前半レベルの文法を理解し、「聞く」、「話す」の基本技能を身につけることを目標とする。1600語程度の常用中国語を使用した表現を聞き取り、理解できるようになる。必要に応じて、総合的に文法を学ぶ。生活、学習、仕事などの場面で話題になる具体的な事柄を中国語で理解し、簡単な文型を使った表現で、自身の意見を伝えることができるようになる。中国北京大学のテキストを参照しながら授業を行い、中国関連の最新の話題を取り入れ、会話を重点的に行い、授業を進める。随時、授業内試験を実施する。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第２外国語（続き）	中国語Ⅴ		本科目は、中国語Ⅲ・Ⅳの履修を終えた者を対象として、文法の理解と、「読む」「書く」能力において、中級後半レベルへの到達を目標とする。2000語程度の常用中国語を文章表現の中で理解できるようになる。文章理解の必要に応じて、総合的に文法を学ぶ。生活、学習、仕事などの場面で話題になる具体的な事柄だけでなく、ある程度抽象的な話題についても、その中国語での説明を理解し、少し長い文章で自身の意見を伝えることができるようになる。授業内で実施する小テストで、新出単語と文法に関する知識の定着を図る。修了時にHSK３級または中国語検定試験3級の「読む」「書く」能力に到達することを目指す。	
			中国語Ⅵ		本科目は、中国語Ⅴを履修した者を対象として、中級後半レベルの文法を理解し、「聞く」、「話す」の基本技能を高めることを主眼にする。2500語程度の基礎的常用中国語を使用した表現を聞き取り、理解できるようになる。必要に応じて、総合的に文法を学ぶ。生活、学習、仕事、旅行などの場面で、話題を限定せずに、相手の話を理解し、基本的なコミュニケーションをとれるようになる。中国北京大学のテキストを参照しながら授業を行い、中国関連の最新話題を取り入れ、会話を重点的に行いながら授業を進める。随時、授業内試験を実施する。修了時には、HSK３級または中国語検定試験3級に合格することを目標にする。	
			中国語コミュニケーション演習初級Ⅰ		本講義では、基本中の基本である中国語の発音と声調を正しく理解し、それを正確に読み書きできるよう練習を行う。授業は学習者を中心とした形式で進め、発音の習得に加え、語彙を把握しながら基礎文法を学び、簡単な挨拶から会話へと展開する。本講義は初心者を対象としており、中国語の基礎を築くとともに、今後の学習に必要な知識や技能を習得し、中国に対する関心を深めることを目的としている。また、HSKなどの検定試験を視野に入れた内容を取り扱う。	
			中国語コミュニケーション演習初級Ⅱ		本講義は、春学期に中国語の講義を受講した方を対象としている。「Ⅰ」に引き続き、中国語の基本である発音と声調を正確に読み書きできるよう、熟練度を高める練習を行う。授業では、学習者主体の能動的な授業を進め、発音の確実な習得とともに語彙を増やし、基礎文法の土台をさらに強化しながら、会話へと発展させていく。中国語でのコミュニケーション練習の中で、特にリスニング力が重要となる。「Ⅱ」では「Ⅰ」での学習成果を土台に、受講者と協力しながら、中国語の使用割合を高めた授業へと移行する。また、教科書中心の学習から、コミュニケーション能力の向上を目指した実践的な学習へと移行する。学習を通じて中国語の基礎を固め、さらに応用力を養うことで、将来を見据えた語学力の向上を目指す。また、HSKなどの検定試験を視野に入れた内容も取り扱う。	
			中国語文法初級Ⅰ		本授業では、文法を中心に中国語の学習を進める。言語のルール、即ち文法を把握しながら学習したほうが、より効果的であると考える。ただし、文法のみにとらわれ過ぎると、言語本来の役割である伝達機能が、疎かになってしまうため、学習した文法を使った会話を同時に学習する。その際、アクティブラーニングを導入して、会話のやり取りも経験する。主に、「代名詞・名詞と“是”を用いる文」「動詞述語文、疑問代名詞と離合詞」「名詞述語文、数と時間に関する表現、量詞」などを取り扱っていいく。到達目標としては、「中国語の文を見ると、その文の構造や要素が読み取れ、なおかつその文型を使って、習った単語と組み合わせて、短文が作れるようになること」を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			中国語文法初級Ⅱ		本授業は、中国語文法初級Ⅰの学習内容を踏まえた文法を中心に学習する。Ⅰと同様、文法のみにとらわれ過ぎると、言語本来の役割である伝達機能が疎かになってしまうため、学習した文法を使った会話の練習も同時に行う。主に、「完了相」「経験相」「様態補語」「結果補語と数量補語」「方向補語」「可能補語」「比較表現」「兼語文と使役表現」「“把”構文、“是～的”の構文」「“被”構文（受身文）」「複文、関連詞」などの内容を取り扱っていく。到達目標としては、「中国語の文を見ると、その文の構造や要素が読み取れ、なおかつその文型を使って、習った単語と組み合わせて、短文ばかりでなく、複文も作ることができるようになること」を目指す。	
			中国語講読初級Ⅰ		本授業では、中国語の読解力を付けるために、教科書の内容を一回一課ずつを読み切りで学んでいく。語学力とともに、中国の都市（北京、上海等）、社会世相（一部の者が先に豊かになる、カード奴隷等）、歴史遺産（万里の長城、兵馬俑等）、歴史人物（孔子、屈原等）に関するトピックスを学ぶ。テーマに関連する映像資料なども活用して、中国を幅広く理解できるようにする。 本授業と予習・復習によって、基礎的な読解力をつけ、到達目標としては、中国語検定準4・4級、HSK3級の講読問題に合格できる語学力を身につけることを目指す。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第２外国語（続き）	中国語講読初級Ⅱ		本授業では、「中国語講読初級Ⅰ」を受講した学生或いは同等のレベルを有する学生を対象に、中国語の読解力を付けるために、教科書の内容を一回一課ずつを読み切りで学んでいく。語学力とともに、中国の成語（臥薪嘗胆、人間万事塞翁が馬等）、中日交流史（遣隋使と遣唐使、1972年中日国交正常化等）に関するトピックスを学ぶ。テーマに関連する映像資料なども活用して、中国を幅広く理解できるようにする。 本授業と予習・復習によって、基礎的な読解力をつけ、到達目標としてはHSK４級の講読問題に合格できる語学力を身につけること目指す。	
			中国語コミュニケーション演習初中級Ⅰ		一年目の学習を基礎に、特に正しい発音と声調の基礎訓練を重視し、日常会話の熟練度を高めながら授業を進める。中国語の話し言葉には、文法事項以外にも多くの特徴がある。授業を通じて、これらの特徴を観察・分析・学習する。また、言葉を通じて背景にある社会・文化・習慣・考え方などにも触れていく。授業では教材の内容を中心に、各ポイントについての応用練習にも重点を置く。会話練習では、ただ読むだけでなく、聞く・話す練習にも積極的に取り組む。ある程度慣れたところで、グループによるスキット作成や発表も行う。履修者と協力して、中国語がより学びやすい学習環境を作り出し、授業を進めていく。教室では常に中国語でコミュニケーションを取ることを目標とする。	
			中国語コミュニケーション演習初中級Ⅱ		「Ⅰ」に引き続き、特に正しい発音と声調の基礎訓練を重視し、日常会話の熟練度を高めながら授業を進めていく。中国語には多くの特徴的な表現がある。言葉を通して、背景にある社会・文化・習慣・考え方などにも触れながら、中国語らしさを追求していく。授業では教材の内容を中心に、実用性の高いポイントについての応用練習にも重点を置く。会話練習では、ただ読むだけでなく、テーマに基づいて聞く・話す練習も積極的に取り入れる。グループによるスキット作成や発表も積極的に行う。履修者の学習意欲を高め、身近で学びやすい中国語学習環境を実現しながら授業を進めていく。教室では、常に中国語でコミュニケーションを取ることを目標とする。	
			中国語文法初中級Ⅰ		本講義は、既に中国語の基礎文法を学習した経験がある履修者を対象としている。授業では、これまでに習った基礎文法を整理しつつ、「実用文法」をコンセプトに学習内容を拡充し、より深い理解を目指す。中国語の基礎文法の構造とその役割を把握できるようにすることを目標とする。文法事項については、豊富な実例を取り入れることで、中国語学習における文法の重要性を明確にし、履修者が文法に対して苦手意識を克服できるよう支援する。主な内容としては、中国語の全体構造を意識しながら、「さまざまな形容詞と区別詞」「形容詞述語文」「動詞述語文」「連動文Ⅰ・重ね型」「介詞」「よく使われる副詞」「能願動詞」などを取り扱う。また、HSKなどの語学検定試験に役立つ、実用性の高い授業を目指す。	
			中国語文法初中級Ⅱ		本講義は、既に中国語の基礎文法を学習した経験がある履修者を対象としている。「Ⅰ」の授業内容を踏まえ、これまでに習った基礎文法を整理しながら、文法項目のより深い部分に踏み込む。特に日本人学習者が難しく感じる側面に焦点を当て、豊富な実例を取り入れることで、中国語の文法構造とその役割を理解し、注意を払えるようにしていく。中国語学習において、初級から中級へのステップアップの鍵の一つとされる「補語」は、多くの学習者にとって難解な部分である。本授業では、主に「程度補語と様態補語」「結果補語」「方向補語」「方向補語の派生義」などを取り扱う。また、HSKなどの語学検定試験にも役立つ、実用性の高い授業を行っていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			中国語講読初中級Ⅰ		中国語講読初級Ⅰ・Ⅱを習得した学生或いは同等のレベルを有する学生のために、リーディングを中心に現代中国事情、特に中国人の暮らし向きを中心に学んでいく。中国北京語言大学で出版されている中国語中級講読テキスト「中国人的故事」（上）を使用して、「出租车司机」「寻找快乐的老人」「老高的风筝梦」「玩小轮车的年轻人」「北京最好的名片」等を扱う。中国の暮らし向きへの理解を深めるために、適宜映像資料や、副教材も取り入れる。授業時に中国語検定・ＨＳＫ対策等の練習問題をおこない、中国語講読力の向上も図っていく。到達目標としては、中国語検定試験３級、漢語水準試験（HSK４、５級）の講読（閲読）問題に合格するレベルを目指す。	
			中国語講読初中級Ⅱ		中国語講読初中級Ⅰを習得した学生或いは同等のレベルを有する学生のために、リーディングを中心に現代中国事情、特に中国人の暮らし向きを中心に学んでいく。中国北京語言大学で出版されている中国語中級講読テキスト「中国人的故事」（下）を使用して、「健身教练陈艳」「太极拳和瑜伽」「服装设计」「莎莎舞蹈工作坊」「复原历史的人」等を扱う。中国の暮らし向きへの理解を深めるために、適宜映像資料や、副教材も取り入れる。授業時に中国語検定・ＨＳＫ対策等の練習問題をおこない、中国語講読力の向上も図っていく。到達目標としては、中国語検定試験３級、漢語水準試験（HSK４、５級）の講読（閲読）問題に合格するレベルを目指す。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第２外国語（続き）	ロシア語Ⅰ		ロシア語の初修者を対象とする。ロシア語はヨーロッパでもっとも母語話者が多い言語であり、国連公用語のひとつでもある。またロシア連邦をはじめ、ウクライナやベラルーシ、カザフスタン、キルギスなど多くの国々で話されている言語である。ロシア語のアルファベット（キリル文字）の書き方・読み方・発音を学び、その後は基本的に教科書に沿って授業を進める。会話を重視した教科書を用いるため、文法に関しては適宜、補足しながら解説していく。日常会話で頻繁に使われる表現は文法説明のあと、必ず会話練習を行う。筆記体で書くことは必須ではないが、筆記体練習用プリントを配布し、何度か授業内で紹介する。映画や中心的都市の映像などを通して、ロシアやロシア人を身近に知る機会も設けていく。	
			ロシア語Ⅱ		この授業は、ロシア語Ⅰを春学期に履修した学生を対象とする授業であるが、全くの初心者、秋学期からでもロシア語を履修してみたいという学生も受け入れる。教材にある例文と文法の解説を行ない、練習問題を通じてロシア語を学習していく。ロシア語の読み・書く・話すの基本的な学習を、モノローグや、ダイアローグ、ディスカッションのやり方をまじえて学ぶ。また、ロシアをより深く知るために、ロシア映画の鑑賞やロシア人ゲストとの交流などもおこなう。	
			ロシア語Ⅲ		簡単なテキストから始めて、次第に関係代名詞や形動詞、副動詞等を多用したより複雑な構文を用い、かつ分量的にもより長いテキストへと進み、文法知識の復習と未修分の文法知識の学習、辞書の使い方の指導等を織り交ぜながら、初・中級程度の読解力の養成を図る。 また異文化への理解を深めるために、視聴覚教材による学習も取り入れる予定である。教材は、日常生活に即した実践的なテーマ（買い物、学校での会話、道の聞き方等）を取り上げていく。	
			ロシア語Ⅳ		ロシア語Ⅲに続き、簡単なテキストから始めて、次第に関係代名詞や形動詞、副動詞等を多用した複雑な構文を用い、かつ分量的にもより長いテキストへと進み、文法知識の復習と未修分の文法知識の学習、辞書の使い方の指導等を織り交ぜながら、初・中級程度の読解力の養成を図る。また異文化への理解を深めるために、視聴覚教材を多く取り入れ、読み、書き、聞く、話す力を総合的に伸ばしていきながら、ロシア語圏の文化的な特徴も学べる内容となっている。	
			ロシア語Ⅴ		ロシア語Ⅴは、ロシア語のリスニング力を特に鍛えたいと思っている学生に履修を推奨する。ロシア語のシャワーを浴びるという具合に、毎回ロシアの映画鑑賞を行ったり、ネイティブのスピーチを聞きながら、内容の理解に努め、教材を元にしたロールプレイを行ったりする。適宜シャドーイングや書き取り、翻訳等実践的トレーニングを通して文法、読み、書き、聞く、話す力を総合的に伸ばしていく。また、ロシア語検定試験に合格するための試験準備も行なっていく。	
			ロシア語Ⅵ		ロシア語Ⅵは、ロシア語を実際に話せるようになることを目標としている。モノローグや、ダイアローグ、ディスカッションなど、さまざまな練習方法があるが、天気や映画、スポーツ、演劇、日本やロシアのお国事情など、様々なトピックを通して、色々な表現方法を学んでいく。時事問題など複雑な話も時々取り入れて、日常会話だけでなく、自分の「意見」を述べる練習も行う。話す練習は何より環境が大事であり、授業は基本的にロシア語のみで行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			ロシア語コミュニケーション初級Ⅰ		あいさつに始まる初歩的な会話のコミュニケーションを学んでいくが、そこで必要となる文法事項は、「ロシア語I・II」、「ロシア語文法初級Ⅰ・Ⅱ」等で学ぶ事項をベースとするため、同授業の履修も推奨する。ただし、履修しない学生でも十分ついていける内容とする。単語などを記憶するには、文字だけでなくビジュアルなイメージや意味の関連づけが効果的なため、授業ではできるだけ多く視覚教材を使い、実生活に関連した具体的な場面設定（レストランでの食事、交通機関での移動等）をして学習していく。	
			ロシア語コミュニケーション初級Ⅱ		「ロシア語コミュニケーション初級Ⅰ」と同じく必要となる文法事項は、「ロシア語I・II」、「ロシア語文法初級Ⅰ・Ⅱ」で学ぶものをベースにするため、できれば「ロシア語I・II」、「ロシア語文法初級Ⅰ・Ⅱ」も合わせて履修することで、よりしっかりと基礎固めをすることができる。単語などを記憶するには、文字だけでなくビジュアルなイメージや意味の関連づけが効果的なため、授業ではできるだけ多くの視覚教材を使い、実生活に関連した具体的な場面設定（ショッピング、交通機関での移動等）をして学習していく。また、数字や単位の使い方等現地に行った時にすぐに使えるようなものを多く取り上げる。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第2外国語（続き）	ロシア語文法初級Ⅰ		初めてロシア語を学ぶ学生を対象とし、アルファベットから始め、基礎文法と基本単語を修得し、初歩的なコミュニケーション能力を養成する。1年間の学習（「ロシア語文法初級Ⅰ」「ロシア語文法初級II」）を通して、ロシア語が自由に音読できるようになること、約550語の単語力を身につけ、名詞、動詞、（形容詞、代名詞）の基本的な変化形をマスターすることを目指す。キリル文字の紹介後、教科書に沿って講義をする。語彙・会話文の発音、文法説明、本文の和訳・解説・発音、練習問題の順に進める予定。日常生活でよく使われる表現は、筆記・会話の練習を繰り返すことで、授業内での定着に努める。随時、発音やイントネーションの練習も行う。ロシア文化や社会のことなども紹介する予定で、多面的な文化理解も目指す。	
			ロシア語文法初級Ⅱ		「ロシア語文法初級I」の履修学生を対象とし、「Ⅰ」で学んだ文法事項と単語を定着させ、新たな文法事項と単語を習得し、更なるコミュニケーション能力を養成する。1年間の学習を通して、ロシア語が自由に音読できるようになること、約550語の単語力を身につけ、名詞、動詞、形容詞、代名詞の基本的な変化形をマスターすることを目指す。Ⅰと同様、教科書に沿って、語彙・会話文の発音、文法説明、本文の和訳・解説・発音、練習問題の順に進める。	
			ロシア語コミュニケーション中級Ⅰ		本授業では、日常会話や、人の外見、性格の説明、お店、職場、カフェ等でのやりとりを題材として、そうした表現を習得し、ロシアの伝統や祭りなどを知る機会を提供する。また、話す・書く・聞くすべての学習を行い、毎回ロシア語会話で必要な新しい表現を学ぶ。学習を通してロシアの諸都市や文化を知り、現代ロシアの生活を知り、自分の生活、国、文化、伝統についてもロシア語で話せるようになる。実践的に役立つような表現を取り上げて学習していく。	
			ロシア語コミュニケーション中級Ⅱ		本授業は、ロシア語とロシア文化の勉強を継続したい学生のためのコミュニケーション科目である。本授業の到達目標は、社会生活や家庭生活の領域でロシア語でコミュニケーションできるようになることである。具体的には、スピーチエチケット、個人的な説明、家事、ロシアの伝統と祝日、職場でのコミュニケーション、教育現場でのコミュニケーション、ショップ/カフェ/レストランでのコミュニケーションなど。あらゆる種類のスピーチ活動のトレーニングを提供していく。各レッスンには、日常のロシア語に必要な新しい表現が含まれている。	
			ロシア語文法中級Ⅰ		本科目では、ロシア語の初級～中級文法を丁寧に学習していく。すでにロシア語を学んだ人を対象に、既習の文法事項の定着を図るとともに、比較的複雑な文法事項を学習し、習得していく。同時に、練習問題を繰り返し解くことによって、名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞などの格変化を習得していく。初めてロシア語を学習する人も履修可能ではあるが、すでにロシア語を学んだ人を対象とした授業となるため、『ロシア語文法初級』の履修を推奨する。	
			ロシア語文法中級Ⅱ		本科目は、『ロシア語文法中級Ⅰ』の続きとなる。ロシア語の初級～中級文法を丁寧に学習していく。すでにロシア語を学んだ人を対象に、既習の文法事項の定着を図るとともに、比較的複雑な文法事項を学習し、習得していく。同時に、練習問題を繰り返し解くことによって、名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞などの格変化を習得する。初めてロシア語を学習する人も履修可能ではあるが、すでにロシア語を学んだ人を対象とした授業となるため、『ロシア語文法初級』の履修を推奨する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			ロシア語リーディング入門Ⅰ		本授業では、ロシア語学習者用に編集された短編小説を中心にロシア語で書かれたテクストの読解を行う。読解のプロセスを通して、具体的には①辞書（露和辞典）の使い方に習熟すること、②１年次に学んだ文法の知識を定着させて活用する力をつけるとともに、より高度な文法知識を習得すること、③語彙力をつけることを目指す。文法知識の面では、１年次でその輪郭を学んだロシア語文法の知識を、名詞・形容詞の格変化、関係代名詞の用法、動詞の体、副分詞・形容分詞を中心に補完的に学んでいく。語彙の面では、日常的コミュニケーションに必要な単語や表現の習得に力を入れる。最終的には、読解と練習問題を通して、アウトプットに必要となるロシア語の構造を体感的に習得することを目標とする。	
			ロシア語リーディング入門Ⅱ		本授業では、長編小説を含むロシアの文学作品、ロシア史を扱ったテクストを教材にして、より高度で精緻な読解力の習得を目指す。一見するとより複雑なテクストと向き合うことになるが、正しく読み、翻訳する方法を学ぶことで、文章を容易に理解することが可能になるため、その技術を学ぶ。具体的には、リーディング入門Ⅰに引き続き、①語彙・文法力を向上させること、②辞書を的確に使いこなして読解の精度を上げることを目指す。最終的には、語彙・文法知識の蓄積によってロシア語の感覚を習得し、ロシア語が生み出す世界観を原語で体感することを目標とする。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第２外国語（続き）	ロシア語ライティング入門Ⅰ		本授業では、日本語とロシア語の違いを理解して、ロシア語で基本的な文章を書けるようにするためのトレーニングを行う。そのために、ロシア語チャンネルを頭の中に作り、日本語とロシア語のスイッチングができるようになることを意識して学んでいく。到達目標としては、「ロシア語の基本的構造を理解し、意味に応じて正しい格変化を行い、簡単な文章をロシア語に訳せるようにすること」を目指していく。教材の内容としては、「ものの配置」を正確に表現できる練習問題、また、履歴書や大学案内などをサンプルの文章をもとに、自身で作成してみる等の課題が含まれている。	
			ロシア語ライティング入門Ⅱ		本授業では、ロシア語の基本文型をふまえて、日本語とロシア語の違いを意識しながら、基本的な文章を日本語からロシア語へ翻訳する技術を身につけていく。日露の言語の違いを意識するということは、ロシア人の思考回路を理解しようとすることであるため、無味乾燥な暗記ではなく、新たな思考チャンネルを自分の中に築いていくクリエイティブな作業として取り組んでいく。到達目標として、「言葉をおきかえるだけの直訳ではなく、ロシア語として自然な文章で日本語から訳せるようにすること」を目指していく。	
			ロシア語コミュニケーション上級Ⅰ		本授業では、ロシア語で社会生活や家庭生活の領域でコミュニケーションをとれることを念頭においた授業を構成する。具体的には、私の日常生活、私の自由時間、私の趣味、私の友人、ファッション、料理とそのレシピ、ロシアの伝統、休日とお土産、家族とのコミュニケーション、仕事と家族とのコミュニケーションなどの場面を想定する。また、ロシアの観光、自然、スポーツ、健康についても説明する。併せて、あらゆる種類のスピーチ活動のトレーニングを提供していく。各回の授業では、日常のロシア語に必要な新しい表現も含めていく。	
			ロシア語コミュニケーション上級Ⅱ		Ⅰで学習した内容を踏まえて、仕事や大学でのコミュニケーションなどの場面も想定した授業内容にする。また、日本とロシアの性格、気質、特徴の違い、環境問題、マスメディアなどのテーマも取り上げている。本授業では、あらゆる種類のスピーチ活動のトレーニングを提供していく。各回の授業では、日常のロシア語に必要な新しい表現も含めていく。発音やイントネーションなど基礎的なことも含めてより高度な円滑な会話コミュニケーション力を身につけられるように、実践的なトレーニングを行う。	
			ロシア語ライティング上級Ⅰ		これまで学習してきたロシア語文法や語彙力を基に、正確な翻訳法を身につけることを目的とする。日本語文法と全く異なったロシア語文法の特徴に注意を払いながら、日本語の表現を、正確で美しいロシア語の表現に直す練習を重ね、翻訳能力を向上させる。また、さまざまな文章を用いて、学生のロシア語による表現力の基礎となる語彙の数を増やし、よく使われる熟語や証言を身につける練習をする。文章は、一つの話にまとまっているので、その中でロシア語の文法で一番難しいとされている動詞の完了体と不完了体の使い分けを徹底的に学ぶことができる。さらに、生き生きとしたロシア語の表現を覚え、自分の解体日本語の文章をロシア語に直す練習を通じて、翻訳力を向上させる。間違いやすいところを徹底的に分析して、正しい文法や表現を身につける。毎週ペアワークとグループワークを行う。日露翻訳のモデルを分析して自分の翻訳を作成する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			ロシア語ライティング上級Ⅱ		Ⅰに続いてこれまで 学習してきたロシア語、文法や語彙力をもとに、さらにレベルアップした翻訳法を身に付けることを追求していく。身近な日常的なテーマを取り上げながら、日本語の表現を、正確で美しいロシア語の表現に直すトレーニングを行う。また、語彙力も量的なレベルアップを図っていく。さらに、生きたロシア語の表現をふんだんに取り上げて、運用を可能にしていく。また、日本語話者に多く見受けられる間違いがどこにあるのかを明らかにし、日本語とロシア語の切り替えが円滑にできるような練習を行う。	
			スペイン語Ⅰ		この授業は、初級スペイン語を学びたい学生を対象にしている。目標は、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のA1.1レベルに相当するスペイン語の基礎的なコミュニケーション能力を身につけ、スペインだけでなく、ラテンアメリカのスペイン語話者とも円滑にコミュニケーションが取れるようになることを目指す。最新のスペイン語教育のトレンドに従い、授業はできる限りスペイン語で行われ、スペイン語で書かれた教科書を使用する。 授業では、実用的な会話に必要な直説法現在形を中心に学習する文法や表現を学びながら、スペイン語圏全体の文化や社会的背景を理解することに重点を置いている。特に、ラテンアメリカ各国とスペイン地方の文化やスラングにも触れ、地域ごとの多様性を学びます。発音練習やペア・グループワークを通じて、学生同士が積極的にコミュニケーションを図り、実践的なスキルを習得する。スペイン語圏の多様な文化と親しみ、幅広いスペイン語話者とのコミュニケーションができるようになることを目指す。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第２外国語（続き）	スペイン語Ⅱ		スペイン語Ⅰを学習した学生を対象に、より高度なコミュニケーション能力を養うことを目的としている。CEFRのA1.2レベルに対応し、現在形に加えて点過去と線過去を用いた過去の出来事について話す能力を重点的に強化する。長めのライティングやスピーキング活動に集中的に取り組み、実践的なスキルを磨く。さらに、スペイン語圏の文化や社会的背景を深く理解するため、ラテンアメリカとスペインの両方に焦点を当てた内容を取り入れる。最新の教育トレンドに従い、授業はできる限りスペイン語で進められ、スペイン語で書かれた教科書を使用する。リスニングスキルの向上には、スペイン語の歌やビデオを活用し、実際の言語使用に触れる機会を提供する。学生が楽しみながら参加できる活動を通じて、日常生活や予定、趣味、過去の出来事についての会話スキルをさらに高める。スペイン語圏の多様な文化を体験し、ラテンアメリカやスペインの人々とのコミュニケーション能力を一層向上させることを目指す。	
			スペイン語Ⅲ		スペイン語Ⅲは、スペイン語Ⅰ・Ⅱを学習した学生を対象としたクラスである。本授業では、極力スペイン語で授業を行い、会話や質問、読解は全てスペイン語で行う。学生も授業中はできるだけスペイン語を使用することが求められる。授業では、実際のスペイン語資料（ボードゲームやオンラインゲーム、ニュースや書籍の抜粋）を頻繁に使用し、A1レベルの内容を基にしてA2レベルの導入を行う。また、スペイン語圏の文化と歴史を深く掘り下げるため、使用する教科書は全てスペイン語で書かれている。学生には、授業外でのスペイン語の映画視聴や読書を奨励し、スペイン語に関連するWLCの活動への積極的な参加も推奨する。このクラスの目標は、学生がスペイン語圏の国での留学に対応できるコミュニケーションレベルを達成するための準備をすることを目指す。	
			スペイン語Ⅳ		スペイン語Ⅳは、スペイン語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを学習した学生を対象としたクラスである。この授業では、極力スペイン語で授業を行い、会話や質問、読解は全てスペイン語で行う。学生も授業中はできるだけスペイン語を使用することが求められる。授業では、A2レベルの中級文法をさらに深め、実際のスペイン語資料を頻繁に使用する。アクティブ・ラーニングを通じて、短い書籍や映画の要約などのライティングとスピーキングのコンテンツを制作する能力を高める。また、スペイン語圏の文化と歴史に関する理解を深めるため、使用する教科書は全てスペイン語で書かれている。学生には、授業外でのスペイン語の映画視聴や読書を奨励し、スペイン語に関連するWLCの活動への積極的な参加も推奨する。このクラスの最終目標は、学生がスペイン語圏の国での留学に対応できるコミュニケーションレベルを達成するための準備をすることを目指す。	
			スペイン語Ⅴ		スペイン語Ⅴは、スペイン語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを学習した学生を対象としたクラスである。この授業では、極力スペイン語で授業を行い、会話や質問、読解は全てスペイン語で行う。学生も授業中はできるだけスペイン語を使用することが求められる。授業では、A2レベルの文法をさらに深め、語彙を増やすことで、A2レベルの知識をより一層進める。実際のスペイン語資料を頻繁に使用し、アクティブ・ラーニングを通じて、効果的なライティングやスピーキングのスキルを高める。スペイン語圏の文化と歴史に関する理解を深めるため、使用する教科書は全てスペイン語で書かれている。学生には、授業外でのスペイン語の映画視聴や読書を奨励し、スペイン語に関連するWLCの活動への積極的な参加も推奨する。このクラスの最終目標は、学生がより高度なコミュニケーション能力を身につけ、スペイン語圏の国での留学に対応できるレベルに到達することを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			スペイン語VI		スペイン語VIは、スペイン語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴを学習した学生や、スペイン語圏の国で2学期の留学を経験した学生を対象としたクラスである。この授業では、極力スペイン語で授業を行い、会話や質問、読解は全てスペイン語で行う。学生も授業中はできるだけスペイン語を使用することが求められる。授業では、A2レベルの文法をさらに深め、未来形を含むより広範な文法構造、語彙、コミュニケーション表現を学び、A2レベルを完全にマスターする。実際のスペイン語資料を頻繁に使用し、アクティブ・ラーニングを通じて、効果的なライティングやスピーキングのスキルを高める。スペイン語圏の文化と歴史に関する理解を深めるため、使用する教科書は全てスペイン語で書かれている。学生には、授業外でのスペイン語の映画視聴や読書を奨励し、スペイン語に関連するWLCの活動への積極的な参加も推奨する。このクラスの最終目標は、学生がスペイン語の総合的な運用能力を身につけ、スペイン語圏の国での留学や実践的なコミュニケーションに対応できるレベルに到達することを目指す。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第２外国語（続き）	イタリア語Ⅰ		日本人の若者にとってイタリアは、料理、芸術、世界遺産、そして音楽などを通じてとても身近である。イタリア語は、発音しやすくリズミカルで学びやすい言語である。この科目では、このような魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら、イタリア語の基礎を学び、日常会話の基本を学んでいく。会話のトピックスは、自分やクラスメイトの紹介、大学生の日常生活、食生活、平日と週末の過ごし方などを取り扱う。イタリア語Iは、『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）「A1」レベルの表現能力を身につけることを目標にする。	
			イタリア語Ⅱ		イタリア語Iに引き続き、イタリアの文化を理解しながら、イタリア語を楽しく学び、日常会話が出来るようになりたいと望む学生向けの科目である。実用的な会話をクラスメートと練習しながら着実に学んでいく。ペア・グループワーク、スキット作りなど、学生が楽しみながら参加できる練習をたくさん行う。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）「A1」レベルの表現能力を身につけることを目標にする。	
			イタリア語Ⅲ		イタリア語Ⅰ・Ⅱを修得した学生を中心に、更にイタリアの文化と社会を理解し、また、イタリア語を楽しく学び、理解し、そして日常会話が出来るようになりたいと望む学生を対象に、語学力（文法力、語彙力、読解力、聞き取り能力、プレゼンテーション能力、作文能力、コミュニケーションスキル）を身につけることを目標にする。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）「A1～A2」レベルの表現能力を身につけることを目標にする。	
			イタリア語Ⅳ		イタリア語Ⅲに引き続き、更にイタリアの文化と社会を理解し、また、イタリア語を楽しく学び、理解し、そして日常会話が出来るようになりたいと望む学生を対象に、語学力（文法力、語彙力、読解力、聞き取り能力、プレゼンテーション能力、作文能力、コミュニケーションスキル）を深めることを目標にします。イタリア語IからIVまで、『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）「A1～A2」レベルの表現能力を身につけることを目標にする。	
			イタリア語Ⅴ		イタリア語の基礎的知識を既に習得した学生を中心に、聞き取り、会話、読解、作文など様々な学習活動を組み合わせて、できるだけイタリア語で授業を進めていく。また、より進んだ文法を勉強しながらボキャブラリーを増やしていく。ペアワーク、グループワークやスキット作りなどを通じて、学生が主役となって参加するような授業を展開する。イタリア語の能力をよりいっそう向上させ、同時にイタリアの文化と社会についての知識も身につけることを目標にする。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）「A2」レベルの表現力を身につけることを目標にして、イタリア語の実践力を高めたい学生対を象にしている授業である。	
			イタリア語VI		イタリア語Ⅴに引き続き、イタリア語の基礎的知識を既に習得した学生を中心に、聞き取り、会話、読解、作文など様々な学習活動を組み合わせて、できるだけイタリア語で授業を進めていく。また、より進んだ文法を勉強しながらボキャブラリーを増やしていく。ペアワーク、グループワークやスキット作りなどを通じて、学生が主役となって参加するような授業を展開する。イタリア語の能力をよりいっそう向上させ、同時にイタリアの文化と社会についての知識も身につけることを目標にする。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）「A2」レベルの表現力を身につけることを目標にして、イタリア語の実践力を高めたい学生を対象にしている授業である。	
			韓国語Ⅰ		この授業ではハングルを初めて学ぶ学生を対象に、入門から始める。教科書の「発音編」と「会話編」第1課から学習する。基本文型と単語を繰り返し学ぶことにより、実践的な会話を身につけるようにする。授業では単語や文型などを中心に学習した事項について、確認と定着のために小テストをする。ペア学習に重点を置き、より効果的な韓国語学習へのアプローチのため、多彩な素材（例えば、童謡、映像、単語カード、韓国事情）を取り上げながら、楽しく身につく授業を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			韓国語Ⅱ		韓国語Ⅰに続き、基本文型と単語を繰り返し学ぶことにより、実践的な会話を身につける。学習する単語・文型が増えていく。教科書のチャレンジや本文カード、単語トレーニングなどを有効に使う。少しずつでも毎日取り組むことを重視し、予習・復習を心がけてもらう。授業では、学習した単語（語い）、文型などについて適宜小テストを実施する。またペア学習法を中心とした、徹底した発音練習・文法体系の理解に重点を置く。授業内容を通じて、「動詞・形容詞、過去形などさまざまな文法と文型を理解する」「関連する単語を学び使えるようにする」「食事や旅行など実践的な場面を中心に、韓国語でコミュニケーションが取れるようにする」ことを目指す。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第２外国語（続き）	韓国語Ⅲ		韓国語Ⅰ・Ⅱの既習者を対象に基礎文法を復習するとともに、会話文を中心に文型・単語等を学ぶ。ペア学習に重点を置き正確な発音や表現を暗記することで実践的な会話を身につけるようにする。随時小テストをして、学習したことを確認する。中級水準（TOPIK３～４級）の実践的なリスニング力、会話力を習得することを目標にする。また、一課ごとの朗読練習やその他、作文やレポートを作成し、アウトプットとしてスピーチを発表する。	
			韓国語Ⅳ		韓国語Ⅲに続き、基礎文法を復習するとともに、会話文を中心に文型・単語等を学ぶ。毎週の日記作成、ヒアリング、朗読練習に重点を置き正確な発音や表現を暗記することで実践的な会話を身につけるようにする。「形容詞、動詞の連体形」「受身形の復習練習・朗読・発表」などの内容を取り扱う。また、随時小テストをして、学習したことを確認する。中級水準の実践的な会話能力を習得することを目標とし、TOPIK3～4級レベルの修得を目指す。	
			韓国語Ⅴ		韓国語Ⅲ・Ⅳを学習した学生あるいはこれと同じ水準にある既習者を対象にして、より高いレベルのハングルの修得を目指す。基本的な文法・文型をもとに、多様で実践的なハングルを理解し表現できるようにする。目標として「ハングル能力検定試験２級」のレベルを修得して、さらなるステップの一助とする。自らの考えを自然な韓国語で伝える力とともに、書く力を身につけられるようにする。さらに、プレゼンテーションを通して、韓国語で論理的に考えを述べる力を養っていく。全ての授業は韓国語で行う。	
			韓国語Ⅵ		韓国語Ⅲ・Ⅳを学習した学生あるいはこれと同じ水準にある既習者を対象にして、韓国語Ⅴに続いてより高いレベルのハングルの修得を目指す。基本的な文法・文型をもとに、多様で実践的なハングルを理解し表現できるようにする。目標として「ハングル能力検定試験２級」のレベルを修得して、さらなるステップの一助とする。テーマ研究を通して、韓国語で専門的な知識などを身につけるようにしていく。また、自分の考えを韓国語で不自由なく表現できるように取り組んでいく。さらに、プレゼンテーションを通して、韓国語で論理的に考えを述べる力を養っていく。全ての授業は韓国語で行う。	
		第３外国語	ポルトガル語Ⅰ		ポルトガル語は、世界８カ国、ブラジルとポルトガルのほか、アンゴラ、モザンビークなどアフリカの５カ国、そして、東ティモールで公用語として話されているが、本講義では、ブラジルで話されているポルトガル語を学習していく。ポルトガル語Iは、ポルトガル語を初めて学習する学生を対象にしている。本講義では、あいさつ表現や基本的な文の作り方について学習する他、ポルトガル語の主な不規則動詞 や規則動詞の現在形を使った日常会話に必要な表現を身につけていく。	
			ポルトガル語Ⅱ		ポルトガル語IIでは、ポルトガル語Iを履修した学生を対象に、ブラジルで話されているポルトガル語の基礎について、引き続き学習を進めていく。本講義では、ポルトガル語の頻出動詞の現在形についての学習をさらに進め、未来を表す表現や、願望、依頼、許可、義務、禁止など、日常生活でよく使う表現について学習していく。英語では使われない再帰代名詞について学習したり、現在進行形についても学習を進め、さらに多くのポルトガル語の表現を身につけていく。発音についても、日本人が間違えやすい発音について説明しながら、トレーニングを行っていく。	
			ポルトガル語Ⅲ		ポルトガル語IIIは、ポルトガル語I及びⅡをすでに履修した学生、または、ポルトガル語の基礎（現在形まで）を学習した学生を対象に、さらにポルトガル語の基礎力を身につけるための学習を進めていく。本講義では、ポルトガル語の動詞の過去形（完全過去と不完全過去）、形容詞の比較級・最上級、関係代名詞、目的語となる人称代名詞について、学習を進めていく。過去について表現できるようにすることで、ポルトガル語によるコミュニケーション力をさらにアップさせ、関係代名詞の使い方を覚えて、ポルトガル語で書かれた文章の読解力も身につけていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			ポルトガル語Ⅳ		ポルトガル語Ⅳは、ポルトガル語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲを既に履修した学生、または、ポルトガル語の基礎を既に学習した学生を対象にしている。本講義では、過去分詞を使う完了時制や受動態の文を学んだりと、より複雑なポルトガル語の文の構造について学習していく。本学におけるポルトガル語の最終的な学習段階である本講義において、現在完了形、受動態、過去完了形、直説法未来形、接続法現在形について学習することにより、ポルトガル語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳの学習を通して、ポルトガル語の文法的な基礎に関しては、一通り学習したと言えるレベルまで持っていく。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第３外国語（続き）	アラビア語Ⅰ		国連の公用語の一つであるアラビア語が、世界の言語のうちで，最も難解な言葉の一つに数えられている理由は、この言語が有する文語・口語二つの文法の著しい相違である。そのため当初から文字と音声をまったく別のものと考え、文法と会話を並行して学ぶ。したがってテキストも、口語と文語の２冊を使用する。なお毎回の授業に際しては、２～３時間程度の宿題が課される。授業の前半では、各自が直面した問題点を述べてもらい、その解決に十分な時間を割り当てる。尚、基本単語の意味を確実に覚え，単語帳を作成して秋学期へ準備期間とする。	
			アラビア語Ⅱ		アラビア語Ⅰを履修した学生を対象に、引き続きアラビア語の基礎文法を学ぶ。この段階では、音声テキストによる聞き取りを重視し、日常会話で使われる基本的な会話文も併行して学習する。各週ごとに学習した文法事項に対応する次回の演習問題で、その理解度を確認する。アラビア語Ⅲ・Ⅳ（中級）へのステップとして、主に基本単語の習得を念頭に置いている。アラビア語を「聞いて理解する」力を養うこともこの段階での目標とする。	
			アラビア語Ⅲ		アラビア語をすでに履修した学生のための中級文法の講座である。各自が用意してきた課題を発表し、その問題点をじっくり時間をかけて解決していく。随時音声テキストによる聞き取り練習を導入して、アラビア語を「聞いて理解する」力を養うこともこの段階での目標である。これまでに説明してきた文法事項，単語帳などをもう一度整理することを望む。アラビア語Ⅳと併せて、簡単な内容のアラビア語新聞が読める程度まで，中級文法と語彙の習得に努めていく。	
			アラビア語Ⅳ		アラビア語をすでに履修した学生対象の中級文法の講座である。現地で戸惑うことのない程度まで、アラビア語の読解力や作文の能力を高めるのが本科目の目的である。アラビア語初級に比べ、復習・宿題等の学習面で、肉体的にも精神的にも、これまで以上の困難を伴う。アラビア語初級同様に，各自が用意してきた課題を黒板に発表し，その問題点を、じっくり時間をかけて解決する。随時聞き取り練習を導入して、アラビア語を「聞いて理解する」力を養うこともこの段階での目標とする。	
			スワヒリ語Ⅰ		スワヒリ語は、タンザニアやケニアを中心に東アフリカで広範囲に話されている言語である。名詞が８種類に分かれ、それぞれが主辞をもち、形容詞は名詞に合わせた接頭辞がつくこの言語は、文法的には一寸難しいが、文字はローマ字で書け、母音が多いので日本人には発音しやすく学び易い。東アフリカを知る為の最高手段としてスワヒリ語の文型を覚え、語彙を増やし、簡単な日常会話で東アフリカの人々と交流が出来るように授業を進めたい。スワヒリ語Ⅰでは、「スワヒリ語の仕組みや基本的な文法を学ぶ」「スワヒリ語の音に慣れ簡単なあいさつができるようにする。」「スワヒリ作文：自己紹介」「アフリカ関係の書物を読みレポートを書く」「文化理解の時間を設け、講義や交流」などを検討している。	
			スワヒリ語Ⅱ		スワヒリ語は、タンザニアやケニアを中心に東アフリカで広範囲に話されている言語である。名詞が８種類に分かれ、それぞれが主辞をもち、形容詞は名詞に合わせた接頭辞がつくこの言語は、文法的には一寸難しいが、文字はローマ字で書け、母音が多いので日本人には発音しやすく学び易い。東アフリカを知る為の最高手段としてスワヒリ語の文型を覚え、語彙を増やし、簡単な日常会話で東アフリカの人々と交流が出来るように授業を進めたい。スワヒリ語Ⅰで身に付けた単文の理解につづき、Ⅱでは「重文への理解を進める（動詞の変化形、関係代名詞、副詞など）」「ほぼ毎回の課題練習で理解力をつける」「レポート：アフリカの人物について」「文化理解の時間を設け、講義や交流」などを検討している。	
			スワヒリ語Ⅲ		既に何らかの形でスワヒリ語を学んだ事のある学生を対象とし、文法と基礎を復習しながら正しいスワヒリ語の語学力を向上させる。テキストの前半、日常会話の部分の前半を使用し、読解力、会話力を重視し、単語数を増やしたい。作文に関しては、毎回各章に出てくる単語を用い、自由作文をし発表する。その文を読み、聴解力もつけたい。同時に東アフリカ事情も織り交ぜ、知識を増やし、東アフリカの人々との交流に役立つように努力する。特にスワヒリ語Ⅲでは、「スワヒリ語ⅠとⅡで基礎文法を学んだ学生を対象に、会話文を練習する」「スワヒリ文化に触れる機会を作る（スピーカーとの交流、講義などを検討）」「スワヒリ作文：お出かけストーリー(会話)」「アフリカに関する好きなトピックのレポートを書く」などの内容を中心に進めていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第３外国語（続き）	スワヒリ語Ⅳ		既に何らかの形でスワヒリ語を学んだ事のある学生を対象とし、文法と基礎を復習しながら正しいスワヒリ語の語学力を向上させる。テキストの後半、日常会話の部分の後半を使用し、読解力、会話力を重視し、単語数を増やしたい。作文に関しては、毎回各章に出てくる単語を用い、自由作文をし発表する。その文を読み、聴解力もつけたい。同時に東アフリカ事情も織り交ぜ、知識を増やし、東アフリカの人々との交流に役立つように努力する。 特にスワヒリ語Ⅳでは「スワヒリ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを学んだ学生を対象に、文章読解力を磨く」「教科書の短い文章、ニュース、絵本などを辞書を使って読む」「スワヒリ語作文：日本を紹介する文」などの内容を中心に進めていく。	
			タイ語Ⅰ		タイは、日本にとって経済的にパートナーとして近年重要性が増している国である。タイ語初級の本科目では、タイの現地語であるタイ語の基本的な発音、文法理解をベースに日常会話を指導していく。本科目では、日本語や他の言語とは異なるタイ語の特殊な発音方法と、文法の基礎を学んでいく。またそれが学びやすいように、簡単な日常会話の学習を通じて、自然に身につくよう指導していく。具体的にはタイ語の単語を500語以上覚え、それを用いて、正確な発音と文法に則り、会話に活用できるようにしていく。	
			タイ語Ⅱ		本科目では、タイ語Iで中心的に学んだタイ語の基本的な発音・文法理解をベースにして、日常会話の学びを更に進めていく。具体的には、本科目の授業では新たな単語を400語以上追加し、発音方法と文法の基礎への理解を、着実に深めていく。会話の教材として扱う内容も、より実践的な会話に焦点をあてていく。本科目を通じて、学生がある一定程度の日常会話をマスターできるように指導していくとともに、タイという国の歴史・文化・経済等に関する学生の知識と理解も深めたい。	
			タイ語Ⅲ		本科目では、タイ語I-Ⅱで中心的に学んだタイ語の基本的な発音、文法理解をベースに、中級レベルでのタイ語会話ができるよう学びを進めていく。具体的には、それまで学んだ900語程度の単語数に対して、本科目の授業を通じて新たな単語を500語以上追加し、段階的に、発音方法と、より高度な文法の理解を深めていく。会話で扱う内容も、以前よりも汎用性の高いものに焦点をあてていく。本科目の授業を通じて、正確な発音と文法に則り、タイ語のより実践的な表現ができるよう指導していく。さらに、タイ社会文化やタイ人の考えと価値観に興味を持つように指導する。	
			タイ語Ⅳ		本科目では、これまでタイ語I-Ⅲで中心的に学んだ初級・中級レベルのタイ語を土台として、発音、文法、会話のいずれの面でもより高度なレベルでのタイ語会話ができるよう、学びを進めていく。本科目の授業を通じて、新たな単語を500語以上追加し、より高度な会話表現ができるよう指導していく。授業中に扱う内容も、さらに実践的で汎用性の高い会話にレベルをあげていく。本科目を通じて、正確な発音と文法に則り、より高度で実践的な表現ができるよう指導していく。	
			トルコ語Ⅰ		授業ではトルコ語の基本文法を修得した後、簡単な文章を読んでいく。単なる語学修得のみではなく、授業において現在の政治情勢の解説、ビデオ鑑賞などを通じて、トルコや激動する中東イスラームに対する正しい理解を深めていき、世界平和に貢献していくことが重要であると考える。当該地域の語学修得は、その地域を最大に尊重することであり、さらに他文化を知るということは自分を知ることでもある。文法だけではなく、この地域の文化や社会、そしてイスラームについても説明する。毎回、映像を見て、トルコやイスラームへの理解を深めていきたい。トルコ留学経験者やトルコ人にも来てもらい色々な話をしてもらう予定である。	
			トルコ語Ⅱ		トルコ語Ⅰの授業内容を踏まえて、トルコ語の基本文法を修得した後、簡単な文章を読んでいく。単なる語学修得のみではなく、授業において現在の政治情勢の解説、ビデオ鑑賞やトルコ語の歌などを通じて、トルコや激動する中東イスラームに対する正しい理解を深めていく。また当該地域の語学修得は、その地域を最大に尊重することであり、さらに他文化を知るということは自分を知ることでもある。 トルコ語文法の基礎を習熟し，簡単な文章が読めるようになることを目標とする。	
			トルコ語Ⅲ		トルコ語の基本文法を学んだ学生を対象に、中級文法を修得し、さらに小説、新聞記事、学術論文などの様々な文章の読解を行っていく。その際、日常会話練習や歌、ビデオ等を利用し、文法のみならず生きたトルコ語に親しむことにも留意する。また適宜トルコや中東、イスラームの歴史、社会、文化を紹介することにより、語学修得とともに他文化理解の深化にも努めていく。トルコ語の文法を一通り修得し，学術論文が読解できるようになることを目標とする。また基本的な日常会話ができるようになることも目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第３外国語（続き）	トルコ語Ⅳ		トルコ語Ⅲの授業内容を踏まえて、トルコ語の基本文法を学んだ学生を対象に、中級文法を修得し、さらに小説、新聞記事、学術論文などの様々な文章の読解を行っていく。その際、日常会話練習や歌、ビデオ等を利用し、文法のみならず生きたトルコ語に親しむことにも留意する。また適宜トルコや中東、イスラームの歴史、社会、文化を紹介することにより、語学修得とともに他文化理解の深化にも努めていく。トルコ語の文法を一通り修得し，学術論文が読解できるようになることを目標とする。また基本的な日常会話ができるようになることも目指す。トルコ語修得を通して，当該地域への理解と他者認識の深化をはかっていく。さらに他者認識を進める過程で自己のアイデンティティをもう一度見つめ直すことも重要である。	
			ブルガリア語Ⅰ		スラヴ語派は、インド・ヨーロッパ語族を形成する有力な語派のひとつである。スラヴ語派には、東スラヴ諸語・西スラヴ諸語・南スラヴ諸語があり、ブルガリア語は南スラヴ諸語のひとつに位置づけられる。本科目では、ブルガリア語の学習の手始めとして初級レベルの文法を学び、その上で、初歩的な会話が聞き取れ、簡単な会話ができるよう授業を行なっていく。またブルガリア語の学習を通じて、語学面のみならず、ブルガリアの地理、歴史等についても理解を深めていく。	
			ブルガリア語Ⅱ		本科目では、ブルガリア語Iの履修を前提として、初級レベルの文法の理解を更に深めていく。またその学習に基づいて、より実践的な日常会話が聞き取れ、実際に学生がある一定程度の会話を行えるようになるよう授業を展開していく。さらに、ブルガリアの風習に関する読み物、歌のテキスト、ビデオ教材等を用いながら、生きたブルガリア語に親しむことを重視する。本科目のなかでは、ブルガリアの文化や社会、風習等を紹介しながら、ヨーグルトやバラで知られるブルガリアの他の魅力についても学びたい。	
			ブルガリア語Ⅲ		本科目では、ブルガリア語Ⅰ-Ⅱで学習した初級文法を復習しつつ、その上で一歩進んだ中級の授業へと進みたい。寺島憲治著『ニューエクスプレス＋・ブルガリア語』を教材として用い、第１課から第10課まででブルガリア語の基礎的な文法（特に動詞の現在形、人称代名詞等）を再確認する。それを踏まえた上で、単語数の増加やさらなる文法の強化を図っていく。またブルガリア国営テレビのニュース番組を教材として生のブルガリア語の音が聴きとれるようにするとともに、報道に用いられる表現などを学ぶ。	
			ブルガリア語Ⅳ		本科目では、ブルガリア語Ⅲの履修を前提として、寺島憲治著『ニューエクスプレス＋ブルガリア語』を一通りマスターすることを目指す。と同時に、これまでのブルガリア語Ⅰ-Ⅲで学んできたブルガリアの地理、歴史、文化を踏まえつつ、ブルガリアと周辺諸国を含むスラヴ世界への知識と理解をさらに深めたい。ギリシャ、トルコ、ルーマニア等と国境を接するブルガリアの言語には、アジア系のギリシャ語やトルコ語の要素も入っている。語学修得を通して、多様な文化、民族、宗教を持つ人々が暮らすスラヴ世界の豊潤さについて、学生のさらなる関心を喚起したい。	
			インドネシア語Ⅰ		インドネシア共和国の国語であるインドネシア語は、アルファベット表記であること、語順などの文法事項の制約が少ないこと、発音に母音が多いことなどから、日本人が修得しやすい外国語の１つであるといわれている。本科目の目的は、インドネシア語の初歩的な文法や平易な会話表現の修得にある。毎回、冒頭に小テストを行うので、必ず事前準備をして授業に臨む必要がある。本科目では、言語学習とともに、インドネシアの歴史、社会、文化の一端を学ぶことができるよう、適宜ビデオなども視聴する。	
			インドネシア語Ⅱ		インドネシア語Iでは、インドネシア語の初歩的な文法や平易な会話表現について学んだ。本科目では、インドネシア語Iの履修を前提に、更に基礎をしっかり確立し、これまでの１年間の学習でインドネシア語技能検定試験E～D級の合格ができるようなレベルまで、語学の訓練を行なっていく。特に、本科目では、インドネシア語の基礎文法と必須単語を追加的に修得し、現地での旅行や生活で役に立つ簡単な日常会話と、より正確な読解ができるようになることを目標とする。	
			インドネシア語Ⅲ		Ⅰ・Ⅱの既修者を対象として、引き続きインドネシア語の初歩的な文法や平易な会話表現の修得をめざす。インドネシアの歴史・社会・文化の一端を学ぶことができるよう、適宜ビデオなども視聴する。Ⅰ・Ⅱで学んだ項目の要点復習を当初行った後、新たな文法項目に取り組む。履修者の理解度や授業状況を踏まえ、柔軟に進めていくが、文法解説が一段落する都度、簡単な小テストや課題を課す。また学習効果を増すために言語を取り巻く文化的、社会的背景についても、ＤＶＤやインターネットを通じた映画、ドラマ、ドキュメンタリーなど各種資料を活用し補足説明する予定である。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第3外国語（続き）	インドネシア語Ⅳ		Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの既修者を対象として、引き続きインドネシア語の初歩的な文法や平易な会話表現の修得をめざす。インドネシアの歴史・社会・文化の一端を学ぶことができるよう、適宜ビデオなども視聴する。本授業では、基礎文法の要点復習後、新聞記事の読解和訳、テーマ別プレゼン発表を並行的に行う。また記事読解和訳に対する理解を効果的にするため、ＤＶＤやインターネットを通じた映画、ドラマ、ドキュメンタリーなど各種資料を活用し補足説明する予定である。	
			ベトナム語Ⅰ		本授業は、初心者を対象としたベトナム語の基礎的な言語能力を養成する授業である。このコースでは、ベトナム語の発音、基本文法、日常会話の表現を学ぶ。授業は、音声と視覚教材を活用し、学生が実際のコミュニケーションシーンで使えるように工夫する。あいさつや自己紹介、買い物、食事の注文などの基本的な会話練習を通じて、語彙力とリスニングスキルを向上させる。また、ベトナムの文化や習慣についての知識も提供し、言語学習と同時に文化理解も深めていく。最終的には、簡単なベトナム語の文章を読み書きし、基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。	
			ベトナム語Ⅱ		ベトナム語Ⅰを学習した学生を対象として開講する。本授業は、初心者を対象としたベトナム語の基礎的な言語能力を養成する授業である。このコースでは、ベトナム語の発音、基本文法、日常会話の表現を学ぶ。授業は、音声と視覚教材を活用し、学生が実際のコミュニケーションシーンで使えるように工夫する。あいさつや自己紹介、買い物、食事の注文などの基本的な会話練習を通じて、語彙力とリスニングスキルを向上させる。また、ベトナムの文化や習慣についての知識も提供し、言語学習と同時に文化理解も深めていく。最終的には、簡単なベトナム語の文章を読み書きし、基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。	
			ベトナム語Ⅲ		本授業では、ベトナム語の基礎を習得した学生を対象に、より高度なコミュニケーション能力を養成する。この授業では、日常会話からビジネスシーンまで幅広い場面で使用される語彙と表現を学ぶ。また、ベトナム語特有の文法や発音の練習を通じて、スムーズな会話力を身に付ける。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの各スキルをバランスよく向上させるために、テキスト教材等を活用する。併せて、文化的背景や歴史についても学び、言語理解の深化を図る。学生はグループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、実践的な言語運用能力を高め、ベトナムとの交流に役立てることを目指す。更にベトナム語の新聞記事を読みこなせる読解力とベトナムの政治・経済・社会を紹介できる知識力を養う。	
			ベトナム語Ⅳ		ベトナム語Ⅲを学習した学生を対象として開講する。本授業では、ベトナム語の基礎を習得した学生を対象に、より高度なコミュニケーション能力を養成する。この授業では、日常会話からビジネスシーンまで幅広い場面で使用される語彙と表現を学ぶ。また、ベトナム語特有の文法や発音の練習を通じて、スムーズな会話力を身に付ける。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの各スキルをバランスよく向上させるために、テキスト教材等を活用する。併せて、文化的背景や歴史についても学び、言語理解の深化を図る。学生はグループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、実践的な言語運用能力を高め、ベトナムとの交流に役立てることを目指す。更にベトナム語の新聞記事を読みこなせる読解力とベトナムの政治・経済・社会を紹介できる知識力を養う。	
			言語演習Ⅰ		本科目は、第2・3外国語以外の言語や既存の言語科目よりもさらに上級レベルを学びたい学生を対象に、幅広いニーズを捉えて開講される。授業では、各言語の高度な文法、語彙、発音に加え、専門的な用語や表現を学ぶ。また、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの各スキルを総合的に強化するために、実践的な演習やディスカッション、プレゼンテーションを取り入れる。さらに、各言語圏の文化や歴史についても学ぶことで、言語運用能力だけでなく、文化的な理解も深める。個別の指導やフィードバックを通し、学生一人ひとりの学習ニーズに応え、グローバルな視野を持った人材の育成を目指す。	
			言語演習Ⅱ		本科目は、第2・3外国語以外の言語や既存の言語科目よりもさらに上級レベルを学びたい学生を対象に、幅広いニーズを捉えて開講される。この科目では、言語演習Ⅰで学んだ内容を踏まえ、各言語の高度な文法、語彙、発音に加え、専門的な用語や表現を習得する。また、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの各スキルを総合的に強化するため、実践的な演習やディスカッション、プレゼンテーションを取り入れる。さらに、各言語圏の文化や歴史についても学び、言語運用能力だけでなく、文化的な理解も深める。個別の指導やフィードバックを通し、学生一人ひとりの学習ニーズに応え、グローバルな視野を持った人材の育成を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	第３外国語（続き）	言語演習Ⅲ		本科目は、第2・3外国語以外の言語や既存の言語科目でさらに高度なレベルを学びたい学生を対象に、多様なニーズに応える上級科目である。この科目では、言語演習Ⅰ・Ⅱの内容を踏まえ、実践的な言語運用能力をさらに高めることを目的とする。具体的には、既に習得した基礎的な言語スキルを応用し、日常生活やビジネスシーンで役立つ実践的な表現や語彙を学ぶ。授業では、実際の状況を想定したロールプレイやディスカッション、プレゼンテーションを通し、コミュニケーション能力を強化する。また、各言語圏のニュース記事や映画、テレビ番組を教材として使用し、リスニングやリーディングの能力を向上させる。さらに、簡単なエッセイやレポートの作成に取り組み、ライティングスキルの向上も図る。個別のフィードバックやグループワークを通し、学生一人ひとりのニーズに応じた指導を行い、言語学習への自信を深め、実践力を高めることを目指す。	
			言語演習Ⅳ		本科目は、第2・3外国語以外の言語や既存の言語科目よりもさらに高度なレベルを学びたい学生を対象に、幅広いニーズに応える上級科目として開講する。この科目では、言語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ内容を基に、さらに実践的な言語運用能力を高めることを目的とする。具体的には、既に習得した言語スキルを応用し、日常生活やビジネスシーンで役立つより高度な表現や語彙を学ぶ。授業では、複雑なシチュエーションを想定したロールプレイやディスカッション、プレゼンテーションを行い、コミュニケーション能力を一層強化する。また、各言語圏のニュース記事や映画、テレビ番組を教材として使用し、リスニングやリーディングの能力を向上させる。さらに、発展的なエッセイやレポート課題に取り組み、説得力のあるライティングスキルを習得する。個別のフィードバックやグループワークを通して、学生一人ひとりのニーズに応じた指導を行い、言語学習への自信を深め、実践力をさらに高めることを目指す。	
		日本語	日本語Ⅰ		（概要）中級後半レベルの総合日本語。日本語能力試験Ｎ２合格または同等レベル以上の学部生を対象とする。「読む・書く・聞く・話す」の高度なスキルを身に付け、大学教育を受けるのに必要な日本語能力及び日本語能力試験Ｎ１合格レベル以上に達することを目指す。特に、「読む」ことを中心に学習し、抽象的で専門的なアカデミックな日本語の文章を、その背景や意図を理解し、段落構成を把握しながら読めるようになることを到達目標とする。日本語Ⅰと日本語Ⅱでは教科書の学習範囲が異なる。 （オムニバス方式/全30回）*Aクラス （235.秋田 恵美子/15回） 月曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （237.日坂 美香代/15回） 木曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （オムニバス方式/全30回）*Bクラス （234.伊東 美智留/15回） 月曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （239.荻原 陽子/15回） 木曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （オムニバス方式/全30回）Cクラス （123.日高 吉隆/15回） 月曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （250.水島 亜美/15回） 木曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （オムニバス方式/全30回）*Dクラス （241.梁取 久美子/15回） 月曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （236.橋本 光子/15回） 木曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。	オムニバス
			日本語Ⅱ		（概要）中級後半レベルの総合日本語。日本語Ⅰに引き続き学習する。日本語能力試験Ｎ２合格または同等レベル以上の学部生を対象とする。「読む・書く・聞く・話す」の高度なスキルを身に付け、大学教育を受けるのに必要な日本語能力及び日本語能力試験Ｎ１合格レベル以上に達することを目指す。特に、「読む」ことを中心に学習し、抽象的で専門的なアカデミックな日本語の文章を、その背景や意図を理解し、段落構成を把握しながら読めるようになることを到達目標とする。日本語Ⅰと日本語Ⅱでは教科書の学習範囲が異なる。	オムニバス

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	日本語（続き）	日本語Ⅱ （続き）		（オムニバス方式/全30回）*Aクラス （235.秋田 恵美子/15回） 月曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （237.日坂 美香代/15回） 木曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （オムニバス方式/全30回）*Bクラス （234.伊東 美智留/15回） 月曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （239.荻原 陽子/15回） 木曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （オムニバス方式/全30回）Cクラス （123.日高 吉隆/15回） 月曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （250.水島 亜美/15回） 木曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （オムニバス方式/全30回）*Dクラス （241.梁取 久美子/15回） 月曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （236.橋本 光子/15回） 木曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。	
			日本語Ⅲ		上級レベルの日本語口頭表現。日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。１級合格レベルであることが望ましい。さまざまなテーマについて、一人ひとりあるいはチームごとに口頭発表を行う。多様なテーマについて日本語で発表ができるようになること、日本語による上級のコミュニケーション力を身につけることを目標とする。事前事後学習の内容として、授業内で提示する各テーマの発表原稿を作成し、発表練習を十分にしてくることが求められる。	
			日本語Ⅳ		日本語Ⅲに引き続き学習する、上級レベルの日本語口頭表現。日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。１級合格レベルであることが望ましい。さまざまなテーマについて、一人ひとりあるいはチームごとに口頭発表を行う。多様なテーマについて日本語で発表ができるようになること、日本語による上級のコミュニケーション力を身につけることを目標とする。事前事後学習の内容として、授業内で提示する各テーマの発表原稿を作成し、発表練習を十分にしてくることが求められる。	
			日本語Ⅴ		上級レベルの総合日本語。日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。「読む・書く・聞く・話す」の基本的なスキルを身に付け、社会的または公的な場面で正確かつ適切な言語活動ができるようになることを目指す。リテリング（視聴した内容を伝える）、ノートテーキング（視聴したことをメモする）、ピアリーディング（友だちに協力しながら読む）、ディスカッション（合意形成する）の他、グループでプロジェクトワークに取り組む。日本語Ⅴと日本語Ⅵでは教材が異なる。	
			日本語Ⅵ		上級レベルの総合日本語。日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。「読む・書く・聞く・話す」の基本的なスキルを身に付け、社会的または公的な場面で正確かつ適切な言語活動ができるようになることを目指す。リテリング（視聴した内容を伝える）、ノートテーキング（視聴したことをメモする）、ピアリーディング（友だちに協力しながら読む）、ディスカッション（合意形成する）の他、グループでプロジェクトワークに取り組む。日本語Ⅴと日本語Ⅵでは教材が異なる。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	日本語（続き）	日本語基礎		（概要）基礎レベルの日本語口頭表現。日本語を初めて学習する学生を対象とする。「話す（やりとり・発表）」ことを中心に学習し、基礎的な「話す」スキルを身に付け、日常生活における自身のことや身の回りのことについて、適切な言語活動ができるようになることを目指す。授業の初めの段階で、「ひらがな」「カタカナ」の読み・書きを学習する。「ひらがな」「カタカナ」の読み方については、できるだけ早く覚えてくることが求められる。 （オムニバス方式/全45回） （239.荻原 陽子/15回） 水曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （240.大﨑 伸城/15回） 木曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。 （243.間瀬　千恵子/15回） 金曜日授業を担当する。授業指定の教科書をもとに学習する。		オムニバス

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			日本語総合入門		（概要）初級前期の総合日本語。日本語を少し学習したことのある学生を対象とする。初級前期の文型・語彙・表現等を学習し、「読む・書く・聞く・話す」の基礎的なスキルを身に付け、日常生活において適切な言語活動ができるようになることを目指す。日本語能力試験Ｎ５合格レベルを目標とする。なお、１回目の授業でひらがなの読み書き、簡単なことばのテストを実施し、そのテストに合格できない学生は、この科目を履修することができないこととする。なお、本授業担当者は、各曜日担当回において、授業指定の教科書をもとに学習する。 （オムニバス方式/全75回）*春学期クラス （234.伊東　美智留/15回） 月曜日授業を担当する。 （251.中家　久瑠美/15回） 火曜日授業を担当する。 （238.東田　明希子/15回） 水曜日授業を担当する。 （250.水島　亜美/15回） 木曜日授業を担当する。 （251.中家　久瑠美/15回） 金曜日授業を担当する。 （オムニバス方式/全75回）*秋学期 Aクラス （234.伊東　美智留/15回） 月曜日授業を担当する。 （251.中家　久瑠美/15回） 火曜日授業を担当する。 （238.東田　明希子/15回） 水曜日授業を担当する。 （250.水島　亜美/15回） 木曜日授業を担当する。 （251.中家　久瑠美/15回） 金曜日授業を担当する。 （オムニバス方式/全75回）*秋学期 Bクラス （238.東田 明希子/15回） 月曜日授業を担当する。 （236.橋本 光子/15回） 火曜日授業を担当する。 （240.大崎 伸城/15回） 水曜日授業を担当する。 （233.法貴 寿子/15回） 木曜日授業を担当する。 （237.日坂　美香代/15回） 金曜日授業を担当する。	オムニバス
			日本語総合Ⅰ		（概要）初級後期レベルの総合日本語。日本語初級前期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ５合格レベル以上の学生を対象とする。初級前期レベルとは大きく異なる、初級後期レベルの高度で複雑な文型や語彙、表現等の学習を通し、「読む・書く・聞く・話す」のスキルを身に付け、日常生活において適切な言語活動ができるようになることを目指す。日本語能力試験Ｎ４合格レベル以上の総合的な日本語能力を身に付けることを目標とする。 なお、本授業担当者は、各曜日担当回において、授業指定の教科書をもとに学習する。	オムニバス
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	日本語（続き）	日本語総合Ⅰ （続き）		（オムニバス方式/全75回）*春学期 Aクラス （238.東田 明希子/15回） 月曜日授業を担当する。 （236.橋本 光子/15回） 火曜日授業を担当する。 （240.大崎 伸城/15回） 水曜日授業を担当する。 （233.法貴 寿子/15回） 木曜日授業を担当する。 （237.日坂　美香代/15回） 金曜日授業を担当する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					（オムニバス方式/全75回）*春学期 Bクラス （251.中家 久瑠美/15回） 月曜日授業を担当する。 （252.明父　桃子/15回） 火曜日授業を担当する。 （241.梁取 久美子/15回） 水曜日授業を担当する。 （250.水島 亜美/15回） 木曜日授業を担当する。 （239.荻原 陽子/15回） 金曜日授業を担当する。 （オムニバス方式/全75回）*秋学期 （251.中家 久瑠美/15回） 月曜日授業を担当する。 （252.明父　桃子/15回） 火曜日授業を担当する。 （241.梁取 久美子/15回） 水曜日授業を担当する。 （250.水島 亜美/15回） 木曜日授業を担当する。 （239.荻原 陽子/15回） 金曜日授業を担当する。	
			日本語総合Ⅱ		（概要）初中級レベル（初級から中級への橋渡しの段階）の総合日本語。日本語初級を修了した学生及び日本語能力試験Ｎ４合格レベルの学生を対象とする。初中級レベルの文型・語彙・漢字・ストラテジーの学習を通し、「読む・書く・聞く・話す」のやや高度なスキルを身に付け、日常生活において適切な言語活動ができるようになることを目指す。日本語能力試験Ｎ３合格レベル以上の日本語能力、中級前期レベルを学ぶのに必要な日本語能力を身に付けることを目標とする。なお、本授業担当者は、各曜日担当回において、授業指定の教科書をもとに学習する。 （オムニバス方式/全75回）*春学期 （238.東田 明希子/15回） 月曜日授業を担当する。 （234.伊東 美智留/15回） 火曜日授業を担当する。 （236.橋本 光子/15回） 水曜日授業を担当する。 （233.法貴 寿子/15回） 木曜日授業を担当する。 （240.大﨑 伸城/15回） 金曜日授業を担当する。 （オムニバス方式/全75回）*秋学期 （238.東田 明希子/15回） 月曜日授業を担当する。 （234.伊東 美智留/15回） 火曜日授業を担当する。 （236.橋本 光子/15回） 水曜日授業を担当する。 （233.法貴 寿子/15回） 木曜日授業を担当する。 （240.大﨑 伸城/15回） 金曜日授業を担当する。	オムニバス
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	日本語（続き）	日本語演習入門		日本語総合入門の演習。日本語総合入門を履修している、あるいは履修したことがある学生を対象とする。日本語総合入門で使用している教科書『みんなの日本語初級Ⅰ』に準拠した問題集『みんなの日本語 初級I 第2版 標準問題集』の練習問題に取り組む。事前事後の学習として、前の週に学んだ範囲分の練習問題に取り組み、解答を記入してくることが求められる。授業では、練習問題の解説の他、さらに定着を図るために練習を行う。	
			日本語演習Ⅰ		日本語総合Ⅰの演習。日本語総合Ⅰを履修している、あるいは履修したことがある学生を対象とする。日本語総合Ⅰで使用している教科書『みんなの日本語 初級Ⅱ』に準拠した問題集『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 標準問題集』の練習問題に取り組む。事前事後の学習として、前の週に学んだ範囲分の練習問題に取り組み、解答を記入してくることが求められる。授業では、練習問題の解説に止まらず、さらに定着を図るための練習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			初級漢字		初めて漢字を学習する学生を対象とする。日本語初級前期レベルの約250の基礎的な単漢字とそれらを組み合わせた漢字熟語の読み方と書き方を学習する。日常生活で用いられる基礎的な漢字で書かれた定型的な語句や文、文章を読んで理解することができるようになることを目指す。日本語能力試験Ｎ５合格レベルの漢字の読み書きができるようになることを目標とする。履修には、日本語の学習経験があること、ひらがなの読み書きが十分にできることが求められる。	
			日本語文法Ⅱ		初中級レベルを学ぶための日本語文法。日本語初級後期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ４合格レベル以上の学生を対象とする。日本語初級文法総まとめの教科書を使用して、日本語初級レベル(日本語能力試験Ｎ５・Ｎ４レベル)の文法を総復習し、初級文法についての理解をさらに深めるとともに、初中級レベルの文法項目を学習する。事前学習として、進度に合わせ毎回、教科書の練習問題に取り組み、解答を教科書に書き込んでくることが求められる。	
			日本語文法Ⅲ		中級前期レベルの日本語文法。日本語初中級レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ３合格レベル以上の学生を対象とする。中級の柱である複文、話者の気持ちを伝える表現等を学習し、日本語能力試験Ｎ２（言語知識）合格レベル以上の日本語文法に対する知識を身に付けることを目指す。事前事後学習として、教科書各課のスタートテストや確認のための練習問題、まとめの問題に取り組むとともに、課の例文も含め、未習の語句の意味を調べてくることが求められる。	
			日本語文法Ⅳ		中級後期レベルの日本語文法。日本語中級前期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。日本語中級前期までに学習した既習文型の復習と整理をするとともに、日本語能力試験Ｎ１（言語知識）合格レベル以上の日本語文法に対する知識を身に付けることを目指す。事前事後学習として、講義の範囲を予習し、練習問題に取り組むとともに、課の例文も含め、未習の語句の意味を調べてくることが求められる。	
			日本語読解Ⅱ		初中級レベル(日本語能力試験Ｎ３レベル)の日本語読解。日本語初級後期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ４合格レベル以上の学生を対象とする。日本語能力試験N3（読解）対策用の問題集を使用した実践的な練習を通して、読解のストラテジーを学ぶとともに、正確な読解をするのに不可欠な言語知識(文字・語彙・文法)について学習する。日本語能力試験Ｎ３（読解）合格レベル以上の日本語読解力を身に付けることを目標とする。	
			日本語読解ⅢＡ		中級前期レベルの日本語読解。日本語初中級レベル（日本語総合Ⅱ、日本語読解Ⅱほか）を修了した学生及び日本語能力試験Ｎ３合格レベル以上の学生を対象とする。中級教科書『日本語3rdステップ』1・3・5課の精読を通して、読解のストラテジーを学ぶとともに、正確な読解をするのに不可欠な言語知識(文字・語彙・文法)について学習する。日本語能力試験Ｎ２（読解）合格レベル以上の日本語読解力を身に付けることを目標とする。	
			日本語読解ⅢＢ		中級前期レベルの日本語読解。日本語初中級レベル（日本語総合Ⅱ、日本語読解Ⅱほか）を修了した学生及び日本語能力試験Ｎ３合格レベル以上の学生を対象とする。中級教科書『日本語3rdステップ』2・4・6課の精読を通して、読解のストラテジーを学ぶとともに、正確な読解をするのに不可欠な言語知識(文字・語彙・文法)について学習する。日本語能力試験Ｎ２（読解）合格レベル以上の日本語読解力を身に付けることを目標とする。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	日本語（続き）	日本語読解ⅣＡ		中級後期レベルの日本語読解。日本語中級前期レベル（日本語読解ⅢA、日本語読解ⅢBほか）を修了した学生及び日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。中級教科書『日本語3rdステップ』7・9・11課の精読を通して、読解のストラテジーを学ぶとともに、正確な読解をするのに不可欠な言語知識(文字・語彙・文法)について学習する。日本語能力試験Ｎ１（読解）合格レベル以上の日本語読解力を身に付けることを目標とする。	
			日本語読解ⅣＢ		中級後期レベルの日本語読解。日本語中級前期レベル（日本語読解ⅢＡ、日本語読解ⅢＢほか）を修了した学生及び日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。中級教科書『日本語3rdステップ』8・10・12課の精読を通して、読解のストラテジーを学ぶとともに、正確な読解をするのに不可欠な言語知識(文字・語彙・文法)について学習する。日本語能力試験Ｎ１（読解）合格レベル以上の日本語読解力を身に付けることを目標とする。	
			日本語読解ＶＡ		上級レベルの日本語読解。中級後期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ１合格レベル以上の学生を対象とする。現代日本社会について論じているさまざまな新聞記事やネットニュース、論説記事などの読解を行う。その文章で使われている上級レベルの語彙、文法、表現の理解、要旨の把握に止まらず、その文章の背景となっている事柄、日本社会が持つ側面について知り、さらに深く理解することを目指す。日本語読解ＶAと日本語読解ＶBでは資料が異なる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			日本語読解ＶＢ		上級レベルの日本語読解。中級後期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ１合格レベル以上の学生を対象とする。現代日本社会について論じているさまざまな新聞記事やネットニュース、論説記事などの読解を行う。その文章で使われている上級レベルの語彙、文法、表現の理解、要旨の把握に止まらず、その文章の背景となっている事柄、日本社会が持つ側面について知り、さらに深く理解することを目指す。日本語読解ＶＡと日本語読解ＶＢでは資料が異なる。	
			日本語口頭表現入門		初級前期の日本語口頭表現。日本語を少し学習したことのある学生を対象とする。日本語総合入門の進度に合わせ、初級前期の文型・語彙・表現等を使った「自己紹介をする」「聞き返す」「場所を聞く」「注文する」「誘う・断る」などの日常生活で必要な日本語会話を学習する。「話す」の初歩的なスキルを身に付け、日常生活において適切なコミュニケーションができるようになることを目指す。日本語能力試験Ｎ５合格レベルの会話力に達することを目標とする。	
			日本語口頭表現Ⅰ		初級後期の日本語口頭表現。日本語初級前期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ５合格レベル以上の学生を対象とする。日本語総合Ⅰの進度に合わせ、初級後期の文型・語彙・表現等を使った「謙遜する・褒める」「謝る」「苦情を言う」「独り言を言う・申し出る・電話をかける」などの日常生活で必要な日本語会話を学習する。「話す」の基礎的なスキルを身に付け、日常生活において適切なコミュニケーションができるようになることを目指す。日本語能力試験Ｎ４合格レベルの会話力に達することを目標とする。	
			日本語口頭表現ⅢＡ		中級前期レベルの日本語口頭表現。日本語初中級レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ３合格レベル以上の学生を対象とする。中級前期レベルの文法や語彙、表現などを学びながら、「町の様子を話す」「動きの順序を説明する」「スポーツのおもしろさを伝える」など身近なトピックについてある程度まとまりのある説明や簡単な話し合いをする。事前事後学習として、説明原稿の作成と発表の練習、話し合いのテーマについての意見の準備などに取り組むことが求められる。	
			日本語口頭表現ⅢＢ		中級前期レベルの日本語口頭表現。日本語初中級レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ３合格レベル以上の学生を対象とする。スピーチ、ディスカッション、インタビューの学習に重点を置き、まとまった内容のことを話したり議論したりするアカデミックな日本語口頭表現能力を身につけることを目指す。事前事後学習として、スピーチ原稿の作成と発表の練習、ディスカッションの準備、インタビューの練習などに取り組むことが求められる。	
			日本語口頭表現ⅣＡ		中級後期レベルの日本語口頭表現。日本語中級前期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。日本語口頭表現ⅢAに引き続き、中級後期レベルの文法や語彙、表現などを学びながら、「言いかえて説明する」「比べて良さを伝える」「最近の出来事を話す」など身近なトピックについてある程度まとまりのある説明や簡単な話し合いをする。事前事後学習として、説明原稿の作成と発表の練習、話し合いのテーマについての意見の準備などに取り組むことが求められる。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	日本語（続き）	日本語口頭表現ⅣＢ		中級後期レベルの日本語口頭表現。日本語中級前期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。日本語口頭表現ⅢBに引き続き、スピーチ、ディスカッション、インタビューの学習に重点を置き、まとまった内容のことを話したり議論したりするアカデミックな日本語口頭表現能力を身につけることを目指す。事前事後学習として、スピーチ原稿の作成と発表の練習、ディスカッションの準備、インタビューの練習などに取り組むことが求められる。	
			日本語表現ＶＡ		上級レベルの日本語表現。中級後期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ１合格レベル以上の学生を対象とする。「テーマを探し、調査、考察、発表をする」という一連のアカデミックな活動について学習する。上級レベルで学んだ日本語を使って、適切かつ正確な日本語で論理的に記述し、発表できるようになることを目指す。授業の最後の段階では、実際に履修者が自らテーマを探し、アンケートやインタビュー等の調査を行い、考察し、PPTにまとめて発表をする。	
			日本語表現ＶＢ		上級レベルの日本語表現。中級後期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ１合格レベル以上の学生を対象とする。レポートや論文を書く際に必要な「書き言葉」での適切かつ簡潔な表現方法について学ぶ。特に、目的や伝達手段に応じて、自分の考えを適切に伝えるために必要な言い換え（パラフレーズ）の方法について学習する。文章を論理的に組み立てられた上で、より適切な日本語らしい表現に言い換えることができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			日本語聴解入門		初級前期の日本語聴解。日本語を少し学習したことのある学生を対象とする。日本語総合入門の進度に合わせ、日本語総合入門で使用している教科書『みんなの日本語初級Ⅰ』に準拠した聴解教材『みんなの日本語初級Ⅰ 聴解タスク２５』の練習問題に取り組む。「聞く」の基礎的なスキルを身に付け、初歩的な日常会話が理解できるようになることを目指す。授業では毎回、ディクテーションのテストを行う。事前事後の学習として、授業で学習した範囲を何度も復習することが求められる。	
			日本語聴解Ⅰ		初級後期の日本語聴解。日本語初級前期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ５合格レベル以上の学生を対象とする。日本語総合Ⅰの進度に合わせ、日本語総合Ⅰで使用している教科書『みんなの日本語初級Ⅰ』に準拠した聴解教材『みんなの日本語 初級Ⅱ 聴解タスク２５』の練習問題に取り組む。「聞く」の基礎的なスキルを身に付け、日常会話が理解できるようになることを目指す。授業では毎回、ディクテーションのテストを行う。事前事後の学習として、授業で学習した範囲を何度も復習することが求められる。	
			日本語聴解Ⅱ		初中級レベルの日本語聴解。日本語初級後期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ４合格レベル以上の学生を対象とする。日本語能力試験Ｎ３の練習問題を通して聴解練習をし、初中級レベルの日本語表現を学ぶ。日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やスピーチを聞いて、話の内容や流れを理解したり、要旨を把握したりすることができるようになることを目指す。毎回授業後に課題を提出することが求められる。	
			日本語聴解ⅢＡ		中級前期レベルの日本語聴解。初中級レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ３合格レベル以上の学生を対象とする。日本語能力試験Ｎ２の練習問題を通して聴解練習をし、日本語の表現を学ぶ。日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やスピーチを聞いて、話の内容や流れを理解したり、要旨を把握したりすることができるようになることを目指す。毎回授業後に課題を提出することが求められる。	
			日本語聴解ⅢＢ		中級前期レベルの日本語聴解。初中級レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ３合格レベル以上の学生を対象とする。日本のアニメ映画やTVドラマを通して聴解練習をし、日本語の表現を学ぶ。日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やスピーチを聞いて、話の内容や流れを理解したり、登場人物の関係を把握したりすることができるようになることを目指す。毎回授業後に課題を提出することが求められる。	
			日本語聴解ⅣＡ		中級後期レベルの日本語聴解。中級前期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。日本語能力試験Ｎ１の練習問題を通して聴解練習をし、日本語の表現を学ぶ。日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やスピーチを聞いて、話の内容や流れを理解したり、要旨を把握したりすることができるようになることを目指す。毎回授業後に課題を提出することが求められる。	
全学共通科目（続き）	言語科目（続き）	日本語（続き）	日本語聴解ⅣＢ		中級後期レベルの日本語聴解。中級前期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。日本のTV番組やニュースを通して聴解練習をし、日本語の表現を学ぶ。幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや論理構成などを詳細に理解したり、論旨を把握したりすることができるようになることを目指す。事前事後学習として、小テストの準備、レポート、課題を提出することが求められる。	
			日本語聴解ＶＡ		上級レベルの日本語聴解。中級後期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ１合格レベル以上の学生を対象とする。日本の文化・伝統に関するさまざまなテレビ番組を通して聴解練習をし、日本語上級の表現を学ぶ。自然なスピードで話される、幅広い話題に渡る長い会話や講義、討論、ニュースの内容を詳細に理解し、その論理構造や要旨を把握することができるようになることを目指す。毎回授業後にディクテーションの課題を提出することが求められる。	
			日本語聴解ＶＢ		上級レベルの日本語聴解。中級後期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ１合格レベル以上の学生を対象とする。日本の社会・生活に関するさまざまなテレビ番組を通して聴解練習をし、日本語上級の表現を学ぶ。自然なスピードで話される、幅広い話題に渡る長い会話や講義、討論、ニュースの内容を詳細に理解し、その論理構造や要旨を把握することができるようになることを目指す。毎回授業後にディクテーションの課題を提出することが求められる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			日本語文章表現入門		初級前期の日本語文章表現。日本語を少し学習したことのある学生を対象とする。日本語総合入門の進度に合わせ、日本語総合入門で使用している教科書『みんなの日本語初級Ⅰ』に準拠した教材『みんなの日本語初級 やさしい作文』の作文課題に取り組む。学習した初級前期の語彙や文型、表現を使って、さまざまなテーマで作文を書くことを通し、「書く」の基礎的なスキルを身に付けることを目指す。授業の初めの段階では、ひらがな・カタカナの書き方を学習する。	
			日本語文章表現Ⅰ		初級後期の日本語文章表現。日本語初級前期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ５合格レベル以上の学生を対象とする。日本語総合Ⅰの進度に合わせ、日本語総合Ⅰで使用している教科書『みんなの日本語初級Ⅱ』に準拠した教材『みんなの日本語初級やさしい作文』の課題に取り組む。学習した初級後期の語彙や文型、表現を使って、さまざまなテーマで作文を書くことを通し、「書く」の基本的なスキルを身に付けることを目指す。	
			日本語文章表現Ⅲ		中級前期レベルの日本語文章表現。初中級レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ３合格レベル以上の学生を対象とする。日本語で大学教育を受けるのに必要なアカデミック・ライティングを学習する。アカデミック・ライティングの基礎を学び、わかりやすくまとまりのある文章を書く練習を行った上で、「テクノロジー」「教育」「働き方」「SDGs」など、いろいろなテーマで「小論文」「レポート」を書く。日本語で論理的な文章が書けるようになることを目指す。	
			日本語文章表現Ⅳ		中級後期レベルの日本語文章表現。中級前期レベルを修了した学生及び日本語能力試験Ｎ２合格レベル以上の学生を対象とする。抽象的でアカデミックな小論文の書き方を学習する。「句読点や記号の使い方」「話し言葉から書き言葉への切り替え」「客観的な文の書き方」「要約のしかた」「引用の方法」など基礎から順に学習する。書き言葉や抽象的な内容に使われる単語、文法、表現が使えるようになること、適切な表現と構成で、意見文、説明文などが書けるようになることを目指す。	
		日本語・日本文化科目	日本伝統文化		各分野で活躍する講師を招き、日本の伝統文化について学ぶ。交換留学生及び特別履修生を対象とする。「茶道」「着物の着付け」「日本舞踊」「書道」「折り紙」「琴」「和太鼓」「華道」等について、講師による講義、実演を行った上で、履修者がこれらの伝統文化を実際に体験する。日本の伝統文化を理解することで、日本社会や日本の人々とのコミュニケーションを円滑にするとともに、異文化への理解と多様性の尊重を深めることを目指す。	
	世界市民教育科目	平和・人権・環境・開発科目	平和学入門	○	現在、多くの民衆が戦禍に喘いでおり、戦争を低減化し平和を構築することが、今こそ求められている。また貧困格差が広がっており、私たちの身近で切実な問題となっている。さらに現在は転換期であり、人新世や脱成長、ビッグヒストリーなどが提起されている。本講義では、どうしたら仲良く幸せに生きれるのかを追究する幸福平和学を試みる。岩木秀樹著『幸福平和学　暴力と不幸の超克』をテキストとして、戦争の原因、貧困格差の問題、非殺人・人新世・利他主義・ケア・レジリエンス、さらに現在生起しているウクライナやガザの紛争や原因、イスラームと仏教の比較についても講義する。双方向性を担保するため、毎回授業の要約や感想要望などを書いてもらう。	
全学共通科目（続き）	世界市民教育科目（続き）	平和・人権・環境・開発科目（続き）	平和と人権	○	（概要）本講義では「平和とは何か」、「我々は平和創造にどのように取り組んでいくべきなのか」といった命題について多面的に考察していく。多種多様にわたる平和への課題に対する平和研究の学際的なアプローチの概要を知ってもらうために、リレー講義方式を採用する。また、適宜学外からゲストスピーカーを招いて、特別講演を行ってもらう。講師の事情により、講義予定変更の可能性があるので、授業計画の詳細についてはガイダンス時に説明をする。 （オムニバス方式/全15回） （44.玉井 秀樹/7回） 「平和学への招待―戦争と平和」等について考察する。 （93.中山　賢司/4回） 「ジェンダー・マイノリティー・人権」等について考察する。 （62.佐々木 論/2回） 「貧困と健康からみる人間の安全保障」等について考察する。 （249.蔦木 文湖/2回） 「移民・難民問題と多文化社会」等について考察する。	オムニバス

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			ダイバーシティ&インクルージョン入門		（概要）現代社会は、異なる属性・特性をもった人々がともに暮らし、働き方やライフスタイル、価値観の多様化が進んでいる。ダイバーシティ&インクルージョン（以下「D&I」）とは、こうした多様性（＝ダイバーシティ）を受け容れ、新しい価値を創造するために活かすこと（＝インクルージョン）を指す。本授業では、現代社会においてD&Iが重視されるようになってきた背景、また様々な分野におけるD&Iの捉え方や現状・課題を学び、D&Iについての基礎的理解を養っていく。本授業は複数の講師によるオムニバス方式で行う。講師とテーマは以下の通りである。 （オムニバス方式/全15回） （50.村上 信明/4回） 「自分の中の多様性、身の周りの多様性」・外部講師を招聘しての講義 （95.岡本 梢/2回） 「ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）とは何か」 （100.倉橋 耕平/2回） 「ジェンダーとD&I」 （59.鶴田 真紀/1回） 「教育におけるD&I」 （43.井上 大介/1回） 「出自・人種・文化・年齢等の外面的な多様性とD&I」 （54.大西 克明/1回） 「宗教・思想・価値観等の内面的な多様性とD&I」 （51.Anne Mette FISKER-NIELSEN/1回） 「グローバルな視点から見たD&I」 （128.藤倉 ひとみ/1回） 「性の多様性とD&I」 （99.岩川 幸治/1回） 「障害とD&I」 （69.山﨑 めぐみ/1回） 「キャンパス・ライフとD&I」	オムニバス
			ライフイベントとジェンダー	○	（概要）本授業は、3年生以上の学生を対象とし、現在の創価大学ダイバーシティ・インクルージョンセンターが中心となって開講している。各専門分野の8名の講師陣によるオムニバス方式で授業を進める。「男女共同参画」や「ジェンダーや多様性」、「仕事と生活(ワーク&ライフバランス)」、「生きることや人生」について、自身に照らし合わせながら履修者の理解、考察を深めていく。講師とテーマは以下の通りである。 （オムニバス方式/全15回）	オムニバス 共同（一部）
全学共通科目（続き）	世界市民教育科目（続き）	平和・人権・環境・開発科目（続き）	ライフイベントとジェンダー （続き）		（64.長沼　貴美・13.高瀬　明・100.倉橋　耕平・99.岩川　幸治・27.増井　淳・89.里上　三保子・36.岡部　史信・135.渡辺　哲子/2回） （共同） ガイダンス及び全授業回を俯瞰した総評（ライフイベントとジェンダーワークショップ/全教員対学生との質疑応答など） （64.長沼 貴美/3回） 「ヒトの成長発達における男女の違い」「妊娠・出産・子育て」「社会で活躍する方をお迎えしての講演とワークショップ」 （13.高瀬 明/1回） 「様々な視点から多様性～自然と社会～」 （100.倉橋 耕平/2回） 「ジェンダー問題とは？」「結婚とジェンダー」 （99.岩川 幸治/2回） 「若者の恋愛」「ひとり親家庭」 （27.増井 淳/1回） 「なぜ男女の間で差別が起きるのか？～意識的な差別と無意識の差別～」 （89.里上 三保子/1回） 「女性労働の比較検討」	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					(36.岡部 史信/2回) 「男女平等社会の実現と社会保障の課題２」 「男女平等社会の実現と社会保障の課題２」 (135.渡辺 哲子/1回) 「教育とジェンダー：SDG ５と社会におけるジェンダー教育」	
			環境と開発	○	(概要) 平和とは何か，我々は平和創造にどのように取り組んでいくべきなのかについて，持続可能な開発および環境問題の側面から考えていく。多様な課題への学際的なアプローチを知るために、国際関係論、国際法、開発経済学、農業経済学、環境論などの観点からの分析、また、国連機関やNGOの取り組みについて関係者の講演を視聴しながら学んでいく。 (オムニバス方式/全15回) *日本語クラス (44.玉井 秀樹・249.蔦木 文湖/7回) (共同) ガイダンス及び全授業回を俯瞰したリフレクション等を実施。 併せて、ゲストスピーカーを招いた特別講演を開催する。 (76.久米川 宣一/1回) 「生物多様性と自然環境保全」等について考察する。 (30.高木 功/1回) 「国連2030アジェンダにおけるLNOB(誰一人置き去りにしない) の理念と私たちの生き方」等について考察する。 (39.朝賀 広伸/1回) 「環境法と環境マネジメント」等について考察する。 (29.掛川 三千代/2回) 「持続可能な開発と国際協力」等について考察する。 (82.内海 友子/2回) 「開発経済学」の観点から持続可能な開発について考察する。 (28.近貞 美津子/1回) 「食糧問題」等について考察する。 (29.掛川 三千代/全15回) *英語クラス 環境や経済・社会活動に負の影響を与えた地球規模の課題を学び、従来の開発政策や、経済成長が引き起こした問題について、歴史的背景や根本的な原因分析を含めて理解する力を修得する。また、経済学の理論のみならず、学際的なアプローチを使って、持続可能な開発、持続可能な社会構築のため、今後の解決の方法、及び政府、企業、個人の役割について、グループ討議等を通じて考察することを目的とする。	オムニバス 共同（一部）
全学共通科目（続き）	世界市民教育科目（続き）	平和・人権・環境・開発科目（続き）	環境問題入門	○	文系の学生が「環境問題」を理解するためには、人為的な影響のない地球の「自然」状態を理解することが極めて重要である。その上で、「人間の生態系」が「自然」環境にどのような影響を与え、汚染や気候変動につながっているのかを考える。このアプローチにより、学生たちは個人の行動と社会の変化（対策）が重要であるという結論に達することができる。このコースでは、この学習プロセスや成果を促進する方法として、「海洋リテラシー」あるいは「海洋」を例として用いてこれらの原則を教えている。	
			現代マスコミ論		本講義は、新聞、放送、出版の分野で活躍してきたジャーナリストを講師に迎えて行うリレー方式の講義である。各講師の講義は、現場のジャーナリストに必要な資質に焦点があてられる。その資質としては、批判精神、好奇心、倫理観、人権意識、自由の感覚、歴史観など多くのものがある。これらがなぜ必要なのか、また、現場の取材や編集などのプロセスにどのように活かされているのか、さらには、好奇心と人権意識の相剋など、これらの資質の相互の矛盾がどのように現れているか、最後に、学生としてこれらの資質を身につけるには何が必要か。本講義では、これらの問題が論じられるとともに、それを通して現代日本のメディアがはらむ問題、それらメディアを読み解く能力にも触れられることになる。	
			地域研究Ａ	○	地域研究では大きく、アジア圏と欧州・アフリカ圏に分け、それぞれに、いくつかの国・地域を取り上げ、世界市民の素養として、世界におけるその国・地域の位置や日本とのつながりについて学んでいく。地域研究Aではアジア圏を扱う。歴史、社会、政治、国際関係、経済など学際的な視点から、それぞれの国・地域が持つ特性について明らかにしながら講義を行っていく。また授業内レポートをもとに、講義内では活発な学生間のディスカッションの時間を取り入れ、活発な意見交換を行なっていく。講義内では映像資料等を随時活用し、学修対象地域の理解を深めていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			地域研究Ｂ	○	地域研究では大きく、アジア圏と欧州・アフリカ圏に分け、それぞれに、いくつかの国・地域を取り上げ、世界市民の素養として、世界におけるその国・地域の位置や日本とのつながりについて学んでいく。地域研究Bでは欧州・アフリカ圏を扱う。欧州・アフリカの広範な地域からいくつかの国を選び、その歴史、社会、政治、国際関係、経済など、学際的な視角から、それぞれの持つ特性や、日本との相違点等について講義を通じて明らかにしていく。本講義では、それぞれの講義に明確なテーマを設定し、学生間のディスカッションの時間を取り入れ、学生間で、活発な議論や、意見交換を行なっていく。また当該地域の現状を、より効果的に理解できるように、講義内では必要に応じて映像資料等を随時活用していく。	
			日本研究		本授業は英語で行う。日本における家族、親密さ、セクシュアリティに焦点を当てていく。海外で研究されるような日本と日本人に関する社会問題と、学問としての日本研究を受講生に紹介する。日本の家族と親密さをより深く理解し、時には難しい問題を英語で議論する能力を養うことを目指す。 日本における家族と人間関係に関する内容や日本と西洋の人間関係、および日本における国際結婚の比較していく。LGBTQ の問題についても、取り上げ、各トピックを自分の経験や理解に関連付けるために、ディスカッションを交えながら、授業を構成していく。	
			世界市民教育演習Ａ		世界市民教育演習は平和・人権・環境など複合的な領域の課題に、世界市民として向き合うための基礎となる知識の習得や態度を養うことを目的に開講されている。学生はあらかじめ教員から提示されたテーマを1つ選び、自分とは異なる学部に所属する学友たちと半期間の演習に参加する。 特に、世界市民教育演習Aでは、平和で持続可能な社会の実現に向けたSDGsに関わるテーマを中心に扱う。学生たちは読書を通じて幅広く学び、授業ではディスカッションやプレゼンテーションに積極的に参加することが求められる。なお、この演習はABに分かれて独立した科目として開講されており、半期の演習を異なるテーマで２回受講することも可能である。	
			世界市民教育演習Ｂ		世界市民教育演習は平和・人権・環境など複合的な領域の課題に、世界市民として向き合うための基礎となる知識の習得や態度を養うことを目的に開講されている。学生はあらかじめ教員から提示されたテーマを1つ選び、自分とは異なる学部に所属する学友たちと半期間の演習に参加する。 特に、世界市民教育演習Bでは、人権や人間の安全保障など、社会正義の実現に関わるテーマを中心に扱う。学生たちは読書を通じて幅広く学び、授業ではディスカッションやプレゼンテーションに積極的に参加することが求められる。なお、この演習はABに分かれて独立した科目として開講されており、半期の演習を異なるテーマで２回受講することも可能である。	
全学共通科目（続き）	世界市民教育科目（続き）	平和・人権・環境・開発科目（続き）	グローバル社会と女性のエンパワーメント		この科目では、グローバル社会において、女性のエンパワーメントが変革を推進する力になることを学び、考え深める。具体的には、①女性を取り巻く社会的背景や歴史、ジェンダー格差の現状について学び、多様な人々が活躍できる社会での生き方、働き方を考える。②創立者池田先生が語り、交流の歴史を綴られた「世界の女性リーダー（ローザ・パークス、ワンガリ・マータイ、ヘイゼル・ヘンダーソン、サーラ・ワイダー等）」の生き方、信念、行動を学び、「平和と調和の社会、生命尊厳の精神が輝く社会」を実現していくために、どのように女性の豊かな力を発揮していけるかを考えていく。	
			プログラムゼミⅢ		（概要）プログラムゼミⅢでは、学生自らが多様な問題を発見し、リサーチを通して問題を構造的かつ総合的に把握していく。そして、一定の専門性に立ちながら、学生の視点に立って、解決のための道筋とアイデアを提示していくことをめざす。また、こうした問題発見能力と問題解決型の思考を養うと同時に、プログラムゼミⅡで修得したアカデミック・スキルを応用しながら、リサーチ力、グループ・ディスカッション力、プレゼン力、論文作成力などの、アカデミック・スキルについても磨いていく。 （オムニバス方式/全15回） （3.井田 旬一/4回） 「気候変動関連政策分析のための科学的知見」等について考察する （39.朝賀 広伸/6回） 「市民参加と社会的諸課題」等について考察する （20.篠宮 紀彦/3回） 「社会課題に対する数理・統計的アプローチ」等について考察する （25.西浦 昭雄/2回） 「プログラムゼミⅢとⅣ（グローバル・イシュー）とを架橋するための事前調査・テーマ検討」等について考察する	オムニバス

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			プログラムゼミⅣ		本ゼミでは、プログラムゼミⅡ・Ⅲで修得したアカデミック・スキルと政策課題の探求力を応用し、PBL（この場合はProblem Based Learning＝問題解決型授業）の手法を用いて主に協同学習によって学習を進めていく。この学習過程を通して、リサーチ力、グループディスカッション力、プレゼン力、文章作成力といったアカデミック・スキルを引き続き磨くとともに、社会への発信力についても培っていきたいと考えている。	
		サービスラーニング・リーダーシップ科目	留学のための国際理解		海外留学体験は、本学の目指す「世界市民」としてのグローバルな視座をもつために極めて重要である。本講義では、留学形態／目標設定の方法／外国事情／危機管理／留学後のキャリア形成などについて履修生自身が留学前に熟考する機会を設けることで、「世界市民」として求められる資質や海外留学の意義について理解を深めることを目的としている。「留学したい」のその先を、外国事情に詳しい講師陣から学ぶことで、より実り多き留学生活を計画できるだろう。本学の多様な留学プログラムを、自身の（4年間の）学修目標にどのように活かすかを考える上で特に学部1・2年生に履修を薦める。なお、外部講師による回の講義テーマは以下の通りである。 第8回　本学卒業生　「留学と卒業後の進路」 第9回　交流校教員による講演①　「International Understanding for Study Abroad」 第10回　交流校教員による講演②　「Global Citizenship」 第14回　招聘講師「企業からみたグローバル人材とは」	
			国際ボランティア実習		本科目は、The Alliance of European Voluntary Organizationに登録をされた約800のボランティアプロジェクトの中から、１つを選択し、７～９月の夏休み期間を利用して参加し、秋学期指定の期日までにレポートを提出することによって単位認定をする。具体的なボランティアプロジェクトへの参加は、国際教育交換協議会（CIEE）が主催をする。ボランティアプロジェクトは世界の25カ国・地域で企画運営されており、内容的には社会福祉、文化・芸術関連、環境保護等、多岐にわたるものとなっている。	
			ボランティア実習Ⅰ		本科目は、大学生にふさわしい学びとしてのボランティア（広い意味での社会貢献活動）に対して単位認定する。単位認定にあたっては、各自が提出したボランティア計画に沿って実習を行い、その進捗や成果をレポートとして報告（提出）する。そのため、以下の点に留意する。１．事前に活動計画を立て、計画に沿って活動すること ２．30時間程度の実働（ボランティア）を伴うこと ３．中間報告を行うこと ４．成果報告を行うこと。ボランティア体験を通じて実社会の実情を体験的に理解し、そこで抱いた問題意識を大学での学問研鑽を通じて、学び深めていく。	
全学共通科目（続き）	世界市民教育科目（続き）	サービスラーニング・リーダーシップ科目（続き）	ボランティア実習Ⅱ		本科目は、すでにボランティア実習Iを履修済みの学生が、引き続きボランティアを通じた体験学習を行う場合を想定して開設している。本科目は、大学生にふさわしい学びとしてのボランティア（広い意味での社会貢献活動）に対して単位認定する。単位認定にあたっては、各自が提出したボランティア計画に沿って実習を行い、その進捗や成果をレポートとして報告（提出）する。そのため、以下の点に留意する。１．事前に活動計画を立て、計画に沿って活動すること ２．30時間程度の実働（ボランティア）を伴うこと ３．中間報告を行うこと ４．成果報告を行うこと。ボランティア体験を通じて実社会の実情を体験的に理解し、そこで抱いた問題意識を大学での学問研鑽を通じて、学び深めていく。	
			八王子学		八王子の過去、現在、未来について知ることを通し、また八王子や多摩地域で活躍している各分野の専門家から学ぶことによって、身近な地域社会を知ることの大切さを認識し、在学中だけでなく卒業後も、自分の暮らす地域社会（海外を含む）をよりよく理解し、貢献していく意識と態度を養うことを目的とする。以下を到達目標としていく。①授業で取り上げられる八王子の具体的な場所・施設（道の駅、郷土資料館、滝山城址など･･･）を３箇所以上訪れ、八王子をできるだけ実感で理解すること。②八王子の地域の特色と魅力を、実家の両親や友人に向かって、具体的に語ることができる。③身近な地域社会について知ることの意義を、他者に向かって明瞭に論じ述べることができる。④地域の特色を踏まえて、地域や社会に貢献しようとする態度を身につけること。	
			総合科目特講		本授業では、スポーツの歴史、スポーツと法律、スポーツ科学、スポーツ心理学、スポーツ栄養学など、スポーツに造詣の深い専門家が講義を担当し、スポーツへの取り組みが人間教育、人格形成、社会の文化形成をもたらすことを学術的に学び、実践に活かしていく。到達目標としては、スポーツの歴史やスポーツをめぐる社会的状況をよく理解する。それを通じて、自身が大学生としてスポーツ競技に関わる中での目標設定やスポーツ選手としての社会的責任の自覚に活かせるようにする。また、スポーツに対して科学的にアプローチすることが、スポーツ競技の発展や、個人におけるスポーツ能力の開発に資することを正しく理解し、実践可能な知識として正しく習得する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			トップが語る現代経営A	○	企業や様々な組織の経営トップの方々を毎回ゲストとしてお招きし、その「生きた経営」を語っていただく授業である。テーマはそれぞれのゲストの方々に毎回設定していただくことになっているが、基本的には、関係する業界・企業の話や組織経営の体験に基づいたリーダーとしての生き方などが講演内容となる。本講義は、日本のビジネス世界を動かしているトップの方々の視点から見た現実の社会を開示する講義であり、単に企業経営にとどまらず社会で活躍する人間としての考え方や行動を学んでもらう絶好の講義である。	共同
			トップが語る現代経営B	○	本科目は、すでにトップが語る現代経営Aを履修済みの学生が、引き続き、受講を希望することを想定して開設している。企業や様々な組織の経営トップの方々を毎回ゲストとしてお招きし、その「生きた経営」を語っていただく授業である。テーマはそれぞれのゲストの方々に毎回設定していただくことになっているが、基本的には、関係する業界・企業の話や組織経営の体験に基づいたリーダーとしての生き方などが講演内容となる。本講義は、日本のビジネス世界を動かしているトップの方々の視点から見た現実の社会を開示する講義であり、単に企業経営にとどまらず社会で活躍する人間としての考え方や行動を学んでもらう絶好の講義である。	共同
			スマート・リーダーシップⅠ		本授業は、将来SA・残寮生・クラブの執行など、先輩として後輩を支えていきたいと考えている学生の皆さんに「リーダーシップとは何か」を学び、考える機会を提供することを目的としている。そのため、履修対象者を1年生秋学期の学生を想定している。授業を通して、「創価大学のリーダーとして」自分はどうありたいかを模索してもらう。数あるリーダーシップ理論・モデルの中から、自分に合ったリーダーシップスタイルを見つけていく。また、理論・モデルを学ぶだけでなく、実践に移すために必要なスキルや考え方の応用の仕方を、実践をとおして経験していく。	
全学共通科目（続き）	世界市民教育科目（続き）	サービスラーニング・リーダーシップ科目（続き）	スマート・リーダーシップⅡ		「スマート･リーダーシップ論」は、理論と実践を結びつけることで、リーダーシップの観点から深い学びを促す学習機会を提供することを目的としている。 本授業は、寮、クラブ、SA等、何らかの自身のフィールドをもっている2年生以上を対象とし、①知識に基づきながら問題解決のための智慧を発揮する、②多様な仲間を尊重、理解し成長することを知識の修得・実践・リフレクションをとおして明確化する、ことを目指す。 この授業を通じて、履修者は次の5点の学習目標の到達が期待される。 ①リーダーとして自分･他者・物事との関係性を理解する ②リーダーとしてグループ･ダイナミクスを理解する ③リーダーとして振り返り力をつける ④リーダーとして後輩に働きかけるコミュニケーション力を身につける ⑤リーダーとして現状を分析し目的や課題を明らかにする力を身につける	
			スマート・リーダーシップⅢ		本授業は、スマート･リーダーシップⅡを受講した学生が、リーダーとして新しい価値を生み出していけるように、ファシリテーション力を実践的に磨くことやコンフリクト･マネジメント力をつけることを目標としている。本授業を通じて、履修者は次の4点の学習目標の到達が期待される。 ①リーダーとして新しい価値を生み出す力をつける ②リーダーとして目標を達成するために、他者を巻き込みながら計画し行動する力をつける ③リーダーとしてファシリテーションスキルを身につける ④リーダーとしてコンフリクト・マネジメント力を身につける	
			プログラムゼミⅡ		プログラムゼミⅡ（Basic Research）では、リサーチの基本的な手法を学ぶ。すなわち、「どのように問題を発見するか（「決められた問題について調べる」から「問題を立てて分析する」へ）」「どのように分析するか（資料の集め方、データの分析の仕方）」「どのように発表するか（リサーチペーパーの書き方、プレゼンテーションの仕方）」を学びたい。授業では、教員がおこなう講義と、学生が自ら行うリサーチから構成される。講義では、問題発見、分析手法、論文の構成などについての講義を行う。リサーチでは、講義をふまえ、学生が4～5人程度のグループをつくり自ら問題を設定し、リサーチを行う。リサーチグループは、各学生の興味分野に応じてつくる。	
		数理・データサイエンス・自然	データサイエンス入門	○	本授業ではデータサイエンスを「データに基づいて価値的な意思決定・課題解決を行うこと」と捉え、その基礎を学ぶ。具体的には、社会におけるデータ・AIの活用と技術、データ整理と分析の方法、そしてデータ活用に関わる倫理的な背景を学んでいく。本科目では反転授業が行われる。この科目で大切にしている問いは以下の通りである。・AIやデータサイエンスがどのように社会に劇的な変化をもたらしているのだろうか？ ・AIやデータサイエンスの基礎を学ぶことが、どのように自分の人生に役立つのだろうか？ ・新聞やニュースで読む数字やグラフから、どのような意味を見出し、どのような価値を創造できるだろうか？ ・AIやデータサイエンスの発展を人類の幸福に直結させるために、どのようなことを議論すべきだろうか？この問いを中心に、授業を構成していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	然科目	AI基礎		数理・データサイエンス・AIの基礎は，今後のデジタル社会の基礎知識として不可欠なものである．本授業では，このうちのAIの基礎に関して，AIの歴史，知覚・知能処理の基礎，機械学習・深層学習・生成AIの基礎と応用，AIの構築と運用，AIと社会の係わり，及び今後の展望に関して学習する。以下の３点を到達目標とする。(1)AIのこれまでの変遷を学び各段階における代表的な技術を理解する。(2)画像・映像，音声・言語を扱う知覚・知能処理，及び機械学習，深層学習，生成AIの基本的概念を理解する。(3)AIのいろいろな分野での応用を学び，今後AIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点を理解する。	
		大学生のための情報・デジタルリテラシー		本授業では、大学生がデジタル技術を活用し、社会で活躍するために必要な情報リテラシーとITリテラシーを実践的に学ぶ。大学生活で役立つデジタル技術やWebサービスについて理解を深め、それらを学習にどう活かすかを探るとともに、問題解決力向上を目指し、文献やオープンデータの収集・整理を行い、考察していく。また、HTML、CSS、JavaScriptを用いたWebサイト作成の基礎も習得し、簡単なWebサイトを作成できるスキルを身につけることを目標とする。	
		基礎数学Ⅰ		本授業では、整数・代数・幾何・数列・関数・微積分の範囲の数学を扱い、体系的に数学を理解し、数学に対する生き生きとしたイメージや直感を身につけ、言語として使いこなせる力を養う。また、就職試験で使われるSPI非言語数理問題や公務員試験で使われる数的推理・判断推理の問題に対応できる論理的思考力や数的処理能力の育成も目指す。到達目標は、「論理的多面的に考察することができるようになる」「具体的には、毎回の講義内で行う、その回に学習した内容の確認テストおよび定期試験で合格点を取る」ことを目指す。	
全学共通科目（続き）	数理・データサイエンス・自然科目（続き）	基礎数学Ⅱ		本授業では、方程式・確率・集合とキャロル表・推論などの範囲の数学を扱い、体系的に数学を理解し、数学に対する生き生きとしたイメージや直感力を身につけ、言語として使いこなせる力を養う。具体的には、就職試験で使われるSPI非言語数理問題や公務員試験で使われる数的推理・判断推理の問題を中心に扱いながら、論理的思考力と数的処理能力の育成を目指す。到達目標は、「論理的多面的に考察することができるようになる」「具体的には、毎回の講義内で行う、その回に学習した内容の確認テストおよび定期試験で合格点を取る」ことを目指す。	
		統計学入門Ⅰ		統計学とは、一言でいえば、「数量的なデータからそのデータの由来する諸現象に関する情報を取り出すための科学的方法とその理論の体系」である。日常的に私達は多くの統計情報に接しているし、社会の現象を理解する上で統計の知識は必須である。また、自然科学に限らず、社会科学・人文科学の諸学問分野において、統計学の基礎的な知識は必要となっている。この授業は統計学の考え方と統計分析の基礎を修得することを目的としている。	共同
		統計学入門Ⅱ		本授業では、統計学入門Ⅰで学んだ知識をもとに推定・検定に関する基礎的な理解を目指す。主に、集団の特徴を数字によって把握する「記述統計」（平均値、標準偏差、相関係数等）と、確率にもとづいて集団の特徴を把握する「推測統計」（推定と検定）の基本について学ぶ。具体的な到達目標としては、「平均、分散、相関係数、回帰直線といったデータの分析法の理解」「母集団と標本の関係の理解」「確率の考え方の理解」「統計的データの解釈と統計的議論の分析」ができるようになることを目指す。	
		情報科学		情報は社会の基本要素であると同時に、新しい価値や変革を生み出すための資源でもある。また、情報は個人の行動選択、組織の意思決定、社会の秩序形成に大きな影響を与え、社会のありようを決める力を持つ。超スマート社会の中核を担う学生が、この情報の力の原因や深層に潜む原理や、情報化社会における責任ある行動の重要性を理解し、情報社会を生き抜く情報リテラシーを修得し、情報の有効な活用能力や判断力、問題解決能力を培うことを目標とする。本科目では、「情報リテラシー」「コンピュータとネットワーク」「データサイエンスの基礎」など、広い視野で解説する。さらに、「情報セキュリティ」や「情報倫理」についても触れる。また、実践的な演習を通じて、理論と実践の橋渡しを図る。	
		生命科学		（概要）化学の基礎および生物の基本的な構造と機能、遺伝、進化、医学、医療などを中心とした生命科学の学問分野において、理系学生に限らず、文系学生においても教養として身につけてほしい知識の修得を目指すとともに、生命科学に対する興味・関心を深めてもらうことを目的とする。	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
				(61.丸田 晋策/全15回) 生体内で起こっている巧妙な生命現象の中で特に興味深いものを、日常生活にみられる類似の現象と対比させてやさしく解説する。私たちの身体を構成しているタンパク質，脂質などの構造と働きや、エネルギーとして生体で利用される糖の構造を楽しく理解するために、果物は冷やすと甘くなるか、おいしい焼き芋の作り方、カニの甲羅はカルシウムではなく人工皮膚に利用される糖であるなどを分子レベルで説明していく。また、遺伝学の基礎、遺伝子DNAの構造や機能の基礎、及び、進化の考え方を簡潔に解説する。文字資料だけでなく、画像や映像資料をできるだけ多く用いて、遺伝子や生物の進化と、ヒトの行動・人類の歴史との関係を考察する。人類の歴史・進化に関しての最新の考え方も紹介する。 （オムニバス方式/全15回） (16.関 篤志/8回) 身の回りの物質や現象を理解し、これらの物質や現象が私たちの生活とどのような関係があるのか、さらに安全・健康に生きるために必要なことについて考える。実験のデモンストレーションを行う場合がある。 (106.近藤 和典/7回) 遺伝学の基礎、遺伝子DNAの基礎、進化の考え方を理解する。映像資料を用いて、遺伝子や進化と、ヒトの行動・人類の歴史との関係を考える。 （オムニバス方式/全15回） (62.佐々木 論/13回) 「健康な学生生活のために感染症・喫煙・心の健康・睡眠」等について考察する (63.佐藤 健人/1回) 「免疫のしくみ」等について考察する (133.忍田 祐美/1回) 「米国における医療と看護」等について考察する	
全学共通科目（続き）	数理・データサイエンス・自然科目（続き）	環境科学		本授業では、我々の周りに存在する多種多様な植物の持つ特徴とその有用性について解説を行う。中でも野菜やハーブ・大学内の植物など身近な植物を通して、植物が様々な生物の生活に関与し、寄与していることを解説する。この解説を通して、我々が日常的に周りに生育する植物によって、生活面・精神面に多大な影響と恩恵を被っていることへの理解を深め、植物や環境を大切にしていくことを学ぶ授業としたい。本講を通して自然科学領域の基礎知識として次の３点の見識を深めてもらうことを目標とする。 （１）自己の周りに存在する多種多様な植物に対する知識を深める。 （２）様々な植物の持つ有用性を理解し、各々の生活に活用する方法を述べることが出来る。 （３）周りの植物への関心を持ち、自己の生活環境を改善する方法を述べることが出来る。	
		プログラミング		本授業では、本格的にプログラミングを学ぶ際に，自発的かつ円滑に学びを進められるようプログラムの基本的な概念を学ぶ。Pythonを使い，演習形式で授業を進める。「Processingのインストール」「コンピュータの座標系」「変数と型」「演算子」「条件分岐」などのテーマを扱っていく。到達目標としては、様々なプログラミング言語に共通した処理構造である「繰り返し」や「条件分岐」について説明することができること、簡単なプログラムを設計し，Processingで書くことができることを目指す。	
		社会システム・ソリューションⅠ		現在、社会で需要が高まっているデータサイエンス人材に必要とされる、データ処理・分析、人工知能や機械学習の活用に有用なPython言語の基礎を学ぶ。Pythonは汎用性が高く、データ分析からWebアプリケーション開発まで用途が広く、書式と文法がシンプルで分かりやすいため、プログラミングの初心者でも学びやすい言語である。特に数値計算、データ解析、人工知能や機械学習の開発に特化した専門性の高いライブラリが豊富であり、少ないコードで多彩な機能を実装でき、開発スピードと品質を向上させることができる。	
		社会システム・ソリューションⅡ		問題解決の第一歩は、現状の把握である。「社会システムソリューションII」では、社会の現状を把握し、意思決定していくために必要な、データ分析能力を習得する。データを扱うための学問は統計学のため、グラフ作成スキルをはじめとして、確率・統計の知識を身につけながら、データを通して社会現象を読み解くトレーニングを行う。データ分析能力は、例えば、ビジネス戦略や行政施策を立案・検討する際に、大きな効果を発揮する。ここで学んだ知識は、現状把握だけでなく、プランの妥当性のチェックにも応用していくことができる。 （オムニバス方式/全15回） (23.浅井 学/7回) 「平均・分散・標準偏差・確率・期待値・確率分布」など	オムニバス 共同（一部）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					(92.蝶名林 俊/7回) 「母集団と標本・推定・検定」など (23.浅井 学・92.蝶名林 俊/1回) (共同) 「イントロダクション」など	
	人文・社会・健康科目	人文科学系科目	音楽		本科目では、誰もが一度は聴いておきたいバロック期、古典派、ロマン主義、印象派、近代・現代までのクラシック音楽の傑作を紹介しながら、聞き手の立場とともに作曲家の立場に立って作品を鑑賞していく。数々の名曲を聴きながら、音楽映画の鑑賞を通して、「西洋音楽史」、「音楽通論」、「和声学」、「楽式論」、「楽曲分析」、「音楽鑑賞法」等といった音楽の分野に関連する様々な内容を分りやすく解説し、音楽を総合的に理解できるよう講義を行なっていく。	
			美術		本科目では、古代から近代19世紀に至る期間において、西洋の美術がどのような歴史的変遷をたどってきたかを概観する。また、それぞれの時代を象徴するような美術家に焦点をあてて、その人物について、歴史的、社会的、宗教的な背景を考慮しながら多角的に学んでいく。次に、本科目で取り上げた美術家が作成した著名な作品を何点か取り上げて、なぜこのような作品が生まれ、また評価されているのか、教員と学生同士が相互にディスカッションを行いながら、美術について多岐に渡って学んでいく。	
全学共通科目（続き）	人文・社会・健康科目（続き）	人文科学系科目（続き）	文学入門		自身を取り巻く諸問題に対し、（文学作品の読解を通して）積極的に問いかけ、自ら考察していく態度を養う。授業は基本的にLTDのスタイルを〈文学的〉バージョンにした形で進行する。到達目標は、以下の通りである。 （1）近代日本文学を鑑賞するための基礎知識を得る。 （2）それぞれの作品に対する＜自分（なり）の読み＞（解釈）と意見を獲得する。 （3）現代が抱えるさまざまな課題・問題について、自覚的主体的に考察する態度を養う。 （4）自分の意見を他人に伝え、他人の意見に耳を傾けるといった、〈コミュニケーション〉能力を涵養し、グループで討議し自分たちの意見を集約する態度を養う。	
			哲学入門		本授業では、古代から現代に至る哲学者たちが考えてきた古典的哲学問題に関して、哲学者たちの書いた古典的著作を読みながら皆で考えていき、「哲学」とは何かをつかみ取ってもらうことを目標とする。そして、こうした営みを通して、プラトンが「真実を観ることを愛する人」と呼んだ「哲学者」の精神への一歩を、私たち一人ひとりが踏み出すことを目指してみたい。到達目標は、次の通りである。 ・哲学の古典の読解に挑戦し、自分なりに理解する。 ・私たちの生きる世界を哲学的にながめる視野を獲得する。 ・他の履修者と哲学の問題について議論することに慣れる。	
			倫理学入門		本授業では、現代社会における「倫理」の問題を紹介しながら、受講者とともに倫理学の基本主題を把握するとともに、それについて自分の判断をもち、かつ他者と議論をする基礎的素養を身につける。また、その際、哲学・思想上の古典にも親しみつつ、批判的思考力と総合的判断力の基盤をつくる。できるかぎり、映画やドキュメンタリーなどの映像資料と、哲学や文学などの古典名著とを組み合わせた構成にする。到達目標として、「哲学・倫理学上の古典の読解に挑戦し、自分なりに理解する」「現代社会におけるさまざまな倫理問題について、倫理学的に思考する素養を身につける」「倫理問題について自分の判断をもち、それを他者との議論を通して深めるための基盤をつくる」ことを目指す。	
			宗教学入門		転換期としての現代世界においては、「人間と宗教」の間に繰り返し生じてきた基礎的かつ根本的な問題が、再び大きな避け難い課題として急浮上してきている。「宗教・歴史・文化」という宗教に関連する主要な契機の構造連関は、次々と生じる現代的な危機の現場を介して、脱皮しつつ新たな創造的関係に建て直されることが求められている。本講義では，現代世界に生じた宗教に関連する歴史の根本動向を俯瞰しつつ，それらを基礎的な問題場面にもどして省察する。その中で「宗教的なるもの」に固有の根本構造の現代的な脱皮的変容の道筋を共に探ることとしたい。	
			歴史入門		（概要）本科目は、日本史及び世界史を通じて、人類の歩みや社会の発展過程を考察する。古代から現代に至るまでの主要な出来事、文化、政治、経済の変遷を学び、歴史的視点を養っていく。日本史では国内の出来事や文化の独自性を、世界史ではグローバルな視野を重視し、歴史の多様性と共通性を理解していくことを目指す。 (26.西田 哲史/全15回) 帝国主義的世界体制の歴史における複雑な因果関係を読み解き、現代世界の仕組みと歴史を語れる自分になるための、入門講座である。「現代史とは帝国主義的世界体制の歴史である」という仮説の検証を通して、現代世界を見渡す歴史学的センスを身につけたい。	オムニバス

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					（オムニバス方式/全15回） （220.梶川 貴子/5回） 「国際的な奈良時代」「平安京の生活」「武士と鎌倉時代」等について考察する （219.小倉 裕児/5回） 「ペリー来航―開国から倒幕へ」「明治国家の形成と東アジア」等について考察する （119.開沼 正/5回） 「17～18世紀の諸問題」「改革と反動」「鎖国の実態」等について考察する	
全学共通科目（続き）	人文・社会・健康科目（続き）	人文科学系科目（続き）	言語学入門		なるべく平易な言葉で言語学の諸分野の基本的な考え方を紹介する。データとしては、主に日本語と英語を用いる。言語を様々な観点から客観的に見つめる視点を養いつつ、具体的な言語データの観察を通して、言語学の基本概念や分析方法を学ぶ。一方的な講義ではなく、毎回、問題提起を行い、それを皆で考えるという対話的な方法で授業を進めたい。 到達目標は次のとおりである。 １）言語学の基本的な考え方と分析方法を知る。 ２）日本語を世界の言語の一つとして相対的に位置づけ、その特徴を客観的な観点から説明できるようになる。 ３）世界の諸言語について概要を知る。 （オムニバス方式/全15回） （47.山岡 政紀/5回） 「バイリンガリズムと臨界期から，言語と脳の関係性を考える」など （48.斉藤 信浩/10回） 「世界の言語地図（語族・語派の分布、言語類型論）」「自然言語の法則性」など	オムニバス
			翻訳演習（中日）		本授業では、主として中国語から日本語へ「翻訳」する理論と実践を学ぶ。講義前半は翻訳を効果的に進める為に、まずその為の文法を整理することを中心に講義する。その上で、その文法事項を定着させる為に、幾つかの練習問題も行う。講義後半は、実践演習とする。実際に訳文を作り、より完成度の高い訳文と比較しながらスキルを磨いていく。到達目標としては、「中国語の原文を深く読み、その内容を正しく理解し、理解した内容を正しく日本語で書くこと」を目指す。	
			翻訳演習（日中）		本講義では、主として日本語から中国語へ「翻訳」するスキルと実践を学ぶ。講義前半では翻訳を効果的に進める為に、まずその為のスキルを整理する。その上で、そのスキルを定着させる為に、幾つかの練習問題も行っていく。講義後半は、実践演習とする。実際に訳文を作り、より完成度の高い訳文と比較しながら実践力を磨いていく。到達目標としては、「日本語の原文を深く読み、その内容を正しく理解し、理解した内容を正しく中国語で表現すること」を目指す。	
			ロシア語集中演習Ⅰ		本授業は、高度なロシア語能力の習得を望む学生に向けて開講される集中演習である。ロシア語→日本語、日本語→ロシア語の実践的な翻訳トレーニングと通訳トレーニングを通して仕事で使えるスキルを養うことを目的とする。具体的には、映画、有識者・政治家のスピーチなどを教材として用い、教材の翻訳→逐次通訳→同時通訳の順に練習を行うことで、段階的に通訳の技術を身につけていく。音声のあるロシア語教材を使用する場合は、シャドーイングを行う。また、文学作品の翻訳も行うことで、通訳とは異なる訳出の技術も学ぶ。ロシア語能力検定試験２級の合格を目指す。	
			ロシア語集中演習Ⅱ		「ロシア語集中演習Ⅰ」で学習した内容をもとに、さらに高度なロシア語運用能力習得のために、実践的な練習を重ねていく。ロシア語運用能力が向上するに従って、「ロシア語集中演習Ⅰ」よりもさらに量的、質的に高度な教材をを用いていく。ロシア語の構造により習熟するためにロシア語の多読と翻訳を行うことで、実践的トレーニングに必要な基礎力を養う。その後、エスコート通訳、商談通訳、会議通訳等で使用される単語、表現を暗記したうえで、通訳演習に取り組む。また、ビジネス文書の翻訳も行う。ロシア語能力検定試験２級の合格を目指す。	
		社会科学系科目	法学入門		法学は、法を理論的に理解するための学問である。私たちは、毎日の生活において、知らず知らずのうちに法と関わっている。物を買ったり、アパートの部屋を借りて住んだり、車やオートバイを運転したり、これら全てが法との関係をもっている。したがって、社会で生きる以上、法についての理解が必要である。しかし、法は、とっつきにくく、難しいと思われている。そこで、本講義では、法を抽象的にではなく、できるだけ具体的な問題に即して考えていく。また、最近は、出生前診断、生殖補助技術など、生命倫理と法が問題となるケースが増えている。授業では、こうした最新の問題についても考えていきたい。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			日本国憲法		日本国憲法が施行されて既に60年を過ぎたが、人間で言えば還暦の齢を超えたことになる。この間、国民主権主義、基本的人権尊重主義、平和主義を基本原理とする憲法は、国民各層の広い支持を受けて、空気のような存在になっている。しかし、反面、憲法改正問題が上がってきている。本講義では、われわれの社会的、政治的、精神的、文化的、はたまた宗教的日常生活に如何に憲法が深く関わっているかを、日常の生活の中で接するさまざまな事象を取り上げながら、受講者と一緒に憲法の全体像を明らかにしていく。	
全学共通科目（続き）	人文・社会・健康科目（続き）	社会科学系科目（続き）	ミクロ経済学入門		この講義では、経済学の初学者を対象にミクロ経済学の初歩的な基礎知識を取り扱う。市場経済では、家計や企業は市場で決まる価格を見ながら何をどれだけ需要し、供給するかを決定する。これらの意思決定を相互に調整する役割を果たしているのが価格メカニズムであり、市場と価格の働きを理解することは、市場経済の仕組みを理解するうえで不可欠である。ここでは、家計と企業の経済行動の分析から出発して、市場における価格形成のメカニズムを説明し、それを通じて資源がどのように配分されるかを考えていく。	
			マクロ経済学入門		この講義では、マクロ経済学の基礎を学習する。マクロ経済学とは一国経済を全体的・集計的に捉え、経済の構造や働きを捉えるための理論の体系である。ミクロ経済学では、市場（価格）メカニズムによる「資源の最適配分の問題」を解明するが、このマクロ経済理論では、経済全体の仕組みやその機能の分析ならびに「経済安定化の問題」を扱う。より具体的には、国民所得の概念、有効需要と乗数メカニズム、貨幣の機能、マクロ経済政策、国際マクロ経済学の基礎などを学ぶ。こうした理論学習をもとに、経済の成長と循環、失業率、インフレ・デフレ、国際収支（為替レート）の動向などの問題を考察していく。	
			経営学入門		企業論の基本的な理論と、企業と社会についての理論と実際について学習する。 雇用問題・環境問題・国際化等々、現代の重要な問題の多くに、企業の行動が深く関わりを持っている。 企業の社会的責任や企業倫理などについての基本的な理論や、20世紀後半～現在までの事例を用いて授業を行う。到達目標として、次の７点を挙げる。 (1)　テーラー科学的管理法、インダストリアル・エンジニアリングに代表される、作業研究重視の管理論の理解。 (2)　チャンドラーの「見える手」の議論、チャンドラーの「戦略に組織は従う」の議論、ホーソン実験、バーナードの議論に代表される組織論の理解。 (3)　ポーターの戦略論、バーニーの戦略論に代表される戦略論の理解。 (4)　最近の企業経営の動きとしてのグローバル化、M&Aの理解。 (5)　ビジネス書として人気が続いているドラッカーとクリステンセンの理解。 (6)　定番の事例と最近の事例の理解。 (7)　株式会社の構造と機能の理解。	
			社会学入門		本講義では、社会学の基本的な発想を学ぶだけでなく、その応用にも取り組む。社会学は、近代的理性による近代社会の自己反省の学問である。講義者自身は、「何のための社会学か」という問題意識を忘れてはならないと考える。望ましい社会のあり方について、受講生諸君とともに考えたい。特に、個人と社会の関係をめぐる社会学の根本問題については受講生どうしの討論の機会を設け、それが各自の立場を論理的に表明する訓練の場となるよう工夫する。	
			国際関係論入門		本講義は、国際社会の歴史と理論を、平和追求のために学ぶことを目的としている。国民国家中心の在来の国際政治秩序について、現在なおアメリカ外交に多大な影響力を有するアメリカ政治リベラルを代表するハーバード大学ジョセフ・ナイ教授の『国際紛争』を使用して、アメリカが何を考え、どのように行動するかという視点にたってグローバル化しつつある現代国際関係の理解と解明を試みる。到達目標として、「国際社会の理論と歴史について理解すること」「同時に地球規模の諸問題を平和確立の視点から解明すること」「国際関係学の理論を使用して力の政治の現実主義的必要性からも、理想主義的国際の平和と協調の理念的必要性からも国際社会の平和の必要性を理解すること」を目指す。	
			政治学入門		政治学の主要なテーマを通じて、政治とはどのようなものか、現代政治が直面する課題とは何か、について理解するとともに、政治学を学ぶための方法、必要となる概念や知識、政治学特有の方法を修得することで、政治学の基礎力を養成する。さらに、政治学に関連する文献の講読を通して自ら理解を深めることのできる能力を養成する。次の４点を到達目標とする。 ①現代政治が直面するさまざまな課題について認識することができる。 ②政治学の基本的な概念や知識について正確に把握することができる。 ③政治的事柄に関して学問的かつ体系的に思考することができる。 ④政治学の基本文献を自ら読み、理解を深めることができる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			心理学入門		本講義では「心理学の入門編」として、心理学の基礎的な知識や、心理学の考え方について段階的に学んでいく。感覚・知覚・記憶・学習等などに関する基本的な心のメカニズムの基礎心理学、人の一生を通じての発達心理学、また集団と社会との関係性における社会心理学などについて毎回テーマを決めて進めていきたい。心理学という学問をのぞいてみようと思っている人や、心理学に関心がある人、またはじめて心理学に触れて、生活の中で活かしていきたいと考える学生は、本科目を受講する事を強く勧める。	
全学共通科目（続き）	人文・社会・健康科目（続き）	社会科学系科目（続き）	教養地理学		人間生活にとって最低限必要なものを「衣食住」というが、これらは、生物体としての人間の生命を維持し、繁殖活動を行うのに必要なものである。衣は、恒温動物であり、かつ保温のための体毛を失ってしまった人類が、寒冷な気候に対応するために発明したもので、氷期の気候を乗り切り、また、冷帯、寒帯への人類の進出を可能にした。住は、巣であり、本来は繁殖活動のためのものである。食は、人間の基礎代謝、および運動エネルギーの源であり、生命維持に最も必要なものである。この授業では、人類の食の関係を地理学の立場から考察する。	
			教育学入門		この授業は、教育に関心を持っている学生を主な履修者に想定し、教育環境にいるさまざまな立場から状況を考察する機会を提供することを目指す。学校の役割を考えることから出発し、教育は個人や社会にどのような影響を与え、どのような影響を与えられているのかを考える。立場が異なる視点を通し、教育を多面的に考察する。 本授業を通じて、履修者は次の4点の学習目標の到達が期待される。 ①教育という営みを複数の視点（立場）から考える ②与えられた文献を的確に理解し、自分の意見をもつ ③自らの学び・成長に関して責任ある態度（計画的に学習課題を遂行する姿勢）をもつ ④学友の学び・成長に関して肯定的に関わる態度（グループ活動に主体的に参加し、建設的な評価コメントを伝えるスキル）をもつ	
		健康科学系科目	体育実技Ａ		体育実技を通して他者を理解し、多様性を受け入れる勇気を養う。スポーツは国際的な広がりを持ち、世界の人々から共通に愛される普遍的な価値を持っている。この、文化としてのスポーツを学生時代に体験し、多様性を認め合うための心の豊かさを涵養する。技能が瞬時に可視化される体育の授業場面では、すべての参加者はスポーツが生み出すドラマの当事者として、千差万別の心の有り様を経験する。このスポーツが備える不確定性を生かし、スポーツを行う際の多様な他者の特性を理解しようと努め、それを尊重することで授業が成立する場面を、日常的に提供する。具体的な授業内容は、バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球、バスケットボールなどの球技と、動作法、体づくり、ダンス、リラクゼーション法などを教材として実習を行い、自己の心身に関する自覚的認識を深める。同時に、体力や運動経験が異なる、様々なバックグラウンドを持つ他者の感じ方・考え方を認識し、多様性を認め合うことを繰り返しトレーニングする。これらの学修が進展するために、技術・体力・経験の異なるメンバーによる協同学習を取り入れ、自己実現に挑む心と体を開発する、挑戦的で刺激的な学生生活の基礎を築く。	
			体育実技Ｂ		体育実技を通して身体と運動の構造を理解し、より高度な運動技術を獲得する学修能力を養う。スポーツに親しむなかで、日常生活では意識されなかった身体的な課題に気がつく場面が訪れる。この機会を活かして、身体の効率的な使い方に意識を向け、その限界を高めようと試みることは、スポーツの上達だけにとどまらず、自己の心身に関する自覚的認識を深める。この自覚的認識の深まりは、心と身体の感受性を高め、思考や判断の枠組みを広げてくれる。本科目は、運動の合理性に関する知的理解と試行体験の循環を図り、設定された学習目標への到達を促す。具体的な授業内容は、バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球、バスケットボールなどの球技と、動作法、体づくり、ダンス、リラクゼーション法などを教材として実習を行い、運動技術を学ぶ意義とそのプロセスを確認する。同時に、人間の身体と運動をバイオメカニクス的に理解し、高度な技術を身につける運動学習の能力を繰り返しトレーニングする。これらの学修が進展するために、技術・体力・経験の異なるメンバーによる協同学習を取り入れ、自己実現に挑む心と体を開発する、挑戦的で刺激的な学生生活の基礎を築く。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			体育実技C		体育実技を通してルールを尊重する習慣と社会性を学び、人々がスポーツの楽しさを求めて集まる場を魅力的に主催し、効果的にサポートする能力を身につける。スポーツには、勝敗や自己の出来ばえなどによって感情が揺さぶられ、人間の本質的な特性があらわれる場面が構造的に含まれている。人々の友好的で活発な交流を図るためには、技能や用具だけでなく、安全かつ円滑で調和のとれた場づくりが欠かせない。その意味で、スポーツは、人々の交流を支える人間力育成の機会に富んでいる。具体的な授業内容は、バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球、バスケットボールなどの球技と、動作法、体づくり、ダンス、リラクゼーション法などを教材として実習を行い、安全の確保と全参加者が達成感を得ることを両立する場づくりの方法を追求する。それぞれの種目のルールとその運用法、それらの根底を支える文化的背景、スポーツの場におけるリーダーシップとフォローワーシップを学ぶことで、社会性を繰り返しトレーニングする。これらの学修が進展するために、技術・体力・経験の異なるメンバーによる協同学習を取り入れ、自己実現に挑む心と体を開発する、挑戦的で刺激的な学生生活の基礎を築く。	
全学共通科目（続き）	人文・社会・健康科目（続き）	健康科学系科目（続き）	体育実技D		体育実技を通して運動の生理的な効果を体験するとともに、生涯にわたって健康を維持・増進する習慣を身につける。「スポーツは、特別に鍛え上げられた選手と呼ばれる専門家集団が行うもの」という印象を払拭し、各人が主体的で自分らしいスポーツへの向き合い方を見つけることを意図して、スポーツの間口の広さと奥行きの深さに出会う場面を数多く設定する。スポーツ場面で遭遇する多様な課題に向き合い、既定の正解が存在しない条件下でも、その状況における最適解を見出す汎用的能力の育成に努める。その上で、自身の生活習慣を改善する問題意識を持ち、学生時代のみならず、生涯にわたる健康を志向する深い学びにつなげる。具体的な授業内容は、バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球、バスケットボールなどの球技と、動作法、体づくり、ダンス、リラクゼーション法などを教材として、生涯スポーツに役立てる形で実習を行う。それぞれの種目の運動生理学的な特徴と健康効果を学び、自律的に運動する習慣をつくる方法を繰り返しトレーニングする。これらの学修が進展するために、技術・体力・経験の異なるメンバーによる協同学習を取り入れ、自己実現に挑む心と体を開発する、挑戦的で刺激的な学生生活の基礎を築く。	
			体育講義		人間の無限の可能性を証明するために、身体運動に関する心と体のメカニズムを、協同学習の実践を通して考察する。本講義では、スポーツを他者と競い合う競技の枠内に限定せず、人類が身体運動能力の限界を超えてきた事例を幅広い視点から学んでいく。そして、体育に関係する学問領域の知識を借りて、受講者各自の能力に関する自覚的認識を深め、各自がより高い目標を達成するための方途を探る。そのために、学生同士・学生教員間でディスカッションし、講義内容の理解の深化と定着を促す協同学習を取り入れ、自己実現に挑む心と体を開発する、挑戦的で刺激的な学生生活の基礎を築く。	
			スポーツフィジカルサイエンス		近年、大学のスポーツ教育が注目される。スポーツ庁は大学スポーツの活性化に取り組んでおり、大学生アスリートの人間的成長を支援するためユニバスを発足させた。ユニバスに所属する本学にあって、スポーツに特化した学びを通し、学生たちのスポーツへの真摯な取り組みを応援したい。本科目は、スポーツをアカデミックに学び、スポーツの文化的側面の認識を深めることをねらいとする。 主に論じる話題は、運動における客観と主観（運動力学vs現象学）、テクノロジーを用いた運動学習の支援、身体感覚と言語技術、スポーツスキルを構成する心技体論（身体システムの考察）等とする。講義ではスポーツ科学を競技に応用する取り組みを紹介するとともに、ディスカッション形式を適宜用いて、知識を実践に生かす方途に関する学生間の活発な議論を促したい。講義を通じて、学生個々が競技を通した自己実現のための創造力を磨くことを応援したい。	
		学際系科目	共通総合演習A		本授業は、特定領域の系統的知識習得が不十分な学生に対して、担当教員の専門的知見に基づく指導のもと、学生が所属する学部の専門教育とは異なる領域での学究的学びを深めることを目的とする。いわば専門教育における演習（ゼミ）の共通教育版である。 学生はあらかじめ教員から提示されたテーマを1つ選び、学際的な知識の修得あるいは時代や社会に対する問題意識を培い、さらには人格的な陶冶へと通じる実践的な英知と創造性を養うことを目的として、自分とは異なる学部に所属する学友たちと半期間の演習に参加する。	
			共通総合演習B		本授業は、特定領域の系統的知識習得が不十分な学生に対して、担当教員の専門的知見に基づく指導のもと、学生が所属する学部の専門教育とは異なる領域での学究的学びを深めることを目的とする。いわば専門教育における演習（ゼミ）の共通教育版である。 学生はあらかじめ教員から提示されたテーマを1つ選び、学際的な知識の修得あるいは時代や社会に対する問題意識を培い、さらには人格的な陶冶へと通じる実践的な英知と創造性を養うことを目的として、自分とは異なる学部に所属する学友たちと半期間の演習に参加する。なお、この総合演習はABに分かれて独立した科目として開講されており、半期の演習を異なるテーマで２回受講することも可能である。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	キャリア教育系科目	キャリアデザイン基礎		本授業は、「キャリアデザインの3つの視点」である「自分を知る・社会を知る・仕事を知る」をテーマに、自分で自分の将来を切りひらくための情報や考え方について学ぶ。自己理解を深めることを通して自身の「内的キャリア」を言語化し、描いている進路イメージを深め、「外的キャリア」を広げ、具体化する。また、夢を実現するための大学生活における目標や挑戦項目を明確にするため、進路決定した先輩との進路相談を通して、一人ひとりに合わせたキャリアデザイン・大学生活の計画を行う。本授業を通して、夢を具体的な仕事・職業に結びつけていくこと、夢実現に向けて大学生活の目標設定と行動計画を立てることを各人で行えるようにする。	
全学共通科目（続き）	キャリア教育系科目（続き）	キャリア開発フォーラム		本講義は、産業界、行政、教育等の様々な分野で働く本学卒業生を講師に迎えて行うリレー方式の講義である。講師の体験を共有するだけではなく、講師と学生による双方向的な授業を行う。各講師の講義は、具体的な仕事内容や特徴、仕事のやりがい、職業選択にいたった背景、求められる能力や資質について語る。学生は、自分自身が持っている「仕事」に対する興味や視点を理解し、「業界」「職種」について関心をもってリサーチを深め、選択肢を増やすことにつながる。また社会が求める人材の要件を学ぶことで、今後の学生生活をどうプランニングするかを具体的に考える力を養う。	
		ワールドビジネスフォーラム		本講義は、グローバル企業、外交官、国際協力分野等で働く本学卒業生を講師に迎えて行うリレー方式の講義である。講師の体験を共有するだけではなく、講師と学生による双方向的な授業を行う。各講師の講義は、海外勤務における仕事内容や日本にいながらグローバルに働く体験を中心に、世界を舞台に働く魅力について語る。さらにボーダレス、ダイバーシティな環境で活躍するための能力や資質、キャリアパスについても学びを深める。学生は、世界へのあこがれから、「働く場所としての世界」をイメージできるようになり、グローバルキャリアを目指す学生生活をどうプランニングするかを具体的に考えられるようになる。	
		グローバル社会とキャリア演習		本講義は、欧米各国及びアジア諸国を中心とした租税条約の状況や税制等を紹介することで、将来の進路として行政等の公共部門や国際経営に関心を有する受講生のキャリアプランの一助となることを目的とするものである。本講義では、各国における投資環境の現状を主として租税条約の締結状況や税制概観を通じて理解することを目標とする。これにより、国際経済報道等における海外事象の概要を把握し、意見を述べることのできるレベルを目指す。	
		留学生のためのキャリアデザイン基礎（日本語）		本授業は、外国人留学生を対象にしたキャリア科目である。日本人学生と違い外国人留学生の大学卒業後の進路の選択肢は多様なため、日本で大学（大学院）を卒業した後に、日本と母国どちらで働くのか、最終的にどこの国・地域で何をしたいのか、卒業後の進路をまだ決めかねている学生が進路をどのように決めたらいいのかを学習する。また、大学院進学と就職はどちらが将来のキャリアで有利になるのか、母国での就職と日本での就職はどちらが将来のキャリアに有利になるのかを比較するための知識や情報を提供するだけでなく方法論をワークを通じて考えていく。本授業では、外国人留学生と企業の両方の目線から実例や実体験を基に講義を展開していく。さらにグループワークや課題解決のワークなどを行うことにより、知識を深めながら、社会で活躍するための能力の開発を行い成長できるように授業を設計し、外国人留学生が希望する進路実現に向けて、納得したキャリアデザインが描けるように、教員と受講生が双方向でコミュニケーションをとりながら丁寧な指導を実施していく。	
		留学生のためのキャリアデザイン基礎（英語）		本授業は、留学生が日本や他国でのキャリア形成や就職活動を成功させるための総合的なプログラムである。その目的は、グローバルな舞台で自己を理解し、自己実現を達成するための基盤を確立することである。初期段階では、自己理解を深め、グローバル人材としての自覚を養うことに重点を置いている。学生たちは異文化間の力学についての理解を深め、自分自身の価値観を明確にすることで、異文化間での適応力を高めていく。続いて、企業分析・戦略では、日本の企業文化や職務慣行に関する知識を得るとともに、国際的な視点を身につける。複数の国のエグゼクティブな視点に触れ、異文化への適応力を養う。就職活動に向けては、情報収集能力やコミュニケーション能力を高める。また、英文履歴書、和文履歴書の書き方も学んでいく。	
		留学生のためのキャリアコミュニケーションA		本授業は、日本語能力試験N1レベルを取得している外国人留学生を対象に、ビジネス場面における日本語を用いて会話やビジネスメール等の書き方について、練習する。これらは、日本企業でのインターンシップや仕事で活用できるマナーと知識を得ることにつながる。到達目標として、「ビジネス場面を想定し、適切な日本語でコミュニケーションができる」「自分の国と比較しながら、日本のビジネス習慣・マナーを知ることができる」「ビジネス場面に必要な日本語の表現方法を使うことができる」ことを目指していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		留学生のためのキャリアコミュニケーションB		本授業は、日本語能力試験N1レベルを取得している外国人留学生を対象に、就職活動に必要な知識や技術を得ることをテーマとして、主に就職活動における企業研究及びディスカッションを行う。併せて、メールの書き方、電話の仕方、面接など就活マナーを学ぶ。到達目標として、「相手にわかりやすく簡潔に意見を伝えることができる」「調べた内容をわかりやすく簡潔に説明することができる」「ビジネス場面で使われる日本語の表現方法とマナーが理解できる」ことを目指していく。	
全学共通科目（続き）	キャリア教育系科目（続き）	次世代産業とキャリア演習		本講義は、主として税制改正の視点からみた次世代産業について紹介していく。国・地方を合わせた税制度については、毎年のように国の経済・産業政策等を反映した税制改正が行われているが、これらの改正により、いかなる政策判断により、税制改正が実施されてきたかについて紹介していく。本講義では、近年の税制改正による各事例の検討・紹介を通じて、公共政策について理解していけように努めていく。また、公務員志望の受講生については、税務行政という一分野が行政の展開する公共政策にいかに影響していくかについて理解を深めることで、キャリア形成に資することを期待したい。	
		グローバル社会と次世代産業		本講義は、グローバル・タックスの視点又は各国地方税制の現状から国際経済関係の背景とこれからの次世代産業の方向を考察していくものである。近年、大手多国籍企業、とりわけGAFAといった大手プラットフォームに対する課税強化の方向が検討されているところであり、これらの動向を概観し、国際経済の状況を把握していく。また、日本における地方税財政制度のあり方を検討していく上、諸外国における地方税制度の調査研究がなされているところであるが、これらの先行研究の成果等を検討していくことで、これからの日本の地方自治を支える次世代産業のあり方を考察していくこととする。このような検討を通して、受講生がグローバルな視点でグローカルに物事を捉え、自身のキャリアビジョンを描く一助としていく。	
		公共キャリア演習Ⅰ		本講座では、民間企業や公務員を問わず就職全体について解説する。講義では、あらゆる産業の将来を握るポイントは、少子高齢化への対策や自然環境の保全など「現在社会が抱える課題への対応」であることを学ぶ。特に、公務員希望者に対しては、国や自治体の職員として、どのような社会課題が存在してどのような対策を行うべきかを具体例を通じて学ぶ。民間志望の学生に対しては、国内外の産業のビジネスモデルや技術内容の具体的な事例を紹介して、就職選択の機会を提供する。授業内でIoT、AIはじめ多くの次世代産業の独自性や創意工夫の深さを解説して今後の可能性を考察する。講義全体を通じて、各グループ3名程度の活動を行い、社会人に必要なコミュニケーション力を要請しながら、実際に職業人となるイメージを提供する。	
		公共キャリア演習Ⅱ		本講座は「公的視野に立って社会貢献を目指す仕事」、例えば国家・地方公務員、コンサルタント、商工会議所、地方銀行や信用金庫職員、NPOや公益財団法人の職員などを志望する2年生以上の学生を対象にして開講する。我が国が直面する主な課題である「少子高齢化」と「人口減少」の影響から、社会保障費用の膨張、教育関連施設の空洞化、商店街の衰退、農業や製造業の後継者不足、所有者不明の不動産の増加等々、地域社会に多くの課題が存在している。授業では、その対応としてDX（デジタルトランスフォーメーション）化が秘める可能性とその進展の課題を解説する。毎回の講義では、国内外の各産業分野の実情を具体的に紹介しながら、民間企業で働くことと行政サービスの果たすべき使命を明確に示しながら、公務員など公的立場で就職を目指す受講生の理解を助ける。また、公務員試験の採用合格を勝ち取るために必要な面接のノウハウや試験準備のポイントを示す。	
		企業研究		本授業は、日本で活躍している企業の人事担当者を講師として招き、その企業の現状とその活動、企業を取り巻く業界の状況などについて、講義する。卒業後企業人として社会で活躍するためには、どのような能力、人間力が求められているのか。これは業界、企業によって一律ではない。それぞれの企業の特徴、業界の特徴を掴み、自分がいかなる人材に育つべきであるのか、この点を履修生一人ひとりが明確にすることをこの授業の目的としている。	
		キャリアビジョン演習A		本授業では、自分の未来を描き具体化するための一歩である就職活動の一環として、インターンシップ（公募型）の選考に対する準備を行う。グローバル化、技術革新等が進み、社会が変化する今日、就業体験を踏まえたキャリアデザインの重要性が高まり、企業もインターンシップに力を入れている。本授業を毎回受講することで、インターンシップの選考に必要な知識を得ることができ、秋以降本格的に始まる就職活動の対策にも通じていく。まずは夏のインターンシップに挑戦することを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		キャリアビジョン演習B		本授業は、長期留学経験者および長期留学を控えた学生を対象にする。グローバル化、技術革新等が進み、社会が変化する現代において、就業体験を踏まえたキャリアデザインの重要性が高まり、企業もインターンシップに力を入れている。自分の未来を描き具体化するための一歩である就職活動の一環として、インターンシップ（公募型）の選考に対する準備を行う。自身の留学での経験をふまえ、文化や考え方が異なる人々と協力し合い、より大きな成果を生み出すために必要な考え方や社会での活かし方を学んでいく。	
全学共通科目（続き）	キャリア教育系科目（続き）	キャリアビジョン演習C		本授業は、主に3年生で民間企業就職を考えている学生を対象に、進路選択や就職活動に必要な知識を学ぶ。自らの強みや学生生活で取り組んできたことを言語化し、他者に伝えられること、自分の働く場所の選択肢をあげることができること、自身の進路選択の軸を踏まえて志望理由を表現できることを目指す。キャリアカウンセラーとの進路相談を通して、一人ひとりが抱える悩みや課題に寄り添った支援・アドバイスを行っていく。	
		キャリアビジョン演習D		本授業は、原則として春学期に「キャリアビジョン演習A・B」を履修し、民間企業就職を考えている学生を対象とする。春学期の学習内容を土台として、企業のビジネスモデルや事例研究をより実践的に学ぶ深めていき、インターンシップや就職活動でそれらの学びが発揮できるようになることを目指す。また自身の進路選択の軸にあわせた企業選択を進めていく。民間企業で実務経験のある方を講師として招き、進路決定した4年生・大学院2年生（リクルートサポートスタッフ）が行う進路相談を通して、一人ひとりに合わせたキャリアデザインを行う。	
		留学生のためのキャリアビジョン演習		日本での就職のキャリアを考えている外国人留学生（大学院進学後に日本で就職を考えている学生も含む）を対象に、夢を実現するために必要となる日本の就職活動の準備について、外国人留学生が日本の就職活動で失敗しやすい事例を基に、外国人留学生が企業にPRできる特有のポイントを含め、文章力、コミュニケーション能力の観点から学んでいく。また、外国人留学生が苦労する実践的なエントリーシート（履歴書）の作成や面接練習を中心に行い、授業に参加することで日本の就職活動の準備ができるように学習していく。毎回の授業で、多くの外国人留学生が苦手な筆記試験やグループディスカッションなどの実践的なスキルの対策も行う。	
		公共キャリア演習Ⅲ		本講義は、法学部以外で地方公務員等を志望する学生を対象にして、実際の国家・地方公務員採用試験を前提に開講する。公務員試験に占める論文試験の比重は高いといわれる等、現在の行政が直面する様々な政策テーマを題材にしながら、自らが自治体職員として問題の所在を把握し、解決策を提示できる表現力・文章作成能力をつけ、口頭で発表できる力をつけることを目的とする。そのため、実際の政策テーマごとの資料等を基に論文構成を行い、講義内で発表する機会を設けるなど、公務員試験の受験希望者にとって、論文試験及び面接試験対策となる実践的な内容である。講義では公務員試験合格したメンバーがPSSとして参画する予定であり、公務員試験合格に必要な具体的な情報などのノウハウを先輩からアドバイスする機会が提供される。	
		公共キャリア演習Ⅳ		本講義は、法学部以外で地方公務員等を志望する学生を対象にして、実際の国家・地方公務員採用試験を前提に開講する。公務員試験に占める論文試験の比重は高いといわれる等、現在の行政が直面する様々な政策テーマを題材にしながら、自らが自治体職員として問題の所在を把握し、解決策を提示できる表現力・文章作成能力をつけ、口頭で発表できる力をつけることを目的とする。そのため、実際の政策テーマごとの資料等を基に論文構成を行い、講義内で発表する機会を設けるなど、公務員試験の受験希望者にとって、論文試験及び面接試験対策となる実践的な内容である。講義では、現代の行政が直面する各公共政策に関する具体例を探索しながら、公共部門の果たすべき使命を示すことで、公務員志望者の公務員としてのキャリア・プランの一助とするねらいがある。さらに、受験生が選ばれる公務員人材としての識見を醸成していくように、対面やリモートを活用した面談により、学習指導していく。	
		留学生のためのキャリアコミュニケーションC		日本語能力試験N3レベルを取得している外国人留学生を対象に、ビジネス場面での日本語を用いた会話等を練習する。これらを通じて、日本企業でのインターンシップや仕事で活用できるマナーと知識を得る。到達目標として、「ビジネス場面を想定し、適切な日本語でコミュニケーションができる」「自分の国と比較しながら、日本のビジネス習慣・マナーを知ることができる」「ビジネス場面に必要な日本語の表現方法を使うことができる」ことを目指していく。	
		留学生のためのキャリアコミュニケーションD		日本語能力試験N3レベルを取得している外国人留学生を対象に、自分自身の内的キャリアと外的キャリアについて考える。併せて、エントリーシートの書き方や面接など就活マナーを学び、採用情報の見方などの企業研究ができる方法についても学ぶ。到達目標として、「相手にわかりやすく簡潔に意見を伝えることができる」「調べた内容をわかりやすく簡潔に説明することができる」「ビジネス場面で使われる日本語の表現方法とマナーが理解できる」ことを目指していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目（続き）	キャリア教育系科目（続き）	キャリアトランジション演習		本授業は、卒業後の進路が決定した学生を対象に「自分・他者・未来とのコミュニケーション」をキーワードにキャリアデザインについて学ぶ。特に、高度化・多様化する社会の中で、主体的に初期キャリア期を送るための知識、情報を得ることを目指す。「自分」とのコミュニケーションでは、自身を的確にマネジメントし自立と自律のリーダーシップについて学ぶ。「他者」とのコミュニケーションでは、「話す力」「聞く力」「伝える力」を重点的に養う。そして「未来」とのコミュニケーションでは、自身の進路選択のプロセスを分析しつつ、今後のキャリアビジョンを明確に描き目標設定を行う。「初期キャリア期」に起こりうる変化に柔軟に対応することで、大学から社会への円滑なトランジションを行う。	共同
		インターンシップ入門		インターンシップは、就業意識の向上や仕事理解を深めるために有効な経験である。本授業はインターンシップに参加するための事前教育として、業界・企業団体・職種研究を行うことを通して働くことへの理解を深めたり、インターンシップに参加する際に必要な基本的なビジネスマナーや社会人とのコミュニケーションスキルについて学ぶ。また選考時に必要となる履歴書の書き方や面接についても学ぶため、就職活動の準備としても活用することができる。	
		インターンシップⅠ		本学のインターンシップでは、企業や官公庁等、職場での就業体験を通して、働くことへの理解（就業観・勤労観の育成）を深めること、そして、実社会で求められている就業力を肌で感じ、自らの課題を見つけ、今後の学生生活で伸ばすべき能力を明確にすることを目指している。就業体験は、原則、５日間40時間以上であることとする。 また、次の3点を到達目標として取り組んでいく。 １．学問と社会の繋がりを意識し、今後の学習目標を立てること ２．社会で求められる就業力を知り、今後、自らが伸ばすべき就業力を理解すること ３．社会や企業活動の実態に触れ、自己の卒業後の進路選択に際し参考にすること	
		インターンシップⅡ		インターシップⅠの経験と学修に基づいて、さらに多くのインターシップを体験したい方のための科目である。インターシップⅠと同様に、企業や官公庁等、職場での就業体験を通して、自らの課題を発見し、働くことへの理解（就業観・勤労観の育成）を深めること、そして、実社会で求められている就業力を肌で感じ、自らの課題を見つけ、今後の学生生活で伸ばすべき能力を明確にすることを目指している。インターンシップIと同じく、就業体験は、原則、５日間40時間以上であることとする。	
		インターンシップⅢ		本学のインターンシップでは、企業や官公庁等、職場での就業体験を通して、働くことへの理解（就業観・勤労観の育成）を深めること、そして、実社会で求められている就業力を肌で感じ、自らの課題を見つけ、今後の学生生活で伸ばすべき能力を明確にすることを目指している。就業体験は、原則、10日間80時間以上であることとする。 また、次の3点を到達目標として取り組んでいく。 １．学問と社会の繋がりを意識し、今後の学習目標を立てること ２．社会で求められる就業力を知り、今後、自らが伸ばすべき就業力を理解すること ３．社会や企業活動の実態に触れ、自己の卒業後の進路選択に際し参考にすること	
		インターンシップⅣ		インターシップⅢの経験と学修に基づいて、さらに多くのインターシップを体験したい方のための科目である。インターシップⅢと同様に、企業や官公庁等、職場での就業体験を通して、自らの課題を発見し、働くことへの理解（就業観・勤労観の育成）を深めること、そして、実社会で求められている就業力を肌で感じ、自らの課題を見つけ、今後の学生生活で伸ばすべき能力を明確にすることを目指している。インターンシップⅢと同じく、就業体験は、原則、10日間80時間以上であることとする。	
		プログラムゼミⅠ		（概要）本授業では、「創立の精神」に基づき創価大学における学びの意義と目的を理解し、グローバルリーダーになるための自立的な学びの習慣を身につける。リーダーシップに関する知識およびリーダーになるためのキャリアデザイン・スキルを学び、リーダーとして必要なビジョンメイキング、マネジメントスキル、コミュニケーションスキルの基礎を体験的に学ぶ。また、自己分析や自己史の作成を通し、リーダーになるために自己理解を深める。 （オムニバス方式/全15回） （62.佐々木 諭・144.羽賀 文湖・232.安野 舞子/1回）（共同） イントロダクションとしてプログラムゼミの概要・到達目標等について理解する	オムニバス 共同（一部）
全学共	キャリ	プログラムゼミⅠ（続き）		（62.佐々木 諭/3回） 「創価大学創立の精神」等について学ぶ	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
通科目（続き）	ア 教育系科目（続き）			（144.羽賀 文湖/5回） 「リーダーになるための自己理解・キャリアデザイン」等について学ぶ （232.安野 舞子/4回） 「リーダーシップ論・リーダーシップコミュニケーション」等について学ぶ （62.佐々木 論・232.安野 舞子/2回）（共同） 「リーダーシップコミュニケーション」等について学ぶとともに、授業全体のまとめとしてリフレクションをおこなう	
	海外研修・実習科目	海外短期研修（英語）Ⅰ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、英語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（英語）Ⅱ		海外短期研修（英語）Ⅰの経験と学修に基づいて、海外短期研修（英語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、英語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（英語）Ⅲ		海外短期研修（英語）Ⅱの経験と学修に基づいて、海外短期研修（英語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、英語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（英語）Ⅳ		海外短期研修（英語）Ⅲの経験と学修に基づいて、海外短期研修（英語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、英語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（英語）Ⅴ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、英語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
全学共通科目（続き）	海外研修・実習科目（続き	海外短期研修（英語）Ⅵ		海外短期研修（英語）Ⅴの経験と学修に基づいて、海外短期研修（英語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、英語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	こ）	海外短期研修（ドイツ語）Ⅰ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、ドイツ語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（ドイツ語）Ⅱ		海外短期研修（ドイツ語）Ⅰの経験と学修に基づいて、海外短期研修（ドイツ語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、ドイツ語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（ドイツ語）Ⅲ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、ドイツ語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（ドイツ語）Ⅳ		海外短期研修（ドイツ語）Ⅲの経験と学修に基づいて、海外短期研修（ドイツ語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、ドイツ語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（フランス語）Ⅰ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、フランス語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（フランス語）Ⅱ		海外短期研修（フランス語）Ⅰの経験と学修に基づいて、海外短期研修（フランス語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、フランス語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
全学共通科目（続き）	海外研修・実習科目（続	海外短期研修（フランス語）Ⅲ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、フランス語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	続き）	海外短期研修（フランス語）Ⅳ		海外短期研修（フランス語）Ⅲの経験と学修に基づいて、海外短期研修（フランス語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、フランス語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（中国語）Ⅰ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、中国語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（中国語）Ⅱ		海外短期研修（中国語）Ⅰの経験と学修に基づいて、海外短期研修（中国語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、中国語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（中国語）Ⅲ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、中国語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（中国語）Ⅳ		海外短期研修（中国語）Ⅲの経験と学修に基づいて、海外短期研修（中国語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、中国語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（スペイン語）Ⅰ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、スペイン語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
全学共通科目（続き）	海外研修・実習科目（続き）	海外短期研修（スペイン語）Ⅱ		海外短期研修（スペイン語）Ⅰの経験と学修に基づいて、海外短期研修（スペイン語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、スペイン語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	こ）	海外短期研修（スペイン語）Ⅲ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、スペイン語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（スペイン語）Ⅳ		海外短期研修（スペイン語）Ⅲの経験と学修に基づいて、海外短期研修（スペイン語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、スペイン語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（イタリア語）Ⅰ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、イタリア語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（イタリア語）Ⅱ		海外短期研修（イタリア語）Ⅰの経験と学修に基づいて、海外短期研修（イタリア語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、イタリア語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（イタリア語）Ⅲ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、イタリア語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（イタリア語）Ⅳ		海外短期研修（イタリア語）Ⅲの経験と学修に基づいて、海外短期研修（イタリア語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、イタリア語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
全学共通科目（続き）	海外研修・実習科目（続	海外短期研修（韓国語）Ⅰ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、韓国語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	続き）	海外短期研修（韓国語）Ⅱ		海外短期研修（韓国語）Ⅰの経験と学修に基づいて、海外短期研修（韓国語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、韓国語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（韓国語）Ⅲ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、韓国語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（韓国語）Ⅳ		海外短期研修（韓国語）Ⅲの経験と学修に基づいて、海外短期研修（韓国語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、韓国語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（ロシア語）Ⅰ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、ロシア語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（ロシア語）Ⅱ		海外短期研修（ロシア語）Ⅰの経験と学修に基づいて、海外短期研修（ロシア語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、ロシア語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（ロシア語）Ⅲ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、ロシア語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
全学共通科目（続き）	海外研修・実習科目（続き）	海外短期研修（ロシア語）Ⅳ		海外短期研修（ロシア語）Ⅲの経験と学修に基づいて、海外短期研修（ロシア語）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、ロシア語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	こ）	海外短期研修（国際理解）Ⅰ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、各種言語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（国際理解）Ⅱ		海外短期研修（国際理解）Ⅰの経験と学修に基づいて、海外短期研修（国際理解）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、各種言語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（国際理解）Ⅲ		海外短期研修（国際理解）Ⅱの経験と学修に基づいて、海外短期研修（国際理解）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、各種言語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（国際理解）Ⅳ		海外短期研修（国際理解）Ⅲの経験と学修に基づいて、海外短期研修（国際理解）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（2単位・90時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、各種言語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（国際理解）Ⅴ		本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、各種言語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
		海外短期研修（国際理解）Ⅵ		海外短期研修（国際理解）Ⅴの経験と学修に基づいて、海外短期研修（国際理解）をさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、グローバル化した世界にあって、海外での修学体験（1単位・45時間以上）を通して実践的に学び、多様な価値観を理解し、国際社会に積極的に関与するための智慧を身につけ、世界市民として求められる資質を深めることを目的としている。主な到達目標は以下のとおりである。 １．海外での学修、生活を通じて、各種言語の４技能（Speaking, Writing, Reading, Listening）向上に資するきっかけをつかむ ２．多様な価値観、日本とは異なる文化に触れることで、異文化理解を深める	
全学共通科目（続き）	海外研修・実習科目（続き	海外インターンシップⅠ		本科目は、海外でのインターンシップで海外の企業や団体で就業体験（実習時間80時間以上）することを通して、外国語能力を高めることに加え、異文化理解を深めながら、国際社会で求められている力を感じ、自らの課題を見つけ、伸ばすべき能力を明確にすることを目的とする。主な到達目標は、以下のとおりである。 １．学問と国際社会の繋がりを意識し、今後の学習目標を立てること ２．国際社会で求められる就業力を知り、今後、自らが伸ばすべき就業力を理解すること ３．国際社会や企業活動の実態に触れ、自己の卒業後の進路選択に際し参考にすること	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	こ		海外インターンシップⅡ		海外インターンシップⅠの経験と学修に基づいて、海外インターンシップをさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、海外でのインターンシップで海外の企業や団体で就業体験（実習時間80時間以上）することを通して、外国語能力を高めることに加え、異文化理解を深めながら、国際社会で求められている力を感じ、自らの課題を見つけ、伸ばすべき能力を明確にすることを目的とする。 主な到達目標は、以下のとおりである。 １．学問と国際社会の繋がりを意識し、今後の学習目標を立てること ２．国際社会で求められる就業力を知り、今後、自らが伸ばすべき就業力を理解すること ３．国際社会や企業活動の実態に触れ、自己の卒業後の進路選択に際し参考にすること	
			海外インターンシップⅢ		海外インターンシップⅡの経験と学修に基づいて、海外インターンシップをさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、海外でのインターンシップで海外の企業や団体で就業体験（実習時間80時間以上）することを通して、外国語能力を高めることに加え、異文化理解を深めながら、国際社会で求められている力を感じ、自らの課題を見つけ、伸ばすべき能力を明確にすることを目的とする。 主な到達目標は、以下のとおりである。 １．学問と国際社会の繋がりを意識し、今後の学習目標を立てること ２．国際社会で求められる就業力を知り、今後、自らが伸ばすべき就業力を理解すること ３．国際社会や企業活動の実態に触れ、自己の卒業後の進路選択に際し参考にすること	
			海外インターンシップⅣ		海外インターンシップⅢの経験と学修に基づいて、海外インターンシップをさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、海外でのインターンシップで海外の企業や団体で就業体験（実習時間80時間以上）することを通して、外国語能力を高めることに加え、異文化理解を深めながら、国際社会で求められている力を感じ、自らの課題を見つけ、伸ばすべき能力を明確にすることを目的とする。 主な到達目標は、以下のとおりである。 １．学問と国際社会の繋がりを意識し、今後の学習目標を立てること ２．国際社会で求められる就業力を知り、今後、自らが伸ばすべき就業力を理解すること ３．国際社会や企業活動の実態に触れ、自己の卒業後の進路選択に際し参考にすること	
			海外インターンシップⅤ		本科目は、海外でのインターンシップで海外の企業や団体で就業体験（実習時間40時間以上）することを通して、外国語能力を高めることに加え、異文化理解を深めながら、国際社会で求められている力を感じ、自らの課題を見つけ、伸ばすべき能力を明確にすることを目的とする。 主な到達目標は、以下のとおりである。 １．学問と国際社会の繋がりを意識し、今後の学習目標を立てること ２．国際社会で求められる就業力を知り、今後、自らが伸ばすべき就業力を理解すること ３．国際社会や企業活動の実態に触れ、自己の卒業後の進路選択に際し参考にすること	
			海外インターンシップⅥ		海外インターンシップⅤの経験と学修に基づいて、海外インターンシップをさらに体験する学生を対象とした科目である。本科目は、海外でのインターンシップで海外の企業や団体で就業体験（実習時間40時間以上）することを通して、外国語能力を高めることに加え、異文化理解を深めながら、国際社会で求められている力を感じ、自らの課題を見つけ、伸ばすべき能力を明確にすることを目的とする。 主な到達目標は、以下のとおりである。 １．学問と国際社会の繋がりを意識し、今後の学習目標を立てること ２．国際社会で求められる就業力を知り、今後、自らが伸ばすべき就業力を理解すること ３．国際社会や企業活動の実態に触れ、自己の卒業後の進路選択に際し参考にすること	
専門科目	グリーンテクノロジーコア科目	必修科目	グリーンテクノロジー概論	○	【授業形態】講義 【目標】グリーンテクノロジーとは何か、グリーントランスフォーメーション（GX）の実現に不可欠な創エネルギー・省エネルギー技術、資源循環技術や情報処理技術を融合した環境に優しい技術、すなわち「グリーンテクノロジー」について理解する。 【授業計画】グリーンテクノロジーとは何かについて解説するとともに、創立者の著書を通したグリーンテクノロジーの重要性について紹介し、地球環境、資源循環や情報処理に関連した技術の概要について学習する。これらの学習に加えグループ学習での討論を行うことで、学生が本学科で学びたいことについて考察を深める。 （オムニバス方式／全8回）	オムニバス

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					(7.佐藤 伸二郎/2回) グリーンテクノロジーとは何か、どのような分野でどのような技術が活用されているのかを解説するとともに、講義を通して学んだことをもとに各学生がどのようなことを学びたいのか、グループ学習により討論する（1回）。土壌環境や廃棄物処理工学に基づくグリーンテクノロジーの応用について解説する（1回）。 (5.中崎 清彦/1回) 廃棄物工学に基づく資源循環に関する技術について解説する。 (3.井田 旬一/1回) 創立者と世界の識者の交遊録（対談集）や提言等からグリーンテクノロジーを学習する意義を解説する。 (10.青野 健作/1回) 創立者と世界の識者の交遊録（対談集）や提言等からグリーンテクノロジーを学習する意義と、文理融合の学びを解説する。 (2.KUWAHARA Victor Shinichi/1回) 海洋におけるグリーンテクノロジーの応用について解説し、各学生がどのようなことを学びたいのか、グループ学習により討論する（1回）。 (6.黒沢 則夫/1回) 生物圏全体の構造と物資循環について概観するとともに、微生物のグリーンテクノロジーへの応用について解説する。 (12.戸田 龍樹/1回) 微細藻類やプランクトンの生理生態的特徴と機能を駆使したグリーンテクノロジーについて解説する。	
			基礎グリーンテクノロジー実習	○	【授業形態】実験・実習 【目標】実験室における危険性を理解し安全に実験を行えるようになること、適切に試薬を調製出来ること、科学レポートを正しく書けるようになることを目標とする。 【授業計画】実験実習や研究における安全性について理解するとともに、様々な測定器具や機器の使い方を学ぶ。正しい化学計算に基づき、適切な器具を用いて溶液等を調製する。分光光度計について理解し、測定データに基づく科学レポートの作成を行う。	共同
			地球科学概論	○	【授業形態】講義 【目標】地球の構造、地震と火山活動、海洋と大気の振る舞い、気象と気候、さらに宇宙の構造と進化を理解し、地球システム科学の知識を深めることを目標とする。 【授業計画】地球と宇宙の基本的な構造と変動を、地学、気象学、天文学の三つの主要分野から学ぶ。まず、地学では地球の構造とプレート運動、地震と火山活動、地層と地質構造、地質年代の変遷、生命の歴史について学ぶ。次に、気象学では海洋と大気の構造と大循環、日本を含む世界の気象と気候を取り上げ、最後に、天文学では月と太陽、太陽系の構成、恒星の進化、銀河と宇宙の構造について学ぶ。	オムニバス
専門科目（続き）	グリーンテクノロジーコア科目（続き）	必修科目（続き）	地球科学概論 （続き）		（オムニバス方式/15回）*日本語クラス (9.KHATRI Pradeep/11回) 地球の構造、プレート運動、地震と火山活動、地層と地質構造、地質年代の変遷、生命の歴史、海洋と大気の構造と大循環、日本を含む世界の気象と気候について解説する。 (146.浅井　和美/4回) 月と太陽、太陽系の構成、太陽と恒星の進化、銀河と宇宙についてそれぞれ解説する。 (2.KUWAHARA Victor Shinichi/15回) *英語クラス（単独開講） The course introduces Earth’s diverse ecosystems through the interrelated concepts of the Geosphere, Atmosphere, Hydrosphere, Biosphere and Cryosphere. The goal is to understand fundamental concepts in geology, meteorology, oceanography and biogeochemistry in the context of Earth Science. ＜訳＞ 地球の多様な生態系を、地圏、大気圏、水圏、生物圏、氷圏の相互に関連する概念を通して紹介する。目標は、地球科学における地質学、気象学、海洋学、生物地球化学の基本概念を理解することである。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			グリーンテクノロジー研究体験Ａ	○	【授業形態】演習 【目標】学生は5～6名のグループに分かれてグループ学習を行う。教員ごとに設定されたテーマのもと、実験・調査・演習を行う。 【授業計画】各教員のテーマは以下の通りとする。 （6.黒沢 則夫） 微生物の分類および生理生態に関する文献調査・フィールドワーク・室内実験・研究発表を行う。 （7.佐藤 伸二郎） 有機性廃棄物を活用した土壌化学性環境への効果について実験を行い、成果をプレゼンテーションする。 （2.KUWAHARA Victor Shinichi） 生物海洋光学に関する文献調査・フィールドワーク・室内実験・研究発表を行う。 （3.井田 旬一） 材料科学・工学の環境技術、医療分野、産業分野への応用研究について文献調査を行い、また、具体的な応用例を見学する。 （10.青野 健作） SDGsに掲げられた諸問題（街づくり、ジェンダー、イノベーションなど）について、グループワーク・研究発表を行う。	
			グリーンテクノロジー研究体験Ｂ	○	【授業形態】演習 【目標】学生は5～6名のグループに分かれてグループ学習を行う。教員ごとに設定されたテーマのもと、実験・調査・演習を行う。 【授業計画】各教員のテーマは以下の通りとする。 （1.松山 達） 粒子系材料の取り扱いの基礎である粒子径計測技術について調査する。 （4.亀田 多江） 企業でのDX（デジタル・トランスフォーメーション）とGX（グリーン・トランスフォーメーション）の取り組みの現状と今後の課題について調べ、企業へのヒアリング調査を実施し、調査結果の発表を行う。 （5.中崎 清彦） 広い意味での「環境微生物学」に沿った廃棄物処理技術に関する文献調査、実験を行う。 （9.KHATRI Pradeep） リモートセンシング技術を用いた大気汚染の調査を実施する。 （11.秋月 真一） 八王子近辺の水環境から採集した単細胞性藻類や細菌等を集積培養し、それらを利用した廃水または廃棄物処理実験を行うことで、自然界に偏在する微生物を利用した生物学的処理法の基本原理について実践的に学ぶ。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジーコア科目（続き）	必修科目（続き）	グリーンテクノロジー研究トピックス	○	【授業形態】講義 【目標】グリーンテクノロジー学科に所属する教員の専門の研究内容を理解する。 【授業計画】全基幹教員が、各自の専門分野と研究内容について講義するとともに、大学院での研究についても紹介する。 （オムニバス方式／全8回） （7.佐藤 伸二郎/2回） グリーンテクノロジーの基幹となる地球環境、資源循環、環境情報処理工学およびその社会実装に関する概要を説明する（1回）。学科カリキュラムにおける演習Ⅰ・演習Ⅱの概要と実施方法について説明する（1回）。 （5.中崎 清彦・3.井田 旬一/1回）（共同） 広い意味での「環境微生物学」に沿った廃棄物処理技術について、並びに材料科学・工学、粉体工学の水処理分野、バイオメディカル分野、産業分野への応用研究について最新の研究成果を紹介する。 （6.黒沢 則夫・1.松山 達/1回）（共同） 微生物の分類学・生理学・生態学・生物系統地理学分野における最新の研究成果、並びに粉体工学・静電気工学の応用研究について紹介する。	オムニバス 共同（一部）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					(2.KUWAHARA Victor Shinichi・9.KHATRI Pradeep/1回) (共同) 生物海洋光学分野、並びに大気リモートセンシング分野における進展や最新の研究成果を紹介する。 (4.亀田 多江・7.佐藤 伸二郎/1回) (共同) IoT、AI、ロボット技術の活用、並びに循環型社会形成のための有機性廃棄物を使った土壌有効利用について紹介する。 (10.青野 健作・11.秋月 真一/1回) (共同) 自然科学(人新世、地球の限界、気候変動など)と社会科学(国際法、SDGs、ジェンダー、ビジネスなど)の関係(文理融合)に関して紹介する。また、従来のエネルギー投入型の生物学的廃水及び廃棄物処理法の問題点と、それに代わる省エネルギー・創エネルギー・創資源型処理技術の近年の動向ついて概説する。 (1.松山 達・3.井田 旬一・11.秋月 真一/1回) (共同) 本学大学院理工学研究科環境共生工学専攻、並びにプランクトン工学研究所で行われている主な研究や最新の成果などについて解説する。	
			Pythonプログラミング演習		【授業形態】演習 【目標】入力・出力、条件分岐や繰り返し、乱数などを用いて初級レベルのプログラムが作成できるようになることを目標とする。 【授業計画】広く普及しているコンピュータプログラミング言語であるPythonを用いてプログラミングの演習を行う。後半では、乱数を用いての初級レベルのゲーム(じゃんけんなど)の作成や、最大値、最小値、合計値、平均値など簡単な統計値の算出が行えるようになることを目指して学習する。	
			データサイエンス演習		【授業形態】演習 【目標】さまざまな現象・事象におけるデータに着目し、解析・分析することで、実社会での問題を解決するための実践経験を身に着けることを目的とする。また、日頃から良く利用するWebシステムとデータベースの仕組みとの関係性を理解することを目的とする。 【授業計画】この目的のため本授業は、次の２つの内容から構成される。 ① Pythonを使った統計解析手法の理解とデータ分析 ② Webサーバー+Pythonプログラム+データベース	
			演習Ⅰ	○	【授業形態】演習 【目標】各基幹教員の研究内容に関する文献調査やグループディスカッションを通じて、専門の研究内容について理解を深める。 【授業計画】春学期に卒業演習Ⅰと合併開講し、3年次生が4年次生(卒業演習Ⅰ)と共に各教員ごとのテーマに沿って学習する。各基幹教員の研究テーマは以下の通りとする。	
専門科目(続き)	グリーンテクノロジーコア科目(続き)	必修科目(続き)	演習Ⅰ (続き)		(1.松山 達) 粉体工学・静電気工学の一般的な内容について文献調査・研究発表を行う。 (2.KUWAHARA Victor Shinichi) 生物地球化学、海洋光学、環境科学の多分野にわたるテーマを通じて、海洋学の先端研究における文献調査・研究発表を行う。 (3.井田 旬一) 材料科学・工学の一般的な内容から、水処理分野、バイオメディカル分野、産業分野への応用という観点からの材料科学・工学に関する文献調査・研究発表を行う。 (4.亀田 多江) IoT、AI、ロボット技術を活用した環境指標のリモートセンシング技術について、その現状と課題、技術の進展とその影響について文献調査・研究発表を行う。 (5.中崎 清彦) 広い意味での「環境微生物学」に沿った廃棄物処理技術に関する文献調査・研究発表を行う。 (6.黒沢 則夫) 微生物の分類学・生理学・生態学・生物系統地理学分野における文献調査・研究発表を行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					(7.佐藤 伸二郎) 土壌栄養、肥料、植物栄養など一般的な土壌科学に関する内容から、土壌生態学、土壌健康管理、土地利用、有機土壌改良材など土壌環境学に関する文献調査・研究発表を行う。 (9.KHATRI Pradeep) 地上および衛星リモートセンシングデータの解析手法（アルゴリズム）の開発・高度化、大気汚染問題の解明、エアロゾルと雲の相互作用およびそれらが気候変動に与える影響など、大気、大気リモートセンシング、に関する文献調査・研究発表を行う。 (10.青野 健作) SDGsに掲げられた諸問題（平和、ジェンダー、街づくり、ビジネスなど）に関して、国内外の文献調査や官公庁や企業等のヒアリングを行い、研究発表を行う。 (11.秋月 真一) 微生物の機能を利用した廃水及び廃棄物処理工学の基礎的な内容から、省エネルギー・創エネルギー・創資源に向けた応用分野に関する文献調査・研究発表を行う。	
			演習Ⅱ	○	【授業形態】演習 【目標】各基幹教員の研究内容に関する文献調査やグループディスカッションを通じて、学生自身の研究テーマの方向性を決める。 【授業計画】秋学期に卒業演習Ⅱと合併開講し、3年次生が4年次生（卒業演習Ⅱ）と共に各基幹教員のテーマに沿って学習する。各基幹教員の研究テーマは以下の通りとする。 (1.松山 達) 粉体工学・静電気工学の一般的な内容について文献調査・研究発表を行う。 (2.KUWAHARA Victor Shinichi) 生物地球化学、海洋光学、環境科学の多分野にわたるテーマを通じて、海洋学の先端研究における文献調査・研究発表を行う。 (3.井田 旬一) 材料科学・工学の一般的な内容から、水処理分野、バイオメディカル分野、産業分野への応用という観点からの材料科学・工学に関する文献調査・研究発表を行う。 (4.亀田 多江) IoT、AI、ロボット技術を活用した環境指標のリモートセンシング技術について、その現状と課題、技術の進展とその影響について文献調査・研究発表を行う。 (5.中崎 清彦) 広い意味での「環境微生物学」に沿った廃棄物処理技術に関する文献調査・研究発表を行う。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジーコア科目（続き）	必修科目（続き）	演習Ⅱ （続き）		(6.黒沢 則夫) 微生物の分類学・生理学・生態学・生物系統地理学分野における文献調査・研究発表を行う。 (7.佐藤 伸二郎) 土壌栄養、肥料、植物栄養など一般的な土壌科学に関する内容から、土壌生態学、土壌健康管理、土地利用、有機土壌改良材など土壌環境学に関する文献調査・研究発表を行う。 (9.KHATRI Pradeep) 地上および衛星リモートセンシングデータの解析手法（アルゴリズム）の開発・高度化、大気汚染問題の解明、エアロゾルと雲の相互作用およびそれらが気候変動に与える影響など、大気、大気リモートセンシング、に関する文献調査・研究発表を行う。 (10.青野 健作) 「持続可能な街づくり」をテーマに、SDGsに掲げられた諸問題について、各自の関心度に応じて論文・情報を分析し、研究発表・プレゼン等を行う。 (11.秋月 真一) 微生物の機能を利用した廃水及び廃棄物処理工学の基礎的な内容から、省エネルギー・創エネルギー・創資源に向けた応用分野に関する文献調査・研究発表を行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			卒業演習Ⅰ	○	【授業形態】演習 【目標】各基幹教員の研究内容に関する文献調査やグループディスカッションを通じて、学生自身の研究テーマの内容の理解を深める。 【授業計画】春学期に演習Ⅰと合併開講し、4年次生が3年次生（演習Ⅰ）と共に各教員ごとのテーマに沿って学習する。各基幹教員の研究テーマは以下の通りとする。 （1.松山 達） 粉体工学・静電気工学の一般的な内容から、応用研究までを扱う。 （2.KUWAHARA Victor Shinichi） 生物地球化学、海洋光学、環境科学の多分野にわたるテーマを通じて、海洋学の先端研究における調査・研究発表を行う。 （3.井田 旬一） 材料科学・工学の一般的な内容から、水処理分野、バイオメディカル分野、産業分野への応用という観点からの材料科学・工学に関する内容を扱う。 （4.亀田 多江） IoT、AI、ロボット技術を活用した環境指標のリモートセンシング技術について、その現状と課題、技術の進展とその影響について文献調査・研究発表を行う。 （5.中崎 清彦） 広い意味での「環境微生物学」に沿った廃棄物処理技術に関する文献調査、実験を行う。 （6.黒沢 則夫） 微生物の分類学・生理学・生態学・生物系統地理学分野における文献調査・研究発表を行う。 （7.佐藤 伸二郎） 土壌栄養、肥料、植物栄養など一般的な土壌科学に関する内容から、土壌生態学、土壌健康管理、土地利用、有機土壌改良材など土壌環境学に関する文献調査・研究発表を行う。 （9.KHATRI Pradeep） 地上および衛星リモートセンシングデータの解析手法（アルゴリズム）の開発・高度化、大気汚染問題の解明、エアロゾルと雲の相互作用およびそれらが気候変動に与える影響など、大気、大気リモートセンシング、気候変動に関する内容を扱う。 （10.青野 健作） SDGsに掲げられた諸問題（平和、ジェンダー、気候変動、イノベーション、国際法など）に関して、自然科学と社会科学の関係を意識しながら、各自がテーマを設定し、文理融合的な学習・研究調査を行う。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジーコア科目（続き）	必修科目（続き）	卒業演習Ⅰ（続き）		（11.秋月 真一） 微生物の機能を利用した廃水及び廃棄物処理分野において、以下の観点のいずれかに該当する内容を扱う。（1）省エネルギー技術の基礎または応用、（2）創エネルギー技術の基礎または応用、（3）創資源技術の基礎または応用、（4）IoT・AI技術の利活用、（5）持続的惑星探査に向けた資源循環システムの確立	
			卒業演習Ⅱ	○	【授業形態】演習 【目標】各基幹教員の研究内容に関する文献調査やグループディスカッションを通じて、学生自身の研究テーマの内容の理解を深める。 【授業計画】秋学期に演習Ⅱと合併開講し、4年次生が3年次生（演習Ⅱ）と共に基幹教員ごとのテーマに沿って学習する。各教員の研究テーマは以下の通りとする。 （1.松山 達） 粉体工学・静電気工学の一般的な内容から、応用研究までを扱う。 （2.KUWAHARA Victor Shinichi） 卒業演習Ⅰに引き続き、生物地球化学、海洋光学、環境科学の多分野にわたるテーマを通じて、海洋学の先端研究における調査・研究発表を行う。 （3.井田 旬一） 材料科学・工学の一般的な内容から、水処理分野、バイオメディカル分野、産業分野への応用という観点からの材料科学・工学に関する内容を扱う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					(4.亀田 多江) IoT、AI、ロボット技術を活用した環境指標のリモートセンシング技術について、その現状と課題、技術の進展とその影響について文献調査・研究発表を行う。 (5.中崎 清彦) 広い意味での「環境微生物学」に沿った廃棄物処理技術に関する文献調査、実験を行う。 (6.黒沢 則夫) 微生物の分類学・生理学・生態学・生物系統地理学分野における文献調査・研究発表を行う。 (7.佐藤 伸二郎) 土壌栄養、肥料、植物栄養など一般的な土壌科学に関する内容から、土壌生態学、土壌健康管理、土地利用、有機土壌改良材など土壌環境学に関する文献調査・研究発表を行う。 (9.KHATRI Pradeep) 地上および衛星リモートセンシングデータの解析手法（アルゴリズム）の開発・高度化、大気汚染問題の解明、エアロゾルと雲の相互作用およびそれらが気候変動に与える影響など、大気、大気リモートセンシング、気候変動に関する内容を扱う。 (10.青野 健作) SDGsに掲げられた諸問題（平和、ジェンダー、地球環境、街づくりなど）から、各自の研究テーマに従って論文を調査・精読し、プレゼンテーションによる研究内容の発表を行う。 (11.秋月 真一) 微生物の機能を利用した廃水及び廃棄物処理分野において、以下の観点のいずれかに該当する内容を扱う。（1）省エネルギー技術の基礎または応用、（2）創エネルギー技術の基礎または応用、（3）創資源技術の基礎または応用、（4）IoT・AI技術の利活用、（5）持続的惑星探査に向けた資源循環システムの確立	
		選択科目	グリーンテクノロジー研究体験C	○	【授業形態】演習 【目標】学生は5～6名のグループに分かれてグループ学習を行う。教員ごとに設定されたテーマのもと実験・調査・演習を行う。 【授業計画】各教員のテーマは以下の通りとする。 (2.KUWAHARA Victor Shinichi) 生物海洋光学について、観測、データ解析の演習、研究発表を行う。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジーコア科目（続き）	選択科目（続き）	グリーンテクノロジー研究体験C（続き）		(4.亀田 多江) 地球観測データを、地球環境を理解するために各自が設定したテーマに基づき解析・視覚化し、プレゼンテーションを行う。地球規模の生データに触れ、生データの処理の難しさを学び、目的に合わせたデータ解析と視覚化に実践的に取り組みながら、地球市民の一員として、循環型社会の構築について理解を深める。 (10.青野 健作) 「持続可能な街づくり」をテーマにSDGsに掲げられた諸問題を研究し、プレゼンテーションを行う。官公庁・自治体やNPO法人、企業などにヒアリングしながら、具体的な社会課題に関する課題解決型の学習を行う。	
			グリーンテクノロジー研究体験D	○	【授業形態】演習 【目標】学生は5～6名のグループに分かれてグループ学習を行う。教員ごとに設定されたテーマのもと実験・調査・演習を行う。 【授業計画】各教員のテーマは以下の通りとする。 (6.黒沢 則夫) 微生物の分類および生理生態に関するフィールドワーク・室内実験・研究発表を行う。 (7.佐藤 伸二郎) 有機性廃棄物を活用した土壌物理性環境への効果について実験を行い、成果をプレゼンテーションする。 (9.KHATRI Pradeep) 大気中に浮遊する微粒子（エアロゾル）の気候への影響について、観測、データ解析の演習、そして研究発表を行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			グリーンテクノロジー研究体験Ｅ	○	【授業形態】演習 【目標】学生は5～6名のグループに分かれてグループ学習を行う。教員ごとに設定されたテーマのもと実験・調査・演習を行う。 【授業計画】各教員のテーマは以下の通りとする。 （1.松山 達） 粉体工学・静電気工学の課題について、実験・演習を行う。 （3.井田 旬一） 現在利用されている環境技術について、調査と簡単な実験を行い、その原理や、利点、欠点、また社会実装や普及への課題等について調査・演習を行う。 （11.秋月 真一） 首都圏内の省エネルギー・資源循環型の廃水または廃棄物処理施設を見学し、生物学的処理の仕組みや工程を理解し、SDGs達成に向けた実際の取り組み事例を学ぶ。また、施設から提供を受けた高濃度微生物試料を用いた廃水処理実験を行い、特定の機能を持つ微生物の集積による優れた処理性能について定量的に理解する。	
			グリーンテクノロジーとキャリア		【授業形態】講義 【目標】自治体や企業からのゲスト講師による、グリーンテクノロジーに関連する事業コンセプト、事業実装、具体的な実施内容などの講義を行う。講義をもとに、グループ・ディスカッションを通してキャリア設計について理解を深める。 【授業計画】1～2回目の授業において企業のCSR、SDGs活動などの意義、社会的責務について解説し、3～12回目は毎年5～8つの自治体・企業の担当者が講義する。13～15回目は企業担当者からの講義にもとづき、履修者はグループに分かれて改善点や波及効果について議論し、討議した内容をレポートにまとめる。	共同
専門科目（続き）	グリーンテクノロジーコア科目（続き）	選択科目（続き）	初等数学		【授業形態】講義 【目標】様々な専門科目等で出会うことになるであろう各種計算問題を念頭に、基本的な数学の計算ができるようになることを目標とする。多項式関数と初等関数を取り扱う。特に、実数関数の計算値と関数のグラフの関係を理解する。また、この関数のグラフとの関連を意識しながら、２変数関数までの微分と積分の計算ができるようにする。線形連立代数方程式の行列形式の計算表現について理解する。 【授業計画】整式の展開と因数分解、指数・対数関数、三角関数、関数とグラフ、微分、接線とテイラー展開、２変数関数の微分・積分・重積分・線形連立方程式と行列形式について学ぶ。	
			基礎化学		【授業形態】講義 【目標】化学実験を履修する際に必要とされる基礎学力が足りない分を身につける。グループをいくつか編成し、インストラクターを各グループに配置し、授業の一部は共同学習を通して、自分で調べ発表し、互いに質問しあうことを経験しながら理解を深める。 【授業計画】暮らしと化学、測定、物質とエネルギー、元素と原子、電子配置と周期性、有機化合物と無機化合物、物質の量、反応の表記と分類、量で見る化学反応、分子やイオンの形と引き合い、溶液、化学平衡、酸と塩基、酸化と還元、放射性物質の化学について学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			Foundations of Chemistry		【授業形態】講義 【目標】The objective of this course is for students to understand important concepts in the field of chemistry, including the concept of moles, various concentrations for handling chemical reagents, significant figures and error, acid and base, acid-base equilibrium, pH calculation, and buffer. （訳）化学分野で重要なモルの概念と試薬の取り扱いに重要な各種濃度の表し方と、有効数字・誤差、酸塩基・平衡を理解し、pH計算と緩衝液調製ができるようになる。 【授業計画】Lectures in this introductory course will focus on the basic concepts related to analytical chemistry and physical chemistry. Study topics will include concepts of moles and handling of various concentrations, significant figures, stoichiometry of chemical reactions, changes in the states of gas, liquid, and solid, the state equations for ideal gas and van der Waals, chemical equilibrium, chemical kinetics, solubility, solubility products, the differences in acid and base and pH calculations, making buffers, separation of mixtures, qualitative analysis, and spectroscopy analysis. （訳）分析化学と物理化学の基礎として、モルの概念と各種濃度の取り扱い、有効数字、化学反応式、気体・液体・固体の状態変化、理想気体の状態方程式とvan der Waalsの状態方程式、化学平衡、反応速度、溶解度、溶解度積、酸塩基の区別と溶液のpHの計算、緩衝液の作り方、混合物の分離・定性分析・分光分析について学ぶ。	
			基礎生物学		【授業形態】講義 【目標】グリーンテクノロジー学科の生物系科目を履修するにあたって必要な生物学の基礎知識を身につける。 【授業計画】細胞の構造と生命の誕生、生物を構成する物質、遺伝子の構造と機能、生体とエネルギー、光合成と窒素同化、細胞の分裂・情報伝達・がん化、生命体の受精と成長、多細胞生物の自己維持機構、遺伝のしくみと遺伝病、生物と環境がつくる生態系、生物の進化と多様性、生命科学技術と社会について学ぶ。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジーコア科目（続き）	選択科目（続き）	Foundations of Biology		【授業形態】講義 【目標】This course aims to teach students surprising mechanisms or profound nature of life’s phenomena and at the same time, confer basic knowledge necessary to understand advanced lectures such as biochemistry, cell biology, and molecular biology. （訳）この授業では、生命現象の驚くべき仕組みや深淵さを広く学び、同時に、生化学、細胞生物学、分子生物学など上級課程に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 【授業計画】Lecture topics will include Commonality and diversity in living world; Structure and function of living substances such as proteins, nucleic acids, lipids, and sugars; Structure and function of cells; Mechanisms of metabolism; Genetic information and expression; Basic structure and genesis of animals; Basic structure and genesis of plants; Biological defense and immunity. （訳）この授業では、「生物界の共通性と多様性」、「生体物質すなわちタンパク質、核酸、脂質および糖の構造と機能」、「細胞の構造と機能」、「代謝のしくみ」、「遺伝情報とその発現」、「動物の基本体制と発生」、「植物の基本体制と発生」、「生体防御と免疫」について、これらの現象とその分子メカニズムについて学ぶ。	
			化学実験		【授業形態】実習・実験 【目標】より高学年での実習や卒業研究に必要とされる化学の基本知識や実験操作、データ処理の方法を修得する。 【授業計画】実験は6テーマを2クラスに分け、以下の内容を学習する。実験に際しての諸注意と安全確保について、有効数字と誤差の取り扱い方、質量・体積・温度と分子量の測定、クロマトグラフィーによる物質の分離、分子模型を用いた化合物の構造の演習、金属イオンの分離・確認、エタノール水溶液の分留、溶液のpHと緩衝作用、プログラムを用いたデータの解析方法、グラフ・表の作成法、実験レポートの作成法について学ぶ。	共同

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			Foundations of Data Science		【授業形態】講義 【目標】The purpose of this course is for students to understand an overview of statistics to prepare students for scientific research that requires the collection and analysis of data. The course includes both descriptive statistics and inferential statistics. It covers frequency distributions of empirical data, calculations of descriptive statistics, probability distributions, regression analysis, hypothesis testing and statistical inference. (訳)本講義の目的は、データの収集と分析を必要とする分析の準備として、基礎的な統計学を学ぶことにある。本講義では、記述統計と推測統計の両方を扱い、具体的には実証データの度数分布、記述統計の計算、確率分布、回帰分析、仮説検定、および統計的推論を学ぶ。 【授業計画】This course covers the following contents by each instructor; the basics of descriptive statistics, probability and random variables, binomial distribution, normal distribution, populations and samples, estimation, and hypothesis testing. （訳）本講義は各教員が次の内容を担当する。30回の授業の中で記述統計の基礎、確率と確率変数、二項分布、正規分布、母集団と標本、推定、仮設検定を扱う。	
			プロジェクト・スタディーズ		【授業形態】実習 【目標】Project-Based Learning（PBL）を通じて、学生各自がプロジェクト達成のためにグループの中で何をすべきかを明確にし、自主的で自立的な学習能力を養う。また、国際技術協力プログラムの海外研修のために、英語能力のスキルアップを目指し、英語で考え英語でプレゼンする能力を養う。 【授業計画】Raspberry Pi Picoマイコンボードを使って環境測定デバイスを製作するために、Picoの概要・作成方法を説明し、学生グループがセンサーを選択し、デバイス作製作業をグループで行う。野外でデバイスを使ってデータを取得し、データを解析し、最終的にデバイスのデモンストレーションと最終プレゼンテーションをグループで英語で行う。	共同
専門科目（続き）	グリーンテクノロジーコア科目（続き）	選択科目（続き）	国際ビジネス入門		【授業形態】講義 【目標】グローバルに企業活動を行う際の諸問題について基本的な知識の習得とともに、ビジネス現場のルールや課題など実践的な理解を深め、グリーンテクノロジーの社会実装に向けた教養を身に付ける。 【授業計画】国際ビジネスの諸問題について、総論的な学び（国際ビジネスのマナー、国際通商ルール、SDGs（持続可能な開発目標）、起業家・アントレプレナーシップ、リーダーシップ等）を通じて、各論的には、環境問題、通商政策、イノベーション、起業・投資、人権問題などに対する理解を深める。	
			情報基礎論	○	【授業形態】講義 【目標】実習や演習において活用するコンピュータネットワーク、実験システムやサービスの仕組み・技術を理解するための基礎知識を学び、情報処理能力を身につける。 【授業計画】社会課題解決に役立つ情報技術の動向を踏まえ、基礎知識となる情報の基礎理論、コンピュータハードウェアとソフトウェア、IoTと組み込みシステム、ネットワーク、セキュリティ、データベース、アルゴリズムとプログラミング、システム開発プロセス等を学習する。各回の授業においては、技術の活用事例を踏まえて、概要や仕組みを学び、身近な活用状況を確認しながら進める。また情報処理推進機構(IPA)による国家試験「ITパスポート」や「基本情報処理試験」の範囲のうち、主に「テクノロジー系」について学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			Topics in Science and Engineering		【授業形態】講義 【目標】This class is designed for students to learn about some of the ongoing research in science and technology at the Faculty of Science and Engineering. (訳) 理工学部で現在行われている科学や技術分野におけるいくつかの研究について学修する。 【授業計画】Five faculty members will explain in English their research topics in the fields of bioinformatics, neuroscience, issues on energy, global warming, and media arts. (訳) 5人の理工学部の教員が、本学で行っている研究をオムニバス形式で英語で紹介する。バイオインフォマティクス、神経科学、エネルギー問題、地球温暖化、そしてメディアアートについて講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (1.松山 達/3回) エネルギー問題 Explain about energy consumption, generation and related technologies. (訳) エネルギー消費、生産、及び関連技術について説明する。 (19.木下 聖子/3回) Introduction to the WWW and databases, Sematic Web, and bioinformatics. (訳) WWWとデータベース、セマンティックウェブ、バイオインフォマディクスの入門について説明する。 (3.井田 旬一/3回) Explain about global warming, its mechanisms, impacts, and mitigation. (訳) 地球温暖化について、メカニズム、影響、対策について説明する。 (14.川井 秀樹/3回) Explain about cognitive function and Alzheimer's disease, stroke and somatosensory map, and regenrative medicine. (訳) 認知機能とアルツハイマー病、脳卒中と脳地図、再生医療について説明する。 (20.篠宮 紀彦/3回) Explain about the movement of media arts. (訳) メディアアートの動向について説明する。	オムニバス
専門科目（続き）	グリーンテクノロジーコア科目（続き）	選択科目（続き）	熱力学		【授業形態】講義 【目標】力学の基本から出発して、「永久機関が不可能」であること、即ち、熱力学第一法則・第二法則を理解することを目指す。また熱力学的な観点から「エネルギー消費」に依存する現代社会のあり方についても考える。 【授業計画】ニュートンの運動の法則、位置エネルギーと力学的エネルギー保存則、理想気体の状態方程式、気体分子運動論と内部エネルギー、等圧・等積・等温・断熱変化、熱機関と熱効率、カルノーの原理、エンタルピー、エントロピー、自由エネルギー、現代のエネルギー生産とエネルギー消費について学ぶ。	
			Academic English for Science and Engineering		【授業形態】講義 【目標】科学・工学分野の技術的レポートについて、それを作成するために必要な高度な英語スキルを習得する。 【授業計画】技術的レポートを構成する、序論、方法、結果、考察、結論の5つの主項目のそれぞれについて学習する。学生は各項目で使用される典型的な内容、語彙、文法、文句を学び、出版論文の概要や技術的なレポートを英語で作成することによって、各項目のアカデミックな英語の書き方を習得する。	
			マテリアルサイエンス		【授業形態】講義 【目標】多様な分野で使われている様々な材料を構造、物性、化学的性質に基づいて分類し、その構造と性質のつながりや、それぞれの材料の特徴、そして用途について学ぶ。 【授業計画】序論として材料の歴史と種類について述べた後、原子構造や結晶構造などの材料の微視的構造についてその解析法と共に学ぶ。その後、金属材料、セラミックス材料、高分子材料、電子材料のそれぞれの分類毎に、構造と材料の特徴について学ぶ。また、それぞれの材料について、使用用途と関連する最近のトピックスを紹介する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			機器分析学		【授業形態】講義 【目標】現在では実際に使われる分析法のほとんどが機器を使用する機器分析法である。知りたい情報、分析したい事項に関して、適切な分析法を選択できるようになることが授業の目標である。 【授業計画】この講義では、クロマトグラフィー分析、元素分析法（原子吸光分析、誘導結合プラズマ（ICP）発光分析、ICP質量分析、蛍光X線分析、燃焼法など）、分子量測定法（各種質量分析、多角度光散乱、超遠心分析など）、分光分析（紫外・可視分光、赤外分光、核磁気共鳴など）の原理および特徴を概説する。	
			粉体工学概論		【授業形態】講義 【目標】医薬品、化粧品、食品、セラミックス、材料、リサイクル技術など、産業のあらゆる分野で、その原料・工業中間体・製品のいずれかに於いて粉体又は粒子状物質のプロセッシングが行われている。粉体は、固体や流体とは異なる性質を示し、その取り扱いや測定には一定の基礎知識が必要になる。この授業では、「具体的な粉体プロセスにどのようなものがあるのかを知る」「単一粒子特性に関する基礎的事項を知る」「粒子集合体としての粉体の特徴を知る」ことを目指す。 【授業計画】粉体工学とは、粉体を操作する工業生産の実例、粉体プロセス、粉体の特徴、粒子径と粒子径分布、粒子径測定技術、沈降と流体抵抗、流動化、分離と分離効率、粒子生成、粉砕、造粒、濾過について学ぶ。	
			卒業研究Ⅰ	○	【授業形態】演習 【目標】3年次までに学習したグリーンテクノロジー分野の知識をもとに、学生自身が最も関心が高い研究テーマに基づいて研究室を選択し、担当教員の指導を受けながら研究を実施する。研究テーマに関連する文献・資料を収集し、問題発見と調査能力を育成する。また、収集した文献・資料をもとに、自らの研究テーマの背景・課題・解決方法などを理解し、実験的研究あるいは社会調査を実施する。卒業論文の作成過程において複数回の報告を行い、発表資料作成・質疑応答などを通じてプレゼンテーション能力を育成する。研究成果をまとめ、章構成・論理的展開を考えた卒業論文を作成できる能力を身につける。 【授業計画】各教員の研究テーマは以下の通りとする。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジーコア科目（続き）	選択科目（続き）	卒業研究Ⅰ（続き）		(1.松山 達) 粉体工学・静電気工学の一般的な内容から、応用研究までの範囲で研究テーマを設定し、文献調査・研究計画の立案、実験の実施と解析を行い、研究発表を行う。 (2.KUWAHARA Victor Shinichi) 生物地球化学、海洋光学、環境科学の多分野にわたるテーマを通じて、海洋学の先端研究における研究・実験・調査を行う。 (3.井田 旬一) 材料科学・工学、粉体工学をベースに、環境に優しい技術や材料を開発する事を目的に以下のようなテーマを取り扱う。（1）材料科学・工学による生物学的水処理の効率改善（2）材料科学・工学によるメタン発酵の効率改善（3）ゲルの医療分野への応用（4）セルロースゲルの開発（5）光ファイバガスセンサの開発 (4.亀田 多江) IoT、AI、ロボット技術を活用した環境指標のリモートセンシング技術について、その現状と課題、技術の進展とその影響について文献調査・研究発表を行う。 (5.中崎 清彦) 広い意味での「環境微生物学」に沿った廃棄物処理技術に関する文献調査、実験を行う。 (6.黒沢 則夫) 微生物の分類学・生理生態学・生物系統地理学分野における文献調査・フィールドワーク・室内実験・研究発表を行う。 (7.佐藤 伸二郎) 循環型社会形成のための有機系廃棄物の有効利用を目的として、それらの土壌環境の改良材効果などについて研究・実験を行う。 (9.KHATRI Pradeep) 大気汚染や地球温暖化問題の解明に向けて、各自が関心を持つ研究テーマを設定し、そのテーマに関する研究を行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					(10.青野 健作) SDGsに掲げられた諸問題（平和、ジェンダー、気候変動、イノベーション、国際法など）に関して、自然科学と社会科学の関係を意識しながら、各自がテーマを設定し、文理融合的な学習・研究調査を行う。 (11.秋月 真一) 微生物の機能を利用した廃水及び廃棄物処理分野において、以下の観点のいずれかに該当する研究テーマを取り扱い、実験を行う。（1）省エネルギー技術の基礎または応用、（2）創エネルギー技術の基礎または応用、（3）創資源技術の基礎または応用、（4）IoT・AI技術の利活用、（5）持続的惑星探査に向けた資源循環システムの確立	
			卒業研究Ⅱ	○	【授業形態】演習 【目標】3年次までに学習したグリーンテクノロジー分野の知識をもとに、学生自身が最も関心が高い研究テーマに基づいて研究室を選択し、担当教員の指導を受けながら研究を実施する。研究テーマに関連する文献・資料を収集し、問題発見と調査能力を育成する。また、収集した文献・資料をもとに、自らの研究テーマの背景・課題・解決方法などを理解し、実験的研究あるいは社会調査を実施する。卒業論文の作成過程において複数回の報告を行い、発表資料作成・質疑応答などを通じてプレゼンテーション能力を育成する。研究成果をまとめ、章構成・論理的展開を考えた卒業論文を作成できる能力を身につける。 【授業計画】各教員の研究テーマは以下の通りとする。 (1.松山 達) 粉体工学・静電気工学の一般的な内容から、応用研究までの範囲で研究テーマを設定し、文献調査・研究計画の立案、実験の実施と解析を行い、研究発表を行う。 (2.KUWAHARA Victor Shinichi) 卒業研究Ⅰに引き続き、生物地球化学、海洋光学、環境科学の多分野にわたるテーマを通じて、海洋学の先端研究における研究・実験・調査を行う。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジーコア科目（続き）	選択科目（続き）	卒業研究Ⅱ （続き）		(3.井田 旬一) 材料科学・工学、粉体工学をベースに、環境に優しい技術や材料を開発する事を目的に以下のようなテーマを取り扱う。（1）材料科学・工学による生物学的水処理の効率改善（2）材料科学・工学によるメタン発酵の効率改善（3）ゲルの医療分野への応用（4）セルロースゲルの開発（5）光ファイバガスセンサの開発 (4.亀田 多江) IoT、AI、ロボット技術を活用した環境指標のリモートセンシング技術について、その現状と課題、技術の進展とその影響について文献調査・研究発表を行う。 (5.中崎 清彦) 広い意味での「環境微生物学」に沿った廃棄物処理技術に関する文献調査、実験を行う。 (6.黒沢 則夫) 微生物の分類学・生理生態学・生物系統地理学分野における文献調査・フィールドワーク・室内実験・研究発表を行う。 (7.佐藤 伸二郎) 循環型社会形成のための有機系廃棄物の有効利用を目的として、それらの土壌環境の改良材効果などについて研究・実験を行う。 (9.KHATRI Pradeep) 大気汚染や地球温暖化問題の解明に向けて、各自が関心を持つ研究テーマを設定し、そのテーマに関する研究を行う。 (10.青野 健作) SDGsに掲げられた諸問題（平和、ジェンダー、地球環境、街づくりなど）から、各自の研究テーマに従って論文を調査・精読し、プレゼンテーションによる研究内容の発表を行う。 (11.秋月 真一) 微生物の機能を利用した廃水及び廃棄物処理分野において、以下の観点のいずれかに該当する研究テーマを取り扱い、実験を行う。（1）省エネルギー技術の基礎または応用、（2）創エネルギー技術の基礎または応用、（3）創資源技術の基礎または応用、（4）IoT・AI技術の利活用、（5）持続的惑星探査に向けた資源循環システムの確立	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	グリーンテクノロジー応用科目	地球環境理工学科目	気候変動科学論	○	【授業形態】講義 【目標】気候変動の原因、影響、予測、そして対策に関する科学的知識を身につけて、実社会での対応策を考える能力を養うことを目標とする。 【授業計画】過去の気候データや古気候学的証拠を通じて気候変動の歴史的背景を探り、現在進行中の気候変動に関わる主要な因子（温室効果ガス、炭素循環など）や気候システム内の相互作用の詳細について学ぶ。また、気候変動の多様な影響を評価し、将来の気候予測や緩和策についての理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （2.KUWAHARA Victor Shinichi/7回） 気候変動の基本概念、気候変動の歴史、温室効果ガスや炭素循環、海洋の熱蓄積や海面上昇、大気と海洋の相互作用などを担当する。 （9.KHATRI Pradeep/8回） 人間の活動が気候変動に与える影響、気候モデルを用いた未来予測、気候変動の影響、温室効果ガス削減の緩和戦略、気候変動研究の未来の方向性などを担当する。	オムニバス
			生態学		【授業形態】講義 【目標】生態学は、個体以上の“マクロ”の方向を研究対象とする生物学の一分野である。生態学は、幅広い範囲を包含する学問であるが、本講義では、生態学の基礎的な理論と概念について講義する。生態系を各コンポーネントに分け、それらの機能によって物質の流れを推測すること、群集内の物質循環の計算ができるようになることを目標とする。 【授業計画】生態系の概念と構成要素、基礎生産者と光合成、生態系における生物量の概念、生態系の栄養構造、遷移と極相、環境傾度と群集、生物群集の個体群動態、生態系の物質循環、生態系の調節機能、生態学の効用などについて学ぶ。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	地球環境理工学科目（続き）	環境管理システム実験		【授業形態】実験・実習 【目標】室内・屋外における遠隔管理手法を使った環境管理システムについて理解し、回収した情報の処理について実践的に学習する。 【授業計画】大学構内の定点Webカメラによる遠隔監視や各種センサーによる自然環境のリモートセンシング実験を行うとともに、微気象と気象データを比較する実験を行う。また、人工気象室内において、光・温度・二酸化炭素濃度による各種藻類の光合成速度のモニタリング実験を行い、環境条件と光合成速度の相関をデータ処理から明らかにする。	共同
			植物生理学概論		【授業形態】講義 【目標】植物生理と生化学反応・遺伝子組換え植物について学び、自然生態系における植物の役割や影響を理解することを目標とする。 【授業計画】本講義では、植物の各器官の特徴と光合成について、種子形成と種子の生態系での役割について、植物ホルモンや光・日長などに対する植物の応答についてそれぞれ学習する。また、植物と他の生物との共生関係や、遺伝子組み換え植物の生態系への影響について学ぶ。	
			地球生態系モニタリング		【授業形態】講義 【目標】地球生態系モニタリングの技術と方法を学び、持続可能な開発と地域コミュニティの重要性を理解しながら、実際の地球環境や生態系の保全活動に役立つ知識とスキルを身につけることを目標とする。 【授業計画】地球生態系と環境保全の基本およびそのモニタリング手法を学ぶ。森林、海洋、湿地、都市などの生態系に対する気候変動の影響を評価し、絶滅危惧種の保全計画や地域コミュニティとの連携について考察する。また、持続可能な開発目標（SDGs）に基づく実践例を学び、成功事例を分析し、保全戦略を議論する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			地球観測技術	○	【授業形態】講義 【目標】本科目では、①地球はどのように観測するか、②地球観測に用いられるセンサーはどのようなものか、③得られた観測ビッグデータはどのように処理をして活用できるのか、この3点から地球観測技術を学ぶ。 【授業計画】地球観測技術の基礎知識として仕組み・基盤技術・諸課題について学んだ上で、具体的な地球観測技術として大気・陸・海のリモートセンシング技術について学ぶ。また地球観測ビッグデータから地球を理解するためのデータ連携と視覚化について学び、リアルデータを用いたアクティブラーニングで循環型社会について考える。 （オムニバス方式／全15回） （2.KUWAHARA Victor Shinichi/5回） 地球観測技術の理論・仕組み・基盤技術・諸課題について学ぶ授業を担当する。 （4.亀田 多江/5回） 地球観測ビッグデータから地球を理解するためのデータ連携と視覚化について学び、リアルデータを用いたアクティブラーニングで循環型社会について考える授業を担当する。 （9.KHATRI Pradeep/5回） 地球観測技術として大気・陸・海のリモートセンシング技術について学ぶ授業を担当する。	オムニバス
			地球化学		【授業形態】講義 【目標】地球化学の視点から、大気と海洋の化学的プロセスを理解し、気候変動や環境問題への対策に関する知識を深めることを目標とする。 【授業計画】地球化学の基礎、大気の主成分や微量成分の振る舞い、地球化学的サイクル、酸性雨、海洋酸性化、海洋の化学組成と循環メカニズム、大気と海洋の相互作用などに焦点を当て、大気と海洋の化学プロセスおよび地球化学的観点から見た人間活動が、大気・海洋圏に与える影響を学ぶ。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	地球環境理工学科目（続き）	土壌科学	○	【授業形態】講義 【目標】農地としての「土壌」から、環境問題に関連した「土壌科学」がより重要になっている。土壌の保全や改良と環境問題解決との関連の理解を目標とし、土壌科学の基礎について全般的に学ぶ。 【授業計画】土壌の生成過程と分類方法、また土壌の生物性・化学性・物理性を理解する。また土壌環境の違いを森林・畑・水田土壌別に理解し、土壌環境の保全および管理方法を学ぶ。そして、環境問題の中の土壌科学の位置づけを理解し、土壌環境の問題と解決方法について学ぶ。	
			地球科学実験	○	【授業形態】実験・実習 【目標】地球観測衛星データや天文衛星データの解析方法、古生物学分野における生物進化の理解、そして気象データの統計解析方法を習得し、地球環境と宇宙の変動、生命の進化過程をより深く理解することを目指す。 【授業計画】地球観測衛星データや天文衛星データの解析に必要な基礎知識、RGB合成画像の作成方法、そして衛星観測データの可視化手法を学ぶ。また、魚類の骨格を観察しスケッチを通して骨格形成の進化を理解する。さらに、古環境解析に用いられる有孔虫の微細構造を実体顕微鏡や電子顕微鏡を用いて観察する。加えて、日本各地の気温、湿度、降雨量、紫外線量などの気象データを取得し、それらの環境変動や周期に関する統計解析方法を学ぶ。 （オムニバス方式／全30回） （12.戸田 龍樹・9.KHATRI Pradeep/4回）（共同） ガイダンスと実験講義（2回）を行い、神奈川県立生命の星・地球博物館への見学を引率して解説する（2回）。 （9.KHATRI Pradeep/14回） 地球観測衛星データ解析の基礎（2回）、気象データの統計解析（4回）、RGB合成画像の作成方法（4回）、衛星観測データの可視化(4回)を行う。	オムニバス 共同（一部）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					（12.戸田 龍樹/8回） 魚類の骨格を観察しスケッチを通して骨格形成の進化を理解する実験（4回）と、古環境解析に用いられる有孔虫の微細構造を実体顕微鏡や電子顕微鏡を用いて観察する実験（4回）を担当する。 （146.浅井　和美/4回） X線天文衛星データをWebから入手し、それぞれX線天体の連星周期解析（2回）と、X線天体の超軌道周期解析（2回）を行う。	
			海洋観測実習		【授業形態】実験・実習 【目標】日本列島は、日本海という縁辺海を背に、大平洋側は巨大な2つの海流、すなわち親潮と黒潮が沖合を流れ、古来より多くの恩恵を海から受けてきた。海洋観測実習の主眼とするところは、フィールドでの作業を通して直に自然環境に触れ、環境科学の第一歩である観測データの収集を経験してもらうことにある。得られたデータを元に、海洋環境の時系列変化と空間的な同質性と異質性について理解する。 【授業計画】本実習の内容は大きく分けて、防波堤における沿岸連続観測と横浜国立大学実習施設所属の沿岸観測船「たちばな」による沖合観測とに分けられる。沿岸観測においては、昼夜にわたる連続観測を行い、時系列での環境の変化を把握し理解する。沖合観測においては、水深約100 mの観測点において各深度で観測を行い、鉛直的な海洋構造を調べる。そして、沿岸観測と沖合観測のデータを比較することにより、海洋環境の空間的な同質性と異質性を考察する。	共同
			環境分析化学実験	○	【授業形態】実験・実習 【目標】環境情報を得るための代表的な自然環境試料の採取、分析の前処理、化学的な分析方法の習得を目標とする。 【授業計画】土壌の陽イオン交換容量、大学近郊の大気中の窒素酸化物（NOx）量、河川水の化学的酸素要求量（COD）の測定などの実習を通して、化学的な分析方法を習得するだけでなく、レポートの書き方についても学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （7.佐藤 伸二郎・9.KHATRI Pradeep・11.秋月 真一/3回）（共同） 実験に関する講義とレポート作成指導。	オムニバス 共同（一部）
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	地球環境理工学科目（続き）	環境分析化学実験（続き）		（7.佐藤 伸二郎/4回） 土壌の陽イオン交換容量の測定（4回）を担当する。 （9.KHATRI Pradeep/4回） 大学近郊の大気中NOx量の測定（4回）を担当する。 （11.秋月 真一/4回） 河川水のCODの測定（4回）を担当する。	
		資源循環理工学科目	環境微生物学	○	【授業形態】講義 【目標】原核生物（バクテリア、アーキア）および単細胞真核生物の形態、分類、生理、生態、代謝、進化と多様性などに関する基本的な知識を身につけるとともに、微生物の環境との関わりについて理解する。 【授業計画】微生物学の歴史、微生物の分類、微生物の栄養と増殖、微生物の代謝、微生物の進化と多様性、微生物と環境、微生物の取り扱い方、微生物と病気、微生物の環境分野への応用について解説する。	
			グリーンケミストリー入門	○	【授業形態】講義 【目標】環境に優しく、持続可能な成長を可能にする新技術の開発は、21世紀の化学産業にとっての主要な課題である。これに挑戦する化学の研究開発に取り組むのが Green ChemistryあるいはSustainable Chemistryと呼ばれる分野である。この講義では、まず「グリーンケミストリーの12箇条」をはじめとする基礎的な理論とその応用の基本的な考え方を、有機化学を中心とする事例を用いて紹介する。次いで、この分野のいくつかのトピックスを輪講形式で学ぶ。 【授業計画】グリーンケミストリーの概要とコンセプト、有機化学合成にともなう廃棄物（副産物）の生成、副産物を最小化するプロセスの設計、有機化学反応の高い選択性を可能にする触媒利用、有害な溶媒を使用しない新しい技術などについて講義する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			基礎微生物学実験		【授業形態】実験・実習 【目標】バイオテクノロジーの分野で最もよく使われていて、病原性のないことが明らかな大腸菌を用い、微生物の取り扱い方と培養方法の基礎を修得する。また、ファージの感染実験を通じて、活性ファージ数の測定方法を修得し、ファージの生活環を理解する。 【授業計画】 「微生物学実験の基本」では、無菌操作、培養用プレートの作製、器具や培地の滅菌、バイオハザードの防止について解説し実験を行う。「微生物の培養方法と顕微鏡観察」では、画線法と塗拡げ法、コロニーの観察と生菌数の算出、顕微鏡を用いた微生物細胞の計数及び微生物の形態観察について実験を行う。「活性ファージ数の測定」では、T4ファージ及びλファージの感染実験を行う。	
			環境微生物学実験		【授業形態】実験・実習 【目標】キャンパス内の土壌や池の水から特定の酵素活性を有する細菌を分離し、遺伝子解析により種を同定する。この一連の作業を通して微生物の取り扱い方の基礎を修得する。 【授業計画】キャンパス内の土壌や池の水を採取し、これを分離源として、プロテアーゼやアミラーゼ等の酵素を産生する細菌をスクリーニングする。純粋培養を行う事により目的の細菌を単離し、16S rRNA遺伝子解析により種を同定する。	
			生態環境工学		【授業形態】講義 【目標】生態環境工学は、人間と自然生態系との共存を目指す学問分野である。人為的影響下にある生態系への負荷軽減と適切な生物資源管理の理論と技術について理解する。地球の多様性を理解し、それらを保護、保全、そして持続可能な利用についての技術を理解する。 【授業計画】人間活動と生物多様性の危機、生物資源の持続可能な利用、生態系における様々な自然エネルギー、生物群集や生態系を利用した環境技術、環境モニタリング技術などについて講義する。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	資源循環理工学科目（続き）	水処理工学実験	○	【授業形態】実験・実習 【目標】好気処理（活性汚泥法）による下水処理実験、排水基準関連項目の水質分析、IoT技術による槽内環境モニタリングなどを通して、微生物を利用した水処理技術の基本原理と実験および解析手法を学び、実際の水質改善プロセスを理解する。 【授業計画】水処理に利用される微生物とその反応機構に関する講義、反応槽内の気液界面での酸素移動速度：物質移動容量係数の測定と解析、活性汚泥法による回分式下水処理実験、化学的酸素要求量（COD）・窒素化合物（アンモニウム、硝酸、亜硝酸）・リン酸の分析、処理性能および反応速度の定量的評価を学ぶ。	共同
			プランクトン工学	○	【授業形態】講義 【目標】細菌から、単細胞性藻類、甲殻類など多様な分類群の生物を含む「プランクトン」が持つ特性や様々な機能を実社会で利活用するための原理と手法について学ぶ。身近に存在するプランクトンを軸として、環境問題や食糧問題等の世界的課題の理解と解決方法に対する基礎的な知見を修得する。 【授業計画】動植物プランクトンの分類・生理生態、動植物プランクトンの培養法、プランクトンを利用した代表的な水処理技術（ラグーン式、レースウェイポンド式、フラットパネル式等）の原理と効果などについて講義する。 （オムニバス方式／全8回） （12.戸田 龍樹/4回） 動植物プランクトンの分類・生理生態、動植物プランクトンの培養方法・飼育手法について講義する。 （11.秋月 真一/4回） プランクトンを利用した代表的な水処理技術について講義する。	オムニバス

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			プランクトン工学実験		【授業形態】実験・実習 【目標】細菌から、単細胞性藻類、甲殻類など多様な分類群の生物を含む「プランクトン」が持つ特性や様々な機能を実社会で利活用するための原理と手法について学ぶ。実際のプランクトンを利用して同定・培養・飼育・培養リアクター等について理解を深める実験を行う。 【授業計画】動植物プランクトンの同定・機能評価、植物プランクトンの培養、動物プランクトンの飼育、理工学部内の先端的植物プランクトン培養設備（浮遊揺動リアクター“CRADLE”、全自動パック式リアクター）を用いた水処理及びバイオマス生産、などの実習を通して、プランクトン工学の基本的な手法を学習する。	共同
			廃棄物処理工学	○	【授業形態】講義 【目標】本講義では、様々な廃棄物（無機性、有機性）の問題について理解し、その処理法やリサイクル技術に関する基本的な知識を修得する。 【授業計画】日常生活や企業活動を行うと廃棄物が発生する。廃棄物の処理は、我々の身近な問題であるにも関わらず、その内容についてはあまりよく知られていない。その理由は、廃棄物の範囲が広く、法律も複雑であることに起因すると考えられる。そこで、この授業では、事例を紹介しながら、できるだけわかりやすく廃棄物の概要と処理について説明する。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	資源循環理工学科目（続き）	生物反応工学		【授業形態】講義 【目標】反応工学とは化学工学の基幹単元の一つである。この科目では反応装置設計に必要となる化学反応および生物反応に関する反応速度論および反応器の種類とその設計方程式について学ぶ。単純な整数次反応解析から出発して、微生物および酵素反応プロセスを含めた反応速度論と反応器設計の基礎を学び、工業化プロセスへの応用に必要な設計、操作、制御の手法についての基礎的な知見を習得する。 【授業計画】化学反応における量論（ストイキオメトリ）と反応速度の定義から出発して反応次数並びに反応速度式の取り扱いについて議論する。単純な整数次数の反応速度式から出発して酵素反応型並びに表面反応型を含む複雑な反応速度式についても議論する。化学反応の活性化エネルギー並びにアレニウス型の反応速度論を取り扱う。均一反応の反応速度論に基づいて、回分式反応器、並びに連続式反応器の運転条件を議論する。連続式反応器では管型反応器，並びに単段及び多段の完全混合層反応器の特性について議論する。主として定常状態における運転について議論するが、過渡応答の話題にも触れつつ、反応器設計と反応速度解析について取り扱う。一部、不均一反応についても紹介する。	
			生物反応工学実験		【授業形態】実験・実習 【目標】微生物および酵素反応プロセスにおける反応速度論と反応器設計の基礎を学び、工業化プロセスへの応用に必要な設計、操作、制御の手法を実験を通して身につける。 【授業計画】酵素・微生物を用いた生物反応器による物質生産の原理と反応器設計・反応解析、流れの可視化と円管内の流動抵抗の測定と解析、流通式撹拌槽型反応装置の反応解析、流通式充填槽型反応装置の反応解析を学ぶ。	共同
		環境情報処理科目	基礎統計学		【授業形態】講義 【目標】統計学の基本的な概念を理解する。統計ソフトを使用した統計解析手法を身につける。実社会における課題に対して統計的手法で対応する力を身につける。 【授業計画】統計学とは、データからその背後にある母集団の性質を推定する方法について研究する学問である。本講義では、記述統計、推測統計の準備としての数理的な予備知識（確率分布、平均、分散、標準偏差、ランダムサンプルなどの基本概念）について学ぶ。また、統計的推測および統計的仮説検定（点推定、区間推定、仮説検定）の考え方について学ぶ。分析法の数理的な内容を理解するだけでなく、関連する実際のデータを統計ソフトを使って分析することを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			No-Code Predictive Analytics with AI		【授業形態】講義 【目標】This course aims to enhance students' ability to develop practical quantitative (statistical and mathematical) models of business situations. In addition, the course will introduce students to available analytics techniques for analyzing or solving these models, namely, descriptive analytics, predictive analytics, prescriptive analytics. For each of these themes, at the end of the course, the student will be able to: 1. Identify a problem within a business context; 2. Recognize an appropriate analysis or solution technique to employ; 3. Model the problem; 4. Analyze or solve the problem by using appropriate software; and 5. Analyze the results and communicate the recommendations to management. （訳）本講義は、ビジネスの状況に対して実用的な定量的（統計的および数学的）モデルの理解を深め、学生の能力を向上させることを目的とする。さらに本講義では、これらのモデルを分析または解決するために利用可能な分析手法、すなわち記述分析、予測分析、処方分析を学生に紹介している。これらの個別テーマを学ぶことで、講義終了時に、以下の事項を学生の学習成果とする。 1. ビジネスの文脈で問題を特定する。 2. 適切な分析または解決手法を認識する。 3. 問題をモデル化する。 4. 適切なソフトウェアを使用して問題を分析または解決する。 5. 結果を分析し、経営陣に推奨事項を伝える。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	環境情報処理科目（続き）	No-Code Predictive Analytics with AI（続き）		【授業計画】 This course will cover key topics related to predictive analytics, including modeling, strategy, predictive analytics, machine learning, blockchain foundations, decision analysis and simulation. （訳） 本講義ではモデリング、戦略、予測分析、機械学習、ブロックチェーンの基礎、意思決定分析、シミュレーションなど、予測分析に関連する主要なトピックを取り扱う。	
			環境情報システム論	○	【授業形態】講義 【目標】グリーントランスフォーメーションの推進に必要な環境に役立つ情報システムの技術と活用法を理解し、高度情報システムを生かした循環型社会について考えられるようになる。 【授業計画】 本授業では、環境に役立つ情報システム技術と活用法を、情報システム工学や環境工学の視点から学ぶ。具体的には、情報システム技術とエネルギーの効率的な利用、情報システムによる環境活動、高度情報システムと循環型社会等について学び、持続可能な社会推進に貢献するための情報システム構築・活用の基礎知識を身につける。	
			Qualitative Research Method		【授業形態】講義 【目標】Students learn the fundamental structure of qualitative academic research, including formulating research questions, conducting literature reviews, employing methodologies, collecting data, and engaging in discussion/interpretation. （訳）本講義を通じて学生は、質的学術研究の基本的な構成、研究課題の形成、文献レビュー、方法論、データ収集、議論や解釈の使用方法を学ぶ。 【授業計画】The first half of the course covers various qualitative research forms such as biography, ethnography, grounded theory, and case study. The second half emphasizes case study research and qualitative data collection methods like interviews and questionnaires. Two faculty members will each be responsible for the first half (15 sessions) and the second half (15 sessions) of the course, respectively, and will conduct the lectures. （訳）コースの前半では、バイオグラフィー、エスノグラフィー、グラウンデッド・セオリー、ケーススタディなど、さまざまな質的研究の形態を理解する。後半では、ケーススタディの研究と、インタビューやアンケートなどの質的データ収集方法について学ぶ。2名の教員が本講義の前半(15回)と後半(15回)をそれぞれ担当し、講義を行う。 （オムニバス方式／全30回）	オムニバス

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					（18.Laurence Macdonald/15回） In the first half of the lecture, topics such as designing a qualitative study, the five qualitative traditions, introducing and focusing the study, data collection, data analysis and representation, and sample qualitative studies are covered. （訳）講義の前半では、質的研究のデザイン、5つの質的分析、研究の紹介と焦点の設定、データ収集、データ分析と表現、および質的研究のサンプルについて取り扱う。 （121.章　舜源/15回） In the second half of the lecture, designing a case study, data collection, and case study analysis are focused. Finally, students will be requested to give a presentation. （訳） 講義の後半では、ケーススタディの設計、データ収集、およびケーススタディの分析に関する講義を行う。最後に、学生はプレゼンテーションを行う。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	環境情報処理科目（続き）	数理統計学Ⅰ	○	【授業形態】講義 【目標】データが発生するメカニズムを確率現象として捉えてデータ解析を一歩深い次元から学ぶ。データを適切に解析し、また現実のデータ分析に相応しい新たな確率モデルと解析手法を創造していく上で基本となる確率とその上に展開される数理統計学の考え方や方法論について理解する。 【授業計画】確率，確率変数と確率分布、２変数の同時確率分布，期待値と積率母関数，統計モデル，多変量正規分布について学び，数理統計学の基本部分を習得することを目的とする。統計学や関連の分野で専門性を身につけたい学生には「数理統計学II」も含めて必須の内容であり、両方を習得することができれば、統計質保証推進協会の統計検定１級（数理と応用）の試験に合格できるレベルに達することができる。	
			ライフサイクルアセスメント		【授業形態】講義 【目標】ライフサイクルアセスメント（LCA）の基礎から算定方法を学び、さらに応用事例などを学び、「ライフサイクル思考」を理解する。 【授業計画】ライフサイクルアセスメント（LCA）基礎的知識、ライフサイクルインベントリ分析（LCI）の方法、ライフサイクル影響評価（LCIA）の概要と計算方法について、考え方と身近な例を説明・紹介し、議論する。計算方法については演習形式で実際に問題を解いてもらい、理解を深める。	
			ライフサイクルアセスメント演習		【授業形態】演習 【目標】ライフサイクルアセスメント（LCA）の算定方法を学び、実際にLCAケーススタディを各自が行い、算出方法を習得し体験することで、LCAの考え方を理解する。 【授業計画】さまざまなライフサイクルアセスメント（LCA）の実際の応用例について講義しつつ、LCAの基本的な算出方法を理解しする。LCAに関連する近年の動向を調査し、各自、演習方式で計算演習を通じて環境影響の定量化における課題を理解する。	
			データ分析演習		【授業形態】演習 【目標】SDGsを軸にビジネス・テクノロジーおよびデータサイエンスをテーマとした問題解決型のアクティブラーニングを通じて、ビジネスにおけるテクノロジーとデータサイエンスを学ぶ。 【授業計画】データサイエンス副専攻で学習をした基礎的な統計解析・プログラミング能力をベースに、①データからビジネス上意味のある“コト”を洞察し、②新たなアイディアや価値を創出する、③意思決定者にわかりやすく伝える能力を養うために、ビジネスにおけるデータサイエンスのための基礎的な教養（業務知識、テクノロジー、データ分析）を身につけ、プロジェクトベースドラーニング（PBL）形式で実践知を修得する。また、デジタル社会で活躍するために必要な知識やスキルを獲得するために、前半は最新テクノロジーの動向やデザイン思考を含むコンサルティング技法、およびビジネスでデータ分析を行うために必要な知識を学ぶ。後半はPBLベースでのグループワークを主とし、社会課題解決のために必要な課題設定・アイディア創出をし、データでその論拠を支える実践活動を行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			機械学習(AI)演習		【授業形態】講義 【目標】Pythonを用いたプログラミング演習を通じて、実際のデータセットを使ったモデル構築と検証を行い、理論と実践を融合させて学ぶ。最終的には、機械学習の基本的なモデルを理解し、実社会における多様な課題に応用するスキルを身につける。 【授業計画】この演習では、データから自動的にパターンを学習し、予測や意思決定を行うアルゴリズムの基礎を学び、企業などの実課題をもとにした協働学習（PBL）を行う。本演習は、機械学習の理論的背景と実践的な応用に重点を置く。主なトピックとして、教師あり学習（回帰、分類）、教師なし学習（クラスタリング、次元削減）などを取り上げる。さらに、モデル評価の手法や過学習の防止についても学習する。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	環境情報処理科目（続き）	数理統計学Ⅱ	○	【授業形態】講義 【目標】データが発生するメカニズムを確率現象として捉えてデータ解析を一歩深い次元から学ぶ。データを適切に解析し、また現実のデータ分析に相応しい新たな確率モデルと解析手法を創造していく上で基本となる確率とその上に展開される数理統計学の考え方や方法論について理解する。 【授業計画】「数理統計学I」の内容の続きとして、大数の法則と中心極限定理、正規分布から導かれる分布、パラメータの推定、仮説検定と信頼区間、カイ２乗適合度検定について学び、推定と検定についての統計的推測方法を習得することを目的とする。統計学や関連の分野で専門性を身につけたい学生には「数理統計学I」も含めて必須の内容であり、両方を習得することができれば、統計質保証推進協会の統計検定１級（数理と応用）の試験に合格できるレベルに達することができる。	
			多変量解析		【授業形態】講義 【目標】多変数のデータを解析するための様々な方法を学び、多変数データが適切に分析できるようになる。 【授業計画】データ解析の醍醐味の１つは、変数同士の関係性を捉えることにある。例えば、ある会社の従業員の給与、年齢、役職、学歴、性別のデータは５変数であり、年齢、役職、学歴、性別のうち給与に関係する変数を特定しその関係性の程度を見積もると、その会社の給与の考え方を推し量ることができる。また給与を他の変数で説明する直線の式が得られれば、10年後の収入を計算して人生設計に生かせるし、給与に対するジェンダー・バイアスの有無を統計的に検証することもできる。このような多くの変数からなるデータについての統計解析を多変量解析と呼ぶ。多変数のデータを解析するための様々な方法として、相関分析、回帰分析、判別分析、因子分析、クラスター分析、数量化法について一通り学ぶ。またフリーの統計解析ソフトRの使い方についても学ぶ。	
		グリーンテクノロジー社会実装科 環境ビジネス分野	公共政策（地域創生ビジネス）		【授業形態】講義 【目標】「地域創生」の取り組みと地域活性化、課題解決について理解を深める。今後、官公庁や国内各地へUターン就職などを考えている学生に必要な知見を深める。 【授業計画】「地域創生」をビジネス（観光誘客、製品販売、企業誘致など）の角度から学習する。その上で、特に、（人物も含めて）特徴的な自治体の取り組みに焦点を当てつつ、国境を超えた活動（海外からの観光誘客、輸出、外国企業誘致等）について、具体的な事例を説明しながら、問題意識を深める。最終的に、様々な課題を抱える国内各地において、「地域創生」のために、どのような活動が重要かを考え、学習する。	

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		科目		Development Economics		【授業形態】講義 【目標】This course is designed to acquaint students with core concepts and key issues in development economics. In this course, students will study development issues from an applied microeconomic perspective and learn how to approach each issue. This course will cover a wide range of topics relevant to the developing world, such as inequality, human capital (education and health), labor, migration, gender, and corruption, to name a few. （訳） 本講義は、学生に開発経済学の核心的な概念と主要な課題を理解することを目的とする。応用ミクロ経済学の視点から開発問題を研究し、各問題にどのように取り組むかを学び、格差、人材資本（教育と健康）、労働、移民、ジェンダー、腐敗など、発展途上国に関連する幅広いトピックを扱う。 【授業計画】This course will cover topics related to development economics such as SDGs, health, education, child labor, migration, credit, agriculture, gender, and corruption. Participating students will engage in group research. （訳） 本講義を通じてSDGs, 健康、教育、児童労働、移民、資金、ジャンダー、汚職等の開発経済に関するトピックを扱い、参加学生はグループ研究を行う。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	グリーンテクノロジー社会実装科目（続き）	環境ビジネス分野（続き）	AI-augmented Prescriptive Operations Analytics		【授業形態】講義 【目標】This course will unpack the fundamentals of Operations Management. This course will cover operations strategies and product design and understand the importance of process selection, location choices, and layout planning. In addition, students will explore how inventories are managed, jobs are effectively scheduled, and future trends are predicted. At the end of the course, the student will be able to: 1. Grasp the pivotal role of operations management in the market; 2. Develop analytical solutions for diverse operations management challenges; and 3. Strategize to enhance operational performance. （訳）本講義ではオペレーションマネジメントの基本を学ぶ。本講義ではオペレーション戦略や製品設計について学び、プロセス選択、立地選択、レイアウト計画の重要性を理解し、更に在庫管理、効果的なスケジューリングの方法、将来のトレンドの予測についても探求する。本講義を履修後は、以下のことができるようになる。 1. 市場におけるオペレーションマネジメントの重要な役割を理解する。 2. 様々なオペレーションマネジメントの課題に対する分析的な解決策を開発する。 3. オペレーションのパフォーマンスを向上させるための戦略を立てる。 【授業計画】This course will cover key topics related to operations management, including operations strategy, product and service design, forecasting and demand planning, capacity planning, location decisions, process selection and facility layout, inventory management and scheduling. （訳）本講義は、オペレーション戦略、製品およびサービスの設計、予測と需要計画、能力計画、立地選定、プロセス選択と施設レイアウト、在庫管理、スケジューリングなど、オペレーションマネジメントに関連する主要なトピックを扱う。	
				ビジネスイノベーション概論	○	【授業形態】講義 【目標】ビジネスの各分野で起こる「イノベーション」を多角的に学習し、ビジネスの実践的な知識・理解を深める。具体的には、世の中のパラダイムを転換するビジネスを中心に国際的な諸問題に関する理解を深め、世界と日本との比較を通じて、個人レベルで社会課題解決に向けた自身の考えを深めていく。イノベーションの全体像を踏まえて、最終的にメタバースやNFT、AI（ChatGPTなど）、暗号資産などの最新の動向などの理解力を高める。 【授業計画】 イノベーションの総論（具体例、理論等）を学習し、各論でMaaS（移動）、YouTube（情報）、ライフサイエンス（医療）、フードテック（食）、フィンテック（金融）など様々な視点から多角的にイノベーションの理解を深める。最後に、政治と経済の問題にも触れつつ、AI（人工知能）の社会学的な意義など最新の動向についても学習する。	

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
				国際ビジネス法		【授業形態】講義 【目標】国際ビジネスの現場で、企業がグローバルに事業展開する上で、法律（国際法、国際経済法、国際通商法、国際環境法、国内法など）がどのように関連し合っているかを学習することで、リーガルマインド（法的思考力）を身に付ける。 【授業計画】国際取引の枠組み、国際売買契約、国際投資、金融取引、知的財産、紛争処理、環境、国際倒産など、国際ビジネスにおける法的な諸問題を扱う。また、SDGs （持続可能な開発目標）と国際ビジネス・イノベーションとの関係の中で、国際的なルールが果たす役割についても講義する。	
				知的財産法概論		【授業形態】講義 【目標】企業や研究所の研究・開発部門において要求される「知的財産権」に関する基礎知識を習得する。また、特許出願書類の書式について理解し、発明の内容を読み取れるようになる。 【授業計画】知的財産権とは何か、またその保護の重要性について解説する。さらに、企業における特許と実用新案の違い、商標やデザイン・サービスマークなどの意義、特許出願書類の書式や発明内容の読み取り方、特許出願から特許が成立するまでの過程について解説する。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	グリーンテクノロジー社会実装科目（続き）	環境ビジネス分野（続き）	環境マネジメント		【授業形態】講義 【目標】本講義では、企業や組織における環境保全と持続可能性の重要性を理解し、実践的な管理手法を学ぶ。 【授業計画】本講義では、国際的な機関（例：国連）が環境問題にどう対応しているか、また企業に何を求めているかについて学び、環境問題が企業活動に与える影響について考察する。環境マネジメントシステム（EMS）やISO 14001などの国際規格の理解、環境影響評価、環境報告書（統合報告書）の活用方法、さらにESG（環境・社会・ガバナンス）投資の動向や企業の環境戦略が競争優位性に与える影響についても探求する。受講者はディスカッションを通じて、環境問題の本質を深く理解し、実践的な対応策を考える能力を養う。	
				Ｒ＆Ｄキャリアセミナー		【授業形態】講義 【目標】学部教育で得た知識や、修得した技術、またコミュニケーション能力、課題解決力、行動力などの汎用的能力が、企業や研究所などの社会活動とどのように繋がるのかを理解する。理工系分野での学びと実践、先端的な理工系キャリアについて学ぶ機会とする。 【授業計画】担当教員が社会の第一線で活躍する本学大学院理工学研究科（もしくは工学研究科）卒業生を講師として招聘し、講師自身による経験を通した講義と、講義内容をもとにグループ討議を行う。4週にわたり、計８回の授業を行う（集中講義）。学生は各週のレポートを提出する。初回の授業でガイダンス（シラバスの説明など）を行う。	共同
				ビジネスプランニング演習	○	【授業形態】演習 【目標】本科目は、SDGs（持続可能な開発目標）を実践的に学ぶために、東京都の社会課題の解決について学習する。グループワーク・ディスカッション等を通じて、SDGsの社会課題を「自分事」にしていくためのプロセスを習得し、地球市民としての教養を身につける。 【授業計画】少人数でチームを組んで、グループワークやペアワークを行う。各グループで東京都の社会課題について研究をした成果として、東京都が主催している「都民による事業提案」制度に応募する。その他に、SDGsの様々な課題について、経済学・社会学・教育学・未来学・哲学・環境学などを多角的にSDGsを学びながら、社会課題の解決に貢献できるようなビジネスプランニングを習得する。	
				グリーンテクノロジーインターンシップ		【授業形態】実習 【目的】学部3年生以上の学生が、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した企業または研究機関における就業体験を通じて、その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極める。 【授業計画】本科目では、「事前学習」「職場での5日間（40時間）の中で3日以上の就業体験」「事後学習」「報告会での発表」の全てを必須とする。就業体験の職場では、企業または研究機関の担当者が直接学生を指導し、終了後には学生に対して職場での様子を報告する。	共同

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
				海外インターンシップ		【授業形態】演習 【目標】海外の大学・研究所、実験施設、企業、工場においてインターンシップに参加し、海外で利用されているグリーンテクノロジーについての理解を深める。 【授業計画】グリーンテクノロジー海外研修ＡおよびＢとは別に、大学・研究所、実験施設、企業などで、数週間の実践的研修を体験する。現地の研究者や技術者との交流を行い、実際の環境技術施設の運転、企業の活動などを理解し、レポートにまとめる。	共同
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	グリーンテクノロジー社会実装科目（続き）	国際技術協力分野	国際情報技術交流史		【授業形態】演習 【目標】現代の先端情報技術につながる種々のデバイス、ソフトウエア、ネットワークなどの開発や普及の交流史について理解する。また将来の情報技術の展望や国際交流による発展などを、適切に考察できるようになる。 【授業計画】少人数のグループに分かれ、グループごとに設定したテーマに関する情報技術および国際的な情報技術交流の歴史について調べ、議論を踏まえて内容を精査する。これらをまとめた成果を発表しクラス全体で討論する。また自分たちのテーマだけでなく他グループのテーマについても考察し、テーマごとにまとめた情報技術とその国際交流史ついて理解を深める。	
				国際技術協力論		【授業形態】講義 【目標】国際協力についての基本的な知識を修得するとともに、ASEANや中国等に対する我が国の国際協力の概略を理解する。 【授業計画】グローバル化が進展する中で開発途上国が、貧困、格差、環境破壊、気候変動、感染症、経済危機等多様な問題に対応しながら、持続可能な発展を遂げるために、日本を含む国際社会は、国際協力を通じて途上国を支援している。本講義では、グローバル化時代の課題、国際協力の仕組み、日本の国際協力、事業評価等を学ぶ。地域事例研究としては、中国、東南アジア等を取り上げる。まとめとして、グループ別にケーススタディのプレゼンテーションを行う。	
				国際情報英書講読		【授業形態】演習 【目標】情報技術に関連する英語論文を解読し、内容を説明できるようになることを目標とする。 【授業計画】文献検索方法と文献の選択について、論文の内容をどのように説明するのかについて解説を行う。指定された回において、受講者は担当文献の説明を行うとともに参加者全員で議論する。参加者全員が参加するように、質疑応答に関しても評価する。また、教員がそれぞれの説明・発表に対してコメントをし、英文の理解に加え情報学的な内容の補足を行う。	共同
				International Fieldwork Ⅰ		【授業形態】講義 【目標】This course is designed to explore Malaysia as a plural and multicultural society, with a focus on understanding the processes of ″formation″, ″development″, and ″maturity″ of multicultural coexistence. Firstly, students will participate in a one-semester study session, where they will gain knowledge on relevant topics and prepare preliminary group presentations. （訳）本講義は、マレーシアを多民族・多文化社会として探求し、多文化共生の「形成」、「発展」、「成熟」のプロセスを理解することに焦点を当てる。学生は1学期の学習セッションとしての本授業によって、関連するトピックについての知識を深め、予備的なグループ発表の準備を行う。	オムニバス

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
						【授業計画】The following faculty members will conduct pre-departure studies on Malaysia's history, economy, and sociological perspectives, the destination to be visited, the study of the Bahasa Melayu, and group research. （訳）以下の教員によって、マレーシアの歴史、経済、社会学的視角からみた複合社会マレーシア、訪問地に関する事前学習、現地語マレー語の学習、グループ研究を行う。 （オムニバス方式／全15回） （17.杉本 一郎/5回） マレーシアの歴史および経済に関する講義（2回）、マレー語の学習（1回）とグループ研究（2回）を担当する。 （82.内海 友子/5回） 現地に関する事前学習（3回）とグループ研究（2回）を担当する。 （121.章　舜源/5回） 現地に関する事前学習（3回）とグループ研究（2回）を担当する。	
専門科目（続き）	グリーンテクノロジー応用科目（続き）	グリーンテクノロジー社会実装科目（続き）	国際技術協力分野（続き）	グリーンテクノロジー海外研修Ａ		【授業形態】実験・実習 【目標】マレーシアのクアラルンプール、ならびにジョホールバールの2都市において、海外でのグリーンテクノロジーに関わる自治体の事業や企業活動、施設、研究機関を視察、体験する。 【授業計画】大学での事前学習を行い、約2週間（14～16日間）の海外研修に参加する。地球環境理工学、資源循環理工学、環境情報処理科目で学んだ創エネルギー・省エネルギー・資源循環・情報処理技術について海外で実用化されている事例を学ぶ。海外の大学や研究所施設ならびにフィールドでの研修を通じて実践経験を積む。	共同
				国際技術協力演習	○	【授業形態】演習 【目標】インドネシアで現在起こっている様々な社会・環境問題について学習し、それに対する解決策をグループで模索し議論する。そのプロセスの中で問題解決型・創造的解決手法を学び、それを英語でプレゼンする能力を養う。 【授業計画】スラバラ工科大学の学生がオンラインで参加し、インドネシアの社会・環境問題について講義を受けた後、日本とインドネシアの学生混在のグループに分かれグループ討議を行う。最終的に解決策について英語でプレゼンテーションを行う。	共同
				International Fieldwork Ⅱ		【授業形態】実験・実習 【目標】Building on the preparation through "International Fieldwork I", students will engage in a two-week fieldwork program in Malaysia and understand about the topics. （訳）「International Fieldwork I」を通じた準備を基に、学生はマレーシアでの2週間のフィールドワークプログラムに参加し、関連するトピックを理解する。 【授業計画】During this fieldwork, students will conduct group research focused on the current situations, challenges, and potential policy proposals for fostering multicultural coexistence. （訳）本フィールドワーク中、学生は現状、課題、および多文化共生を促進するための潜在的な政策提案に焦点を当てたグループ研究を行う。	共同
				国際技術協力海外研修		【授業形態】演習 【目標】インドネシア・スラバヤ工科大学（ITS）にて、国際技術協力に関わる施設やフィールドを視察、体験することにより、国際理解を国際技術協力に結び付ける能力を養う。 【授業計画】約14日間の研修では、英語コミュニケーションスキルの講義、文化交流（インドネシア語と伝統文化・工芸の体験）、国際技術協力に関する講義とプレゼンテーション研修、およびフィールドワークを通じて、インドネシアにおける自然災害や環境問題、またそれらの解決方法についてグループ学習する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	グリーンテクノロジー海外研修Ｂ		【授業形態】実験・実習 【目標】ブラジル・マナウス市近郊の大学および研究所にて、海外でのグリーンテクノロジーに関わる施設やフィールドを視察、体験することにより、創エネルギー・省エネルギー・廃棄物処理工学技術の社会実装に関する実践経験を積む。 【授業計画】大学での事前学習を行い、約2週間（14～16日間）の海外研修に参加する。地球環境理工学、資源循環理工学、環境情報処理科目で学んだ創エネルギー・省エネルギー・資源循環・情報処理技術について海外で実用化されている事例を学ぶ。海外の大学や研究所施設ならびにフィールドでの研修を通じて実践経験を積む。	共同
	特別講義		【授業形態】講義 【目標】海外からの招聘教員による英語での講義を通じて、海外におけるグリーンテクノロジー分野の研究動向について学ぶことにより視野を広げる。 【授業計画】海外の大学や研究所からグリーンテクノロジーに関連する分野の専門家を複数名招聘し、専門家はそれぞれの研究分野の最新の背景、基礎、動向、応用、具体的研究内容などについて解説する。また、学生はそれぞれの講義内容についてレポートをまとめる。	共同
学部学科英語科目	English Communication for Science Ⅰ	○	【授業形態】演習 【目標】本科目は週2回開講され、理工学部の学生の英語のリーディング、リスニング、スピーキング、及びライティングの能力を向上させる。 【授業計画】大きく2つのコースがあり、１つは情報システム学科の学生向けで、もう１つはグリーンテクノロジーと生命理工学科の学生向けである。どちらのコースでも、習熟度に応じ3つのレベル分かれる。扱われるトピックには、一般的な話題と科学的なテーマの両方が含まれる。一般的な話題は両方のコースに共通するが、科学的なテーマは、情報システム専攻生用に情報技術と物理に関するトピックが含まれ、グリーンテクノロジーと生命理工学科では生物学と化学に関するトピックが含まれる。	
	English Communication for Science Ⅱ	○	【授業形態】演習 【目標】本科目は週2回開講され、English Communication for Science Iに続き、理工学部の学生の英語のリーディング、リスニング、スピーキング、及びライティングの能力を向上させる。 【授業計画】大きく2つのコースがあり、１つは情報システム学科の学生向けで、もう１つはグリーンテクノロジーと生命理工学科の学生向けである。どちらのコースでも、習熟度に応じ3つのレベル分かれる。扱われるトピックには、一般的な話題と科学的なテーマの両方が含まれるが、本科目では、より科学に関するテーマに焦点をあてる。引き続き、科学的テーマとして、情報システム専攻生用に情報技術と物理に関するトピックが含まれ、グリーンテクノロジーと生命理工学科では生物学と化学に関するトピックが含まれる。	
	English for International Technical Cooperation Ⅰ		【授業形態】演習 【目標】本科目は、理工学部の国際技術協力プログラムの2年生を対象に週1回開講される。この科目は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングにわたる学術的な英語力と、学生が専攻する分野での研究力や協調性を向上させる。 【授業計画】本科目では、国際技術協力プログラムにおいて留学中に書く研究報告書やプレゼンテーションで得た知識を継続して探究したり深めたりする学術的な活動を行う。興味ある専門的な内容を英語で学び発信できるようになることを目指す。	
	English for International Technical Cooperation Ⅱ		【授業形態】演習 【目標】本科目は、理工学部の国際技術協力プログラムの2年生を対象に週1回開講される。この科目は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングにわたる学術的な英語力と、学生が専攻する分野での研究力や協調性を向上させる。 【授業計画】本科目では、English for International Technical Cooperation Iで取り組んだ研究をさらに発展させる学術的な活動を行う。専門的な内容を英語で探究し、その結果を学術的な英語を用い、書いて発表できる能力の完成を目指す。	

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

科目 区分	授業科目の名称	主要授業 科目	講義等の内容	備考

2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人創価大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度		入学定員	編入学定員	収容定員	令和8年度		入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
創価大学			3年次		創価大学			3年次		
経済学部	経済学科	190	18	796			0	0	0	令和8年4月学生募集停止
法学部	法律学科	240	8	976	法学部	法律政治学科	140	－	560	学科名称変更、定員変更（入学定員△100、編入学定員△8）
文学部	人間学科	350	40	1,480	文学部	人間学科	250	15	1,030	定員変更（入学定員△100、編入学定員△25）
経営学部	経営学科	190	26	812			0	0	0	令和8年4月学生募集停止
教育学部	教育学科	80	－	320	教育学部	心理・教育学科	85	－	340	学科名称変更、定員変更（5）
	児童教育学科	100	－	400		児童教育学科	85	－	340	定員変更（△15）
理工学部	情報システム工学科	90	－	360	理工学部	情報システム工学科	90	－	360	
	共生創造理工学科	90	－	360			0	－	0	令和8年4月学生募集停止
						グリーンテクノロジー学科	60	－	240	学科の設置（届出）
						生命理工学科	55	－	220	学科の設置（届出）
看護学部	看護学科	80	－	320	看護学部	看護学科	80	－	320	
国際教養学部	国際教養学科	90	－	360	国際教養学部	国際教養学科	90	－	360	
					経済経営学部	ビジネス学科	280	20	1,160	学部の設置（届出）
計		1,500	92	6,184	計		1,215	35	4,930	
［通信教育部］			3年次		［通信教育部］			3年次		
経済学部	経済学科	1,000	100	4,200			0	0	0	令和8年4月学生募集停止
法学部	法律学科	1,000	100	4,200	法学部	法律政治学科	600	300	3,000	学科名称変更、定員変更（入学定員△400、編入学定員200）
教育学部	教育学科	300	－	1,200	教育学部	心理・教育学科	200	200	1,200	学科名称変更、定員変更（入学定員△100、編入学定員200）
	児童教育学科	350	－	1,400		児童教育学科	250	200	1,400	定員変更（入学定員△100、編入学定員200）
文学部	人間学科	750	100	3,200	文学部	人間学科	600	300	3,000	定員変更（入学定員△150、編入学定員200）
					経済経営学部	ビジネス学科	600	300	3,000	学部の設置（届出）
計		3,400	300	14,200	計		2,250	1,300	11,600	
創価大学大学院〈修士課程〉					創価大学大学院〈修士課程〉					
文学研究科	国際言語教育専攻	15	－	30	文学研究科	国際言語教育専攻	15	－	30	
国際平和学研究科	国際平和学専攻	16	－	32	国際平和学研究科	国際平和学専攻	16	－	32	
創価大学大学院〈博士前期課程〉					創価大学大学院〈博士前期課程〉					
経済学研究科	経済学専攻	15	－	30	経済学研究科	経済学専攻	15	－	30	
法学研究科	法律学専攻	15	－	30	法学研究科	法律学専攻	15	－	30	
文学研究科	英文学専攻	10	－	20	文学研究科	英文学専攻	10	－	20	
	社会学専攻	10	－	20		社会学専攻	10	－	20	
	人文学専攻	8	－	16		人文学専攻	8	－	16	
教育学研究科	教育学専攻	15	－	30	教育学研究科	教育学専攻	15	－	30	
理工学研究科	情報システム工学専攻	30	－	60	理工学研究科	情報システム工学専攻	30	－	60	
	生命理学専攻	15	－	30		生命理学専攻	15	－	30	
	環境共生工学専攻	25	－	50		環境共生工学専攻	25	－	50	
創価大学大学院〈博士後期課程〉					創価大学大学院〈博士後期課程〉					
経済学研究科	経済学専攻	5	－	15	経済学研究科	経済学専攻	5	－	15	
法学研究科	法律学専攻	3	－	9	法学研究科	法律学専攻	3	－	9	
文学研究科	英文学専攻	5	－	15	文学研究科	英文学専攻	5	－	15	
	社会学専攻	5	－	15		社会学専攻	5	－	15	
	人文学専攻	4	－	12		人文学専攻	4	－	12	
教育学研究科	教育学専攻	2	－	6	教育学研究科	教育学専攻	2	－	6	
理工学研究科	情報システム工学専攻	4	－	12	理工学研究科	情報システム工学専攻	4	－	12	
	生命理学専攻	5	－	15		生命理学専攻	5	－	15	
	環境共生工学専攻	5	－	15		環境共生工学専攻	5	－	15	
創価大学大学院〈専門職課程〉					創価大学大学院〈専門職課程〉					
法務研究科	法務専攻	28	－	84	法務研究科	法務専攻	28	－	84	
教職研究科	教職専攻	25	－	50	教職研究科	教職専攻	25	－	50	
計		265	－	596	計		265	－	596	
創価大学別科					創価大学別科					
日本語研修課程		35	－	35	日本語研修課程		35	－	35	
特別履修課程		40	－	40	特別履修課程		40	－	40	
計		75	－	75	計		75	－	75	
創価女子短期大学					創価女子短期大学					
国際ビジネス学科		150	－	300	国際ビジネス学科		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
計		150	－	300	計		0	－	0	

創価大学 理工学部 グリーンテクノロジー学科

設置の趣旨等を記載した書類

令和７（2025）年４月

― 目 次 ―

１．設置の趣旨及び必要性 3
２．学部・学科等の特色 10
３．大学，学部・学科等の名称及び学位の名称 11
４．教育課程の編成の考え方及び特色 12
５．教育方法，履修指導方法及び卒業要件 17
６．多様なメディアを高度に利用して，授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画 21
７．編入学定員を設定する場合の具体的計画 22
８．企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画 23
９．入学者選抜の方法 26
10．教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色 35
11．研究の実施についての考え方，体制，取組 37
12．施設，設備等の整備計画 39
13．管理運営 41
14．自己点検・評価 42
15．情報の公開 43
16．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 48
17．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 51

１．設置の趣旨及び必要性

１―１　設置の背景とその必要性

創価大学（以下、本学）は、東京都八王子市に、昭和 46（1971）年に３学部４学科の体制で開学し、現在、８学部 10 学科、６研究科、２専門職大学院へと発展している。本学は、開学以来、建学の精神に基づき、地球社会と地域社会の課題に向き合い、人々の幸福と世界の平和の実現に貢献する「創造的人間」、すなわち、価値創造を実践する「世界市民」の育成を目指している。たしかな「知力」を基盤とし、不確かな未来を切り開く「創造性」を発揮する力、協働する人々の価値観や理念など「多様性」を涵養する教育に取り組んでいる。

世界が抱える諸課題には、気候変動、貧困、紛争、環境問題などがあり、現代社会の不安定化要因となっている。地球温暖化による気候変動は、極端な異常気象や海面上昇を引き起こし、生態系の変化や生物多様性の維持は危機に瀕している。これらは、食料生産、貧困、暴動など政治的課題とも密接に関わっている。人口増加が続く発展途上国や新興国におけるエネルギー消費は増大し、水質や大気汚染、地域的な環境汚染は深刻化している。自然界におけるマイクロプラスチックの蓄積、水不足、森林伐採なども有効な対策を打てぬまま進行している。

平成 27（2015）年 12 月にフランス・パリで開催された第 21 回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）では、令和２（2020）年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みとして「パリ協定」が採択された。これ以降、EU、アメリカ、イギリスが相次いで令和 32（2050）年にカーボンニュートラルを目指すこと表明し、その他の国においても 2050～2070 年代までにカーボンニュートラルの達成を目指すことを発表している。日本においても、令和２（2020）年 10 月第 203 回国会総理所信表明において令和 32（2050）年までに温室効果ガス排出を実質ゼロとするカーボンニュートラルを目指すこと宣言した。

令和 32（2050）年のカーボンニュートラルを実現するためには、世界の二酸化炭素排出量を大幅に削減する広範囲のエネルギー・トランスフォーメーション（EX）を加速させなければならない。また、二酸化炭素を回収・利用・除去する様々なカーボンニュートラル事業が展開され、新規のエネルギー技術や工学プロセスの社会実装が重要となる。こうしたことから、グリーンテクノロジー（環境汚染対策、廃棄物処理・リサイクル、省エネルギー技術、再生可能エネルギー技術）はサステナビリティの発展に欠かせない分野である。

また、令和５（2023）年時点で、世界人口の 14.3%にあたる 11 億人が最低限の生活水準を満たせていない。このような状況のなかで、グリーンテクノロジーの果たす役割は大きく，日本のグリーンテクノロジーに対する世界の国々からの関心は高い。

世界、そして日本の未来社会の実現に向けて、再生可能エネルギーや環境対策技術、省エネルギー・創エネルギー技術、環境汚染物質の排出抑制、大気・水質浄化などの環境管理、廃棄物対策、リサイクル技術などのグリーンテクノロジー関連分野の学術研究を進展させ、得られた知見を活用して上述した諸課題を解決できる人材の養成が、本学が果たすべき役割として捉え、グリーンテクノロジー学科の設置を決定した。新学科の設置は、世界市民の育成という教育理念のもとに、世界・地域社会の維持・活性化に寄与することを使命とする本学の考えと一致している。

１－２　養成する人材像

創価大学は、創立者池田大作先生が示された建学の精神に基づき、地域社会や地球社会の課題と真摯に向き合い、人々の幸福と世界の平和の実現に貢献する「創造的人間」、すなわち、価値創造を実践する「世界市民」の育成を目指している。そのために、たしかな「知力」を基盤とし、不確かな未来を切り開く「創造性」を発揮する力、協働する人々の価値観や理念など「多様性」を受容（寛容）する力を育む教育に取り組むことを、本学の教育目標としている。

こうした本学の教育目標を踏まえ、理工学部では、創価大学則において人材養成の目的を「建学の精神を尊び、他者に尽くす哲学的精神性を基盤として、工学・理工学の基礎力と応用力さらには展開力、語学能力、コミュニケーション能力に裏打ちされた国際適応力、総合的人間力・リーダーシップを有する人材を育成する」と定めている。

グリーンテクノロジー学科は、理工学部の定める人材養成の目的を達成するため、地球科学や環境科学を中心とする理学の学び、およびグリーントランスフォーメーション（GX）の実現に不可欠な創エネルギー・省エネルギー技術、資源循環技術や情報処理技術を融合した環境に優しい技術、すなわち「グリーンテクノロジー」について学修し、その社会実装を通じて低炭素社会の実現と SDGs 達成に貢献する国際的な人材を養成する。

すなわち、具体的には以下の４つである。

人材像①　地球科学及び環境科学を基盤とした知識・技術と、これらの社会実装に必要な知識を身につけた学際的な人材

人材像②　科学技術を活用し、人類の幸福に貢献する倫理観と社会貢献力を備えた人材

人材像③　国際的な視野と柔軟な課題解決力を有する人材

人材像④　生涯学び続ける姿勢を備えた世界市民

理工学部が定める人材養成の目的と、本学科において養成する人材像との相関関係は、以下の表１の通りとなる。

表１　理工学部の人材養成目的と本学科において養成する人材像との相関

		理工学部 グリーンテクノロジー学科			
		人材像①：学際的な人材	人材像②：倫理観と社会貢献力	人材像③：国際的な視野と課題解決力	人材像④：生涯学び続ける世界市民
理工学部	哲学的精神性		◎		○
	基礎力・応用力・展開力	◎	○	○	○
	国際適応力		○	◎	○
	総合的人間力・リーダーシップ	○	○	○	◎

◎：強い関連がある、○：関連がある

１－３　卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）理工学部ディプロマ・ポリシー

理工学部は、次の知識・技能並びに態度を身に付け、所定の在学期間、卒業単位、およびGPA基準を満たした学生に、情報システム工学科では学士（工学)、グリーンテクノロジー学科及び生命理工学科では学士（理工学）を授与する。

【理工学部 DP1】基礎知識・技能の習得

・ 理工学分野の基礎的な知識・技能を身に付け、必要とする専門分野の学習に取り組むことができる。

【理工学部 DP2】専門知識・技能の習得と応用

・ 各学科・領域が授ける専門知識・技能を身に付け、専門的課題についての理解や課題解決へ応用できる。

【理工学部 DP3】表現力の養成

・ 自らの考えを、文書や口頭で適切な表現で伝えることができる。

【理工学部 DP4】協働力・多様性の尊重

・ 多様性を尊重し、他者とコミュニケーションを取りながら、協働する（チームで仕事をする）ことができる。

【理工学部 DP5】論理的分析と課題解決

・ 問題の原因を論理的に分析し、そこから課題解決の方法を提案することができる。

（２）理工学部 グリーンテクノロジー学科 ディプロマ・ポリシー

グリーンテクノロジー学科は、理工学部の定めるディプロマ・ポリシーを達成するため、地球科学および環境科学を中心とした理学に関する基礎的知識の学習に加え、地球環境工学、資源循環工学および情報処理工学に関する最先端技術を体系的に学び、さらにこれらの知識と技術を社会に還元するための環境ビジネスや国際技術協力について学ぶことで、幅広い視野と実践力を培い、持続可能な社会の実現に貢献できる学生を育成することを目的とする。

すなわち、本学科におけるディプロマ・ポリシーは、以下のとおりとなる。

DP1. 基礎から応用までの知識と技術の習得（理工学部 DP1、DP2）

・ 地球科学、環境科学を中心とした理学に関する基礎的知識と、これらを基盤とする最先端技術を体系的に習得し、課題解決に応用できる能力を身に付ける。

DP2. 技術を社会に還元するための知識と倫理観や社会的責任の理解（理工学部 DP2・DP4）

・ 習得した知識・技術を社会に還元するために必要な知識を身につけ、科学技術が社会や環境に及ぼす影響を理解し、人類の平和と幸福に貢献する倫理観と責任感を備える。

DP3. 表現力や国際的な視野とコミュニケーション能力の習得（理工学部 DP3、DP4）

・ 文章やプレゼンテーションなどを通じて自らの考えを表現でき、英語を含む多言語による専門的なコミュニケーション能力を身に付け、多様性を尊重しながら国際的に活躍できる。

DP4. 多様性の理解、協働力とリーダーシップの発揮（理工学部 DP4）

・ 多様な価値観を持つ人々と協働し、チームで課題解決に取り組むとともに、リーダーシッ

プを発揮してプロジェクトを推進できる。

DP5. 課題解決力と生涯学び続ける力（理工学部 DP5）

・ 論理的思考を基に課題を分析し、解決策を計画・実行するとともに、新たな知識や技術を主体的に学び続ける姿勢を持つ。

また、１―２節で述べた養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係性は、以下の表２に示す通りとなる。

表２　養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの関係性（グリーンテクノロジー学科）

	DP1. 基礎から応用までの知識と技能の習得	DP2.社会還元に必要な知識と倫理観と社会的責任の理解	DP3. 国際的な視野とコミュニケーション能力	DP4. 協働力とリーダーシップの発揮	DP5. 課題解決力と生涯学び続ける力
学際的な人材	◎	○	○		○
倫理観と社会貢献力		◎		○	
国際的な視野と課題解決力	○	○	◎	◎	○
生涯学び続ける世界市民	○	○			◎

◎：強い関連がある、○：関連がある

１―４　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

理工学部では、全学および本学部のディプロマ・ポリシーに基づき、そこに定めたラーニング・アウトカムズを備えた人材を育成するため、学科ごとに以下の方針でカリキュラムを編成している。グリーンテクノロジー学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた知識・技能、態度を身に付けた人材を育成するため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

CP1. 基礎から専門への体系的な教育

・ 大学での学びに必要なスキルを身につけるため、全学共通科目に基礎科目群を配置する
・ 地球科学、化学、物理学、数学及び情報科学を基盤とした理学・工学の基礎を学び、研究体験を通じて専門分野への理解を深めるためのグリーンテクノロジーコア科目を１・２年次に配置する。
・ ２年次からは地球環境理工学、資源循環理工学、環境情報処理、グリーンテクノロジー社会実装の４つの専門分野について学ぶグリーンテクノロジー応用科目を配置する。

CP2. 学際的な学びと柔軟な履修

・ 全学共通科目に多彩な学問領域に関する教養科目やキャリア教育に関する科目を配置し、

学生の興味関心に応じた柔軟な履修科目の選択を可能にする。

・ グリーンテクノロジーコア科目、グリーンテクノロジー応用科目では、各学問領域の科目をバランスよく配置し、学生の興味関心に応じて幅広く学べるカリキュラムを提供する。

CP3. 実践力と課題解決能力の育成

・ １年次からグリーンテクノロジーに関する研究体験を行う科目を配置し、PBL（Project-based Learning）を通じて、実社会で求められる実践力を養成する。

・ グリーンテクノロジーの実社会での応用力を高め、グリーントランスフォーメーション（GX）推進に貢献する実践的な学びを行うための国内外の企業や研究機関でのインターンシップや海外短期研修を配置する。

・ ３～４年次では、論理的な課題分析と解決策の提案力を涵養ために必修科目として「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業演習Ⅰ」「卒業演習Ⅱ」を、選択科目として「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」を配置する。

CP4. 国際的な視野と倫理観の涵養

・ グリーンテクノロジー応用科目のグリーンテクノロジー社会実装科目には環境ビジネスや国際技術協力に関する科目を配置し、技術を社会に還元する力を身につけるとともに、科学技術の社会的影響や倫理について学び、持続可能な社会づくりに貢献する意識を養う。

・ 英語での専門教育や国際論文の読解・作成を通じ、グローバルに活躍できる能力を育成する。

・ 国際技術協力プログラムや英語サポートプログラムを設置し、一部の科目を英語または日英併用で開講することで、国際的な視野を持つ技術者を育成する。

CP5. 生涯学び続ける力の育成

・ 基礎から応用までの学びを統合し、卒業後も継続して自己成長を追求できる力を育てる。

・ 科学技術の進化に柔軟に対応できる能力を涵養する。

このようなポリシーによって編成したカリキュラムにより、グリーンテクノロジー学科では、グリーントランスフォーメーション（GX）の実現に不可欠な理工学の基礎知識と技能を養い、それらの社会実装に必要な視野と実践力を培うことで、持続可能な社会の実現に貢献できる国際的な人材を育成する。

グリーンテクノロジー学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係は、以下の表３の通りである。

表３　ディプロマ･ポリシーとカリキュラム･ポリシーとの対応関係（グリーンテクノロジー学科）

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
DP1. 基礎から応用までの知識と技能の習得	CP1・CP2
DP2. 倫理観と社会的責任の理解	CP4
DP3. 国際的な視野とコミュニケーション能力	CP4
DP4. 協働力とリーダーシップの発揮	CP3
DP5. 課題解決力と生涯学び続ける力	CP3・CP5

また、本学科で開講する各専門科目について、ディプロマ・ポリシーで示されたものが、どの学習成果項目に該当するかを、ラーニング・アウトカムズの項目を用いて【資料１】のとおり示している。

【添付資料】
（資料１）グリーンテクノロジー学科　カリキュラム・マップ

１―５　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

理工学部では学科を問わず、創価大学の建学の精神を尊重しつつ、理工学の基礎から応用にいたる学問分野を学ぶ以下のような人材を広く社会に求める。

① 人間主義を標榜し、社会に必要な科学技術の健全な価値を提示したいと願う人
② 平和の理念に徹し、民衆幸福のため他者へ貢献する世界市民をめざす人
③ 進取の気性を持ち、真摯に学問に取り組む労苦を惜しまない人

また、上記の志とともに、高い専門性を獲得する意志が強固であること、及び、大学での学習の基礎となる基礎知識と問題を解く力が求められる。理工学部では専門科目の基礎となる高等学校レベルの数学と理科とともに、新たな知識の吸収と問題の解法や説明に必要な言語の理解と構成の能力を入学の条件とする。

グリーンテクノロジー学科では、地球科学および環境科学を中心とした理学に関する学び、地球環境工学、資源循環工学および情報処理工学といった工学に関する学びに加え、これらの社会実装に必要な経営学、法学に関する学びを行う。したがって、文理を問わず、科学技術を通じて人類の平和と幸福に貢献することを使命とし、倫理観を持ちながらも柔軟かつ創造的な思考で課題解決に挑む人材を求める。さらに、探究心と学ぶ意欲を持ち、多様な分野への興味を深めながら、グローバルな視野で活躍したいと考える学生を広く受け入れる。すなわち、具体的には以下の方針に沿って、入学者の受け入れを行う。また、これらの方針と学力の３要素との関係性は以下の表４～６の通りである。

AP1. 人間主義と社会貢献への意志を持つ人
- 持続可能な社会の実現に貢献する強い意志を持ち、理工学の知識と技術を通じて他者の幸福を追求する人

AP2. 科学技術を活用して課題解決を目指す人
- 地球温暖化、廃棄物問題など地球規模の課題に挑戦し、グリーンテクノロジーを活用して創造的な解決策を提案したいと考える人

AP3. 学際的視点で幅広い分野に興味を持つ人
- 地球科学、資源工学、情報工学、データサイエンスなど複数の分野に興味を持ち、学問の枠を越えた統合的な視点で学びたい人

AP4. 国際的視野と語学力を高めたい人
- 英語での学習や国際的な場での活躍を目指し、グローバルな視野と語学力を高めたい人

AP5. 探究心と自己成長への意欲がある人

・ 自ら問いを立てて学び、課題に挑戦する積極性を持ち、大学での経験を通じて成長し続ける姿勢がある人

表 4　求める人材像と学力の 3 要素

求める人材像	知識 技能	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性
AP1. 人間主義と社会貢献への意志を持つ人	△	○	◎
AP2. 科学技術を活用して課題解決を目指す人	○	◎	○
AP3. 学際的視点で幅広い分野に興味を持つ人	◎	○	△
AP4. 国際的視野と語学力を高めたい人	◎	△	○
AP5. 探究心と自己成長への意欲がある人	△	○	◎

※記号（◎、○、△）は重要度の順序を表す。

表 5　学力の 3 要素と多元的な評価

学力の 3 要素	求める多元的な評価
知識・技能	学力試験、調査書、面接・口頭試問、プレゼンテーション、小論文
思考力・判断力・表現力	学力試験、調査書、面接・口頭試問、グループワーク、プレゼンテーション、小論文
主体性・多様性・協働性	自己推薦書・活動報告書、面接・口頭試問、グループワーク

表 6　入学者選抜方法における評価の比重

入学者選抜方法		学力試験	調　査書	面接・口頭試問	小論文	グループワーク	自己推薦書・活動報告書	プレゼンテーション
総合型選抜	PASCAL 入試	—	△	○	—	◎	△	—
	グローバル人材育成入試（GCP 型）	◎	△	○	△	—	△	○
	グローバル人材育成入試（グローバル特色型）	◎	△	◎	△	—	△	○
	基礎学力方式（専願型・他大学併願可能型）	◎	△	○	—	—	△	—
	女子特別選抜	◎	△	◎	—	—	△	—
	小論文方式	—	△	○	◎	—	△	—
	帰国学生入試	—	—	◎	○	—		—

	国際バカロレア入試	―	○	◎	―	―	○	―
	外国人入試（Ⅰ型）	―	○	―	―	―	○	―
	外国人入試（Ⅱ型）	―	○	○	○	―	○	―
	外国人入試（９月入学）	―	○	―	―	―	○	―
学校推薦型	指定校推薦入試	―	○	○	―	―	○	―
	創価学園推薦入試	―	○	○	―	―	○	―
	スポーツ推薦入試	―	○	○	―	―	○	―
	海外指定校推薦入試	―	○	―	―	―		―
一般選抜型	大学共通テスト利用入試（３科目方式・４科目方式・後期）	◎	―	―	―	―	―	―
	全学統一入試（２科目方式・３科目方式）	◎	―	―	―	―	―	―
	一般入試（２科目方式・３科目方式・後期）	◎	―	―	―	―	―	―

グリーンテクノロジー学科のアドミッション・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの関係は、以下の表７の通りである。

表７　アドミッション・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの対応関係

求める人材像	ディプロマ・ポリシー
AP1. 人間主義と社会貢献への意志を持つ人	DP2、DP4
AP2. 科学技術を活用して課題解決を目指す人	DP1、DP5
AP3. 学際的視点で幅広い分野に興味を持つ人	DP1、DP5
AP4. 国際的視野と語学力を高めたい人	DP3
AP5. 探究心と自己成長への意欲がある人	DP5

１―６　組織として研究対象とする中心的な学問分野

本学科が研究対象とする中心的な学問分野は、地球科学、化学、化学工学、生物工学、環境科学、環境工学及びこれに関連する分野、データサイエンスをはじめとする情報科学及び情報工学とこれに関連する分野とする。

２．学部・学科等の特色

創価大学理工学部は、建学の精神である「人間主義」を基盤に、科学技術を通じて人類の平和と幸福、多様な文化の繁栄に貢献することを目指している。理工学の基礎力と応用力に加え、国際的な視野、倫理観、課題解決能力を養い、社会に価値を創造する人材の育成を目的としている。また、学際的かつ実践的な教育カリキュラムを通じて、地域社会から地球規模の課題に対応する

力を学生に身につけさせることを重視している。

今回設置するグリーンテクノロジー学科では、「気候変動」、「低炭素技術（廃棄物処理工学、水処理工学など）」、「情報・データサイエンス」（統計学、情報処理科学など）、「国際協力・経営・アントレプレナー」の４つの柱を教育・研究し、最新の省エネルギー・創エネルギー技術を理解し実践する能力、デジタル技術やセンシング・自動化技術（IoT）を活用した先端的なプロセスを構築する能力、そして国際協力事業や新規事業、起業などを立案できる実践的な力を、文理融合教育を通して養成することを特色としている。具体的には以下の２点である。

① 世界に開かれた国際性豊かな学科として、初年度に配置する基礎科目については日本語科目と英語科目を準備し、2 年次以降は日本語と英語を併用した授業を多数そろえ、実験実習については英語をネイティブとする教員、語学堪能な教員を配置し指導に当たる。国際化を支援する海外連携科目として、イングリッシュ・コミュニケーション、海外招聘教員科目、海外インターンシップなどを開講する。

② 省エネルギー・創エネルギー技術の社会実装化を目指すための文理協働教育を実施するとともに、カーボンニュートラル事業や新たな炭素管理産業を牽引する人材を育成する社会連携科目を設置する。社会連携科目は、民間企業からの講師を迎え、企業経営論、知的財産、企業インターンシップなど授業を開講する。

また、本学科では、本学の理工学研究科環境共生工学専攻及びプランクトン工学研究所とも連携し、環境、エネルギー、廃棄物といった社会的課題の解決に取り組む。

このように、グリーンテクノロジー学科では、現代社会の多様な課題に応える「世界市民」を育成し、社会の最前線で活躍することを支援する。

３．大学，学部・学科等の名称及び学位の名称

３－１　学科の名称

グリーンテクノロジー学科は、「１．設置の趣旨及び必要性」で述べた通り、地球温暖化などの環境問題を解決するため、グリーントランスフォーメーション（GX）の実現に不可欠な創エネルギー・省エネルギー技術、資源循環技術や情報処理技術を融合した、環境にやさしい技術の開発とその社会実装に必要な知識・技能を学習する。このような技術は、総称して「グリーンテクノロジー」と呼ばれていること、「グリーン」は自然豊かな環境や地球にやさしいといったイメージを想起させる単語でもあることから、本学科の名称を「グリーンテクノロジー学科」と呼称することとした。

学科の名称	英訳名称
グリーンテクノロジー学科	Department of Green Technology

３－２　学位の名称

グリーンテクノロジー学科において授与する学位及び付記する専攻分野の名称は、本学科が理工学部に設置される学科であること、および教育課程を踏まえ、以下のとおりとする。

学位の名称	英訳名称
学士（理工学）	Bachelor of Science and Engineering

４．教育課程の編成の考え方及び特色

４－１　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、「２．学部・学科等の特色」で述べたように、「気候変動」、「低炭素技術（廃棄物処理工学、水処理工学など）」、「情報・データサイエンス」（統計学、情報処理科学など）、「国際協力・経営・アントレプレナー」の４つの柱を教育・研究し、最新の省エネルギー・創エネルギー技術を理解し実践する能力、デジタル技術やセンシング・自動化技術（IoT）を活用した先端的なプロセスを構築する能力、そして国際協力事業や新規事業、起業などを立案できる実践的な力を、文理融合教育を通して養成することを特色としている。1 年次から研究室に所属し、実践的な学びを重ねることで、専門知識と技能を深化するとともに、国際的な視野と倫理観を持ち、「グリーンテクノロジー」を活用して、地球規模での環境問題の解決に貢献できる人材育成を特色とする。

こうした人材養成の目的を達成するため、本学科では、「全学共通科目」、「学部学科英語科目（外国語科目）」および「専門科目」の有機的な結合によってカリキュラムを設計する。その方針は、先述したようにカリキュラム・ポリシーとしてまとめ、これに基づき教育課程を編成している。

また、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために必要な授業の流れや、各項目と授業の整合性・関連性を体系的に示したカリキュラム・ツリー【資料２】を作成するとともに、学生の学修成果を評価する仕組みを導入する。評価基準は、基礎知識・技能（1～2 年次）、専門知識・技能（2～4 年次）、実践力（3～4 年次）、国際的視野・応用力（全学年）の各側面にわたり、定期試験、レポート、プレゼンテーション、研究プロジェクト、インターンシップなどによる成果によって評価する。アセスメント結果は定期的に分析して改善策を講じるとともに、学生には個別にフィードバックを行う。

さらに、理工学部における学習成果やカリキュラムの点検評価の方針をまとめたアセスメントプラン【資料３】に従い、カリキュラムの点検評価及び改善を行う体制を整備している。

【添付資料】
（資料２）グリーンテクノロジー学科　カリキュラム・ツリー
（資料３）理工学部アセスメントプラン

４－２　教育課程の編成の体系性

（１）全学共通科目及び学部学科英語科目（外国語科目）

本学では、建学の理念に基づく教育目標の達成に向け、学部並びに全学的な教育研究組織にお

いて、

① 知識基盤 ：幅広い知識と高度な専門性
② 実践的能力：知識を社会に応用する力のコミュニケーション力
③ 国際性 ：多様性を受容する力と他者との協働性
④ 創造性 ：統合する力と創造的思考力

を身につけた世界市民となるべき人材の育成に取り組んでいる。

こうした理念に基づき、本学の学士課程教育機構では、全学共通科目を学部に関わらず全学の学生に対し提供している。この全学共通科目は、以下の表８で示す通り、10 の科目群から構成されており、多様な学問分野にわたってバランスの良い修得を促している。

表８ 全学共通科目で開設する科目群とその説明

科目群	説明
基礎科目	大学での学修を進める上での基礎を学ぶ
大学科目	本学の歴史や創立の精神を学ぶ
言語科目（英語）	英語に関する４つの力や留学､就職に向けての英語力を身につける
言語科目（他言語）	英語以外の言語を初修レベルから応用レベルまで学ぶ
世界市民教育科目	グローバル社会における諸課題について幅広く学ぶ
数理・データサイエンス・自然科目	数理・データサイエンス・AI の基礎や自然科学に関する基礎を学ぶ
人文・社会・健康科目	社会科学系科目、人文科学系科目、健康科学科目、学際系科目の４分野を学ぶ
キャリア教育系科目	進路選択や就職に関する力を身につける
海外研修・実習科目	海外研修や海外実習に関する科目
日本語・日本文化科目	日本語の基礎から応用までや日本文化を学ぶ ※外国人留学生のみ履修できる

そして、自律的な学習者としての学習態度を涵養し、他者と協働して学習課題に取り組み、その成果を適切に表現・発信する能力を育成する。具体的には、全学共通科目においては以下の５つのラーニング・アウトカムズの達成を目指す。

① 世界市民として思考・行動するための基礎知識・技能を身につける
② 論理的に考え、適切な表現で伝えることができる
③ 母語以外の外国語でコミュニケーションを図ることができる
④ 多様性を尊重し、他者と協働することができる
⑤ 自らの目標を設定し、自律的に学ぶことができる

全学共通科目で示されるラーニング・アウトカムズとグリーンテクノロジー学科で定めるディプロマ・ポリシーの関係性は以下の表９の通りである。

表９　全学共通科目ラーニング・アウトカムズと本学科のディプロマ・ポリシーとの関係性

全学共通科目ラーニング・アウトカムズ	ディプロマ・ポリシー
世界市民として思考・行動するための基礎知識・技能を身につける	DP1・DP2
論理的に考え、適切な表現で伝えることができる	DP1・DP3
母語以外の外国語でコミュニケーションを図ることができる	DP3
多様性を尊重し、他者と協働することができる	DP4
自らの目標を設定し、自律的に学ぶことができる	DP5

さらに、理工学部では、こうした全学共通科目の考え方に基づき、特に理工学分野における英語運用能力を修得させることを目的に「学部学科英語科目」を設置し、学士課程教育機構内に設置されているワールド・ランゲージ・センター（WLC）と共同で理工学部の学生に対して科目を提供している。

これらの全学共通科目および学部学科英語科目の必修科目、選択科目、自由科目の構成、履修順序（配当年次）の考え方は、本学では「創価コアプログラム」として定め、原則として２年次終了までに修得すべきものとして開講している。

グリーンテクノロジー学科では、全学共通科目および学部学科英語科目から 21 単位以上の修得を卒業要件としている。具体的には、科目群ごとに以下のように構成している。

① 基礎科目（必修２科目　３単位）

大学での学修に必要な基礎を身につけるため、１年次に「初年次プロジェクト（グリーンテクノロジー)」（２単位)、「アカデミックライティングⅠ」（１単位）を必修科目として配置する。

② 大学科目（選択必修　４単位以上）

本学における自校教育として、本学の創立の精神や歴史を、さまざまな視点から学ぶ。学生は、以下の科目から４単位以上を修得する。

○　学生生活を充実させるための基礎力を身につけるための科目
　「人間教育論 A」
○　大学生に求められる教養を身につけるための科目
　「人間教育論 B」「現代文明論」「大学史の中の創価大学」
○　世界市民としての力を身につけるための科目
　「人間教育論応用」
○　本学の創立者について学ぶ科目
　「創価教育論」「共通基礎演習」

③ 言語科目および学部学科英語科目（選択必修　６単位以上）

国際化社会で求められる多文化共生力の育成と、その基礎としての語学能力を身につけるため、全学共通科目の言語科目（英語）または学部学科英語科目から６単位以上を修得する。

ただし、日本語を母語としない外国人留学生は、英語にかわり、言語科目（日本語）から６単位以上を修得することも可とする。

④ 世界市民教育科目（選択必修　4単位以上）

本学の創立者池田大作先生が、アメリカ・コロンビア大学ティーチャーズカレッジで行った講演「『地球市民』教育への一考察」において提案された、地球的課題である「平和」「環境」「開発」「人権」をテーマとした科目を4科目以上修得する。

⑤ 数理・データサイエンス・自然科目（必修1科目2単位）

データを活用して社会の諸問題の解決に貢献し、データから価値を創造する人材の社会的ニーズに応えるための基礎力を身につけるため、「データサイエンス入門」（2単位）を必修科目として1年次に配置する。

⑥キャリア教育系科目（選択必修　2単位以上）

卒業後の進路選択や自己のキャリア形成に必要な能力を身につけるため、キャリア教育系科目から2単位以上を修得する。

（2）専門科目

本学科では、「気候変動」、「低炭素技術」、「情報・データサイエンス」、「国際協力・マネジメント・起業」の4つの視点を軸に、基礎となるコア科目とその応用科目を体系的に配置し、概論、演習・実験、国際プログラムなどの科目群を適切に組み合わせ、持続可能な環境技術の実装に必要な知識と能力を段階的に修得できるよう、専門科目は「グリーンテクノロジーコア科目群」と「グリーンテクノロジー応用科目群」の2つの科目群から構成する。

グリーンテクノロジーコア科目の必修科目では、地球科学やグリーンテクノロジーの概論、データサイエンスやプログラミングなどを配置するとともに、グリーンテクノロジーコア科目の選択科目では、物理学、化学、数学などの基礎科学をはじめ、マテリアサイエンス、情報基礎論、国際ビジネスなど、各自の関心に応じた専門分野を深く学ぶ科目を配置することで、グリーンテクノロジーの土台を構築する。

また、グリーンテクノロジー応用科目では、地球環境理工学、資源循環理工学、環境情報処理、環境ビジネス、国際技術協力などの分野に関する知識を深め、持続可能な社会の実現に向けた実践的な技術力を養う。

本学科の専門科目は、一部の授業を英語で開講し、国際的な視点を養う機会を提供する。さらに、留学生を交えた授業を実施することで、異文化理解を深めるとともに、グローバルな環境での実践力を養うことができる。加えて、産学連携プロジェクトやフィールドワークを通じて、実践的なスキルの習得を促進する。

さらに、本学科の学びと深く関連する他学科の関連科目や全学共通科目を履修することで、学際的な視点と国際的な視野を広げることができる。

カリキュラムは学年ごとの履修順序と科目間の整合性を重視しており、1～2年次には、地球環境問題の理解に必要な基礎科学・工学を学ぶとともに、データサイエンスやプログラミングを活用した環境情報の解析手法を修得する。また、研究体験を通じて専門分野への理解を深め、3年次以降の応用・専門科目の学修に向けた基盤を形成する。

２～３年次では、持続可能な社会の実現に向けた具体的な技術を体系的に学ぶ。特に、気候変動科学論や地球観測技術を通じて環境モニタリング手法を修得し、環境微生物学や生物反応工学を活用した廃棄物管理・水処理技術の理解を深める。また、ライフサイクルアセスメントや環境情報システム論を通じて環境影響評価やビッグデータ解析のスキルを養い、公共政策や国際技術協力論により、環境技術の社会実装や国際展開に向けた政策立案能力を強化する。これにより、持続可能な社会の実現に貢献するための高度な専門知識と応用力を修得する。

３～４年次では、専門演習や卒業研究を通じて、論理的な課題分析と解決策の提案力を涵養する。特に、再生可能エネルギー設計、ライフサイクルアセスメント、環境マネジメントなどのプロジェクトを通じて、データ解析やシミュレーション技術を駆使し、持続可能な社会の実現に貢献する実践力を培う。また、英語でのプレゼンテーションや論文執筆を通じて、国際的な研究ネットワークでのコミュニケーション能力を高め、海外インターンシップや国際技術協力プログラムを活用することで、持続可能な社会の実現に貢献するグローバルな人材を育成する。

４－３　主要授業科目

「１．設置の趣旨及び必要性」で述べたように、本学科のグリーンテクノロジー関連分野の学術研究を進展させ、得られた知見を活用して地球規模の環境に関する諸課題を解決できる学際的な人材の養成を目指すという目的を達成し、理工学部及び本学科のディプロマ・ポリシーに定めた能力を育成するための基盤となる科目を、本学科における主要授業科目として設定する。

まず、全学共通科目では、基礎科目群の「初年次プロジェクト（グリーンテクノロジー)」、「アカデミックライティングⅠ」、大学科目群の「人間教育論 A」「人間教育論 B」「創価教育論」、世界市民教育科目群の「平和学入門」「平和と人権」「ライフイベントとジェンダー」「環境と開発」「環境問題入門」「地域研究 A」「地域研究 B」「トップが語る現代経営 A」「トップが語る現代経営 B」、数理・データサイエンス・自然科目群の「データサイエンス入門」を主要授業科目としている。

次に、専門科目では、グリーンテクノロジーに関する学習の基盤となる科目を主要授業科目としている。グリーンテクノロジーコア科目では、ほぼすべての必修科目と研究体験に関する科目、情報基礎論、卒業研究科目を、グリーンテクノロジー応用科目では、「地球環境理工学」「資源循環理工学」「環境情報処理」「グリーンテクノロジー社会実装」の４つの科目群において、それぞれの基盤となる科目を主要授業科目としている。

さらに、学部学科英語科目では、「English communication for science Ⅰ」「English communication for science Ⅱ」を主要授業科目として位置付けている。

こうした主要授業科目の配置により、ディプロマ・ポリシーに定めたすべての能力をバランスよく育成する教育課程としている。

４－４　単位時間と授業期間の設定

科目の設定単位数は、必要十分な授業内容と学修時間の確保を前提に、大学設置基準並びに本学学則第 12 条に従い、授業及び授業時間以外の学修をあわせて 45 時間の学修をもって１単位として設計している。

本学科への入学時期は前述の通り４月及び９月とし、授業期間については春学期（４月～８月）と秋学期（９月～１月）に区分したセメスター制（15 週）を原則としているが、教育効果を考え、一部科目はターム制（四半期８週）で実施する。授業時間は、セメスター制科目の場合は、90 分×15 回（週１回開講）を基本としているが、実験・実習科目など一部集中的に学修することが好ましい科目については 90 分×30 回（週２回開講）として設定する。実験・実習科目や言語科目など、授業外学修時間が短いものについては、90 分×15 回の授業をもって１単位、講義科目、演習科目等は２単位としている。また、ターム制科目の場合は、90 分×８回（週１回開講）または 90 分×15 回（週２回開講）として授業時間を設定する。

本学では、１科目当たりの授業外での学習時間を十分に確保し、より深い学修を促すことを目的として、後述するように CAP 制を導入し、各学期で履修登録を行うことができる単位数に上限を設けている。理工学部グリーンテクノロジー学科においては、それを１セメスターあたり 24 単位とし、十分な教育効果を確保する体制としている。

４－５　９月入学の学生における教育課程の体系性

本学科においては、日本国外からの外国人学生を広く受け入れることとしており、前述の通り通常の４月入学に加え、外国人学生入試（９月入学）を実施して、秋学期を学年の開始学期とする９月入学制度を導入する。

９月入学では、外国人留学生を受け入れることから、入学直後の第１セメスターとなる１年次秋学期では、日本語習得のための学習を行いながら、並行して前述した専門科目のグリーンテクノロジーコア科目を英語で学習する。第２セメスター以降については、4 月入学の学生と同様に学習を進めるが、１～２年次においては英語で開講されるクラスまたは日本語と英語を併用して開講される授業を履修する。3～4 年次においては学生の日本語能力に応じて授業科目を選択し、授業を履修する。

このような教育課程の編成により、９月に入学した学生にも４月入学と同様の教育課程の体系性を確保する。

４－６　他学科科目履修制度

本学では、自身の興味のある分野を幅広く学ぶことができるよう、他学科が開設する専門科目の履修を認める他学科科目履修制度を導入している。

５．教育方法，履修指導方法及び卒業要件

５－１　教育方法

授業は、その内容に応じて、講義科目、演習科目、実験科目、および各研究室に配属しての少人数演習科目に分け、セメスターあるいはタームごとにバランスよく配当することによって学生の学習意欲の向上を図る。それぞれの授業の学生数は、講義科目はグリーンテクノロジーコア科目の必修科目については 70 名程度となるが、グリーンテクノロジーコア科目の選択科目やグリーン

テクノロジー応用科目については15～40名程度の予定である。演習科目においては、1年次のグリーンテクノロジーコア科目の必修科目であるグリーンテクノロジー研究体験は1教員あたり8～10名を担当し、3～4年次のゼミ科目である演習・卒業演習・卒業研究については、1教員あたり4～6名程度の少人数教育を実施する。1年次からProject Based Learning（PBL）による少人数教育を行うことで、当該分野の理工学の基礎知識の向上を図れるとともに、教員あるいは学生間の討議を行いながらプロジェクトを実行することで、学生が能動的に学ぶ能力を養成する。

また、2年次以降については、引率教員1～2名のもとで20名程度を定員とする海外研修を通して、海外で行われている環境問題対策などを体験することで、より実践的なグリーンテクノロジーについて学習する。実験科目においては、1年次のコア科目の必修科目である基礎グリーンテクノロジー実習については60名程度となるが、その他の実験科目については全て選択科目であるため20～40名程度の予定である。多くの実験科目についてはターム制を導入するため、短期間で集中した授業内容とすることや、様々な科目を履修することができるため、当該分野の理工学の幅広い知識の向上が図れるとともに学生の学習意欲を高めることが可能である。

卒業研究においては、月曜から金曜まで毎日1コマ程度の学習と実験を行い、さらに卒業研究発表会や要旨・卒業論文を課すため5単位分の学習時間相当としている。

また、専門科目の講義科目においては、その内容に応じて大学院生のティーチング・アシスタント（TA）や学部生のスチューデント・アシスタント（SA）を必要に応じて配置し、その教育効果を高める工夫を行う。特に学生が提出するレポートや課題については、添削及びそのフィードバックを学生に対して適切に行うことで、学生の振り返り学習を促進する。また、実験・実習科目においては、複数教員で担当するほか、安全教育講習を受講したTAを配置して実験補助を行うことで、安全な実験環境を整えることができるほか、担当教員の指導のもとチュートリアルを担当することで、受講学生に対するきめ細やかな指導体制をとることが可能となる。

５－２　履修指導方法

新入生の履修指導は、入学時の新入生オリエンテーションや履修ガイダンスにおいて、全学生に配布される履修要項を用いて全般的な説明を行い、個別的な学習指導は担当教員と学部事務室の職員が連携し行う。本学科における履修指導方法は、1教員5～6名の学生に対して教員が学習・履修相談に応じるシステムであるアカデミック・アドバイザー制度により、1～2年次においては各セメスター2～3回程度コンタクトグループを開催し、3～4年次においてはゼミ配属先にて演習科目を通して指導するとともに、学生の状況に応じて個別相談を行うことできめ細やかな教育指導を行う。

また、1～2年次においては、各セメスターに学年別の履修ガイダンスを実施して、カリキュラム系統図【資料4】や履修モデル【資料5】を示しながら教育課程について説明し、学生の興味や能力に応じて履修科目の選択に関する個別の履修相談を行うことで、学生に対する履修指導体制を整備する。

【添付資料】
（資料4）グリーンテクノロジー学科　カリキュラム系統図
（資料5）グリーンテクノロジー学科における履修モデル

５－３　成績評価方法

本学では、卒業時における質保証の観点から、「創価大学シラバス作成に関する内規」に基づき、あらかじめ学生に対して各授業科目における到達目標や、その目標を達成するための授業の方法及び授業計画、成績評価方法等をシラバスに明示している。

本学における成績評価は、定期試験やレポートの評価、授業中の学修成果などに基づいて総合的に判断することとしている。成績評価方法は、A+から E までの 12 段階評価で行われる ABC 評価と、合否のみを判断する PF 評価の 2 種類がある。PF 評価科目は、ABC 評価が相応しくないと判断された科目のみで行われている。また、成績評価については質保証と厳格性を保つため、A+評価の上限を全履修者の 5%程度、A+評価、A 評価及び A-評価の合計の上限を全履修者の 25%程度としている。ただし、履修のための成績条件等があり、一定レベル以上の学生が履修する科目など、所定の会議にてこの成績上限の除外が認められる授業科目はこの限りではない。それぞれの授業の成績評価の割合や ABC 評価なのか PF 評価なのかはシラバスに記載している。

また本学では各授業科目の成績評価から GP（Grade Point = 成績評点）を換算し、これに各科目の単位数を掛け、その合計を総履修単位数で割った数値である GPA（Grade Point Average）制度を設けている。当該セメスターの成績評価のみを使用して算出したセメスター GPA を学業指導や退学勧告、成績優秀者制度などの基準として使用し、入学時からのすべての成績評価を使用して算出した GPA 通算を卒業要件や交換留学出願基準などにも使用している。

５－４　卒業要件

本学科における卒業要件は、学部に 8 セメスター以上在学し、以下の①～④に沿った体系的な授業科目の履修により 124 単位を修得し、かつ在学期間における通算 GPA が 2.0 以上であることとする。

① 全学共通科目から 15 単位以上。但し基礎科目を 3 単位以上（『初年次プロジェクト（グリーンテクノロジー)』２単位及び『アカデミックライティングⅠ』１単位を含める)、大学科目を 4 単位以上、世界市民教育科目を 4 単位以上、数理・データサイエンス・自然科目を 2 単位以上（『データサイエンス入門』２単位を含める)、キャリア教育系科目を 2 単位以上含めること。

② 学部学科英語科目（外国語科目）もしくは全学共通科目の言語科目（英語）から 6 単位以上。ただし日本語を母語としない場合は、言語科目（日本語）から 6 単位以上でも可とする。

③ 専門科目から 79 単位以上。但し、グリーンテクノロジーコア科目の必修科目 19 単位及び選択科目 16 単位以上、グリーンテクノロジー応用科目 44 単位以上を含めること。また、グリーンテクノロジー応用科目には地球環境理工学科目、資源循環理工学科目、環境情報処理科目、グリーンテクノロジー社会実装科目の 4 科目群からそれぞれ 5 単位以上を含めること。

④ 自由選択科目 24 単位以上（上記①～③の基準を超えて修得した科目、及び他学部・他学科専門科目、特設課程科目)。

５－５　履修科目の年間登録上限（CAP 制）

本学では、１科目当たりの授業外での学習時間を十分に確保し、より深い学修を促すことを目的として、各学期で履修登録を行うことができる単位数に上限を設けている。本学科は、それを 24 単位とする。

なお、直前のセメスターGPA が 3.30 以上かつ修得単位数が 16 単位以上の者については成績優秀者として 28 単位まで履修登録することができ、かつ１学年上級年次の科目の履修が可能となる成績優秀者制度をあわせて導入する。

５－６　国際技術協力 Educational Program（国際 EP）

理工学部では、国際技術協力プログラム（国際 EP）を開設し、語学力と国際理解をかね合わせて、４年間の学修で培う理工学の基礎知識と工学技術を国際的な技術協力に結び付ける能力を養うための履修メニューとして提供している。入学時に行う英語のプレイスメントテストやTOEIC-IP、TOEFL iBT の得点などによって上位 20 名程度を選抜し、参加希望者に国際 EP を実施する。

国際技術協力 Educational Program（EP）を修了証明するためには、学内で用意されている語学（英語）の必修２単位と選択４単位、必修の初年次プロジェクト２単位とプロジェクト・スタディーズ２単位、EP 必修科目の国際技術協力論２単位と国際技術協力演習２単位、EP 専門選択科目を４単位、共通科目を４単位、国際技術協力海外研修（「国際技術協力海外研修」のほか、同様の趣旨で開講される理工学部または他学部主催の海外研修科目も可）で２単位、合計 24 単位以上を修得する必要がある。これらの科目の単位は、全て卒業に必要な単位として認められる。修了者に対しては、２年次以降修了した時点で修了証を発行する。

５－７　英語サポートプログラム（English Supported Program/ESP）

本学科では主に外国人留学生を対象とした English Supported Program（ESP）を提供する。この ESP では、通常の学生と同様に授業科目を履修しながら、並行して日本語・日本文化教育センターが提供する日本語プログラムを学習することで、外国人留学生が授業や研究活動、日本での就職に必要な日本語運用能力を身につけることができる。日本語プログラムでは、全学共通科目の言語科目（日本語）の科目の中から、留学生の日本語運用能力に応じて指定した科目を合計で 21 単位を修得する。これらの科目の単位は、全て卒業に必要な単位として認められる。これらの日本語プログラムを修了することで、日本語能力試験（JLPT）N2 レベルの日本語能力を身につける。これにより、グリーンテクノロジー応用科目における日本語と英語を併用する授業科目や日本語で提供される授業科目の修得や、将来日本で就職する際に必要となる語学力を身につけることができる。

５－８　他大学における授業科目の履修

本学では、本学に在学しながら本学以外の大学（単位互換協定締結校に限る）の授業科目を受講し、修得した単位を本学の単位として認定する制度を設けている。現在、本学と単位互換協定を結んでいる大学は以下の通りある。

・放送大学

・大学コンソーシアム八王子加盟大学（八王子市を中心とした 25 大学）
・東京外国語大学

また、大学設置基準第 28 条から第 30 条に規定される他の大学等における授業科目の履修、大学以外の教育施設等における学修、入学前の既修得単位等の認定に関しては、本学学則第 11 条第３項１条及び「創価大学既修得単位の認定に関する細則」【資料６】、「創価大学検定試験等による単位の認定に関する細則」【資料７】、「創価大学外国留学にともなう履修及び単位認定に関する細則」【資料８】において規定される手続きに基づき、前述の単位互換協定に基づき修得した単位を含めて 60 単位を超えない範囲で本学の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

さらに、大学設置基準第 19 条の２に規定する連携開設科目において修得した単位は、本学学則第９条の３に基づき、30 単位を超えない範囲で本学の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

これらの制度によって、学生は興味や関心に応じて協定大学などに開設されている特色ある、授業科目や本学では学べない分野の授業科目の履修ができ、他大学の学生との交流を通して、新たな学修意欲を高める機会となる。

【添付資料】
（資料６）創価大学既修得単位の認定に関する細則
（資料７）創価大学検定試験等による単位の認定に関する細則
（資料８）創価大学外国留学にともなう履修及び単位認定に関する細則

５－９　外国人留学生への対応

外国人留学生については、通常の履修指導に加え、入学時に本学国際部において、日本での生活ガイダンスをはじめ、日本での留学に必要な情報を提供するガイダンスを実施している。

このほか在留管理支援面では国際部が、生活管理支援面では国際部と学生部が適宜対応するとともに、英語の堪能な本学科の基幹教員がアカデミック・アドバイザーとなり、学習面を含めた必要なサポートを行う。特に在留管理面では、本学の出席確認システムによる外国人留学生の授業出席率のモニタリングや定期的な在籍確認などにより、所謂問題在籍者を生じさせないよう取り組んでいる。

６．多様なメディアを高度に利用して，授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

６－１　実施計画及びその方法

本学での授業方法は、創価大学学則第 12 条の２において、「授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。」と規定しており、これら授業方法を原則対面で行うこととしている。ただし、同条第２項に「前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。」と規定

しているとおり、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い取り組んだ遠隔授業の経験や知見を引き続き活用していくため、高い教育効果が得られると授業担当者が判断し、学部で認められた場合は、遠隔授業を取り入れることを可としている。

その方法は、本学学則第 12 条の 3 において、「前条第 2 項に定める多様なメディアを高度に利用して行う授業は、パーソナル・コンピュータその他双方向の通信手段によって行う。」と定めており、ZOOM、Microsoft Teams、Google Meets といったビデオ会議システムや、これらのアプリケーションのチャット機能、本学の学習支援ポータルサイト「PLAS」が提供するアンケート機能などを使用して双方向性を確保することとしている。

６－２　実施に関する本学規定

前節で述べたメディアを高度に利用して授業を実施する場合の具体的な手続きなどは「創価大学多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する細則」【資料９】に定めるとともに、本学学則第 17 条において、この方法により修得できる単位は 60 単位を超えない範囲で卒業の要件として修得すべき単位として算入することができると規定している。

【添付資料】
（資料９）創価大学多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する細則

７．編入学定員を設定する場合の具体的計画

本学及び他大学を中途退学、または短期大学、高等専門学校、専修学校等を卒業した者が入学を希望した場合、3 年次編入学定員を若干名として開設初年度から 3 年目の 2028（令和 10）年度より受け入れを行う。

（１）既修得単位の認定方法

３年次に転入学又は編入学をした学生の既修得単位の認定については、編入学時に提出する「卒業証明書」「退学・除籍証明書」及び「成績証明書」等の書類に基づき、下記の 45 単位を本学科の卒業に要する単位として一括で認定する。

(1) 全学共通科目　15 単位
(2) 学部学科英語科目（外国語科目）　6 単位
(3) 自由選択科目　24 単位

また、編入学生の高専、短期大学等で修得した単位のうち、そのシラバスを照合したうえで、内容の同一性、授業時間数及び単位数を確認し、本学科が設置する専門科目を修得したと見なすことができるものを、授業科目ごとに最大 25 単位まで本学科の専門科目を修得したものとして単位認定を行う。この専門科目の単位認定にあたっては、グリーンテクノロジー学科会議にて内容を確認したうえで、理工学部教授会で審議し、学長が認定する。

（２）履修指導方法

履修指導については、編入学時に配布する「履修要項（編入学用)」に基づき編入学履修ガイダンスを実施して、卒業要件や履修モデルなどを説明する。また、アカデミック・アドバイザーを通じて、履修指導、履修相談を実施する。

編入学後の履修モデルは【資料５】に示したもののうち、前節の方法で認定された科目を除く専門科目の３・４年次配当科目を履修する。ただし、１・２年次配当の専門科目の必修科目および選択必修科目の単位認定が行われなかった場合は、アカデミック・アドバイザーと綿密に面談を行ったうえで履修計画を立て、学習を進める。

（３）教育上の配慮

本学科では、専門科目について既修得単位のシラバス等を用いて授業科目ごとに単位認定を行う。したがって、編入学生ごとに編入学時の認定単位数が異なり、編入学時における履修科目の指導を一律に行うことはできない。したがって、各編入学生の単位認定状況に応じて卒業要件を考慮したうえでアカデミック・アドバイザーが個別に履修指導を行う。

８．企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

８－１　専門科目で実施する学外実習

（１）グリーンテクノロジーインターンシップ

グリーンテクノロジー学科では､3 年次に｢グリーンテクノロジーインターンシップ｣を開講し、３年次の長期休暇期間を利用して、自らの専門を含む関心分野や将来のキャリアに関連した企業または研究機関における就業体験を行うことで、学生自身の適正について認識し、職業選択に役立てる。実習先としては、これまで本学学生の受け入れ実績のある企業【資料 10】を想定するほか、理工系企業が公募するインターンシップ、産業技術総合研究所、理化学研究所が公募する研究インターンなども、本科目の実習先としてあげられる。実習前に科目担当教員の指導を受け、実習終了後、実習先が記載する実習承諾書及び修了認定書、学生が記載する実習報告書を科目担当教員に提出する。就業体験は原則 5 日間 40 時間以上とする。履修登録はインターンシップ終了直後の学期に行い、事前学習・事後学習の学習状況及び実習先での活動状況、実習担当者からの評価、日誌、体験報告書、レポート作成提出、体験発表の内容等から総合的に判断して成績評価を行う。

【添付資料】
（資料 10）令和６（2024）年度企業実習一覧

（２）海洋観測実習

「海洋観測実習」は、海洋環境への理解を深め、持続可能な生態系の保全と利用に関する教育を推進させるため、横浜国立大学臨海環境センターの協力のもと旧学科（共生創造理工学科）で

現在すでに開講されている「海洋学実習」を引き継ぐ形で実施する。夏季休暇期間中に開講される集中講義で、理工学部事務室で事前参加登録を受け付ける。定員は原則 24 名程度。海洋フィールドで調査・データの収集方法や分析手法を習得し、海洋汚染や大気汚染など、地球的規模での環境問題について議論する。自然環境についての啓蒙教育により学生の自然環境への配慮や倫理観を醸成させる。実習直後の学期で履修登録を行い、実習成果及びレポート作成提出の内容等から総合的に判断して成績評価を行う。

（3）国際技術協力海外研修

2 年次長期休暇期間中に、理工学部の「国際技術協力 Educational Program（国際 EP）」のカリキュラムの一環として「国際技術協力海外研修」を開設する。約 2 週間の研修では、インドネシア・スラバヤ工科大学（ITS）にて、国際技術協力に関わる施設やフィールドを視察、体験することにより、国際理解を国際技術協力に結び付ける能力を養う。研修では、英語コミュニケーションスキルの講義、文化交流（インドネシア語と伝統文化・工芸の体験)、国際技術協力に関する講義とプレゼンテーション研修、およびフィールドワークを通じて、インドネシアにおける自然災害や環境問題、またそれらの解決方法についてグループ学習を行う。研修直後の学期で履修登録を行い、プレゼンテーションなどの実習成果及びレポート作成提出の内容等から総合的に判断して成績評価を行う。

（4）グリーンテクノロジー海外研修Ａ・グリーンテクノロジー海外研修Ｂ

２～４年次の長期休暇期間中に、「グリーンテクノロジー海外研修Ａ」および「グリーンテクノロジー海外研修Ｂ」を開設する。

「グリーンテクノロジー海外研修Ａ」は、マレーシアのクアラルンプールならびにジョホールバールの 2 都市において、海外でのグリーンテクノロジーに関わる大学研究機関、自治体の事業や企業活動、施設を視察し研修を行う。クアラルンプールではマレーシア・プトラ大学農学部はじめ、政府関連省庁、民間企業などの視察、ジョホールバールでは Ziyosian Sdn Bhd（芝生造成事業）や創薬開発を行っている民間企業で研修を行う。

また「グリーンテクノロジー海外研修Ｂ」では、ブラジルのアマゾン創価研究所及びブラジル・マナウス市近郊の大学・研究所や NPO にて、海外でのグリーンテクノロジーに関わる施設やフィールドを視察、体験することにより、創エネルギー・省エネルギー・廃棄物処理工学技術の社会実装に関する実践経験を積む。

どちらの研修でも、大学での事前学習後に、約 2 週間の研修に参加し、地球環境理工学、資源循環理工学、環境情報処理科目で学んだ創エネルギー・省エネルギー・資源循環・情報処理技術について海外で実用化されている事例を学びながら、海外の企業・自治体や大学・研究所施設ならびにフィールドでの研修を通じて実践経験を積む。

履修登録は研修終了直後の学期に行い、事前学習・事後学習の学習状況及び研修先での活動状況、レポート作成提出、プレゼンテーションの内容等から総合的に判断して成績評価を行う。

（5）海外インターンシップ

３年次の長期休暇期間を利用して、本学科の専門科目として「海外インターンシップ」を開設

し、海外の大学・研究所、実験施設、企業、工場においてインターンシップに参加し、海外の実社会で利用されているグリーンテクノロジーについての理解を深める。この「海外インターンシップ」では上記「グリーンテクノロジー海外研修ＡおよびＢ」の受け入れ先となっている大学・研究所、実験施設、企業に加え、本学科の基幹教員が共同研究を行っている海外大学・研究機関等を実習先として確保する。就業体験は原則 10 日間 80 時間以上とする。現地の研究者や技術者との交流を行い、実際の環境技術施設の運転、企業の活動などを理解し、レポートにまとめる実習とする。履修登録はインターンシップ終了直後の学期に行い、事前学習・事後学習の学習状況及び実習先での活動状況、実習担当者からの評価、日誌、体験報告書、レポート作成提出、体験発表の内容等から総合的に判断して成績評価を行う。

８－２　全学共通科目で提供される学外実習

（１）企業インターンシップ

独自のインターンシップ制度を持ち、理系学部の学生が参加可能な受け入れ先は、「令和６（2024）年度企業実習一覧【資料 10】」に示した通りである。例年ほぼ安定した運用が図られている。本学科の学生についても、既設の学部同様に希望者はこの制度を利用できる。実習期間は既存制度同様１週間以上（5 日から 10 日間）であり、時期は夏期、春期に実施する。

インターンシップの実施前に、活動の内容、安全確保等について、本大学と受け入れ先で協議する。参加学生には、事前学習において安全に関する注意喚起を行い、実習期間中の安全確保とリスク軽減に努めている。実習期間中は、参加学生がキャリアセンターまたは担当教員と連絡ができる状況を確保し、不測の事態に対応できる体制を確保している。

成績評価及び単位の認定にあたっては、事前学習・事後学習の学習状況及び実習先での活動状況、実習担当者からの評価、日誌、体験報告書、レポート作成提出、体験発表の内容等から総合的に評価する。

【添付資料】
（資料 10）令和６（2024）年度企業実習一覧

（２）海外短期研修

本学では、複数の海外大学等と連携し、学生に語学研修の機会を提供している。「令和６(2024)年度海外短期研修一覧」【資料 11】の通り、全学共通で実施しており、国や地域、費用等学生の希望に応じた選択が可能となっている。本学では単位認定の取り決めを順守しながら、学生のニーズの変化に応じて、派遣先を見直す等の対応を随時実施している。

この研修は、全学部を対象に複数の実習先を用意しており、本学国際部が日常的にメールや電話で連絡調整を行うほか、現地訪問等により、受入機関担当者との打ち合わせ、施設整備の確認、周辺環境調査を実施し、受入機関として適切な運営が行われていることを確認している。

また、この海外短期研修の単位認定に必要な時間数は、事前学習、現地研修、事後学習で２単位の場合は合計 90 時間以上としている。また、成績評価は、現地受入機関発行の修了証等に加え、事前・事後学習の記録や学生から提出された報告書等の成果を総合的に勘案して単位認定を行う。

【添付資料】
（資料 11）令和 6（2024）年度海外短期研修一覧

９．入学者選抜の方法

９－１　入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

本学科における入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）は、「１－５　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー)」にて記述した通りであり、この方針に基づき、次節で記述する入学者選抜方法により入学者の選抜を行う。

９－２　選抜方法及び体制

本学科の選抜にあたっては、前述のアドミッション・ポリシー及び求める人材像に基づき、次の選抜を実施する。

（１）総合型選抜（募集人員：28 名／46.7%）

総合型選抜では、PASCAL 入試、グローバル人材育成入試、基礎学力方式（専願型・併願型)、小論文方式入試、理工学部女子特別選抜入試、帰国学生入試、国際バカロレア入試、外国人学生入試（Ⅰ型・Ⅱ型・９月入学）を、それぞれ以下の要領で選抜を実施する。

① PASCAL 入試

募集人数：　６名

出願資格：　以下のいずれかに該当し、かつ評定平均値が 3.2 以上（本学が実施する「PASCAL 入試チャレンジプログラム」修了者は評定平均値が 3.0 以上）の者で、創価大学への強い意志を持ち、本学を第一志望（１学科専願）とする（合格した場合は必ず入学する）者

① 高等学校または中等教育学校を入試実施年度末に卒業見込み及び入試実施前年度末卒業（卒業後１年以内）の者
② 特別支援学校の高等部を入試実施年度末に卒業見込み及び入試実施前年度末卒業（卒業後１年以内）の者
③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有する者として認定した在外教育施設の当該課程を入試実施年度末までに修了見込み及び修了後１年以内の者
④ 専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に卒業（修了）見込み及び 2024 年３月卒業（修了）［卒業（修了）後１年以内］の者。

選抜方法：　第一次選抜：書類審査
第二次選抜：LTD 方式のグループワーク、面接

② グローバル人材育成入試

募集人数：　２名程度（入学定員全体の４％）

出願資格：　以下の①～④のいずれかに該当し、かつ各選抜方式の定める資格を満たす者

① 高等学校または中等教育学校を入試実施年度末に卒業見込みの者（ただし、創価高等学校及び関西創価高等学校を除く）

② 特別支援学校の高等部を入試実施年度末に卒業見込みの者

③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有する者として認定した在外教育施設の当該課程を入試実施年度末までに修了見込みの者

④ 専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に卒業（修了）見込みの者。

【GCP 型 出願資格】

① 調査書の全体の学修成績の状況（評定平均値）が 4.0 以上の者

② 次のいずれかに該当する者

(ア) 調査書の外国語（英語）の学修成績の状況（評定平均値）が 4.0 以上の者

(イ) 次のいずれかの資格を有する者

① 実用英語技能検定 2 級以上の検定試験の英検 CSE2.0 スコア 1950 以上

② GTEC 検定版（Basic/Advanced タイプ）および GTEC CBT タイプ 930 点（オフィシャルスコア）以上

③ TOEIC® LISTENING AND READING TEST（公開テスト）550 以上

④ TOEFL iBT スコア 42 以上（Test Date スコア）※MyBest スコア不採用

⑤ IELTS アカデミック・モジュール オーバーオール・バンド・スコア 4 以上

【グローバル特色型 出願資格】

① 調査書の全体の学修成績の状況（評定平均値）が 3.5 以上の者

② 次のいずれかに該当する者

(ア) 調査書の外国語（英語）の学修成績の状況（評定平均値）が 4.0 以上の者

(イ) 次のいずれかの資格を有する者

① 実用英語技能検定 2 級以上の検定試験の英検 CSE2.0 スコア 1950 以上

② GTEC 検定版（Basic/Advanced タイプ）および GTEC CBT タイプ 930 点（オフィシャルスコア）以上

③ TOEIC® LISTENING AND READING TEST（公開テスト）550以上
④ TOEFL iBT スコア 42 以上（Test Date スコア）※MyBest スコア不採用
⑤ IELTS アカデミック・モジュール オーバーオール・バンド・スコア 4 以上

選抜方法： プレゼンテーション、英語小論文、面接

③ 基礎学力方式（専願型・他大学併願型）・小論文方式・理工学部女子特別選抜入試

募集人数： 基礎学力方式（専願型）・小論文方式・理工学部女子特別選抜入試合わせて６名、基礎学力方式（他大学併願型） 2 名

出願資格： 基礎学力方式（専願型）及び小論文方式については、以下の①～④に該当し、かつ、創価大学への強い意志を持ち、本学を第一志望（１学科専願）とする（合格した場合は必ず入学する）者。

理工学部女子特別選抜入試については、以下の①～④に該当し、かつ、創価大学への強い意志を持ち、本学を第一志望（１学科専願）とする（合格した場合は必ず入学する）者で、戸籍上の性別が「女子」である者。

基礎学力方式（他大学併願型）については、以下の①～④に該当し、かつ評定平均値が 3.0 以上の者。

① 高等学校または中等教育学校を入試実施年度末に卒業見込み及び入試実施前年度末卒業（卒業後１年以内）の者
② 特別支援学校の高等部を入試実施年度末に卒業見込み及び入試実施前年度末卒業（卒業後１年以内）の者
③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有する者として認定した在外教育施設の当該課程を入試実施年度末までに修了見込み及び修了後１年以内の者
④ 専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に卒業（修了）見込み及び 2024 年３月卒業（修了）［卒業（修了）後１年以内］の者。

選抜方法： 【基礎学力方式（専願型・他大学併願型）・理工学部女子特別選抜入試】
書類審査、基礎学力試験（「英語」「数学」「国語」のいずれか１科目）、面接
【小論文方式】
書類審査、小論文、面接

④ 帰国学生入試

募集人数： 若干名

出願資格： 日本国籍を有し、または日本国の永住許可を得ている者で、外国の正規の教育課程における中学・高等学校にあたる課程を継続して１年以上または１学年以

上（※１）履修し、入試実施前々年度から入試実施年度末までに以下①～⑫のいずれかの条件を満たしている者。

① 日本の高等学校または中等教育学校を卒業した者
② 日本の特別支援学校の高等部または高等専門学校の３年次を修了した者
③ 外国において、学校教育における 12 年以上の課程（※２）を修了した者（12 年未満の課程の場合は、さらに、指定された準備教育課程または研修施設の課程を修了する必要がある）
④ 外国における、12 年の課程修了相当の学力認定試験に合格した者（12 年未満の課程の場合は、さらに、指定された準備教育課程または研修施設の課程を修了する必要がある）
⑤ 外国において、指定された 11 年以上の課程を修了したとされるものであること等の要件を満たす高等学校に対応する学校の課程を修了した者
⑥ 日本において、外国の高等学校相当として指定された外国人学校を修了した者
⑦ 高等学校と同等と認定された在外教育施設の課程を修了した者
⑧ 指定された専修学校の高等課程を修了した者
⑨ 外国の大学入学資格である国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア、GCEA レベルを保有する者
⑩ 国際的な認証団体（WASC・CIS・ACSI）から認定を受けたインターナショナルスクールにおける 12 年の課程を修了した者
⑪ 高等学校卒業程度認定試験に合格した者（なお、18 歳に達していないときは、18 歳に達した日の翌日から認定試験合格者となる）。
⑫ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

※１ 「日本の中学・高等学校にあたる課程で通算１年以上または１学年以上」とは、下記のいずれかとする。
- 12 年の課程における７学年目以降（日本の中学校および高等学校に相当する６学年間）の課程で１年以上
- 13 年の課程における８学年目以降の課程で１年以上

※２ 「外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者」とは、「外国の正規の学校教育における 12 年目の課程を修了した者」という意味

選抜方法： 事前課題、口頭試問、面接

⑤ 国際バカロレア入試

募集人数： 若干名

出願資格： 以下の①、②を満たす者

① 国際バカロレア機構から入試実施年度内に国際バカロレア資格（International Baccalaureate Diploma）を授与された、もしくは授与され

る見込みの者

② 日本語を母国語とする者、もしくは日本語 B を HL で履修した者

選抜方法： 書類審査、面接

⑥ 外国人入試（Ⅰ型・Ⅱ型・９月入学）

募集人数： 12 名

出願資格： 以下の①～⑥のいずれかに該当する者

① 外国において学校教育（※１）における 12 年の課程を修了した者または修了見込みの者

② 12 年の教育課程のうち、日本の教育制度に基づく学校での在学期間が含まれる場合は以下のいずれかに該当すること。

・外国の高等学校を修了した者、または修了見込みの者で、日本の小・中・高等学校等（※２）の在学期間が通算 6 年間以内であること。

・日本の学校教育法にもとづく高等学校を修了した者、または修了見込みの者で、日本の小・中・高等学校等（※2）に在学した期間が通算 3 年間以内であること。

③ 海外で教育を受け、飛び級等により教育課程が 12 年間に満たない者

④ スイスにおける国際バカロレア資格、ドイツにおけるアビトゥア資格、フランスにおけるバカロレア資格、およびそれと同等の資格を取得した者

⑤ 外国において、指定された 11 年以上の課程を修了したとされるものであること等の要件を満たす高等学校に対応する学校の課程（文部科学大臣指定 高等学校に対応する外国の学校の課程一覧）を修了した者

⑥ 国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI、NEASC）の認定を受けた教育施設の 12 年の課程を修了した者

※１ 外国における学校教育、には「我が国において、高等学校相当として指定した外国人学校一覧」にある学校を含む

※２ 日本の小・中・高等学校等とは、日本の学校教育法にもとづく小学校・中学校・高等学校等に加え、「文部科学大臣が認定した在外教育施設」を含む

外国人入試（Ⅰ型）出願者は、上記に加え、以下の条件を満たす者

⑦ 各国で行われている大学進学のための統一試験（数学を含む）を受験し、その成績証明書を提出できる者。統一試験の成績証明書を提出できない者は、高校の成績証明書を IERF Detail Report に変換して提出できる者。

⑧ 日本語能力試験Ｎ２合格以上の日本語能力の証明書、または日本留学試験（日本語）の合計点が 200 点以上（記述の点数を除く）のスコア、JPT 日本語能力試験 600 点以上のスコアを提出できる者。

選抜方法： 【外国人入試（Ⅰ型・９月入学)】書類審査

【外国人入試（Ⅱ型)】書類審査、小論文、面接

（２）学校推薦型選抜（募集人員：17 名／28.3%）

学校推薦型選抜では、指定校推薦入試、創価学園推薦入試、スポーツ推薦入試、海外指定校推薦入試の区分を設け、それぞれ以下の要領で選抜を実施する。

① 指定校推薦入試

募集人数：　若干名

出願資格：　以下の①～④を満たす者

① 本学の「建学の精神」を理解し、本学への入学を第一志望とする（合格した場合は必ず入学する）者

② 本学が指定する高等学校または中等教育学校を卒業見込みの者で、人物・学力ともに優秀であり、同学校長が推薦する者

③ 調査書の全体の学習成績の状況（評定平均値）が、各校に配布した「実施大綱」に記載の既定値以上の者

④ 欠席日数が原則として年間 20 日以内の者

選抜方法：　書類審査、面接

② 創価学園推薦入試

募集人数：　17 名

出願資格：　以下の①～③を満たす者

① 本学の建学の精神を理解し、本学への入学を第一志望とする者

② 創価高等学校または関西創価高等学校を卒業見込みの者で人物･学力ともに優秀であり、学校長が推薦する者

③ 調査書の全体の評定平均値が 3.0 以上の者

選抜方法：　書類審査、面接

③ スポーツ推薦入試

募集人数：　若干名

出願資格：　以下の①～⑤または、①⑤⑥または⑦を満たす者

① 本学の「建学の精神」を理解し、本学への入学を第一志望とする（合格した場合は必ず入学する）者

② 次のいずれかの条件を満たす者

(ア) 高等学校もしくは中等教育学校を入試実施年度末に卒業見込みまたは入試実施年度内に卒業の者で、同学校長が推薦する者。ただし陸上競技（長距離）は高等学校もしくは中等教育学校の既卒者でも可。

(イ) 高等専門学校第 3 学年を入試実施年度末に修了見込みの者で、同学校長が推薦する者。ただし陸上競技（長距離）は高等専門学校第 3 学年の既修了者でも可。

③ 調査書の全体の学習成績の状況（評定平均値）が 3.0 以上で、入学後に学業に励み所定の卒業条件を達成する強い意志を持つ者

④　高等学校、中等教育学校もしくは高等専門学校在学時に、当該スポーツで特に優秀な成績を修め、入学後も同種目の活動を継続する意志を持つ者
⑤　各種目の本学の指導教員、監督またはそれに準ずる者が推薦する者
⑥　外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者または入試実施年度末までに修了見込みの者、またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
⑦　本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳以上の者

選抜方法：　書類審査、面接

④ 海外指定校推薦入試

募集人数：　若干名

出願資格：　以下の①～④を満たす者

①　本学の建学の精神を理解し、本学への入学を第 1 希望とする（合格した場合は必ず入学する）者
②　本学が指定する海外の教育機関を 2025 年 6 月までに修了見込みの者で、人物、学力ともに優秀であり、同学校長が推薦する者
③　本学が各校ごとに指定する成績基準及び日本語能力基準を満たす者
④　原則として欠席日数が 3 年間 20 日以内の者

選抜方法：　書類審査

（3）一般選抜（募集人員：15 名／25.0%）

一般選抜では、大学共通テスト利用入試（前期３科目方式・前期４科目方式・後期)、全学統一入試（２科目方式・３科目方式)、一般入試（２科目方式・３科目方式・後期２科目方式）の区分を設け、それぞれ以下の要領で選抜を実施する。

① 大学共通テスト利用入試（前期３科目方式・前期４科目方式・後期３科目方式）

募集人数：　各方式合わせて５名

出願資格：　以下のいずれかに該当する者、または入学日前日までに該当する見込みのある者で、大学入試センターが実施する大学入学共通テストを受験する者

①　高等学校または中等教育学校を卒業した者
②　特別支援学校の高等部を卒業した者
③　外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者またはこれに準ずるもので文部科学大臣の指定した者
④　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有する者として認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
⑤　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

⑥ 外国の大学入学資格である国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア、GCEA レベルを保有する者
⑦ 国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI）の認定を受けた教育施設の 12 年の課程を修了した者
⑧ 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した 18 歳以上の者
⑨ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳以上の者

選抜方法： 本学が指定する大学入学テスト教科科目の合計得点により選抜。なお、英語はリスニングを含む得点を合否判定に使用する。

② 全学統一入試（２科目方式・３科目方式）、一般入試（２科目方式・３科目方式・後期２科目方式）

募集人数： 各方式合わせて 10 名

出願資格： 以下のいずれかに該当する者、または入学日前日までに該当する見込みのある者

① 高等学校または中等教育学校を卒業した者
② 特別支援学校の高等部を卒業した者
③ 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者またはこれに準ずるもので文部科学大臣の指定した者
④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有する者として認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
⑥ 外国の大学入学資格である国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア、GCEA レベルを保有する者
⑦ 国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI）の認定を受けた教育施設の 12 年の課程を修了した者
⑧ 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した 18 歳以上の者
⑨ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳以上の者

選抜方法： 筆記試験［英語、数学、理科（「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」のうち 1 科目選択）］

※英語については、本学が定める基準に沿って外部英語検定試験のスコアを筆記試験「英語」の得点に換算することができる

９－３　選抜体制

（１）入学者選抜に係る組織・体制

本学における入学試験の実施にあたっては、学長、副学長、アドミッションズセンター長、アドミッションズセンター副センター長、各学部長、各学部より選出される教員各１名、大学事務局長、学生部長、教務部長、国際部長、日本語・日本文化教育センター長、アドミッションズセンター事務長により構成される「入試委員会」において、入試制度、募集要項、入試実施に関する事項、合否判定の原案作成に関する事項について審議、決定を行う。

入試選抜において学力試験を課す場合、その試験問題の作成及び採点については、試験科目ごとに学長の委嘱を受けた作題委員及び採点員が行う。

試験の実施については、学長を本部長とする入学試験実施本部を置き、各入学試験の実施・運営を行う。

合否判定については、前述の入試委員会において合否判定の原案を作成し、教授会の審議を経て学長が決定する。

入学者選抜に係る事務についてはアドミッションズセンターが所管し、外国人入試及び海外指定校推薦入試に関しては国際部留学生課が所管する。

（２）入学前教育の実施

入学手続から入学まで期間がある総合型選抜・学校推薦型選抜の入学予定者には入学前教育を行い、オンライン教材・学科独自教材（レポートや添削問題）を活用し、修学意欲の維持及び基礎学力の向上と学習習慣の定着を図る。

９－４　大学の既卒者等に対する既修得単位の認定

本学では、学生が本学に入学する前に大学または短期大学等において修得した授業科目について、単位の認定を願い出ることができる。

単位の認定は、学生からの申請に基づき、全学共通科目については学士課程教育機構運営委員会、専門科目については各学部教授会に審査し、教育上有益と認められる場合には、これらの会議の議を経た上で学長が認定する。審査にあたっては、必要に応じて授業科目担当教員の意見を求める。

９－５　正規の学生以外の者の受け入れについて

（１）科目等履修生

科目等履修生は、年２回出願期間を設けて募集を行う。本学の教育研究に支障がない場合に限り、書類選考及び面接の上で、教授会の議を経て学部長が受け入れを決定する。

出願資格は、本学学則第 20 条に規定する資格を有する者とする。

（２）研究生

研究生は、年２回出願期間を設けて募集を行う。本学の教育研究に支障がない場合に限り、書類選考及び面接の上で、教授会の議を経て学部長が受け入れを決定する。

出願資格は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

（3）特別履修生

本学学則第 47 条の 3 に定める各号に該当する者のうち、本学の授業科目の履修を希望する場合は、本学の教育研究上支障がない場合に限り、教務部長が書類審査及び面接を実施の上で特別履修生として受け入れを行う。

9－6　留学生の経費支弁能力の確認方法及び在籍管理方法

留学生の受け入れにあたっては、本学出願時に「経費支弁書」並びにこれを裏付ける証票書類（銀行残高証明書、等）の提出を必須とし、在留資格の取得、日本での生活及び本学での学修に支障をきたすことがないか、「外国人入試資格審査委員会」にて確認を行う。

本学入学後は、国際部留学生課が定期的に行う在籍確認において、仕送り額や本人のアルバイト収入などから総合的に経費支弁能力を確認する。また、毎月授業の出席状況を確認し、各留学生の在籍管理を行う。

10. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

10―1　教育研究実施組織等の編制の考え方

グリーンテクノロジー学科は教育・研究の質を保証するため、十分な数の教員数を確保するとともに、必要不可欠な専門分野の教員を配置した教員組織を編成する。

大学設置基準が規定する基幹教員数としては、理学系、工学系で学部を 2 以上の学科で組織する 1 学科の教員数は 8 人であるところ、本学科の完成年度の基幹教員数は 11 名である。また、保有している学位の種類では、理学博士 2 人、工学博士 6 人、Ph.D. in Soil Science 1 人、学術博士 1 人、法学修士 1 人となり、理学、工学を中心として十分な教員を配置しているほか、文理融合教育を行うために必要な文系教員も配置することで、本学科の設置の趣旨で示した人材を養成するための教育課程を質、量ともに十分に実現できる人的体制が整っている。

基幹教員の研究分野は、大気科学、海洋光学、土壌学、微生物学、水処理工学、ナノ材料、化工物性、生物化学工学、数理統計学、ソフトウエアなど理工学分野の研究分野を専門とする教員に加えて、国際取引法を専門にする教員から構成される。

10―2　基幹教員の年齢構成

グリーンテクノロジー学科の基幹教員の完成年度における教員構成は、職位別では、教授の平均年齢が 63.4 歳、准教授は 48.7 歳となっている。

なお、定年について、本学では「学校法人創価大学教育職員就業規則」【資料 12】において 65 歳（平成 14 年 3 月末日以前に就任した教員は 70 歳）と定めている。

当該規定により完成年度までに定年を迎える教員 2 名については、本学大学院を担当する教員でもあることから、学校法人創価大学契約教員規程【資料 13】及び創価大学大学院担当教員任用

特例規程規程【資料 14】により、令和 7 年 1 月 20 日の学校法人創価大学常任理事会において承認を得て、完成年度までの就業規則に定める定年を延長して雇用する。完成年度以降については、定年延長した 2 名についての補充を含め、和 12（2030）年度に 2 名、令和 13（2031）年度に 1 名、令和 15（2033）年度に 1 名の採用を計画しており、本学科の教育研究実施における継続性を担保する。

【添付資料】
（資料 12）学校法人創価大学教育職員就業規則（抜粋）
（資料 13）学校法人創価大学契約教員規程（抜粋）
（資料 14）創価大学大学院担当教員任用特例規程規程

10―３　科目担当の上限

本学科の入学定員は 60 名であり、それに対して 11 人の基幹教員を配置することによって、少人数教育の実現など、より質の高い教育研究を実現することを可能とする。卒業研究以外の週あたりの授業時間数は、11 人中 7 人までが 12 時間（6 コマ）以内であり、最高で、14 時間（7 コマ）に納まっている。すべての基幹教員が、学科教育の中核的科目を担当しながらも、きめ細かい教育及び学生指導を実施し、同時に充実した研究水準を維持する見通しである。

また、本学では、専任教員の通学課程（共通科目、専門科目）、通信教育課程（共通科目、専門科目）、大学院担当科目（博士前期課程、博士後期課程）をあわせた年間科目担当の上限を設け、各学部のカリキュラムを作成する際のガイドラインとすることで、過度に教員の負担が生じ、学生への指導に不具合が生じないようにしている。

10―４　教育研究活動等の運営や厚生補導等

教育研究活動等の運営については、学科長、教務委員、学科担当職員で連携して運営にあたり、学科教員全員が参加する学科会議で情報共有と学科運営の意思決定が行われる組織的な連携体制をとる。理工学部内には、学部長、副学部長、各学科長、各学科教務委員を構成員とする学部教務委員会、および自己点検評価・教学検討委員会があり、各学科間の情報共有と教学検討を行う体制が整っている。また、学部 FD 委員会、フレイザー図書館運営委員会、学部キャリア委員会、学部安全管理委員会、学部化学物質管理委員会等、各種の委員会が設置されており、全学科から教員が委員として運営業務にあたり、すべての委員会に事務職員が委員として参加する体制ができている。これらの会議及び各種委員会間の連携を取れるよう、理工学部では学部長、副学部長、学科長、理工学研究科の研究科長、専攻長、理工学部事務室の事務長、庶務課長、教務課長から構成する部科長会が設置されており、学部運営について協議され、教授会で情報共有及び意思決定が行われる。そのほか、教育研究活動等の運営にあたっては、教員と事務部門の理工学部事務室とが協働して授業の運営、研究活動の推進など行う体制を整えている。

厚生補導等については、全学的な取り組みであるアドバイザー制度が本学科でも導入されており、学部事務室職員と連携して、1 年次から教員一人につき 5－6 名の学生の厚生にあたる体制が構築されている。

11．研究の実施についての考え方，体制，取組

11―１　研究の実施についての考え方，実施体制，環境整備

本学では、開学 50 周年を迎えた 2021 年に新たな 10 か年の中長期計画として、「Soka University Grand Design 2021-2030」を策定し、第一の基本方針として「少子高齢化、Society5.0 （超スマート社会）など、本学を取り巻く環境変化に対応し、“価値創造を実践する世界市民”を輩出するための教育・研究システムの整備」を掲げている。本方針の下、専門的な研究を深化させるとともに、学際的な研究によって社会に新たな価値を生み出すことを目的として、「重点研究の推進」と「国際共同研究の展開」に取り組む。具体的には、「重点研究の推進」では、学内外の人的ネットワークを生かし、学際的かつ特色ある重点的研究テーマの創出によって、新たな価値の提供と国際的評価の向上を図り、独創的な研究テーマに従事する教員が、研究活動に注力できる環境を整え、研究業績の増加に取り組む。また、論文の著者として学生が研究業績の一端を担えるように支援する。「国際共同研究の展開」では、これまで推進してきた国際共同研究を多角的に展開し、国際的評価の向上に努め、特に、世界市民教育を含めた本学の建学の精神に賛同する学術者のネットワークを広げ、教員の研究交流を活性化していく等の研究支援に取り組む。

本学科においては、研究は理工学分野の充実した教育において不可欠であると考えているため、施設、支援組織、研究環境、教育環境、経費などの面において必要な環境を整えている。

研究施設については、理工学部の施設として 5 棟がキャンパス内に設置されているが、グリーンテクノロジー学科ではこのうち主に 3 棟（E 棟、F 棟、G 棟）を使用する。本学科の基幹教員には研究室及び実験室が備えられている。また、共同機器室、NMR 室、P3 室も設置されており、大型機器などの共同利用が可能になっている。また、動物舎も利用でき、技術員 2 名が支援する体制になっている。

研究における支援組織については、本学では平成 29（2017）年に「研究推進センター」を設置し、研究活動の推進、教育への昇華、得られた成果の社会還元を支援する取り組みを行っている。こうした取り組みを支えるため、事務部門に研究支援課を設置しており、学外資金申請や論文出版などに関する支援を行う体制が整備されている。実際の研究費執行などにあたっては、「研究に係る規程等の一覧」【資料 15】に示す通り、研究活動を円滑に推進するための規程・ガイドライン、および「研究ハンドブック」を整備するとともに、事務部門に研究管理室を設置し、各事務室研究費事務担当者および教員からの相談、コンプライアンス教育、研究倫理教育、大学の研究費、競争的研究費、学内研究制度全般の運営・推進を担うとともに、学内外に関わらず、研究活動に関する通報・告発、相談窓口も担っている。さらに、地域・産学連携センターでは、大学コンソーシアム加盟校として地域連携活動を行う一方、知的財産権の活用と技術移転や、事業化支援などの産学連携活動を行っている。

理工学部においては、理系分野に関する研究の円滑な実施に備えるため、理工学部内に安全管理委員会、化学物質管理委員会、放射線安全委員会、廃棄物適正処理委員会が、また、全学の委員会として、遺伝子組換え実験・微生物安全委員会、ヒト ES 細胞倫理審査委員会、生命科学倫理審査委員会、研究データ管理検討委員会が設置されている。

教育環境として、各研究室においては、１年次から研究室配属されることから、先端的研究に触れる機会が初年度から存在し、教員から直接学ぶ機会が 4 年間を通じて設けられている。さら

に、本学は大学院理工学研究科も併設されており、基幹教員のうち 7 人が博士後期課程担当者で、2 人が大学院博士前期課程担当者であるため、大学院生と学部生との交流による研究内容の理解への相乗効果が期待される。

研究経費においては、理工学部では、教員の個人研究費及び理工学部特殊研究費が担当学生数や研究実績に応じて傾斜配分を行うこととしており、毎年 4 月に理工学部研究費審査委員会を開催し、当該年度の個人研究費及び理工学部特殊研究費に関する審査及び配分金額の決定を行っている。

また、本学における研究活動のさらなる充実を図るため、以下の学内制度を整備し、研究活動の活発化を図っている。

- 重点研究推進プロジェクト
- 重点研究拠点制度
- 研究開発推進助成金
- 学術国際会議派遣制度
- 個人研究費繰越制度
- 公的研究費立替制度
- 在外研究員制度
- 特別研究員制度
- 創価大学バイアウト制度
- RA（リサーチアシスタント）制度
- （科研費）コンサルティング制度
- （科研費）研究計画調書閲覧制度
- （文部科学省）私立大学等研究設備整備費補助金 学内応募制度
- （日本私立学校・共済事業団）学術研究振興資金 学内応募制度
- 英語論文投稿支援制度

【添付資料】
（資料 15）研究に係る規程等の一覧

11―2　研究活動をサポートする技術職員や URA の配置状況

理工学部には、5 名の技術員が常時勤務しており、機器備品管理、施設管理等のサポートを行っている。さらに、令和 7（2025）年 4 月時点で、認定 URA を取得している 3 名（契約職員含む）を研究支援課、研究管理室、理工学部事務室に配置している。認定 URA 取得者の役割として、研究環境、研究活動に関係する制度の企画、運営を中心的に担っており、各省庁からの制度等に対応した学内制度の提案、運営に大きな貢献をしている。

12. 施設，設備等の整備計画

12―１　校地、運動場の整備計画

本学キャンパスは、ＪＲ八王子駅より北へ約４ｋｍ、緑豊かな多摩丘陵の一角に位置している。これまで本学では、キャンパスの自然環境・ 景観を生かしながら、明るく開放感に溢れた教育研究及び学習環境の整備を行ってきた。また、キャンパスを課外活動等の諸活動を通じた人格形成と人間関係を構築していく場として考え、課外活動や休息や憩いの場として活用できる施設、空間をバランスよく整備している。

主な運動用設備としては、第１グラウンド、ビクトリーグラウンド、総合体育館を備えている。第１グラウンドは、体育実技の授業での使用を始め、課外活動のアメリカンフットボール、ラクロス、ソフトボールなどのグラウンドとしても使用している。グラウンドの周囲には、ランニングコースを備えている。ビクトリ―グラウンドは、全面に人工芝を張り、体育実技の授業での使用を始め、課外活動のサッカー、ラグビー場としても使用している。総合体育館は、総面積 12,872.24㎡、地上６階建ての施設で、アリーナ・ 1,932 ㎡）をはじめ、弓道場、トレーニングルーム、多目的室、会議室、部室、救護室及び約 1,000 名収容の観覧席を備えている。

学生の休息や憩いの場としては、図書館と各校舎に自学自習のためのスペース、ラウンジを備えており、中央教育棟２階には少人数のグループディスカッションや、プレゼンテーションが行えるスペースを整備している。また、学内には約 2,000 席 ニューロワール食堂、ニュープリンス食堂、グランカフェ等）の食堂のほか、中央教育棟地下１階にはコンビニエンスストアに併設した交流ラウンジがある。さらに、自然豊かなキャンパスを満喫できるよう、キャンパス内のいたるところにベンチ等を配備している。

12―２　校舎等施設の整備計画

大学全体の主要な施設としては、講義室 81 室、演習室 101 室、実験実習室（情報処理学習室含む）19 室を備えており、本学科が主に利用する理工学部棟においては、講義室９室、演習室７室、実験実習室（情報処理学習室含む）８室を配置している。専用施設を有する看護学部棟を除いた大学全体及び理工学部棟における学部授業での令和６（2024）年度の教室稼働率は以下の表 11 に示す通りであった。看護学部棟を除く大学全体での教室稼働率は 41.0%、理工学部棟では 32.0%と現時点でも十分に余裕のある教室運用となっている。令和８（2026）年度より、大学全体の入学定員を現在の 1,500 名から 1,215 名に減じ、８学部 10 学科体制を７学部 10 学科体制に再編する。したがって、現在の教室稼働率よりも余裕を持った運用が見込まれ、本学科の教育研究活動に必要な施設等が十分に確保できる。

表 10　令和６（2024）年度の教室稼働率

建物区分	教室区分			教室全体
	講義室	演習室	実験実習室	
大学全体（看護学部棟を除く）	47.6%	38.5%	15.0%	41.0%
理工学部棟	51.4%	13.4%	21.4%	32.0%

※各数値には大学院の授業を含む

また、本学科の教育内容は、既存の共生創造理工学科をグリーンテクノロジー学科と生命理工学科に発展的に改組するものである。そのため、教育研究に必要な施設・設備については、既存学科において使用されてきた理工学部棟の講義室・演習室・実験室・研究室を活用し、必要な機器についても既に各実験室等に配置されているものに加え、今後必要と思われる機器を追加整備することで、実験科目に十分に対応可能となる。

理工学部では、既存の情報システム工学科（入学定員 90 名）、共生創造理工学科（入学定員 90 名）に対し、令和 8（2026）年度より情報システム工学科（入学定員 90 名）、グリーンテクノロジー学科（60 名）、生命理工学科（55 名）の 3 学科体制となり、学部全体の入学定員は 205 名となる予定である。平成 24（2012）年度以前は当時の工学部 3 学科の合計入学定員が 210 名であったため、当時と比較すると改組後の理工学部全体の入学定員は 5 名減となっており、本学科設置後も現在使用している施設・設備を、教育研究活動に十分に有効活用することができる。具体的な配置については、【資料 16】に示す通り、授業形態・履修者数等を踏まえた上で、本学科の定員（入学定員 60 名、収容定員 240 名）を無理なく収容できることを確認している。

【添付資料】
（資料 16）グリーンテクノロジー学科時間割（案）

12―３　図書等の資料及び図書館の整備計画

本学には、中央図書館（以下、中央館）がキャンパス内に整備されており、図書約 88 万冊（和書 69 万 8 千冊・洋書 18 万 7 千冊）を所蔵している。さらに理工学部と看護学部に分館を擁しており、本学科の学生は中央館と合わせて、約 96 万冊（和書 75 万冊・洋書 21 万冊）の閲覧が可能である。

また、中央館と分館を合わせると約 18,000 タイトルを所蔵している。このうち、新学部学科の設置にあたって必要となる自然科学分野を中心とした図書・雑誌については、本学科の設置後も、シラバスに記載の参考書、教員推薦の図書など、本学科の教育研究に必要な専門書の選書、整備を進めていく。電子ジャーナルについては、Elsevier 社の『ScienceDirect』、Springer Nature 社の『Springer LINK』、 Wiley 社の『Wiley Online Library』、American Chemical Society（ACS）社の『American Chemical Society』などを契約しており利用が可能である。

理工学部分館（フレイザー図書館：延床面積 720 ㎡）には、収納可能冊数 7 万冊以上の開架書架、一般閲覧席 75 席、新聞閲覧席 2 席、検索端末席 1 席、視聴覚資料閲覧席 1 席、の合計 78 席の座席数を用意し、1 階閲覧室では学内無線 LAN の利用が可能である。また、図書館システム「CARIN-i」と、統合検索システム「Primo」を導入しており、図書館ホームページを通じて図書や雑誌記事、デジタル資料といった様々な形態の情報を、自館およびオンラインの情報源から見つけ出し、入手するためのシステムを提供している。

中央館では、国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスの運用により、200 万点を超えるデジタル化資料の閲覧・複写が可能で、他大学図書館との協力については、NII との接続で NACSIS ILL に参加し図書館間の相互協力を行っている。

13. 管理運営

13―１　大学教育研究評議会

大学全般にわたる教育及び研究に関する審議機関として大学教育研究評議会を設置し、本学学則および「創価大学大学教育研究評議会規程」【資料 17】に基づき運営している。大学教育研究評議会の構成員は、学長、副学長、学部長、各学部から選出された専任教員１名、教務部長、学生部長、アドミッションズセンター長、国際部長、研究推進センター長、大学事務局長である。

この大学教育研究評議会は、月 1 回定例開催するほか、必要に応じて臨時の会議を開催しており、以下の事項について審議することとしている。

（１）大学教育研究評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

①学生の入学、卒業に関する事項
②学位の授与に関する事項
③教育課程の編成に関する事項
④教員の人事に関する事項

（２）また、大学教育研究評議会は、前項に規定するもののほか、次に掲げる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

①教務に関する事項
②学生の厚生補導に関する事項
③学則、規則等の制定、改廃に関する事項
④各種委員会の設置並びに廃止に関する事項
⑤学長の諮問事項
⑥その他全学的な研究及び教育に関する事項

【添付資料】
（資料 17）創価大学大学教育研究評議会規程

13―２　学部教授会

学部の教学面における適切な管理運営を行うことを目的として、学則に基づき学部教授会を置く。この学部教授会は、「創価大学学則」及び「創価大学学部教授会規程」の規定に基づき、次のとおり開催される。

学部教授会は、学部長を議長とし、学部に所属する専任の教授、准教授、講師、助教の全員をもって構成する。

学部教授会は、原則として月１回開催し、以下の事項について審議し、また学長の求めに応じて意見を述べる。

(1) 学生の入学、卒業
(2) 学位の授与

(3) 教育課程の編成
(4) 教員の教育研究業績の審査
(5) 教務に関する事項
(6) 学生の転学部、転学科、転学、進学に関する事項
(7) 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
(8) 学部配当予算に関する事項
(9) 名誉教授及び客員教授の推せんに関する事項
(10) 各種委員会委員の選考に関する事項
(11) 学長又は学部長から諮問された事項
(12) その他当該学部の研究及び教育に関する事項教科課程の編成、変更及び実施に関する事項

13―3　学部教務委員会

本学では、各学部の教務に関する事項を審議するため、学部教務委員会を設置し、創価大学学部教務委員会通則【資料 18】基づき運営している。学部教務委員会は、学部長、副学部長、教授会で選出された若干名の教員で構成される。さらに、教育課程の編成に関する事項を審議する場合は、大学設置基準第 10 条の 2 に定める実務家教員の中から教授会で選出された若干名も出席するものとする。

教務委員会は、学部に関する次の事項を審議する。
（1）教育課程の編成に関する事項
（2）授業の計画及び実施に関する事項
（3）試験及び成績に関する事項
（4）学長の諮問事項
（5）大学教育研究評議会、学部教授会及び教務委員会の付託事項
（6）その他教務に関する事項

【添付資料】
（資料 18）創価大学学部教務委員会通則

14. 自己点検・評価

本学では、平成 5（1993）年 4 月に制定した「創価大学自己点検・評価実施規程」【資料 19】に基づき、「全学自己点検・評価委員会」を設置し、その下に教職員で構成された学部・研究科等による各分科会のもと、定期的な自己点検・評価を実施している。

平成 12 (2000) 年度に大学基準協会正会員となるための加盟判定審査を受けて以来、自己点検・評価に精力的に取り組み、平成 16（2004）年度からはその結果をホームページ上に掲載し、社会に公表している。なお、大学基準協会による認証評価は、平成 20（2008）年に「適合」の認定を受け、以降、平成 27 (2015) 年および令和 3（2021）年と計 3 回の認証評価においていずれも「適合」の認定結果を受けた。

この認証評価を受審していく過程において、内部質保証システムの確立に向けて、「創価大学内部質保証ポリシー」【資料 20】を策定してその方針を明確化した。また、「創価大学内部質保証推進体制及び手続きに関する規程」【資料 21】では、本学の内部質保証をつかさどる「創価大学内部質保証推進委員会」を「全学自己点検・評価委員会」の上位組織として設置し、3つの方針（卒業認定・学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び学生の受け入れ方針）を踏まえた適切性にかかる点検・評価体制を確立させ、有効に運用させることを定めた。

認証評価結果の活用としては、直近の令和 3（2021）年の認証評価結果において、「理念・目的」、「教育課程・学習成果」、「教員・教員組織」、「学生支援」、「教育研究等環境」、「社会連携・社会貢献」の 6 つの基準で「長所」が付記される高い評価を受けた一方で、「教育課程・学習成果」ならびに「学生の受け入れ」の 2 つの基準で「改善課題」が挙げられた。これらの改善課題については、上述した「創価大学内部質保証推進委員会」にて全学的な対応方針を定め、その対応状況等について毎年確認を行っている。

また、本学は開学以来「学生第一」を基本理念として掲げており、開学 4 年目にあたる昭和 49（1974）年に理事会、教職員、学生が大学の運営について協議する「全学協議会」【資料 22】を設置し、学費改定案や学生生活に関わる事項等を議案として諮るなど学生が大学の運営に参画している。自己点検・評価活動においても「全学自己点検・評価委員会」には学生の代表者が参加し、学生目線による内部質保証の改善提案などがなされている。

さらに、自己点検・評価活動の客観性、公平性を高める目的で、「外部評価委員会」を設置し、高等教育に精通する学外者による評価を受けるシステムを導入した。この「外部評価委員会」は令和 2（2020）年度より毎年、全学的な取り組みを対象として実施しており、評価委員を 2 年ごとに改選しながら第 3 期目に入っている。

本学はこのように教・職・学ならびに外部有識者による多角的な自己点検・評価活動を推進し、不断の改善を進め、情報発信を行いながら、本学の質の向上と社会的責任を果たすことに取り組んでいる。

【添付資料】
（資料 19）創価大学自己点検・評価実施規程
（資料 20）創価大学内部質保証ポリシー
（資料 21）創価大学内部質保証推進体制及び手続きに関する規程
（資料 22）創価大学全学協議会規則

15. 情報の公開

本学では、大学ホームページにおいて、ステークホルダーへの積極的な情報公表に取り組んでいる。平成 23（2011）年 4 月 1 日施行の「学校教育法施行規則等の一部改正（教育情報の公表の義務化）」を踏まえ、「学校法人創価大学情報公開規程」【資料 23】を制定し、本学ホームページに本学の教育研究活動や社会貢献活動、大学運営に関する情報を集約した「教育情報の公表」のページを設けた。また、法人に関する情報として、財務情報や中長期計画、事業計画書、事業報告書、私立大学ガバナンス・コード遵守状況報告書などを公表している。

その他、紙媒体では SOKA University News（通称 SUN）を年 4 回発行し、保護者・卒業生・支援者・関連企業等の約 5 万名に送付し、本学の教育研究活動等をお知らせしている。

情報の公表に関する具体的な内容は以下のとおりである。

【添付資料】

（資料 23）学校法人創価大学情報公開規程

（1）大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

①建学の精神

https://www.soka.ac.jp/about/intro/#spirit

②教育研究上の目的

https://www.soka.ac.jp/department/policy/

③ディプロマ・ポリシー

https://www.soka.ac.jp/department/policy/#diploma

④カリキュラム・ポリシー

https://www.soka.ac.jp/department/policy/#curriculum

⑤アドミッション・ポリシー

https://www.soka.ac.jp/department/policy/#admission

（2）教育研究上の基本組織に関すること

①学校法人創価大学役員

https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/boardmember/

②教育研究組織

③事務組織

https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/organigram/

（3）教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

①教員数

https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/public/#student

②教員データベース

https://fpes.soka.ac.jp/

（４）入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

①学生受け入れ方針

②入試情報

https://www.soka.ac.jp/admissions/

③入学者数および入学者数推移

④収容定員および在学生数

⑤卒業者数および修了者数

⑥進学者数及び就職者数

https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/public/#student

⑦就職先一覧（過去３年間実績）

https://www.soka.ac.jp/career/result/#employed_companies

（５）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

①シラバス

https://www.soka.ac.jp/department/syllabus/

②履修

https://www.soka.ac.jp/campuslife/learning/course/

（６）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

①学習の成果に係る評価

https://www.soka.ac.jp/seed/fd/#clas-quest

②卒業にあたっての基準

https://www.soka.ac.jp/campuslife/learning/data/

③修了の認定にあたっての基準

・文学研究科英文学専攻

https://www.soka.ac.jp/grad-literature/english/#paper

・文学研究科社会学専攻

https://www.soka.ac.jp/grad-literature/sociology/#paper

・文学研究科人文学専攻

https://www.soka.ac.jp/grad-literature/humane/#paper

・文学研究科国際言語教育専攻

https://www.soka.ac.jp/grad-literature/inter/#paper

・法学研究科

https://www.soka.ac.jp/grad-legal/about/#paper

・教育学研究科

https://www.soka.ac.jp/grad-education/about/#paper

・経済学研究科

https://www.soka.ac.jp/grad-economics/about/#paper

・国際平和学研究科
https://www.soka.ac.jp/grad-international-peace/about/#paper
・理工学研究科
https://www.soka.ac.jp/grad-eng/about/#paper
・法科大学院
https://soka-prod-cms.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/1617/1280/1212/20210408_094539.pdf
・教職大学院
https://soka-prod-cms.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/3617/1264/1875/20240408_105004.pdf

（７）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
①キャンパスマップ
②バリアフリーマップ
③アクセス
④付属センター・施設・附置研究所等
⑤学生寮
https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/public/#facility

（８）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
①学費
https://www.soka.ac.jp/campuslife/fees/

（９）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
①学生相談室
https://www.soka.ac.jp/campuslife/support/counseling/
②障害学生支援室
https://www.soka.ac.jp/campuslife/support/disability/
③保健センター
https://www.soka.ac.jp/campuslife/healthcenter/
④クラブ活動など
https://www.soka.ac.jp/campuslife/activity/
⑤進路・就職に関する情報
https://www.soka.ac.jp/career/

（10）専門職大学院において、専門性が求められる職業に就いている者、当該職業に関連する事業を行う者その他の関係者との協力の状況
①創価大学法科大学院教育課程連携協議会
https://www.soka.ac.jp/grad-law/about/#council

②創価大学教職大学院教育課程連携協議会
https://www.soka.ac.jp/grad-edu/about/#council

（11）大学院学位論文に係る評価に当たっての基準

①文学研究科英文学専攻
https://www.soka.ac.jp/grad-literature/english/#paper
②文学研究科社会学専攻
https://www.soka.ac.jp/grad-literature/sociology/#paper
③文学研究科人文学専攻
https://www.soka.ac.jp/grad-literature/humane/#paper
④文学研究科国際言語教育専攻
https://www.soka.ac.jp/grad-literature/inter/#paper
⑤法学研究科
https://www.soka.ac.jp/grad-legal/about/#paper
⑥教育学研究科
https://www.soka.ac.jp/grad-education/about/#paper
⑦経済学研究科
https://www.soka.ac.jp/grad-economics/about/#paper
⑧国際平和学研究科
https://www.soka.ac.jp/grad-international-peace/about/#paper
⑨理工学研究科
https://www.soka.ac.jp/grad-eng/about/#paper

（12）その他

①認証評価結果
https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/accreditation/
②自己点検・評価
https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/self-assess/
③外部評価委員会報告書
https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/ext-assess/
④学生生活アンケート実施結果
https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/studentsurvey/
⑤学則・諸規程等
https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/provision/
⑥学部・学科等の設置
https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/department/
⑦学校法人創価大学中長期計画
https://www.soka.ac.jp/about/managementplan/

⑧財務情報
https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/finance/
⑨ガバナンス・コード
https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/governancecode/

16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

16―1　授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修の計画

（1）ファカルティ・ディベロップメント（FD）およびスタッフ・ディベロップメント（SD）推進体制

創価大学は、教員の教育研究活動の向上を目的として、平成 20（2008）年 4 月に「創価大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「FD 委員会」という）」を設置した。

その後、平成 29（2017）年に SD が義務化されたことを受け、平成 31（2019）年 4 月からは「創価大学ファカルティ及びスタッフ・ディベロップメント委員会（以下「FD・SD 委員会」という）」と改称して、大学の授業内容や方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）と、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るために必要な知識・技能ならびに能力・資質を向上させるための研修及び研究（スタッフ・ディベロップメント）の機会を提供している。これにより本学教員の教育研究活動の充実、向上を図り、学修者本位の教育を推進している。

それに先立って、平成 12（2000）年には、すでに創価大学の FD（Faculty Development）推進機関として、「教育・学習活動支援センター（CETL: Center for Excellence in Teaching and Learning、以下「CETL」という）を開設した。CETL の主な目的と活動は、「教員に対する授業改善の支援」と「学生に対する学習支援」であり、CETL の取組は、平成 15（2003）年度の「特色ある大学教育支援プログラム」以降、複数の文科省補助金事業に採択されている。

その後、平成 25（2013）年 9 月、学生の学習活動支援を中心的に担う部署として、学士課程教育機構内に、CETL から分離する形で、総合学習支援センター（通称 SPACe）を新設したことで、CETL は教員に向けた教育活動支援へのより一層の向上に取り組み、SPACe は学生の学習活動の発展に向けてサービスを提供するという、2 つのセンターが連携することで教育と学習の往還による学生中心の大学教育を促進している。

このように創価大学では FD・SD 委員会と CETL が連携し、FD（Faculty Development）推進機関として、教員一人ひとりの FD 及び SD の向上を支援している。

（2）FD・SD 活動の目標

FD 委員会が設立された平成 20（2008）年以降、FD・SD 委員会では、定期的に人材育成の目標・方針等を定めて、組織的かつ体系的な FD・SD を推進してきた。以下にこれまでの取組みを示す。

- 平成 20（2008）～平成 22（2010）年度　授業外学習時間向上 3 ヵ年計画
- 平成 23（2011）～平成 24（2012）年度　シラバスのより一層の活用・充実による教育の質保証

・ 平成 25（2013）～平成 26（2014）年度　シラバスの到達目標の共有化による授業改善
・ 平成 27（2015）～平成 28（2016）年度　シラバスの「到達目標」測定を意識した授業の展開
・ 平成 29（2017）～令和元（2019）年度　個人レベルの授業改善と同僚性に基づく教育改善の推進
・ 令和 2（2020）～令和 4（2022）年度　アセスメントを意識した各学部独自の FD・SD と階層別 FD・SD の推進
・ 令和 5（2023）～令和 7（2025）年度　人間教育のリフレクションシステムの構築を通じた相互評価文化の定着

平成 20（2008）年度からは、単位の実質化のために、授業外学習時間の向上を目標に掲げ、継続的に授業外学習時間の増加に努めてきた。

平成 23（2011）～平成 28（2016）年度にはシラバスに着目し、シラバスの活用・充実、到達目標の共有化に取り組んできた。平成 26（2014）年度には、文科省の補助金事業「大学教育再生加速プログラム（AP 事業）」に採択され、平成 27（2015）～平成 31（2019）年度は、授業の到達目標を測る授業アンケート項目を利用し、到達度、理解度、授業外学習時間の 3 指標がすべて一定水準を超える科目数の増加に取り組んだ。加えて、授業改善を進める上で同僚間の交流が重要であることから、個人レベルの授業改善と同僚性に基づく教育改善の推進を行ってきた。

AP 事業の補助期間が終了した令和 2（2020）年度からは、より各学部の創意工夫による FD・SD 活動に移行することを目指し、全学を対象とした FD・SD から、新任教員向け、若手教員向け、役職者向け、学部長・副学長向け等の階層を意識した FD・SD へと転換し、学部の自主性や個々の教員の自主性に期待した FD・SD への移行を推進した。

現在は、令和 5（2023）年度から開始した 3 カ年計画「人間教育のリフレクションシステムの構築を通じた相互評価文化の定着」の 2 年目となり、教職学それぞれが有機的に相互評価（同僚を交えたリフレクション）を行う機会の提供に努めている。

（3）FD・SD 委員会の具体的活動

FD 委員会が取り組む事項は、以下の事項となっている。

① 授業の内容及び方法の改善を図る方策に関する事項
② 大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を行う上で必要となる様々な知識等の習得、向上を図る方策に関する事項
③ 研修会及び講習会の開催に関する事項
④ 学生による授業評価の実施、結果の分析及び利用に関する事項
⑤ 教育・学習に係る各種ポートフォリオに関する事項
⑥ 大学改革推進等補助金による事業の継続推進に関する事項
⑦ その他、FD・SD 委員会が必要と認めた事項

具体的な活動として、FD・SD 委員会は CETL 及び各学部教授会と連携し、年 1 回の「教育フォーラム」を開催することに加え、年間 4～5 回程度の「FD・SD セミナー」を実施している。学

外の FD・SD 研修を含め、個々の教員がこうした FD・SD 活動に年間３回以上参加することを義務付けており、FD・SD 委員会で学部ごとの参加状況を掌握している。また、FD・SD 活動推進のための予算を学部ごとに配分しており、当年度の予算使途については、前年度中に計画書の提出を求めている。計画策定にあたっては効果的な執行となるよう、CETL が相談を受ける体制を整えており、執行状況についても定期的にチェックしている。

次に、本学では、令和３（2021）年度より教員のティーチング・ポートフォリオ（以下「TP」という）を導入している。TP は、各教員が教育に対する理念や責任、それを実現するための手法とその成果などを記録し、メンター教員との振り返りを通じて、自身の教育の改善に活かすためのツールとして活用でき、教員への負担を低減するために、本学独自の簡易版 TP としているが、TP の基本５要素である１．教育への責任、２．教師としての理念、３．教育理念を具現化する方法、４．教育の成果、５．今後の目標については網羅している。効果的な TP 推進のため、定期的なセミナー、研修会を通して、メンター教員の養成についても取り組んでいる。

さらに、文科省が定めている教学マネジメント指針において、「『卒業認定・学位授与の方針』に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義した上で、対象者の役職や経験に応じた適切かつ最適な FD・SD を組織的かつ体系的に実施していく必要がある。」と示されていることを踏まえ、これまでの３カ年計画に基づいた FD･SD 推進に加え、令和５（2023）年度には新任教員研修大綱を策定し、本学の教員に求められる能力に応じた研修メニューを提供・整備し、その充実を図ってきた。また、今年度には、創価大学の FD・SD 体系表を策定し、教員の能力開発における共通認識を共有しながら、全学的な FD・SD を推進している。

FD・SD 委員会では、同委員会の独自のホームページを立ち上げ、これらの活動状況等を広く発信している。

加えて、大学全体レベルの FD の取組みとしては、全学自己点検・評価委員会主導のもと、大学首脳や学部長の参加する外部評価の機会、学生参加型の教育改善検討の場を設けるなど、組織的に FD 活動を展開している。

16―２　大学職員に必要な知識・技能の習得及び向上の取り組み

本学では、教職員の教育研究活動の充実および向上を図り、学修者本位の教育の推進を目的に、「創価大学ファカルティ及びスタッフ・ディベロップメント委員会規程」【資料 24】を定めている。本学の授業内容や方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）と、本学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るために必要な知識・技能ならびに能力・資質を向上させるための研修及び研究（スタッフ・ディベロップメント）の機会を提供している。

事務職員については、キャリア形成に向けて、求められる資質や必要な知識と技能を計画的・段階的に修得するための研修制度を用意している。研修の目的としては、「学校法人創価大学職員研修規程」において、「職員研修は、職務に必要な知識、技能及び教養を習得させ、職員の職務遂行能力の啓発に努めるとともに、職員の資質の向上を図ることを目的とする」、「職員研修は、長期的な人材育成の一環として、継続的、計画的に行うものとし、職員の自主的な研修も奨励するものとする」と規定されている。

また、「研修を通して目指すべき職員像」として、「創価大学の教育研究・管理運営全体への関心

と学習意欲を持った職員」、「担当業務に精通した職員」、「大学界や大学を取り巻く社会の動向を常に認識し、それらに対する充分な知識を有する職員」、「常に問題意識を持ち、問題解決や改善改革に向け、主体的かつ具体的に施策を提示することができる職員」、「上記を基に、ビジョン構築と政策立案能力のある職員」と掲げており、これに基づいて学校法人創価大学事務組織規程に規定する「職員研修委員会」を中心に計画策定やプログラムの実施、運営に取り組んでいる。

研修体系は３つに分類され、１点目の「階層別研修」は勤務年数、職位等の階層に応じた求められる能力を規定し、職員研修委員会が立案した研修計画に基づき、定められた職員を対象として実施している。例えば、入職１年目の場合は学内での新入職員基礎研修や高等教育機関向けのオンライン学習機関が提供する講座の受講などを必須としている。

２点目の「非階層別研修」は勤務年数、職位等の階層に拘らない研修であり、職員研修委員会が立案した研修計画に基づき、定められた職員を対象として実施している。具体的には、本学が加盟する日本私立大学連盟等が主催する研修会や、他大学等が実施する大学マネジメント人材養成のための履修証明プログラム等の受講を推奨している。

３点目は「その他の研修」として、階層別研修、非階層別研修のいずれにも属さない内容か、あるいは包括的な研修や制度であり、委員会が立案した研修計画に基づき、定められた職員を対象として実施している。法人の事業計画説明会への参加や、情報セキュリティ研修、ハラスメント研修等について全員を対象に実施している。

その他、研修制度とは別に、職員が自己の能力や資質向上を目的とした大学院への修学や、業務に関係する公的資格及びそれに準ずる資格等を取得支援する制度も整備している。

【添付資料】

（資料 24）創価大学ファカルティ及びスタッフ・ディベロップメント委員会規程

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学科では、文理融合型教育を行うことを目的として理工学分野の知識や技術の習得とともに、グリーンテクノロジーの社会実装化に向けたビジネスや国際交流についての知識の習得を目標とする。そのために、理工学系の科目に加えて、グリーンテクノロジーコア科目とグリーンテクノロジー応用科目に「国際ビジネス入門」、「国際ビジネス法」や「国際技術協力論」などの社会実装に必要な知識とスキルを身につけることができる科目を設置することで、本学科の特色あるカリキュラムを編成し、実施している。

17―１　教育課程内の取り組み

（１）全学共通科目

全学共通科目では、職業や自身のキャリアについて考え、実践する機会を提供するために、「キャリア教育系科目群」を設置して、学生の社会的・職業的自立を図るために必要な能力を養成する科目を合計で 29 科目開設している。この科目群では、日本人学生のみならず、外国人学生に対してのキャリア教育科目も設定している。また、企業就職だけでなく、起業や公務員、大学院進学

など、多様な進路へのサポート体制を充実させている。

グリーンテクノロジー学科では、このキャリア教育系科目群から2単位以上を修得することを卒業要件としている。特に1年次秋セメスター開講の「キャリアデザイン基礎」や3年次以上で開講される「キャリアビジョン演習B～D」については、複数のクラスを開講し多くの学生が履修しやすいように設定している。また、海外で活躍するためのキャリア教育科目も多数用意している。

（2）専門科目

地球の現状を学び、様々な体験を通して自らの学習課題を探すために、「グリーンテクノロジー概論」「グリーンテクノロジー研究体験 A・B」を必修科目として開講し、自分が何を学び究めるかの基盤作りを行う。2年次後期に開講される「グリーンテクノロジーとキャリア」では、自治体や企業からのゲスト講師によるグリーンテクノロジーに関連する事業コンセプト、事業実装、具体的な実施内容などの講義を通じて、キャリア設計についての理解を深める。

3年次では「R&D キャリアセミナー」を開講し、本学卒業生の講師によるキャリア設計と企業就職の実経験に基づく講義を通じて、学部教育で得た知識や技術と自治体や企業などの社会活動とのかかわり方について学習する。

また、2年次から3年次にかけて配当されている実験や演習科目（地球環境理工学科目、資源循環理工学科目、環境情報処理科科目、グリーンテクノロジー社会実装科目）など多岐にわたる科目を通して、知識と技術を深化させる。3・4年次には、研究室に配属し、企業や海外大学との共同研究（「海外インターンシップ」や「企業インターンシップ」）などを通じて、卒業後を見据えた実践を重ねる。

17―2　教育課程外の取り組み

各学部とキャリアセンターが連携し、毎年1年次終了時点と3年次に就業力を測定する「SOKA Generic Skill テスト」を実施し、リテラシー及びコンピテンシーの測定を行い、2年次には1年次に測定した結果分析について説明を行っている。

そのほか、以下に示すようにさまざまな取組を教育課程外で行う。

（1）キャリアセンターの設置と各種機会の提供

本学は、キャリア教育と就職活動支援を推進する組織として「キャリアセンター」を設置している。センター内に設置しているキャリアデザインステーションでは仕事や資格に関する書籍、新聞・ビジネス誌・専門誌などを設置し、いつでも自由に閲覧することができるほか、専門の相談員（キャリアアドバイザー）による学生一人ひとりの状況に合わせた個別の進路サポート制度（進路相談室/進路相談コーナー）をはじめ、本学卒業生や4年生の就職内定者による相談会などを日常的に開催し、学生が進路について考える場を提供している。また、仕事・資格に関する書籍、新聞・ビジネス誌・専門誌の閲覧スペースを設けた「キャリアデザインステーション」、そして、企業より講師を招いた講演会や説明会、就職対策講座などを実施する「キャリアセミナールーム」、50万社にわたる企業情報（東京商工リサーチ）を検索できる「PC コーナー」などの学内施設を備えている。

進路・就職等に関連するガイダンス・イベント開催についても、キャリアセンターと学部で情報共有しながら以下の通り実施する。

①「1～2 年次対象」

Design your dream（1・2 年生)、グローバルリーダーカレッジ（1・2 年)、グローバルキャリアワークショップ（2 年生)、Bridge to the Future（2 年生・様々な業界の仕事体験)、Shine（1・2 年生・ビジネスコンテスト)、キャリアガイダンス（1・2 年生）

②「3～4 年生対象」

ゼミ別就活懇談会（3 年生)、留学生対象・進路懇談会（3 年生)、就職インターンシップガイダンス（3 年生)、障がいのある学生のための進路・就職ガイダンス（3 年生)、卒業生懇談会（3 年生)、創大就活合宿（3 年生)、地方 U ターン就職支援制度（4 年生)、RSS 業界別懇談会（3 年生)、グローバル企業懇談会（3 年生）

③「全学年対象」

資格試験対策講座（オンライン）簿記、秘書検定、MOS、宅建士など 25 資格、公務員講座、アントレプレナーシップ養成基礎講座（全学年)、メディア就職合宿（全学年）

（2）行政教育センター

国家公務員（総合職・専門職)、外務省（専門職)、地方公務員などの公務員を目指す学生をサポートしている。専用の施設（自習室、ゼミ室、資料室）を設け、教員や本学出身の現職公務員が講師となり、講座や少人数のゼミ、答案演習など、きめ細かい指導を実施している。

（3）会計税務教育センター

公認会計士、税理士を目指す学生のために、学内には専用施設（自習室、ゼミ室、資料室）を設けています。また、教員や本学出身の公認会計士・税理士のほか、合格した現役の学生がサポートし、講座や少人数のゼミ、答案演習など、きめ細かい指導を実施している。

17―3　適切な体制の整備について

本学では、前節で述べた通り学生の就職支援に係る各種センターを設置し、学生の就職支援事業、キャリア教育、インターンシップ支援、資格取得支援、学内外の関係機関とのキャリア連携等に関する業務を行っている。

また、「創価大学キャリア委員会規程」【資料 25】に基づき、各学部から選出された教員のキャリア委員からなるキャリア委員会を年 4 回程度開催し、学生のキャリアに係る授業、ガイダンス、イベントなどについて審議・情報共有をおこなっている。また、専任事務職員を中心に構成されるキャリアセンターが教育課程外での指導の中核となっている。

その他、就職が決定した 4 年生以上の学生で希望者を毎年募り、キャリアセンターが選抜した、キャリアサポートスタッフ（CSS)、リクルートサポートスタッフ（RSS）がピアサポートとして、3 年生以下の学年の進路相談などをボランティアで行っている。また、全学共通科目のキャリア系科目の一部では、これらの学生スタッフが授業サポートも担っており、教職学一体となって、社会的・職業的自立に関する指導等に力を入れている。

【添付資料】
（資料 25）創価大学キャリア委員会規程

設置の趣旨等を記載した書類
― 資料目次 ―

資料１　グリーンテクノロジー学科　カリキュラム・マップ
資料２　グリーンテクノロジー学科　カリキュラム・ツリー
資料３　理工学部アセスメントプラン
資料４　グリーンテクノロジー学科　カリキュラム系統図
資料５　グリーンテクノロジー学科における履修モデル
資料６　創価大学既修得単位の認定に関する細則
資料７　創価大学検定試験等による単位の認定に関する細則
資料８　創価大学外国留学にともなう履修及び単位認定に関する細則
資料９　創価大学多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する細則
資料 10　令和６（2024）年度企業実習一覧
資料 11　令和６（2024）年度海外短期研修一覧
資料 12　学校法人創価大学教育職員就業規則（抜粋）
資料 13　学校法人創価大学契約教員規程（抜粋）
資料 14　創価大学大学院担当教員任用特例規程規程
資料 15　研究に係る規程等の一覧
資料 16　グリーンテクノロジー学科 時間割（案）
資料 17　創価大学大学教育研究評議会規程
資料 18　創価大学学部教務委員会通則
資料 19　創価大学自己点検・評価実施規程
資料 20　創価大学内部質保証ポリシー
資料 21　創価大学内部質保証推進体制及び手続きに関する規程
資料 22　創価大学全学協議会規則
資料 23　学校法人創価大学情報公開規程
資料 24　創価大学ファカルティ及びスタッフ・ディベロップメント委員会規程
資料 25　創価大学キャリア委員会規程

資料１

■理工学部 グリーンテクノロジー学科 カリキュラム・マップ

科目区分		科目ナンバリング	科 目 名	主要授業科目	単位	履修年次	履修学期	グリーンテクノロジー学科 ディプロマ・ポリシー				
								理工DP1,2	理工DP2,4	理工DP3,4	理工DP4	理工DP5
								DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
								基礎から応用までの知識と技術の習得	技術の社会還元に関する知識と倫理観や社会的責任の理解	表現力、国際的な視野とコミュニケーション能力	多様性の理解、協働力とリーダーシップの発揮	課題解決力と生涯学び続ける力
グリーンテクノロジーコア科目	必修科目	GRNT100	グリーンテクノロジー概論	○	1	1～	春1	◎	○			
		GRNT101	基礎グリーンテクノロジー実習	○	1	1～	春2	◎	○	◎	○	
		GRNT102	地球科学概論	○	2	1～	秋	◎				
		GRNT103	グリーンテクノロジー研究体験A	○	1	1～	秋1	○	◎		◎	○
		GRNT104	グリーンテクノロジー研究体験B	○	1	1～	秋2	○	◎		◎	○
		GRNT200	グリーンテクノロジー研究トピックス	○	1	2～	春1	○	◎			◎
		SCEN220	Pythonプログラミング演習		2	2～	春	◎		○		○
		SCEN221	データサイエンス演習		2	2～	秋	◎		○		○
		GRNT300	演習Ⅰ	○	2	3･4	春	◎	◎	◎	◎	◎
		GRNT301	演習Ⅱ	○	2	3･4	秋	◎	◎	◎	◎	◎
		GRNT400	卒業演習Ⅰ	○	2	4	春	◎	◎	◎	◎	◎
		GRNT401	卒業演習Ⅱ	○	2	4	秋	◎	◎	◎	◎	◎
	選択科目	GRNT210	グリーンテクノロジー研究体験C	○	1	2～	春1	○	◎		◎	○
		GRNT211	グリーンテクノロジー研究体験D	○	1	2～	春2	○	◎		◎	○
		GRNT212	グリーンテクノロジー研究体験E	○	1	2～	夏休	○	◎		◎	○
		GRNT213	グリーンテクノロジーとキャリア		2	2～	秋	○	◎	○		○
		SCEN120	初等数学		2	1～	春	◎				
		SCEN121	基礎化学		2	1～	春	◎				
		GRNT110	Foundations of Chemistry		2	1～	春	◎		○		
		SCEN122	基礎生物学		2	1～	春	◎				
		GRNT111	Foundations of Biology		2	1～	春	◎		○		
		SCEN123	化学実験		2	1～	秋	◎	○	◎	○	
		ILRC120	Foundations of Data Science		4	1～	秋	◎		○		
		SCEN110	プロジェクト・スタディーズ		2	1～	秋		○	◎	◎	◎
		GRNT110	国際ビジネス入門		2	1～	秋	○	◎	○		
		SCEN124	情報基礎論	○	2	2～	春	◎	○			○
		SCEN213	Topics in Science and Engineering		2	2～	秋	○	○	◎		
		GRNT215	熱力学		2	2～	秋	◎				
		SCEN303	Academic English for Science and Engineering		2	3･4	春		○	◎	○	
		GRNT310	マテリアルサイエンス		2	3･4	秋	◎				
		LIFE353	機器分析学		2	3･4	秋	◎				
		GRNT311	粉体工学概論		2	3･4	秋	◎				
		GRNT410	卒業研究Ⅰ	○	5	4	春	◎	◎	◎	◎	◎
		GRNT411	卒業研究Ⅱ	○	5	4	秋	◎	◎	◎	◎	◎
グリーンテクノロジー応用科目	地球環境理工学科目群	GRNT220	気候変動科学論	○	2	2～	春	◎	○			
		GRNT221	生態学		2	2～	春	◎				
		GRNT222	環境管理システム実験		1	2～	春2	◎			○	◎
		GRNT223	植物生理学概論		2	2～	秋	◎				
		GRNT224	地球生態系モニタリング		2	2～	秋	◎				
		GRNT320	地球観測技術	○	2	3･4	春	◎	○			
		GRNT321	地球化学		2	3･4	春	◎	○			
		GRNT322	土壌科学	○	2	3･4	春	◎	○			
		GRNT323	地球科学実験	○	2	3･4	秋	○	○	○	○	◎
		GRNT324	海洋観測実習		2	3･4	秋	○	○	○	◎	○
		GRNT325	環境分析化学実験	○	1	3･4	秋1	○	○	○	○	◎
	資源循環理工学科目群	GRNT230	環境微生物学	○	2	2～	春	◎				
		GRNT231	グリーンケミストリー入門	○	2	2～	春	◎	○			
		GRNT232	基礎微生物学実験		1	2～	秋1	◎	○	○	◎	○
		GRNT233	環境微生物学実験		1	2～	秋2	○	◎	○	◎	○
		GRNT331	生態環境工学		2	3･4	春	◎	○			
		GRNT332	水処理工学実験	○	1	3･4	春1	○	◎	○	○	◎
		GRNT333	プランクトン工学	○	1	3･4	春1	◎	○			
		GRNT334	プランクトン工学実験		1	3･4	春2	○	◎	○	○	◎
		GRNT335	廃棄物処理工学	○	2	3･4	秋	◎	○			○
		GRNT336	生物反応工学		2	3･4	秋	◎	○			
		GRNT337	生物反応工学実験		1	3･4	秋2	○	◎	○	○	◎
	環境情報処理科目群	SCEN222	基礎統計学		2	2～	春	◎		○		○
		ILEB303	No-Code Predictive Analytics with AI		4	2～	春	◎	○	○		
		GRNT240	環境情報システム論	○	2	2～	秋	◎	○			
		ILQQ205	Qualitative Research Method		4	2～	秋	◎	○	○		
		SCEN320	数理統計学Ⅰ	○	2	3･4	春	◎	○			○
		GRNT340	ライフサイクルアセスメント		1	3･4	春1	○	◎		○	
		GRNT341	ライフサイクルアセスメント演習		1	3･4	春2	○	○	◎	○	◎
		GRNT342	データ分析演習		2	3･4	春	○	○	◎	○	◎
		GRNT343	機械学習(AI)演習		2	3･4	秋	○	○	◎	○	◎
		SCEN321	数理統計学Ⅱ	○	2	3･4	秋	◎	○			○
		SCEN322	多変量解析		2	3･4	秋	◎	○			○
グリーンテクノロジー社会実装科目群	環境ビジネス分野	GRNT250	公共政策（地域創生ビジネス）		2	2～	春	○	◎		○	
		ILEB401	Development Economics		4	2～	春	◎	○	○		
		ILEB403	AI-augmented Prescriptive Operations Analytics		4	2～	秋	◎	○	○		
		GRNT251	ビジネスイノベーション概論	○	2	2～	秋	○	◎	○		
		GRNT350	国際ビジネス法		2	3･4	春	○	◎	○		○
		INFO457	知的財産法概論		2	3･4	春	○	◎			
		ECBU310	環境マネジメント		2	3･4	春	○	◎			○
		SCEN323	R&D キャリアセミナー		1	3･4	春		○	○	○	◎
		GRNT351	ビジネスプランニング演習	○	2	3･4	春		○	◎	○	◎
		GRNT352	グリーンテクノロジーインターンシップ		1	3･4	春秋	○	○	○	◎	○
		GRNT353	海外インターンシップ		2	3･4	春秋	○	○	○	◎	○
	国際技術協力分野	SCEN111	国際情報技術交流史		2	1～	秋	○	◎	○		
		SCEN212	国際技術協力論		2	2～	春	○	○	○	◎	○
		SCEN215	国際情報英書講読		2	2～	春	○		◎	○	
		ILIF201	International Fieldwork Ⅰ		2	2～	春		○	◎	◎	◎
		GRNT260	グリーンテクノロジー海外研修A		4	2～	春休		○	◎	◎	◎
		SCEN211	国際技術協力演習	○	2	2～	秋		○	◎	◎	◎
		ILIF202	International Fieldwork Ⅱ		2	2～	夏休		○	◎	◎	◎
		SCEN214	国際技術協力海外研修		2	3･4	春休		○	◎	◎	◎
		GRNT360	グリーンテクノロジー海外研修B		4	3･4	夏休		○	◎	◎	◎
		GRNT361	特別講義		2	3･4	秋	○	◎	○		
学部学科英語科目		SCEN101	English Communication for Science Ⅰ	○	2	1～	春			◎	○	
		SCEN102	English Communication for Science Ⅱ	○	2	1～	秋			◎	○	
		SCEN201	English for International Technical Cooperation Ⅰ		1	2～	春		○	◎	○	○
		SCEN202	English for International Technical Cooperation Ⅱ		1	2～	秋		○	◎	○	○

SOKA University

理工学部 グリーンテクノロジー学科 カリキュラム・ツリー

【橙枠】全学共通科目 学部学科英語科目
【緑枠】グリーンテクノロジー コア科目
【青枠】グリーンテクノロジー 応用科目
*赤字は必修科目

資料２

地球科学や環境科学を中心とする理学の学び、およびグリーントランスフォーメーション（GX）の実現に不可欠な創エネルギー・省エネルギー技術、資源循環技術や情報処理技術を融合した環境に優しい技術、すなわち「グリーンテクノロジー」について学修し、その社会実装を通じて低炭素社会の実現とSDGs達成に貢献する国際的な人材

【DP1】基礎から応用までの知識と技術の習得
【DP2】技術の社会還元に関する知識と倫理観や社会的責任の理解
【DP3】表現力、国際的な視野とコミュニケーション能力
【DP4】多様性の理解、協働力とリーダーシップの発揮
【DP5】課題解決力と生涯学び続ける力

4年次

卒業演習Ⅰ・卒業演習Ⅱ
卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ

3年次

演習Ⅰ・演習Ⅱ

【地球環境理工学】
【資源循環理工学】
【環境情報処理】
【社会実装／環境ビジネス分野】
【社会実装／国際技術協力】

【DP,2,4,5】
地球科学実験
海洋観測実習
環境分析化学実験

【DP,2,5】
水処理工学実験
プランクトン工学実験
生物反応工学実験

【DP3,5】
ライフサイクルアセスメント演習
データ分析演習
機械学習(AI)演習

【DP4,5】
R&D キャリアセミナー
ビジネスプランニング演習
グリーンテクノロジーインターンシップ
海外インターンシップ

【DP2,3,4,5】
グリーンテクノロジー海外研修A
グリーンテクノロジー海外研修B
International Fieldwork Ⅰ
International Fieldwork Ⅱ
国際技術協力海外研修
国際情報技術交流史
国際技術協力論
国際情報英書講読
国際技術協力演習
特別講義

【DP1,3】
マテリアルサイエンス
機器分析学
粉体工学概論
熱力学
Academic English for Science and Engineering

【DP1】
地球観測技術
地球化学
土壌科学

【DP1】
生態環境工学
プランクトン工学
廃棄物処理工学
生物反応工学

【DP1,2】
数理統計学Ⅰ
ライフサイクルアセスメント
数理統計学Ⅱ
多変量解析

【DP2】
国際ビジネス法
知的財産法概論
環境マネジメント

【DP3,4,5】
海外研修・実習科目

2年次

【DP1,2,5】
気候変動科学論
生態学
環境管理システム実験
植物生理学概論
地球生態系モニタリング

【DP1,2,4】
環境微生物学
グリーンケミストリー入門
基礎微生物学実験
環境微生物学実験

【DP1,3】
基礎統計学
環境情報システム論
No-Code Predictive Analytics with AI
Qualitative Research Method

【DP1,2,3】
公共政策（地域創生ビジネス）
Development Economics
AI-augmented Prescriptive Operations Analytics
ビジネスイノベーション概論

【DP2】
グリーンテクノロジー研究トピックス
グリーンテクノロジー研究体験C
グリーンテクノロジー研究体験D
グリーンテクノロジー研究体験E

【DP1】
Pythonプログラミング演習
データサイエンス演習
情報基礎論
Foundations of Data Science

【DP2】
グリーンテクノロジーとキャリア

【DP3】
Topics in Science and Engineering

【DP3】
学部学科英語科目
言語科目（英語）
言語科目（日本語）

1年次

【DP1】
グリーンテクノロジー概論
地球科学概論
基礎グリーンテクノロジー実習
化学実験

【DP2】
グリーンテクノロジー研究体験A
グリーンテクノロジー研究体験B

【DP2】
国際ビジネス入門

【DP3,4,5】
プロジェクト・スタディーズ

【DP1】
初等数学／基礎化学／基礎生物学／Foundations of Chemistry／Foundations of Biology／Foundations of Data Science

【DP1, DP2, DP5】
キャリア教育系科目
人文・社会・健康科目

【DP1, DP3】
初年次プロジェクト（グリーンテクノロジー）・アカデミックライティングⅠ

【DP1, DP5】
データサイエンス入門

【DP4, DP5】
大学科目／世界市民教育科目

数理・データサイエンス・自然科目

資料３

創価大学のアセスメント・ポリシー、プラン

①創価大学のアセスメント・ポリシー

創価大学は、大学全体のディプロマ・ポリシーの達成を目指し、機関・プログラム・授業の各レベルおよび課外活動においてアセスメントを実施し、教育改善に活用していきます。

機関（大学全体）レベルにおいては、他者評価指標として①GPA の推移、②TOEIC 等の語学試験におけるスコア、③SOKA Generic Skill テスト（リテラシー）のスコア、④BEVI 等を活用します。また、自己評価指標として①学生生活アンケート、②SOKA Generic Skill テスト（コンピテンシー）のスコア等を活用します。

②創価大学のアセスメント・プラン

アセスメント項目（ディプロマ・ポリシー等）	アセスメント指標
１.各学部等が授ける知識・技能を身に付け、社会に活用することができる。	・ GPA の推移（各セメスター） ・ データサイエンス科目の成績（科目履修学期） ・ SOKA Generic Skill テストの変化（1 年次と 4 年次）
２.論理的に考え、適切な表現で伝えることができる。	・ 学術文章作法を参考とした、各学部（分野）に応じた文章・論文作法を踏まえたルーブリックによる年次比較（各年度） ・ レポート課題、卒業論文、ジュニアペーパー等の評価（科目履修学期） ・ TOEIC 得点の変化（入学時と 4 年次の比較） ・ 語学基準達成者数の推移（各年度）
３.多様性を尊重し、他者と協働することができる。	・ 海外大学での単位取得者数、国際ボランティア数の推移 ・ BEVI による測定（課外活動を含む） ①全学生（4 月と 2 月）※4 月は新入生のみ ②入寮者（4 月と 2 月） ③クラブ活動執行部三役経験者（4 月と 2 月） ④短期海外研修参加者（研修出発前と帰国後） ⑤長期留学経験者（留学出発前と帰国後） ・ アセスメント科目におけるルーブリック評価
４.課題解決に向けて主体的・創造的に行動することができる。	・ アセスメント科目におけるルーブリック評価 ・ BEVI による測定（4 月と 2 月）
プログラムレベルでの全学的な取り組み	・ 教学アセスメント（毎年、対象とする学部、研究科を選定して実施）
授業レベルでの全学的な取り組み	・ 学生の授業アンケートによる達成度、授業外学習時間など（各セメスター） ・ 教員によるティーチング・ポートフォリオの提出（3 年に 1 回以上）
その他の全学的な取り組み	・ 進路決定率（卒業直後の 5 月） ・ 卒業生アンケート（年 1 回） ・ 学生生活アンケート（１～4 年次）

③理工学部におけるアセスメント・プラン

アセスメント項目（ディプロマ・ポリシー等）	アセスメント指標
1.理工学分野の基礎的な知識・技能を身に付け、必要とする専門分野の学習に取り組むことができる。	・ 専門科目の習得単位数と GPA（各セメスタ） ・ データサイエンス科目の成績（科目履修学期） ・ 成績（科目履修学期 ・ 授業アンケート
2.各学科・領域が授ける専門知識・技能を身に付け、専門的課題についての理解や課題解決へ応用できる。	・ 専門科目の習得単位数と GPA（各セメスタ） ・ 授業アンケート
3.自らの考えを、文書や口頭で適切な表現で伝えることができる。	・ レポート課題、卒業論文、ジュニアペーパー 等の評価（科目履修学期） ・ 授業アンケート
4.多様性を尊重し、他者とコミュニケーションを取りながら、協働する（チームで仕事をする）ことができる。	・ 共通科目（語学以外）の習得単位数と GPA（各セメスタ） ・ 実験科目およびアセスメント科目の成績 〇プロジェクトスタディーズ：第 2 セメスタ 〇ケーススタディ：第 6 セメスタ 〇演習 II：第 8 セメスタ　など ・ BEVI による測定 ・ 学生生活アンケート ・ アセスメント科目におけるルーブリック評価（自己評価）
5.問題の原因を論理的に分析し、そこから課題解決の方法を提案することができる。	・ 学生生活アンケート ・ アセスメント科目におけるルーブリック評価（自己評価）

資料４

グリーンテクノロジー学科カリキュラム系統図

グリーンテクノロジーを知る学びを	多様な講義・実験科目から自分にあった学びを	研究室にてより深い学びを

1年次春　1年次秋　2年次春　2年次秋　3年次春　3年次秋　4年次春　4年次秋

・グリーンテクノロジー概論
・基礎グリーンテクノロジー実習
・地球科学概論
・グリーンテクノロジー研究体験A,B
・グリーンテクノロジー研究トピックス
・pythonプログラミング演習
・データサイエンス演習
・演習I　・演習II　・卒業演習I　・卒業演習II

必修19単位（青字科目）

グリーンテクノロジーコア科目

・初等数学
・基礎化学
・基礎生物学
・化学実験
・国際ビジネス入門
・グリーンテクノロジー研究体験C,D,E
・情報基礎論
・熱力学
・機器分析学
・粉体工学概論
・卒業研究I　・卒業研究II

選択　16単位以上

共通科目群

必修5単位（青字科目）

・初年次プロジェクト(GT)
・アカデミックライティング I
・データサイエンス入門

選択必修 16単位以上

大学科目
世界市民教育科目
キャリア科目
英語科目

国際技術協力EP（1～2年次）

・プロジェクト・スタディーズ
・国際技術協力論
・国際技術協力演習
・国際技術協力海外研修

データサイエンス副専攻・SDGs副専攻など（2年次～）
自由選択24単位以上

グリーンテクノロジー応用科目　44単位以上

地球環境理工学科目群　選択 5単位以上

・気候変動科学論
・生態学
・環境管理システム実験
・植物生理学概論
・地球生態系モニタリング
・地球観測技術
・地球化学
・土壌科学
・地球科学実験
・海洋観測実験
・環境分析化学実験

資源循環理工学科目群　選択 5単位以上

・環境微生物学
・グリーンケミストリー入門
・基礎微生物学実験
・環境微生物学実験
・生態環境工学
・水処理工学実験
・プランクトン工学
・プランクトン工学実験
・廃棄物処理工学
・生物反応工学
・生物反応工学実験

環境情報理工学科目群　選択 5単位以上

・基礎統計学
・環境情報システム論
・数理統計学I, II
・多変量解析
・ライフサイクルアセスメント
・ライフサイクルアセスメント演習

グリーンテクノロジー社会実装科目群　選択 5単位以上

・公共政策（地域創生ビジネス）
・ビジネスイノベーション概論
・国際ビジネス法
・知的財産法概論
・環境マネジメント
・ビジネスプランニング演習
・グリーンテクノロジーインターンシップ
・海外インターンシップ
・国際技術協力論
・国際技術協力演習
・国際技術協力海外研修
・特別講義
・グリーンテクノロジー海外研修A,B

履修モデル（グリーンテクノロジー特化型）

科目区分			卒業基準	1年次		2年次		3年次		4年次		合計
				春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
全学共通科目	①基礎科目	初年次プロジェクト	2以上	初年次プロジェクト（グリーンテクノロジー）②								2
		アカデミックライティング	1以上	アカデミックライティングⅠ①								1
	②大学科目		4以上	1科目選択②	1科目選択②							4
	④世界市民教育科目		4以上	1科目選択②	1科目選択②							4
	⑤数理・データサイエンス・自然科目	データサイエンス入門	2以上		データサイエンス入門②							2
	⑦キャリア教育系科目		2以上		1科目選択②							2
学部学科英語科目・言語科目			6以上	English Communication for Science Ⅰ②	English Communication for Science Ⅱ②	English Ⅲ①	English Ⅳ①					6
専門科目	グリーンテクノロジーコア科目	必修科目	19	グリーンテクノロジー概論①	基礎グリーンテクノロジー実習①	グリーンテクノロジー研究体験A①	グリーンテクノロジー研究体験B①	グリーンテクノロジー研究トピックス①		演習Ⅰ②	演習Ⅱ②	卒業演習Ⅰ②	卒業演習Ⅱ②	13
					地球科学概論②	pythonプログラミング演習②		データサイエンス演習②						6
		選択科目	16以上	初等数学②	化学実験②	グリーンテクノロジー研究体験C①	グリーンテクノロジー研究体験D①	グリーンテクノロジー研究体験E①			マテリアルサイエンス②	卒業研究Ⅰ⑤	卒業研究Ⅱ⑤	19
				基礎化学②	国際ビジネス入門②	情報基礎論②		熱力学②			機器分析学②			10
				基礎生物学②										2
	グリーンテクノロジー応用科目	地球環境理工学科目群	5以上			気候変動科学論②		地球生態系モニタリング②		地球観測技術②	地球科学実験②			8
							環境管理システム実験①			地球化学②	環境分析化学実験①			4
						生態学②		植物生理学概論②		土壌科学②				6
		資源循環理工学科目群	5以上			グリーンケミストリー入門②		基礎微生物学実験①	環境微生物学実験①	生態環境工学②	廃棄物処理工学②			8
						環境微生物学②				プランクトン工学①	プランクトン工学実験①	生物反応工学②		6
										水処理工学実験①				1
		環境情報理工学科目群	5以上			基礎統計学②		環境情報システム論②		数理統計学Ⅰ②	数理統計学II②			8
										ライフサイクルアセスメント①	ライフサイクルアセスメント演習①	多変量解析②		4
		グリーンテクノロジー社会実装科目	（環境ビジネス分野） （国際技術協力分野）	5以上						知的財産法概論②		グリーンテクノロジーインターンシップ①		3
								グリーンテクノロジー海外研修A③			特別講義②			5
合計			124以上	17	18	19	17	19		20		7	7	124

※科目名の後ろの〇囲みの数字は単位数を表す　※「1科目選択」とある科目は、自分の興味関心のある科目を選択して履修すること

履修モデル（文理融合型）

科目区分			卒業基準	1年次		2年次		3年次		4年次		合計
				春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
全学共通科目	①基礎科目	初年次プロジェクト	2以上	初年次プロジェクト（グリーンテクノロジー）②								2
		アカデミックライティング	1以上		アカデミックライティングⅠ①							1
	②大学科目		4以上	1科目選択②	1科目選択②							4
	④世界市民教育科目		4以上	1科目選択②	1科目選択②							4
	⑤数理・データサイエンス・自然科目	データサイエンス入門	2以上		データサイエンス入門②							2
	⑦キャリア教育系科目		2以上						1科目選択②			2
学部学科英語科目・言語科目			6以上	English Communication for Science Ⅰ②	English Communication for Science Ⅱ②	English Ⅲ①	English Ⅳ①					6
専門科目	グリーンテクノロジーコア科目	必修科目	19	グリーンテクノロジー概論①	基礎グリーンテクノロジー実習①	グリーンテクノロジー研究体験A①	グリーンテクノロジー研究体験B①	グリーンテクノロジー研究トピックス①		演習Ⅰ②	演習Ⅱ②	卒業演習Ⅰ②	卒業演習Ⅱ②	13
					地球科学概論②	pythonプログラミング演習②	データサイエンス演習②							6
		選択科目	16以上	初等数学②	化学実験②	グリーンテクノロジー研究体験C①	グリーンテクノロジー研究体験D①	グリーンテクノロジー研究体験E①				卒業研究Ⅰ⑤	卒業研究Ⅱ⑤	17
				基礎化学②	プロジェクト・スタディーズ②	情報基礎論②			機器分析学②					8
				基礎生物学②	国際ビジネス入門②									4
	グリーンテクノロジー応用科目	地球環境理工学科目群	5以上				地球生態系モニタリング②		地球科学実験②					4
						生態学②	植物生理学概論②							4
		資源循環理工学科目群	5以上			グリーンケミストリー入門②	環境微生物学実験①	生態環境工学②	廃棄物処理工学②					7
						環境微生物学②		プランクトン工学①						3
								水処理工学実験①						1
		環境情報理工学科目群	5以上			基礎統計学②	環境情報システム論②	データ分析演習②	機械学習（AI）演習②					8
								ライフサイクルアセスメント①	ライフサイクルアセスメント演習①					2
		グリーンテクノロジー社会実装科目（環境ビジネス分野）	5以上			公共政策（地域創生ビジネス）②	ビジネスイノベーション概論②	国際ビジネス法②	海外インターンシップ②					8
								ビジネスプランニング演習②						2
								知的財産法概論②	グリーンテクノロジーインターンシップ①					3
		（国際技術協力分野）						環境マネジメント②						2
						国際技術協力論②	国際技術協力演習②	国際技術協力海外研修②	特別講義②					8
							グリーンテクノロジー海外研修A③							3
合計			124以上	17	18	20	18	20	17	7	7	124		

※科目名の後ろの〇囲みの数字は単位数を表す　※「1科目選択」とある科目は、自分の興味関心のある科目を選択して履修すること

履修モデル（国際EP・国際貢献）

科目区分			卒業基準	1年次		2年次		3年次		4年次		合計
				春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
全学共通科目	①基礎科目	初年次プロジェクト	2以上	初年次プロジェクト（グリーンテクノロジー）②								2
		アカデミックライティング	1以上	アカデミックライティングⅠ①								1
	②大学科目		4以上	1科目選択②	1科目選択②							4
	④世界市民教育科目		4以上	1科目選択②	1科目選択②							4
	⑤数理・データサイエンス・自然科目	データサイエンス入門	2以上		データサイエンス入門②							2
	⑦キャリア教育系科目		2以上						1科目選択②			2
学部学科英語科目・言語科目			6以上	English Communication for Science Ⅰ②	English Communication for Science Ⅱ②	English for International Technical Cooperation Ⅰ①	English for International Technical Cooperation Ⅱ①					6
専門科目	グリーンテクノロジーコア科目	必修科目	19	グリーンテクノロジー概論①	基礎グリーンテクノロジー実習①	グリーンテクノロジー研究体験A①	グリーンテクノロジー研究体験B①	グリーンテクノロジー研究トピックス①		演習Ⅰ②	演習Ⅱ②	卒業演習Ⅰ②	卒業演習Ⅱ②	13
					地球科学概論②	pythonプログラミング演習②	データサイエンス演習②							6
		選択科目	16以上	初等数学②	化学実験②	グリーンテクノロジー研究体験C①	グリーンテクノロジー研究体験D①	グリーンテクノロジー研究体験E①			マテリアルサイエンス②	卒業研究Ⅰ⑤	卒業研究Ⅱ⑤	19
				Foundations of Chemistry②	プロジェクト・スタディーズ②									4
				Foundations of Biology②	国際ビジネス入門②		Topics in Science and Engineering②							6
	グリーンテクノロジー応用科目	地球環境理工学科目群	5以上				地球生態系モニタリング②	地球観測技術②		地球科学実験②				6
						環境管理システム実験①		地球化学②		環境分析化学実験①				4
						生態学②	植物生理学概論②			海洋観測実習②				6
		資源循環理工学科目群	5以上			グリーンケミストリー入門②		生態環境工学②		廃棄物処理工学②				6
								水処理工学実験①						1
		環境情報理工学科目群	5以上			基礎統計学②	環境情報システム論②							4
								ライフサイクルアセスメント①	ライフサイクルアセスメント演習①	機械学習(AI)演習②				4
		グリーンテクノロジー社会実装科目	5以上				ビジネスイノベーション概論②	国際ビジネス法②						4
		（環境ビジネス分野）						知的財産法概論②		グリーンテクノロジーインターンシップ①				3
		（国際技術協力分野）				国際情報技術交流史②		環境マネジメント②						4
						国際技術協力論②	国際技術協力演習②	国際技術協力海外研修②		特別講義②				8
						国際情報英書講読②	グリーンテクノロジー海外研修A③							5
合計			124以上	17	18	19	19	19		18		7	7	124

※科目名の後ろの〇囲みの数字は単位数を表す　※「1科目選択」とある科目は、自分の興味関心のある科目を選択して履修すること

124

Course Model (English Supported Program)(April Entry)

科目区分			卒業基準		1年次		2年次		3年次		4年次		合計
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
全学共通科目	①基礎科目	初年次プロジェクト	2以上		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)②								2
		アカデミックライティング	1以上			アカデミックライティング Ⅰ①							1
	②大学科目		4以上						1科目選択②	1科目選択②			4
	④世界市民教育科目		4以上						1科目選択②	1科目選択②			4
	⑤数理・データサイエンス・自然科目	データサイエンス入門	2以上			データサイエンス入門②							2
	⑦キャリア教育系科目		2以上							1科目選択②			2
学部学科英語科目・言語科目			6以上		日本語演習 Ⅰ①	日本語総合 Ⅱ⑤							6
					日本語総合 Ⅰ⑤		日本語読解ⅢA①	日本語読解ⅢB①					7
					日本語聴解 Ⅰ①		日本語聴解ⅢA①	日本語聴解ⅢB①					3
					日本語口頭表現 Ⅰ①		日本語文法Ⅲ①						2
					日本語文章表現 Ⅰ①								1
					初級漢字①								1
					日本語文章表現入門①								1
専門科目	グリーンテクノロジーコア科目	必修科目	19		グリーンテクノロジー概論①	基礎グリーンテクノロジー実習①	グリーンテクノロジー研究体験A①	グリーンテクノロジー研究体験B①	グリーンテクノロジー研究トピックス①		演習 Ⅰ②	演習 Ⅱ②	卒業演習 Ⅰ②	卒業演習 Ⅱ②	13
							地球科学概論②		pythonプログラミング演習②						4
									データサイエンス演習②						2
		選択科目	16		Foundations of Chemistry②		Foundations of Data Science②		グリーンテクノロジー研究体験C①	グリーンテクノロジー研究体験D①	グリーンテクノロジー研究体験E①		Academic English for Science and Engineering②		卒業研究 Ⅰ⑤	卒業研究 Ⅱ⑤	19
					Foundations of Biology②		プロジェクト・スタディーズ②				Topics in Science and Engineering②						6
	グリーンテクノロジー応用科目	地球環境理工学科目群	5以上	44					気候変動科学論②		地球生態系モニタリング②		地球観測技術②	地球科学実験②			8
													土壌科学②	環境分析化学実験①			3
														海洋観測実習②			2
		資源循環理工学科目群	5以上										生態環境工学②				2
													水処理工学実験①				1
													プランクトン工学①	プランクトン工学実験①	生物反応工学実験①		3
		環境情報理工学科目群	5以上						No-Code Predictive Analystics with AI②		Qualitative Research Method④			機械学習(AI)演習②			8
		グリーンテクノロジー社会実装科目 (環境ビジネス分野)	5以上						Development Economics④		AI-augmented Prescriptive Operations Analystics④		海外インターンシップ②	グリーンテクノロジーインターンシップ①			11
		(国際技術協力分野)							International Fieldwork Ⅰ②		International Fieldwork Ⅱ②			特別講義②			6
合計			79		20	15	20	17	19	19	7	7	124				

※科目名の後ろの〇囲みの数字は単位数を表す　※「1科目選択」とある科目は、自分の興味関心のある科目を選択して履修すること

Course Model (English Supported Program)(September Entry)

科目区分			卒業基準	1年次		2年次		3年次		4年次		合計
				秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	
全学共通科目	①基礎科目	初年次プロジェクト	2以上		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)②							2
		アカデミックライティング	1以上		アカデミックライティングⅠ①							1
	②大学科目		4以上	1科目選択②	1科目選択②							4
	④世界市民教育科目		4以上	1科目選択②	1科目選択②							4
	⑤数理・データサイエンス・自然科目	データサイエンス入門	2以上	データサイエンス入門②								2
	⑦キャリア教育系科目		2以上					1科目選択②				2
学部学科英語科目・言語科目			6以上	日本語演習Ⅰ①	日本語総合Ⅱ⑤							6
				日本語総合Ⅰ⑤		日本語読解ⅢA①	日本語読解ⅢB①					7
				日本語聴解Ⅰ①		日本語聴解ⅢA①	日本語聴解ⅢB①					3
				日本語口頭表現Ⅰ①		日本語文法Ⅲ①						2
				日本語文章表現Ⅰ①								1
				初級漢字①								1
				日本語文章表現入門①								1
専門科目	グリーンテクノロジーコア科目	必修科目	19		グリーンテクノロジー概論① / 基礎グリーンテクノロジー実習①	グリーンテクノロジー研究体験A① / グリーンテクノロジー研究体験B①	グリーンテクノロジー研究トピックス①	演習Ⅱ②	演習Ⅰ②	卒業演習Ⅱ②	卒業演習Ⅰ②	13
				地球科学概論②			pythonプログラミング演習②					4
							データサイエンス演習②					2
		選択科目	16	Foundations of Data Science②	Foundations of Chemistry②	グリーンテクノロジー研究体験E①	グリーンテクノロジー研究体験C① / グリーンテクノロジー研究体験D①		Academic English for Science and Engineering②	卒業研究Ⅱ⑤	卒業研究Ⅰ⑤	19
				プロジェクト・スタディーズ②	Foundations of Biology②	Topics in Science and Engineering②						6
	グリーンテクノロジー応用科目	地球環境理工学科目群	5以上			地球生態系モニタリング②	気候変動科学論②	地球科学実験②	地球観測技術②			8
							環境管理システム実験①	環境分析化学実験①	土壌科学②			4
								海洋観測実習②				2
		資源循環理工学科目群	5以上						生態環境工学②			2
									水処理工学実験①			1
									プランクトン工学① / プランクトン工学実験①			2
		環境情報理工学科目群	5以上			Qualitative Research Method④	No-Code Predictive Analystics with AI②			機械学習(AI)演習②		8
		グリーンテクノロジー社会実装科目 (環境ビジネス分野)	5以上			AI-augmented Prescriptive Operations Analystics④	Development Economics④		海外インターンシップ②	グリーンテクノロジーインターンシップ①		11
		(国際技術協力分野)						特別講義②				2
							International Fieldwork Ⅰ②	International Fieldwork Ⅱ②				4
合計			79	23	18	18	20	15	13	10	7	124

※科目名の後ろの〇囲みの数字は単位数を表す　※「1科目選択」とある科目は、自分の興味関心のある科目を選択して履修すること

資料６

○創価大学既修得単位の認定に関する細則

令和２年12月７日細則第112号

（趣旨）

第１条　この細則は、創価大学則（以下、「学則」という）第11条第３項(１)、(３)、又は(４)の文部科学大臣が定める学修のうち平成３年文部省告示第68号（大学設置基準第二十九条第一項の規定による大学が単位を与えることのできる学修）の第１号から９号の規定により、他の大学等で履修及び修得した授業科目の単位（以下、「既修得単位」という）または学修を、創価大学（以下、「本学」という）で修得したものとみなし単位認定を行うための必要な事項を定める。

（認定の対象とする既修得単位）

第２条　この細則の定めにより単位認定を行うことができる既修得単位とは、以下のいずれかとする。

（１）　本学と単位互換協定を締結した大学又は短期大学において修得した授業科目の単位

（２）　放送大学で開講される授業科目のうち、本学の授業科目として認定が可能な授業科目として指定した単位

（３）　(１)(２)の他、学校教育法に定める日本国内の大学、短期大学又は専門職大学において修得した授業科目の単位

（４）　短期大学又は高等専門学校が設置する専攻科のうち、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が認定した専攻科において修得した授業科目の単位

（５）　本学に入学する前に、外国の大学又はこれに相当する教育機関で修得した授業科目の単位

（６）　平成３年文部省告示第68号（大学設置基準第二十九条第一項の規定による大学が単位を与えることのできる学修）第１号から９号に定められた学修のうち、その学修内容が本学の開設する授業科目に相応すると学士課程教育機構運営委員会または各学部教授会が認めたもの

（在籍中に他大学等で単位修得を行う場合）

第３条　本学に在籍中、前条に定める他大学等において単位を修得し、その単位の認定を希望する場合は、学生はその学修を始める前に、他大学等において学修する授業科目とその期間を教務課に届け出なければならない。

（既修得単位の認定）

第４条　第２条に定める既修得単位による単位認定を受けようとするときは、その教育機関が発行する成績証明書及び授業内容を示す書類（シラバス等）を添えて、既修得単位認定願を教務課に提出しなければならない。ただし、第２条(１)(２)による単位及び(３)のうち入学前に本学において修得した単位については、授業内容を示す書類の添付を省略することができる。

２　前項により提出された書類に基づき、共通科目については学士課程教育機構運営委員会、専門科目については各学部教授会で審議し認定する。

３　前項により単位を認定された科目の成績評価はＲとする。ただし、単位互換協定において成績評価の定めがある場合及び本学において科目等履修生または特別履修生として修得した単位の

成績についてはこの限りではない。

4　第３項により認定された科目は履修することはできない。ただし、複数履修することが可能な科目についてはこの限りではない。

（修業年限の取り扱い）

第５条　修業年限の取り扱いは学則第17条及び関連規則の定めによるものとし、既修得単位の認定による標準修業年限の短縮は行わない。

（事務取扱）

第６条　既修得単位の認定に関する事務は、教務課が担当する。

附　則

1　この細則は、令和３年４月１日から施行する。

2　この細則の制定に伴い、「創価大学の第１年次に新たに入学した学生の既修得単位に関する取扱内規」（昭和55年４月１日内規第17号）は、廃止する。

資料７

○創価大学検定試験等による単位の認定に関する細則

令和２年12月７日細則第113号

改正

令和４年３月７日細則第10号
令和５年１月16日細則第２号
令和５年６月５日細則第９号
令和６年１月15日細則第16号
令和６年５月７日細則第１号

（趣旨）

第１条　この細則は、創価大学則（以下、「学則」という）第11条第３項(４)の規定に基づき、文部科学大臣が定める学修で、平成３年文部省告示第68号（大学設置基準第二十九条第一項の規定による大学が単位を与えることのできる学修）（以下、「告示」という）第10号又は11号に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査（以下「検定試験等」という。）における成果を、創価大学（以下、「本学」という）で修得したものとみなし単位認定を行うための必要な事項を定める。

（認定の対象とする学修）

第２条　本学が教育上有益と認め、単位認定を受けることができる検定試験等の成果とは別表に掲げるものとし、同表に定める本学の授業科目を履修したものとみなして単位認定を行うことができる。この場合において、認定することができる単位数の上限は、同表に定めるとおりとする。

（単位の申請）

第３条　検定試験等による単位認定を受けようとするときは、所定の単位認定願に検定試験等の成果を示す証憑の原本を添え、教務課に提出しなければならない。

２　単位の申請を行うことができる期間は本学在籍期間中とする。ただし、本学に入学又は再入学前に修得した検定試験等の成果による単位の申請は入学又は再入学の日より６か月以内（休学期間を除く）に限る。

（単位認定）

第４条　単位の認定は、共通科目については学士課程教育機構運営委員会が、専門科目については各学部教授会が行う。

２　前項により認定された単位の成績評価は、別表に定めのある場合を除きＲとする。

（事務取扱）

第５条　検定試験等の認定に関する事務は、教務課が担当する。

附　則

この内規は、令和３年４月１日から施行する。

附　則（令和４年３月７日細則第10号）

この細則は、令和４年４月１日から施行する。

附　則（令和５年１月16日細則第２号）

この細則は、令和５年４月１日から施行する。

附　則（令和５年６月５日細則第９号）

1　この細則は、令和５年６月５日から施行する。

2　この細則の施行の際、2022年度以前に入学した学生に係る別表の適用については、なお従前の例による。

附　則（令和６年１月15日細則第16号）

1　この細則は、令和６年４月１日から施行する。

2　本細則施行の際、2022年度以前の入学生については、区分統計学における認定科目を「基礎統計学Ａ（４単位）」とする。

附　則（令和６年５月７日細則第１号）

この細則は、令和６年５月７日から施行する。

別表（本学において履修したと見なす授業科目及び単位数）

（略）

資料８

○創価大学外国留学にともなう履修及び単位認定に関する細則

平成３年11月12日細則第39号

改正

平成６年４月１日
平成９年４月１日
平成16年４月１日
平成23年９月12日細則第３号
平成24年７月９日細則第１号

（趣旨）

第１条　創価大学学則（以下「学則」という。）第28条の２第３項による学生の外国留学にともなう履修及び単位認定に関する事項は、この細則の定めるところによる。

（単位の認定）

第２条　在学留学した学生が、学則第11条第３項による単位認定の適用を受けようとするときは、留学先の大学の発行した証明書その他の必要書類を添えて、海外留学単位認定願を教務課に提出しなければならない。

２　教授会又は学士課程教育機構運営委員会が認めた場合は、その認定する科目について、科目の配当年次に関わらず単位を認定することができる。

（休学留学の学修の単位の認定）

第３条　休学期間中に海外の大学に留学（以下「休学留学」という。）した学生が、学則第11条第３項による単位認定の適用を受けようとするときは、留学前に所定の手続きを行い、留学中に中間報告を行った上で、留学先の大学が発行した証明書その他の必要書類を添えて、海外留学単位認定願を教務課に提出しなければならない。

２　休学留学した期間については、在学期間に算入しない。

（事務）

第４条　この細則に関する事務は、教務課が担当する。

附　則

この細則は、平成３年10月１日から施行する。

附　則（平成６年４月１日）

この細則は、平成６年４月１日から施行する。

附　則（平成９年４月１日）

この細則は、平成９年４月１日から施行する。

附　則（平成16年４月１日）

この細則は、平成16年４月１日から施行する。

附　則（平成23年９月12日細則第３号）

この細則は、平成23年９月12日から施行し、平成23年９月１日に遡及して適用する。

附　則（平成24年７月９日細則第１号）

この細則は、平成25年４月１日から施行する。

資料９

○創価大学多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する細則

令和２年４月20日細則第109号

（趣旨）

第１条　この細則は、創価大学学則（以下「学則」という。）第12条の２第２項の規定に基づき行う「多様なメディアを高度に利用して行う授業」（以下「メディア授業」という。）に関し必要な事項を定める。

（定義）

第２条　メディア授業は、次の各号に定める要件の授業をいう。

（１）　授業の開始から終了までの全回数の半数を超える回数に渡り、学則第12条の２第２項に規定する「多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる」方法をとる授業とする。ただし、学長が正当な理由があると認めた場合には、メディア授業として扱わないことができる。

（２）　インターネットなどを利用することにより、文字、音声、静止画、動画などの多様な情報を扱うもので、同時双方向型又は非同時双方向型で行われる授業であること。

（同時双方向型のメディア授業）

第３条　同時双方向型のメディア授業（テレビ会議方式等）の実施においては、前条第１項第２号に定めるメディア授業に用いる多様な情報を活用し、同時かつ双方向として教員が授業を行う時間に学生が学修し、かつ教員と学生が質疑応答又は討議等を行うこととする。

（非同時双方向型のメディア授業）

第４条　非同時双方向型のメディア授業（オンデマンド方式）の実施においては、第２条第１項第２号に定めるメディア授業に用いる多様な情報を活用し収録動画等を利用して行うこととする。なお、毎回の授業実施にあたって教員又は指導補助者等は、対面指導又はインターネット指導の方法のいずれかを用いて、当該授業終了後、すみやかに設問解答や質疑応答等による十分な指導を行い、かつ意見交換の機会を確保することとする。

（メディア授業の構成及び学修時間）

第５条　メディア授業は、学則第12条に定める単位の基準の内容をもって、構成することを標準とする。

（出席確認）

第６条　メディア授業での出席の確認は、視聴のログや課題提出の状況など、シラバス等に明記された適切な方法により判断するものとする。

（シラバス等の明示事項）

第７条　メディア授業を実施する科目のシラバスには、対面で行う授業において記載するもののほか次の各号に掲げる事項を記載するものとする。

（1） 授業方法の構成、回数
（2） メディア授業の受講方法（スマートフォンで受講可やパーソナル・コンピュータでのみ受講可など）、出席確認方法、試験方法
（3） リアルタイムに授業を実施する同時双方向型の授業、収録動画等を利用する非同時双方向型（オンデマンド方式）の授業などメディア授業の実施方法
（4） その他必要な事項

（学部長等への報告）
第８条　メディア授業の授業科目を開講する際には、授業科目担当教員はあらかじめ専門科目は当該学部長、共通科目は学士課程教育機構長に申し出るものとする。学部長等はメディア授業になる科目の一覧を教務課に報告する。ただし、全学でメディア授業を行うことを決定した場合を除く。
２　前項の申し出を受けた学部長等は、メディア授業実施にあたって意見を述べることができる。
３　メディア授業として行うことを決定した場合学部長等は、当該科目の一覧を教務課に報告する。
４　授業科目担当教員が、やむを得ない事由により、学期の途中でメディア授業に変更を希望する場合も前３項の手続きを行うものとする。

（資格関係科目）
第９条　特設課程科目については、学長がやむを得ない状況があると判断した場合を除き、原則として、メディア授業を実施しないものとする。

（卒業の要件）
第10条　メディア授業の授業科目を履修し修得した単位の扱いは、学則第17条第３項の規定による。

附　則
この細則は、令和２年６月１日から施行する。

資料 10

○令和 6 （2024）年度　企業実習一覧

【2024 年夏実施】

No	企業・団体名	事業内容	受入人数	対象学部	受入学年	実施形式	実習期間	実習日数	実習場所
1	西武信用金庫	信用金庫法に基づく、預金業務、融資業務、為替業務	1	文系学部 理系学部	3 年生	対面のみ	9/2　～ 9/6	5	東京都中野区中野
2	大成建設株式会社	総合建設業	2	文系学部	3 年生	対面のみ	8/26 ～ 9/6	5	未定
3	株式会社先駆	ウェブおよびシステムに関わる企画・設計・制作・システム開発・検証など。	3	文系学部 理系学部	1 年生 2 年生 3 年生	対面とオンラインの併用	8/23 ～ 9/5	10	対面を 2,3 日予定しており、その場合は八王子駅周辺（詳細住所未定）となります。
4	ジスクソフト株式会社	○ソフトウェアの企画・設計・開発（制御組込開発、ソリューション開発、AI・IoT 関連開発）○オンサイト IT サービス（システム運用・保守、テクニカルサポート、インフラ設計・構築）など	1	理系学部	3 年生	対面のみ	8/15 ～ 8/21	5	神奈川県川崎市中原区
5	燦クリーン株式会社	工業用薬品などの環境保全商品の販売 建設業（防水・塗装・機械器具設置工事） 建物メンテナンス 産業廃棄物収集運搬	1	文系学部 理系学部	2 年生 3 年生	対面のみ	8/6　～ 8/13	5	埼玉県所沢市小手指町

6	株式会社後藤組	建築施工管理職	4	文系学部 理系学部	2年生 3年生	対面のみ	9/2　～ 9/6	5	東京都新宿区百人町
7	大林ファシリティーズ株式会社	1.ビル管理事業 2.建築事業 3.ビジネスサポート事業 4.オペレーションマネジメント事業	2	文系学部 理系学部	1年生 2年生 3年生	対面のみ	8/19 ～ 8/23	5	①東京都あきる野市 ②中央教育棟内 ③東京都港区台場
8	社会福祉法人 清明会　長舟園	高齢者介護	5	文系学部 理系学部	1年生 2年生 3年生	対面のみ	7/31 ～ 9/1	5	東京都八王子市長房町
9	株式会社　大林組	国内外建設工事、地域開発・都市開発・その他建設に関する事業、及びこれらに関するエンジニアリング・マネージメント・コンサルティング業務の受託、不動産事業ほか	1	文系学部	2年生 3年生	対面のみ	9/2　～ 9/6	5	東京都港区港南
10	株式会社ラグナガーデンホテル	ホテル運営	2	文系学部 理系学部	1年生 2年生 3年生	対面のみ	8/5　～ 8/20	5	沖縄県宜野湾市真志喜
11	安藤物産株式会社	セメント・生コンクリート・建材卸売　オフィス用品販売	2	文系学部 理系学部	2年生 3年生	対面のみ	8/5　～ 8/9	5	東京都八王子市八幡町
12	参議院議員　石川ひろたか事務所	国会議員事務所	1	文系学部 理系学部	2年生 3年生	対面のみ	8/1　～ 9/8	5	大阪府大阪市都島区
13	八重洲電気株式会社	電話、通信設備の施工、販売、保守等	2	文系学部 理系学部	1年生 2年生	対面のみ	8/19 ～ 8/30	10	東京都中央区新川

14	公明党 参議院議員 杉久武事務所	国会議員事務所	1	文系学部 理系学部	1 年生 2 年生 3 年生	対面のみ	8/1 ～ 8/31	5	大阪市天王寺区堂ヶ芝
15	株式会社レック ①小さな結婚式千葉海浜幕張店	株式会社レックを中核とするKSG グループは、 冠婚葬祭の基軸に据え、異業種に 角も多的に展開している総合カンパニーでございます。 ■主な事業内容：・ラヴィファクトリー事業スナップフォトの概念を変えた世界展開するブライダルフォト・小さな結婚式事業 47 都道府県への展開を指す少数専門の結婚式場・ブライダル美容（feel）事業ブライダルに特化したヘアメイク事業・ファミリー葬事業日本初のハウス型葬儀会館を実現させた家族葬	1	文系学部 理系学部	2 年生 3 年生	対面のみ	7/31 ～ 9/11	6	千葉県千葉市美浜区
16	株式会社レック ②ラヴィファクトリー横浜店		1	文系学部 理系学部	2 年生 3 年生	対面のみ	7/31 ～ 9/11	6	神奈川県横浜市中区元町
17	株式会社レック ③ラヴィファクトリー東京		1	文系学部 理系学部	2 年生 3 年生	対面のみ	7/31 ～ 9/11	6	東京都港区北青山
18	株式会社レック ④ラヴィファクトリー大宮店		1	文系学部 理系学部	2 年生 3 年生	対面のみ	7/31 ～ 9/11	6	埼玉県さいたま市大宮区
19	東京コンピュータサービス株式会社	システムインテグレーションサービスシステムコンサルティング各種ソフトウェア開発その他コンピュータ関連事業	2	文系学部 理系学部	1 年生 2 年生 3 年生	オンラインのみ	8/8 ～ 8/15	5	東京都中央区日本橋本町
20	高砂熱学工業株式会社	空気調和設備の設計・施工	1	理系学部	3 年生	対面のみ	8/5 ～ 8/9	5	①東京都新宿区新宿 ②茨城県つくばみらい市

21	株式会社フューチャーフロンティアーズ	保育園・学童施設・児童発達支援事業所運営など	5	文系学部 理系学部	1年生 2年生 3年生	対面のみ	8/1 ～ 8/31	10	東京都新宿区市谷加賀町
22	日本国土開発株式会社	総合建設業	4	文系学部	3年生	対面のみ	8/5 ～ 9/6	5	東京都港区虎ノ門
23	創輝株式会社	八王子産の桑(創輝)の育成・加工・開発・小売・卸販売	2	文系学部 理系学部	1年生 2年生 3年生	対面のみ	8/29 ～ 9/9	10	東京都八王子市新町

【2025年春実施】

No	企業・団体名	事業内容	受入人数	対象学部	受入学年	実施形式	実習期間	実習日数	実習場所
1	株式会社フューチャーフロンティアーズ	保育園、学童施設、児童発達支援施設の運営など	10	文系学部 理系学部	1年生 2年生 3年生	対面のみ	1/31 ～ 3/31	5	新宿区、世田谷区、江戸川区 フロンティアキッズ新宿、曙橋など
2	株式会社キャリア・マム	アウトソーシング事業、キャリア支援事業、コワーキング事業	1	文系学部 理系学部	1年生 2年生 3年生	対面のみ	1/20 ～ 3/28	10	東京都多摩市落合1-46-1　ココリア多摩センター5階
3	株式会社後藤組	新築マンションの施工管理	3	文系学部 理系学部	2年生 3年生	対面のみ	3/3 ～ 3/31	5	東京都新宿区百人町1丁目13-1 RENEX Shinjuku 3F　+東京23区、横浜いずれかの現場

4	株式会社熊谷組	総合建設業	2	文系学部	3年生	対面のみ	2/3　～ 2/7	5	東京都新宿区津久戸町２－１
5	株式会社先駆	ウェブおよびシステムに関わる企画・設計・制作・システム開発・検証など。	3	文系学部 理系学部	1年生 2年生 3年生	対面とオンラインの併用	2/7　～ 2/21	10	対面を2,3日予定しており、その場合は八王子駅周辺(詳細住所未定)となります。
6	安藤物産株式会社	生コン・セメントの卸売	2	文系学部 理系学部	1年生 2年生 3年生	対面のみ	2/3　～ 2/7	5	東京都八王子市八幡町8-4
7	株式会社ラグナガーデンホテル	ホテル業	2	文系学部 理系学部	1年生 2年生 3年生	対面のみ	3/1　～ 3/31	5	沖縄県宜野湾市真志喜4-1-1
8	創輝株式会社	八王子産桑葉(品種：創輝)の生産、桑の健康食品の製造・販売。	2	文系学部 理系学部	1年生 2年生 3年生	対面のみ	3/14 ～ 3/21	5	東京都八王子市新町1-5

9	株式会社レック（小さな結婚式、ラヴィ・ファクトリー）	株式会社レックを中核とするKSGグループは、「目の前の方に精一杯尽くし続ける」という企業理念を掲げ、冠婚葬祭の基軸に据え、異業種にも多角的に展開している総合カンパニーでございます。	1	文系学部 理系学部	2年生 3年生	対面のみ	1/31 ～ 3/31	6	神奈川県横浜市中区元町1丁目11-3アメリカ山公園4F
10	株式会社レック（小さな結婚式、ラヴィ・ファクトリー）	株式会社レックを中核とするKSGグループは、「目の前の方に精一杯尽くし続ける」という企業理念を掲げ、冠婚葬祭の基軸に据え、異業種にも多角的に展開している総合カンパニーでございます。	1	文系学部 理系学部	2年生 3年生	対面のみ	1/31 ～ 3/31	6	埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-3大宮マルイ7階
11	株式会社レック（小さな結婚式、ラヴィ・ファクトリー）	株式会社レックを中核とするKSGグループは、「目の前の方に精一杯尽くし続ける」という企業理念を掲げ、冠婚葬祭の基軸に据え、異業種にも多角的に展開している総合カンパニーでございます。	1	文系学部 理系学部	2年生 3年生	対面のみ	1/31 ～ 3/31	6	東京都港区北青山3丁目11-7<Ao>アオ2FF

資料 11

○令和 6 （2024）年度　海外研修一覧

研修先	研修名	研修期間	募集人数	研修所在地
アメリカ合衆国	南イリノイ大学研修	08/15(木)～09/08(日)	15	1240 Lincoln Dr, Carbondale, IL 62901, USA
ベトナム	FPT 大学研修	08/04(日)～08/24(土)	15	8 Ton That Thuyet, My Dinh 2, Nam Tu Liem, Hanoi, Vietnam
大韓民国	慶熙大学研修	08/04(日)～08/27(火)	15	26 Kyun Sin Dong, Seoul, 02447, South Korea
オーストラリア	グリフィス大学研修	07/31(水)～08/17(土)	15	170 Kessels Rd, Nathan QLD 4111, Australia
カナダ	ヨーク大学研修	08/05(月)～08/25(日)	15	4700 Keele St, Toronto, ON M3J 1P3, Canada
マレーシア	トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学研修	08/05(月)～08/17(土)	15	1, Jalan Desa, Bandar Sri Damansara, 52200 Kuala Lumpur, Malaysia
チェコ	オストラヴァ大学研修	08/17(土)～09/01(日)	5	30. dubna 22, 701 03 Ostrava, Czech Republic
アメリカ	ジョージア州立大学研修	07/30(火)～08/12(月)	20	33 Gilmer St SE, Atlanta, GA 30303, USA
フランス	リヨン・カトリック大学研修	08/04(日)～09/01(日)	15	23 Quai Claude Bernard, 69007 Lyon, France
スペイン	アルカラ大学研修	07/30(火)～08/18(日)	15	Plaza de San Diego, s/n, 28801 Alcalá de Henares, Madrid, Spain
フィリピン	アテネオ大学研修	08/04(日)～08/25(日)	15	Katipunan Ave, Quezon City, 1108 Metro Manila, Philippines
大韓民国	慶南大学研修	08/04(日)～08/23(金)	4	7 Changshin-dong, Jinju, Gyeongsangnam-do, South Korea

アメリカ合衆国	南イリノイ大学研修	02/06(木)～03/10(月)	20	1240 Lincoln Dr, Carbondale, IL 62901, USA
フィリピン	フィリピン大学研修	02/02(日)～02/19(水)	20	Diliman, Quezon City, 1101 Metro Manila, Philippines
ベトナム	FPT 大学研修	02/09(日)～03/02(日)	20	8 Ton That Thuyet, My Dinh 2, Nam Tu Liem, Hanoi, Vietnam
マレーシア	マレーシア公開大学研修	02/16(日)～03/02(日)	20	1, Jalan Tun Ismail, 50480 Kuala Lumpur, Malaysia
大韓民国	昌原大学研修	02/02(日)～02/22(土)	20	20, Masan-dong, Changwon, Gyeongsangnam-do, South Korea
大韓民国	建国大学研修	02/03(月)～02/19(水)	20	120 Neungdong-ro, Gwangjin-gu, Seoul, 05029, South Korea
台湾	長栄大学研修	03/09(日)～03/22(土)	20	No. 2, Zhuangjin Road, Xitun District, Taichung City, Taiwan
メキシコ	グアナファト大学研修	02/10(月)～02/25(火)	14	Calle Cata, Guanajuato 36000, Mexico
フランス	ブルゴーニュ大学研修	02/08(土)～03/03(月)	15	6 Boulevard de la Faculté, 21000 Dijon, France
イタリア	シエナ外国人大学研修	02/02(日)～03/01(土)	15	Via Carlo Piaggia, 2, 53100 Siena, Italy
ドイツ	ライプツィヒ大学研修	02/23(日)～03/22(土)	15	Augustusplatz 10, 04109 Leipzig, Germany
ケニア	ナイロビ大学研修	02/07(金)～02/24(月)	15	University Way, Nairobi, Kenya
アメリカ合衆国	ポートランド州立大学研修	02/09(日)～02/19(水)	15	1825 SW Broadway, Portland, OR 97201, USA

資料 12

○学校法人創価大学教育職員就業規則（抜粋）

昭和56年４月１日規則第８号
最終改正　令和５年３月24日規則第８号

第７章　定年

（定年）

第31条　教員の定年は満65歳とし、定年に達した者は、その学年度の末日を退職日とする。

２　ただし、前項にかかわらず、平成14年３月末日以前に就任した教員（インストラクターを除く）の定年は70歳、昭和56年３月末日以前に就任した教員（インストラクターを除く）の定年は73歳とする。

３　専任教員の選択定年制に関しては、学校法人創価大学教育職員の選択定年制に関する規程（平成11年規程第216号）による。

資料 13

○学校法人創価大学契約教員規程（抜粋）

平成14年１月29日規程第254号
最終改正　令和５年１月23日規程第19号

（契約期間）

第５条　契約教員の契約期間については、３年以内とし、契約満了の年齢は、70歳を限度とする。但し、理事会が必要と認めた場合は、この限りではない。

２　契約教員が契約期間の満了を待たずに契約を終了する場合は、30日前までに退職願を提出しなければならない。

資料 14

○創価大学大学院担当教員任用特例規程

平成11年７月15日規程第219号

改正

平成12年10月７日
平成19年４月１日
平成27年１月31日規程第45号
令和５年１月23日規程第12号

（趣旨）

第１条　本学学則第29条第１項に定める専任教員のうち、学校法人創価大学教育職員就業規則第31条にかかわらず、大学院を担当することを主たる目的として、定年である年齢に達した専任教員を大学院担当教授または担当准教授（以下「担当教員」という。）として任用することができる。

２　前項にかかわらず、大学院の運営上、やむを得ぬ事情がある場合に限り、厳重な審査の上、定年年齢に達しない者を担当教員を任用することができる。

（任免）

第２条　担当教員は、学長が選考し、理事会が任免する。学長は、選考にあたり、担当教員の教育研究業績について、当該研究科委員会の意見を聴くものとする。

（職務）

第３条　担当教員の職務は、授業科目の授業と学位論文の作成等に対する指導担当のみとし、それ以外の専任教員としての職務を免除する。

２　担当教員は、研究科委員会に出席することができる。

（服務）

第４条　担当教員の服務その他この規程に定めるもの以外については、学校法人創価大学契約教員規程を準用する。

（定年）

第５条　担当教員の定年は、満75歳とする。満70歳以上定年に達するまでは、１年毎の改更を条件として任用し、定年に達した者は、その学年度の末日をもって退職日とする。

２　前項にかかわらず、第１条第２項を適用して任用した場合には、満70歳に達した学年度の末日をもって退職日とする。

（処遇）

第６条　担当教員の処遇については、学校法人創価大学契約教員給与規程を準用する。

附　則

この規程は、平成11年４月１日から施行する。

附　則（平成12年10月７日）

この規程は、平成12年10月１日から施行する。

附　則（平成19年４月１日）

この規程は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成27年１月31日規程第45号）

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

附　則（令和５年１月23日規程第12号）

この規程は、令和５年４月１日から施行する。

資料 15

○研究に係る規定等一覧

区分	規程等
研究費の不正使用防止	創価大学における公的研究費の不正使用防止規程 創価大学における研究費不正使用防止計画 創価大学競争的資金等の運営・管理に関わる全ての構成員の行動規範 学校法人創価大学取引停止等に関する規程
研究活動の不正行為防止	創価大学における研究活動の不正行為防止規程
研究に関する通報・告発	創価大学公的研究費及び研究活動の不正行為に関する通報・告発細則
研究倫理	創価大学人を対象とする研究倫理規程 創価大学人を対象とする研究倫理審査手続に関する細則 学校法人創価大学キャンパス・ハラスメント防止ガイドライン 創価大学利益相反マネジメントポリシー 創価大学利益相反マネジメント規程
学内研究費	創価大学個人研究費規程
研究推進制度	創価大学教員研究開発推進助成金規程 創価大学在外研究員に関する規程 創価大学特別研究員に関する規程
学外研究費	創価大学科学研究費補助金経理事務細則 創価大学における公的研究費補助金の立替えに関する内規 創価大学学術研究振興資金学内取扱内規 創価大学受託研究取扱規程 学校法人創価大学研究助成金取扱規程
補助金	創価大学「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」学内申請内規 創価大学私立大学等研究設備整備費等補助金学内申請内規
出張	創価大学教育職員出張規程 創価大学教育職員旅費規程
調達	学校法人創価大学調達規程 創価大学理工学部理化学消耗品調達システム運用規程
図書	創価大学研究室備付図書管理規程
安全保障輸出管理	創価大学安全保障輸出管理規程
その他	創価大学における学術学会等の会合会場引受内規 学校法人創価大学教育職員就業規則 学校法人創価大学経理規程 学校法人創価大学謝金等支払規程 学校法人創価大学取引停止等に関する規程 学校法人創価大学アルバイトの就業及び賃金等に関する規程

■グリーンテクノロジー学科 時間割案

資料16

春学期		1年次		2年次		3年次		4年次
月	1			国際情報英書講読 木下・宍戸【E201】		演習Ⅰ 各教員【各教員研究室】		卒業演習Ⅰ 各教員【各教員研究室】
	2	English Communication for Science Ⅰ 各教員【中央教育棟演習室】		気候変動科学論 クワハラ・カトリ【E201】				
	3	グリーンテクノロジー概論 黒沢・井田・佐藤・中崎・Kuwahara・青野・戸田【E203】	アカデミックライティングⅠ 各教員【中央教育棟演習室】	情報基礎論 亀田【E207】		水処理工学実験 井田・秋月【G101,RD101,RD102】	プランクトン工学実験 秋月・戸田【G101,RD101,RD102】	
	4	初等数学 松山【E208】		環境微生物学 黒沢【E203】				
	5			基礎統計学 長谷川【中央教育棟講義室】				
火	1	Foundations of Biology 川井【E208】		English for International Technical Cooperation Ⅰ Buschner【中央教育棟演習室】 English Ⅲ 各教員【中央教育棟演習室】		数理統計学Ⅰ 久保川【中央教育棟講義室】		
	2	初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー) 基幹教員全員【E408】		Pythonプログラミング演習 藤原(和)【E408】		データ分析演習 浅井(学)【中央教育棟講義室】		
	3		基礎グリーンテクノロジー実習 黒沢・久米川【G201】	Development Economics 内海【中央教育棟講義室】		環境マネジメント 野村【中央教育棟講義室】		
	4			No-Code Predictive Analytics with AI Ozturk【中央教育棟講義室】		国際ビジネス法 青野【E203】		
	5			生態学 戸田【E203】				
水	1			グリーンテクノロジー研究トピックス 基幹教員(久保川除く)【E203】				
	2			グリーンテクノロジー研究体験C クワハラ・亀田・青野【各教員研究室】	グリーンテクノロジー研究体験D 佐藤(伸)・黒沢・Khatri【各教員研究室】	プランクトン工学 秋月・戸田【E203】		
	3	基礎生物学 黒沢【E204】		公共政策(地域創生ビジネス) 青野【E201】		地球化学 カトリ【E208】		
	4	Foundations of Chemistry 川井【E208】		International Fieldwork Ⅰ 杉本・内海・Chan【中央教育棟演習室】		ビジネスプランニング演習 青野【E208】		
	5							
木	1			環境情報システム論 亀田【E203】				
	2			基礎統計学 兵頭【中央教育棟講義室】		土壌科学 佐藤(伸)【E204】		
	3	English Communication for Science Ⅰ 各教員【中央教育棟演習室】			環境管理システム実験 佐藤・亀田・久米川【F310】	Academic English for Science and Engineering Rundle【E204】		
	4					ライフサイクルアセスメント 菊池(康)【E204】	ライフサイクルアセスメント演習 菊池(康)【E204】	
	5							
金	1			国際技術協力論 北野(尚)【E207】		生態環境工学 戸田【E203】		
	2	基礎化学 新津【E201】		グリーンケミストリー入門 中崎【E203】		地球観測技術 クワハラ・亀田・カトリ【E204】		
	3			No-Code Predictive Analytics with AI Ozturk【中央教育棟講義室】		知的財産法概論 竹本【E207】		
	4			Development Economics 内海【中央教育棟講義室】				
	5							
集中講義								

※【】内の英数字は教室番号を表す
※集中講義は春休みに開講される授業を表す。秋学期中に事前登録を行うこと。

■グリーンテクノロジー学科 時間割案

秋学期		1年次	2年次	3年次	4年次
月	1			演習Ⅱ 各教員【各教員研究室】	卒業演習Ⅱ 各教員【各教員研究室】
	2	Foundations of Data Science 杉本(一)【中央教育棟講義室】	データサイエンス演習 藤原【E408】		
	3	English Communication for Science Ⅱ 各教員【中央教育棟演習室】	地球生態系モニタリング カトリ【E203】	生物反応工学 松山【E204】	
	4		熱力学 松山【E203】	機器分析学 池口【E207】	
	5			特別講義 佐藤・クワハラ【E203】	
火	1	国際情報技術交流史 石井【E204】	English for International Technical Cooperation Ⅱ Buschner【中央教育棟演習室】		
	2	プロジェクト・スタディーズ 佐藤・亀田・木下【E408】	Qualitative Research Methods McDonald・Chan【中央教育棟講義室】	マテリアルサイエンス 井田【E203】	
	3	国際ビジネス入門 青野【E203】	基礎微生物学実験 高瀬【E506】 / 環境微生物学実験 黒沢【E506】	数理統計学Ⅱ 久保川【中央教育棟講義室】	
	4			機械学習(AI)演習 浅井(学)【中央教育棟講義室】	
	5				
水	1		ビジネスイノベーション概論 青野【E204】		
	2	グリーンテクノロジー研究体験A 佐藤・黒沢・井田・クワハラ・青野【各教員研究室】 / グリーンテクノロジー研究体験B 中崎・松山・亀田・カトリ・秋月【各教員研究室】	English Ⅳ 各教員【中央教育棟演習室】		
	3	English Communication for Science Ⅱ 各教員【中央教育棟演習室】	植物生理学概論 久米川【E203】		
	4		AI-augmented Prescriptive Operations Analytics Ozturk【中央教育棟講義室】		
	5				
木	1				
	2	Foundations of Data Science 杉本(一)【中央教育棟講義室】	グリーンテクノロジーとキャリア 黒沢・青野【E203】	廃棄物処理工学 中崎【E208】	
	3	化学実験 池口・新津・関 【E501, E506】	Qualitative Research Methods McDonald・Chan【中央教育棟講義室】	環境分析化学実験 佐藤・カトリ・秋月 【G101】 / 生物反応工学実験 井田・松山・新津 【G101】	
	4				
	5				
金	1	データサイエンス入門 服部・折本・杉本(一)【中央教育棟講義室】	Topics in Science and Engineering 松山・井田・川井・木下・篠宮【E206】	多変量解析 久保川【中央教育棟講義室】	
	2	地球科学概論 クワハラ・カトリ・浅井(和)【E207】	AI-augmented Prescriptive Operations Analytics Ozturk【中央教育棟講義室】	粉体工学概論 松山【E204】	
	3			地球科学実験 カトリ・戸田・浅井(和)【G201】	
	4		国際技術協力演習 佐藤・秋月【E207】		
	5				
集中講義			グリーンテクノロジー研究体験E 松山・秋月・井田【E203】	海洋観測実習 クワハラ・戸田【学外】	

※【】内の英数字は教室番号を表す
※集中講義は夏休みに開講される授業を表す。春学期中に事前登録を行うこと。

資料 17

○創価大学大学教育研究評議会規程

平成22年３月27日規程第387号

改正

平成27年１月31日規程第61号
平成29年５月27日規程第20号
令和４年５月26日規程第２号

（趣旨）

第１条　創価大学学則（以下「学則」という。）第33条第４項に規定する大学教育研究評議会（以下「大学評議会」という。）については、この規程の定めによる。

（構成）

第２条　大学評議会は、学則第35条第１項に定める教職員をもって構成する（以下「大学評議会委員」という。）。

２　前項のほか、学長が認めるものは、大学評議会に出席することができる。ただし、議決権を有しない。

（任期）

第３条　学則第35条第１項第５号の大学評議会委員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

２　前項の大学評議会委員は、各学部の選出に基づき、学長がこれを委嘱する。

３　第１項の大学評議会委員が委員の任に付く事ができない場合は、補欠の委員を選出することができる。ただし、補欠の委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

４　第１項以外の大学評議会委員の任期は、当該役職の任期とする。

（学部教授会への報告）

第４条　大学評議会委員である学部長は、大学評議会において議決した事項及び報告された事項について、大学評議会で別段の申合せを行ったものを除き、必要に応じて当該学部教授会に報告する。

２　学部教授会に出席しない専任教員に対しては、大学評議会委員の中から担当を決め、前項に準じて報告を行なう。

（規程の改廃）

第５条　この規程の改廃は、大学評議会の議を経て理事会が行う。

（庶務）

第６条　大学評議会の事務は、学事部学事第１課が担当する。

（雑則）

第７条　この規程に定めるもののほか、大学評議会の運営に関して必要な事項は、大学評議会が定

める。

附　則

この規程は、平成22年４月１日から施行する。

附　則（平成27年１月31日規程第61号）

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

附　則（平成29年５月27日規程第20号）

この規程は、平成29年６月１日から施行する。

附　則（令和４年５月26日規程第２号）

この規程は、令和４年５月26日から施行し、令和３年４月１日に遡及して適用する。

資料 18

○創価大学学部教務委員会通則

昭和59年４月１日規程第101号

改正

昭和63年３月22日
平成23年３月24日規程第23号
平成26年３月22日規程第56号
令和２年３月26日規程第19号

（設置）

第１条　各学部に教務に関する事項を審議するため、学部教務委員会（以下「委員会」という）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、学部に関する次の事項を審議する。

（１）　教育課程の編成に関する事項
（２）　授業の計画及び実施に関する事項
（３）　試験及び成績に関する事項
（４）　学長の諮問事項
（５）　大学教育研究評議会、学部教授会及び教務委員会の付託事項
（６）　その他教務に関する事項

（構成）

第３条　委員会は、次の委員をもって構成する。

（１）　学部長
（２）　副学部長
（３）　教授会において、その構成員から選出された教員若干名
（４）　教授会において選出された、大学設置基準第10条の２に定める実務家教員若干名

２　前項第４号の委員は、第２条第１項第１号の審議を行う際に出席するものとする。

３　委員長には、学部長をあてる。

（任期）

第４条　前条第１項第３号の委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

２　補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第５条　会議は、必要に応じてこれを開く。

２　会議は、委員長が招集し、その議長となる。ただし、委員長に支障のあるときは、委員長が指名する委員がその職務を代行する。

附　則

1　この規程は、昭和59年４月１日から施行する。

2　この規程施行のさい、創価大学教務委員会規程（規程第14号）は、廃止する。

附　則（昭和63年３月22日）

この規程は、昭和63年４月１日から施行する。

附　則（平成23年３月24日規程第23号）

この規程は、平成23年３月24日から施行し、平成22年４月１日に遡及して適用する。

附　則（平成26年３月22日規程第56号）

この規程は、平成26年４月１日から施行する。

附　則（令和２年３月26日規程第19号）

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

資料 19

○創価大学自己点検・評価実施規程

平成５年４月１日規程第165号

改正

平成９年４月１日
平成12年３月27日
平成15年３月27日
平成16年３月29日
平成17年７月16日
平成20年４月１日
平成22年３月27日規程第29号
平成23年３月24日規程第49号
平成25年５月21日規程第５号
平成25年９月４日規程第14号
平成28年３月25日規程第42号
平成29年５月27日規程第14号
平成31年３月22日規程第58号
令和２年３月26日規程第81号
令和３年３月26日規程第42号
令和５年１月23日規程第13号

（目的）

第１条　この規程は、創価大学学則・創価大学通信教育部学則の各第１条の２並びに創価大学大学院学則第２条に基づき、創価大学の自己点検・評価の実施に関する事項を定める。

（対象）

第２条　自己点検・評価の対象は、教育、研究及び管理運営の各分野とする。

２　自己点検・評価の分野・項目等の具体的な内容は、創価大学内部質保証推進委員会（以下、「推進委員会」という。）の指示を踏まえ、全学自己点検・評価委員会が実施の都度決定する。

（委員会）

第３条　自己点検・評価を実施するために全学自己点検・評価委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

２　委員会のもとに次の分科会を置く。

（１）　各学部評価分科会
（２）　学士課程教育機構評価分科会
（３）　通信教育部評価分科会
（４）　各研究科評価分科会
（５）　教職課程評価分科会
（６）　研究所評価分科会
（７）　日本語・日本文化教育センター評価分科会

（８） アドミッションズセンター評価分科会
（９） 学生支援評価分科会
（10） 教育研究等環境評価分科会
（11） 財務評価分科会
（12） 情報公開評価分科会
（13） 社会連携・社会貢献評価分科会
（14） 大学運営評価分科会
３　前項各号の分科会は、必要に応じて専門検討部会を設置することができる。

（委員長等）
第４条　委員会に委員長と副委員長を置く。
２　委員長は学長が指名する。
３　副委員長は委員長が指名する。

（委員会の構成）
第５条　委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
（１） 副学長
（２） 各評価分科会主査
（３） 教務部長
（４） 学生部長
（５） キャリアセンター長
（６） アドミッションズセンター長
（７） 国際部長
（８） 本部事務局長
（９） 大学事務局長
（10） その他委員長の指名する者
２　その他各分科会の構成は次の通りとする。
（１） 各学部評価分科会　各学部長を主査とし、他に各学部の組織規模に応じた若干名の委員及び各学部事務長
（２） 学士課程教育機構評価分科会　学士課程教育機構長を主査とし、他に学士課程教育機構の教職員若干名
（３） 通信教育部評価分科会　通信教育部長を主査とし、他に通信教育部の委員若干名及び通信教育部事務長
（４） 各研究科評価分科会　各研究科長を主査とし、他に各研究科の組織規模に応じた若干名の委員、法科大学院・教職大学院各事務長及び委員長が委嘱する職員若干名
（５） 教職課程評価分科会　教職キャリアセンター長を主査とし、他に教職課程を設置する学部・研究科の教員および教職キャリアセンター職員
（６） 研究所評価分科会　委員長が委嘱する教員を主査とし、他に各研究所長及び運営委員会委員長
（７） 日本語・日本文化教育センター評価分科会　日本語・日本文化教育センター長を主査とし、他に若干名の委員及び国際部職員若干名

（８） アドミッションズセンター評価分科会　アドミッションズセンター長を主査とし、他に委員長が委嘱する教職員若干名
（９） 学生支援評価分科会　委員長が委嘱する者を主査とし、他に学生部、教務部、キャリアセンターの教職員若干名
(10) 教育研究等環境評価分科会　委員長が委嘱する者を主査とし、他に教職員若干名
(11) 財務評価分科会　財務部長を主査とし、他に委員長が委嘱する職員若干名
(12) 情報公開評価分科会　企画部長を主査とし、他に委員長が委嘱する教職員若干名
(13) 社会連携・社会貢献評価分科会　地域・産学連携センター長を主査とし、他に委員長が委嘱する教職員若干名
(14) 大学運営評価分科会　本部事務局長を主査とし、他に委員長が委嘱する職員若干名
3　委員会は、必要に応じて作業部会を設けることができる。
4　委員会及び分科会は、学生の代表を構成員とすることができる。

（委員会及び分科会の成立）
第６条　委員会及び分科会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。
2　委員会及び分科会の議事は、出席委員の過半数をもって決する。

（任期）
第７条　委員会及び分科会の委員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
2　補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員会の任務）
第８条　委員会は、自己点検・評価の実施に関する次の事項について審議する。
（１） 自己点検・評価の実施組織等の体制
（２） 自己点検・評価の実施に関する規程の作成、改廃
（３） 自己点検・評価実施の組織単位
（４） 自己点検・評価の体系（視点・分野・項目）の設定
（５） 自己点検・評価の実施重点分野の設定
（６） 自己点検・評価結果の取り扱い
（７） 自己点検・評価の実施の周期
（８） その他必要と認めた事項
2　委員会は自己点検・評価の実施体制、実施方法、評価結果の活用等について定期的に見直しを行い、自己点検・評価制度の改善に努める。
3　委員会は、各分科会から提出された報告書に基づき、今後の大学の改善・充実策を検討のうえ、「創価大学自己点検・評価報告書」を作成し、学長、推進委員会及び理事長に報告する。
4　委員会は、前項の報告書に基づいて、推進委員会から改善指示があった場合は、これに対応し、改善状況を報告する。

（各分科会の任務）
第９条　第３条第２項に定める各分科会は次の任務を行う。
（１） 自己点検・評価項目の小項目等の設定

（２） 各分科会の運営に関する事項

２　各分科会は、第２条２項によって決定した項目について自己点検・評価を行い、委員会に提出する。

（企画調査室の設置・任務）

第10条　委員会のもとに企画調査室を設置する。

２　企画調査室に室長（１名）、副室長（３名以内）及び室員（若干名）を置く。

３　企画調査室の室長、副室長及び室員は教職員の中から学長が任命する。

４　企画調査室は、自己点検・評価の実施に関する企画・情報収集・広報・連絡調整及び報告書の作成に必要な事務を担当する。

５　企画調査室は、必要に応じて委員会・分科会にオブザーバーとして出席することができる。

（結果の公表）

第11条　自己点検・評価の結果は、本学ホームページ及び広報誌で公表する。

（結果の活用）

第12条　理事長及び学長は、自己点検・評価を実施した結果、改善が必要であると認めた事項について、大学の将来計画において、速やかに有効かつ具体的な措置を講ずるものとする。

２　各構成員、各機関・部局は、自己点検・評価の結果を積極的に活用して教育研究条件の向上、教育研究組織の充実及び管理運営の改善をはかり、大学の発展に役立てるよう努めるものとする。

３　自己点検・評価の結果について本学教職員以外の者による検証を行うことに努めるものとする。

（規程の改廃）

第13条　この規程の改廃は、委員会の議を経なければならない。

附　則

この規程は、平成５年４月１日から施行する。

附　則（平成９年４月１日）

この規程は、平成９年４月１日から施行する。

附　則（平成12年３月27日）

この規程は、平成12年４月１日から施行する。

附　則（平成15年３月27日）

この規程は、平成15年４月１日から施行する。

附　則（平成16年３月29日）

この規程は、平成16年４月１日から施行する。

附　則（平成17年７月16日）

この規程は、平成17年８月１日から施行する。

附　則（平成20年４月１日）
この規程は、平成20年４月１日から施行する。

附　則（平成22年３月27日規程第29号）
この規程は、平成22年４月１日から施行する。

附　則（平成23年３月24日規程第49号）
この規程は、平成23年４月１日から施行する。

附　則（平成25年５月21日規程第５号）
この規程は、平成25年５月21日から施行する。

附　則（平成25年９月４日規程第14号）
この規程は、平成25年９月４日から施行する。

附　則（平成28年３月25日規程第42号）
この規程は、平成28年４月１日から施行する。

附　則（平成29年５月27日規程第14号）
この規程は、平成29年６月１日から施行する。

附　則（平成31年３月22日規程第58号）
この規程は、平成31年４月１日から施行する。

附　則（令和２年３月26日規程第81号）
この規程は、令和２年４月１日から施行する。

附　則（令和３年３月26日規程第42号）
この規程は、令和３年４月１日から施行する。

附　則（令和５年１月23日規程第13号）
この規程は、令和５年２月１日から施行する。

資料 20

○創価大学内部質保証ポリシー

平成25年５月27日制定（ポリシー）

改正

令和３年３月26日ポリシー第４号

1. 内部質保証に関する大学の基本的な考え方

創価大学（以下、本学という）の目的は、創立者池田大作先生が示された建学の精神を基盤として、あらゆる分野で新たな価値を創造していく「創造的人間」を育成することである。この目的を達成するために、教育、研究および社会貢献活動が適切であることを自らの責任で説明・証明する必要がある。

本学が建学の精神を堅持し、永続的に発展するためには、自己点検・評価活動が円滑に改善・改革につながるよう、恒常的・継続的なプロセス、いわゆる内部質保証システムを構築し、有効に機能させることが重要であると考える。

ついては、本学における内部質保証に関する基本姿勢として以下のポリシーを掲げる。

（１） 本学は、認証評価を含む自己点検・評価活動をとおし、継続的な諸事業の改善・改革を行い、もって社会に対する質保証の責任を果たす。

（２） 本学の自己点検・評価活動は、本学の教育・研究活動及び関連する業務をその対象とする。

（３） 本学の教育・研究活動及び関連する諸活動について、その方針、到達目標を明確にするよう努める。また、方針、到達目標の妥当性を定期的に検証する。

（４） 自己点検・評価活動においては、エビデンスを重視する。また、分析のための評価指標の開発に努める。

（５） 自己点検・評価活動の客観性、公平性を担保するため、外部評価を積極的に行う。

（６） 「学生中心の大学」を標榜する大学として、内部質保証推進のため、学生の意見聴取に努める。

（７） 内部質保証の取り組みを、ステークホルダーに積極的に公表する。

（８） 大学全体の内部質保証は「内部質保証推進委員会」がその責任を担う。

（９） 各学部・研究科及び各部局は、それぞれの教育・研究活動等について、主体的・自律的に質保証を行う。

2. 内部質保証推進委員会の権限と役割

（権限）

内部質保証推進委員会（以下、推進委員会）は、本学の各組織が実施する自己点検・評価の結果に基づき、改善方策を提示し、関連部局に指示する権限を有する。

（役割）

関連部局と連携して改善を図るとの目的のため、次に掲げる役割を担う。

（１） 内部質保証を推進する体制の整備、運用、検証及び改善方針の立案

（２） 自己点検・評価活動に関する方針の策定

（３） 自己点検・評価の適切性及び有効性の点検・評価

（４） 全学自己点検・評価委員会及び各学部・研究科及び各部局への指示

（５） 内部質保証システム自体の適切性及び有効性の点検・評価の実施

（６） その他本学の内部質保証に関する業務

3. 内部質保証推進委員会と学部、研究科その他の組織との役割分担

（１） 各学部・研究科及び各部局における自己点検・評価活動の具体的な内容は、推進委員会の指示を踏まえ、全学自己点検・評価委員会が決定する。

（２） 全学自己点検・評価委員会は、各学部・研究科等で構成される分科会から提出された報告書に基づき、今後の大学の改善・充実策を検討のうえ、「創価大学自己点検・評価報告書」を作成し、学長、推進委員会及び理事長に報告する。

（３） 前項の報告書について、推進委員会から改善指示があった場合は、これに対応する。

（４） 各学部・研究科及び各部局は、それぞれの教育プログラム及び諸活動について主体的・自律的に点検・評価を行い、質保証の責任を自ら担うこととする。

4. 教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上のための指針

（１） 推進委員会は、３つの方針（卒業認定・学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び学生の受け入れ方針）を踏まえ、教育の企画・設計から運用、検証及び改善・向上のためのＰＤＣＡサイクルを明確にし、円滑に機能させることに努める。

（２） 卒業認定・学位授与方針に明示している学習成果については、大学全体及び学部・研究科において策定したアセスメント・ポリシーに基づく測定・検証を行い、改善・向上を図り、教育の企画・設計に反映させることとする。

附　則（令和３年３月26日ポリシー第４号）

このポリシーは、令和３年４月１日から施行する。

資料 21

○創価大学内部質保証推進体制及び手続きに関する規程

平成31年３月22日規程第512号

改正

令和３年３月26日規程第41号

令和４年１月22日規程第25号

（目的）

第１条　この規程は、創価大学の（以下「本学」という。）内部質保証に関する基本方針に基づき、内部質保証推進のための体制と手続きに関し必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　この規程において内部質保証とは、本学の目的を達成するために、教育、研究及びその他の諸活動が適切であることを自らの責任で説明・証明する恒常的・継続的活動をいう。

（内部質保証の責務）

第３条　本学及び本学を構成する組織及び教職員は、それぞれの業務について、内部質保証に努めなければならない。

（自己点検・評価の責務）

第４条　本学及び本学を構成する組織及び教職員は、内部質保証を適切に行うために、それぞれの業務について自己点検・評価を実施しなければならない。

２　本学の自己点検・評価は、全学自己点検・評価委員会（以下「点検・評価委員会」という。）が統括する。

（自己点検・評価の実施）

第５条　本学は、創価大学自己点検・評価実施規程に基づき、点検・評価委員会のもと、自己点検・評価を行い、報告書を作成する。

２　点検・評価委員会は、前項の自己点検・評価の実施及びその結果に関して報告書を作成し、学長に提出しなければならない。

３　自己点検・評価を実施する組織は、積極的に学生の意見を取り入れることに努める。

（内部質保証推進委員会の設置）

第６条　本学に、内部質保証をつかさどる組織として、創価大学内部質保証推進委員会（以下「推進委員会」という。）を置く。

（推進委員会の目的）

第７条　推進委員会は、３つの方針（卒業認定・学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び学生の受け入れ方針）を踏まえた適切性にかかる点検・評価体制を確立させ、有効に運用させることを目的とする。

２　前項を達成するため、本学を構成する組織及び教職員が実施する自己点検・評価の結果に基づ

き、改善方策を提示し、関連部局に指示、連携して改善を図ることを目的とする。

（推進委員会の業務）

第８条　推進委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

（１）　内部質保証を推進する体制の整備、運用、検証及び改善方針の立案

（２）　自己点検・評価活動に関する方針の策定

（３）　自己点検・評価の適切性及び有効性の点検・評価

（４）　点検・評価委員会及び各学部・研究科及び各部局への指示

（５）　内部質保証システム自体の適切性及び有効性の点検・評価の実施

（６）　その他本学の内部質保証に関する業務

（各学部等における内部質保証）

第９条　各学部・研究科及び各部局は、それぞれの教育プログラム及び諸活動について主体的・自律的に点検・評価を行い、質保証の責任を自ら担うこととする。

（優先事項）

第10条　推進委員会は、大学における教育の質保証の重要性に鑑み、次に掲げる事項を優先的に取扱うものとする。

（１）　授業の内容及び方法

（２）　教育課程及び教育プログラムの編成に関する全学的な方針の策定

（３）　学修成果及びその測定

（４）　教育環境及び教育施設

（５）　教育組織編制及び教員組織編制

（６）　学生支援

（７）　自己点検・評価に提示された証拠データ

（８）　自己点検・評価に関する情報の公開

（委員会の構成）

第11条　推進委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

（１）　学長

（２）　副学長

（３）　学部長

（４）　通信教育部長

（５）　研究科長

（６）　学士課程教育機構長

（７）　教務部長

（８）　学生部長

（９）　アドミッションズセンター長

（10）　キャリアセンター長

（11）　国際部長

（12）　研究推進センター長

(13) 企画調査室長
(14) ＩＲ室長
(15) 大学事務局長
(16) 学長が指名する者
2　推進委員会は、必要に応じて、委員以外の者を会議に陪席させることができる。

（委員長）
第12条　推進委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。
2　推進委員会に副委員長を置き、教学担当副学長をもって充てる。
3　副委員長は、委員長の命を受けたとき委員長の職務を代行する。

（委員会の運営）
第13条　委員長は、委員会を招集し、議長となる。
2　推進委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。
3　推進委員会の議決は、出席した委員の過半数の同意により行い、可否同数のときは委員長の判断により決する。

（事務）
第14条　推進委員会の事務は、大学評価・ＩＲ事務室が行う。

（改廃）
第15条　この規程の改廃は、推進委員会の議を経て学長が行い、理事会の承認を得るものとする。

附　則
この規程は、平成31年４月１日から施行する。

附　則（令和３年３月26日規程第41号）
この規程は、令和３年４月１日から施行する。

附　則（令和４年１月22日規程第25号）
この規程は、令和４年４月１日から施行し、令和３年９月１日に遡及して適用する。

資料 22

○創価大学全学協議会規則

昭和49年４月２日

改正

昭和52年４月２日
昭和60年４月２日
昭和62年４月２日
昭和63年４月２日
平成４年５月23日
平成８年10月１日
平成19年４月１日
平成25年９月４日規則第２号
令和４年８月10日規則第１号
令和５年８月２日規則第10号

学園紛争の嵐がふきすさび、大学がその理想と使命を忘れかけようとしていたとき、わが創価大学は、創立者池田大作先生によって提唱された建学の理念を掲げて、人類の新たな未来にむかって力強い第一歩を踏み出した。われわれは、この建学の理念に賛同し、真に新しい学問の府を建設するために、本学に集い来たった朋友であることを確認する。

本来大学は、構成員すべての主体的な参加により、英知を結集してはじめて建設できるものである。しかも本学は、開学の当初から学生参加の原則による理想的な学園共同体の建設を志向してきた。この原則に則り、ここに全学の総意に基づき全学協議会の発足をみるにいたったのである。

もとより大学は、立場を異にするさまざまな構成員から成り立っている。これらの構成員の固有の権利と役割は最大限に尊重されなければならないことはいうまでもない。しかし、ともすればそれぞれが自己の立場に固執しがちであることも事実である。

したがって、われわれは、建学の理念のもとに相互に深い信頼と強い連帯の絆によって結ばれ、全学協議会の活動を基盤として、本学の歴史と伝統を築き、時代の要望に応える真の人間教育のあり方をひろく社会に提示しようとするものである。

（名称）

第１条　この組織は、創価大学全学協議会（以下「協議会」という。）と称する。

（事務所）

第２条　協議会は、事務所を、東京都八王子市丹木町１－236創価大学内に置く。

（目的）

第３条　協議会は、創立者池田大作先生の建学の精神に基づき、全学一体となって健全な学風を確立し、理想的な学園共同体を建設することを目的とする。

（創立者と協議会）

第４条　創立者は、協議会に指針を与え、この規則に基づくすべての会議に出席し、意見を述べる

ことができる。
2　協議会は、前項の指針及び意見を尊重し、その実現に努力しなければならない。

（任務と権限）
第５条　協議会は、第３条の目的を達成するために、次の諸活動を行う。
（１）　学内諸問題の連絡、協議及び調整を行うこと。
（２）　本協議会が必要と認めた事項については、これを、学長、学生部会、院生部会、理事会、教員部会（助手含む）、職員部会（以下「学内諸機関」という。）のうちの直接関係ある機関に要請し、又は勧告を行うこと。
2　前項第２号の勧告をうけた機関は、その勧告内容を十分に尊重し、審議して、その結果を協議会に報告しなければならない。

（構成）
第６条　協議会は、次の委員をもって構成する。
（１）　学長
（２）　学生部会　19名以内（中央執行委員長を含む）
（３）　院生部会　３名以内
（４）　理事会　４名以内（ただし、うち１名は理事長とする。）
（５）　教員部会（助手含む）　12名以内（ただし、うち１名は副学長とし、他は各学部長・学生部長・教務部長及び国際部長とする。）
（６）　職員部会　７名以内（株式会社　創学サービス代表１名を含む）

（任期）
第７条　委員の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。
2　補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。
3　委員は、その任期終了後でも、後任者が就任するまでは、なおその任務を行うものとする。

（議長）
第８条　協議会に議長を置き、議長には学長をあてる。ただし、議長にさしつかえあるときは、あらかじめ議長が指名した委員が議長を代行する。

（招集）
第９条　協議会は、原則、隔月で１回、定例会議を開き、議長がこれを招集する。
2　議長が必要と認めたときは、臨時会議を招集することができる。委員総数の３分の１以上の要求があったときは、議長はこれを招集しなければならない。
3　議長は、前２項の会議の少なくとも５日前に、その日時、場所及び議題を各委員に対して文書で通知し、かつ、学内にこの旨を公告しなければならない。ただし、緊急の場合はこの限りではない。

（成立）
第10条　協議会は、委員総数の３分の２以上の出席がなければ、議事を開くことができない。

（議決）

第11条　協議会の議事は、出席委員全員の合意により決することを本旨とするが、とくに議長が議決を行う必要があると認めた場合は、その議事は出席委員の３分の２以上の賛成により決するものとする。

（各種委員会）

第12条　協議会は、その活動を推進するために、各種の委員会をもうけることができる。

（運営委員会）

第13条　協議会の運営を円滑ならしめるために、協議会に運営委員会を置き、その委員長には議長をあてる。

２　運営委員会は、議長及び学内諸機関（ただし、学長を除く。）から選出される各１名の委員（計６名）をもって構成する。

３　運営委員会は、議題の整理、会議の準備、議事録の作成、広報活動等を行う。

（代理人）

第14条　協議会の会議に、委員が都合で出席できないときは、必要に応じてその委員の選出機関に所属する者が、代理人として出席することができる。ただし、事前に議長の許可を得なければならない。

（委員以外の出席者）

第15条　出席委員の３分の２以上の承認があったときは、協議会の定例会議及び臨時会議に、委員以外の者が出席することができる。

２　前項の出席者は、関係議題について意見を述べることができる。ただし、議決権はこれをもたない。

（公開）

第16条　協議会の定例会議及び臨時会議の議事録の閲覧を希望する者は、その所属機関の運営委員を通じ、議長の許可を得るものとする。

２　協議会の定例会議及び臨時会議に傍聴を希望する者は、その所属機関の運営委員を通じ、事前に議長の許可を得るものとする。

３　議長は、議事の円滑な運営を妨げる傍聴人に対し、退場を命ずることができる。

（細則）

第17条　協議会は、その運営に関する細則を別に定めることができる。

（改廃）

第18条　この規則の改廃は、協議会の議決を得たのち、学内諸機関の承認がすべて得られたときに発効する。

附　則

この規則は、昭和49年４月２日から施行する。

附　則（昭和52年４月２日）

この規則は、昭和52年４月２日から施行する。

附　則（昭和60年４月２日）

この規則は、昭和60年４月２日から施行する。

附　則（昭和62年４月２日）

この規則は、昭和62年４月２日から施行する。

附　則（昭和63年４月２日）

この規則は、昭和63年４月２日から施行する。

附　則（平成４年５月23日）

この規則は、平成４年４月２日から施行する。

附　則（平成８年10月１日）

この規則は、平成８年10月１日から施行する。

附　則（平成19年４月１日）

この規則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成25年９月４日規則第２号）

この規則は、平成25年９月４日から施行する。

附　則（令和４年８月10日規則第１号）

この規則は、令和４年８月10日から施行する。

附　則（令和５年８月２日規則第10号）

この規則は、令和５年８月２日から施行する。

資料 23

○学校法人創価大学情報公開規程

平成25年３月29日規程第410号

改正

平成27年１月31日規程第31号
平成29年５月27日規程第９号
令和２年５月25日規程第８号

（目的）

第１条　本規程は、学校法人創価大学（以下「本法人」という。）が保有する情報の公開に関し、必要な事項を定めることにより、本法人の活動に関する社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い運営を実現し、教育研究の質の向上に資することを目的とする。

（定義）

第２条　本規程における「公開」とは、本法人が保有する情報を広く社会に公表することをいう。

２　この規程における「本法人」とは、創価大学、創価女子短期大学とする。

（情報の公開）

第３条　本法人は、次の各号に定める情報について、ホームページ等を通じて公開する。

（１）　学校法人及び学校の基本情報
（２）　財務及び経営に関する情報
（３）　監査に関する情報
（４）　寄附行為
（５）　役員等名簿（理事、監事及び評議員の氏名及び住所を記載した名簿をいい、個人の住所に係る記載の部分を除いたもの。以下同じ。）
（６）　役員の報酬等の支給基準に関する情報
（７）　教育活動に関する情報
（８）　研究活動に関する情報
（９）　学生生活・課外活動に関する情報
(10)　社会貢献・連携活動に関する情報
(11)　進路・進路支援に関する情報
(12)　校地・校舎等の施設・設備に関する情報
(13)　大学評価に関する情報
(14)　コンプライアンスに関する情報
(15)　学則・諸規程等に関する情報

２　前項の規定にかかわらず、本法人は、公開情報以外の情報についても、必要に応じ公開に努めるものとする。

（情報の管理・公開の義務）

第４条　学校法人創価大学事務組織規程に定める事務組織（以下「各事務組織」という。）の部長・事務長・事務部長は、それぞれの所管事務にかかる情報（以下「所管情報」という。）を適正に

管理し、本規程に基づき公開しなければならない。
2　前項の部長・事務長・事務部長は各事務組織の情報公開責任者（以下「情報責任者」という。）となる。

（情報の適正管理）
第５条　情報責任者及び各部署は、所管情報の漏洩、滅失、毀損及び改ざんの防止のために必要な措置を講じなければならない。

（関係法令等の遵守）
第６条　情報責任者は、所管情報の管理・公開において、関係法令、契約による義務及び関連する諸規程等を遵守しなければならない。

（事務）
第７条　この規程における情報の管理及び公開に関する事務のうち、各部署に関する事項は各部署で処理し、それ以外のホームページ等による公開に関する事務は企画部が行う。

附　則
この規程は、平成25年４月１日から施行する。

附　則（平成27年１月31日規程第31号）
この規程は、平成27年１月31日から施行する。

附　則（平成29年５月27日規程第９号）
この規程は、平成29年６月１日から施行する。

附　則（令和２年５月25日規程第８号）
この規程は、令和２年５月25日から施行する。

資料 24

○創価大学ファカルティ及びスタッフ・ディベロップメント委員会規程

平成20年４月１日規程第344号

改正

平成22年３月27日規程第53号
平成23年９月13日規程第11号
平成26年12月20日規程第17号
平成30年５月21日規程第５号
平成31年３月22日規程第63号
令和２年３月26日規程第84号
令和３年３月26日規程第76号

（趣旨）

第１条　本学に、職員の教育研究活動の向上を目的として不断に検討を行い、その改善、充実を図るために、ファカルティ及びスタッフ・ディベロップメント委員会（以下「ＦＤ・ＳＤ委員会」という。）を置く。

２　本規程における職員には、教育職員、事務職員、技術職員等及び学長等の大学執行部が含まれる。

３　ファカルティ・ディベロップメント（以下「ＦＤ」という。）とは、大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究のことをいう。

４　スタッフ・ディベロップメント（以下「ＳＤ」という。）とは、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修のことをいう。ただし、第３項に該当する研修は除く。

５　第４項のうち、事務職員に関するＳＤについては、別途、「学校法人創価大学職員研修規程」に定める。

（審議事項）

第２条　ＦＤ・ＳＤ委員会は、次の各号に掲げるＦＤ及びＳＤの改善、充実の方策に関する事項を審議する。

（１）　授業の内容及び方法の改善を図る方策に関する事項
（２）　大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を行う上で必要となる様々な知識等の習得、向上を図る方策に関する事項
（３）　研修会及び講習会の開催に関する事項
（４）　学生による授業評価の実施、結果の分析及び利用に関する事項
（５）　教育・学習に係る各種ポートフォリオに関する事項
（６）　大学改革推進等補助金による事業の継続推進に関する事項
（７）　その他、ＦＤ・ＳＤ委員会が必要と認めた事項

（構成）

第３条　ＦＤ・ＳＤ委員会は、次の委員をもって構成する。

（１）　学長の指名する副学長

（２） 教務部長及び教務部副部長
（３） 各学部長
（４） 学士課程教育機構長及び副機構長
（５） 総合学習支援センター長
（６） 教育・学習支援センター長
（７） 教務部事務部長
（８） 学事部長
（９） 学長が委嘱する教職員若干名
２　委員長は、前項第１号の委員をあてる。委員長に支障のあるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

（任期）
第４条　委員の任期は、職務上委員となるものを除き２年とする。ただし、再任を妨げない。
２　補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）
第５条　会議は、委員長が必要と認めたときに招集し、委員長が議長となる。
２　会議は、構成員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決定する。

（専門委員会）
第６条　ＦＤ・ＳＤ委員会は、必要に応じて専門委員会を置くことができる。
２　専門委員会の委員長及び委員は、ＦＤ・ＳＤ委員会の議を経て、学長が任命する。
３　専門委員会の委員の任期は、２年とし、再任を妨げない。

（事務）
第７条　ＦＤ・ＳＤ委員会の事務は、総合学習支援オフィス学習支援課が担当する。

附　則
この規程は、平成20年４月１日から施行する。

附　則（平成22年３月27日規程第53号）
この規程は、平成22年４月１日から施行する。

附　則（平成23年９月13日規程第11号）
この規程は、平成23年９月13日から施行し、平成23年９月１日に遡及して適用する。

附　則（平成26年12月20日規程第17号）
この規程は、平成26年12月20日から施行する。

附　則（平成30年５月21日規程第５号）
この規程は、平成30年５月21日から施行する。

附　則（平成31年３月22日規程第63号）

この規程は、平成31年４月１日から施行する。

附　則（令和２年３月26日規程第84号）

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

附　則（令和３年３月26日規程第76号）

この規程は、令和３年４月１日から施行する。

資料 25

○創価大学キャリア委員会規程

平成22年３月27日規程第384号

改正

平成26年３月22日規程第54号
平成30年２月17日規程第112号
令和３年３月26日規程第75号

（設置）

第１条　本学に進路・就職に関連する重要事項を審議するため、創価大学キャリア委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（審議）

第２条　委員会は、次の事項を審議する。

（１）　進路・就職支援の方針に関する事項
（２）　進路の数値目標に関する事項
（３）　キャリア教育及びキャリア教育科目に関する事項
（４）　就職に関する事項
（５）　資格取得に関する事項
（６）　常任理事会及び学長の諮問事項
（７）　その他全学にわたる進路・就職に関する事項

（構成）

第３条　委員会は次の各号に掲げる委員をもって構成する。

（１）　学長の指名する副学長
（２）　キャリアセンター長
（３）　大学事務局長
（４）　キャリアセンター部長
（５）　看護学部を除く各学部の代表１名
（６）　各学部の事務長
（７）　学長の指名する教職員

２　委員長には、前項第１号の者を充てる。委員長に支障のある時は、第２号の者を充てる。

（任期）

第４条　委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

２　補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第５条　会議は、委員長が招集し、その議長となる。ただし、委員長に支障のある時は、あらかじめ定める委員が代行する。

２　会議は、構成員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決定する。

（庶務）
第６条　委員会の庶務は、キャリアセンターが担当する。

附　則
１　この規程は、平成22年４月１日から施行する。
２　この規程の制定に伴い、「創価大学キャリアセンター運営委員会規程（平成18年４月１日規程第310号）」は、平成22年３月31日付で廃止する。

附　則（平成26年３月22日規程第54号）
この規程は、平成26年４月１日から施行する。

附　則（平成30年２月17日規程第112号）
この規程は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（令和３年３月26日規程第75号）
この規程は、令和３年４月１日から施行する。

創価大学 理工学部 グリーンテクノロジー学科

学生の確保の見通しを記載した書類

令和７（2025）年４月

― 目 次 ―

（１）新設組織の概要 3
①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員)、収容定員、所在地） 3
②新設組織の特色 3
ア．養成する人材像 3
イ．学位の分野を踏まえた新設組織の特色 3
ウ．新設組織と関連する既設組織 4
（２）人材需要の社会的な動向等 4
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析 4
②中長期的な１８歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析 5
③新設組織の主な学生募集地域 6
④既設組織の定員充足の状況 7
（３）学生確保の見通し 7
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 7
ア　既設組織における取組とその目標 7
イ　新設組織における取組とその目標 11
ウ　当該取り組みの実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数 12
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況） 14
ア　競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性 14
イ　競合校の入学志願動向等 18
ウ　新設組織において定員を充足できる根拠等 18
エ　学生納付金等の金額設定 19
③先行事例分析 19
④学生確保に関するアンケート調査 19
⑤人材需要に関するアンケート調査等 21
（４）新設組織の定員設定の理由 23

（１）新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地（教育研究を行うキャンパス）
理工学部 グリーンテクノロジー学科	60	－	240	東京都八王子市丹木町１丁目２３６番地

②新設組織の特色

ア．養成する人材像

理工学部は、創価大学（以下、本学）の建学の精神を尊び、他者に尽くす哲学的精神性を基盤として、工学・理工学の基礎力と応用力さらには展開力、語学能力、コミュニケーション能力に裏打ちされた国際適応力、総合人間力・リーダーシップを有する人材を育成することを教育研究上の目的とする。また、これを受けてグリーンテクノロジー学科（以下、本学科）は、上記の目的を達成するため、環境問題や食糧問題の解決に不可欠なグリーンテクノロジー（創エネルギー・省エネルギー技術や新しい生物生産技術など）とその社会実装について学び、低炭素社会の実現とSDGs 達成に貢献する国際的な人材を養成することを目指す。

イ．学位の分野を踏まえた新設組織の特色

１）授与する学位

新設組織	授与する学位
理工学部 グリーンテクノロジー学科	学士（理工学） 【理学関係、工学関係】

２）学部・学科等の特色

理工学部のディプロマ・ポリシーでは、以下の知識・技能並びに態度を身につけ、所定の在学期間、卒業単位、および GPA 基準を満たした学生に学士（工学）または学士（理工学）の学位を授与することとしている。

(1) 理工学分野の基礎的な知識・技能を身につけ、必要とする専門分野の学修に取り組むことができる
(2) 各学科・領域が授ける専門知識・技能を身につけ、専門的課題についての理解や課題解決へ応用できる。
(3) 自らの考えを、文書や口頭で適切な表現で伝えることができる。
(4) 多様性を尊重し、他者とコミュニケーションを取りながら、協働する（チームで仕事をする）ことができる。
(5) 問題の原因を論理的に分析し、そこから課題解決の方法を提案することができる。

本学科においては、上記のディプロマ・ポリシーを達成するため、気候変動を理解するための地球観測技術、安定した食糧生産に必要な生物生産技術、創エネルギー・省エネルギー技術などの低炭素技術や、これらの技術を社会に還元するためのビジネスや国際技術協力に関する学習を通じ、持続可能な社会の実現に寄与する知識と技術を身につけた人材の育成を目指す。本学科においてこれらの知識・技能並びに態度を身につけた学生に、学士（理工学）の学位を授与する。

ウ．新設組織と関連する既設組織

本学科の設置は、以下の表で示す通り、既設の理工学部共生創造理工学科を改組する形で行う。理工学部共生創造理工学科は、令和７(2025)年度入学生の受け入れをもって学生募集の停止を行い、在学生卒業後に廃止する。

令和７(2025)年度（現状）		
学部学科	入学定員	収容定員
理工学部	180	720
情報システム工学科	90	360
共生創造理工学科	90	360

令和８(2026)年度（改組後）		
学部学科	入学定員	収容定員
理工学部	205	820
情報システム工学科	90	360
グリーンテクノロジー学科	60	240
生命理工学科	55	220

※令和８年度より大学全体（通学課程）として収容定員を 6,184 人から 4,930 人に減ずる
※所在地は変わらない

（２）人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

令和３（2021）年３月 26 日に閣議決定された「第６期科学技術・イノベーション基本計画」【資料１】では、「急激な気候変動を伴う気象災害とこれによる人的・経済的損失の拡大、生物多様性の劣化、海洋プラスチックごみ問題などといった世界全体が直面する様々な問題が顕在化し、グローバル規模での気候変動問題への対策や脱炭素社会の実現、循環経済（サーキュラーエコノミー）に向けた取り組みが各国で進められている」（要旨）との現状認識が示されている。

また、日本国内における現状認識として、「令和２（2020）年 10 月第 203 回国会総理所信表明において令和 32（2050）年までに温室効果ガス排出を実質ゼロとするカーボンニュートラルを目指すことを宣言し、『第四次循環型社会形成推進基本計画』に基づいたライフサイクル全体での資源循環や地域循環共生圏の形成などによる取り組みを積極的に推進している」と言及し、今後のあるべき姿とその実現に向けた方向性として「カーボンニュートラルの実現と効率的な廃棄物処理及び資源の高度な循環利用による循環経済の実現と、これらの実現に向けた対欧がグリーン産業の発展を通じた経済成長につながることで、世界をリードし、経済と環境の好循環が生み出されるような社会を目指す」としている。こうした状況の中、上述の課題解決に資する人材の社会的需要は非常に高くなっている。

また、日本私立学校振興・共済事業団が公表している「令和６年度 私立大学・短期大学等入学

志願動向」【資料２】によると、令和６（2024）年度における学部系統別の志願倍率（大学）は、理・工学系で 12.40 倍、入学定員充足率（大学）は、理・工学系で 99.39%と、他の学問系統と比較して高水準にある。

さらに、本学は、平成 26（2014）年度にはスーパーグローバル大学創成支援事業、令和２（2020）年度には SATREPS 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラムに採択されるなど、グローバル社会に通用する人材育成や課題解決に向けた取り組みにおいて高い評価を得ている。

これらの状況から、本学がこれまで既存の理工学部で提供してきた教育・研究と、これらの技術やプロセスの社会実装化に必要な法学、経営学に関する学びを融合させた文理融合型の教育により、グリーン分野で活躍できる卒業生を輩出することは、社会的な需要が高いものと考える。

【添付資料】

（資料１）「第６期科学技術・イノベーション基本計画」（内閣府）
https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index6.html より引用

（資料２）「令和６年度 私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）
https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouR6.pdf より引用

②中長期的な１８歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

令和６（2024）年２月に発行されたリクルート進学総研「マーケットリポート 2024　全国版」【資料３】によると、本学科を設置する令和８（2026）年度から令和 18（2036）年度までの全国、本学への主な進学圏となっている南関東（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）および系列校である関西創価高校が所在する近畿（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）の 18 歳人口は、以下の表１に示す通り、となっている。

表１　全国、南関東及び近畿における 18 歳人口予測　　単位：人

	2026 年	2027 年	2028 年	2029 年	2030 年	2031 年	2032 年	2033 年	2034 年	2035 年	2036 年
全国	1,092,664	1,085,123	1,069,950	1,067,555	1,048,971	1,036,250	1,024,561	1,014,564	1,006,056	970,564	942,498
南関東	299,464	298,541	297,098	296,291	290,653	290,558	288,993	290,872	288,975	279,425	271,794
近畿	179,292	178,296	174,708	174,275	171,986	169,443	166,153	164,654	162,897	158,390	153,019

※リクルート総研「マーケットリポート 2024」より作成

一方、同リポートによれば、南関東や近畿における現役高校生の大学への進学率は上昇を続けており、南関東は平成 27（2015）年の 57.7%から令和６（2024）年には 67.7%へ 10.0 ポイント増加、近畿は平成 27（2015）年の 53.8%から令和６（2024）年には 64.7%へ 10.9 ポイント増加しているほか、全国での現役高校生の大学への進学率は、平成 27（2015）年の 48.9%から令和６（2024）年には 58.4%へ 9.5 ポイントの増加となっている。

これらを踏まえると、人口の減少傾向にある中にあっても、全国の減少率と比較すると、本学

が所在する南関東の 18 歳人口減少率は比較的低く、また大学進学率も本学への志願者が多い南関東、近畿において全国平均を上回る結果となっていることから、将来、国内の 18 歳人口が減少する局面にあっても志願者数が著しく減少する可能性は低く、本学科の中長期にたる学生確保については、十分に可能である。

【添付資料】
（資料３）「マーケットリポート 2024　全国版」（リクルート進学総研）
https://souken.shingakunet.com/research/2025/02/182024.html より引用

③新設組織の主な学生募集地域

本学既設学部における直近５年間の出身高校の所在地県別入学者数は、以下の表２に示す通りとなっている。

表２　本学既設学部における直近５年間の出身高校所在地県別入学者数

都府県	2020（令和２）年度		2021（令和３）年度		2022（令和４）年度		2023（令和５）年度		2024（令和６）年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
東京	433	27.9%	452	29.5%	420	30.5%	369	29.2%	382	29.8%
大阪	263	17.0%	279	18.2%	256	18.6%	233	18.5%	229	17.9%
神奈川	71	4.6%	80	5.2%	71	5.2%	65	5.2%	61	4.8%
埼玉	62	4.0%	49	3.2%	44	3.2%	45	3.6%	51	4.0%
千葉	34	2.2%	53	3.5%	42	3.1%	37	2.9%	50	3.9%
合計	1,551	100%	1,533	100%	1,377	100%	1,262	100%	1,281	100%

直近の令和６（2024）年度では、本学の入学者 1,281 名の出身高校都道府県は、東京都が 382 人（29.8%）、本学系列校である関西創価高校が所在する大阪府が 229 人（17.9%）、神奈川県が 61 人（4.8%）、埼玉県が 51 名（4.0%）、千葉県が 50 名（3.9%）となっており、これらの５都府県からの入学者の合計は 773 名（60.3%）であった。

一方、別紙１及び令和６年度学校基本調査【資料４】の出身高校の所在地県別入学者数を見ると、本学が所在する東京都全体の大学入学者 156,543 人のうち、東京都に所在する高校出身者が 53,761 人（34.3%）、神奈川県が 22,609 人（14.4%）、埼玉県が 18,604 人（11.9%）、千葉県が 14,011 人（9.0%）、茨城県が 5,628 人（3.6%）と５都県に所在する高校出身者が 73.2%を占め、加えて大阪府は 1,049 人（0.7%）となっている。大阪府については本学系列校が所在することから数値については一律に比較できないが、東京都全体の大学入学者の出身高校の所在県の構成と本学の入学者の出身高校の構成は類似していることから、本学科においては東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府の５都府県を主たる学生募集地域として設定する。

また、日本私立学校振興・共済事業団が公表している「令和６（2024）年度の私立大学・短期大学等入試志願者動向」【資料２】によると、東京都に所在する大学の定員充足率は直近５年間でいずれ 100%を超え、さらに、本学科の学問分野である理・工学系学部の定員充足率は、直近５年間で 99.39%～104.35%の間で推移していることから、本学科は安定的に入学者数を確保できると考えられる。

【添付資料】
（別紙１）新設組織が置かれる都道府県への入学状況
（資料２）令和６年度 私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）
https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouR6.pdf より引用
（資料４）学校基本調査（令和６年度） 出身高校の所在地県別入学者数

④既設組織の定員充足の状況

各学部･学科の直近の５年間の入学定員の充足状況は、別紙２－１から２－15 のとおりであり、通学課程の各学部・学科の過去５年間の入学定員充足率（平均）は、0.83 倍から 1.05 倍となっている。

近年の 18 歳人口の減少を受け、大学全体の志願者数および入学者数が減少していることを踏まえ、学部・学科の設置や学科名称変更等の手続きとともに、既設組織の経済学部経済学科、経営学部経営学科、理工学部共生創造学科の学生募集を停止した。

あわせて、各学部・学科において、安定的な入学者の維持が可能となるよう、入学者数の推移に基づいて適正な入学定員に減じることにした。具体的には、法学部法律学科については、学科名称を法律政治学科へと変更するとともに、入学定員を 240 人から 140 人へと減じる。また、文学部人間学科の入学定員を 350 人から 250 人とし、教育学部児童教育学科の入学定員を 100 人から 85 人に減じる。

なお、教育学部教育学科については、高い水準で志願者数を確保しており、あわせて教育内容に即して学科名称を心理・教育学科に変更することから、今後も定員充足は可能であると考えられるため、令和８（2026）年度より入学定員を５名増加して 85 名とする。

【添付データ】
（別紙２）既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

（３）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア　既設組織における取組とその目標

ⅰ）オープンキャンパス・キャンパス見学会（対面イベント）

本学では、学生募集の対面型の最大のイベントを「オープンキャンパス」と位置づけ、令和５（2023）年度までは年６回であったものを、令和６（2024）年度からは年７回と開催回数を増やした。一方、コロナ禍でオープンキャンパスの補完を目的に開催してきた「キャンパス見学会」は、オープンキャンパス参加者が増加傾向にあることを踏まえ、令和５（2023）年度は年４回開催であったものを、令和６（2024）年度は２回に減らし、高校生が参加しやすい時期に開催するようにした。

企画では、大学からの情報提供を行うだけの一方通行の内容とならないよう、「オープンキャン

パス」では【資料５】に示すとおり体験型のワークショップや相談コーナー、「キャンパス見学会」では学生ガイドによるキャンパスツアーなどを取り入れ、参加者が教職員や学生との直接のコミュニケーションにより、入学してからの学び、学生生活のイメージができるように実施している。

さらに、「オープンキャンパス」では、特に学生との交流や懇談を重視し、「なんでも相談コーナー」を設け、学びだけでなく、入試制度、学生生活、奨学金、留学、クラブ活動などの幅広い質問に応じられるよう、学生スタッフが中心となって事務職員と協力しながら運営している。また、各学部では体験授業とともに相談ブースを設け、学生スタッフと教員で、学部の学びについて懇談、相談できる場を設けている。なかでも、理工学部においては「Lab 探検」と称して、各研究室の研究内容を具体的に紹介するツアーを行い、教員、学生と近い距離で、学びの内容がイメージできる工夫をしている。

以上の通り、対面イベントにおいては、学生、教職員とのコミュニケーションを通じて、参加者の入学意欲を高めることを目的に実施している。

別紙３の「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」に示すとおり、直近２か年では対面イベント参加した受験対象者のうち、本学に入学した学生の割合は３割後半程度であった。このことから、対面型イベントの参加者のうち本学に入学する学生数は、対面イベントに参加する受験対象者数を年間 1,800 名と仮定して大学全体で 650 名を見込む。うち、新設予定の理工学部グリーンテクノロジー学科では、現在の理工学部共生創造理工学科の入学者に占める比率の５ケ年平均が「直近５ヶ年の入学者数と学科別の入学者比率」【資料６】に示すとおり 6.0%となっていることから、本学科はこの共生創造理工学科を改廃して設置する学科であることをその踏まえ、半数の 3.0%、つまり約 20 名の入学者を見込む。

【添付資料】
（別紙３）既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績
（資料５）オープンキャンパスプログラム（2024 年 8 月実施分）
（資料６）直近５か年の入学者数と学科別の入学者比率

ⅱ）オンラインイベント

本学は開学以来、各都道府県からの入学者がいることを踏まえ、来学できない高校生との接点を作るため、複数のオンラインイベントを実施している。

具体的には、事務職員による「オンライン入試説明会」を年２回、学生との懇談主体の「ぶっちゃけトーク」を年３回実施するとともに、本学の「総合型選抜 PASCAL 入試」の対策に直結する講座として「LTD 体験会」を夏休みに計６回実施している。(LTD：Learning Through Discussion「話し合い学習法」)

総合型選抜 PASCAL 入試は専願であり、LTD が選考のメインであることから、この「LTD 体験会」参加者の入学率は約８割である。イベントの内容としては、教員がファシリテーターを務めて、参加者が事前に読んでくる予習教材に基づいて約 60 分の LTD（グループディスカッション）を実施し、その後、教員からフィードバックを行う。さらに体験会の後には、希望者が学生との懇談ができる仕組みとなっている。この懇談では主に、総合型選抜入試を中心とした年内入試で提出が求められる「自己推薦書」について参加者の理解が深まるよう、学生が自身の経験も

踏まえて、アドバイスする機会を提供している。

前述のとおり、LTD 体験会参加者の入学率は約８割であることから、全体で 200 名の入学者を見込む。うち、新設の理工学部グリーンテクノロジー学科では、前節と同様に大学全体の入学者の 3.0%にあたる約 20 名を見込む。

ⅲ）PASCAL 入試チャレンジプログラム

本学では、上記オンラインイベントの一つとして、【資料７】に示した「PASCAL 入試チャレンジプログラム」という本学独自の高大接続、育成型プログラムを実施している。これは、主に「総合型選抜 PASCAL 入試」の受験を検討する受験対象学年を対象に３月末から８月末まで実施するプログラムである。

プログラム内容は上述の「LTD 体験会」を３月、６月、８月の３ターム設けて、計 11 回実施する（８月タームの６回はプログラム受講生以外も参加可能)。また、大学での学びを身近に感じられるよう、オンデマンドで受講する「自己分析講座」や学生との懇談会も行う。これらを通じて、主に年内入試で提出が求められる「自己推薦書」作成の準備につなげている。なお、運営の関係上、プログラム募集定員は 200 名にしているが、毎年、定員を超える受講申し込みがある。

このプログラム受講者の入学率は、ⅱ）と同様に約８割であることから、入学意欲の高い学生を確保することができている。

【添付資料】
（資料７）PASCAL 入試チャレンジプログラム

ⅳ）資料請求

本学では、大学案内（本学名称は「キャンパスガイド」）を通じて高校生への情報提供を行い、資料請求につなげている。

さらに、高校生の興味関心にあわせて、募集時期に応じて様々なサブパンフレットを作成し、本学開催のイベント参加者や資料請求者に送付するなど、継続的な情報提供に努めている。

また、本学の卒業生組織（創友会）は、各都道府県単位で組織されている。卒業生組織の協力を受けながら、高校生に大学情報を届ける取組等をおこなっている。

別紙３に示したとおり、入学率は３～４％であるが、上述の募集活動を通じて、資料請求を行った受験対象者のうち入学者数は大学全体で 600 名を見込む。うち、新設の理工学部グリーンテクノロジー学科では、前節と同様に大学全体の入学者の 3.0%にあたる約 20 名を見込む。

ⅴ）系列校との高大連携

本学では、系列校である創価高等学校及び関西創価高等学校とは、高大連携を活発に行っている。なかでも、最も大きい取組は、両校ともに、各学年のニーズに合わせた本学での研修を、両校の学校行事として実施していることである。

この研修では、各種ガイダンスや体験授業を本学の教員および学生が担当し、本学での学びや学生生活の認識、理解を深めている。そして研修を運営する学生スタッフは、両校卒業生の希望者が積極的に務めている。

また、両校の探究学習においても、本学教員が対面とオンライン両方で講義を実施するとともに、生徒の学習をサポートしている。特にオンラインでは、教員と共に学生ＳＡ（スチューデント・アシスタント）も学習サポートを担当する。

このように、多くの両校卒業生が、研修や学習のサポートをしていることにより、両校生徒にとって、入学後の学生の具体的なロールモデルともなっている。

研修に参加した系列校両校の生徒数を母数とした場合、本学への入学率は安定的に６割程度であることから、この高大連携を通じた本学への入学者は大学全体で 420 名の入学者を見込む。うち、新設の理工学部グリーンテクノロジー学科では、前節と同様に大学全体の入学者の 3.0%にあたる約 13 名を見込む。

vi）高校訪問活動

本学には各都道府県からの入学者がいるが、高校訪問活動を「（２）―③　新設組織の主な学生募集地域」として設定した首都圏を中心に、専任職員と業務委託職員にて、過去５年で志願者があった高等学校を中心に実施している。過去２年の訪問校数は以下の表３の通りである。

表３　直近２年間の高校訪問実績

	東京	神奈川	埼玉	千葉	その他地域	合計
令和５年度	128 校	69 校	52 校	29 校	86 校	364 校
令和６年度	199 校	105 校	88 校	8 校	65 校	465 校

一部近隣校を除き、一校あたりの本学への入学者数は多くないため、本学の学びや取組、成果などは、なかなか高校教員に認識されづらい点が課題である。よって継続的かつ、定期的な高校訪問活動によって、各高校における認知度、理解度を広げるように努めている。また、首都圏以外で継続的に入学者がいる高校への訪問に努めている。

vii）地域高大連携

高校現場で「総合的な探究の時間」が本格的に実施されている中で、本学では、【資料８】に示すとおり、首都圏近隣校を中心に、探究学習の支援プログラム「そうか！」を企画し、近隣校を中心に高校生の学びをサポートしている。

このプログラムは、教員による出張講義が中心だが、主な特徴は以下の通りである。

○既存プログラム

探究学習での需要の多いテーマを設定し、高校授業の１～２コマ程度で実施している。。

【令和６（2024）年度の実施例】

・東京都立砂川高等学校

「理想の働くを探究」（法学部教員担当）

・東京都立府中高等学校

「探究学習とは？」（教職大学院教員担当）

○オーダーメイドプログラム

高校の要望に応じて、プログラムを実施している。

【令和６（2024）年度の実施例】

・郁文館グローバル高等学校
同校「SDGs 探究・エコロジーゼミ」の外部アカデミスト（経済学部教員担当）

・神田女学園高等学校
同校の探究学習「フィールドトリップ」を本学にて授業・実験体験（理工学部教員担当）

・東京都立狛江高等学校
同校「総合的な探究の時間」に、大学院生、学部生が TA(ティーチング・アシスタント)を担当

・東京都立砂川高等学校
同校「数学 B」統計分野の授業を探究型で実施（学士課程教育機構教員担当）

○「学生サポーター」

講義を担う教員だけでなく、「ファシリテーション研修」のトレーニングを施した学生サポーターも高校の希望によって同行可能にしている。高校の希望によって、学生サポーターだけの派遣も可能（例：上記、東京都立狛江高等学校）である。学生サポーターの登録者は、令和６（2024）年度実績で約 60 名であった。学年も満遍なく、学部１年生から大学院生まで登録があるため、高校から平日でのサポート依頼があっても、その日に授業が無い学生で対応できるようになっている。なおこの取組は、原則、大学からアルバイト料、交通費を支給し、高校には無償でサポートを提供している。

以上、学生募集に直結する取組ではないが、地域近隣校サポート活動と位置づけ、高校生および高校教員の本学への興味関心および信頼感醸成につなげている。

【添付資料】

（資料８）探究学習支援プログラム「そうか！」パンフレット

イ　新設組織における取組とその目標

ⅰ）公式ホームページでの告知

令和６（2024）年６月時点で、公式ホームページを更新し、「理工学部グリーンテクノロジー学科（仮称）」の設置構想のお知らせ公表した。トップページにバナーを設置し、訪問者がすぐに視認できるようにしている。

ⅱ）オープンキャンパスでの告知

令和６（2024）年５月から９月の間のオープンキャンパスでは、設置構想をお知らせするリーフレット【資料９】を作成し、参加者に配布した。また、令和７（2025）年３月に実施したオープンキャンパスでは、令和８（2026）年度からの理工学部グリーンテクノロジー学科を含めた全学科の特徴をまとめた「学部パンフレット」【資料 10】を作成し、参加者に配布した。

ⅲ）資料請求者への告知

対象学年以降の資料請求者には、令和６（2024）年 10 月まで、上記ⅱ）のリーフレット【資料９】を同封して送付した。同年 11 月からは、上記ⅱ）の学部パンフレット【資料 10】を、対象学年以降の資料請求者に同封して送付している。

ⅳ）広告での告知

本学科設置の告知ポスター【資料 11】を作成し、以下の各種広告媒体を通じて告知している。

〇交通広告

令和６（2024）年 11 月 11 日から 11 月 17 日にかけて、京王線新宿駅構内の大型 LED ビジョンにて、デジタル広告【資料 12】を出稿した。また、令和６（2024）年 12 月１日から 12 月 25 日にかけて、近隣路線である京王線・京王井の頭線の電車内のドア横枠にポスター広告【資料 13】を掲出した。

〇新聞広告

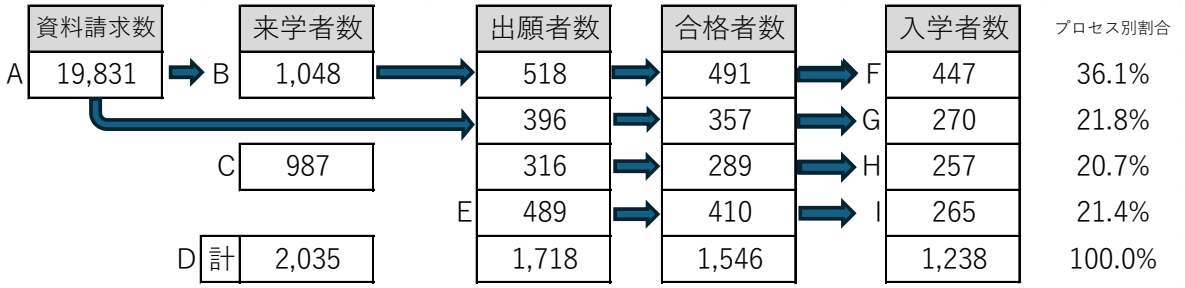
本学科設置の告知広告を、令和６（2024）年 11 月 25 日付の「日本経済新聞」高校生向け特別版（４面）【資料 14】に、令和７（2025）年１月 15 日付朝日新聞朝刊「大学入学共通テスト回答紙面」【資料 15】に広告を出稿した。

【添付資料】
（資料９）設置構想をお知らせするリーフレット
（資料 10）学部パンフレット
（資料 11）グリーンテクノロジー学科設置告知ポスター
（資料 12）京王線新宿駅に掲出したデジタル広告
（資料 13）京王線・京王井の頭線の車内に掲出したポスター
（資料 14）日本経済新聞朝刊「高校生向け特別版」
（資料 15）朝日新聞朝刊「大学入学共通テスト回答紙面」

ウ　当該取り組みの実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数

ア―ⅰ）で記述したオープンキャンパス等のイベントの来学者数、資料請求での接触者数における入学者と、いずれの接触もなかった入学者の募集プロセス分析を令和６（2024）年度、令和７（2025）年度の平均値を用いて実施した。(数字はいずれも入学対象学年で、学部別ではなく全体の数字)。その結果は下図の通りとなった。

図１　令和６（2023）年度、令和７（2024）年度の平均値を用いた募集プロセス分析



【記号の種類】

Ａ：資料請求を行った受験対象者数の平均

Ｂ：資料請求を行いかつ本学に来学した受験対象者数の平均

Ｃ：資料請求は行わなかったものの本学に来学した受験対象者数

Ｄ：本学に来学した受験対象者数全体の平均

Ｅ：資料請求を行わず、本学へ来学もなかった出願者数の平均

Ｆ：資料請求を行い、かつ本学に来学経験のある入学者数の平均

Ｇ：資料請求を行ったが、来学への来学経験がない入学者数の平均

Ｈ：資料請求は行わなかったが、本学への来学経験のある入学者数の平均

Ｉ：資料請求を行わず、かつ本学への来学経験がない入学者数の平均

２ケ年平均での分析から、以下の見込みを算出した。

・来学者の入学率　　(F:447 人 ＋ H:257 人) / D:2,035 人 ＝ 34.6%

・資料請求あり、来学なしの入学率　G:270 人 ／(A:19,831 人-D:2,035 人) = 1.5%

・資料請求、来学なしの入学率　　I:265 人 ／E:489 人 ＝ 54.2%

そして、既出のとおり、令和６（2024）年度募集までの理工学部・共生創造理工学科の入学者に占める比率は５ケ年平均で 6%【資料６】であることから、この共生創造理工学科を改廃して設置する学科であることを踏まえ、半数の 3%を新設のグリーンテクノロジー学科の入学者の見込み数とした。

・来学者数　D:2,035 人 × 34.6% × 3.0% ＝ 21.1 人

・資料請求のみ　17,796 人（A:19,831 人-D:2,035 人）× 1.5% × 3.0% ＝ 8.0 人

・来学、資料請求なし　E:489 人 × 54.2% × 3.0% ＝ 8.0 人

来学者数 ＋ 資料請求のみ ＋ 来学、資料請求なし ＝ 37.1 名

上記の分析から 37 人程度の入学者が見込める。あわせて、「（３）―①―ア　既設組織における取組とその目標」で説明のとおり、対面イベントで 20 名、オンラインイベントで 20 名、資料請求で 20 名、系列校から 13 名の合計 73 名の入学者数が見込める。

さらに、グリーンテクノロジー学科の設置によって、既存の共生創造理工学科にはない新規性

を打ち出すことができることから、別途、高校生を対象に学生確保に関するアンケート調査を行っており、当該調査を基礎にした学生確保の見通しについては、後述する。

また、令和６（2024）年 12 月には、本学保有の個人情報と、模擬試験実施業者保有の本学志望者情報に基づき、グリーンテクノロジー学科と、同時に設置を計画している生命理工学科の志望領域の高校２年生に対し、認知拡大を目的に理工学部改組イメージパンフレット【資料 16】をダイレクトメールに同封して 4,300 通送付した。

さらに、グリーンテクノロジー学科の設置に関する取り組みは、令和６（2024）年６月に文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」【資料 17】に選定された。「（２）人材需要の社会的な動向等」でも述べた通り、グリーン分野における人災の育成はこれからの時代に求められるものであり、本学科においては従来の「理系」のイメージを払拭し、「文理融合型の教育」によって人材育成を目指していくことを学科設置の目的のひとつとしている。

この分野において、環境問題やグリーンテクノロジーに興味を持つ高校生に広く認知してもらうために、オープンキャンパス等ではもちろん、高校訪問等でも意識的に告知し、さらに姉妹校、高大連携協定校の生徒と交流にも力を入れ、理系志望の高校生だけに留まらず、この分野の可能性、期待感を持たせるようにしていきたい。

その他、グリーンテクノロジー学科においては、総合型選抜の入試で「女子枠」を設置し、女子生徒の理系への興味・関心を高める制度を設ける予定である。

【添付資料】
（資料６）直近５ヶ年の入学者数と学科別の入学者比率
（資料 16）ダイレクトメールに同封した理工学部改組イメージパンフレット
（資料 17）大学・高専機能強化支援事業概要及び採択校一覧

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア　競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学科の設置にあたり、競合する可能性が高い大学として、本学科において主に学ぶことができる工学（エネルギー・環境工学)、工学（農業工学)、理学（自然環境科学）に類似する分野を学ぶことができる「玉川大学 農学部 環境農学科」「東邦大学 理学部 生命圏環境科学科」「帝京科学大学 生命環境学部 自然環境学科」の３校を選定した。

これらの学校種、定員規模、所在地、学力層は以下の表４の通りである。

以下の表の通り、学校種、該当学科の定員規模、学問分野、所在地及び学力層において、各大学ともに本学科と類似していることから、本学科の競合校として選定することは妥当であると考えられる。

表４　本節で分析する競合する大学

	創価大学 理工学部 グリーンテクノロジー学科	玉川大学 農学部 環境農学科	東邦大学 理学部 生命圏環境科学科	帝京科学大学 生命環境学部 自然環境学科
所在地	東京都八王子市	東京都町田市	千葉県船橋市	東京都足立区 山梨県上野原市
入学定員	60	70	60	100
偏差値	47～50	49～52	47～50	46～50

* 学力層の比較として、ベネッセ及び河合塾が公表している偏差値を用いた。
　また、本学科の偏差値として、本学の理工学部共生創造理工学科の数値を用いた。

ⅱ）競合校との比較分析

ⅱ―１）教育内容と方法

本学科の教育内容には、以下の４つの特徴がある。

① 地球科学・環境科学や環境工学・情報工学を中心とした理工学の学びに加え、環境ビジネスや国際技術協力といった文系学問も学ぶ文理融合型のカリキュラム
② １年次からグリーンテクノロジー学科基幹教員の研究室にて開講する研究体験を必修科目として配当し、実際の研究体験と理工学に関する基礎科目を並行して学修することで、理論と実践を同時に学びながら、自身の興味関心を広げ、４年間における自分の学びをイメージしやすいカリキュラム
③ 創エネルギー・省エネルギーといった環境技術を実社会で開発・応用する国内外の研究機関や企業を訪問する海外研修やインターンシッププログラム
④ 総合型大学の特色を生かした全学共通科目や、理工学部が開設する国際技術協力プログラム（国際 EP）など、国際性豊かな広い視野に立った学びを後押しする教育研究環境

これらの４つの特徴は、これまで本学が積み上げてきた総合大学としての実績と、本学プランクトン工学研究所等における最新の研究実績に基づいて創出するものであり、文系学部や同様の研究機関を持たない大学では実現が難しいものとなっている。特に研究においては、平成 27（2015）年度と令和２（2020）年度に、科学技術振興機構（JST）及び国際協力機構（JICA）が実施する地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）において、本学科の基幹教員が参画する研究プロジェクトが採択され、地球規模での環境課題解決に資する研究実績を有している。

また、本学は、平成 26（2014）年度に「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択されたことをはじめ、直近の THE 日本大学ランキング【資料 18】では、国際性の分野で全国８位にランクインするなど、開学以来国際交流に重点を置いて教育研究活動を行っている。本学科においても、特徴で記載した「国際 EP」の一環として一部の専門科目を英語で開講するなど、これまでの本学の特色を生かした教育を提供している。

さらに、近年重要視されているデータサイエンス教育では、本学は文部科学省「数理・データ

サイエンス・AI 教育プログラム認定制度」において、「リテラシーレベル」「応用基礎レベル」の認定を全学で受けている。具体的には、本学が実施する副専攻制度において、その副専攻の１つとして「データサイエンス」を開設し、所属学部に関わらずデータサイエンスを体系的に学べる環境を整備している。また、本学科においても、専門科目にデータサイエンスに関する科目を開講している。

【添付資料】
【資料 18】THE 日本大学ランキング 2025

ⅱ－２）入試（受験時期・入学手続き時期との関係）

令和７（2025）年度一般選抜入試日程は以下の表５のとおりである。本学と競合校との入試日程等は重なってはおらず、志願者にとって受験及び入学手続きを行いやすい状況となっている。加えて、本学は、下記に示した一般選抜入試のほか、大学共通テスト利用入試や全学統一入試、一般入試（後期日程）、複数の総合型選抜入試を実施しており、志願者にとって本学を受験しやすい環境を整えている。

表５　本学及び競合校の令和７（2025）年度一般選抜入試日程

大学	試験日	合格発表日	入学手続締切日
創価大学	２月 13 日	２月 22 日	３月３日
玉川大学	２月２～５日	２月 17 日	２月 27 日
東邦大学	２月１～２日	２月 12 日	２月 25 日
帝京科学大学	（Ⅰ期）１月 24～26 日 （Ⅱ期）２月 24 日	１月 29 日 ２月 26 日	２月５日 ３月５日

出典：各大学のホームページをもとに作成。複数の試験方式がある場合は、本学の実施する一般入試に類似する試験方式を掲載。

ⅱ－３）学生納付金、奨学制度などの就学支援内容

本学科および競合校における初年度の学生納付金は以下の表６のとおりである。競合校と比較し、本学の学生納付金は安価に設定されている。

表６　本学及び競合校の初年度学生納付金

	創価大学 理工学部	玉川大学 農学部	東邦大学 理学部	帝京科学大学 生命環境学部
初年度 学生納付金	1,570,000 円	1,927,330 円	1,696,660 円	1,544,660 円

出典：各大学のホームページをもとに作成。

また、本学では、近年の大学生及び各家庭の経済状況より、奨学金による支援も必要であると考え、本学では在籍学生に対して様々な奨学金制度を用意している。本学科への入学者にも同様

に、以下の制度実施を予定している。

①経済的に修学が困難な学生をサポートする給付奨学金
・創価大学創友給付奨学金
・創価大学給付奨学金（学費減免）
・創価大学牧口記念教育基金会学部生奨学金
・兄弟姉妹同時在籍者への給付奨学金制度
②学業成績優秀者を奨励する給付奨学金
・創価大学特別奨学生
・創価大学特待生
③その他の各種奨学金
・創友会ふるさと給付奨学金

さらに、本学は全国に志願者が存在することから、学生寮も充実させており、国際学生寮を４つ（滝山国際寮、万葉国際寮、創春寮、サンフラワーホール）、学部男子寮を１つ（宝友寮）、学部女子寮を４つ（白萩寮、桜香寮、朝霧寮、香峯寮）をキャンパス内外に設けており、自宅から通学が困難な学生が経済的にも安心して学生生活を送ることができる環境を整備している。

ⅱ―４）就職支援の内容

本学科では、既設学部・学科と同様、就職支援は本学のキャリアセンターが就職支援を行う。本学のキャリアセンターでは、就職や進路を考えるためのガイダンスやイベントを多数開催するとともに、キャリアセンター職員が担当する個人面談を予約制で提供している。また、全学共通科目の１つの科目群として「キャリア教育系科目群」をキャリアセンターと共同で開設し、職業について考える機会を教育課程内でも提供している。こうした取り組みにより、１年次から将来の進路について考え、実践する機会を積極的に提供している。

また、本学のキャリアセンターの行う就職支援では、実際に就職が決まった本学の４年生が、キャリアサポートスタッフ（CSS）またはリクルートサポートスタッフ（RSS）として、３年生以下の学年の学生をピアサポートし、進路相談などを行っていることが大きな特色となっている。

こうした取り組みにより、直近では令和６（2024）年３月に本学を卒業生の就職率は 97.6%と高い水準となった。

ⅱ―５）取得できる資格

本学科で学ぶことで目指すことができる資格として、「ビオトープ管理士」「生物分類技能検定」「技術士補」「基本情報技術者試験」「土壌医検定」といったものがあげられる。

また、本学は「行政教育センター」を設置し、国家公務員や地方公務員を目指す学生を対象とした課外講座を開設している。本学科卒業後、公務員となることが１つの進路として想定をされることから、本学科の学びと行政教育センターの開設する課外講座を通じて、公務員試験合格に必要な知識、技能を身につけることができる。

以上の通り、教育内容と方法、入試、修学支援の内容、就職支援の内容、取得できる資格のいずれにおいても競合校と比較して不足があるものではなく、本学が国際性豊かな総合大学であることの強みを有することに鑑み、優位にあるものと考える。

イ　競合校の入学志願動向等

競合校として選定した各大学の過去３年間の入学志願状況は以下の表７のとおりである。

表７　競合校の入学志願状況

大学・学部・学科	年度	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
玉川大学 農学部	令和４	261	251	139	238※1	0.81
環境農学科	令和５	435	413	236	287※1	0.97
※1	令和６	421	392	256	229※1	0.78
東邦大学 理学部	令和４	375	371	164	63	1.05
生命圏環境科学科	令和５	321	319	217	68	1.13
※2	令和６	400	397	292	82	1.37
帝京科学大学	令和４	576	539	243	84	0.84
生命環境学部	令和５	479	462	205	80	0.80
自然環境学科	令和６	539	504	229	92	0.92

出典：各大学ホームページ及び旺文社「大学受験パスナビ」サイトを基に作成

※１　玉川大学については令和４～５年の学科ごとの入学者数を確認できなかったため、入学者数及び定員充足率は同大学農学部の数値を掲載

※２　東邦大学理学部で実施される入試のうち、一般入試（C）の志願者、受験者数、合格者数が全学科の数値のみの掲載となっているため、当該入試の人数は除外して算出

ウ　新設組織において定員を充足できる根拠等

前節で示した通り、本学科と競合する各大学の定員充足率は、年度や大学によりばらつきはあるもの過去３年間で 0.78～1.37 となっており、志願倍率は比較的高い水準を維持している。こうしたことから、本学科において提供する学問領域に関する関心は高いことがうかがえる。

競合校で示した３つの大学のうち、玉川大学農学部は、授与される学位の学問分野が農学であり、本学科が授与する学位の学問分野が理工学であることを踏まえると、定員充足について他の理工学系学部の動向を踏まえて判断する必要があるが、後述する学生確保に関するアンケート調査によれば、本学科の特色に関する魅力度が高い数値であることを踏まえると、定員充足の面に関しては優位であると思われる。

また、帝京科学大学 生命環境学部 自然環境科学科は定員充足率が１を切っているが、同大学の公開する情報によれば、東京都足立区内で開設するコースへの入学者数は定員を充足しているが、山梨県上野原市で開設するコースへの入学者数については定員を充足していない状況であることが示されている。こうしたことから、定員充足率と首都圏エリアからのアクセス面を踏まえ、本学の所在する東京都八王子市は、山梨県上野原市と比較した場合、首都圏エリアからのアクセ

ス面で優位にあることから、学生確保においても一定程度の優位性があると考えられる。

このような分析から、本学科においては十分に学生を確保し、定員の充足は可能であると考える。

エ　学生納付金等の金額設定

本学科における入学金、授業料等は表８のとおりである。これらの金額設定は、本学に既設の理工学部情報システム工学科、共生創造理工学科と同額であり、私立大学として継続的な学校運営を行うにあたっての必要な財務経費と、実際に学生生徒納付金等を負担いただく保護者等への負担面を十分に考慮して設定している金額である。前節の表６において示した競合校との比較においても比較的安価な金額設定となっていることから、本学科の学生生徒納付金は妥当な金額設定であり、学生確保に支障を生ずるものではないと判断した。

表８　本学科における学生生徒納付金等の一覧

	入学金	授業料	実習費	合計
初年度学生納付金	200,000 円	1,280,000 円	90,000 円	1,570,000 円

③先行事例分析

今般の届出は、短期大学から四年制の大学に改組する場合には該当せず、また、修業年限や学生納付金などの条件変更も生じないため、説明を省略する。

④学生確保に関するアンケート調査

本学科の設置構想に関して、実際の進学ニーズを把握するため、以下の表９の通り学生確保に関するアンケート調査（創価大学　理工学部グリーンテクノロジー学科（仮称、設置構想中）に関するアンケート）を行った。本調査で使用した調査票は【資料 19】の通りである。

本調査では、【資料 19】の調査票と合わせて、本学部の設置の理念、設置場所、アクセス、学生納付金等の情報を具体的に示した設置構想をお知らせするリーフレット【資料９】を配布して実施した。調査の結果は【資料 21】のとおりであった。有効回答数（2,576 件）のうち、以下の①～③の条件すべてに合致する回答者（277 件）を本学科のターゲット層と定義し、分析を行った。

①【Q1】卒業後の進路として「大学」を選択
②【Q2】志望する大学等の設置者として「私立」を希望
③【Q3】高校卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野として、「理工学部グリーンテクノロジー学科」の学びと関連する以下の学問分野を選択
・工学（エネルギー・環境工学）
・工学（農業工学）
・理学（自然環境科学）

表 9　アンケート調査の概要

	調査①	調査②
調査目的	令和 8（2026）年 4 月開設予定の創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」（仮称）の設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。	
調査対象	本学への進学実績がある高校（11 校）【資料 20】に在籍する高校 2 年生	本学オープンキャンパスに参加した高校 2 年生
調査方法	留め置き	オープンキャンパスの各イベント内で配布、回収
調査対象数	発　送　数：3,590 件 有効回収数：2,002 件※ ※有効回答のうち、大学進学希望者は 1,834 件、このうち私立大学進学希望者は 1,643 件	印刷数：1,500 件 有効回答数：574 件 ※有効回答のうち、大学進学希望者は 529 件、このうち私立大学進学希望者は 455 件
調査時期	令和 6（2024）年 8 月 3 日～10 月 9 日	
調査実施機関	株式会社　進研アド	

※本調査では、重複してアンケートに回答していないかを問う質問を設け、「同じアンケートに回答したことがある」と回答した者は集計から除外している。各調査回答者の重複はない。

前述のターゲット層の受験意向及び入学意向をクロス集計した結果は以下の通りである。

表 10　本学科のターゲット層の受験意向及び入学意向に関するクロス集計

		入学意向 *2			
		入学する	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	入学しない	無回答
受験意向 *1	第 1 志望	29 名(A1)	13 名(A2)	2 名(A3)	－
	第 2 志望	6 名(B1)	37 名(B2)	3 名(B3)	1 名
	第 3 志望以降	4 名(C1)	59 名(C2)	4 名(C3)	3 名
受験しない		116 名			

*1　受験意向に関する設問

【Q5】創価大学で構想中の各学部・学科が開設された場合、受験を希望しますか。

*2　入学意向に関する設問

【Q6】Q 5 で①～③（受験する）を選択した学科についてお答えください。
創価大学で構想中の各学部・学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

この結果に基づき、本学におけるこれまでの入学者の歩留率を勘案し、理工学部グリーンテクノロジー学科への入学見込者数を以下の方法にて算出した。

(1) 表 10 の A1 欄（第 1 志望×入学する）はそのまま入学見込者数として算入
(2) 表 10 で A1 欄を除く入学意向が示された人数（A2+B1+B2+C1+C2）は、その合計に令和 6（2024）年度入試の理工学部共生創造理工学科における歩留まり率（入学者数÷合格者数）を乗じて算出した人数を本学科への入学見込者数として算出

これらから、(1)により算出される入学見込者数は 29 名、(2)により算出される入学見込者数は 52 名、合計 81 名となった。

また、本学科の様々な特色に関し、どの程度魅力を感じるかを調査した。本学科のターゲット層及び第 1 志望者が「とても魅力に感じる」または「ある程度魅力に感じる」と回答した件数は以下の表 11 とおりであり、第 1 志望者は約 85～100%、ターゲット層では約 80～90%の者が各特色に魅力を感じていることが分かった。

表 11　理工学部グリーンテクノロジー学科の特色の本学科ターゲット層における魅力度

	標本数	特色 A	特色 B	特色 C
ターゲット層	277	219 件(79.1%)	245 件(88.4%)	227 件(81.9%)
第 1 志望	29	25 件(86.2%)	29(100%)	27(93.1%)

※特色の魅力に関して、以下の設問を設けて回答を得た

【Q4】創価大学で構想中の各学部・学科には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。
（それぞれ、あてはまる番号 1 つに○）
特色 A　技術を社会に生かす方法まで学ぶ、文理融合型カリキュラム
特色 B　 1 年次から演習・実験に触れ、知識の幅を広げる
特色 C　充実した国内・海外での研修やインターンシップ

以上の調査結果の通り、入学定員を上回る入学見込者数であることから、本学科の定員充足が予測される。また、本学科の特色に魅力を感じているターゲット層が多くいることから、広報活動等を強化し、より多くの進学希望者の確保につなげていくことで、安定した定員充足が見込まれる。

【添付資料】
（資料 9）設置構想をお知らせするリーフレット
（資料 19）学生確保に関するアンケート調査票（高校生対象）
（資料 20）グリーンテクノロジー学科（仮称）設置に関するニーズ調査協力高校一覧
（資料 21）グリーンテクノロジー学科（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生】

⑤人材需要に関するアンケート調査等

本学科の設置構想に関して、企業からの採用ニーズを把握するため、採用意向調査「創価大学理工学部 グリーンテクノロジー学科（仮称）に関するアンケート」を行った。調査概要は以下の表 12 の通りである。また、本調査で使用した調査票は【資料 22】の通りである。

表 12　採用意向調査の概要

調査対象	本学部卒業生の就職先として想定される企業の採用担当者
調査エリア	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、沖縄県
調査方法	郵送調査
発送数	1,107 件
回収数	175 件
調査時期	令和 6（2024）年 9 月 3 日～令和 6（2024）年 10 月 10 日
調査会社	株式会社　進研アド

調査結果は【資料 23】の通りとなったが、175 社の回答を得たアンケートにおいて、採用したい学問分野を複数回答で調査したところ、本学科の学びと関連する「工学（エネルギー・環境工学)」は 16.0%、「工学（農業工学)」は 9.1%、「理学（自然環境科学)」は 11.4%で、３分野を併せると 36.5%（64 社）となった。このことから、本学科での学びの分野は、入学定員を超える一定程度の企業の採用ニーズがあることがわかった。

また、同調査において、本学科の主な学びの特色について企業にとって魅力的であるか調査したところ、以下の表 13 の通り、すべての特色において 8 割を超える企業から「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」という回答を得た。

表 13　理工学部グリーンテクノロジー学科の特色の企業における魅力度

	標本数	とても魅力に感じる	ある程度魅力に感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力に感じない	魅力度*
特色 A	175 件	65 件 (37.1%)	92 件 (52.6%)	17 件 (9.7%)	1 件 (0.6%)	157 件 (89.7%)
特色 B	175 件	85 件 (48.6%)	62 件 (35.4%)	27 件 (15.4%)	1 件 (0.6%)	147 件 (84.0%)
特色 C	175 件	66 件 (37.7%)	80 件 (45.7%)	29 件 (16.6%)	0 件 (0.0%)	146 件 (83.4%)

* 魅力度＝「とても魅力に感じる」「ある程度魅力に感じる」と回答した企業数
* 特色 A　技術を社会に生かす方法まで学ぶ、文理融合型カリキュラム
　特色 B　１年次から演習・実験に触れ、知識の幅を広げる
　特色 C　充実した国内・海外での研修やインターンシップ

本学科の設置が社会にとって「必要だと思う」と回答した企業は 97.1%（170 企業）であり、本学科の設置が多くの企業からの支持を受けている。また、本学科の卒業生を「採用したいと思う」

と回答した企業は 82.3%（144 企業）であった。毎年何名程度採用を想定しているかを伺ったところ、以下の表 14 のとおり、採用想定人数の合計は 325 名で、本学科の入学定員 60 名を大きく上回る数の採用意向が示された。これらの結果により、本学科は安定した人材需要があることが見込まれる。

表 14　本学科卒業生に対する毎年の採用想定人数

	採用数							計
	1 名	2 名	3 名	4 名	5 ～ 9 名	10 名以上	回答なし	
企業数	84 社	22 社	12 社	4 社	9 社	10 社	3 社	
採用想定人数	84 名	44 名	36 名	16 名	45 名	100 名	―	325 名

【添付資料】
（資料 22）採用意向調査票（企業対象）
（資料 23）グリーンテクノロジー学科（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【企業】

（４）新設組織の定員設定の理由

新設組織の理工学部グリーンテクノロジー学科では入学定員を 60 名と設定し、それに合わせて大学全体の入学定員を 1500 名から 1215 名に 285 名減員する計画である。

基礎となる既設組織である理工学部共生創造理工学科は入学定員 90 名に対して、2024（令和６）年度の入学者数は 60 名である。国内での 18 歳人口の減少は緩やかに進むものの、新設組織が立地する東京都における大学進学率や大学進学者数の地元残留率の上昇、理工系人材への需要の増加、さらには、（１）～（３）で説明したように社会の要請に応える教育を展開することで新たな志願者層の獲得が期待できることから、新設組織の定員充足は十分に可能であると考えている。以上の点から、新設組織の定員設定は合理性の高いものであると判断する。

学生の確保の見通し等を記載した書類
― 資料目次 －

別紙１　新設組織が置かれる都道府県への入学状況
別紙２　既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
別紙３　既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績
資料１　第６期科学技術・イノベーション基本計画（抜粋）
資料２　令和６年度 私立大学・短期大学等入学志願動向（抜粋）
資料３　マーケットリポート 2024　全国版（抜粋）
資料４　学校基本調査（令和６年度）
資料５　オープンキャンパスプログラム（2024 年 8 月実施分）
資料６　直近５ヶ年の入学者数と学科別の入学者比率
資料７　PASCAL 入試チャレンジプログラム
資料８　探究学習支援プログラム「そうか！」パンフレット
資料９　設置構想をお知らせするリーフレット
資料 10　学部パンフレット
資料 11　グリーンテクノロジー学科の設置を告知するポスター
資料 12　京王線新宿駅に掲出したデジタル広告
資料 13　京王線・京王井の頭線の車内に掲出したポスター
資料 14　日本経済新聞朝刊「高校生向け特別版」
資料 15　朝日新聞朝刊「大学入学共通テスト回答紙面」
資料 16　ダイレクトメールに同封した理工学部改組イメージパンフレット
資料 17　大学・高専機能強化支援事業概要及び採択校一覧
資料 18　THE 日本大学ランキング 2025
資料 19　学生確保に関するアンケート調査票（高校生対象）
資料 20　グリーンテクノロジー学科（仮称）設置に関するニーズ調査協力高校一覧
資料 21　グリーンテクノロジー学科（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生】
資料 22　採用意向調査票（企業対象）
資料 23　グリーンテクノロジー学科（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【企業】

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙１

〇出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位５都道府県）※直近年度

	都道府県名	人　　数	構成比
1	東京都	53,761人	34.3%
2	神奈川県	22,609人	14.4%
3	埼玉県	18,604人	11.9%
4	千葉県	14,011人	9.0%
5	茨城県	5,628人	3.6%
	全国計	156,543人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

〇新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地（都道府県）	充足率		
		令和４年度	令和５年度	令和６年度
1	東京都	103.70%	103.57%	102.88%
	全国計	100.85%	99.59%	98.19%

※２校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

〇新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和４年度	令和５年度	令和６年度
1	理・工学系学部（大学）	104.35%	101.88%	99.39%
	合計	100.85%	99.59%	98.19%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

別紙２

【　省　略　】

１．（書類等の題名）

別紙②　既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

２．（出典）

本学アドミッションズセンター所持データ

３．（引用範囲）

志願者数（実人数）は、学内資料（学外秘）であり【省略】とする。

以上

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙３

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：オープンキャンパス・キャンパス見学会（全学部全学科）

	R５年度入試	R６年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	10262人	11223人	①取組概要 オープンキャンパスならびにキャンパス見学会の対面型のイベントは、以下の日程で実施した。 R5年度入試対象（R4年度）：計11回開催(5/3.5/4.6/25.7/15.8/5.8/6.8/27.9/24.10/29.12/10.3/20) R6年度入試対象（R5年度）：計９回開催(5/3.5/4.7/15.8/3.8/4.8/25.9/22.11/4.3/20) ※下線の日程はオープンキャンパス、下線なしの日程はキャンパス見学会 体験授業内でのワークショップをはじめ、学部選びや進路探究等テーマ別のワークショップ、なんでも相談会など、学生、教職員とコミュニケーションが取れることを重視して実施している。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 コロナ禍で大きく落ち込んだ対面イベントの参加者数は、年々回復してきている。対面イベント参加者の入学率が３割後半程度であることから、650名の入学者を想定する。
うち受験対象者数(b)	1567人	2021人	
うち受験者数(c)	716人	832人	
うち入学者数(d)	607人	711人	
（受験率 c/b）	45.7%	41.2%	
（入学率 d/b）	38.7%	35.2%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：オンライン総合型選抜対策講座「LTD体験会」（全学部全学科）

	R５年度入試	R６年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	690人	610人	①取組概要 本学は受験者が全国型であることから、オンラインイベントの取組が効果的である。オンラインイベントでは、一方向型になりがちな説明会だけでなく、総合型選抜対策講座を実施し、ワーク形式で、教職員、学生、ならびに受験者同士が対話ができるような形で、双方向のコミュニケーションが高まるように実施している。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 総合型選抜対策講座の参加者の入学率８割程度と高いことから、200名の入学者を想定する。
うち受験対象者数(b)	252人	269人	
うち受験者数(c)	204人	248人	
うち入学者数(d)	197人	209人	
（受験率 c/b）	81.0%	92.2%	
（入学率 d/b）	78.2%	77.7%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：大学案内の資料請求（全学部全学科）

	R５年度入試	R６年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	22971人	24203人	①取組概要 本学の大学案内を資料請求してもらうために、各入試広報媒体関連業者の運営する広告媒体への本学情報を掲出している。また、全国のＯＢＯＧ会組織が、地元県での資料頒布に大変協力的であることから、その組織からの請求数も多い。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験者の傾向的にＷＥＢ媒体の閲覧志向が高まっている中、ＯＢＯＧ組織の協力もあり、本学は依然として紙媒体の請求希望が強い。ＯＢＯＧ会を通じての受験者への接触により、本学に当初興味が無い層にも案内ができていることが大きく、入学率は３～４%ながらも、この募集活動を通じて600名の入学者を想定する。
うち受験対象者数(b)	16819人	22842人	
うち受験者数(c)	835人	897人	
うち入学者数(d)	695人	720人	
（受験率 c/b）	5.0%	3.9%	
（入学率 d/b）	4.1%	3.2%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：姉妹校との高大連携（全学部全学科）

	R５年度入試	R６年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	674人	679人	①取組概要 本学姉妹校の創価高校と関西創価高校とは高大連携を活発に行っている。最も大きい取組は、両校とも、学年全員対象にて本学で研修を実施。創価高校は１年次、２年次に１日ずつ計２日間で実施、関西創価高校は２年次に２泊３日の宿泊研修を実施している。研修では教員および学生で各種ガイダンスや体験授業を担当し、研修運営スタッフは、両校卒業生の希望者がを務めている。探究学習においても、本学教員が、対面とオンライン両方で、講義やサポートを実施し、生徒の活動を支援。オンラインでは、教員と共に学生ＳＡ(ｽﾁｭｰﾃﾞﾝﾄ・ｱｼｽﾀﾝﾄ)もサポートを担当し、宿泊研修と合わせて入学後の学生の具体的なロールモデルともなっている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 姉妹校２校からの入学率は、平均６割程度であることから、400名の入学者を想定する。
うち受験対象者数(b)	674人	679人	
うち受験者数(c)	479人	450人	
うち入学者数(d)	416人	413人	
（受験率 c/b）	71.1%	66.3%	
（入学率 d/b）	61.7%	60.8%	

資料１

【　省　略　】

１．（書類等の題名）

資料１　第６期科学技術・イノベーション基本計画（抜粋）

２．（出典）

総合科学技術・イノベーション会議,「第６期科学技術・イノベーション基本計画 本文」, 2021，内閣府

３．（引用範囲）

（２）地球規模課題の克服に向けた社会変革と非連続なイノベーションの推進

https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6honbun.pdf

以上

資料２

【　省　略　】

１．（書類等の題名）

資料２　令和６年度 私立大学・短期大学等入学志願動向（抜粋）

２．（出典）

「令和６年度 私立大学・短期大学等」，2024，日本私立大学振興・共済事業団

３．（引用範囲）

入学定員、志願者数、志願倍率、入学者数及び入学定員充足率

https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouR6.pdf

以上

資料３

【　省　略　】

１．（書類等の題名）

資料３　マーケットリポート 2024　全国版（抜粋）

２．（出典）

マーケットリポート「18 歳人口予測」（全国版），2025，リクルート進学総研

３．（引用範囲）

・今後の 18 歳人口予測（全国版）

https://souken.shingakunet.com/research/pdf/2024_souken_report/2024_souken_report.pdf

以上

資料４

【　省　略　】

１．（書類等の題名）

資料４　学校基本調査（令和６年度）

２．（出典）

「令和６年度 学校基本調査」，2024，文部科学省

３．（引用範囲）

・出身高校の所在地県別 入学者数

https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=000001223980&tclass2=000001223981&tclass3=000001223982&tclass4=000001223984&stat_infid=000040230324&tclass5val=0

以上

資料５

オープンキャンパス　プログラム［令和６（2024）年８月開催分)］

資料６

直近５カ年（令和２～令和６年度）の入学者数と学科ごとの比率

学科	令和２（2020）年度			令和３（2021）年度			令和４（2022）年度			令和５（2023）年度			令和６（2024）年度			５年平均
	定員	入学者	比率	定員	入学者	比率	定員	入学者	比率	定員	入学者	比率	定員	入学者	比率	
経済	190	197	13%	190	197	13%	190	166	12%	190	132	10%	190	129	10%	12%
経営	190	200	13%	190	204	13%	190	193	14%	190	189	15%	190	213	17%	14%
法律	240	252	16%	240	250	16%	240	221	16%	240	197	16%	240	152	12%	15%
人間	350	374	24%	350	354	23%	350	313	23%	350	267	21%	350	286	22%	23%
教育	80	83	5%	80	86	6%	80	72	5%	80	72	6%	80	87	7%	6%
児童教育	100	106	7%	100	97	6%	100	86	6%	100	100	8%	100	100	8%	7%
情報システム工	80	82	5%	80	83	5%	80	85	6%	90	86	7%	90	88	7%	6%
共生創造理工	100	97	6%	100	96	6%	100	81	6%	90	65	5%	90	60	5%	6%
看護	80	82	5%	80	82	5%	80	77	6%	80	78	6%	80	81	6%	6%
国際教養	90	69	4%	90	82	5%	90	81	6%	90	78	6%	90	86	7%	6%
計	1500	1542	100%	1500	1531	100	1500	1375	100%	1500	1264	100%	1500	1282	100%	100%

SOKA University Discover your potential

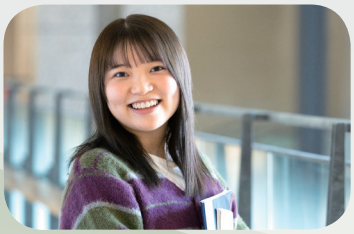
資料 7

PASCAL ENTRANCE EXAM CHALLENGE PROGRAM 2025

PASCAL入試 チャレンジプログラム 2025

成長力を引き出す 育成プログラムで、 入試も大学の学びもサポート！

- 総合型選抜「PASCAL入試」に活かせる スキルとマインドを育成！
- プログラム修了で出願資格の成績要件が 3.0 以上に緩和！



PASCAL 入試とは

PASCAL（パスカル）入試は、アクティブラーニングの要素を取り入れた創価大学独自の総合型選抜です。LTD（話し合い学習法）方式のグループワークを採用しています。これに面接を加え、学力の３要素（①知識・技能②思考力・判断力・表現力 ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を総合的・多面的に評価した選抜を行います。

スケジュール（予定）	
出願期間	2025 年 9 月上旬
一次選考合格発表	2025 年 9 月下旬
二次選考	2025 年 10 月 18 日（土）
合格発表	2025 年 11 月 1 日（土）

LTD方式（全学部）

選考方法

●第一次選考 ＜書類審査＞ 学部ごとの観点に基づき下記書類の審査を実施

- 調査書
- 自己推薦書
- 出願要件・資格等証明書類

※学部ごとの観点についてはホームページで詳細をご確認ください。

●第一次選考合格後 ＜予習実施＞ 第一次合格者は第二次選考に向け下記の予習を実施

- 予習教材*1の精読
- 予習用ガイダンス映像の視聴
- 「予習ノート」*2の作成

＊1 4,000 ～ 6,000 字程度

＊2 大学独自様式

●第二次選考 オンライン会議システム「Zoom」を利用しての選考

- LTD方式のグループワーク*（約 60 分）
- 面接試験（個別／約 15 分）※面接員 2 名、受験者 1 名

＊1 グループ 4 ～ 6 名で実施。

LTD方式紹介動画はこちらから

全講座無料
オンライン
一部対面
プログラムもあり

PASCAL入試

チャレンジプログラムとは?

入試で評価する 2つの力 を育みます

「PASCAL入試チャレンジプログラム」は、PASCAL入試で評価する学力の３要素のうち、２つの力をLTD体験とキャリアプランニングで育成します。LTD体験のグループワーク、およびキャリアプランニングを通し、「思考力･判断力･表現力」を向上させ、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を育みます。

① 思考力 判断力 表現力
問題を発見し、他者と共有しながら、必要な知識や方法を活用して、多様な考えを統合して解決へと導く。

② 主体性 協働性
自己の資質や能力をどのように高め、どのように他者や社会と協働し、よりよい人生を送るかを考える。

大学入学後の学びに直結します

「PASCAL入試チャレンジプログラム」は、全てオンライン講座で全国どこからでも参加可能です。大学の授業でも求められる学習法を体験でき、進学への目的意識がより明確になるため、入学後の学びにも直結します。なお、本プログラムの修了要件を満たした方は入試出願資格の成績要件が、3.2 以上から 3.0 以上に緩和されます。

受講でこんなメリットが！

1 MERIT
PASCAL入試の受験に必要な対策ができる！

2 MERIT
出願資格の成績要件が **3.2以上** から **3.0以上** に緩和される！

3 MERIT
入学後に役立つ学習法の体験と将来を描く機会に！

プログラム実施内容

実施期間：2025 年 3 月下旬～ 8 月

① LTD体験

● LTD とは
アクティブラーニングの手法の一つで、Learning Through Discussion= 話し合い学習法のことです。創価大学では各学部の多くの授業で採用されています。

● 実施概要
予習教材を精読し、「LTDガイダンス映像」にそって予習ノートを作成のうえ、LTDを体験します。LTD 実施後は、個々に振り返りを行って「リフレクションシート」を提出します。

② キャリアプランニング

● キャリアプランニングとは
自分の能力と経験を洗い出し、自身の潜在的目的意識や嗜好性を発見します。そのうえで、大学での学びの意味や学部の志望について考えを深めます。

● 実施概要
オンライン配信による「自己分析講座」を受講し、ワークシートにまとめます。また、現役学生の先輩によるグループ面談を行い、大学での学びのイメージを具体化します。

③ オープンキャンパスへの参加

オープンキャンパスへの参加を通して創価大学の雰囲気を感じ、将来のキャンパスライフをイメージしてもらいます。

PASCAL入試 チャレンジプログラム 募集要項

2025.1.27(月) 募集開始

※学習成績の状況（評定平均値）など成績は問いません。

▼詳細はこちら

- **● 申込資格**：高等学校等を2025年度卒業見込の者
- **● 募集人員**：200 名
- **● 応募方法**：エントリーシートをWEBにて入力（志望動機など）

受講者の声 VOICE

PASCAL入試に先立ち展開される「チャレンジプログラム」。
入試対策はもちろん、
参加者は自分自身の成長を実感しています。

経営学部経営学科２年
出 義明さん
都立東大和高校出身

YOSHIAKI DE

能動的に動くことを自覚
「挑戦する４年間」に
したいと決意を固めた

➡プログラムを受講したきっかけ

オープンキャンパスで受け取ったパンフレットを見て、PASCAL 入試の準備ができるのはもちろん、このプログラムを通じて自分自身が成長できると感じたからです。入学後のことも視野に入れ、高校時代から早めにスタートしたいという気持ちも強くありました。

➡チャレンジプログラムに参加して

プログラムはオンラインで行われるので、全国どこからでも参加でき、北海道から沖縄まで、さまざまなエリアから創価大学を目指す受験生が集まっていました。

私の高校では勉学とスポーツの両立が求められており、私自身、陸上部に所属し高校３年の 11 月まで活動していました。とにかく忙しかったのですが、リモートで行われるので、時間のやりくりができとても助かりました。また、同年代の受験生とディスカッションする中でお互いを深め、高いモチベーションを維持できました。ディスカッションでは、大学で学ぶ意味などをテーマにしたものが多くありました。論文を読み、筆者が伝えたいことを考え、自分の体験と結びつけてお互いに討論するものです。さまざまな考え方に触れられたことは大きな成果です。

➡入試を通じて成長できたこと

能動的に動くことの大切さを自覚し、大学生活を「挑戦する４年間」にしたいと決意し入学しました。海外留学を目指し語学勉強に取り組んだり、入学式や新一年生のサポートなどにも挑戦したいと考えています。入学後はモチベーションが落ちがちと言われますが、高い意識を持って学生生活を送ることができています。

教育学部児童教育学科２年
前田 智華さん
静岡市立高校出身

CHIKA MAEDA

ディスカッションを重ね
自分の意見を発信する
ことの大切さを学ぶ

➡プログラムを受講したきっかけ

オープンキャンパスに参加し、教育学部のブースで先輩に教えていただいたのがきっかけです。入試への不安を抱えていましたが、PASCAL 入試では、学力では測れないコミュニケーション能力や積極性、傾聴力などが選考のポイントになるという点に魅力を感じました。

➡チャレンジプログラムに参加して

「チャレンジプログラム」では、LTD 体験が３月下旬から８月まで行われます。創価大学を目指す受験生たちがオンラインでつながり、ディスカッションをします。受験生４人～６人に対して先生、先輩が一人ずつ加わって実施されます。オンラインですからどこからでも参加でき、海外から参加されている方もいました。担当の先生から「自分の意見を発信することの大切さ」など、さまざまなフィードバックをいただき、自己アピールの重要性を教わったことも自信につながりました。

PASCAL 入試は、創価大学で最初に実施される入試で合格へのチャンスが広がると思います。

➡入試を通じて成長できたこと

創価大学では、日々の授業の中でグループディスカッションが数多くあります。その際に、「チャレンジプログラム」で培った視点や思考を存分に発揮でき、自分の成長を実感しています。

またこのプログラムでは先輩からアドバイスをいただける機会があり、私のことを心から応援してくださいました。そのことに感銘を受け、現在はオープンキャンパスの役員等、後輩の夢をサポートする側として、活動しています。

PASCAL入試
チャレンジ
プログラム

2025.1.27(月)
募集開始 ※応募詳細は中面へ

▼詳細はこちら

創価大学　アドミッションズセンター
〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
Tel 042-691-4617　Fax 042-691-9310
www.soka.ac.jp

▼大学公式サイト　▼受験生向けページ

ACCESS

●バスで来学される場合
JR 八王子駅の北口ロータリー内、11・12 番もしくは 14 番（時間帯により変更）バス乗場から「創価大学循環」、または「創価大正門・東京富士美術館」行きのバスにて約 20 分。

●自家用車で来学される場合
中央自動車道「八王子 IC」から約７分、圏央道「あきる野 IC」から約 12 分。

資料８

トライアル授業に参加した高校生の声

授業テーマ 金融！

授業は聞きやすく分かりやすい内容でした。グループで話し合って進める方式は良いと思いました。投資や金融、為替レートなど分からない部分があるのでもっと知りたいと感じました。

身近な存在だから、お互い共感できるところが多くて、助けになった。

同じお金でも人によって視点が全く違うことに気づけた。

大学生サポーターが、グループで意見が出ない時にいいアドバイスをしてくれた。

よくある質問

Q 成果発表などで大学施設を利用することは可能ですか？

A 可能です。
大学で講義を実施することもできます。

Q 講義の中に大学紹介など講義以外の時間はありますか？

A ありません。いわゆる宣伝的な情報を授業内でお伝えする時間は設けていません。

その他のよくある質問は公式サイトよりご確認いただけます

お申し込みから実施までの流れ

STEP. 01 お申し込み
申込専用フォームor電話で申し込み

STEP. 02 返信
創価大学アドミッションズセンターより返信

STEP. 03 ヒアリング
実施目的等を確認

STEP. 04 事前打ち合わせ
実施内容、授業構成などを調整

STEP. 05 プログラム
創価大学の教員と学生が授業をサポート

SOKA University

▼お問い合わせはこちら
創価大学
お問合せ先：アドミッションズセンター
Tel：042-691-4617 / Fax：042-691-9310
E-mail：nyushi@soka.ac.jp https://www.soka.ac.jp/

申し込みフォームはコチラ

探究学習、高大連携にご関心のある高校教員の皆さま

SOKA University

高校生と大学生が一緒にわくわくワークする
探究支援プログラム

そうか！

セイカイのないセカイへ

「そうか！」は、「総合的な探究の時間」に
創価大学のノウハウをご活用いただけるよう外部機関の協力を得て開発した
創価大学オリジナルの探究支援プログラムです。

特徴1 教育系企業や高校の先生方とともに開発したプログラム
開発協力：株式会社TOKYO EDUCATION LAB／株式会社進研アド

特徴2 社会で注目度の高いテーマをラインナップ

特徴3 貴校のカリキュラムに合わせて実施内容をカスタマイズできる

完全無料

探究支援プログラム「そうか！」とは？

「そうか！」は創価大学と教育系企業・高校教員の意見をもとに開発した創価大学オリジナルの探究支援プログラムです。

開発協力：株式会社TOKYO EDUCATION LAB／株式会社進研アド

「SDGs」「金融」など、社会で注目度の高いテーマをラインナップ。関連分野の研究を行う大学教員が講義を行うだけでなく、大学生サポーターが生徒間のディスカッションや成果発表前のサポートを担当します。
講義は1コマから導入いただけ、実施内容は貴校の課題に合わせカスタマイズすることができます。

出張講義ラインナップ

理想の「はたらく」を研究（通常編 / アルバイト編）
こんなケースにオススメ！
生き方が多様化している今‥働くことについて考えさせたい
概要
職業観にとどまらず、結婚・子育てなどのライフイベントや、賃金不払いなど働くうえでのさまざまなリスクも想定しながら、それに対応した理想の働き方を「労働法」から学んで考えます。
※アルバイト経験のない高校様には、より身近な例を使った「アルバイト編」の講座をご用意しています。

SDGs×起業
未来へのアクションプラン
こんなケースにオススメ！
SDGsはテーマが広すぎて、何から始めたらよいか迷っている
概要
変化のスピードが速まり、未来が予測しにくい一方で、自ら新しい事業を創り、リスクに挑戦する「アントレプレナーシップ（起業家精神）」が求められています。そこでSDGsをふまえた未来へのアクションプランを考えます。

人生100年時代!?
これから必要な「金融」を探究
こんなケースにオススメ！
家庭科における、金融教育の指導に活かしたい
概要
社会が長寿化する今、人生100年といわれる長い一生を支える「お金の将来設計」が不可欠です。生涯にわたり安定した生活を送るための「金融リテラシー（お金に関する正しい知識や判断力）」を持つ必要性について考えます。

「お金」と「金融」を探究
こんなケースにオススメ！
家庭科における、金融教育をわかりやすく理解するきっかけづくり
概要
ファイナンスを自分ごとで捉え、「お金」の正体を考えながら、お金の流れをお肩に例えながら「フロー」と「ストック」に分けて出所と行き先をイメージします。金融とSDGsとの関連性にも繋げていきます。

キャリア探究「未来の履歴書」
こんなケースにオススメ！
グローバルな視野を持たせたい
将来を見据えたポートフォリオに取り組ませたい
概要
日本を代表する2人の冒険家の挑戦から「自分らしさ」に向き合っていただき、将来の履歴書づくりを通して夢を膨らませながらバックキャスティングで自己実現に繋げるきっかけを提供します。

プログラミングの基礎を探究
こんなケースにオススメ！
プログラミングが必須化したけど何から教えたらいいか困っている
概要
Scratchを用いたAIアプリケーションの体験ブロック型のビジュアルプログラミング言語「Scratch」に、画像認識などが扱える拡張機能ブロックを組み合わせて、AIを使って作成できるアプリケーション開発を体験します。
※カメラが使えるPC、インターネット接続、webブラウザのGoogleChromeが必要です。

※上記プログラムの他、オーダーメイドでプログラムを作ることも可能な場合があります。まずはお気軽にご相談ください。

これまでの実施例

トライアル授業の様子

今回のテーマは「金融」。入門編として、そもそも「お金」とは何か、社会の中でどのように動いているのかを考える講義・ワークを行いました。

アイディアが出せずにいる班にヒントを出したり、生徒の発表に対するフィードバックを行うなど、大学生サポーターが班活動をサポートしました。（各回1～4名程度参加）

授業の様子紹介動画を限定公開中！

オーダーメイドプログラムの実施例

キャリア探究（神奈川県 私立高校）
様々な学問分野の内容や魅力を全学年共通に講義型で紹介。30分×3コマ実施。本学は複数の参加大学のうち「国際系」を担当。 国際教養学部の教員が、本学の授業内容を中心に説明。

「数学B」統計分野の探究授業（東京都 都立高校）
2年次「数学B」の「統計」の分野を探究形式の授業によって実施。3学期中心に計5回授業。本学教員の授業は3回、全5回に学生サポーターが参加し、生徒のワークをサポート。

探究学習とは何か？（東京都 都立高校）
1年次2学期開始の探究学習の初回に「探究学習とは何か？」を本学教職大学院の教員とそのゼミ生が50分講演。同ゼミは「SAGE JAPAN」事務局を担当。

大学生のサポートによって
「対話」を通じた双方向の授業が可能になります！

こんなお悩みはありませんか？

Scene 1
生徒にとって身近なロールモデルが欲しい

大学生サポーターを派遣

Scene 2
校内にノウハウの少ない活動テーマを補いたい

「金融」「SDGs」など旬のテーマから選択できる

Scene 3
「探究」での生徒へのフォローやフィードバックを強化したい

成果発表前のフォローやフィードバックを実施

資料９

経済経営学部
ビジネス学科（仮称）

2026年4月設置構想中

経済・経営を幅広く学び、
世界・社会の課題をビジネスで解決する

理工学部
グリーン
テクノロジー学科（仮称）

2026年4月設置構想中

気候変動を緩和する省エネ・創エネ技術や
IoTによる新しい生物生産技術を学ぶ

理工学部
生命理工学科（仮称）

2026年4月設置構想中

生命科学と最先端技術の融合で、
よりよい社会を創る

※設置計画は予定であり、内容は変更となる可能性があります。

経済経営学部
ビジネス学科（仮称）

2026年4月設置構想中

学科概要

自他ともの幸福を目指す「人間主義」の理念に基づき、企業や地域等の課題を扱う実践的な学びの場に身を置くことで、経済学・経営学の基本的な知識からビジネスへの応用の仕方まで幅広く学ぶことができます。

予定科目

- ヒューマニスティック・リーダーシップ WS1・2・3（コース共通）
- 開発と貧困の経済学 グローバル
- 気候変動の経済学 グローバル
- Multicultural Management グローバル
- リーダーシップ論 ビジネス
- 消費者行動論 ビジネス
- マーケティング ビジネス
- 財務管理論 金融・財務
- 証券市場論 金融・財務

グローバル グローバルリーダー学修コース
ビジネス ビジネスデザイン学修コース
金融・財務 金融・財務プロフェッショナル学修コース

例えば こんな学び

Q. 甘いチョコレートの生産の裏は厳しい貧困の世界？

どこでも購入できるチョコレートがどんな環境で作られているかご存知ですか？ 一部のカカオ生産国では、貧困や森林伐採、子どもが働き手となる児童労働が深刻な問題になっています。そこで労働者の毎日の生活を守り、子どもたちが十分な教育を受けられるよう、消費国が適正価格で取引をする「フェアトレード」が広がっています。このように労働者一人ひとりを尊重し、消費者、経営者の三者の利益を両立させることが大切です。

Check! 「好き」がビジネスのアイディアになる？

かねてから睡眠が足りないと言われる日本人。経済損失は年間15兆円とも算出される睡眠不足問題をビジネスの切り口で解決しようと考え出されたのが、人気のあるゲームと睡眠管理アプリを組み合わせたスマートフォン向け睡眠ゲームでした。
現代人が寝ても覚めても手放せないスマートフォンと大人気ゲームをかけ合わせ、睡眠習慣を改善するアプリが開発されました。自分の「好き」や「得意」が、大きなビジネスチャンスになるかもしれないのです。

学びのPOINT

1 ワークショップ・研修を通じて実践的スキルが身につく

本学科では、1年次から2年次にかけて「人間主義」に基づくリーダーシップ教育を実施します。企業や地域の実際の課題等をケースに取り上げ実践的な学びを体験。チームビルディングやリーダーシップの力を育みます。実践的な課題解決型ワークショップや海外研修・習熟度別の語学学習プログラムもあり、ビジネスに必要な力も身につきます。

2 3つの学修コース×8つの科目群で柔軟に学べる

軸となるコースと関心のある分野を組み合わせることで、卒業後の進路を見据えた学びが可能です。

●進路に応じた3つの学修コース制
グローバルリーダー学修コース／ビジネスデザイン学修コース／金融・財務プロフェッショナル学修コース

×

●経済・経営を横断する8つの科目群
グローバル／マーケティング／組織マネジメント・ダイバーシティ／金融・財務／貧困・開発／ポリシー・デザイン／サステナビリティ&地域共創／ソーシャルデータサイエンス

3 ビジネスで役立つ資格取得がめざせる

公認会計士をはじめ、税理士、簿記検定などの資格にチャレンジ可能。これまでも難関国家資格である公認会計士の現役合格者を2002年以来21年連続で輩出。2023年度は7名が合格するなど、高い資格取得実績を誇っています。

※設置計画は予定であり、内容は変更となる可能性があります。

理工学部
グリーンテクノロジー学科（仮称）

2026年4月設置構想中

学科概要

気候変動を理解するための地球観測技術、安定した食糧生産に必要な生物生産技術や、創エネルギー・省エネルギー技術などの低炭素技術を学びます。さらに、これらの技術を社会に還元するための環境経営学や国際技術協力などを学びます。

予定科目

- 地球科学概論
- ライフサイクルアセスメント
- 農地工学実習
- 水処理工学実験
- プランクトン工学実験
- グリーンテクノロジー海外研修A・B

例えば こんな学び

Q. 2100年の夏の最高気温はどうなっちゃうの？

2023年の東京の8月の平均最高気温はなんと34.3℃！このまま改善対策を取らなかった場合、80年後の日本は年平均3.2～5.4℃上昇が予測されると言われています。地球温暖化は、世界的に深刻な問題。気候変動や海面上昇を解消し、持続的な経済社会の発展をめざすためには、脱炭素社会に向けて再生可能なクリーンエネルギーに転換していく技術が欠かせません。

Check! 大量繁殖した水草が、燃料にも食糧にもなる？

創価大学では、エチオピアの湖でホテイアオイ（水草）の過剰な繁殖による問題を解決する研究プロジェクトを立ち上げました。
水草からメタン発酵によってエネルギーと栄養を回収するとともに、回収した栄養を使って、スピルリナ（プランクトン）や農作物を育てる循環型社会の構築を目指しています。技術開発だけでなく、スピルリナや農作物のマーケティングや、エチオピアでの環境教育にもかかわる文理協同の国際協力プロジェクトです。

学びのPOINT

1 技術を社会に生かす方法まで学ぶ、文理融合型カリキュラム

技術を社会で実装するために、専門分野に加え他分野や文系ともチーム連携して、文理を問わず知識を学びます。理工学部に設置される学科ですが、文系・理系の基礎科目を設置しており、高校で文系を選択していた学生も受験および入学することができます。

2 1年次から演習・実験に触れ、知識の幅を広げる

本学科の学びは座学ばかりではありません。1年次から演習・実験科目を履修でき、理論と実践を同時に学びながら興味関心の幅を広げることができます。

3 充実した国内・海外での研修やインターンシップ

創エネルギー・省エネルギーといった環境技術を、実社会で開発・応用する国内・海外の研究機関や企業などで実践的な体験をすることができます。

※設置計画は予定であり、内容は変更となる可能性があります。

理工学部
生命理工学科（仮称）

2026年4月設置構想中

学科概要

生物・生命科学を軸として、糖鎖生物学（糖鎖生命システム学）・応用物理学・化学・電子工学技術に関する最先端の融合分野を学び、健康と福祉、安心安全な社会の構築に貢献する技術者・研究者を育成します。

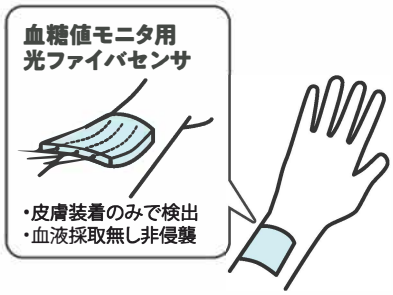
予定科目

- 糖鎖生命システム学
- 免疫科学
- ニューロサイエンス（神経科学）
- バイオテクノロジー
- データサイエンス演習
- 先端医理工連携概論
- 理科教職演習Ⅰ、Ⅱ

例えば／こんな学び

Q. 人体の異常を24時間検知!? 生体情報センシング技術とは?

糖尿病治療に欠かせない指標となる血糖値は、これまで専用の穿刺器具による採血でしか計測できませんでした。近年では採血なしに「光」で血糖値を測定できる技術「生体情報センシング」が開発されています。痛みも手間もなく、血糖値が簡単に計測できるようになり、医療やヘルスケアの面で注目を集めています。生命理工学科では、こうした医学・理学・工学を連携させたバイオ技術の研究を進めています。



Check! がんや再生医療の研究でも注目! 「糖鎖」って何?

今、世界中から注目を集めている「糖鎖」は、DNA、タンパク質に次ぐ第3の生命鎖。タンパク質や脂質の働きに連動するもので、私たちの生命現象の多くに糖鎖が関わっています。がん、糖尿病、認知症、新型コロナウイルス感染症など、さまざまな病の治療法の発展に、日々研究が進められています。
創価大学には「糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点」として文部科学省に認定された「糖鎖生命システム融合研究所」があり、生命科学と情報科学の専門家が協働して研究を行っています。

学びのPOINT

1 医療などで注目される最先端の生命科学・バイオ技術を学ぶ

生物・生命科学に加え、医理工連携に通じる糖鎖生物学（糖鎖システム学）・電子工学・応用物理学・化学など最先端の融合分野を学習。血糖値などの生体データを得る生体計測技術や、健康・福祉に役立つバイオ技術などの実践的な内容が学べます。

2 1年次から少人数の実験実習に関わり、実践力を身につける

1年次から研究室の実験などに参加。少人数で、理工学の基礎的なものからバイオテクノロジー技術につながる複合的な分野まで実験実習を受講でき、実践力が身につきます。

3 在学時から生徒と関われる実践的な中・高理科教員養成プログラム

理科教員養成に特化した特別プログラムを提供。八王子市や系列中学と連携し、実験教室の運営・サポートを通じ、充実した教育実践活動ができます。

※設置計画は予定であり、内容は変更となる可能性があります。

各学科の基本情報

経済経営学部 ビジネス学科（仮称）

2026年4月設置構想中

設置の理念

経済経営学部は、建学の精神である「人間教育」「大文化建設」そして「平和創出」に基づいて、「人間主義経済・経営」の理念を掲げています。
「人間主義経済・経営」は、自他ともの幸福を根幹に据え、経済学と経営学の両面から世界の平和に貢献することをめざしています。経済経営学部は、これに立脚して、「価値創造を実践する世界市民」を育成するための理論的・実践的教育と研究を行うことを目的としています。

［初年度学生納付金］年間 1,050,000円＊　［入学定員］280名

想定される進路

- グローバル企業（コンサルタント、情報通信 など）
- 国内企業（コンサルタント、メーカー、情報通信、銀行・証券・保険、建設 など）
- NGO／国内大学院／海外大学院／国家公務員／地方公務員 など

取得可能な資格

・公認会計士　・税理士　・ERE（経済学検定試験）　・統計検定　・日商簿記検定1級・2級
・証券アナリスト　・基本情報技術者　・ファイナンシャルプランナー2級・3級

類似する学部(初年度学生納付金)*

・帝京大学 経済学部 経済学科／**1,332,000円**
・亜細亜大学 経営学部 経営学科／**1,284,000円**

こんな人におすすめ!

- □ これからのリーダーシップを学びたい人
- □ 世界を舞台に活躍したい人
- □ 地域や社会に貢献したい人
- □ 新たな商品やサービスを生み出したい人

理工学部 グリーンテクノロジー学科（仮称）

2026年4月設置構想中

設置の理念

世界的な気候変動危機のなか、グリーン・トランスフォーメーション(GX)を促進するために、水処理・廃棄物処理における創エネルギー・省エネルギー技術や、農業・水産といった生物生産プロセスの自動化技術を扱える技術者の養成が急務です。これらの分野を教育・研究する「グリーンテクノロジー学科」を新たに開設し、サーキュラーエコノミーの実現に寄与し、SDGs達成に貢献する人材の育成を目指します。循環型社会の実現に資する知識と思考力、低炭素技術とプロセス設計、それらの理念や技術の社会実装に関する環境・法律・経済経営にかかる学際的な文理融合教育を行います。

［初年度学生納付金］年間 1,570,000円＊　［入学定員］60名

想定される進路

- 一般企業（建設・設備業、農・水産業、製造業、情報・通信業、金融・保険業、教育・広告・その他サービス業など）
- 国内・海外大学院／研究所／国家公務員／地方公務員／国際公務員／NGO・NPOなど

類似する学部(初年度学生納付金)*

・芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科／**1,762,000円**
・玉川大学 農学部 環境農学科／**1,861,900円**

こんな人におすすめ!

- □ 省エネ・創エネ技術に関心のある人
- □ 低炭素技術の実用化や生物生産のIoT化に興味のある人
- □ 環境・循環技術に関わる会社の起業に興味のある人
- □ 環境問題の解決でグローバルに貢献したい人

理工学部 生命理工学科（仮称）

2026年4月設置構想中

設置の理念

生命科学を中心とした教育を通じて、科学技術の発展と心の豊かさを調和させたヒューマン・ウェルビーイング社会の実現に貢献する人材を育成することを目標とする「生命理工学科」を開設します。生物・生命科学を学ぶとともに、糖鎖生物学（糖鎖生命システム学）・応用物理学・化学・電子工学技術に関する最先端の融合分野を学びます。これらの学びを通じて、健康と福祉、安心安全な社会の構築に貢献する技術者・研究者を育成します。また、学際的な理工学知識と教育実践体験に基づいて、中高生に理科の学びの喜びを伝えられる理科教育に貢献する人材を養成します。

［初年度学生納付金］年間 1,570,000円＊　［入学定員］55名

想定される進路

- 民間企業（医療・医療機器メーカー、食品、医薬品、化粧品、化学工業、製造業、情報・通信業、教育、その他）
- 大学院（創価大学大学院など）／研究所／国家公務員／地方公務員／中高理科教員など

取得可能な資格

・中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）　・甲種危険物取扱者（受験資格）
・基本情報技術者　・バイオインフォマティクス技術者認定試験
・バイオ技術者認定試験・衛生管理者、胚培養士（任用資格※）
※卒業後に実務に就くことによって与えられる資格

類似する学部(初年度学生納付金)*

・東京薬科大学 生命科学部 分子生命科学科／**1,850,000円**　・明治大学 理工学部 電気電子生命学科／**1,806,000円**
・芝浦工業大学 システム理工学部 生命科学科／**1,762,000円**　・千葉工業大学 先進工学部 生命科学科／**1,640,000円**

こんな人におすすめ!

- □ 生物・生命科学に関心のある人
- □ 応用物理学・化学・電子工学技術などを活用した、医理工連携による最先端課題に挑戦したい人
- □ 中学・高校の理科の先生を目指したい人

＊各大学の初年度学生納付金については教材費などを含んでいない場合があるため、概算として参考にしてください。　※設置計画は予定であり、内容は変更となる可能性があります。

経済経営学部 ビジネス学科（仮称）

理工学部 グリーンテクノロジー学科（仮称）

理工学部 生命理工学科（仮称）

各学科が養成する人材像・アドミッションポリシー

経済経営学部 ビジネス学科（仮称）

2026年4月設置構想中

養成する人材像

自他ともの幸福をめざす「人間主義」の理念に基づき、理論と実践を相互に学びながら専門性を磨くことを主軸とした教育を展開します。多様化する社会に対して様々な場で新たな価値を創造し、社会課題を解決する人材を育成します。

アドミッションポリシー

経済経営学部は、創価大学のアドミッション・ポリシー並びに本学部の理念・目的に基づいて、本学部の教育目標で示した人材へと成長する資質・能力を備えた学生を以下のように選抜します。

(1) 経済経営学部の理念に共感し、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする目的観に立って本学部での学修を希望する学生。
(2) 問題発見・解決に必要な専門知識と手法を習得するために、高等学校までの教育において到達目標とされる基礎学力を有している学生。
(3) 国際社会を舞台に活躍できる力を身につけるために必要な、基礎的な英語能力を有している学生。
(4) 創造力や論理的思考力をもって問題発見・解決に主体的に取り組む資質と意欲のある学生。

理工学部 グリーンテクノロジー学科（仮称）

2026年4月設置構想中

養成する人材像

環境問題や食糧問題の解決に不可欠なグリーンテクノロジー（創エネルギー・省エネルギー技術や新しい生物生産技術など）とその社会実装について学び、低炭素社会の実現とSDGs達成に貢献する国際的な人材を養成します。

アドミッションポリシー

理工学部では学科を問わず、創価大学の建学の精神を尊重しつつ、理工学の基礎から応用にいたる学問分野を学ぶ以下のような人材を広く社会に求めます。

・人間主義を標榜し、社会に必要な科学技術の健全な価値を提示したいと願う人
・平和の理念に徹し、民衆幸福のため他者へ貢献する世界市民をめざす人
・進取の気性を持ち、真摯に学問に取り組む労苦を惜しまない人

左記の志とともに、高い専門性を獲得する意志が強固であること、および、大学での学習の基礎となる基礎知識と問題を解く力が求められます。理工学部では専門科目の基礎となる高等学校レベルの数学と理科とともに、新たな知識の吸収と問題の解法や説明に必要な言語の理解と構成の能力を入学の条件とします。

理工学部 生命理工学科（仮称）

2026年4月設置構想中

養成する人材像

人類の健康を守るために不可欠な「生命科学」の分野を中心に、理論と応用を融合した学びを通じて、科学技術の発展と心の豊かさを調和させたヒューマン・ウェルビーイング社会の実現に貢献する人材を育成します。

アドミッションポリシー

理工学部では学科を問わず、創価大学の建学の精神を尊重しつつ、理工学の基礎から応用にいたる学問分野を学ぶ以下のような人材を広く社会に求めます。

・人間主義を標榜し、社会に必要な科学技術の健全な価値を提示したいと願う人
・平和の理念に徹し、民衆幸福のため他者へ貢献する世界市民をめざす人
・進取の気性を持ち、真摯に学問に取り組む労苦を惜しまない人

左記の志とともに、高い専門性を獲得する意志が強固であること、および、大学での学習の基礎となる基礎知識と問題を解く力が求められます。理工学部では専門科目の基礎となる高等学校レベルの数学と理科とともに、新たな知識の吸収と問題の解法や説明に必要な言語の理解と構成の能力を入学の条件とします。

※設置計画は予定であり、内容は変更となる可能性があります。

SOKA University

創価大学 アドミッションズセンター
〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
Tel:042-691-4617 Mail:nyushi@soka.ac.jp
https://www.soka.ac.jp/

- 経済学部 経済学科
- 経営学部 経営学科
- 法学部 法律学科
- 文学部 人間学科
- 教育学部 教育学科 児童教育学科
- 国際教養学部 国際教養学科
- 理工学部 情報システム工学科 共生創造理工学科
- 看護学部 看護学科

[access]

新宿駅 — JR中央線／約35分（中央特快）— 八王子駅
新宿駅 — 京王線／約40分（特急）— 京王八王子駅
八王子駅／京王八王子駅 — バス約20分 — 創価大学

JR八王子駅北口のロータリー内バス乗り場から「創価大学循環」または「創価大正門東京富士美術館」行きのバスにて約20分。

SOKA UNIVERSITY

学部ガイド 2026

創価大学　アドミッションズセンター
〒192-8577　東京都八王子市丹木町 1-236
TEL: 042-691-4611 FAX: 042-691-9310
www.soka.ac.jp/

LEAP INTO THE GLOBAL ERA!

その知恵で、その技術で 世界を変えるときがきた

グローバル化が加速するなかで日本各地が海外からの旅行者でにぎわうなど、みなさんの身近にも「世界」を感じることがあるのではないでしょうか。また、日本のエンタメや食文化が海を渡って人気を得るなど、世界で「日本」が注目されることも増え、日本と世界は非常に近い距離感にあります。その一方で、戦争、貧困、環境破壊、食糧など、「世界」の問題は、解決の糸口が見えないままです。世界が五感に感じられるようになったとはいえ、小さな島国の日本では、ピンときにくいものも事実ではないでしょうか。これらグローバル問題に対して見ぬふりをせずに自分事として立ち向かっていく人材を育むことが、価値共生のための大学の使命です。2026年度、創価大学の新たな挑戦がスタートします。

2026年度 学部学科一覧

広いフィールドから、興味があることを深く学ぶことができる7学部10学科、SDGs達成に向けたグローバルな課題を学び探究を、全学部で展開しています。

学部名		KEYWORDS	めざせる資格・試験	掲載ページ
経済経営学部	NEW! 2026 4月 九段南キャンパス ビジネス学科（仮称）	#人間主義経済 #マーケティング #異時点間能力 #SDGs #気候変動 #平和とビジネス #貧困・格差 #地方創生 #DBR #価値創造 #価値・価格デザイン #生成AI活用 #ファイナンス #データサイエンス	日商簿記 全経簿記 ファイナンシャルプランナー3級・2級 ITパスポート 日商PC（図形処理試験） 秘書検定 など	P. 03
法学部	NEW! 2026 4月 八王子キャンパス 法律政治学科	#平和学 #価値創造 #人権 #人間の安全保障 #国連難民・外交官 #気候変動 #経済学 #国家・地方の関係 #ビジネスロー #ジェンダーリスク #安全保障 #貧困・格差 #地方創生SDGs #気候変動の実践 #法曹 #フィールドワーク	司法書士 司法試験 行政書士 日商簿記 全経簿記 ファイナンシャルプランナー3級・2級 日商PC（図形処理試験） 秘書検定 など	P. 04
文学部	人間学科	#ウェルビーイング #ライフデザイン #多様性 #人間力 #英文化理解 #異国 #日本語 #日本文化 #表現文化 #文学 #言語 #心理 #社会 #歴史 #哲学 #宗教 #ジェンダー #サブカルチャー	日本語教員（日本語） 日本語教育能力検定試験 中学校教諭一種（国語） 高等学校教諭一種（国語） 図書館司書 学芸員 社会福祉士 など	P. 05
国際教養学部	国際教養学科	#世界教養 #異時点間能力 #リベラルアーツ #グローバルマインド #異文化理解 #異国間能力 #国際共生学 #探究 #インターナショナル・フィールドワーク	アカデミックな英語スキルの証明テスト（TOEFL iBT）スコア100点以上の取得 など	P. 01
教育学部	NEW! 2026 4月 八王子キャンパス 心理・教育学科	#人間教育 #学級の環境 #国際理解教育 #多様で豊かな教育のための教育 #特別支援教育 #発達障害 #多面的見立てとSTeP Lab.（ステップラボ） #学級経営技術	中学校教諭一種（社会） 高等学校教諭一種（地理歴史） 特別支援学校教諭一種（知的障害者・肢体不自由者・病弱者） など	P. 06
	児童教育学科			
理工学部	NEW! 2026 4月 九段南キャンパス グリーンテクノロジー学科（仮称）	#グリーントランスフォーメーション #カーボンリサイクル #人工知能 #サステナブル素材 #未来のための共同研究 #文理ラップ	中学校教諭一種（理科） 高等学校教諭一種（理科） 危険物取扱者 甲種・乙種 など	P. 07
	NEW! 2026 4月 八王子キャンパス 生命理工学科（仮称）	#創薬開発 #ドラッグデリバリーシステム #ウェアラブルデバイス #感染症 #病態 #遺伝子治療 #細胞 #臓器	中学校教諭一種（理科） 高等学校教諭一種（理科） 臨床検査技師 国家試験受験資格 臨床工学技士国家試験受験資格 など	P. 08
	情報システム工学科	#人工知能 #データサイエンス #コンピュータシステム・セキュリティ #VR・ロボット工学 #自律制御	中学校教諭一種（数学） 高等学校教諭一種（数学） 高等学校教諭一種（情報） など	P. 09
看護学部	看護学科	#看護師 #ヒューマンケア #看護倫理 #看護実践 #生命尊厳 #地域医療 #グローバルマインド #感染ケア #保健指導 #インタラクティブ #小児看護 #家族看護 #災害看護	看護師国家試験受験資格 保健師	P. 09

2026年4月 設置予定*

経済経営学部 ビジネス学科（仮称）

4つのPOINT

POINT 01 興味がある分野の知識をまるっと学べる「科目群」で、キミが将来必要になる授業を確実に履修

POINT 02 「ついていける」のではなく、「互いの価値を引き出し合う」これからのリーダーシップを育成

POINT 03 日常会話ではなく、「ビジネスで使える」レベルの英語を習得

POINT 04 少人数でハイレベルな経済理論を学ぶ 高度専門プログラムも

めざす進路にあわせて選べる3コース・8科目群

グローバルリーダー 学部コース	グローバル	マーケティング
ビジネスデザイン 学部コース	組織マネジメント・ダイバーシティ	会計・財務
会計・金融プロフェッショナル 学部コース	世界・経済（社会理解）	ポリシー・デザイン
	サステナビリティ＆地球共創	ソーシャル・データサイエンス

PICK UP 授業

気候変動の経済学

マーケティング

想定される進路先

- グローバル企業（コンサルタント、営業職 など）
- 国内企業（コンサルタント、バンカー、営業職 など）
- 官公庁（国家公務員 総合職 など）
- NGO、国連機関、海外大学院、国際機関 など

めざせる資格・試験

- 英検準1級
- TOEIC（800点以上目標）
- 日商簿記検定1級・2級
- 証券アナリスト
- ファイナンシャルプランナー2級・3級

4つのPOINT

POINT 01 法律学と政治・政策学の双方を組み合わせて学べます

POINT 02 あなたの興味・関心に合わせて 6つの専門領域から履修を選択でき、個性ある学びを実現できます

POINT 03 法学部独自の交換留学制度、グローバル人材を目指す語学プログラム

POINT 04 キャリアに活い法曹、公務員、外交官の特徴プログラム

2年次から6コース（専門領域）・3プログラムや「法律×政治」をあわせた

1年次 → 6コース（ダブルメジャー制度で学部内の副専攻可） → 3プログラム

リーガル	国家・サステナビリティ	法律政治プログラム
市民生活・ビジネス	国際平和・人文	国際プログラム
国家制度・行政	アジア・平和創造	キャリアプログラム

ワークショップ・フィールドワーク／インターンシップ

国際プログラム：PARS／学部交換留学／コース国際プログラム

キャリアプログラム：公務員・GLP／SDGs・ESG

PICK UP 授業

まちづくりと八王子フィールドワーク

人間の安全保障フィールドワーク 全学部対象科目

主な進路先

めざせる資格・試験

- 中学校教諭一種（社会）
- 高等学校教諭一種（地理歴史）
- 社会福祉主事任用資格
- 司書
- 司書教諭
- 学芸員
- 社会教育主事
- 行政書士
- 公務員試験 など

2026年4月 名称変更予定

法学部 法律政治学科

2026年4月 設置予定*

理工学部 グリーンテクノロジー学科（仮称）

学びの特徴

技術を社会に生かす方法まで学ぶ、文理融合型カリキュラム

1年次から実習・実験に触れ、知識の幅を広げる

充実した国内・海外での研修やインターンシップ

PICK UP 授業

プランクトン工学

廃地工学実習

主な進路先

めざせる資格・試験

- 一級建築士
- 二級建築士
- 木造建築物建築士
- 技術士補
- 測量士
- 測量士補
- ITパスポート
- 土木施工管理技士
- など

Q&A

Q. 2100年の夏の最高気温はどうなっちゃうの？

2023年の夏が4年連続の最高気温になった2.5℃上がるとの世界観測史上4つ目の高さ。2℃台の気温上昇を2.2～2.4℃台の予測とされた点だけでは、地球温暖化は、世界的に深刻な問題。気候変動の問題に人手が回らない、地球の温度が高くなるとどうなるか、世界的な気候変動とクリーンエネルギーに関心していく研究が行われます。

Q. 大震災時にも水道が、断水にも対応できる？

学びの特徴

医療などで生かされる最先端の生命科学・バイオ技術を学ぶ

1年次から少人数の実験実習に関わり、実践力をつける

在学時から生徒と関われる実践的な教育プログラム

PICK UP 授業

精細生命システム学

バイオテクノロジー

主な進路先

めざせる資格・試験

- 中学校教諭一種（理科）
- 高等学校教諭一種（理科）
- 甲種危険物取扱者（危険物取扱者）
- 第一種衛生管理者
- バイオインフォマティクス技能検定試験
- など

Q&A

Q. 人体の異常を24時間検知!?生体情報センシング装置とは？

Q. がん申告治療の研究でも注目！「核酸」って何？

2026年4月 設置予定*

理工学部 生命理工学科（仮称）

資料 11

地球の未来を
救う学び。
地球が沸騰している。手遅れになる前に、温暖化を食い止める低炭素社会を実現する「技術」を。地球にやさしい食糧生産を持続できる「グリーン」な環境を。そんなアイデアを世界中に広げる「ビジネス」を。国内外の人々と共に生み出し、広げていく。
それが、グリーンテクノロジー。
NEW
2026年
4月
3つの分野から、地球が抱える課題の解決に取り組む
理工学部 グリーンテクノロジー学科誕生
〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
TEL:042-691-2211(代表) www.soka.ac.jp
(仮称・設置構想中)
設置計画は予定であり、
内容に変更が生じる場合があります
SOKA UNIVERSITY
創価大学
SOKA University

資料 12

資料 13

私の好きが
未来を創る。
経済
経営
2つの視点で
新たな価値を。
経済経営学部
ビジネス学科
2026年4月誕生!
創価大学

舞台は、
の細胞。
NEW
2026年
4月誕生
理工学部 生命理工学科
創価大学

地球の未来を
救う学び。
それが、グリーンテクノロジー。
NEW
2026年
4月
理工学部 グリーンテクノロジー学科誕生
創価大学

資料１４

【　省　略　】

１．（書類等の題名）

資料 14　日本経済新聞朝刊「高校生向け特別版」

２．（出典）

日本経済新聞朝刊　令和 6（2024）年 11 月 25 日付

３．（引用範囲）

・広告紙面

以上

資料 15

【　省　略　】

1．（書類等の題名）

資料 15　朝日新聞朝刊「大学入学共通テスト回答紙面」

2．（出典）

朝日新聞朝刊　令和 7（2025）年 1 月 15 日付

3．（引用範囲）

・広告紙面

以上

2026年4月
創価大学 理工学部の学びが広がります

創価大学は、理学および工学を専門に、持続可能な社会と人類の健康と福祉に貢献できる人材を養成するため、2026年4月から、理工学部が「情報システム工学科」「グリーンテクノロジー学科（仮称）」「生命理工学科（仮称）」の3学科体制へと新しく生まれ変わります。

グリーンテクノロジー学科（仮称）

※2026年度設置予定

設置の目的

世界共通の課題である**グリーン・トランスフォーメーション（GX）**において、創エネルギー・省エネルギー技術をリードする技術者を養成するため、文理をこえた教育を展開。低炭素社会の実現に寄与し、SDGs達成に貢献する国際的な人材の育成をめざします。

学科概要

気候変動を理解するための地球科学や地球観測技術、安定した食糧生産に必要な生物生産工学、環境に優しい各種低炭素技術を学び、これらを社会に還元するための環境経営学や国際技術協力などについて学びます。また、海外交流校とのオンライン共同授業や海外短期研修など実践的かつグローバルなプログラムもあります。

特設サイトはこちらから

生命理工学科（仮称）

※2026年度設置予定

設置の目的

人類の健康を守るために不可欠な「**生命科学**」の分野を中心に、理論と応用を融合した学びを通じて、科学技術の発展と心の豊かさを調和させたヒューマン・ウェルビーイング社会の実現に貢献する人材の育成をめざします。

学科概要

基礎的な理学に加え、生命科学とテクノロジーを応用した医理工連携に通じる糖鎖科学・電子工学・応用物理学・化学に関する最先端の融合分野を学びます。また、課題解決能力を磨くために企業・研究所と連携した実践的な学修ができます。さらに、中高理科の教職課程にも力を入れています。

特設サイトはこちらから

Student's Voice

情報システム工学科4年
重田 美和さん
（東京都出身）

想像していたよりも、ずっと交流の幅が広くて学生生活が充実

勉強や研究が忙しいかなと思っていましたが、意外と時間に余裕があったので部活動やサークル活動にも参加し、他学部の学生ともたくさん出会うことができました。期待していた以上に有意義な学生生活を過ごすことができています。

失敗から学べ。その教えが、前向きな学生を育ててくれる

専門研究の中で、実験で失敗しても先生たちは否定せず、失敗から学ぶことや社会に出るうえで大切な心得を教えてくれました。創価大学には、やりたいことを後押ししてくれる先生と仲間がいます。自分を変えたい方にこそ、選んでほしい大学です。

共生創造理工学科※2023年度卒業
理工学研究科 環境共生工学専攻1年
守安 和美さん
（岡山県出身）

※現在の理工学部共生創造理工学科の入学は2025年度生まで。

※設置計画は予定であり、内容は変更になる可能性があります。

SOKA University

創価大学 アドミッションズセンター
〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
Tel：042-691-4617 Mail：nyushi@soka.ac.jp
https://www.soka.ac.jp/

- 経済学部 経済学科
- 経営学部 経営学科
- 法学部 法律学科
- 文学部 人間学科
- 教育学部 教育学科 児童教育学科
- 国際教養学部 国際教養学科
- 理工学部 情報システム工学科 共生創造理工学科
- 看護学部 看護学科

[access]

新宿駅 → JR中央線／約35分（中央特快）／京王線／約40分（特急） → 八王子駅／京王八王子駅 → バス約20分 → 創価大学

JR八王子駅北口のロータリー内バス乗り場から「創価大学循環」または「創価大正門東京富士美術館」行きのバスにて約20分。

ココがポイント! 併願校の選び方

人生で大きな転換期となる大学入試。大学選びでは偏差値や立地も大切な選択肢ですが、もっと大切なことがあります。
それは「社会で生かせる学び」を身につけられるか、というポイントです。
テクノロジーの進化やグローバル化が進み社会が変化し続ける近年では、
新しい学びもどんどん増え、その内容も拡大しています。
学部や学科名だけで判断するのではなく、本当に学びたいことを学べるか、事前にしっかり情報を集めましょう。

これってどういう学び？

#データサイエンス
#再生医療
#ライフサイエンス
#農水産
#GX
#環境保全
#セキュリティ
#ロボット

STEP1
学びたい分野が学べる大学・学部の情報を集める!

STEP2
学部の特色を知り、自分に合った環境か考える!

グリーンテクノロジー　ライフサイエンス　データサイエンス　の学びをチェック!

この学び、社会でどう生きるのかな?

グリーンテクノロジー に関わる学び

キーワード　#エネルギー　#環境　#GX　#農水産　#低炭素

グリーンテクノロジーって何?

「グリーンテクノロジー」とは、環境や生態系に配慮しながら経済や社会の発展を促す技術や取り組み。環境汚染対策や地球温暖化対策など、環境問題の解決をめざし、環境に優しい製品やサービスを生み出したり、社会的な課題解決を考えたりする技術です。太陽光発電や風力発電、地熱発電、バイオ燃料、生分解性プラスチック、省エネ商品、クリーンカーなど、多岐にわたる分野が対象です。

創価大学の取り組み

大量繁殖した水草が、燃料にも食糧にもなる?

創価大学では、エチオピアの湖でホテイアオイ(水草)の過剰な繁殖による問題を解決する研究プロジェクトを立ち上げました。水草からメタン発酵によってエネルギーと栄養を回収するとともに、回収した栄養を使って、スピルリナ(プランクトン)や農作物を育てる循環型社会の構築をめざしています。技術開発だけでなく、農作物のマーケティングや、エチオピアでの環境教育にもかかわる、文理協同の国際協力プロジェクトです。

グリーンテクノロジーに関する分野 環境工学 農学 農芸化学 応用化学 を学べる大学の例

創価大学	理工学部	グリーンテクノロジー学科(仮称)
中央大学	理工学部	応用化学科/都市環境学科
芝浦工業大学	工学部	土木工学課程/物質化学課程
	システム理工学部	環境システム学科
東洋大学	理工学部	応用化学科/都市環境デザイン学科
	生命科学部	生物資源学科
	食環境科学部	食環境科学科
明治大学	農学部	農学科/農芸化学科
	理工学部	応用化学科
千葉工業大学	創造工学部	都市環境工学科
	工学部	応用化学科
成蹊大学	理工学部	理工学科 応用化学専攻

※詳細は必ず各大学のホームページで確認してください。

創価大学 理工学部 グリーンテクノロジー学科(仮称) では…

学びのPOINT

☑技術を社会に生かす方法まで学ぶ、文理融合型カリキュラム

技術を社会で実装するために、専門分野に加え他分野や文系ともチーム連携して、文理を問わず知識を学びます。理工学部に設置される学科ですが、文系・理系の基礎科目を設置しており、高校で文系を選択していた学生も受験および入学することができます。

☑1年次から演習・実験に触れ、知識の幅を広げる

本学科の学びは座学ばかりではありません。1年次から演習・実験科目を履修でき、理論と実践を同時に学びながら興味関心の幅を広げることができます。

☑充実した国内・海外での研修やインターンシップ

創エネルギー・省エネルギーといった環境技術を、実社会で開発し応用する国内外の研究機関や企業などで、実践的な学びを得ることができます。

想定される進路

- 一般企業(建設・設備業、農水産業、製造業、情報・通信業、金融・保険業、教育・広告・その他サービス業など)
- 国内・海外大学院/研究所/国家公務員/地方公務員/国際公務員/NGO・NPOなど

取得可能な資格

- ビオトープ管理士
- 生物分類技能検定
- 技術士補
- ITパスポート
- 土壌医検定　など

＼もっとくわしく!／ グリーンテクノロジー学科(仮称)の専門科目例

陸圏グリーンテクノロジー

- □ 持続的生産工学
- □ 農地工学実習
- □ 食品工学

大気水圏グリーンテクノロジー

- □ 地球科学実験
- □ 水処理工学実験
- □ 海洋学実習

生物圏グリーンテクノロジー

- □ 生態環境工学
- □ プランクトン工学実験
- □ 生物反応工学実験

※設置計画は予定であり、内容は変更となる可能性があります。

この学び、社会でどう生きるのかな?

ライフサイエンス に関わる学び

キーワード　#生物　#糖鎖　#化学　#医理工連携　#再生医療

ライフサイエンスって何?

「ライフサイエンス」とは、生物における生命現象のメカニズムを解明する学問で、「生命科学」とも呼ばれています。生物学、化学、生物物理学、医学、農学、生物工学、薬学、心理学など幅広い分野にわたり、健康維持や病気の治療などに貢献することをめざしています。医療や創薬の発展、食料・環境問題の解決など、国民生活の向上および国民経済を発展させる学問として注目されています。

創価大学の取り組み

がんや再生医療の研究でも注目!「糖鎖」って何?

今、世界中から注目を集めている「糖鎖」は、DNA、タンパク質に次ぐ第3の生命鎖。タンパク質や脂質の働きに連動するもので、私たちの生命現象の多くに糖鎖が関わっています。がん、糖尿病、認知症、新型コロナウイルス感染症などに対する、さまざまな治療法の発展のため、日々研究が進められています。創価大学には「糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点」として文部科学省に認定された研究所があり、生命科学と情報科学の専門家が協働して研究を行っています。

ライフサイエンスに関する分野 総合理学 生物学 生物工学 化学 応用化学 農芸化学 を学べる大学の例

創価大学	理工学部	生命理工学科(仮称)
中央大学	理工学部	応用化学科/生命科学科/人間総合理工学科
東京電機大学	理工学部	理学系/生命科学系
	工学部	応用化学科
東洋大学	生命科学部	生命科学科/生物資源学科/生体医工学科
	理工学部	応用化学科
	食環境科学部	食環境科学科
神奈川大学	理学部	理学科 化学コース/生物コース/総合理学コース
成蹊大学	理工学部	理工学科 応用化学専攻
日本大学	文理学部	化学科/生命科学科
	工学部	生命応用化学科
	生産工学部	応用分子化学科
	理工学部	物質応用化学科
	生物資源科学部	バイオサイエンス学科/食品開発学科
青山学院大学	理工学部	化学・生命科学科
工学院大学	先進工学部	生命化学科/応用化学科/環境化学科

※詳細は必ず各大学のホームページで確認してください。

創価大学 理工学部 生命理工学科(仮称) では…

学びのPOINT

☑医療などで注目される最先端の生命科学・バイオ技術を学ぶ

生物・生命科学に加え、医理工連携に通じる糖鎖生物学(糖鎖システム学)・電子工学・応用物理学・化学など最先端の融合分野を学習。血糖値などの生体データを得る生体計測技術や、健康・福祉に役立つバイオ技術などの実践的な内容が学べます。

☑1年次から少人数の実験実習に関わり、実践力を身につける

1年次から研究室の実験などに参加。少人数で、理工学の基礎的なものからバイオテクノロジー技術につながる複合的な分野まで実験実習を受講でき、実践力が身につきます。

☑在学中に生徒と関わることができる中・高理科教員養成プログラム

理科教員養成に特化した特別プログラムを提供。八王子市や系列中学と連携し、実験教室の運営・サポートを通じて、充実した教育実践活動ができます。

想定される進路

- 民間企業(医療・医療機器メーカー、食品、医薬品、化粧品、化学工業、製造業、情報・通信業、教育、その他)
- 大学院(創価大学大学院など)/研究所/国家公務員/地方公務員/中高理科教員など

取得可能な資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状(理科)／甲種危険物取扱者(受験資格)／基本情報技術者／バイオインフォマティクス技術者認定試験／バイオ技術者認定試験・衛生管理者、胚培養士(任用資格※)

※卒業後に実務に就くことによって与えられる資格

＼もっとくわしく!／ 生命理工学科(仮称)の専門科目例

生命科学

- □ ニューロサイエンス
- □ バイオテクノロジー
- □ 糖鎖生命システム学

応用物理・電子工学

- □ 電子工学実験
- □ 情報計測工学
- □ 統計熱力学

化学・地学・地球科学

- □ 生物物理化学実験
- □ 土壌学
- □ 化粧品・医薬品粉体工学

※設置計画は予定であり、内容は変更となる可能性があります。

この学び、社会でどう生きるのかな?

データサイエンスに関わる学び

キーワード　#ビッグデータ　#VR　#ロボット　#通信　#数理物理

データサイエンスって何?

「データサイエンス」とは、莫大なデータから有益なものを抽出し、問題の原因を探りながら社会課題を解決に導く学問です。統計学と情報学に基礎を置き、数学やプログラミング、人工知能(AI)、機械学習、コンピュータエンジニアリングなどの知識を組み合わせ、データの分析を行います。文理を問わない領域で、今や現代の情報社会に必要不可欠な学問となっています。

創価大学の取り組み

情報セキュリティとセーフティの研究で、安心・安全なIT社会を

情報セキュリティとセーフティを専門領域に、IT技術が社会に悪影響を与える可能性を防ぎ、対策する方法について研究しています。セキュリティは、個人情報データベースへの不正アクセスを防ぐ技術など「情報」に関するものを指し、一方セーフティは人の命や健康に関連するもので、自動運転車や飛行機の制御システムが該当します。これら2つをテーマにIT技術が人々の命や安全にどのような影響を及ぼすかを分析し、安全性を確保するための手法を追究しています。

データサイエンスに関する分野 数学 情報工学 を学べる大学の例

創価大学	理工学部	情報システム工学科
中央大学	理工学部	情報工学科/数学科
拓殖大学	工学部	情報工学科/電子システム工学科
東京電機大学	工学部	情報通信工学科
	理工学部	情報システムデザイン学系/理学系
	未来科学部	ロボット・メカトロニクス学科
	システムデザイン工学部	情報システム工学科
東京都市大学	情報工学部	情報科学科/知能情報工学科
日本大学	文理学部	数学科
	工学部	情報工学科
	生産工学部	数理情報工学科
	理工学部	数学科/応用情報工学科
成蹊大学	理工学部	理工学科コンピュータ科学専攻
北里大学	未来工学部	データサイエンス学科
日本工業大学	先進工学部	データサイエンス学科

※詳細は必ず各大学のホームページで確認してください。

創価大学 理工学部 情報システム工学科 では…

学びのPOINT

☑AI×データ=「データサイエンス」を用いて社会現象を分析

人工知能(AI)技術とデータを用いて新たな知見を引き出す「データサイエンス」。高度な認識、解析、推論可能なコンピュータやアルゴリズムの開発をめざします。

☑自然や社会を探究する「数理科学」で論理的思考力を身につける

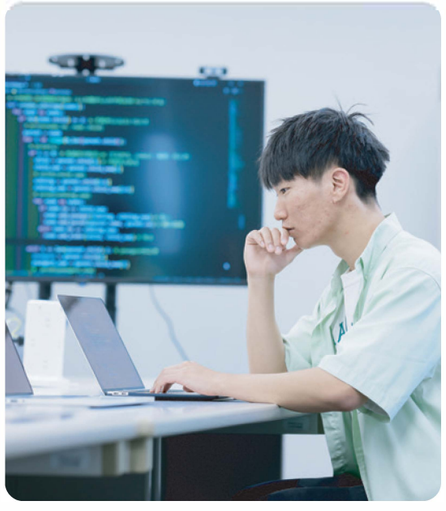
整数論や位相幾何学の理論をはじめ、タンパク質分子や熱と流れなどの自然現象をモデル化し数学的手法で原理を解明する課題にも取り組みます。

☑「コンピュータシステム・セキュリティ」で社会問題の解決に迫る

AIやIoTにより膨大な情報が共有される社会では、信頼性の高いシステムを支えるエンジニアが必要です。サイバー攻撃や障害に対処する理論的基盤と実用的な技術を学びます。

☑「VR・ロボット工学」を通してより良い未来を築く

ロボットの研究・開発では、数理科学を基盤とした制センサ処理に加え、VR・AR・MR(複合現実)の技術を総合的に機能させることも重要です。幅広い知識で課題解決力を養います。



主な進路

- 民間企業(情報通信、サービス、教育・学習支援、製造、卸売・小売、学術研究・専門・技術サービス、医療・福祉、その他)
- 大学院(創価大学大学院など)/研究所/国家公務員/地方公務員/中高教員など

取得可能な資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状(数学)
- 高等学校教諭一種免許状(情報)

＼もっとくわしく!／ 情報システム工学科の専門科目例

AI・データサイエンス
- ☐ データサイエンス演習
- ☐ 言語処理アルゴリズム
- ☐ 人工知能
- ☐ データベース論

数理科学
- ☐ 数理科学実験
- ☐ シミュレーション論
- ☐ 代数学概論
- ☐ 幾何学概論

コンピュータシステム・セキュリティ
- ☐ ネットワーク実験
- ☐ 情報セキュリティ論
- ☐ 暗号理論
- ☐ ソフトウェア工学

VR・ロボット工学
- ☐ 電子工学実験
- ☐ 情報計測工学
- ☐ 制御工学
- ☐ ディジタル回路基礎論

※設置計画は予定であり、内容は変更となる可能性があります。

資料 17

【 省 略 】

1．（書類等の題名）

資料 17　大学・高専機能強化支援事業概要及び採択校一覧

2．（出典）

「大学・高専機能強化支援事業概要及び採択校一覧」，2024，文部科学省

3．（引用範囲）

・支援事業の概要

・第２回公募の選定大学（支援１）

https://www.mext.go.jp/content/20240624-mxt_senmon01-000027827.pdf

以上

資料 18

【 省 略 】

1．（書類等の題名）

資料 18　THE 日本大学ランキング 2025

2．（出典）

「THE 日本大学ランキング 2025　分野別ランキング【国際性】」，2025，株式会社ベネッセコーポレーション

3．（引用範囲）

・THE 日本大学ランキング 2025　分野別ランキング【国際性】～200 位

以上

高校生対象

調査票

資料19

創価大学
「理工学部 グリーンテクノロジー学科」・「理工学部 生命理工学科」・「経済経営学部 ビジネス学科」（いずれも仮称、設置構想中）に関するアンケート

創価大学では2026年（令和8年）4月より、「理工学部 グリーンテクノロジー学科」、「理工学部 生命理工学科」、「経済経営学部 ビジネス学科」（いずれも仮称）を新設することを構想しています。
このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、創価大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただくものです。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
また、回答いただいた内容が、高校生のみなさんの本学への入学に影響を及ぼすことは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ **このアンケートや同封した資料に記載されている「理工学部 グリーンテクノロジー学科」・「理工学部 生命理工学科」・「経済経営学部 ビジネス学科」（いずれも仮称、設置構想中）に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。**

記入要領

1. 回答は、**あてはまる番号 に「○」印**をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず**黒の鉛筆又はシャープペンシル**で濃く書いてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。
   特に、**「○」印は、番号丸枠からはみ出さないように**つけてください。

ここに○印をつけてください → ● 工学

ID 18（この欄には記入しないでください）

良い記入例	悪い記入例		
● 工学	① 工学	① 工学	① 工学
② 理学	● 理学	● 理学	② 理学

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別（1つに○）	① 男性	② 女性	③ 回答しない
学年（1つに○）	① 1年生	② 2年生	③ 3年生
在籍している高校名	高校所在地［　　］都・道・府・県 ① 国立　② 公立　③ 私立　（←1つに○）［　　］高等学校		
所属クラス（1つに○）	① 文系クラス（文系コース）	③ コース選択はない	
	② 理系クラス（理系コース）	④ その他	

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1 あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路**すべてに○**をつけてください。（複数選択可）

① 大学　② 短期大学　③ 専門職大学　④ 専門職短期大学　⑤ 専門学校　⑥ 就職　⑦ その他

Q2 **Q1で①～④を選択した方**に質問です。（※Q1で①～④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。）
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している（希望している）設置者**すべてに○**をつけてください。（複数選択可）

① 私立　② 国立　③ 公立

Q3 ここからは**全員**にお聞きします。
高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野**すべてに○**をつけてください。（複数選択可）
※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

① 工学（エネルギー・環境工学）
② 工学（応用生命工学）
③ 工学（農業工学）
④ その他工学（機械工学など）
⑤ 理学（自然環境科学）
⑥ 理学（生物、生命科学）
⑦ その他理学（数学、物理学など）
⑧ 商学・経済学（経営学など）
⑨ 人文科学（文学、史学、哲学など）
⑩ 教育（教育学、体育学など）
⑪ 保健（医学、歯学、薬学、看護学など）
⑫ その他
⑬ わからない

※エネルギー・環境工学とは
有機廃棄物や廃水などの処理技術や、メタン発酵などによるエネルギー生産技術（創エネルギー技術）について研究し、低炭素社会の実現と循環型経済社会に向けた技術を学ぶ学問です。

高校生対象

調査票

◆創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」・「理工学部 生命理工学科」・「経済経営学部 ビジネス学科」(いずれも仮称、設置構想中)についてお聞きします。

創価大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2026年(令和8年)4月に、
新しく「理工学部 グリーンテクノロジー学科」・「理工学部 生命理工学科」・
「経済経営学部 ビジネス学科」(いずれも仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q4 創価大学で構想中の各学部・学科には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

				とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
例		○○である。	⇒	①	●	③	④
グリーンテクノロジー学科	A.	**技術を社会に生かす方法まで学ぶ、文理融合型カリキュラム** 技術を社会で活用するために、専門分野に加え他分野や文系とも連携するための知識を学びます。高校で文系選択だった方の入学も可能です。		①	②	③	④
	B.	**1年次から演習・実験に触れ、知識の幅を広げる** 1年次から多彩な専門分野の教員が行う演習・実験科目が履修でき、理論と実践を同時に学びながら興味関心の幅を広げることができます。	⇒	①	②	③	④
	C.	**充実した国内・海外での研修やインターンシップ** 創エネルギー・省エネルギーなどの環境技術を、実社会で開発・応用する国内・海外の研究機関や企業などで実践的な体験をすることができます。		①	②	③	④
生命理工学科	D.	**医療などで注目される最先端の生命科学・バイオ技術を学ぶ** 生物・生命科学に加え、医理工連携に通じる糖鎖生物学(糖鎖システム学)・電子工学・応用物理学・化学などの最先端の融合分野を学習。生体計測技術やバイオ技術などの実践的な内容が学べます。		①	②	③	④
	E.	**1年次から少人数の実験実習に関わり、実践力を身につける** 少人数で、理工学の基礎からバイオテクノロジー技術につながる複合的な分野まで実験実習を受講でき、実践力が身につきます。	⇒	①	②	③	④
	F.	**在学時から生徒と関われる実践的な中・高理科教員養成プログラム** 理科教員養成に特化した特別プログラムに加え、八王子市や系列中学と連携した実験教室の運営・サポートを通じて、充実した教育実践活動ができます。		①	②	③	④
ビジネス学科	G.	**ワークショップ・研修を通じてビジネススキルが身につく** 企業や地域の実際の課題等をケースに取り上げた実践的な学びを通して、チームビルディングやリーダーシップの力に加え、ビジネスに必要な力も身に付きます。		①	②	③	④
	H.	**3つの学修コース×8つの科目群で柔軟に学べる** 軸となる進路に応じた3コースと、経済・経営を横断する8科目群の中から関心に応じていくつかを選び組み合わせることで、卒業後の進路を見据えた学びができます。	⇒	①	②	③	④
	I.	**ビジネスで役立つ資格取得がめざせる** 創価大学で高い実績を持つ公認会計士をはじめ、税理士や簿記検定などの資格にチャレンジすることが可能です。		①	②	③	④

Q5 創価大学で構想中の各学部・学科が開設された場合、受験を希望しますか。
それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

			第一志望として受験する	第二志望として受験する	第三志望以降として受験する	受験しない
1	理工学部 グリーンテクノロジー学科	⇒	①	②	③	④
2	理工学部 生命理工学科	⇒	①	②	③	④
3	経済経営学部 ビジネス学科	⇒	①	②	③	④

※第一志望、第二志望は選択する志望順位が重ならないようにご回答ください。

Q6 Q5で①～③(受験する)を選択した学科についてお答えください。
創価大学で構想中の各学部・学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。
それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

			入学する	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
1	理工学部 グリーンテクノロジー学科	⇒	①	②	③
2	理工学部 生命理工学科	⇒	①	②	③
3	経済経営学部 ビジネス学科	⇒	①	②	③

※「入学する」を選んだ学部学科が、1個または0個になるようにご回答ください。

Q7 最後に全員にお聞きします。
あなたは過去に創価大学のオープンキャンパスやイベントに参加し、本アンケートと同じ内容のアンケートに回答したことがありますか。

① 同じアンケートに回答したことはない　② 同じアンケートに回答したことがある

2

＊＊＊質問は以上です。ご協力ありがとうございました。＊＊＊

資料 20

○高校生対象の調査対象高等学校名の一覧

■高校の選定根拠：

【NO1～２】

・ 本学の系列校であり、入学率は安定的に６割程度であることから選定。

【NO3～4】

・ 本学と高大連携協定を結んでいる高校であり、探究学習支援や進路ガイダンスなどを実施し、本学の認知度や理解度が高いことから選定。

【NO5～11】

・ 過去５年間での出願実績が多く、かつ主たる学生募集地域（東京都、埼玉県、神奈川県）に所属する高校を選定。

■高等学校名：

NO	高等学校名
1	創価高等学校
2	関西創価高等学校
3	神田女学園中学校高等学校
4	学校法人郁文館夢学園
5	東京都立日野高等学校
6	東京都立砂川高等学校
7	昭和第一学園高等学校
8	工学院大学附属中学校・高等学校
9	八王子実践高等学校・中学校
10	埼玉栄高等学校
11	横浜隼人高等学校

資料21

創価大学
「理工学部　グリーンテクノロジー学科」（仮称）
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和7年（2025年）1月

株式会社　進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

高校生対象

調査概要

1. 調査目的

令和8年(2026年)4月開設予定の創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」「理工学部　生命理工学科」「経済経営学部　ビジネス学科」(いずれも仮称)設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査	
		調査①	調査②
調査対象		入学実績のある高校在籍者 (高校2年生)	オープンキャンパスなど参加者 (高校2年生)
調査エリア		埼玉県、東京都、 神奈川県、大阪府	― (オープンキャンパスなどにて 参加者に直接配布)
調査方法		高校留め置き調査	オープンキャンパスなどでの 配布・回収
調査対象数	依頼数	3,590名(11校)	-
	有効回収数	2,002名(11校) 有効回収率:55.8%	574名
調査時期		令和6年(2024年)8月3日(土)～令和6年(2024年)10月9日(水)	
調査実施機関		株式会社　進研アド	

※重複してアンケートに回答していないかを聞く質問を設け、「同じアンケートに回答したことがある」と回答した人は集計から除外している。各調査回答者の重複はない。

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・学年 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・志望する設置者 ・興味のある学問分野 ・創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」「理工学部　生命理工学科」「経済経営学部　ビジネス学科」の特色に対する魅力度 ・創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」「理工学部　生命理工学科」「経済経営学部　ビジネス学科」への受験意向 ・創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」「理工学部　生命理工学科」「経済経営学部　ビジネス学科」への入学意向

入学意向調査　調査結果

※報告書内の表中の％の母数は、
特に断りがない場合、回答者全体（2,576名）

回答者の属性

回答者の属性

※本調査は、創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」「理工学部　生命理工学科」「経済経営学部　ビジネス学科」に対する需要を確認するための調査として設計。以下2種類の調査を実施して、合計2,576名から有効な回答を得た。

①高校留め置き調査

②オープンキャンパスなど

※各調査とも、重複してアンケートに回答していないかを聞く質問を設け、「同じアンケートに回答したことがある」と回答した人は集計から除外している。そのため、①高校留め置き調査、②オープンキャンパスなどで回答した高校生の間に回答者の重複はない。

- 調査対象者別の回答者数は、①高校留め置き調査が2,002名、②オープンキャンパスなどが574名である。回答者全体に占める割合は、①高校留め置き調査が77.7%、②オープンキャンパスなどが22.3%である。
- 回答者の性別は「男性」が47.7%、「女性」が49.9%である。
- 回答者の学年は「2年生」が100.0%である。
- 回答者の高校種別は、「公立」が24.0%、「私立」が74.3%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、創価大学の本部所在地である「東京都」が56.9%を占め、最も多い。次に「大阪府」が12.1%、「埼玉県」が9.7%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス（文系コース）」が55.7%で最も多い。次に「理系クラス（理系コース）」が30.4%と続く。

高校生対象

回答者の属性

■調査対象

上段:% 下段:件数(名)	標本数	高校留め置き調査	オープンキャンパスなど
全体	2,576	77.7 2,002	22.3 574

■性別

上段:% 下段:件数(名)	標本数	男性	女性	回答しない	無回答
全体	2,576	47.7 1,229	49.9 1,285	1.9 49	0.5 13

■学年

上段:% 下段:件数(名)	標本数	1年生	2年生	3年生	無回答
全体	2,576	0.0 0	100.0 2,576	0.0 0	0.0 0

■高校種別

上段:% 下段:件数(名)	標本数	国立	公立	私立	無回答
全体	2,576	0.0 0	24.0 619	74.3 1,915	1.6 42

高校生対象

回答者の属性

■高校所在地

上段:% 下段:件数(名)	標本数	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県
全体	2,576	0.7 17	0.1 3	0.2 5	0.3 7	0.1 3	0.2 4	0.2 4	0.4 10	0.3 7	0.3 7	9.7 251	1.0 27	56.9 1,465	7.9 203	0.2 5	0.1 3

上段:% 下段:件数(名)	標本数	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県
全体	2,576	0.2 4	0.2 4	0.3 8	0.4 10	0.3 7	0.4 10	0.9 22	0.2 4	0.3 7	0.5 12	12.1 311	0.7 18	0.1 3	0.3 7	0.0 1	0.2 4

上段:% 下段:件数(名)	標本数	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	無回答
全体	2,576	0.3 8	0.3 9	0.2 4	0.2 4	0.1 3	0.0 1	0.2 4	0.7 18	0.0 1	0.2 4	0.2 5	0.2 5	0.2 4	0.2 5	0.2 6	1.6 42

■所属クラス

上段:% 下段:件数(名)	標本数	文系クラス(文系コース)	理系クラス(理系コース)	コース選択はない	その他	無回答
全体	2,576	55.7 1,434	30.4 782	7.8 202	3.0 77	3.1 81

高校生対象

高校卒業後の希望進路

高校卒業後の希望進路

- 回答者のうち、今後「大学」に進学することを検討・希望している人は92.4%。次いで「専門学校」に進学が11.5%と続く。「短期大学」に進学は3.5%、「専門職大学」に進学は3.7%、「専門職短期大学」に進学は0.6%である。
- 高校卒業後の希望進路として「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した人に、設置者ごとの進学希望を複数回答で聴取した。その結果、創価大学の該当する「私立」への進学を希望する人は88.5%、「国立」が23.5%、「公立」が19.7%であった。

■高校卒業後の進路

Q1. あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路すべてに○をつけてください。(複数選択可)

上段:% 下段:件数(名)	標本数	大学	短期大学	専門職大学	専門職短期大学	専門学校	就職	その他	無回答
全体	2,576	92.4 2,381	3.5 91	3.7 96	0.6 15	11.5 297	2.3 60	1.4 36	0.3 9

※「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した2,419名を抽出

■高校卒業後の進路(設置者別)

Q2. **Q1で①～④を選択した方**に質問です。(※Q1で①～④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。)
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している(希望している)設置者すべてに○をつけてください。(複数選択可)

上段:% 下段:件数(名)	標本数	私立	国立	公立	無回答
全体	2,419	88.5 2,141	23.5 569	19.7 476	0.8 20

※%の母数は、Q1で「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した2,419名

高校生対象

興味のある学問分野

興味のある学問分野

- 回答者の興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、「理工学部 グリーンテクノロジー学科」の学びと関連する学問分野は以下の通り。

  工学（エネルギー・環境工学）：6.9％
  工学（農業工学）：2.6％
  理学（自然環境科学）：7.4％

- 回答者のうち、私立大学進学希望者に限定すると、「理工学部 グリーンテクノロジー学科」の学びと関連する興味のある学問分野は以下の通り。

  工学（エネルギー・環境工学）：7.2％
  工学（農業工学）：2.6％
  理学（自然環境科学）：7.6％

＜私立大学進学希望者＞
① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「私立」への進学を希望。

高校生対象

興味のある学問分野

■興味のある学問分野

Q3. ここからは**全員**にお聞きします。
高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。（複数選択可）
※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

上段：% 下段：件数（名）	標本数	工学（エネルギー・環境工学）	工学（応用生命工学）	工学（農業工学）	その他工学（機械工学など）	理学（自然環境科学）	理学（生物、生命科学）	その他理学（数学、物理学など）
全体	2,576	6.9 178	4.2 107	2.6 68	10.4 268	7.4 190	9.7 250	5.4 139

上段：% 下段：件数（名）	標本数	商学・経済学（経営学など）	人文科学（文学、史学、哲学など）	教育（教育学、体育学など）	保健（医学、歯学、薬学、看護学など）	その他	わからない	無回答
全体	2,576	31.9 822	20.4 525	22.1 570	17.4 448	25.2 650	6.6 171	0.2 6

＜私立大学進学希望者ベース＞

上段：% 下段：件数（名）	標本数	工学（エネルギー・環境工学）	工学（応用生命工学）	工学（農業工学）	その他工学（機械工学など）	理学（自然環境科学）	理学（生物、生命科学）	その他理学（数学、物理学など）
私立大学 進学希望者	2,115	7.2 153	4.3 92	2.6 55	10.7 226	7.6 160	9.7 206	5.3 112

上段：% 下段：件数（名）	標本数	商学・経済学（経営学など）	人文科学（文学、史学、哲学など）	教育（教育学、体育学など）	保健（医学、歯学、薬学、看護学など）	その他	わからない	無回答
私立大学 進学希望者	2,115	35.6 753	21.8 461	23.6 499	16.5 349	24.1 510	6.3 134	0.0 1

※%の母数は、私立大学進学希望者（2,115名）

高校生対象

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」への受験・入学意向

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、
創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」のターゲット層と定義し、分析を行う。

① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「私立」への進学を希望。
③ Q3で、「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の学びと関連する学問分野への興味あり。
（工学（エネルギー・環境工学）、工学（農業工学）、理学（自然環境科学）のいずれかに興味あり）

高校生対象

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」クロス集計結果

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」クロス集計結果

■創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」クロス集計結果

Q5. 創価大学で構想中の各学部・学科が開設された場合、受験を希望しますか。
それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

Q6. **Q5で①～③(受験する)を選択した学科**についてお答えください。
創価大学で構想中の各学部・学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。
それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

回答者数（合計）	Q1 卒業後の進路	Q2 進学希望の大学設置者	Q3 興味のある学問分野	Q5 新設組織の受験希望有無	Q6 合格した場合の入学希望有無
2,576名	うち、 ①大学に進学 2,381名 （92.4%）	うち、 ①私立 2,115名 （82.1%）	うち、 ①工学（エネルギー・環境工学） ③工学（農業工学） ⑤理学（自然環境科学） を選択 277名 （10.8%） ※新設組織に該当する学問分野いずれかを選択した者のみ記載	うち、 ①第一志望として受験する 44名 （1.7%）	①入学する 29名 （1.1%）
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 13名 （0.5%）
					③入学しない 2名 （0.1%）
				②第二志望として受験する 47名 （1.8%）	①入学する 6名 （0.2%）
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 37名 （1.4%）
					③入学しない 3名 （0.1%）
				③第三志望以降として受験する 70名 （2.7%）	①入学する 4名 （0.2%）
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 59名 （2.3%）
					③入学しない 4名 （0.2%）
				④受験しない	
					入学見込者※ 29名

※%の母数は、回答者全体(2,576名)

※「入学見込者」＝ターゲット層のうち、Q5で「理工学部　グリーンテクノロジー学科」を「第一志望として受験する」かつQ6で「入学する」と回答した人

高校生対象

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の特色に対する魅力度

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の特色に対する魅力度

【理工学部　グリーンテクノロジー学科　ターゲット層】
下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 277名（回答者全体の10.8%）

① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「私立」への進学を希望。
③ Q3で、「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の学びと関連する学問分野への興味あり。
（工学（エネルギー・環境工学）、工学（農業工学）、理学（自然環境科学）のいずれかに興味あり）

- ターゲット層における「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の特色に対する魅力度（※）を見ると、最も高いのは「B.〈理工学部　グリーンテクノロジー学科〉1年次から演習・実験に触れ、知識の幅を広げる　1年次から多彩な専門分野の教員が行う演習・実験科目が履修でき、理論と実践を同時に学びながら興味関心の幅を広げることができます。」（88.4%）。次いで「C.〈理工学部　グリーンテクノロジー学科〉充実した国内・海外での研修やインターンシップ　創エネルギー・省エネルギーなどの環境技術を、実社会で開発・応用する国内・海外の研究機関や企業などで実践的な体験をすることができます。」（81.9%）と続く。

- ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人（第一志望者）における「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の特色に対する魅力度（※）を見ると、最も高いのは「B.〈理工学部　グリーンテクノロジー学科〉1年次から演習・実験に触れ、知識の幅を広げる　1年次から多彩な専門分野の教員が行う演習・実験科目が履修でき、理論と実践を同時に学びながら興味関心の幅を広げることができます。」（100.0%）。次いで「C.〈理工学部　グリーンテクノロジー学科〉充実した国内・海外での研修やインターンシップ　創エネルギー・省エネルギーなどの環境技術を、実社会で開発・応用する国内・海外の研究機関や企業などで実践的な体験をすることができます。」（93.1%）と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高校生対象

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の特色に対する魅力度

■創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の特色に対する魅力度

Q4. 創価大学で構想中の各学部・学科には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。
（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

特色A.〈理工学部 グリーンテクノロジー学科〉**技術を社会に生かす方法まで学ぶ、文理融合型カリキュラム**
技術を社会で活用するために、専門分野に加え他分野や文系とも連携するための知識を学びます。高校で文系選択だった方の入学も可能です。

特色B.〈理工学部 グリーンテクノロジー学科〉**1年次から演習・実験に触れ、知識の幅を広げる**　1年次から多彩な専門分野の教員が行う演習・実験科目が履修でき、理論と実践を同時に学びながら興味関心の幅を広げることができます。

特色C.〈理工学部 グリーンテクノロジー学科〉**充実した国内・海外での研修やインターンシップ**　創エネルギー・省エネルギーなどの環境技術を、実社会で開発・応用する国内・海外の研究機関や企業などで実践的な体験をすることができます。

上段：% 下段：件数（名）	標本数	特色A	特色B	特色C
ターゲット層	277	79.1 219	88.4 245	81.9 227
第一志望者	29	86.2 25	100.0 29	93.1 27

※第一志望者：
ターゲット層（大学進学希望×私立×関連学問分野興味あり）該当者のうち、創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」を「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人

資料22

創価大学
「理工学部 グリーンテクノロジー学科」・「理工学部 生命理工学科」・「経済経営学部 ビジネス学科（通学課程・通信教育課程）」（いずれも仮称、設置構想中）に関するアンケート

創価大学では2026年（令和8年）4月より、「理工学部 グリーンテクノロジー学科」、「理工学部 生命理工学科」、「経済経営学部 ビジネス学科（通学課程・通信教育課程）」（いずれも仮称）を新設することを構想しています。
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただくものです。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「理工学部 グリーンテクノロジー学科」、「理工学部 生命理工学科」、「経済経営学部 ビジネス学科（通学課程、通信教育課程）」、（いずれも仮称、設置構想中）に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えください。
（あてはまる番号1つに○）

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社（本部）所在地について、都道府県名をお教えください。

本社(本部)所在地 [　　] 都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。（あてはまる番号1つに○）

1. 農・林・漁・鉱業
2. 建設業
3. 製造業
4. 電気・ガス・熱供給・水道業
5. 情報通信業
6. 運輸業
7. 卸売・小売業
8. 金融・保険業
9. 不動産業
10. 飲食店・宿泊業
11. 医療・福祉
12. 複合サービス事業
13. サービス業
14. 公務
15. その他

Q4. 貴社・貴団体の従業員数（正規社員）について、ご回答ください。（あてはまる番号1つに○）

1. 50名未満
2. 50名～100名未満
3. 100名～500名未満
4. 500名～1,000名未満
5. 1,000名～5,000名未満
6. 5,000名以上

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えください。
（あてはまる番号1つに○）

1. 0名
2. 1名～5名未満
3. 5名～10名未満
4. 10名～20名未満
5. 20名～30名未満
6. 30名～50名未満
7. 50名～100名未満
8. 100名以上

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。（あてはまる番号1つに○）

1. 増やす
2. 昨年度並み
3. 減らす
4. 未定

裏面へ続く→

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
（あてはまる番号すべてに○）

1. 工学（エネルギー・環境工学）
2. 工学（応用生命工学）
3. 工学（農業工学）
4. その他工学（機械工学など）
5. 理学（自然環境科学）
6. 理学（生物、生命科学）
7. その他理学（数学、物理学など）
8. 商学・経済学（経営学など）
9. 文学（史学、哲学など）
10. 教育（教育学、体育学など）
11. 保健(医学,歯学,薬学,看護学など)
12. その他
13. 学んだ学問分野にはこだわらない

創価大学では、2026年（令和8年）4月に、新しく「理工学部 グリーンテクノロジー学科」、「理工学部 生命理工学科」、「経済経営学部 ビジネス学科（通学課程、通信教育課程）」（いずれも仮称）を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

Q8. 創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」、「理工学部 生命理工学科」、「経済経営学部 ビジネス学科（通学課程、通信教育課程）」（いずれも仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。
（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

			とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	例. ○○である。	→	1	(2)	3	4
グリーンテクノロジー学科の特色	A. **技術を社会に生かす方法まで学ぶ、文理融合型カリキュラム** 技術を社会で活用するために、専門分野に加え他分野や文系とも連携するための知識を学びます。高校で文系選択だった方の入学も可能です。	→	1	2	3	4
	B. **1年次から演習・実験に触れ、知識の幅を広げる** 1年次から多彩な専門分野の教員が行う演習・実験科目が履修でき、理論と実践を同時に学びながら興味関心の幅を広げることができます。	→	1	2	3	4
	C. **充実した国内・海外での研修やインターンシップ** 創エネルギー・省エネルギーなどの環境技術を、実社会で開発・応用する国内・海外の研究機関や企業などで実践的な体験をすることができます。	→	1	2	3	4
生命理工学科の特色	D. **医療などで注目される最先端の生命科学・バイオ技術を学ぶ** 生物・生命科学に加え、医理工連携に通じる糖鎖生物学（糖鎖システム学）・電子工学・応用物理学・化学などの最先端の融合分野を学習。生体計測技術やバイオ技術などの実践的な内容が学べます。	→	1	2	3	4
	E. **1年次から少人数の実験実習に関わり、実践力を身につける** 少人数で、理工学の基礎からバイオテクノロジー技術につながる複合的な分野まで実験実習を受講でき、実践力が身につきます。	→	1	2	3	4
	F. **在学時から生徒と関われる実践的な中・高理科教員養成プログラム** 理科教員養成に特化した特別プログラムに加え、八王子市や系列中学と連携した実験教室の運営・サポートを通じて、充実した教育実践活動ができます。	→	1	2	3	4
ビジネス学科の特色	G. **ワークショップ・研修を通じてビジネススキルが身につく** 企業や地域の実際の課題等をケースに取り上げた実践的な学びを通して、チームビルディングやリーダーシップの力に加え、ビジネスに必要な力も身に付きます。 ※通学課程のみ	→	1	2	3	4
	H. **3つの学修コース×8つの科目群で柔軟に学べる** 軸となる進路に応じた3コースと、経済・経営を横断する8科目群の中から関心に応じていくつかを選び組み合わせることで、卒業後の進路を見据えた学びができます。 ※通学課程・通信教育課程共通	→	1	2	3	4
	I. **ビジネスで役立つ資格取得がめざせる** 創価大学で高い実績を持つ公認会計士をはじめ、税理士や簿記検定などの資格にチャレンジすることが可能です。 ※通学課程・通信教育課程共通	→	1	2	3	4

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」、「理工学部 生命理工学科」、「経済経営学部 ビジネス学科(通学課程、通信教育課程)」(いずれも仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.必要だと思う	2.必要だと思わない
理工学部　グリーンテクノロジー学科	→	1	2
理工学部　生命理工学科	→	1	2
経済経営学部　ビジネス学科(通学課程)	→	1	2
経済経営学部　ビジネス学科(通信教育課程)	→	1	2

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」、「理工学部 生命理工学科」、「経済経営学部 ビジネス学科(通学課程、通信教育課程)」(いずれも仮称、設置構想中)の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
理工学部　グリーンテクノロジー学科	→	1	2
理工学部　生命理工学科	→	1	2
経済経営学部　ビジネス学科(通学課程)	→	1	2
経済経営学部　ビジネス学科(通信教育課程)	→	1	2

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上
理工学部　グリーンテクノロジー学科	→	1	2	3	4	5	6
理工学部　生命理工学科	→	1	2	3	4	5	6
経済経営学部　ビジネス学科(通学課程)	→	1	2	3	4	5	6
経済経営学部　ビジネス学科(通信教育課程)	→	1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

資料23

創価大学
「理工学部 グリーンテクノロジー学科」（仮称）
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【企業対象調査】

令和7年（2025年）1月

株式会社　進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

企業対象

調査概要

1. 調査目的

令和8年(2026年)4月開設予定の創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」「理工学部 生命理工学科」「経済経営学部 ビジネス学科(通学課程・通信教育課程)」(いずれも仮称)設置構想に関して、企業からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の採用担当者
調査エリア		北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	1,107企業
	回収数(回収率)	175企業(15.8%)
調査時期		令和6年(2024年)9月3日(火)～ 令和6年(2024年)10月10日(木)
調査実施機関		株式会社 進研アド

調査概要

3. 調査項目

企業対象調査
・人事採用への関与度 ・本社(本部)所在地 ・業種 ・正規社員の従業員数 ・正規社員の平均採用人数 ・本年度の採用予定数 ・採用したい学問分野 ・創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」「理工学部 生命理工学科」「経済経営学部 ビジネス学科(通学課程・通信教育課程)」の特色に対する魅力度 ・創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」「理工学部 生命理工学科」「経済経営学部 ビジネス学科(通学課程・通信教育課程)」の社会的必要性 ・創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」「理工学部 生命理工学科」「経済経営学部 ビジネス学科(通学課程・通信教育課程)」卒業生に対する採用意向 ・創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」「理工学部 生命理工学科」「経済経営学部 ビジネス学科(通学課程・通信教育課程)」卒業生に対する毎年の採用想定人数

採用意向調査　調査結果

※報告書内の表中の％の母数は、
特に断りがない場合、回答企業全体（175企業）

企業対象

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」「理工学部 生命理工学科」「経済経営学部 ビジネス学科(通学課程・通信教育課程)」に対する人材需要を確認するための調査として設計。創価大学の卒業生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、175企業から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は25.1%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が68.0%と、採用や選考に関わっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社(本部)所在地は、創価大学の本部所在地である「東京都」が65.7%と最も多く、次いで「神奈川県」が8.0%、「大阪府」が5.1%と続く。
- 回答企業の業種としては「情報通信業」「卸売・小売業」がともに17.1%で最も多い。次いで「サービス業」が14.9%、「建設業」が14.3%と続く。
- 回答企業の正規社員の従業員数は、「100名～500名未満」が33.1%と最も多く、次いで「500名～1,000名未満」「1,000名～5,000名未満」がともに22.9%、「5,000名以上」が10.9%と続く。100名以上の比較的規模が大きい企業が8割以上を占める。

企業対象

回答企業（回答者）の属性、採用状況等

回答企業の採用状況（過去3か年平均）／本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は「100名以上」が23.4%と最も多く、次いで「10名～20名未満」が20.0%、「20名～30名未満」が14.3%と続く。毎年正規社員を採用している企業がほとんどである。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が61.7%と最も多く、次いで「増やす」が29.7%である。回答企業の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。
- 回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聞いたところ、「理工学部 グリーンテクノロジー学科」の学びと関連する学問分野は以下の通り。

  工学（エネルギー・環境工学）：16.0%
  工学（農業工学）：9.1%
  理学（自然環境科学）：11.4%

企業対象

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えください。
(あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	採用の決裁権があり、選考にかかわっている	採用の決裁権はないが、選考にかかわっている	採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある	無回答
全体	175	25.1 44	68.0 119	6.3 11	0.6 1

■本社(本部)所在地

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えください。

上段:% 下段:件数 (企業)	標本数	北海道	青森県	山形県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	富山県	石川県	福井県	岐阜県	静岡県
全体	175	2.3 4	0.6 1	0.6 1	1.1 2	1.1 2	2.9 5	0.6 1	65.7 115	8.0 14	0.6 1	1.1 2	0.6 1	0.6 1	0.6 1

上段:% 下段:件数 (企業)	標本数	愛知県	三重県	滋賀県	大阪府	兵庫県	岡山県	広島県	愛媛県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	無回答
全体	175	1.7 3	0.6 1	0.6 1	5.1 9	1.1 2	0.6 1	0.6 1	0.6 1	1.1 2	0.6 1	0.6 1	0.6 1	0.0 0

■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	農・林・漁・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業
全体	175	0.0 0	14.3 25	10.9 19	1.1 2	17.1 30	6.3 11	17.1 30	3.4 6

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	複合サービス事業	サービス業	公務	その他	無回答
全体	175	1.7 3	1.7 3	4.6 8	1.1 2	14.9 26	0.0 0	5.1 9	0.6 1

企業対象

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■正規社員の従業員数

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	50名未満	50名～100名未満	100名～500名未満	500名～1,000名未満	1,000名～5,000名未満	5,000名以上	無回答
全体	175	4.0 7	6.3 11	33.1 58	22.9 40	22.9 40	10.9 19	0.0 0

■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えください。
(あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	0名	1名～5名未満	5名～10名未満	10名～20名未満	20名～30名未満	30名～50名未満	50名～100名未満	100名以上	無回答
全体	175	0.6 1	11.4 20	7.4 13	20.0 35	14.3 25	12.6 22	10.3 18	23.4 41	0.0 0

■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	増やす	昨年度並み	減らす	未定	無回答
全体	175	29.7 52	61.7 108	4.6 8	4.0 7	0.0 0

採用したい学問分野

■採用したい学問分野

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
（あてはまる番号すべてに○）

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	工学（エネルギー・環境工学）	工学（応用生命工学）	工学（農業工学）	その他工学（機械工学など）	理学（自然環境科学）	理学（生物、生命科学）	その他理学（数学、物理学など）
全体	175	16.0 28	13.7 24	9.1 16	26.9 47	11.4 20	12.0 21	13.7 24

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	商学・経済学（経営学など）	人文科学（文学、史学、哲学など）	教育（教育学、体育学など）	保健（医学、歯学、薬学、看護学など）	その他	学んだ学問分野にはこだわらない	無回答
全体	175	26.3 46	16.0 28	14.3 25	7.4 13	7.4 13	57.7 101	0.0 0

企業対象

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の特色に対する魅力度

創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」の特色に対する魅力度

「理工学部 グリーンテクノロジー学科」の特色に対する魅力度（※）は、以下のとおり。

- 「A.〈理工学部 グリーンテクノロジー学科〉**技術を社会に生かす方法まで学ぶ、文理融合型カリキュラム**　技術を社会で活用するために、専門分野に加え他分野や文系とも連携するための知識を学びます。高校で文系選択だった方の入学も可能です。」の魅力度は89.7％である。
- 「B.〈理工学部 グリーンテクノロジー学科〉**1年次から演習・実験に触れ、知識の幅を広げる**　1年次から多彩な専門分野の教員が行う演習・実験科目が履修でき、理論と実践を同時に学びながら興味関心の幅を広げることができます。」の魅力度は84.0％である。
- 「C.〈理工学部 グリーンテクノロジー学科〉**充実した国内・海外での研修やインターンシップ**　創エネルギー・省エネルギーなどの環境技術を、実社会で開発・応用する国内・海外の研究機関や企業などで実践的な体験をすることができます。」の魅力度は83.4％である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

企業対象

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の特色に対する魅力度

■創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の特色に対する魅力度

Q8. 創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」、「理工学部 生命理工学科」、
「経済経営学部 ビジネス学科（通学課程・通信教育課程）」（いずれも仮称、設置構想中）には、
以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。
（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

特色A.〈理工学部 グリーンテクノロジー学科〉**技術を社会に生かす方法まで学ぶ、文理融合型カリキュラム** 技術を社会で活用するために、専門分野に加え他分野や文系とも連携するための知識を学びます。高校で文系選択だった方の入学も可能です。

特色B.〈理工学部 グリーンテクノロジー学科〉**1年次から演習・実験に触れ、知識の幅を広げる** 1年次から多彩な専門分野の教員が行う演習・実験科目が履修でき、理論と実践を同時に学びながら興味関心の幅を広げることができます。

特色C.〈理工学部 グリーンテクノロジー学科〉**充実した国内・海外での研修やインターンシップ** 創エネルギー・省エネルギーなどの環境技術を、実社会で開発・応用する国内・海外の研究機関や企業などで実践的な体験をすることができます。

上段：% 下段：件数（企業）		標本数	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	魅力度（※）	無回答
理工学部 グリーンテクノロジー学科	特色A	175	37.1 65	52.6 92	9.7 17	0.6 1	89.7 157	0.0 0
	特色B	175	48.6 85	35.4 62	15.4 27	0.6 1	84.0 147	0.0 0
	特色C	175	37.7 66	45.7 80	16.6 29	0.0 0	83.4 146	0.0 0

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

企業対象

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の社会的必要性/採用意向/採用想定人数

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の社会的必要性

- 「理工学部　グリーンテクノロジー学科」について「必要だと思う」と回答した企業は97.1%（**170企業**）であり、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」卒業生の採用意向／毎年の採用想定人数

- 「理工学部　グリーンテクノロジー学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は82.3%（**144企業**）であり、予定している入学定員60名を上回る数の採用意向がみられた。
- 「理工学部　グリーンテクノロジー学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業へ、「理工学部　グリーンテクノロジー学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**325名**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象

創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」、「理工学部 生命理工学科」、「経済経営学部 ビジネス学科(通学課程・通信教育課程)」(いずれも仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	必要だと思う	必要だと思わない	無回答
全体	175	97.1 170	2.9 5	0.0 0

■創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」卒業生に対する採用意向

Q10.貴社・貴団体(ご回答者)では、創価大学「理工学部 グリーンテクノロジー学科」、「理工学部 生命理工学科」、「経済経営学部 ビジネス学科(通学課程・通信教育課程)」(いずれも仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	採用したいと思う	採用したいと思わない	無回答
全体	175	82.3 144	16.6 29	1.1 2

「採用したいと思う」と答えた144企業のみ抽出

■創価大学「理工学部　グリーンテクノロジー学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11.Q10でいずれかの学科の卒業生を「1．採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1．採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名～9名	10名以上		毎年の採用想定人数を示した企業数・計および採用想定人数・計(※)
全体	144	%	58.3%	15.3%	8.3%	2.8%	6.3%	6.9%		
		企業数	84	22	12	4	9	10	⇒	141
		名	84	44	36	16	45	100		325

※%の母数は、「理工学部　グリーンテクノロジー学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業(144企業)

※ 毎年の採用想定人数・計　「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　　員　　名　　簿

学　長　又　は　校　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
―	学長	スズキ　ミカ 鈴木　美華 ＜令和７年３月＞		Master of Laws （米国）		創価大学　学長 （令和７．３～令和10．３）

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（理工学部グリーンテクノロジー学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基(主専)	教授	マツヤマ タツシ 松山　達 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.1	1	創価大学 理工学部 教授 (平4.4)	○				5日	
							グリーンテクノロジー研究体験B	○	1後	1	1							
							グリーンテクノロジー研究トピックス※	○	2前	0.3	1							
							演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							卒業演習Ⅰ	○	4前	2	1							
							卒業演習Ⅱ	○	4後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験E	○	2休	1	1							
							初等数学		1前	2	1							
							Topics in Science and Engineering※		2後	0.4	1							
							熱力学		2後	2	1							
							粉体工学概論		3後	2	1							
							卒業研究Ⅰ	○	4前	5	1							
							卒業研究Ⅱ	○	4後	5	1							
							生物反応工学		3後	2	1							
							生物反応工学実験		3後	1	1							
							R&Dキャリアセミナー		3前	1	1							
2	基(主専)	教授	ｸﾜﾊﾗ ﾋﾞｸﾀｰ ｼﾝｲﾁ KUWAHARA Victor Shinichi ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.1	1	創価大学 教育学部 教授 (平17.4)	○				5日	
							環境問題入門	○	1後	2	1							
							グリーンテクノロジー概論※	○	1前	0.1	1							
							地球科学概論	○	1後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験A	○	1後	1	1							
							グリーンテクノロジー研究トピックス※	○	2前	0.1	1							
							演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							卒業演習Ⅰ	○	4前	2	1							
							卒業演習Ⅱ	○	4後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験C	○	2前	1	1							
							卒業研究Ⅰ	○	4前	5	1							
							卒業研究Ⅱ	○	4後	5	1							
							気候変動科学論※	○	2前	0.9	1							
							地球観測技術※	○	3前	0.7	1							
							海洋観測実習		3後	2	1							
							海外インターンシップ		3前・後	4	2							
							特別講義		3後	2	1							
3	基(主専)	教授	ｲﾀﾞ ｼﾞｭﾝｲﾁ 井田　旬一 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.5	1	創価大学 理工学部 教授 (平17.4)	○				5日	
							GCPチュートリアルⅠ		1前	1	1							
							GCPチュートリアルⅡ		1後	1	1							
							GCPチュートリアルⅢ		2前	1	1							
							GCPチュートリアルⅣ		2後	1	1							
							プログラムゼミⅢ※		2前	0.5	1							
							グリーンテクノロジー概論※	○	1前	0.1	1							
							グリーンテクノロジー研究体験A	○	1後	1	1							
							グリーンテクノロジー研究トピックス※	○	2前	0.3	1							
							演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							卒業演習Ⅰ	○	4前	2	1							
							卒業演習Ⅱ	○	4後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験E	○	2休	1	1							
							Topics in Science and Engineering※		2後	0.4	1							
							マテリアルサイエンス		3後	2	1							
							卒業研究Ⅰ	○	4前	5	1							
							卒業研究Ⅱ	○	4後	5	1							
							水処理工学実験	○	3前	1	1							
							生物反応工学実験		3後	1	1							

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
4	基(主専)	教授	ｶﾒﾀﾞ ﾀｴ 亀田　多江 ＜令和9年4月＞		博士 （工学）		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.4	1	創価女子短期大学 国際ビジネス学科 教授 (平18.4)	○				5日	
							創価女性教育の理念と実践※		1前	0.7	1							
							グローバル社会と女性のエンパワーメント		1後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験B	○	1後	1	1							
							グリーンテクノロジー研究トピックス※	○	2前	0.1	1							
							演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							卒業演習Ⅰ	○	4前	2	1							
							卒業演習Ⅱ	○	4後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験C	○	2前	1	1							
							プロジェクト・スタディーズ		1後	2	1							
							情報基礎論	○	2前	2	1							
							卒業研究Ⅰ	○	4前	5	1							
							卒業研究Ⅱ	○	4後	5	1							
							環境管理システム実験		2前	1	1							
							地球観測技術※	○	3前	0.7	1							
							環境情報システム論	○	2後	2	1							
	その他	教授	ｶﾒﾀﾞ ﾀｴ 亀田　多江 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.4	1						2日	創価女子短期大学 国際ビジネス学科 「基(主専)」
							創価女性教育の理念と実践※		1前	0.7	1							
							グローバル社会と女性のエンパワーメント		1後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験B	○	1後	1	1							
							プロジェクト・スタディーズ		1後	2	1							
5	基(主専)	教授	ﾅｶｻｷ ｷﾖﾋｺ 中﨑　清彦 ＜令和8年4月＞		工学博士		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.1	1	創価大学大学院 理工学研究科 教授 (令6.4)	○				5日	
							グリーンテクノロジー概論※	○	1前	0.1	1							
							グリーンテクノロジー研究体験B	○	1後	1	1							
							グリーンテクノロジー研究トピックス※	○	2前	0.1	1							
							演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							卒業演習Ⅰ	○	4前	2	1							
							卒業演習Ⅱ	○	4後	2	1							
							卒業研究Ⅰ	○	4前	5	1							
							卒業研究Ⅱ	○	4後	5	1							
							グリーンケミストリー入門	○	2前	2	1							
							廃棄物処理工学	○	3後	2	1							
6	基(主専)	教授 (学部長)	ｸﾛｻﾜ ﾉﾘｵ 黒沢　則夫 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.1	1	創価大学 理工学部 教授 (平3.4)	○				5日	
							グリーンテクノロジー概論※	○	1前	0.1	1							
							基礎グリーンテクノロジー実習	○	1前	1	1							
							グリーンテクノロジー研究体験A	○	1後	1	1							
							グリーンテクノロジー研究トピックス※	○	2前	0.1	1							
							演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							卒業演習Ⅰ	○	4前	2	1							
							卒業演習Ⅱ	○	4後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験D	○	2前	1	1							
							グリーンテクノロジーとキャリア		2後	2	1							
							基礎生物学		1前	2	1							
							卒業研究Ⅰ	○	4前	5	1							
							卒業研究Ⅱ	○	4後	5	1							
							環境微生物学	○	2前	2	1							
							環境微生物学実験		2後	1	1							
							グリーンテクノロジー海外研修A		2･3･4休	3	1							
							グリーンテクノロジー海外研修B		2･3･4休	3	1							

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
7	基(主専)	教授 (学科長)	ｻﾄｳ ｼﾝｼﾞﾛｳ 佐藤　伸二郎 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Soil Science (米国)		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.5	1	創価大学 理工学部 教授 (平22.4)	○				5日	
							グリーンテクノロジー概論※	○	1前	0.3	1							
							グリーンテクノロジー研究体験A	○	1後	1	1							
							グリーンテクノロジー研究トピックス※	○	2前	0.4	1							
							演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							卒業演習Ⅰ	○	4前	2	1							
							卒業演習Ⅱ	○	4後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験D	○	2前	1	1							
							プロジェクト・スタディーズ		1後	2	1							
							卒業研究Ⅰ	○	4前	5	1							
							卒業研究Ⅱ	○	4後	5	1							
							環境管理システム実験		2前	1	1							
							土壌科学	○	3前	2	1							
							環境分析化学実験※	○	3後	0.5	1							
							海外インターンシップ		3前・後	4	2							
							グリーンテクノロジー海外研修A		2・3・4休	3	1							
							国際技術協力演習	○	2後	2	1							
							グリーンテクノロジー海外研修B		2・3・4休	3	1							
							特別講義		3後	2	1							
8	基(主専)	教授	ｸﾎﾞｶﾜ ﾀﾂﾔ 久保川　達也 ＜令和8年4月＞		理学博士		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.1	1	創価大学大学院 経済学研究科 教授 (令7.4)	○				5日	
							基礎数学Ⅰ		1前	2	1							
							数理統計学Ⅰ	○	3前	2	1							
							数理統計学Ⅱ	○	3後	2	1							
							多変量解析		3後	2	1							
9	基(主専)	准教授	ｶﾄﾘ ﾌﾟﾗﾃﾞｨｰﾌﾟ KHATRI Pradeep ＜令和8年4月＞		博士 (理学)		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.7	1	創価大学 理工学部 准教授 (令6.4)	○				5日	
							地球科学概論※	○	1後	1.5	1							
							グリーンテクノロジー研究体験B	○	1後	1	1							
							グリーンテクノロジー研究トピックス※	○	2前	0.1	1							
							演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							卒業演習Ⅰ	○	4前	2	1							
							卒業演習Ⅱ	○	4後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験D	○	2前	1	1							
							卒業研究Ⅰ	○	4前	5	1							
							卒業研究Ⅱ	○	4後	5	1							
							気候変動科学論※	○	2前	1.1	1							
							地球生態系モニタリング		2後	2	1							
							地球観測技術※	○	3前	0.7	1							
							地球化学		3前	2	1							
							地球科学実験※	○	3後	1.2	1							
							環境分析化学実験※	○	3後	0.5	1							

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
10	基(主専)	准教授	ｱｵﾉ ｹﾝｻｸ 青野　健作 ＜令和9年4月＞		修士 (法学) ※		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.1	1	創価女子短期大学 国際ビジネス学科 准教授 (令2.4)	○				5日	
							創価女性教育の理念と実践※		1前	0.1	1							
							グリーンテクノロジー概論※	○	1前	0.1	1							
							グリーンテクノロジー研究体験A	○	1後	1	1							
							グリーンテクノロジー研究トピックス※	○	2前	0.1	1							
							演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							卒業演習Ⅰ	○	4前	2	1							
							卒業演習Ⅱ	○	4後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験C	○	2前	1	1							
							グリーンテクノロジーとキャリア		2後	2	1							
							国際ビジネス入門		1後	2	1							
							卒業研究Ⅰ	○	4前	5	1							
							卒業研究Ⅱ	○	4後	5	1							
							公共政策（地域創生ビジネス）		2前	2	1							
							ビジネスイノベーション概論	○	2後	2	1							
							国際ビジネス法		3前	2	1							
							ビジネスプランニング演習		3前	2	1							
							グリーンテクノロジーインターンシップ		3前･後	2	2							
	その他	准教授	ｱｵﾉ ｹﾝｻｸ 青野　健作 ＜令和8年4月＞		修士 (法学) ※		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.1	1						2日	創価女子短期大学 国際ビジネス学科 「基(主専)」
							創価女性教育の理念と実践※		1前	0.1	1							
							グリーンテクノロジー概論※	○	1前	0.1	1							
							グリーンテクノロジー研究体験A	○	1後	1	1							
							国際ビジネス入門	○	1後	2	1							
11	基(主専)	准教授	ｱｷﾂﾞｷ ｼﾝｲﾁ 秋月　真一 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		初年次プロジェクト(グリーンテクノロジー)※	○	1前	0.3	1	創価大学 プランクトン工学研究所 特任准教授 (令2.9)	○				5日	
							グリーンテクノロジー研究体験B	○	1後	1	1							
							グリーンテクノロジー研究トピックス※	○	2前	0.3	1							
							演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							卒業演習Ⅰ	○	4前	2	1							
							卒業演習Ⅱ	○	4後	2	1							
							グリーンテクノロジー研究体験E	○	2休	1	1							
							卒業研究Ⅰ	○	4前	5	1							
							卒業研究Ⅱ	○	4後	5	1							
							環境分析化学実験※	○	3後	0.5	1							
							水処理工学実験	○	3前	1	1							
							プランクトン工学※	○	3前	0.5	1							
							プランクトン工学実験		3前	1	1							
							グリーンテクノロジーインターンシップ		3前･後	2	2							
							国際技術協力演習	○	2後	2	1							
							国際技術協力海外研修		2休	2	1							
12	その他	教授	ﾄﾀﾞ ﾀﾂｷ 戸田　龍樹 ＜令和8年4月＞		農学 博士		グリーンテクノロジー概論※	○	1前	0.1	1	創価大学 理工学部 教授 (平3.4)						
							生態学		2前	2	1							
							地球科学実験※	○	3後	0.8	1							
							海洋観測実習		3後	2	1							
							生態環境工学		3前	2	1							
							プランクトン工学※	○	3前	0.5	1							
							プランクトン工学実験		3前	1	1							
13	その他	教授	ﾀｶｾ ｻﾔｶ 高瀬　明 ＜令和9年4月＞		獣医学博士		ライフイベントとジェンダー※		3･4前	0.4	1	創価大学 理工学部 教授 (平3.4)						
							基礎微生物学実験		2後	1	1							
14	その他	教授	ｶﾜｲ ﾋﾃﾞｷ 川井　秀樹 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Pharmacology (米国)		Foundations of Chemistry		1前	2	1	創価大学 理工学部 教授 (平21.4)						
							Foundations of Biology		1前	2	1							
							R＆Dキャリアセミナー		3前	1	1							
							Topics in Science and Engineering※		2後	0.4	1							
15	その他	教授	ｲｹｸﾞﾁ ﾏｻﾐﾁ 池口　雅道 ＜令和8年4月＞		理学博士		化学実験		1後	2	1	創価大学 理工学部 教授 (平元.4)						
							機器分析学		3後	2	1							

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
16	その他	教授	ｾｷ ｱﾂｼ 関　篤志 ＜令和8年4月＞		工学博士		生命科学※ 化学実験		1後 1後	1.1 2	1 1	創価大学 理工学部 教授 (平2.4)						
17	その他	教授	ｽｷﾞﾓﾄ ｲﾁﾛｳ 杉本　一郎 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Economics (ﾏﾚｰｼｱ)		Foundations of Data Science International Fieldwork Ⅰ※ International Fieldwork Ⅱ		1後 2前 2休	4 0.7 2	1 1 1	創価大学 国際教養学部 教授 (平21.4)						
18	その他	教授	ﾛｰﾚﾝｽ ﾏｸﾄﾞﾅﾙﾄﾞ Laurence Macdonald ＜令和9年4月＞		Ph. D in Education Policy and Leadership (米国)		Qualitative Research Method※		2後	2	1	創価大学 国際教養学部 教授 (平18.4)						
19	その他	教授	ｷﾉｼﾀ ﾌﾛｰﾗ ｷﾖｺ 木下　フローラ聖子 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Computer Engineering (米国)		プロジェクト・スタディーズ 国際情報英書講読 Topics in Science and Engineering※		1後 2前 2後	2 2 0.4	1 1 1	創価大学 理工学部 教授 (平18.4)						
20	その他	教授	ｼﾉﾐﾔ ﾉﾘﾋｺ 篠宮　紀彦 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		GCPチュートリアルⅠ GCPチュートリアルⅡ GCPチュートリアルⅢ GCPチュートリアルⅣ プログラムゼミⅢ※ Topics in Science and Engineering※		1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 0.4 0.4	1 1 1 1 1 1	創価大学 理工学部 教授 (平17.4)						
21	その他	教授	ｳｰﾙ ｱｲﾄｩﾝ ｵｽﾞﾀｰｸ U. Aytun Ozturk ＜令和9年4月＞		Ph.D in Management Science (米国)		No-Code Predictive Analytics with AI AI-augmented Prescriptive Operations Analytics		2前 2後	4 4	1 1	創価大学 国際教養学部 教授 (平27.5)						
22	その他	教授	ﾉﾑﾗ(ｻﾜﾀﾞ) ｻﾁﾖ 野村(澤田)　佐智代 ＜令和10年4月＞		博士 (経営学)		環境マネジメント		3前	2	1	創価大学 経営学部 教授 (平22.4)						
23	その他	教授	ｱｻｲ ﾏﾅﾌﾞ 浅井　学 ＜令和9年4月＞		博士 (社会経済)		社会システム・ソリューションⅡ※ データ分析演習 機械学習(AI)演習		2前 3前 3後	1.1 2 2	1 1 1	創価大学 経済学部 教授 (平17.4)						
24	その他	教授	ｶﾝｻﾞｶ ｼﾞｭﾝｲﾁ 勘坂　純市 ＜令和8年4月＞		博士 (経済学)		創価教育論※ 共通基礎演習	○	1前・後 1前・後	1.6 2	2 1	創価大学 経済学部 教授 (平6.4)						
25	その他	教授	ﾆｼｳﾗ ｱｷｵ 西浦　昭雄 ＜令和8年4月＞		博士 (経済学)		人間教育論応用※ 共通基礎演習 GCPチュートリアルⅠ GCPチュートリアルⅡ GCPチュートリアルⅢ GCPチュートリアルⅣ プログラムゼミⅢ※ プログラムゼミⅣ※		1前・後 1前・後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	0.3 2 1 1 1 1 0.3 2	2 1 1 1 1 1 1 1	創価大学 経済学部 教授 (平9.4)						
26	その他	教授	ﾆｼﾀﾞ ｻﾄｼ 西田　哲史 ＜令和8年4月＞		Dr. phil. (独国)		歴史入門 企業研究		1後 2後	2 2	1 1	創価大学 経済学部 教授 (平18.4)						
27	その他	教授	ﾏｽｲ ﾏｺﾄ 増井　淳 ＜令和10年4月＞		博士 (経済学)		ライフイベントとジェンダー※	○	3･4前	0.4	1	創価大学 経済学部 教授 (平17.4)						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
28	その他	教授	ﾁｶｻﾀﾞ ﾐﾂｺ 近貞　美津子 ＜令和8年4月＞		Ph.D.in Agricultural, Environmental,and Regional Economics, and Demography（米国）		環境と開発※ GCPチュートリアルⅡ GCPチュートリアルⅣ	○	1後 1後 2後	0.1 1 1	1 1 1	創価大学 経済学部 教授 （平21.4）						
29	その他	教授	ｶｹｶﾞﾜ ﾐﾁﾖ 掛川　三千代 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Environmental Studies（米国）		環境と開発※	○	1前・後	2.3	2	創価大学 経済学部 教授 （平29.4）						
30	その他	教授	ﾀｶｷﾞ ｲｻｵ 高木　功 ＜令和8年4月＞		経済学修士 ※		環境と開発※	○	1後	0.1	1	創価大学 経済学部 教授 （昭60.4）						
31	その他	教授	ｵｵﾊﾞ ﾀｶﾋﾛ 大場　隆広 ＜令和8年4月＞		博士 （経済学）		トップが語る現代経営A トップが語る現代経営B キャリアビジョン演習A	○ ○	1後 1後 2後	2 2 2	1 1 1	創価大学 経営学部 教授 （平28.4）						
32	その他	教授	ﾅｶﾑﾗ ﾐﾕｷ 中村 みゆき ＜令和8年4月＞		博士 （経済学）		GCPチュートリアルⅠ GCPチュートリアルⅡ GCPチュートリアルⅢ GCPチュートリアルⅣ		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	創価大学 経営学部 教授 （平14.4）						
33	その他	教授	ﾏﾂﾀﾞ ﾖｼﾋｻ 松田　佳久 ＜令和10年4月＞		修士 （民事法学） ※		キャリアビジョン演習D		3･4後	2	1	創価大学 法学部 教授 （平24.4）						
34	その他	教授	ｽﾄﾞｳ ﾖｼﾔｽ 須藤　悦安 ＜令和8年4月＞		法学修士		留学生のためのキャリアデザイン基礎（日本語） 留学生のためのキャリアデザイン基礎（英語） 留学生のためのキャリアビジョン演習 インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ インターンシップⅣ		1前 1前 3･4後 1前 1後 1前 1後	2 2 2 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1	創価大学 法学部 教授 （昭和61.4）						
35	その他	教授	ﾅｶﾔﾏ ﾏｻｼ 中山　雅司 ＜令和8年4月＞		法学修士 ※		共通基礎演習		1前	2	1	創価大学 法学部 教授 （昭和61.4）						
36	その他	教授	ｵｶﾍﾞ ﾌﾐﾉﾌﾞ 岡部　史信 ＜令和10年4月＞		法学修士 ※		ライフイベントとジェンダー※		3･4前	0.5	1	創価大学 法学部 教授 （平4.4）						
37	その他	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾘｭｳｼ 山田　隆司 ＜令和8年4月＞		博士 （法学）		現代マスコミ論 共通総合演習A 共通総合演習B		1後 1前 1後	2 2 2	1 1 1	創価大学 法学部 教授 （平24.4）						
38	その他	教授	ﾐﾔｻﾞｷ ｱﾂｼ 宮崎　淳 ＜令和8年4月＞		博士 （法学）		GCPチュートリアルⅠ GCPチュートリアルⅡ GCPチュートリアルⅢ GCPチュートリアルⅣ		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	創価大学 法学部 教授 （平6.4）						
39	その他	教授	ｱｻｶﾞ ﾋﾛﾉﾌﾞ 朝賀　広伸 ＜令和8年4月＞		博士 （不動産学）		GCPチュートリアルⅠ GCPチュートリアルⅡ GCPチュートリアルⅢ GCPチュートリアルⅣ プログラムゼミⅢ※ 環境と開発※	 ○	1前 1後 2前 2後 2前 1後	1 1 1 1 0.8 0.1	1 1 1 1 1 1	創価大学 法学部 教授 （平24.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
40	その他	教授	ﾏｴﾀﾞ ﾕｷｵ 前田　幸男 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		人間教育論B※ GCPチュートリアルⅠ GCPチュートリアルⅡ GCPチュートリアルⅢ GCPチュートリアルⅣ	○	1前・後 1前 1後 2前 2後	1.1 1 1 1 1	2 1 1 1 1	創価大学 法学部 教授 （平27.4）						
41	その他	教授	ｶﾀﾔﾏ ﾂｶｻ 嘉多山　宗 ＜令和8年4月＞		博士 （法学）		日本国憲法		1前	1	1	創価大学 法務研究科 教授 （平15.4）						
42	その他	教授	ｲﾄｳ ﾀｶｵ 伊藤　貴雄 ＜令和8年4月＞		博士 （人文学）		創価教育論※ 人間教育論B※	○ ○	1前・後 1前・後	1.6 1.4	2 2	創価大学 文学部 教授 （平18.4）						
43	その他	教授	ｲﾉｳｴ ﾀﾞｲｽｹ 井上　大介 ＜令和8年4月＞		Doctor En Antropology （メキシコ）		人間教育論応用※ ダイバーシティ&インクルージョン入門※		1前・後 1後	3.2 0.1	2 1	創価大学 文学部 教授 （平20.4）						
44	その他	教授	ﾀﾏｲ ﾋﾃﾞｷ 玉井　秀樹 ＜令和8年4月＞		文学修士		人間教育論応用※ 平和と人権※ 環境と開発※ キャリアトランジション演習	 ○ ○	1前・後 1前 1後 4後	0.3 0.9 0.9 2	2 1 1 1	創価大学 文学部 教授 （平2.4）						
45	その他	教授	ｻｶﾞｴ ﾐﾂﾉﾘ 寒河江　光徳 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		人間教育論B※ トップが語る現代経営A トップが語る現代経営B	○ ○ ○	1前・後 1後 1後	1.1 2 2	2 1 1	創価大学 文学部 教授 （平18.4）						
46	その他	教授	ﾔﾏﾅｶ ﾏｻｷ 山中　正樹 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		文学入門		1後	2	1	創価大学 文学部 教授 （平21.4）						
47	その他	教授	ﾔﾏｵｶ ﾏｻｷ 山岡　政紀 ＜令和8年4月＞		博士 （言語学）		言語学入門※		1後	1.3	1	創価大学 文学部 教授 （平2.4）						
48	その他	教授	ｻｲﾄｳ ﾉﾌﾞﾋﾛ 斉藤　信浩 ＜令和8年4月＞		文学博士		言語学入門※		1後	0.7	1	創価大学 文学部 教授 （令5.4）						
49	その他	教授	ｴｸﾞﾁ(ｺﾊﾞﾔｼ)ﾐﾂﾙ 江口（小林）満 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in philosophy （ロシア）		ロシア語コミュニケーション初級Ⅰ ロシア語コミュニケーション初級Ⅱ ロシア語文法中級Ⅰ ロシア語文法中級Ⅱ ロシア語ライティング入門Ⅰ ロシア語ライティング入門Ⅱ		1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	創価大学 文学部 教授 （平19.4）						
50	その他	教授	ﾑﾗｶﾐ ﾉﾌﾞｱｷ 村上　信明 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		ダイバーシティ&インクルージョン入門※		1後	0.5	1	創価大学 文学部 教授 （平20.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
51	その他	教授	アネメッテ フィスカーネルセン Anne Mette FISKER-NIELSEN ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Social Anthropology （英国）		ダイバーシティ&インクルージョン入門※ 国際ボランティア実習 海外短期研修（英語）Ⅰ 海外短期研修（英語）Ⅱ 海外短期研修（英語）Ⅲ 海外短期研修（英語）Ⅳ 海外短期研修（英語）Ⅴ 海外短期研修（英語）Ⅵ 海外短期研修（ドイツ語）Ⅰ 海外短期研修（ドイツ語）Ⅱ 海外短期研修（ドイツ語）Ⅲ 海外短期研修（ドイツ語）Ⅳ 海外短期研修（フランス語）Ⅰ 海外短期研修（フランス語）Ⅱ 海外短期研修（フランス語）Ⅲ 海外短期研修（フランス語）Ⅳ 海外短期研修（中国語）Ⅰ 海外短期研修（中国語）Ⅱ 海外短期研修（中国語）Ⅲ 海外短期研修（中国語）Ⅳ 海外短期研修（スペイン語）Ⅰ 海外短期研修（スペイン語）Ⅱ 海外短期研修（スペイン語）Ⅲ 海外短期研修（スペイン語）Ⅳ 海外短期研修（イタリア語）Ⅰ 海外短期研修（イタリア語）Ⅱ 海外短期研修（イタリア語）Ⅲ 海外短期研修（イタリア語）Ⅳ 海外短期研修（韓国語）Ⅰ 海外短期研修（韓国語）Ⅱ 海外短期研修（韓国語）Ⅲ 海外短期研修（韓国語）Ⅳ 海外短期研修（ロシア語）Ⅰ 海外短期研修（ロシア語）Ⅱ 海外短期研修（ロシア語）Ⅲ 海外短期研修（ロシア語）Ⅳ 海外短期研修（国際理解）Ⅰ 海外短期研修（国際理解）Ⅱ 海外短期研修（国際理解）Ⅲ 海外短期研修（国際理解）Ⅳ 海外短期研修（国際理解）Ⅴ 海外短期研修（国際理解）Ⅵ 海外インターンシップⅠ 海外インターンシップⅡ 海外インターンシップⅢ 海外インターンシップⅣ 海外インターンシップⅤ 海外インターンシップⅥ		1後 1前・後 1休 1休 1休

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
55	その他	教授	ﾄﾐｵｶ ﾋﾛｺ 富岡　比呂子 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Education（米国）		創価教育論※ 人間教育論応用※	○	1前・後 1前・後	1.3 0.3	2 2	創価大学 教育学部 教授 （平18.4）						
56	その他	教授	ｳｼﾀﾞ ｼﾝｲﾁ 牛田　伸一 ＜令和8年4月＞		博士（教育学）		大学史の中の創価大学		1後	2	1	創価大学 教育学部 教授 （平21.4）						
57	その他	教授	ｸﾎﾞﾀ ﾋﾃﾞｱｷ 久保田　秀明 ＜令和8年4月＞		体育学修士※		体育実技A 体育実技B 体育実技C 体育実技D 体育講義		1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	5 4 4 2 4	5 4 4 2 2	創価大学 教育学部 教授 （平2.4）						
58	その他	教授	ﾅｲﾄｳ ｺｳｿﾞｳ 内藤　耕三 ＜令和8年4月＞		博士（工学）		体育実技A 体育実技B 体育実技C 体育実技D 体育講義 スポーツフィジカルサイエンス		1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前	2 2 2 2 4 2	2 2 2 2 2 1	創価大学 教育学部 教授 （平28.4）						
59	その他	教授	ﾂﾙﾀ ﾏｷ 鶴田　真紀 ＜令和8年4月＞		教育学博士		ダイバーシティ＆インクルージョン入門※		1後	0.1	1	創価大学 教育学部 教授 （平28.4）						
60	その他	教授	ｱﾂﾐ ﾏｻﾔｽ 渥美 雅保 ＜令和8年4月＞		博士（工学）		AI基礎		1前	2	1	創価大学 理工学部 教授 （平2.4）						
61	その他	教授	ﾏﾙﾀ ｼﾝｻｸ 丸田　晋策 ＜令和8年4月＞		医学博士		生命科学 キャリアビジョン演習D		1後 3・4後	2 2	1 1	創価大学 理工学部 教授 （平3.4）						
62	その他	教授	ｻｻｷ ｻﾄｼ 佐々木　諭 ＜令和8年4月＞		博士（医学）		共通基礎演習 平和と人権※ 生命科学※ GCPチュートリアルⅠ GCPチュートリアルⅡ GCPチュートリアルⅢ GCPチュートリアルⅣ プログラムゼミⅠ※ プログラムゼミⅡ	○	1前・後 1前 1前・後 1前 1後 2前 2後 1前 1後	4 0.3 3.5 1 1 1 1 0.8 2	2 1 2 1 1 1 1 1 1	創価大学 看護学部 教授 （平22.4）						
63	その他	教授	ｻﾄｳ ﾀｹﾋﾄ 佐藤　健人 ＜令和8年4月＞		博士（理学）		共通基礎演習 生命科学※ 共通総合演習A 共通総合演習B		1後 1前・後 1前 1後	2 0.3 2 2	1 2 1 1	創価大学 看護学部 教授 （令5.4）						
64	その他	教授	ﾅｶﾞﾇﾏ ﾀｶﾐ 長沼　貴美 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		ライフイベントとジェンダー※	○	3・4前	0.7	1	創価大学 看護学部 教授 （平25.4）						
65	その他	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾘｭｳｻｸ 山田　竜作 ＜令和10年4月＞		Ph.D. in Applied Economics（米国）		キャリアビジョン演習D		3・4後	2	1	創価大学 国際教養学部 教授 （平24.4）						
66	その他	教授	ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ ｹﾞﾊﾞｰﾄ Andrew GEBERT ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		創価教育論※ SOKA education	○	1前・後 1後	1.9 2	2 1	創価大学 創価教育学研究所 教授 （令5.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
67	その他	教授	ｿｳ ｷﾞｮｳﾊ 叢　暁波 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		人間教育論A※ 共通基礎演習 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅴ 中国語Ⅵ	○	1後 1前・後 1前 1後 1前 1後	0.3 4 2 2 1 1	1 2 1 1 1 1	創価大学 創価教育学研究所 教授 （平30.4）						
68	その他	教授	ﾀｶﾊｼ ｶｵﾙ 高橋　薫 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		アカデミックライティングⅠ 思考技術Ⅰ 思考技術Ⅱ スマート・リーダーシップⅡ 統計学入門Ⅰ	○	1前・後 1前 1前・後 2前 1前・後	6 3 2 2 4	6 3 2 1 2	創価大学 学士課程教育機構 教授 （令2.4）						
69	その他	教授	ﾔﾏｻｷ ﾒｸﾞﾐ 山﨑　めぐみ ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Educational Policy and Administration （米国）		ダイバーシティ&インクルージョン入門※ 世界市民教育演習A 世界市民教育演習B 教育学入門 ボランティア実習Ⅰ ボランティア実習Ⅱ スマート・リーダーシップⅢ		1後 2前 2後 1前・後 1前・後 2前・後 2後	0.1 2 2 4 2 2 2	1 1 1 2 2 2 1	創価大学 学士課程教育機構 教授 （平22.4）						
70	その他	教授	ﾎｰﾈｽ ﾎﾟｰﾙ Horness Paul ＜令和8年4月＞		Ph.D in Education （米国）		English Ⅰ English Ⅱ 海外短期研修（英語）Ⅰ 海外短期研修（英語）Ⅱ 海外短期研修（英語）Ⅲ 海外短期研修（英語）Ⅳ 海外短期研修（英語）Ⅴ 海外短期研修（英語）Ⅵ		1前 1後 1休 1休 1休 1休 1休 1休	2 2 2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	創価大学 ワールドランゲージセンター 教授 （平30.4）						
71	その他	教授	ｳｨﾘｱﾑ ｽﾅｲﾀﾞｰ William Snyder ＜令和8年4月＞		PhD in Linguistics （米国）		English Ⅲ		1前	2	1	創価大学 ワールドランゲージセンター 教授 （令2.4）						
72	その他	教授	ﾘｯﾁﾓﾝﾄﾞ ｽﾄｩﾙｰﾌﾟ Richmond Stroupe ＜令和8年4月＞		PhD in Education, International Comparative Education （米国）		EAP for Global Citizenship Ⅰ EAP for Global Citizenship Ⅱ		1前 1後	2 2	1 1	創価大学 ワールドランゲージセンター 教授 （平13.4）						
73	その他	教授	ｻｶﾓﾄ ﾐｷｵ 坂本　幹雄 ＜令和8年4月＞		経済学修士 ※		共通基礎演習 ミクロ経済学入門 マクロ経済学入門		1前・後 1前 1後	4 2 2	2 1 1	創価大学 法学部 （通信教育課程） 教授 （平1.4）						
74	その他	教授	ﾘｭｳ ｹｲｾｲ 劉　継生 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		人間教育論A※ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 情報科学	○	1後 1前 1後 1後	0.1 2 2 2	1 1 1 1	創価大学 法学部 （通信教育課程） 教授 （平7.4）						
75	その他	教授	ｲｼｲ ｹﾝｼﾞ 石井　健司 ＜令和8年4月＞		修士 （経済学） ※		創価女性教育の理念と実践※		1前	0.3	1	創価女子短期大学 国際ビジネス学科 教授 （平7.4）						
76	その他	准教授	ｸﾒｶﾜ ﾉﾘｶｽﾞ 久米川　宣一 ＜令和8年4月＞		博士 （農学）		環境と開発※ 環境科学 基礎グリーンテクノロジー実習 環境管理システム実験 植物生理学概論	○ ○ 	1後 1後 1前 2前 2後	0.1 2 1 1 2	1 1 1 1 1	創価大学 理工学部 准教授 （平15.4）						
77	その他	准教授	ﾌｼﾞﾜﾗ ｶｽﾞｵ 藤原　和夫 ＜令和9年4月＞		博士 （工学）		Pythonプログラミング演習 データサイエンス演習		2前 2後	2 2	1 1	創価大学 理工学部 准教授 （平17.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
78	その他	准教授	ﾆｲﾂ ﾀｶｼ 新津　隆士 ＜令和8年4月＞		理学博士		基礎化学 化学実験 生物反応工学実験		1前 1後 3後	2 2 1	1 1 1	創価大学 理工学部 准教授 (平2.4)						
79	その他	准教授	ｳﾁﾔﾏ ﾄﾓﾋﾛ 内山　智博 ＜令和8年4月＞		Ph.D in Mathematics (ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ)		Pythonプログラミング演習 データサイエンス演習 Foundations of Data Science		2前 2前 1後	2 2 4	1 1 1	創価大学 国際教養学部 准教授 (平30.4)						
80	その他	准教授	ｲｼｲ ﾖｼｵ 石井　良夫 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		国際情報技術交流史		1後	2	1	創価大学 理工学部 准教授 (平5.2)						
81	その他	准教授	ｼｼﾄﾞ ﾋﾃﾞﾋｺ 宍戸　英彦 ＜令和9年4月＞		博士 (工学)		国際情報英書講読		2前	2	1	創価大学 理工学部 准教授 (令5.4)						
82	その他	准教授	ｳﾂﾐ ﾄﾓｺ 内海　友子 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Applied Economics (米国)		環境と開発※ キャリアビジョン演習D Development Economics International Fieldwork Ⅰ※ International Fieldwork Ⅱ	○	1後 3･4後 2前 2前 2休	0.3 2 4 0.7 2	1 1 1 1 1	創価大学 国際教養学部 准教授 (平31.4)						
83	その他	准教授	ﾆｼﾔﾏ(ｼｵﾉ) ﾐﾁｺ 西山(塩野) 道子 ＜令和10年4月＞		博士 (工学)		R&Dキャリアセミナー		3前	1	1	創価大学 理工学部 准教授 (平26.4)						
84	その他	准教授	ｺﾘﾝ ﾗﾝﾄﾞﾙ Colin Rundle ＜令和8年4月＞		M.A. in Japanese Studies (米国)		日本研究 Academic English for Science and Engineering		1後 3前	2 2	1 1	創価大学 ワールドランゲージセンター 教授 (平24.4)						
85	その他	准教授	ｵｶﾀﾞ ｲｻﾑ 岡田　勇 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)		現代文明論※		1前	1.2	1	創価大学 経営学部 准教授 (平13.4)						
86	その他	准教授	ｻﾄｶﾞﾐ ﾐﾎｺ 里上　三保子 ＜令和10年4月＞		博士 (経済学)		ライフイベントとジェンダー※	○	3･4前	0.4	1	創価大学 経営学部 准教授 (平31.4)						
87	その他	准教授	ｲｽﾞﾐﾀﾆ ﾐﾁｺ 泉谷　道子 ＜令和8年4月＞		博士 (心理学)		スマート・リーダーシップⅠ		1･2後	2	1	創価大学 経営学部 准教授 (令3.4)						
88	その他	准教授	ｶﾅｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 金澤　伸幸 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Economics (米国)		総合科目特講		1後	2	1	創価大学 経済学部 准教授 (平30.4)						
89	その他	准教授	ﾁｮｳﾅﾊﾞﾔｼ ｼｭﾝ 蝶名林　俊 ＜令和8年4月＞		Ph.D.in Natural Resources (米国)		GCPチュートリアルⅠ GCPチュートリアルⅢ 社会システム・ソリューションⅡ※		1前 2前 2前	1 1 1.1	1 1 1	創価大学 経済学部 准教授 (令4.4)						
90	その他	准教授	ﾅｶﾔﾏ ｹﾝｼﾞ 中山　賢司 ＜令和8年4月＞		博士 (学術) ※		平和と人権※	○	1前	0.5	1	創価大学 法学部 准教授 (平26.4)						
91	その他	准教授	ｳﾙｳﾞ ﾊﾝｾﾝ Ulv Hanssen ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Japanese Studies (ドイツ)		共通総合演習A		1前	2	1	創価大学 法学部 准教授 (平30.4)						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
92	その他	准教授	ｵｶﾓﾄ ｺｽﾞｴ 岡本　梢 ＜令和8年4月＞		博士 （法学）		ダイバーシティ＆インクルージョン入門※		1後	0.3	1	創価大学 法務研究科 准教授 （平30.4）						
93	その他	准教授	ｶﾐｵ ﾏｻﾉﾘ 神尾　将紀 ＜令和8年4月＞		修士 （法学） ※		日本国憲法		1後	2	1	創価大学 法務研究科 准教授 （令3.4）						
94	その他	准教授	ﾄｳ ﾎｳｼｮｳ 董　芳勝 ＜令和8年4月＞		学校教育 博士		人間教育論A※ 共通基礎演習 音楽	○	1後 1前 1後	1.5 2 4	1 1 2	創価大学 教育学部 准教授 （平17.4）						
95	その他	准教授	ﾁｮｳﾅﾊﾞﾔｼ ﾘｮｳ 蝶名林　亮 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Philosophy （英国）		現代文明論※		1前	1.2	1	創価大学 文学部 准教授 （平29.4）						
96	その他	准教授	ｲﾜｶﾜｺ ｳｼ ゛岩川　幸治 ＜令和8年4月＞		修士 （社会学）		ダイバーシティ＆インクルージョン入門※ ライフイベントとジェンダー※	 ○	1後 3･4前	0.1 0.5	1 1	創価大学 文学部 准教授 （平26.4）						
97	その他	准教授	ｸﾗﾊｼ ｺｳﾍｲ 倉橋　耕平 ＜令和8年4月＞		博士 （社会学）		ダイバーシティ＆インクルージョン入門※ ライフイベントとジェンダー※	 ○	1後 3･4前	0.3 0.5	1 1	創価大学 文学部 准教授 （令3.4）						
98	その他	准教授	ｸﾏﾀﾞ ﾐﾁｺ 熊田　岐子 ＜令和8年4月＞		博士 （教育学）		人間教育論B※	○	1前･後	1.1	2	創価大学 文学部 准教授 （令4.4）						
99	その他	准教授	ﾓﾘｼﾀ ﾋﾛｼ 森下　達 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		GCPチュートリアルⅠ GCPチュートリアルⅡ GCPチュートリアルⅢ GCPチュートリアルⅣ		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	創価大学 文学部 准教授 （平31.4）						
100	その他	准教授	ﾅｶﾎﾘ ﾏｻﾋﾛ 中堀　正洋 ＜令和8年4月＞		博士 （英文学）		ロシア語文法初級Ⅰ ロシア語文法初級Ⅱ		1前 1後	1 1	1 1	創価大学 文学部 准教授 （令4.4）						
101	その他	准教授	ﾘ ﾀﾝ 李　丹 ＜令和8年4月＞		博士 （人文学）		中国語コミュニケーション演習初級Ⅰ 中国語コミュニケーション演習初級Ⅱ 中国語コミュニケーション演習初中級Ⅰ 中国語コミュニケーション演習初中級Ⅱ		1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	創価大学 文学部 准教授 （令7.4）						
102	その他	准教授	ｺﾆｼ ｶｽﾞﾋﾛ 小西　一博 ＜令和10年4月＞		博士 （教育学）		キャリアビジョン演習D		3･4後	2	1	創価大学 教育学部 准教授 （令7.4）						
103	その他	准教授	ｺﾝﾄﾞｳ ｶｽﾞﾉﾘ 近藤　和典 ＜令和8年4月＞		理学博士		生命科学※		1後	0.9	1	創価大学 理工学部 准教授 （平3.4）						
104	その他	准教授	ｶｻﾏﾂ ﾀﾞｲｽｹ 笠松　大佑 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		社会システム・ソリューションⅠ		1後	2	1	創価大学 理工学部 准教授 （令2.4）						
105	その他	准教授	ｿｴﾀﾞ ﾕﾘｺ 添田　百合子 ＜令和9年4月＞		修士 （看護学）		世界市民教育演習A		2前	2	1	創価大学 看護学部 准教授 （平25.4）						
106	その他	准教授	ｽｽﾞｷ（ﾔﾏｸﾞﾁ）ﾐﾁﾖ 鈴木（山口）道代 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		アカデミックライティングⅠ アカデミックライティングⅡ 思考技術Ⅰ 思考技術Ⅱ	○	1前･後 1後 1前 1後	3 1 5 1	3 1 5 1	創価大学 学士課程教育機構 准教授 （平31.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
107	その他	准教授	ﾂﾁﾔ ｼﾝｿﾞｳ 土屋　信三 ＜令和8年4月＞		法学修士		共通総合演習A 共通総合演習B グローバル社会とキャリア演習 次世代産業とキャリア演習 グローバル社会と次世代産業 公共キャリア演習Ⅲ 公共キャリア演習Ⅳ		1前 1後 1前 1後 2前・後 3・4前 3・4後	2 2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 2 1 1	創価大学 学士課程教育機構 准教授 （令6.4）						
108	その他	准教授	ﾃﾗﾓﾄ ｳｲ 寺本　羽衣 ＜令和8年4月＞		博士 （政策･メディア）		地域研究A 地域研究B 留学のための国際理解 共通総合演習A 共通総合演習B	○ ○	1前・後 1前 1前・後 1前 1後	4 2 4 2 2	2 1 2 1 1	創価大学 学士課程教育機構 准教授 （令6.4）						
109	その他	准教授	ｶｸﾊﾞﾘ（ｴｶﾞﾐ）ｼﾙﾋﾞｱ 覚張（惠上）シルビア ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		ロシア語Ⅰ ロシア語Ⅱ ロシア語リーディング入門Ⅰ ロシア語リーディング入門Ⅱ ロシア語集中演習Ⅰ ロシア語集中演習Ⅱ		1前 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	創価大学 ワールドランゲージセンター 准教授 （令5.4）						
110	その他	准教授	ｶﾝｻﾞｶ ｲｽﾞﾐ 勘坂　泉 ＜令和8年4月＞		M.Ed in TESOL （米国） ※		English Ⅰ English Ⅱ Academic Foundations for Global Citizenship Ⅰ Academic Foundations for Global Citizenship Ⅱ		1前 1後 1前 1後	2 2 4 4	1 1 2 2	創価大学 ワールドランゲージセンター 准教授 （平16.4）						
111	その他	准教授	ﾕｰｹﾘｱ ﾄﾞﾈﾘ Eucharia Donnery ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Drama and Theatre Studies （英国）		English Ⅰ English Ⅱ EAP for Global Citizenship Ⅰ EAP for Global Citizenship Ⅱ		1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	創価大学 ワールドランゲージセンター 准教授 （令3.4）						
112	その他	准教授	ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ ﾄｳｨｰﾄﾞ Andrew Tweed ＜令和8年4月＞		Doctor of Education in TESOL （米国）		English Ⅰ English Ⅱ English Ⅲ English Ⅳ		1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 2 2	創価大学 ワールドランゲージセンター 准教授 （令2.4）						
113	その他	准教授	ﾏﾙﾁｪﾗ ﾓﾙｶﾞﾝﾃｨ Marcella Morganti ＜令和8年4月＞		Master DITALS (Didattica dell'Italiano come Lingua Straniera) （ｲﾀﾘｱ）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ イタリア語Ⅰ イタリア語Ⅱ イタリア語Ⅲ イタリア語Ⅳ イタリア語Ⅴ イタリア語Ⅵ		1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後	4 4 2 2 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1	創価大学 ワールドランゲージセンター 准教授 （平28.4）						
114	その他	准教授	ｶﾉｳ ﾅｵﾕｷ 加納　直幸 ＜令和8年4月＞		経済学修士 ※		地域研究B ミクロ経済学入門 マクロ経済学入門	○	1前・後 1前 1後	4 2 2	2 1 1	創価大学 経済学部 （通信教育課程） 准教授 （昭62.4）						
115	その他	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾂﾖｼ 清水　強志 ＜令和8年4月＞		博士 （社会学）		現代文明論※ 統計学入門Ⅰ 統計学入門Ⅱ 社会学入門		1前 1前・後 1後 1前	1.2 4 2 2	1 2 1 1	創価大学 文学部 （通信教育課程） 准教授 （平23.4）						
116	その他	准教授	ｶｲﾇﾏ ﾀﾀﾞｼ 開沼　正 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		歴史入門※		1前・後	4	6	創価大学 法学部 （通信教育課程） 准教授 （平1.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
117	その他	准教授	ｲｼｶﾜ ﾕｷｺ 石川　由紀子 ＜令和8年4月＞		Ed.D in TESOL（米国）		創価女性教育の理念と実践※		1前	0.7	1	創価女子短期大学 国際ビジネス学科 准教授 （平19.4）						
118	その他	准教授	ｶﾜｼﾏ ﾋﾃﾞｱｷ 川島　秀明 ＜令和8年4月＞		博士（経済学）		創価女性教育の理念と実践※		1前	0.3	1	創価女子短期大学 国際ビジネス学科 准教授 （平22.4）						
119	その他	准教授	ｸﾗﾐﾂ ﾏｻﾐ 倉光　雅己 ＜令和8年4月＞		修士（文学） ※		日本語聴解Ⅱ 日本語聴解ⅢA 日本語聴解ⅢB 日本語聴解ⅣA 日本語聴解ⅣB 日本語聴解ⅤA 日本語聴解ⅤB 日本伝統文化		1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前 1後 1前・後	2 2 2 2 2 1 1 4	2 2 2 2 2 1 1 2	創価大学 日本語・日本文化教育センター 准教授 （平6.4）						
120	その他	准教授	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼﾀｶ 日高　吉隆 ＜令和8年4月＞		修士（学術）		日本語Ⅰ※ 日本語Ⅱ※ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ 日本語読解ⅣA		1前 1後 1前 1後 1前・後	2 2 1 1 2	1 1 1 1 2	創価大学 日本語・日本文化教育センター 准教授 （平7.4）						
121	その他	講師	ﾁｬﾝ ﾘｰ ｼﾝ 章　舜源 ＜令和9年4月＞		博士（メディア学）		Qualitative Research Method※ International Fieldwork Ⅰ※ International Fieldwork Ⅱ		2後 2前 2休	2 0.7 2	1 1 1	創価大学 国際教養学部 講師 （令3.4）						
122	その他	講師	ｳｴﾀﾞ ﾋﾛｶｽﾞ 上田　宏和 ＜令和8年4月＞		博士（法学）		日本国憲法		1後	2	1	創価大学 法学部 講師 （令4.4）						
123	その他	講師	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞﾋﾛ 山本　和弘 ＜令和8年4月＞		修士（法学）		法学入門 日本国憲法		1後 1前	2 2	1 1	創価大学 法学部 講師 （令7.4）						
124	その他	講師	ﾏ ｷﾞｮｸｼｮｳ 馬　玉晶 ＜令和8年4月＞		博士（英文学）		共通総合演習A 共通総合演習B		1前 1後	2 2	1 1	創価大学 文学部 講師 （令3.4）						
125	その他	講師	ﾌｼﾞｸﾗ ﾋﾄﾐ 藤倉　ひとみ ＜令和8年4月＞		博士（国際文化）		ダイバーシティ&インクルージョン入門※		1後	0.1	1	創価大学 文学部 講師 （令5.4）						
126	その他	講師	ﾎｼﾉ ﾚｲｺ 星野　麗子 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		中国語講読初中級Ⅰ 中国語講読初中級Ⅱ		2前 2後	1 1	1 1	創価大学 文学部 講師 （令7.4）						
127	その他	講師	ﾊﾀﾉ ﾀｴｺ 波多野　多恵子 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		留学生のためのキャリアコミュニケーションA 留学生のためのキャリアコミュニケーションB キャリアビジョン演習A 留学生のためのキャリアコミュニケーションC 留学生のためのキャリアコミュニケーションD		1前 1後 2後 3・4前 3・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	創価大学 文学部 講師 （令7.4）						
128	その他	講師	ｼﾏﾀﾞ ｹﾝﾀﾛｳ 島田　健太郎 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		GCPチュートリアルⅠ GCPチュートリアルⅡ GCPチュートリアルⅢ GCPチュートリアルⅣ		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	創価大学 教育学部 講師 （令4.4）						
129	その他	講師	ﾏﾙｺﾑ ﾀﾞｶﾃｨｰ Malcolm Daugherty ＜令和8年4月＞		Master of Arts in Second and Foreign Language Education（米国）		環境問題入門 環境科学	○	1後 1前	2 2	1 1	創価大学 国際教養学部 講師 （平14.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
130	その他	講師	ｵｼﾀﾞ ﾕｳﾐ 忍田　祐美 ＜令和8年4月＞		修士 (看護学)		生命科学※		1前・後	0.3	2	創価大学 看護学部 講師 (平25.4)						
131	その他	講師	ｼﾞｪｲﾐｰ ﾊﾟｰﾄﾞﾝ Jamie Purdon ＜令和8年4月＞		MSc in TESOL (英国)		English Communication for Science Ⅰ English Communication for ScienceⅡ		1前 1後	2 2	1 1	創価大学 ワールドランゲージセンター 講師 (令3.4)						
132	その他	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾃﾂｺ 渡辺　哲子 ＜令和8年4月＞		博士 (教育学) (英国)		English Ⅰ English Ⅱ English Ⅲ English Ⅳ ライフイベントとジェンダー※	 ○	1前 1後 1前 1後 3・4前	2 2 1 1 0.4	1 1 1 1 1	創価大学 ワールドランゲージセンター 講師 (令4.4)						
133	その他	講師	ﾌｫﾚｽﾄ ﾈﾙｿﾝ Forrest Nelson ＜令和8年4月＞		MATL Master of Arts in the Teaching of Language (Emphasis English) (米国)		English Ⅰ English Ⅱ English Ⅲ English Ⅳ		1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 2 2	創価大学 ワールドランゲージセンター 講師 (令2.4)						
134	その他	講師	ﾄﾐﾀ ｺｳｷ 冨田　浩起 ＜令和8年4月＞		修士 (教育学)		English Ⅰ English Ⅱ English Ⅲ English Ⅳ TOEFL iBT Summer Intensive TOEFL iBT Winter Intensive English Communication for Science Ⅰ English Communication for ScienceⅡ		1前 1後 1前 1後 1休 1休 1前 1後	2 2 2 2 1 1 4 4	1 1 2 2 1 1 2 2	創価大学 ワールドランゲージセンター 講師 (平31.4)						
135	その他	講師	ｸﾛﾏﾂ ﾏﾘ 黒松　まり ＜令和8年4月＞		Master of Arts in TESOL (米国)		English Ⅰ English Ⅱ English Ⅲ English Ⅳ		1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 2 2	創価大学 ワールドランゲージセンター 講師 (令4.4)						
136	その他	講師	ｻﾞｯｶﾘｰ ｹﾘｰ Zachary Kelly ＜令和8年4月＞		Master of Arts in TESOL (米国)		English Ⅰ English Ⅱ English Ⅲ English Ⅳ IELTS Summer Intensive IELTS Winter Intensive EAP for Global CitizenshipⅢ EAP for Global CitizenshipⅣ		1前 1後 1前 1後 1休 1休 2前 2後	4 4 2 2 1 1 4 4	2 2 2 2 1 1 2 2	創価大学 ワールドランゲージセンター 講師 (令5.4)						
137	その他	講師	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ﾌﾞｼｭﾅｰ Bryan Buschner ＜令和8年4月＞		PhD. Applied Linguistics and Asian Studies (米国)		English Ⅲ English Ⅳ Engish for Study Abroad Ⅰ Engish for Study Abroad Ⅱ EAP for Global CitizenshipⅢ EAP for Global CitizenshipⅣ English for International Technical Cooperation Ⅰ English for International Technical CooperationⅡ		1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 2 2 4 4 1 1	1 1 1 1 2 2 1 1	創価大学 ワールドランゲージセンター 講師 (令5.4)						
138	その他	講師	ﾀﾞﾝ(ﾌｶﾜ)ﾃﾂｺ ダン(府川)哲子 ＜令和8年4月＞		Master of Arts in TESOL (米国)		English Ⅲ TOEFL Preparation for Study Abroad Ⅰ TOEFL Preparation for Study Abroad Ⅱ Academic Foundations for Global CitizenshipⅢ Academic Foundations for Global CitizenshipⅣ English Summer intensive English Winter intensive		1前 1前 1後 2前 2後 1休 1休	2 2 2 4 4 2 2	2 1 1 2 2 1 1	創価大学 ワールドランゲージセンター 講師 (令4.4)						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
139	その他	講師	ﾀﾀｶ ｼﾝｲﾁ 田高 信一 ＜令和8年4月＞		Master of Arts in Linguistics（米国）		English Ⅰ English Ⅱ English Ⅲ English Ⅳ		1前 1後 1前 1後	2 2 4 4	1 1 4 4	創価大学 ワールドランゲージセンター 講師 （令7.4）						
140	その他	講師	ﾊｯﾄﾘ ﾐﾅﾐ 服部 南見 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Psychology（米国）		データサイエンス入門	○	1前・後	14	7	創価大学 学士課程教育機構 講師 （令3.4）						
141	その他	講師	ﾊｶﾞ(ﾅｶﾑﾗ)ﾌﾐｺ 羽賀（中村）文湖 ＜令和8年4月＞		修士（社会デザイン学）		キャリアデザイン基礎 キャリア開発フォーラム ワールドビジネスフォーラム インターンシップ入門 キャリアビジョン演習B キャリアトランジション演習 プログラムゼミⅠ※		1・2後 1・2前 1・2前 1後 3・4前 4後 1前	22 2 2 2 6 2 0.8	11 1 1 1 3 1 1	創価大学 学士課程教育機構 講師 （平31.4）						
142	その他	講師	ｷﾊﾗ ﾋﾛｺ 木原 宏子 ＜令和8年4月＞		修士（人文学）		アカデミックライティングⅠ アカデミックライティングⅡ アカデミックライティングⅢ 思考技術Ⅰ 思考技術Ⅱ	○	1前・後 1前・後 1後 1前 1後	8 2 4 9 2	8 2 2 9 2	創価大学 学士課程教育機構 講師 （令7.4）						
143	その他	講師	ｻｶｸﾞﾁ ﾀｶﾋﾛ 坂口 貴弘 ＜令和8年4月＞		博士（アーカイブス学）		創価教育論※ 人間教育論A 共通基礎演習 大学史の中の創価大学	○ ○	1前・後 1前・後 1前・後 1後	1.3 6 4 2	2 3 2 1	創価大学 創価教育研究所 講師 （平28.4）						
144	その他	講師	ｸｷﾀ ｽﾃﾌｧﾆｰ 久木田 ステファニー ＜令和8年4月＞		PhD in Curriculum, Pedagogy, and Assessment（英国）		創価教育論※ 共通基礎演習	○	1前・後 1前・後	2.1 4	2 2	創価大学 創価教育研究所 講師 （令3.4）						
145	その他	講師	ｺｳ ｸﾆﾐﾂ 黄 國光 ＜令和8年4月＞		博士（工学）		情報科学		1前	2	1	創価大学 法学部 （通信教育課程） 講師 （平5.4）						
146	その他	講師	ｱｻｲ ｶｽﾞﾐ 浅井 和美 ＜令和8年4月＞		博士（理学）		地球科学概論※ 地球科学実験※	○ ○	1後 3後	0.5 0.3	1 1	創価大学 非常勤講師 （平28.4）						
147	その他	講師	ﾋｮｳﾄﾞｳ ﾏｻｼ 兵頭 昌 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		基礎統計学		2前	2	1	神奈川大学 経済学部 教授 （令2.4）						
148	その他	講師	ﾊｾｶﾞﾜ ｵｻﾑ 長谷川 理 ＜令和8年4月＞		博士（理工学）		大学生のための情報・デジタルリテラシー プログラミング 基礎統計学		1前 1後 2前	4 4 2	2 2 1	武蔵野大学 データサイエンス学部 講師 （平30.4）						
149	その他	講師	ｷﾀﾉ ﾅｵﾋﾛ 北野 尚宏 ＜令和9年4月＞		Ph.D（都市地域計画）（米国）		国際技術協力論		2前	2	1	早稲田大学 理工学術院 教授 （平30.4）						
150	その他	講師	ｷｸﾁ ﾔｽﾉﾘ 菊池 康紀 ＜令和10年4月＞		博士（工学）		ライフサイクルアセスメント ライフサイクルアセスメント演習		3前 3前	1 1	1 1	東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 （平21.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
151	その他	講師	ﾀｹﾓﾄ ﾕｳｺ 竹本　祐子 ＜令和10年4月＞		修士 （工学）		知的財産法概論		3前	2	1	弁理士法人前川知的財産事務所 （令5.6）						
152	その他	講師	ﾎﾟｰﾙ ﾛﾘﾂｪﾝ Paul Lauritsen ＜令和8年4月＞		Master in Education Studies TESOL （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		English Communication for Science Ⅰ English Communication for ScienceⅡ		1前 1後	4 4	2 2	創価大学 非常勤講師 （令6.4）						
153	その他	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｴｲｼﾞ 山本　栄二 ＜令和8年4月＞		MA in East Asian Studies （米国）		地域研究A 共通総合演習A 共通総合演習B	○	1前・後 1前 1後	4 2 2	2 1 1	創価大学 客員教授 （令4.4）						
154	その他	教授	ﾎﾘｴ ﾘｮｳｲﾁ 堀江　良一 ＜令和8年4月＞		Master(Economics) （英国）		地域研究B 国際関係論入門	○	1前・後 1前・後	4 4	2 2	創価大学 客員教授 （令4.4）						
155	その他	教授	ﾀﾅｶ ﾌｸｲﾁﾛｳ 田中　福一郎 ＜令和8年4月＞		法学修士 （英国）		世界市民教育演習A 世界市民教育演習B 政治学入門		2前 2後 1前・後	2 2 4	1 1 2	創価大学 客員教授 （令3.4）						
156	その他	講師	ｲﾜｷ ﾕｳｻｸ 岩木　勇作 ＜令和8年4月＞		博士 （教育学）		創価教育論※	○	1前・後	0.3	2	創価大学 非常勤講師 （令3.4）						
157	その他	講師	ﾔｷﾞﾇﾏ ﾏｻﾋﾛ 柳沼　正広 ＜令和8年4月＞		博士 （人文学）		人間教育論B※	○	1前・後	1.1	2	創価大学 非常勤講師 （平25.4）						
158	その他	講師	ﾔﾏｻﾞｷ ﾀﾂﾔ 山崎 達也 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		人間教育論B※ 哲学入門 宗教学入門	○	1前・後 1前・後 1後	1.3 4 2	2 2 1	東洋哲学研究所 研究員 （平2.4）						
159	その他	講師	ﾑﾗｶﾐﾏ ｻﾋｺ 村上 政彦 ＜令和8年4月＞		高等学校卒 （大学中退）		人間教育論B※ 共通総合演習A 共通総合演習B	○	1前・後 1前 1後	0.5 4 4	2 2 2	創価大学 非常勤講師 （平25.4）						
160	その他	講師	ﾆﾉﾐﾔ (ﾄﾐﾅｶﾞ) ﾕﾐ 二宮（冨永）由美 ＜令和8年4月＞		Ph.D.in Philosophy （ﾌﾞﾙｶﾞﾘｱ）		共通基礎演習 ブルガリア語Ⅰ ブルガリア語Ⅱ ブルガリア語Ⅲ ブルガリア語Ⅳ		1前・後 1前 1後 1前 1後	4 1 1 1 1	2 1 1 1 1	東洋哲学研究所 主任研究員 （平14.4）						
161	その他	講師	ｵﾋﾞｴﾄﾞ ｱﾛﾝｿ Oviedo Alonso ＜令和8年4月＞		Master's in Applied Linguistics （ｽﾍﾟｲﾝ）		English Ⅰ English Ⅱ English Communication for ScienceⅡ		1前 1後 1後	4 4 2	2 2 1	創価大学 非常勤講師 （平30.4）						
162	その他	講師	ｵｸﾜｷ (ﾓﾄｲ) ｴｲｺ 奥脇（元井）栄子 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		English Ⅰ English Ⅱ English Communication for Science Ⅰ English Communication for ScienceⅡ		1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 （平22.4）						
163	その他	講師	ﾌｶｵ ｶﾂﾄｼ 深尾　勝利 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		English Ⅰ English Ⅱ Test Preparation TOEIC Ⅰ Test Preparation TOEIC Ⅱ		1前 1後 1後 1後	6 6 1 1	3 3 1 1	創価大学 非常勤講師 （平6.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
164	その他	講師	ｵｵｼﾛ ｴﾘｶ 大城　恵理華 ＜令和8年4月＞		修士 （文学） ※		English Ⅰ English Ⅱ English Ⅲ English Ⅳ Test Preparation TOEIC Ⅰ Test Preparation TOEIC Ⅱ English Communication for Science Ⅰ English Communication for ScienceⅡ		1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後	2 2 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 （平26.4）						
165	その他	講師	ﾐﾔｻﾞｷ ｻﾔｶ 宮崎　さやか ＜令和8年4月＞		修士 （英文学） ※		English Ⅰ English Ⅱ English Ⅲ English Ⅳ		1前 1後 1前 1後	4 4 2 1	2 2 2 1	創価大学 非常勤講師 （平24.4）						
166	その他	講師	ｳｪﾈｯｻ ｳｫﾚｽ Venessa Wallace ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		English Ⅰ English Ⅱ Test Preparation TOEFL Ⅰ Test Preparation TOEFL Ⅱ		1前 1後 1前 1後	4 4 1 1	2 2 1 1	創価大学 非常勤講師 （令4.9）						
167	その他	講師	ﾀｶﾀﾏ ﾐﾖｺ 高玉　美葉子 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		English Ⅲ English Ⅳ		1前 1後	1 1	1 1	創価大学 非常勤講師 （平29.4）						
168	その他	講師	ｼﾞｪﾌﾘｰ ﾋﾟｱｰｽ Geoffrey Pierce ＜令和8年4月＞		M.Ed. (Master of Education) （カナダ）		English Ⅳ Test Preparation TOEFL Ⅰ Test Preparation TOEFL Ⅱ		1後 1前 1後	1 1 1	1 1 1	創価大学 非常勤講師 （平21.4）						
169	その他	講師	ｶﾝﾀﾞ ﾚｲｺ 神田　玲子 ＜令和8年4月＞		修士 （英語学） ※		Test Preparation TOEIC Ⅰ Test Preparation TOEIC Ⅱ		1前 1後	3 3	3 3	創価大学 非常勤講師 （平1.4）						
170	その他	講師	ｲｹﾀﾞ ｶｽﾞｺ 池田　和子 ＜令和8年4月＞		Master of Education in TESOL （米国）		Test Preparation TOEIC Ⅰ Test Preparation TOEIC Ⅱ English Communication for Science Ⅰ English Communication for ScienceⅡ		1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	2 2 1 1	創価大学 非常勤講師 （平18.4）						
171	その他	講師	ｽｽﾞｷ ﾉﾘｺ 鈴木　法子 ＜令和8年4月＞		修士 （英文学） ※		Test Preparation TOEIC Ⅰ Test Preparation TOEIC Ⅱ		1前 1後	4 4	4 4	創価大学 非常勤講師 （平21.9）						
172	その他	講師	ｽｽﾞｷ ﾐﾂﾊﾙ 鈴木　光晴 ＜令和8年4月＞		修士 （文学） ※		Test Preparation TOEIC Ⅰ Test Preparation TOEIC Ⅱ		1前 1後	4 3	4 3	創価大学 非常勤講師 （平19.4）						
173	その他	講師	ﾔﾏﾈ ﾏｻﾋﾛ 山根　正弘 ＜令和8年4月＞		文学修士		Test Preparation TOEIC Ⅰ Test Preparation TOEIC Ⅱ		1前 1後	3 3	3 3	創価大学 非常勤講師 （平3.4）						
174	その他	講師	ｱﾚｸｻﾝﾀﾞｰ ﾁｬｰﾝｻｲﾄﾞ Alexander Chirnside ＜令和8年4月＞		Master Education （英国）		Test Preparation TOEIC Ⅰ		1前	1	1	創価大学 非常勤講師 （平14.4）						
175	その他	講師	ﾖｺﾔﾏ ﾕｶ 横山　ゆか ＜令和8年4月＞		修士 （文学） ※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅴ ドイツ語Ⅵ		1前 1後 1前 1後	4 4 1 1	2 2 1 1	創価大学 非常勤講師 （令2.4）						
176	その他	講師	ｱﾝﾄﾞﾚｱ ﾐﾔﾓﾄ Andrea Miyamoto ＜令和8年4月＞		MA （ドイツ）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ		1前 1後	4 4	2 2	創価大学 非常勤講師 （平27.4）						
177	その他	講師	ﾓﾘ ﾑﾈﾀｹ 森　斉丈 ＜令和8年4月＞		修士 （人文学）		ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ 地域研究B	○	1前 1後 1前・後	1 1 4	1 1 2	創価大学 非常勤講師 （平26.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
178	その他	講師	ｸﾆﾀ ｱﾐ 國田　安美 ＜令和8年4月＞		修士 (国際協力学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ 言語演習Ⅰ 言語演習Ⅱ		1前 1後 1前 1後 1前 1後	4 4 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 (令2.4)						
179	その他	講師	ﾌｼﾞｲ ｶｵﾘ 藤井　香 ＜令和8年4月＞		Diolome Section dessin (ﾌﾗﾝｽ)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅴ フランス語Ⅵ		1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 (平22.4)						
180	その他	講師	ｷｭｳ (ｶﾗｼﾏ)ｳﾝｾｲ 裘(辛嶋)雲青 ＜令和8年4月＞		学士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 共通総合演習A 共通総合演習B		1前 1後 1前 1後 1前 1後	4 4 1 1 2 2	2 2 1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 (平10.4)						
181	その他	講師	ﾁｮｳ ｼﾞｮﾒｲ 張　恕茗 ＜令和8年4月＞		学士 (理学) (中国)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前 1後	4 4	2 2	創価大学 非常勤講師 (平18.4)						
182	その他	講師	ﾓｳ ｾｯﾁｮｳ 蒙　雪超 ＜令和8年4月＞		博士 (経済学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前 1後	6 6	3 3	創価大学 非常勤講師 (令4.4)						
183	その他	講師	ｺﾞ ｴｲｲ 呉　英偉 ＜令和8年4月＞		教育学修士		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 翻訳演習(日中)		1前 1後 3後	6 6 2	3 3 1	創価大学 非常勤講師 (平23.4)						
184	その他	講師	ｵｵｶﾞﾐ ﾀﾀﾞﾕｷ 大上　忠幸 ＜令和8年4月＞		博士 (教育学)		中国語講読初級Ⅰ 中国語講読初級Ⅱ		1前 1後	1 1	1 1	創価大学 非常勤講師 (平成20.4)						
185	その他	講師	ｻｶﾀ ﾖｼｺ 坂田　美湖 ＜令和8年4月＞		漢語 国際教育 修士 (中国)		中国語文法初級Ⅰ 中国語文法初級Ⅱ 中国語文法初中級Ⅰ 中国語文法初中級Ⅱ		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	一般財団法人 日本品質保証機構 (令6.4)						
186	その他	講師	ｵｵｴ ﾍｲﾜ 大江　平和 ＜令和10年4月＞		博士 (人文科学)		翻訳演習(中日)		3前	2	1	順天堂大学 国際教養学部 教育講師 (令2.4)						
187	その他	講師	ﾏﾘｱ ﾒﾋｱ Maria　Mejia ＜令和8年4月＞		Master inSpanish (米国)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ スペイン語Ⅴ スペイン語Ⅵ		1前 1後 1前 1後 1前 1後	4 4 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 (平28.4)						
188	その他	講師	ﾗﾓﾝ ｿﾘｽ Ramon Solis ＜令和8年4月＞		Master's degree in applied Linguistics (スペイン)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ		1前 1後	6 6	3 3	創価大学 非常勤講師 (令4.4)						
189	その他	講師	ｶｻﾐ ﾅｵｺ 賀佐見　直子 ＜令和8年4月＞		MA in Latin American Studies (米国)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ		1前 1後	6 6	3 3	創価大学 非常勤講師 (令6.4)						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
190	その他	講師	ｳﾞｪﾛﾆｶ ﾏﾂｳﾗ ｼﾞﾛｰﾈ Veronica MATSUURA GIRONE ＜令和8年4月＞		Master Universitario in didattica e promozione e della lingua e della cultura italiane a stranieri (イタリア)		イタリア語Ⅰ イタリア語Ⅱ		1前 1後	4 4	2 2	創価大学 非常勤講師 （平11.10）						
191	その他	講師	ﾏﾁﾀﾞ ｺﾕｷ 町田　小雪 ＜令和8年4月＞		文学修士 （韓国） ※		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 日本語口頭表現入門 日本語口頭表現Ⅰ		1前 1後 1前 1後	6 6 1 1	3 3 1 1	創価大学 非常勤講師 （平22.4）						
192	その他	講師	ﾍﾟｸ ｳﾝｼﾞｮﾝ 白　恩正 ＜令和8年4月＞		博士 （社会学）		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ		1前 1後	6 6	3 3	創価大学 非常勤講師 （平18.4）						
193	その他	講師	ｿ ﾐｮﾝｵｸ 徐　明玉 ＜令和8年4月＞		博士 （経済学）		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅴ 韓国語Ⅵ		1前 1後 1前 1後	6 6 1 1	3 3 1 1	創価大学 非常勤講師 （平27.4）						
194	その他	講師	ﾏﾂｼﾀ ﾄﾓﾐ 松下　知美 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ		1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 （平11.4）						
195	その他	講師	ｲ ﾌｧｼﾞｮﾝ 李　和貞 ＜令和8年4月＞		修士 （社会科学） ※		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 心理学入門		1前 1後 1前・後	2 2 8	1 1 4	東日本国際大学 経済経営学部 教授 （令4.4）						
196	その他	講師	ｸｻｶ（ｵｵﾔﾏ）ﾁｽﾞﾙ 草加（大山）千鶴 ＜令和8年4月＞		修士 （社会学） ※		ロシア語Ⅰ ロシア語Ⅱ		1前 1後	4 4	2 2	創価大学 非常勤講師 （令2.4）						
197	その他	講師	ﾗﾃｨｼｪﾜ ｽﾍﾞﾄﾗｰﾅ Latysheva Svetlana ＜令和8年4月＞		Master in History and Japanese language （ロシア） ※		ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ ロシア語ライティング上級Ⅰ ロシア語ライティング上級Ⅱ		1前 1後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	上智大学 外国語学部 准教授 （平20.4）						
198	その他	講師	ﾘﾌﾟｽｶﾔ　ﾀﾞﾘﾔ Lipskaia Daria ＜令和8年4月＞		Master of Arts （ロシア）		ロシア語Ⅴ ロシア語Ⅵ ロシア語コミュニケーション中級Ⅰ ロシア語コミュニケーション中級Ⅱ ロシア語コミュニケーション上級Ⅰ ロシア語コミュニケーション上級Ⅱ		1前 1後 2前 2後 3前 3後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	株式会社 築地ｸﾞﾙﾒｸﾗﾌﾞ （令6.4）						
199	その他	講師	ｶｶﾞﾜ ﾏｻｺ 香川　正子 ＜令和8年4月＞		Mestrado em História （ブラジル）		ポルトガル語Ⅰ ポルトガル語Ⅱ ポルトガル語Ⅲ ポルトガル語Ⅳ		1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 （平6.4）						
200	その他	講師	ｲｼﾊﾗ ﾀﾀﾞﾖｼ 石原　忠佳 ＜令和8年4月＞		M.Ph.in Linguistics （スペイン）		アラビア語Ⅰ アラビア語Ⅱ アラビア語Ⅲ アラビア語Ⅳ		1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 （令5.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
201	その他	講師	ｱﾀﾞﾁ ﾌﾐｺ 足立　史子 ＜令和8年4月＞		M.A. in Kiswahili（ﾀﾝｻﾞﾆｱ）		スワヒリ語Ⅰ スワヒリ語Ⅱ スワヒリ語Ⅲ スワヒリ語Ⅳ		1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 （令5.4）						
202	その他	講師	ｽﾄﾞｳ ｳｨﾁｬｲ 須藤 ウィチャイ ＜令和8年4月＞		修士（社会学）		タイ語Ⅰ タイ語Ⅱ タイ語Ⅲ タイ語Ⅳ		1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 （平18.4）						
203	その他	講師	ｲﾜｷ ﾋﾃﾞｷ 岩木　秀樹 ＜令和8年4月＞		博士（社会学）		トルコ語Ⅰ トルコ語Ⅱ トルコ語Ⅲ トルコ語Ⅳ 平和学入門 地域研究A 共通総合演習A 共通総合演習B	○ ○	1前 1後 1前 1後 1前・後 1前・後 1前 1後	1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 2 2 1 1	創価大学 非常勤講師 （平12.4）						
204	その他	講師	ﾌｶｵ ﾔｽｵ 深尾　康夫 ＜令和8年4月＞		修士（経済学）		インドネシア語Ⅰ インドネシア語Ⅱ インドネシア語Ⅲ インドネシア語Ⅳ		1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 （平30.4）						
205	その他	講師	ﾀﾅｶ ｱｷ 田中　あき ＜令和8年4月＞		博士（学術）		ベトナム語Ⅰ ベトナム語Ⅱ ベトナム語Ⅲ ベトナム語Ⅳ		1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	東京大学 附属図書館 特任研究員 （令6.4）						
206	その他	講師	ｸﾔﾏ ｺｳｲﾁ 久山　宏一 ＜令和8年4月＞		doktor nauk humanistyc znych（ポーランド）		言語演習Ⅰ 言語演習Ⅱ 言語演習Ⅲ 言語演習Ⅳ		1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 （平8.4）						
207	その他	講師	ﾊﾞｼｰﾙ ﾓﾊﾊﾞｯﾄ Bashir Mohabbat ＜令和8年4月＞		博士（国際法学）		地域研究A	○	1前・後	4	2	創価大学 非常勤講師 （平6.4）						
208	その他	講師	ﾑｹｰｼｭ ｳｨﾘｱﾑｽ Mukesh Williams ＜令和8年4月＞		Ph. D. in English Literature（インド）		地域研究A	○	1前・後	4	2	創価大学 非常勤講師 （令2.4）						
209	その他	講師	ｽｷﾞﾔﾏ ﾕｷｵ 杉山　由紀男 ＜令和8年4月＞		修士（文学） ※		八王子学		1前	2	1	創価大学 非常勤講師 （令7.4）						
210	その他	講師	ｵﾘﾓﾄ ｱﾔｺ 折本　綾子 ＜令和8年4月＞		修士（経営学）		データサイエンス入門	○	1前・後	8	4	秀明大学 非常勤講師 （平18.4）						
211	その他	講師	ｺﾓﾘ ｺｳｿﾞｳ 小森　弘三 ＜令和8年4月＞		理学士		基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ		1前・後 1前・後	4 8	2 4	創価大学 非常勤講師 （令4.4）						
212	その他	講師	ｽｽﾞｷ ｶｽﾞﾋｺ 鈴木　和彦 ＜令和8年4月＞		教育学士		基礎数学Ⅰ		1前・後	8	4	創価大学 非常勤講師 （令6.4）						
213	その他	講師	ｵｵﾂｶ ﾕｷｵ 大塚　由紀夫 ＜令和8年4月＞		学士（音楽）		音楽		1前・後	8	4	創価大学 非常勤講師 （平10.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
214	その他	講師	ｲｲｼﾞﾏ ﾕﾅ 飯島　祐奈 ＜令和8年4月＞		修士 （美術）		美術		1前・後	4	2	創価大学 非常勤講師 （令7.4）						
215	その他	講師	ｱﾍﾞ ｼｮｳｷﾁ 阿部　昇吉 ＜令和8年4月＞		文学修士		文学入門		1前	2	1	創価大学 非常勤講師 （平4.4）						
216	その他	講師	ｶｽｶﾞ ｼﾞｭﾝｲﾁ 春日　潤一 ＜令和8年4月＞		Ph.D. （英国）		哲学入門 倫理学入門		1前 1後	2 2	1 1	LEC東京リーガルマインド大学院大学 教授 （平23.4）						
217	その他	講師	ｿﾞﾙﾀﾝ ｲｼｭﾄｳｧﾝ ｻﾞﾙﾀﾞｲ Zoltan Istvan Zardai ＜令和8年4月＞		PhD in Philosophy （英国）		哲学入門		1後	2	1	順天堂大学 国際教養学部 講師 （令5.4）						
218	その他	講師	ﾀｲﾗ ｽﾅｵ 平良　直 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		宗教学入門		1前・後	8	4	創価大学 非常勤講師 （平23.4）						
219	その他	講師	ｵｸﾞﾗ ﾕｳｼﾞ 小倉　裕児 ＜令和8年4月＞		社会学修士※		歴史入門※		1前・後	4	6	創価大学 非常勤講師 （平30.4）						
220	その他	講師	ｶｼﾞｶﾜ ﾀｶｺ 梶川　貴子 ＜令和8年4月＞		博士 （人文学）		歴史入門※ 宗教学入門		1前・後 1前・後	4 4	6 2	株式会社 潮出版社 副主任 （平13.4）						
221	その他	講師	ﾀｶﾊｼ ﾏﾓﾙ 高橋　衛 ＜令和8年4月＞		博士 （経営管理学）		経営学入門		1前	4	2	常葉大学 経営学部 教授 （平25.4）						
222	その他	講師	ｵｵｸﾞﾛ ﾏｻﾉﾌﾞ 大黒　正伸 ＜令和8年4月＞		修士 （社会学）		社会学入門		1前・後	4	2	新東産業株式会社 （令4.4）						
223	その他	講師	ｵｻﾞﾜ ｴﾘｺ 小澤　理恵子 ＜令和8年4月＞		教育学修士 ※		心理学入門		1前・後	4	2	創価大学 非常勤講師 （平13.4）						
224	その他	講師	ﾆｼｬｰﾄ ｱﾆｰｼｬ Nishaat Aneesah ＜令和8年4月＞		PHD in Education （インド）		心理学入門		1前・後	4	2	東日本国際大学 講師 （令6.4）						
225	その他	講師	ﾖｼﾀﾞ ｶｽﾞﾖｼ 吉田　和義 ＜令和8年4月＞		博士 （教育学）		教養地理学		1前・後	4	2	創価大学 非常勤講師 （令5.4）						
226	その他	講師	ｵｶﾞﾜ ﾏｻﾉﾘ 小川　政範 ＜令和8年4月＞		体育学修士		体育実技A 体育実技B 体育実技C 体育実技D		1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	4 4 3 3	4 4 3 3	創価大学 非常勤講師 （平20.4）						
227	その他	講師	ｶﾜｶﾐ ﾐｻﾄ 川上　美里 ＜令和8年4月＞		修士 （体育学）		体育実技B 体育実技C		1前・後 1前・後	2 2	2 2	専修大学 兼任講師 （令5.4）						
228	その他	講師	ｵﾉﾀﾞ ｹｲｺ 小野田　桂子 ＜令和8年4月＞		修士 （スポーツ健康学）		体育実技D		1前	1	1	東京女子体育大学 体育学部 准教授 （平21.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
229	その他	講師	コムロ サチコ 小室　幸子 ＜令和10年4月＞		学士 （経済学）		キャリアビジョン演習B キャリアビジョン演習D		3・4前 3・4後	4 4	2 2	創価大学 非常勤講師 （令5.4）						
230	その他	講師	ウエダ ヒロコ 上田　博子 ＜令和10年4月＞		学士 （文学）		キャリアビジョン演習B キャリアビジョン演習C		3・4前 3・4後	6 6	3 3	創価大学 非常勤講師 （令3.4）						
231	その他	講師	ウエハラ マサキ 上原　正樹 ＜令和9年4月＞		学士 （英文学）		公共キャリア演習Ⅰ 公共キャリア演習Ⅱ		2前 2後	2 2	1 1	創価大学 非常勤講師 （平30.4）						
232	その他	講師	ヤスノ マイコ 安野　舞子 ＜令和8年4月＞		Ph.D. in Education （米国）		プログラムゼミⅠ※		1前	0.9	1	横浜国立大学 教育推進機構 准教授 （平21.12）						
233	その他	講師	ホウキ トシコ 法貴　寿子 ＜令和8年4月＞		修士 （経済学）		日本語総合Ⅰ※ 日本語総合入門※ 日本語総合Ⅱ※ 日本語口頭表現ⅢA 日本語文章表現Ⅳ		1前 1後 1前・後 1前・後 1前・後	1 1 2 2 2	1 1 2 2 2	創価大学 非常勤講師 （平10.9）						
234	その他	講師	イトウ ミチル 伊東　美智留 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		日本語Ⅰ※ 日本語Ⅱ※ 日本語総合入門※ 日本語総合Ⅱ※ 日本語文法Ⅱ		1前 1後 1前・後 1前・後 1前・後	1 1 2 2 2	1 1 2 2 2	創価大学 非常勤講師 （昭52.4）						
235	その他	講師	アキタ エミコ 秋田　恵美子 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		日本語Ⅰ※ 日本語Ⅱ※ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本語聴解Ⅰ 日本語聴解入門 日本語文法Ⅲ 日本語読解ⅤA 日本語読解ⅤB 日本語表現ⅤA 日本語表現ⅤB		1前 1後 1前 1後 1前・後 1前・後 1前・後 1前 1後 1前 1後	1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1	創価大学 非常勤講師 （平11.4）						
236	その他	講師	ハシモト ミツコ 橋本　光子 ＜令和8年4月＞		修士 （学術）		日本語Ⅰ※ 日本語Ⅱ※ 日本語総合Ⅰ※ 日本語総合入門※ 日本語総合Ⅱ※ 日本語口頭表現ⅢB		1前 1後 1前 1後 1前・後 1前・後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 2 2	創価大学 非常勤講師 （平15.4）						
237	その他	講師	ヒサカ ミカヨ 日坂　美香代 ＜令和8年4月＞		学士 （文学）		日本語Ⅰ※ 日本語Ⅱ※ 日本語総合Ⅰ※ 日本語総合入門※ 日本語読解ⅢA 日本語口頭表現ⅢB 日本語口頭表現ⅣA		1前 1後 1前 1後 1前・後 1前・後 1前・後	1 1 1 1 2 2 2	1 1 1 1 2 2 2	創価大学 非常勤講師 （平23.4）						
238	その他	講師	トウダ（ミノワ）アキコ 東田（箕輪）明希子 ＜令和8年4月＞		修士 （日本語教育学）		日本語総合入門※ 日本語総合Ⅰ※ 日本語総合Ⅱ※ 日本語文章表現Ⅲ 日本語口頭表現ⅣB		1前・後 1前 1前・後 1前・後 1前・後	3 1 2 2 2	3 1 2 2 2	創価大学 非常勤講師 （平30.4）						
239	その他	講師	オギワラ ヨウコ 荻原　陽子 ＜令和8年4月＞		学士（経営学、教育学）		日本語Ⅰ※ 日本語Ⅱ※ 日本語基礎※ 日本語総合Ⅰ※ 日本語口頭表現ⅣB		1前 1後 1前・後 1前・後 1前・後	1 1 2 2 2	1 1 2 2 2	創価大学 非常勤講師 （平28.4）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
240	その他	講師	ｵｵｻｷ ﾉﾌﾞｼﾛ 大﨑　伸城 ＜令和8年4月＞		修士 （社会学） ※		日本語総合Ⅰ※ 日本語総合入門※ 日本語基礎※ 日本語総合Ⅱ※ 日本語文法Ⅳ 日本語文章表現Ⅳ 日本語口頭表現ⅣA		1前 1後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	1 1 2 2 2 2 2	1 1 2 2 2 2 2	創価大学 非常勤講師 （令6.4）						
241	その他	講師	ﾔﾅﾄﾘ ｸﾐｺ 梁取　久美子 ＜令和8年4月＞		修士 （学術）		日本語Ⅰ※ 日本語Ⅱ※ 日本語演習入門 日本語総合Ⅰ※ 日本語演習Ⅰ 日本語文章表現Ⅲ		1前 1後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	1 1 2 2 2 2	1 1 2 2 2 2	創価大学 非常勤講師 （平24.4）						
242	その他	講師	ｺｲﾃﾞ ﾏｲｺ 小出　麻衣子 ＜令和8年4月＞		学士 （文学）		日本語文章表現入門 日本語文章表現Ⅰ 日本語読解ⅣB		1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2	2 2 2	創価大学 非常勤講師 （平29.4）						
243	その他	講師	ﾏｾ ﾁｴｺ 間瀬　千恵子 ＜令和8年4月＞		学士 （教育学）		日本語基礎※ 初級漢字 日本語口頭表現ⅢA 日本語読解ⅢB		1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2 2	2 2 2 2	創価大学 非常勤講師 （令6.4）						
244	その他	助教	ｸﾘﾃｨ ｱﾛｰﾗ Arora Kriti ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		English Ⅰ English Ⅱ		1前 1後	6 6	3 3	創価大学 ワールドランゲージセンター 助教 （令6.4）						
245	その他	助教	ｱﾝｼﾞｪﾗ ﾙｽﾄﾚ Angela Lustre ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		English Ⅰ English Ⅱ		1前 1後	6 6	3 3	創価大学 ワールドランゲージセンター 助教 （令6.4）						
246	その他	助教	ｶﾃﾞｨｴｳｧ ﾂｳｪﾄﾐﾗ Tsvetomila Kadieva ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		English Ⅰ English Ⅱ		1前 1後	6 6	3 3	創価大学 ワールドランゲージセンター 助教 （令6.4）						
247	その他	助教	ﾐﾗﾝｶﾞ ﾘﾔﾅｹﾞ Miranga Liyanage ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		English Ⅰ English Ⅱ		1前 1後	4 4	2 2	創価大学 ワールドランゲージセンター 助教 （令6.4）						
248	その他	助教	ｴｰﾒﾖｰ ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ Ameyaw Gabriel ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		English Ⅰ English Ⅱ		1前 1後	4 4	2 2	創価大学 ワールドランゲージセンター 助教 （令7.4）						
249	その他	助教	ﾂﾀｷ ﾌﾐｺ 蔦木　文湖 ＜令和8年4月＞		修士 （学術） ※		平和と人権※ 環境と開発※	○ ○	1前 1後	0.3 0.9	1 1	創価大学 平和問題研究所 助教 （令4.4）						
250	その他	助教	ﾐｽﾞｼﾏ ｱﾐ 水島　亜美 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		日本語総合入門※ 日本語総合Ⅰ※ 日本語Ⅰ※ 日本語Ⅱ※		1前・後 1前・後 1前 1後	2 2 1 1	2 2 1 1	創価大学 日本語・日本文化教育センター 助教 （令5.4）						
251	その他	助教	ﾅｶﾔ ｸﾙﾐ 中家　久瑠美 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		日本語総合Ⅰ※ 日本語総合入門※		1前・後 1前・後	2 4	2 2	創価大学 日本語・日本文化教育センター 助教 （令6.9）						

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
252	その他	助教	ｱﾁﾞﾁ ﾓﾓｺ 明父　桃子 ＜令和8年4月＞		修士 (教育学)		日本語総合Ⅰ※ 日本語口頭表現Ⅰ 日本語口頭表現入門 日本語読解Ⅱ		1前・後 1前 1後 1前・後	2 1 1 2	2 1 1 2	創価大学 日本語・日本文化教育センター 助教 （令7.4）						
253	その他	助教	ｵﾀﾞ ﾚｲｺ 小田　玲子 ＜令和8年4月＞		修士 (人文科学)		アカデミックライティングⅠ アカデミックライティングⅡ 思考技術Ⅰ 思考技術Ⅱ	○	1前・後 1後 1前・後 1前・後	6 1 4 2	6 1 4 2	創価大学 総合学習支援センター 助教 （令4.4）						
254	その他	助教	ﾊﾗｵｶ ﾖｳｺ 原岡　蓉子 ＜令和8年4月＞		修士 (文学) ※		アカデミックライティングⅠ アカデミックライティングⅡ 思考技術Ⅰ 思考技術Ⅱ	○	1前・後 1後 1前・後 1前・後	7 1 4 2	7 1 4 2	創価大学 総合学習支援センター 助教 （令4.4）						
255	その他	助教	ｸﾛｽ ﾏｷｺ 黒須　万貴子 ＜令和8年4月＞		修士 (歴史学)		アカデミックライティングⅠ アカデミックライティングⅡ 思考技術Ⅰ 思考技術Ⅱ	○	1前・後 1後 1前・後 1前	8 1 6 1	8 1 6 1	創価大学 総合学習支援センター 助教 （令6.4）						

（注）

1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。

2　私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。

4　「教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況」の欄は，教育課程の編成等についての意思決定を行う会議体で所属予定の会議体がある場合，欄に「○」を記入すること。

5　「申請に係る大学等の職務に従事する週当たりの平均日数」及び「申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況」の欄は，基幹教員のみ記載すること。

6　「申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況」の欄は，申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）で基幹教員として勤務している場合，その大学及び学部等の名称及びそれらの学部等での教員区分を記載すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基幹教員の年齢構成・学位保有状況

職　　位	学　　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　　計	備　　考
教　　授	博　　士	人	人	人	２人	２人	２人	２人	８人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博　　士	人	人	１人	１人	人	人	人	２人	
	修　　士	人	人	人	１人	人	人	人	１人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　　師	博　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　　教	博　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　　計	博　　士	人	人	１人	３人	２人	２人	２人	１０人	
	修　　士	人	人	人	１人	人	人	人	１人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。

2　この書類は，基幹教員についてのみ作成すること。

3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。

4　「基幹教員の年齢構成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合，「専任教員」と読み替えること。

5　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。